

女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究
「女性とキャリアに関する調査」結果報告書

平成 23 年度～平成 27 年度
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成 25 年 3 月 25 日

日本女子大学
現代女性キャリア研究所
(研究代表者：大沢真知子)

報告書の発刊によせて

本報告書は、現代女性キャリア研究所が、2011 年度より文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受け、5 年間の予定で実施している「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第 2 テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」の一環として行われた「女性とキャリアに関する調査」の報告である。

「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」は、女性の高学歴化や労働市場への参加が増大してきたわが国において、なお M 字カーブが解消されない理由を解明し、いったんリタイアした女性が再就職するための支援を大学がどのように担っていけるかを模索しようとするものである。

本学には、大卒女性の再就職支援を行う「リカレント教育課程」が 2008 年 4 月 1 日より大学の課程として日本で初めて認可設置されている。また 2010 年からは、「教職教育開発センター」が開設され、女性教員のサポートやネットワーク作りに乗り出している。これらの機関における再就職支援プログラムの具体的な開発が本研究のゴールとなるが、このためにわれわれは三つの調査を計画した。一つが本報告書に掲載されている一般の高学歴女性のキャリア調査、二つ目が本学卒業生の内、教職免許取得者への調査、三つ目がリカレント教育課程在籍者・修了者への調査である。本報告にあたる一般高学歴女性のキャリア調査は、後の二つの調査のベースとなるものであるとともに、必ずしも十分解明されているとはいえない高学歴女性のライフコースとキャリア選択の条件を実証的に明らかにしようとした。

そこで、研究全体のまとめに至る前に、第一段階の調査のみを、まずはひとつの報告として公刊し、大方のご批判・ご教示を乞う次第である。

現代女性キャリア研究所所長

岩田正美

はじめに

少子高齢化が進展する日本にとって、女性の能力開発が持続的な経済発展の鍵を握る。男女雇用機会均等法が施行されて以来、女性の高学歴化が急速に進展し、卒業後に就職することが当たり前の社会になったにもかかわらず、その能力が社会の中で十分に活用されているとはいいがたい。

管理職に占める女性比率や取締役に占める女性の比率は国際的にみても低い。また、結婚や出産で退職する女性の割合も高く、その傾向に変化がみられない。つまり、高学歴の女性はふえているものの、それが長期にわたってキャリア形成する女性の増加にはつながっていない。そのために、せっかくの教育が社会に十分に還元されていないのである。

他方、高学歴の女性の卒業後のキャリアが十分に解明されてきたわけではない。とくに、近年、女性のキャリアは多様化しており、その多様性を理解することなしに、支援策を論じることはできない。

また、男性の職場環境が大きく変化するなかで、それが女性の職業意識や就業にも大きな影響を与えている。

本調査は、短期大学（高等専門学校含む）以上を卒業した高学歴女性を対象に、その多様なライフスタイルをあきらかにし、女性の能力形成を支援するためにどうしたらいいのかを考えるために、実施するものである。

研究代表者

大沢真知子

目 次

報告書の発刊によせて 岩田正美

はじめに 大沢真知子

I. 調査の概要

1. 調査の目的と背景	13
2. 調査対象と方法	13
3. 報告書の構成	14

II. 調査結果（単純集計表）

1. 対象者の概要	19
2. 5つのライフコース・パターン	23
3. 就業プロセス	24
4. 現非就業層の就労意向	47
5. 資格などについて	53
6. 就業意識	60
7. 現有業層の転職意向	65
8. 社会活動と再就職支援	69
9. 家族状況	74

III. 5つのライフコース・パターン別のクロス集計	97
----------------------------	----

IV 考察

女性の再就職支援と大学の役割 大沢真知子・盧回男	151
初職継続者の特徴と課題 —それでも遠い「ワーク・ライフ・バランス」— 三具淳子	167
就労意欲と断続するキャリア —初職離職、転職、再就職行動に着目して— 杉浦浩美	183
「氷河期世代」における「不安」の中身 —「女性とキャリアに関する調査」の自由記述分析から— 仲田周子	203
離職女性における就業意欲3パターンの特徴 御手洗由佳	211

V. 資料

1. 度数分布表
2. 大学の再就職支援（自由記述）コーディング表（Q.56）
3. 職業生活や家庭生活における希望や不安（自由記述の一部）（Q.83）
4. 調査票

図一覧

1. 対象者の概要19

- 図 1-1 年齢
- 図 1-2 現在の就業形態
- 図 1-3 最終学歴
- 図 1-4 最終学歴の専攻

2. 5つのライフコース・パターン.....23

- 図 2-1 5つのライフコース・パターン

3. 就業プロセス24

- 図 3-1 正社員・正規職員のための現職の就業先（従業員規模）
- 図 3-2 現職の仕事内容
- 図 3-3 現職での仕事の裁量
- 図 3-4 現職の満足度
- 図 3-5 初職の就業形態
- 図 3-6 正社員・正規職員のための初職の就業先（従業員規模）
- 図 3-7 初職の仕事内容
- 図 3-8 初職をやめた理由
- 図 3-9 初職での仕事の裁量
- 図 3-10 初職の満足度
- 図 3-11 もっとも勤続年数の長い仕事
- 図 3-12 最長職の就業形態
- 図 3-13 正社員・正規職員のための最長職の就業先（従業員規模）
- 図 3-14 最長職の仕事内容
- 図 3-15 最長職をやめた理由
- 図 3-16 最長職の満足度
- 図 3-17 転職・再就職の回数
- 図 3-18 転職・再就職への評価
- 図 3-19 転職・再就職による職種の変化
- 図 3-20 転職・再就職時に重視した条件
- 図 3-21 転職・再就職時に重視した条件への評価
- 図 3-22 転職・再就職のための準備
- 図 3-23 初職継続理由

4. 現非就業層の就労意向47

- 図 4-1 現非就業層の就業意欲

- 図 4-2 現非就業層の就職・再就職への不安
- 図 4-3 現非就業層の就業希望理由
- 図 4-4 就職・再就職の際重視する条件
- 図 4-5 就職・再就職への準備
- 図 4-6 仕事をしたくない理由

5. 資格などについて……………53

- 図 5-1 資格
- 図 5-2 資格の効果
- 図 5-3 資格の取得時期
- 図 5-4 社会人入学経験
- 図 5-5 社会人入学で学んだ分野
- 図 5-6 社会人入学をした時期
- 図 5-7 社会人入学の目的

6. 就業意識……………60

- 図 6-1 学卒時の理想のライフコース
- 図 6-2 就業の意義
- 図 6-3 学卒時の理想の働き方
- 図 6-4 現時点の理想の働き方
- 図 6-5 仕事を通して得たもの

7. 現有業層の転職意向……………65

- 図 7-1 就業に対する見通し
- 図 7-2 有業層の転職・再就職希望理由
- 図 7-3 休業期間希望理由
- 図 7-4 転職・再就職への準備

8. 社会活動と再就職支援……………69

- 図 8-1 社会活動
- 図 8-2 社会活動で得たもの
- 図 8-3 再就職支援
- 図 8-4 大学の再就職支援

9. 家族状況……………74

- 図 9-1 婚姻状況
- 図 9-2 同居者
- 図 9-3 家計の主たる担い手
- 図 9-4 家計の主たる担い手（本人以外）の年収（わからない・答えたくないを除く）

- 図 9-5 本人の年収（わからない・答えたくないを除く）
- 図 9-6 年間の勤務日数
- 図 9-7 家庭の経済状況（わからないを除く）
- 図 9-8 将来展望
- 図 9-9 母親の働き方
- 図 9-10 母親の「女性が働くこと」についての考え
- 図 9-11 父親の「女性が働くこと」についての考え
- 図 9-12 配偶者・パートナーの年齢
- 図 9-13 配偶者・パートナーの最終学歴
- 図 9-14 配偶者・パートナーの就業形態
- 図 9-15 共働き経験
- 図 9-16 家事分担
- 図 9-17 配偶者・パートナーの「妻が働くこと」についての意識
- 図 9-18 「対等な関係性」についての考え
- 図 9-19 子どもの有無・人数
- 図 9-20 育児分担
- 図 9-21 人的育児サポート
- 図 9-22 育児支援サービス
- 図 9-23 第 1 子出産時の産休・育休取得
- 図 9-24 第 1 子出産時の産休・育休取得期間
- 図 9-25 第 2 子出産時の産休・育休取得
- 図 9-26 第 2 子出産時の産休・育休取得期間

I 調査の概要

1. 調査の目的と背景

戦後日本の社会経済の成熟に従って、女性の高学歴化は進展したが、女性の社会進出が遅れていることはつとに知られた日本の特徴である。労働力率の M 字カーブの維持、とりわけ高学歴女性の労働市場からの退出が顕著であると指摘されている。

女性が就業を中断したり、あるいは離職してしまう状況については、これまでも多くの調査・研究がなされてきた。そのなかには、キャリア支援の観点から、何らかの援助が女性のキャリア形成を円滑に進めるとの知見が示されている。本研究所が 2008 年度から 2010 年度までに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として実施した「女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究——『女性とキャリアアーカイブ』構築へむけて」において収集した社会調査のなかにも、特に 80 年代半ば以降、女性の家族キャリアと職業キャリアの両立、あるいは職業キャリア再開の条件について、いくつか興味深い調査研究がなされている。

本調査は、そうした先行調査や先行研究の知見を踏まえながら、多様なライフコースをたどる女性の就労に対し、どのようなキャリア支援が可能か、それを探ることを目的としてなされたものである。従来行われている女性の能力開発や再就職支援は、やや定型的な子育て支援に終始しており、多様なプログラムの開発という点では、遅れているのではないだろうか。キャリア支援の新たな方向性を探るためには、女性の就労プロセスそのものに着目し、それぞれのニーズを探る必要がある。そこで、本調査は、女性の 5 つの就労パターン（初職継続型／転職型／再就職型／離職型／就労経験なし）に着目しながら、就労に対する意識、初職離職理由、転職・再就職意向、学校卒業時のライフデザイン、経済的背景等を明らかにし、女性のキャリアの軌跡を把握することを目的とした。

2. 調査対象と方法

(1) 調査対象

- ・年齢 25～49 歳の女性
- ・学歴 短大・高専卒以上
- ・地域 東京、神奈川、埼玉、千葉

(2) 調査時期

2011 年 11 月 25 日～27 日

(3) 調査方法

株式会社マクロミル登録モニターへのインターネットを利用したアンケート調査

(4) 主な調査項目

現在までのライフプロセスの状況、就業継続理由、離職理由、職場選択の基準、就業意識と就業実態、学卒時と現在のライフデザイン、女性の就業に対する両親・配偶者パートナーの意識、転職・再就職意向、大学に期待する女性の再就職支援、将来への希望と不安など

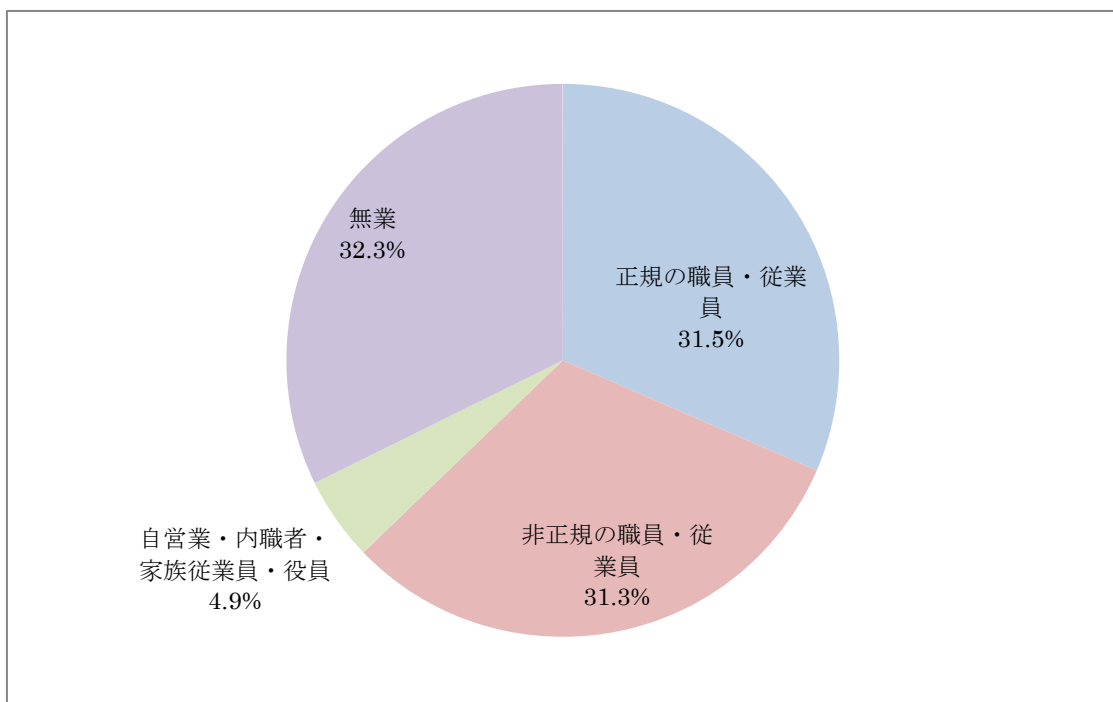
(5) 回答人数

5155 人

(6) 調査対象者の割付

本調査では、調査対象者の就業形態の偏りを避けるために、年齢を 25～29 歳、30～39 歳、40～49 歳の 3 つに分け、それぞれの年代に対して 2010 年「労働力調査」に基づいた就業形態の割付けをおこなった。その結果、全体として正規雇用、非正規雇用、無業それぞれが約 3 分の 1 を占めている。また、自営業・内職者・家族従業者・役員は約 5% であった。

調査対象者の就業形態



3. 報告書の構成

本報告書は、大きく第 1 部と第 2 部からなっている。

第 1 部では、調査目的や方法など本調査の概要、単純集計結果、調査対象者の 5 つのライフコース・パターン別による集計結果（クロス集計）を掲載する。

第 2 部では、第 1 部の結果をもとに個別の視点から考察する。

■ 報告論文での注意事項

・パーセンテージは、小数点第 2 位で四捨五入して、小数点第 1 位までを表示した。四捨五入をしたため、合計値が 100%を前後することがある。

日本女子大学 現代女性キャリア研究所

「女性とキャリアに関する調査」研究プロジェクト

プロジェクトメンバー

大沢真知子 (日本女子大学人間社会学部・研究代表)
高頭麻子 (日本女子大学文学部)
吉崎静夫 (日本女子大学人間社会学部)
坂田仰 (日本女子大学教職教育開発センター)
岩木秀夫 (日本女子大学人間社会学部)
永井暁子 (日本女子大学人間社会学部)
原ひろみ (日本女子大学家政学部)
鈴木陽子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)

報告書執筆一覧

◎岩田正美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・所長)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
仲田周子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
斎藤真由子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
盧回男 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)
御手洗由佳 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)

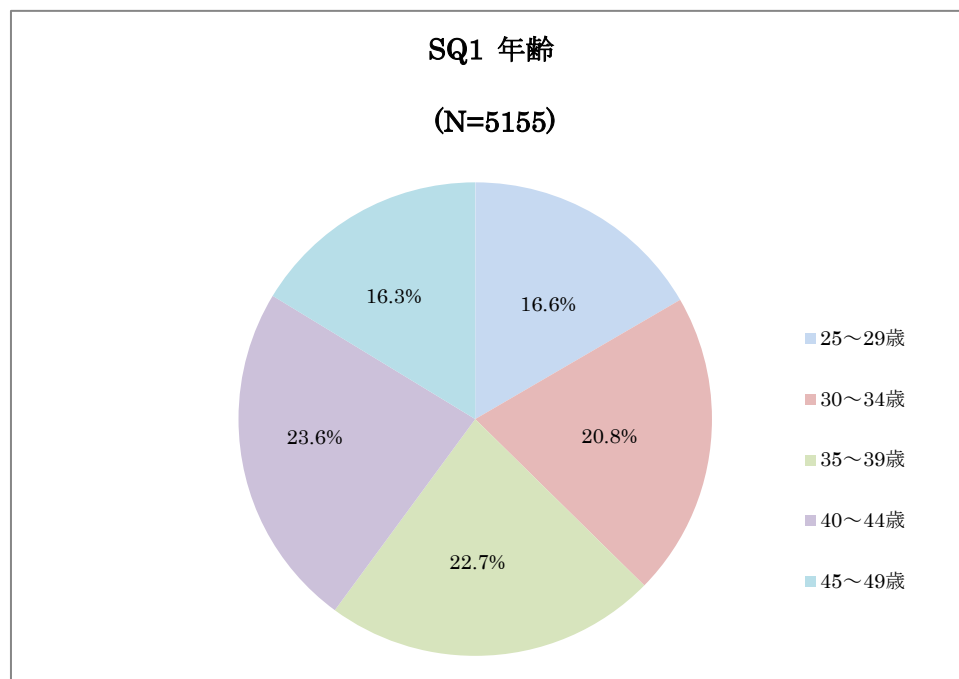
「女性とキャリアに関する調査」は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」における「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第2テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」(研究代表者：大沢真知子)の一環として実施されたものである。

Ⅱ 調査結果（単純集計表）

1. 対象者の概要

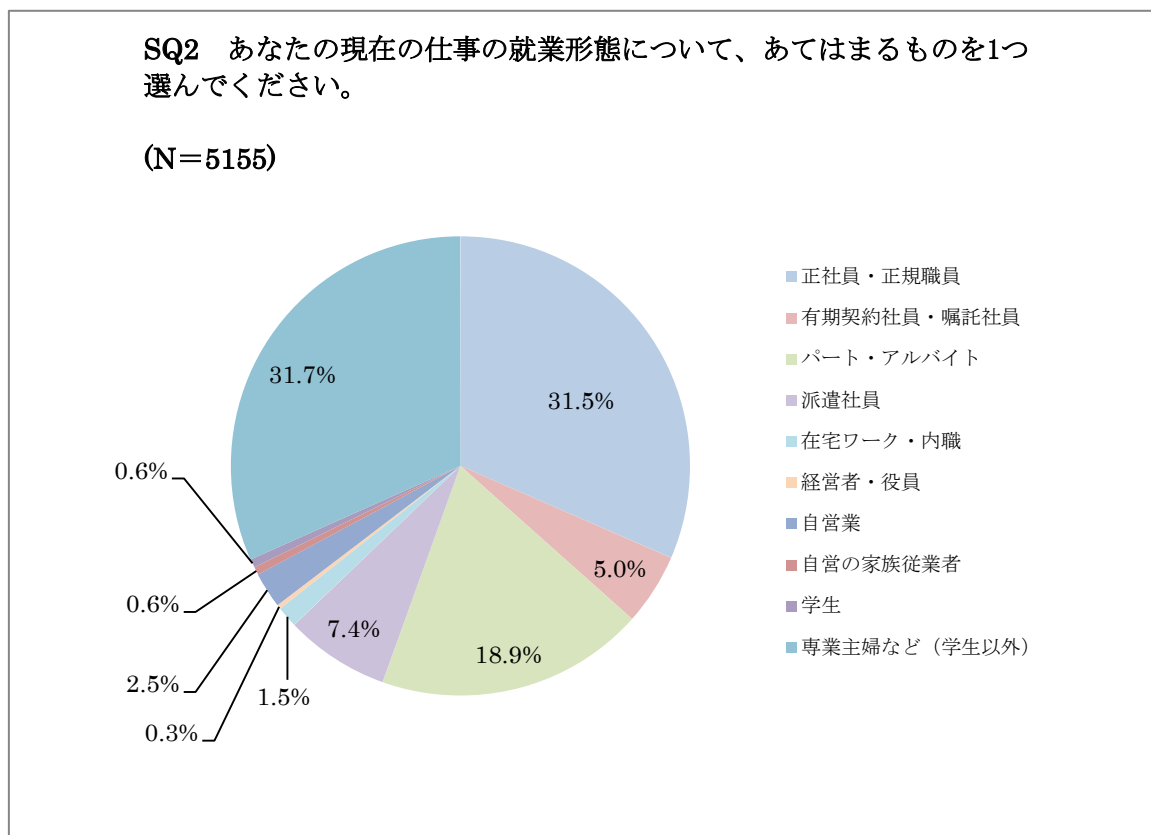
まず、対象者の概要を確認していく。

図 1-1 年齢



調査対象者 5155 人の年齢構成は、「25～29 歳」16.6%、「30～34 歳」20.8%、「35～39 歳」22.7%、「40～44 歳」23.6%、「45～49 歳」16.3%であった。

図 1-2 現在の就業形態



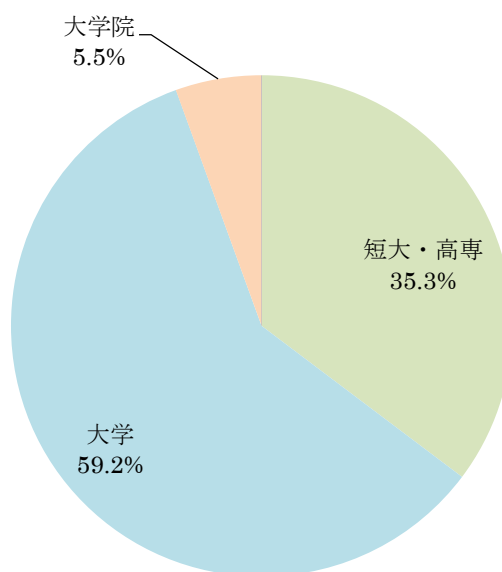
調査対象者 5155 人のうち、もっとも多いのが「専業主婦など」を選んだ人で 31.7%、「正社員・正規職員」の人は 31.5%である。次に「パートもしくはアルバイト」の人が 18.9%となっている。以下、「派遣社員」7.4%、「有期契約社員・嘱託社員」5.0%、「自営業」2.5%、「在宅ワーク・内職」1.5%、「自営の家族従業者」0.6%、「学生」0.6%、「経営者・役員」0.3%となった。

図 1-3 最終学歴

SQ3 あなたの最終学歴にあてはまるものを1つ選んでください。（大学もしくは大学院卒業後に専門学校などに入学した場合には「大学」もしくは「大学院」とお答えください）

※現在学生の方は、現在の学校ではなく、既に卒業している学校についてお答えください。

(N=5155)

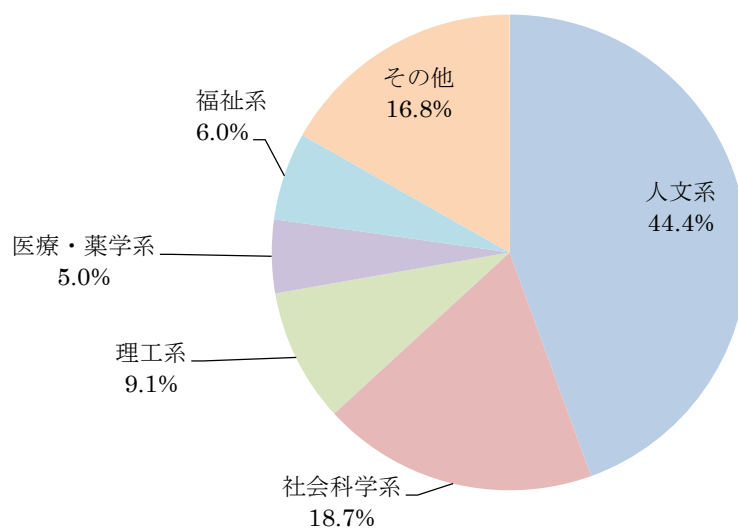


本調査は短大・高専卒以上の女性を対象とした。回答者のうち「大学」を卒業した人が 59.2%と最も多く、次いで「短大・高専」35.3%、「大学院」が 5.5%となった。

図 1-4 最終学歴の専攻

SQ4 前問でお答えの最終学歴（【SQ2の選択内容】）の段階でどの分野の勉強をしていましたか。
以下の中で最もあてはまるものをひとつお選びください。

(N=5155)

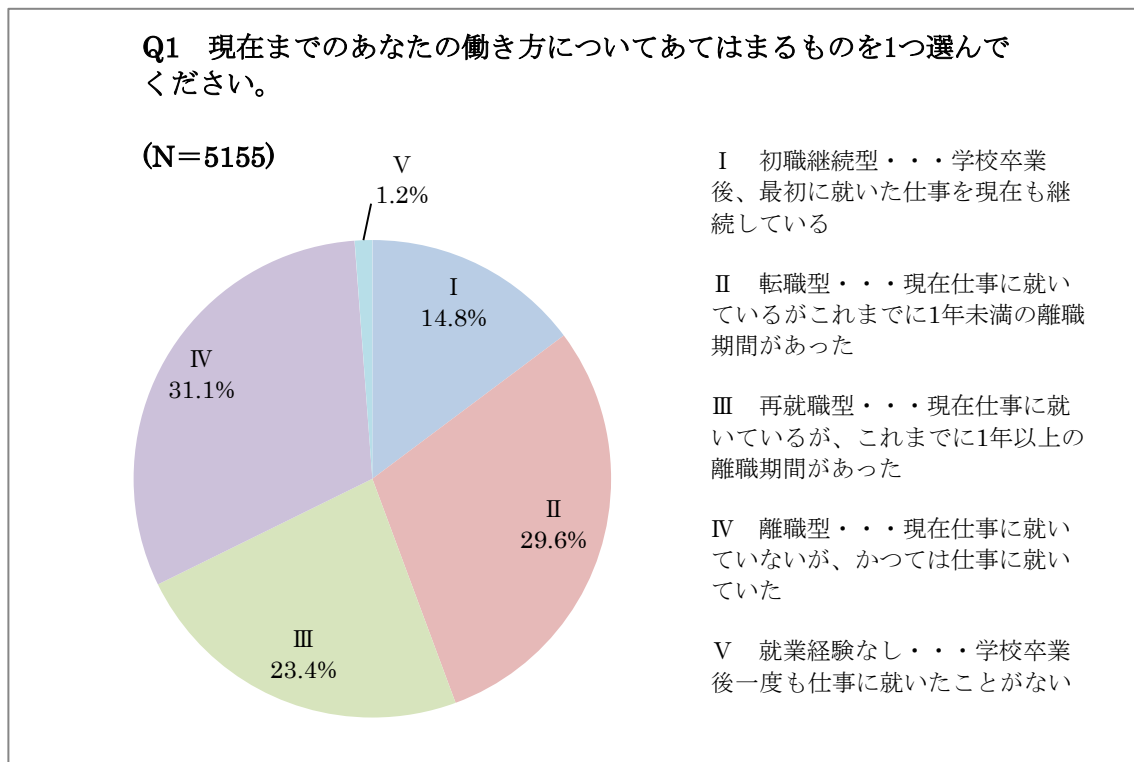


最終学歴の専攻分野は、「人文系」が 44.4% ともっとも多く、二番目に多いのが「社会科学系」18.7%、以下、「理工系」9.1%、「福祉系」6.0%、「医療・薬学系」5.0%となっていた。「その他」16.8%の具体的な内容は音楽や美術、家政科、食物栄養科などであった。

2. 5つのライフコース・パターン

調査対象者の現在までの就業状況について聞いた。

図 2-1 5つのライフコース・パターン

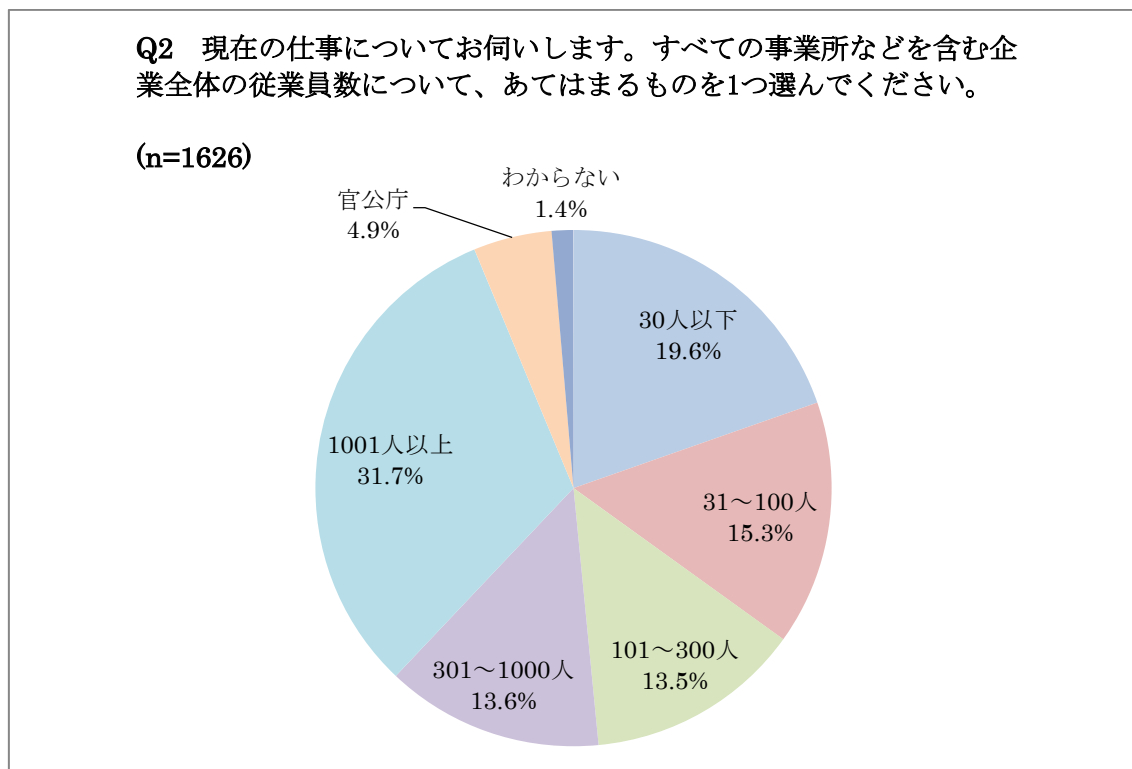


学校卒業後から現在までの就業状況について聞いたところ、「学校卒業後、最初に就いた仕事を現在も継続している（以下Ⅰ初職継続型）」が14.8%、「現在仕事に就いているが、これまでに1年未満の離職期間があった（転職経験あり、以下Ⅱ転職型）」29.6%、「現在仕事に就いているが、これまでに1年以上の離職期間があった（再就職経験あり、以下Ⅲ再就職型）」23.4%、「現在仕事に就いていないが、かつては仕事に就いていた（以下Ⅳ離職型）」31.1%、「学校卒業後一度も仕事に就いたことがない（以下Ⅴ就業経験なし）」1.2%であった。

3. 就業プロセス

Q1 で「Ⅰ 初職継続型」、「Ⅱ 転職型」、「Ⅲ 再就職型」を選んだ人のうち、現在、「正社員・正規職員」で就業している人を対象に企業全体の従業員数について聞いた。

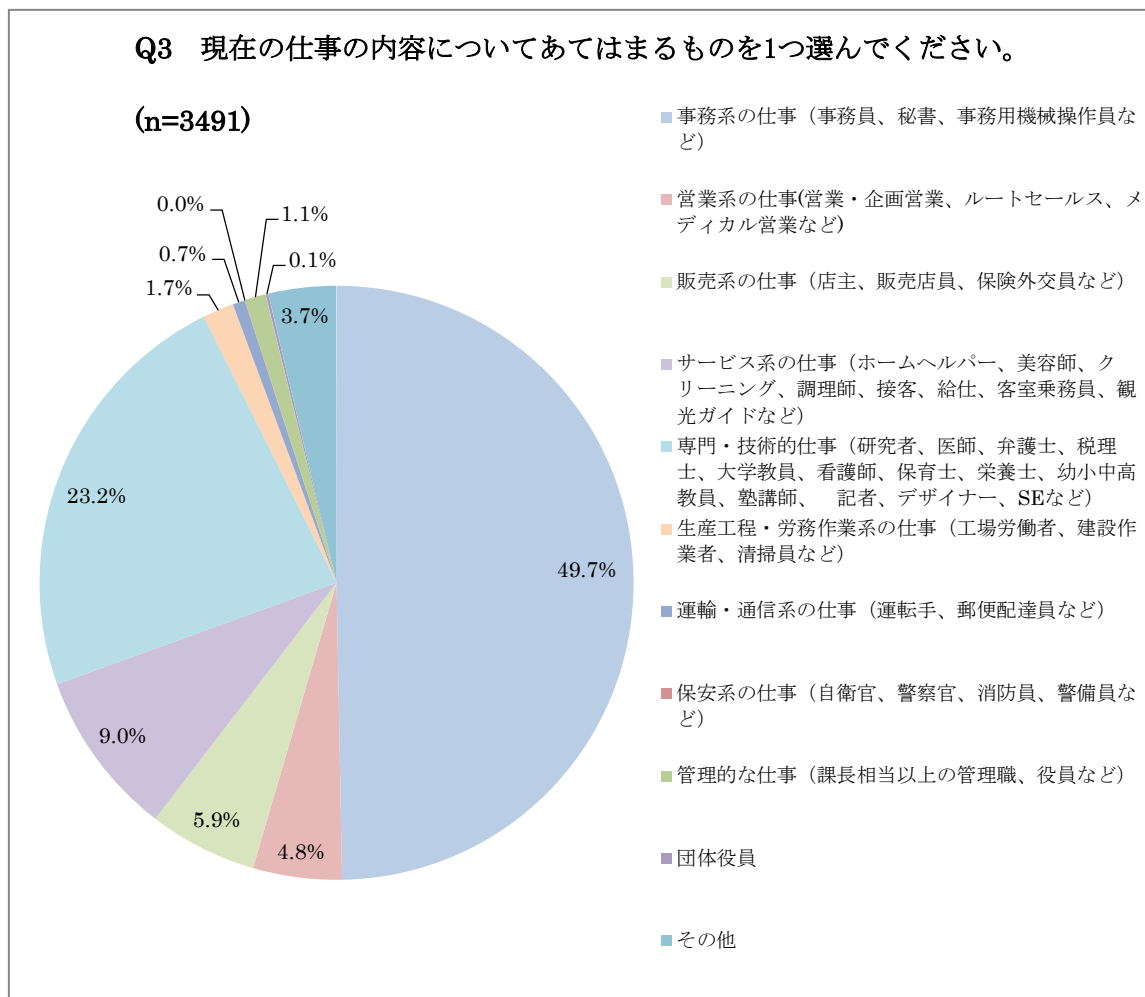
図 3-1 正社員・正規職員のための現職の就業先（従業員規模）



もっとも多かったのが「1001人以上」で 31.7%、次いで「30人以下」の 19.6%であった。以下「31～100人」15.3%、「301～1000人」13.6%、「101～300人」13.5%と続いた。「官公庁」に勤めている人は 4.9%であった。

Q1 で「Ⅰ初職継続型」、「Ⅱ転職型」、「Ⅲ再就職型」を選んだ人全員に、現在の仕事（以下現職）の仕事内容（Q3）、仕事の与えられ方とやり方（Q5）、職場環境の満足度（Q6）について聞いた。

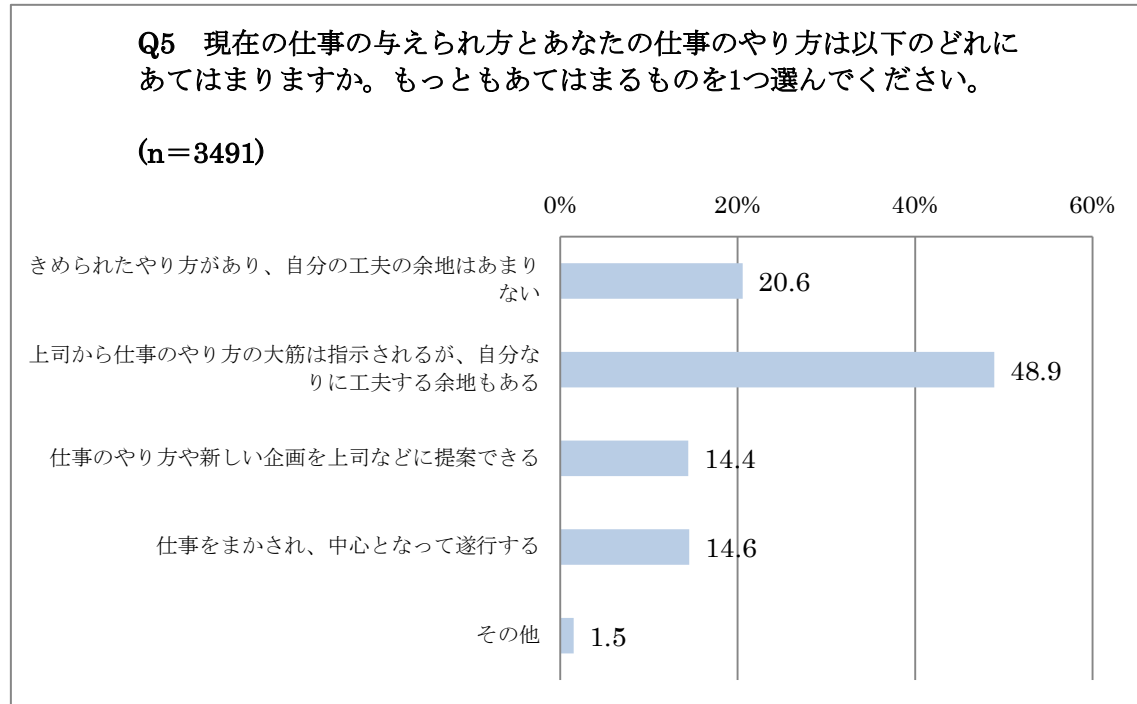
図 3-2 現職の仕事内容



仕事内容でもっとも多いのが「事務系の仕事」で約半数近くの人を選択していた。次に「専門・技術的工作」が 23.2%となっていた。以下、「サービス系の仕事」9.0%、「販売系の仕事」5.9%、「営業系の仕事」4.8%、「その他」3.7%、「生産工程・労務作業系の仕事」1.7%、「管理的な仕事」1.1%、「運輸・通信系の仕事」0.7%、「団体役員」0.1%となっていた。

現職の仕事の与えられ方とやり方について聞いた。

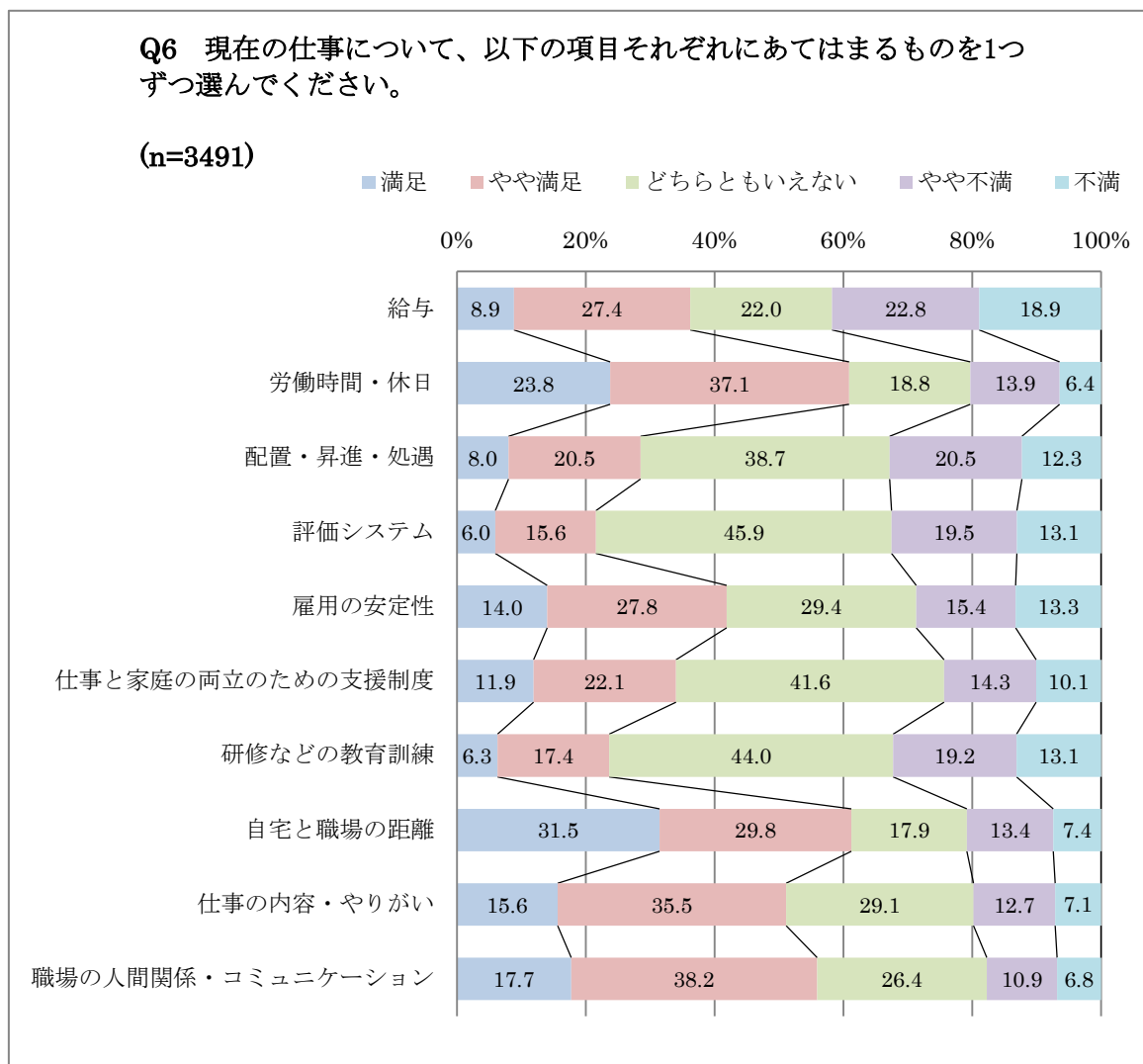
図 3-3 現職での仕事の裁量



48.9%と半数近くの人が「上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある」を選んでいて、次に多いのが「きめられたやり方があり、自分の工夫の余地はあまりない」で 20.6%であった。仕事の裁量が比較的あると思われる「仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる」「仕事をまかされ、中心となって遂行する」はそれぞれ 14.4%、14.6%であった。その他の意見としては「自営業なので全て自分でやっている」「期日さえ守れば、独りで自由に仕事を進められる」などがあげられた。

「Ⅰ 初職継続型」、「Ⅱ 転職型」、「Ⅲ 再就職型」を選んだ人全員に現職の職場・仕事の満足度を聞いた。

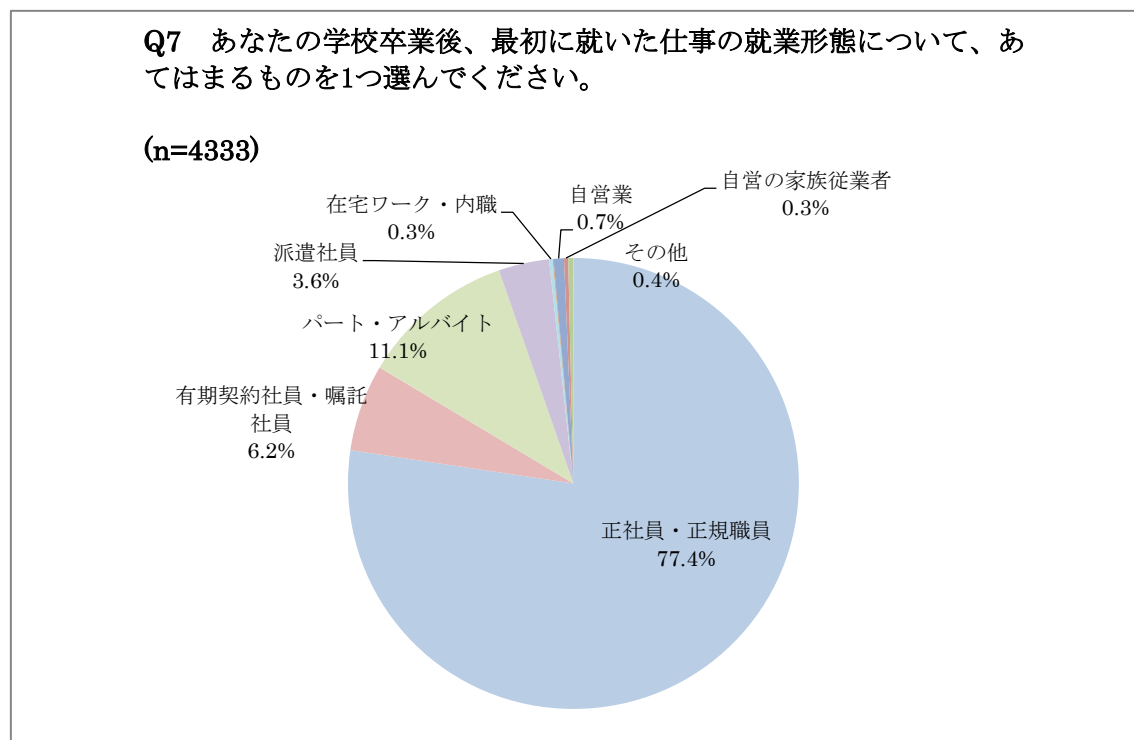
図 3-4 現職の満足度



現職の仕事について、満足している割合（「満足」もしくは「やや満足」を選んだ人）がもっとも多かったのは「自宅と職場の距離」で 61.3%であった。次いで「労働時間・休日」 60.9%、「職場の人間関係・コミュニケーション」 55.9%、「仕事の内容・やりがい」 51.1%の順となった。逆に不満だと感じている割合（「不満」もしくは「やや不満」を選んだ人）が多かった項目は「給与」 41.7%、「配置・昇進・処遇」 32.8%、「評価システム」 32.6%、「研修などの教育訓練」 32.3%であった。

次に、Q1 で「Ⅱ転職型」、「Ⅲ再就職型」、「Ⅳ離職型」に該当する人 4333 人を対象に、学校卒業後最初に就いた仕事（以下初職とする）の就業形態について聞いた。

図 3-5 初職の就業形態



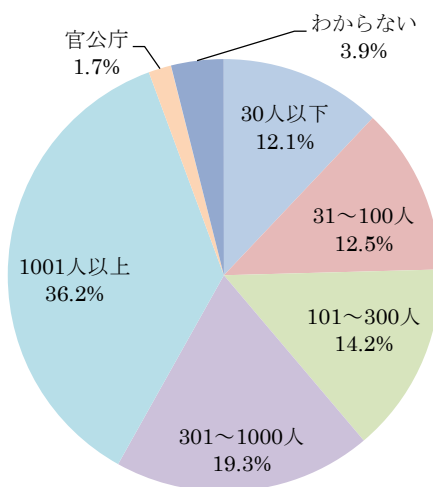
「正社員・正規職員」は 77.4%と最も多かった。次いで「パート・アルバイト」11.1%、「有期契約社員・嘱託社員」6.2%、「派遣社員」3.6%であった。

前問で初職が「正社員・正規職員」と答えた人を対象にその企業全体の従業員数について聞いた。

図 3-6 正社員・正規職員のための初職の就業先（従業員規模）

Q8 学校卒業後、最初に就いた仕事についてお伺いします。すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。

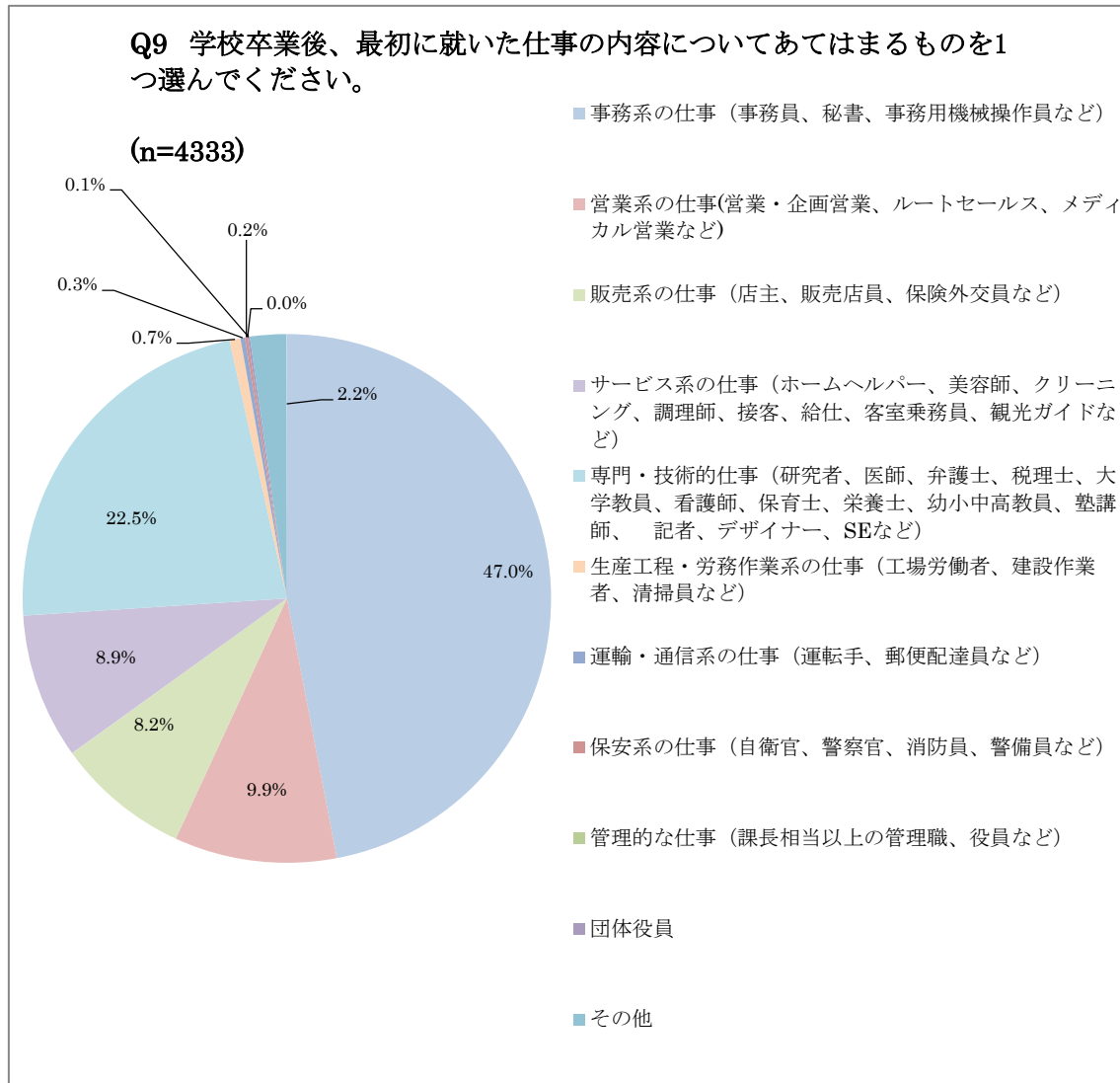
(n=3352)



「1001人以上」を選んだ人が 36.2%と最も多く、「301~1000人」の 19.3%、「101~300人」14.2%と続いた。「官公庁」に勤めている人は 1.7%いた。

Q1「Ⅱ転職型」、「Ⅲ再就職型」、「Ⅳ離職型」に該当する人を対象に、初職の仕事内容（Q9）、離職理由（Q12）、仕事の与えられ方と仕事のやり方（Q13）、職場環境（Q14）について聞いた。

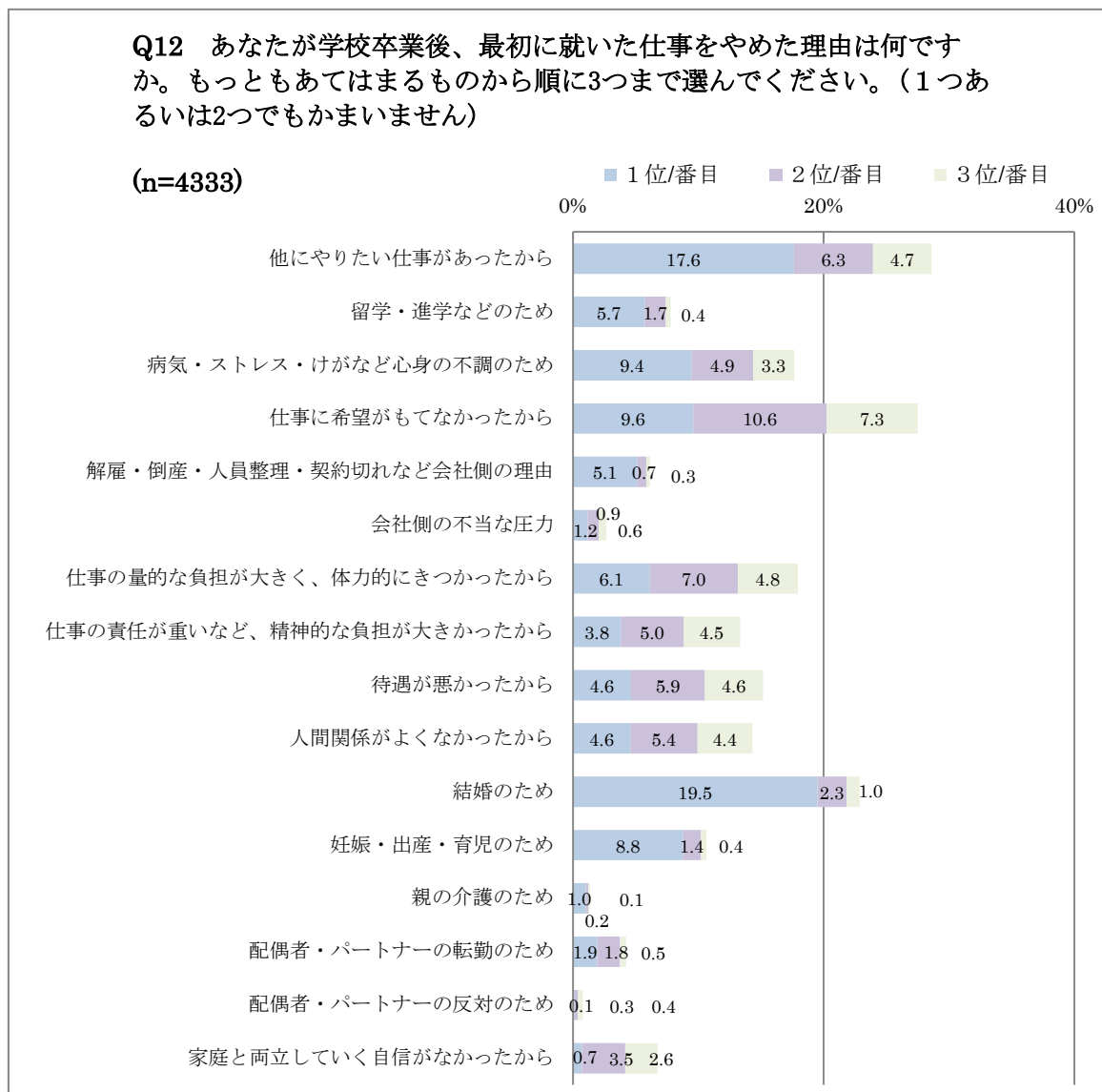
図 3-7 初職の仕事内容



現職同様もっとも多いのが「事務系の仕事」で約半数いた。以下、「専門・技術的仕事」が 22.5%、「営業系の仕事」 9.9%、「サービス系の仕事」 8.9%、「販売系の仕事」 8.2%となっていた。

次は学校卒業後、最初に就いた仕事をやめた理由についてである。

図 3-8 初職をやめた理由

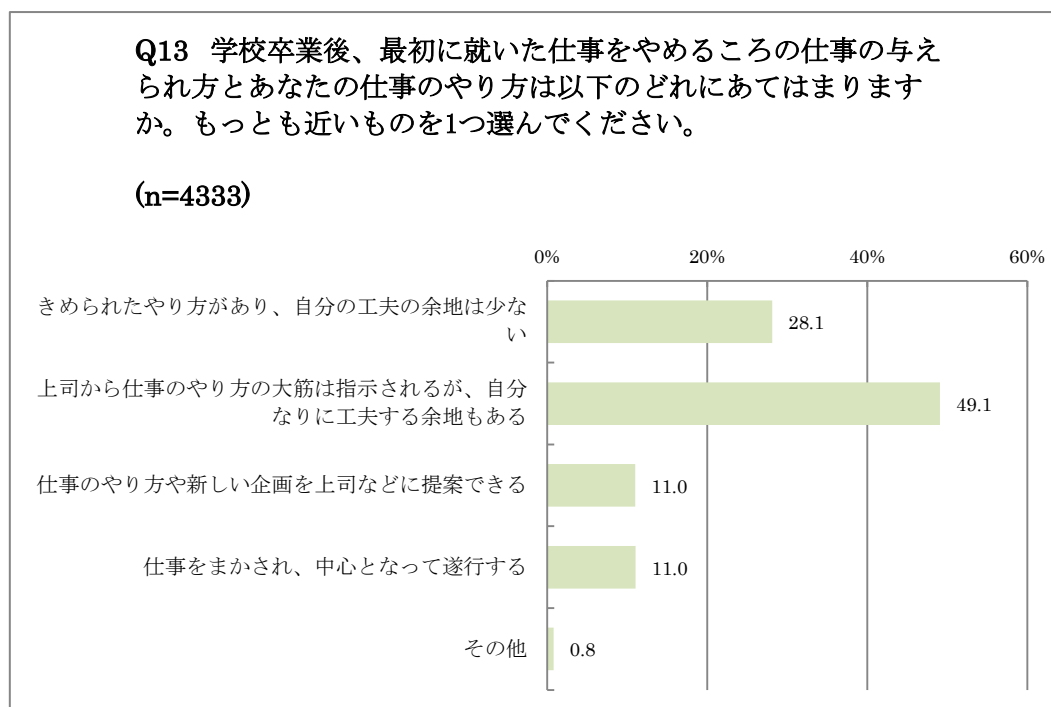


初職の離職理由として1位にあげている人がもっとも多かったのは「結婚のため」の19.5%であった。以下、1位であげられた理由をみると、「他にやりたい仕事があったから」17.6%、「仕事に希望がもてなかったから」9.6%、「病気・ストレス・けがなど心身の不調のため」9.4%、「妊娠・出産・育児のため」が8.8%となった。

初職の離職理由の1位から3位までの総数をみると「他にやりたい仕事があったから」がもっとも多く、次いで「仕事に希望がもてなかったから」と仕事内容を理由に離職する人が多く見られた。以下、多い順に「結婚のため」、「仕事の量的な負担が大きく、体力的にきつかったから」、「仕事の責任が重いなど、精神的な負担が大きかったから」となった。

では、対象者の初職の仕事への裁量はどのような状況であったのだろうか。初職をやめるところの仕事の与えられ方と対象者の仕事のやり方について尋ねた。

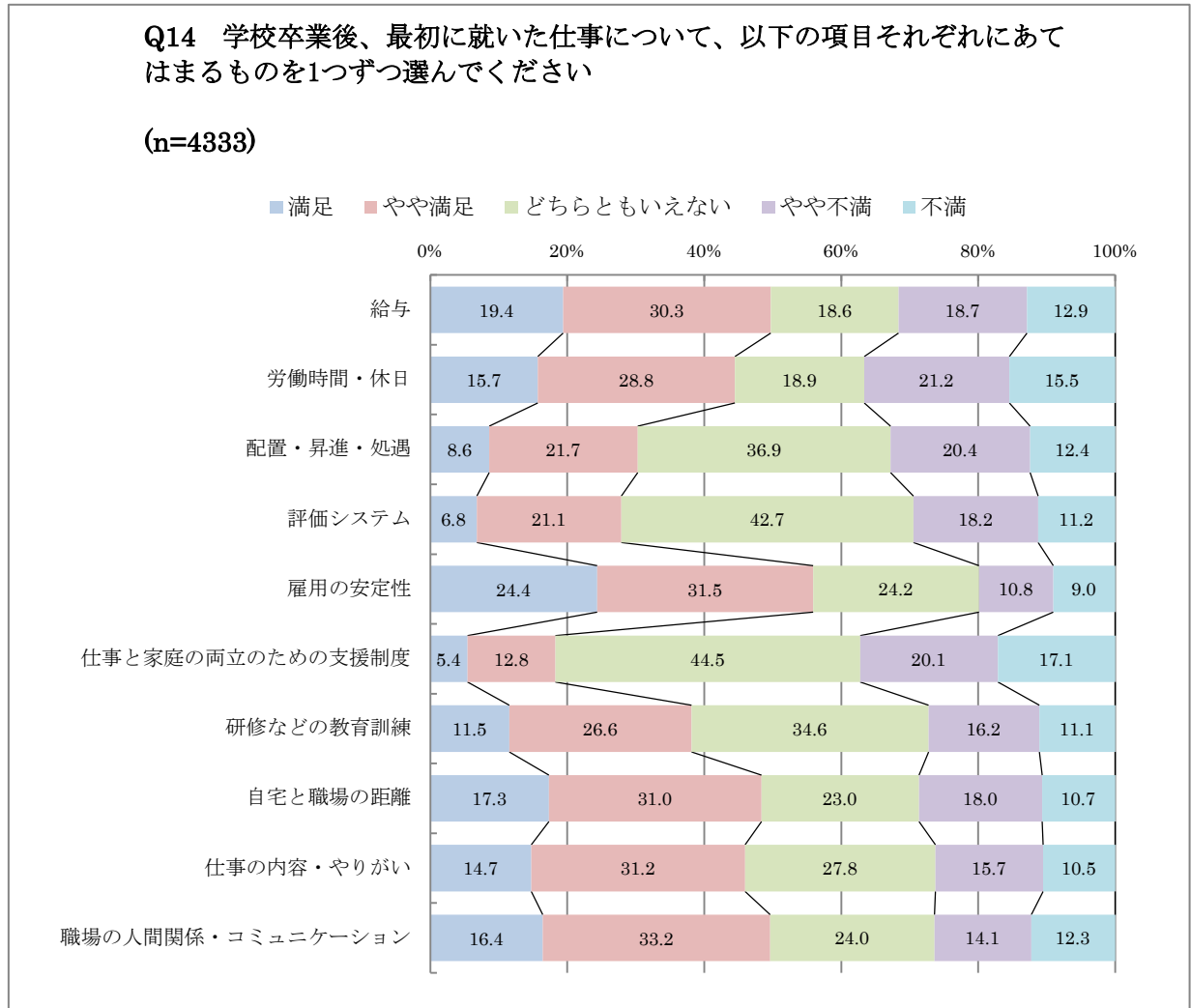
図 3-9 初職での仕事の裁量



49.1%と半数近くの人が「上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある」を選択した。次に「きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない」が 28.1%、「仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる」「仕事をまかされ、中心となって遂行する」はともに 11.0%であった。

さらに、初職の職場・仕事の満足度について聞いた。

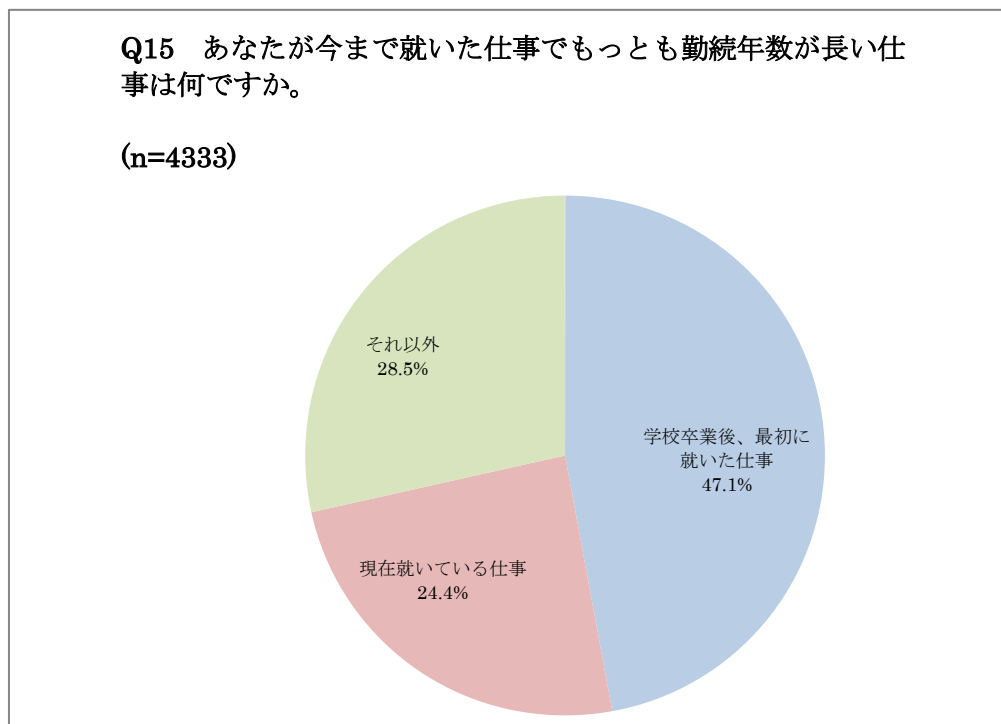
図 3-10 初職の満足度



初職について、満足している項目（「満足」もしくは「やや満足」を選んだ人）でもっとも多かったのは「雇用の安定性」で 55.9%、以下、「給与」 49.7%、「職場の人間関係・コミュニケーション」 49.6%、「自宅と職場の距離」 48.3%、「仕事の内容・やりがい」 45.9%、「労働時間・休日」 44.5%であった。一方、不満と感じている項目（「不満」もしくは「やや不満」を選んだ人）でもっとも多かったのは「仕事と家庭の両立のための支援制度」の 37.2%、以下、「労働時間・休日」 36.7%、「配置・昇進・処遇」 32.8%、「給与」 31.6%であった。

「Ⅱ転職型」、「Ⅲ再就職型」、「Ⅳ離職型」の人 4333 人を対象に、現在まで就業した仕事のうち、勤続年数の長い仕事はどれかを尋ねた。

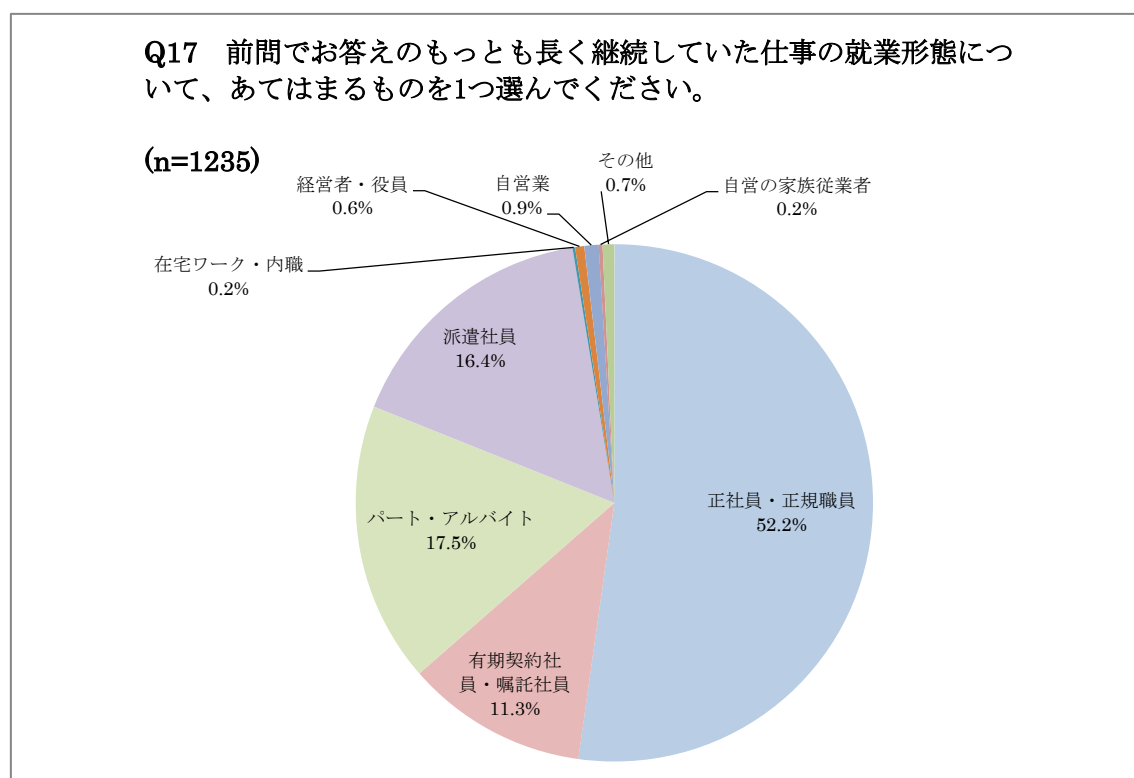
図 3-11 もっとも勤続年数の長い仕事



「学校卒業後、最初に就いた仕事」を選んだ人は 47.1%と最も多く、「現在就いている仕事」は 24.4%、「それ以外」が 28.5%であった。

以下では、Q15で「それ以外」と答えた人（勤続年数が初職や現職以外の仕事においてもっとも長いと回答した人）1235人を対象に質問したものをみる。なお、これまで就いた仕事のうち、現職と初職以外の仕事でもっとも長く就業した仕事を最長職と呼ぶ。

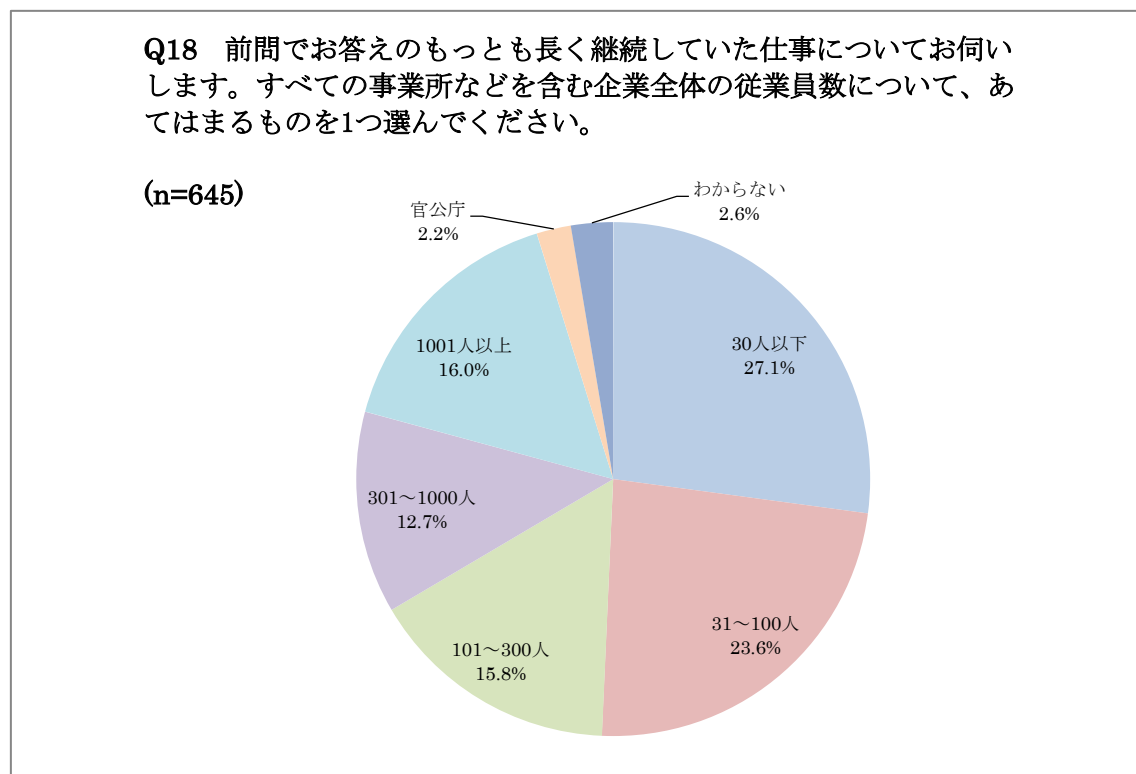
図 3-12 最長職の就業形態



最長職の就業形態を見ると、半数以上の人「正社員・正規職員」を選んでおり、以下「パート・アルバイト」17.5%、「派遣社員」16.4%、「有期契約社員・嘱託社員」11.3%の順であった。

前問で最長職の雇用形態が「正社員・正規職員」だった人を対象に、最長職の企業全体の従業員数について尋ねた。

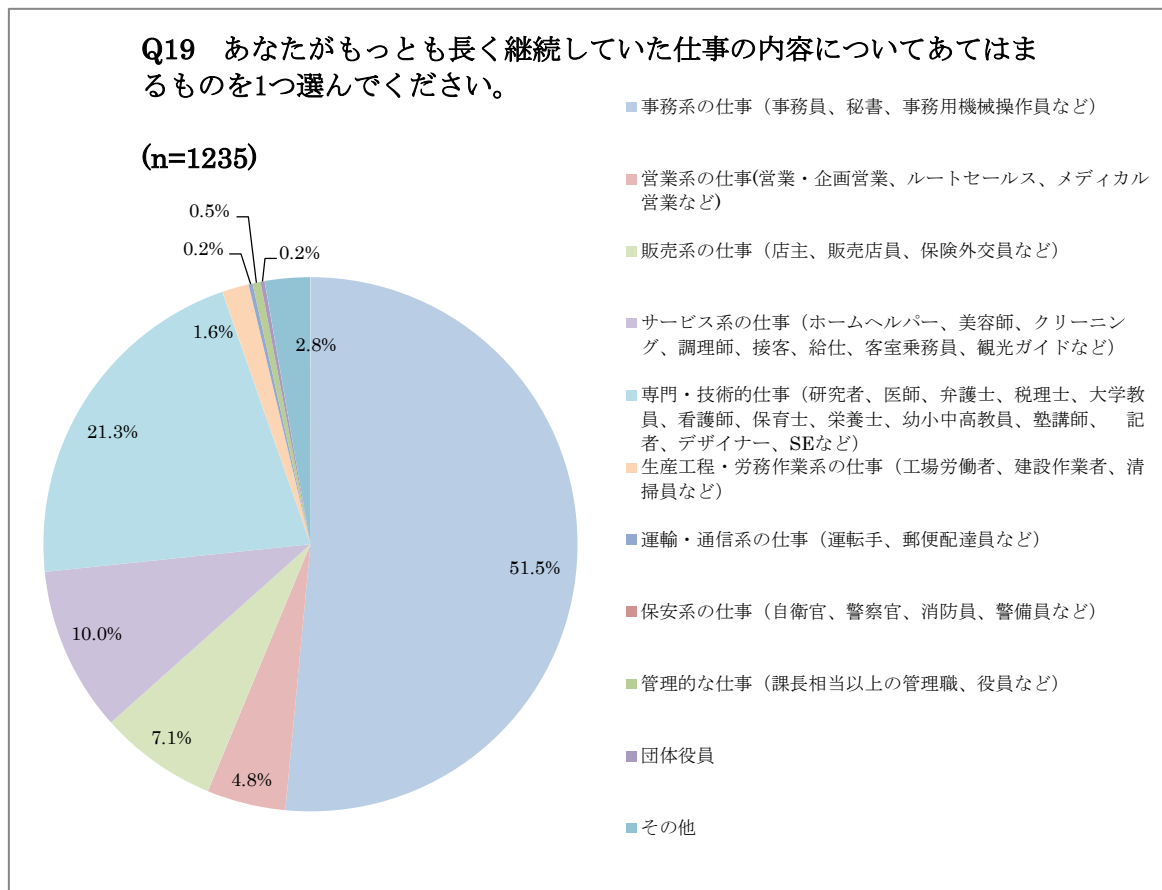
図 3-13 正社員・正規職員のための最長職の就業先（従業員規模）



最長職の企業全体の従業員数が「30人以下」と選択した人が27.1%と最も多く、「31~100人」が23.6%、「1001人以上」が16.0%、「101~300人」が15.8%、「301~1000人」が12.7%となった。最長職が「官公庁」と答えた人は2.2%であった。

最長職の仕事内容（Q19）、離職理由（Q20）、職場環境（Q21）について尋ねた。

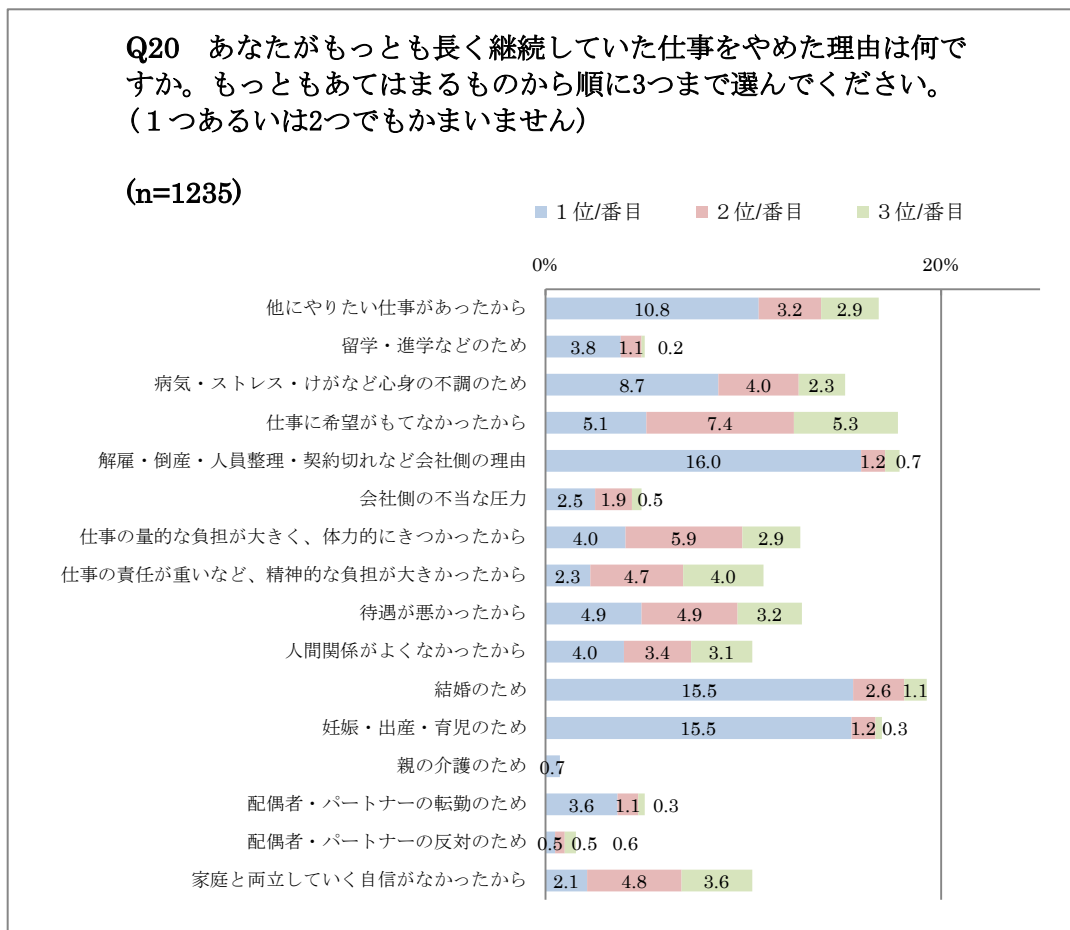
図 3-14 最長職の仕事内容



現職や初職同様、最長職の仕事内容も「事務系の仕事」を選んでいる人がもっとも多く、51.5%であった。次いで「専門・技術的仕事」21.3%、「サービス系の仕事」10.0%の順となった。以下、「販売系の仕事」7.1%、「営業系の仕事」4.8%、「その他」2.8%、「生産工程・労務作業系の仕事」1.6%、「管理的な仕事」0.5%、「運輸・通信系の仕事」、「団体役員」がともに0.2%であった。

続いて、最長職の離職理由について聞いた。

図 3-15 最長職をやめた理由

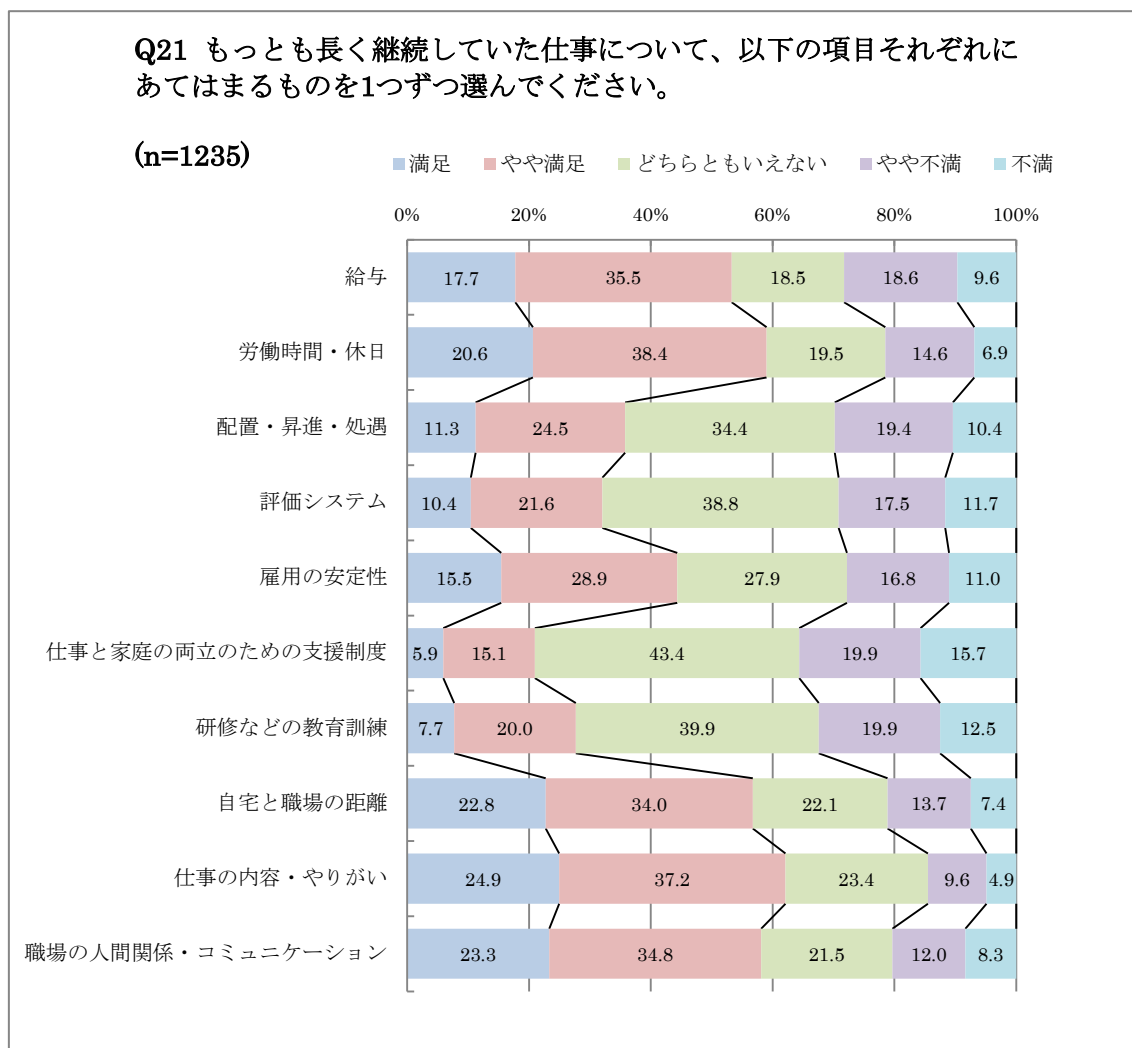


最長職の離職理由として1位にあげている人がもっとも多かったのは「解雇・倒産・人員整理・契約切れなど会社側の理由」が16.0%、次いで「結婚のため」と「妊娠・出産・育児のため」がともに15.5%であった。

最長職をやめた理由の1位から3位までの総数をみると「結婚のため」がもっとも多く、次いで「解雇・倒産・人員整理・契約切れなど会社側の理由」、「仕事に希望がもてなかったから」の順であった。

では、最長職の職場・仕事の評価はどのようなになっているのだろうか。最長職の職場・仕事の満足度について聞いた。

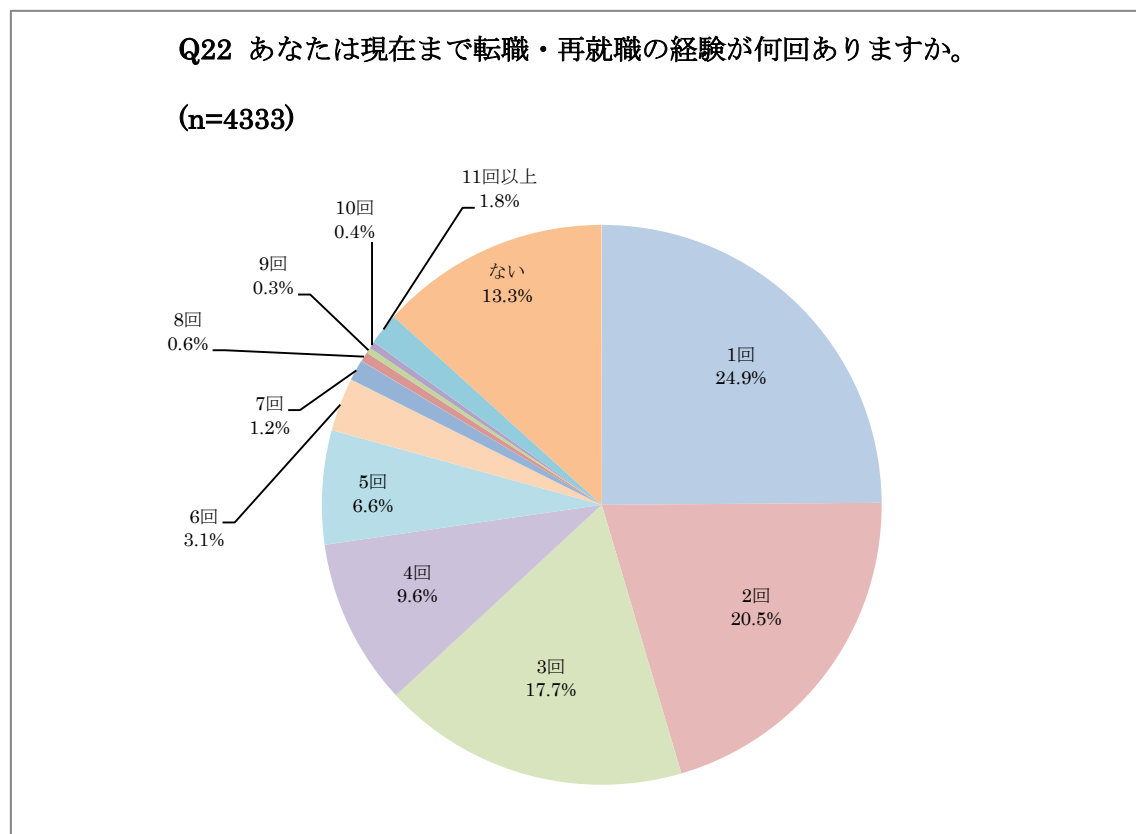
図 3-16 最長職の満足度



最長職の職場状況の満足度では、全項目のうち、満足している項目（「満足」もしくは「やや満足」を選んだ人）がもっとも多かったのは「仕事の内容・やりがい」62.1%で、以下「労働時間・休日」59.0%、「職場の人間関係・コミュニケーション」58.1%、「自宅と職場の距離」56.8%、「給与」53.2%、「雇用の安定性」が44.4%となった。一方、不満だと感じている項目（「不満」もしくは「やや不満」を選んだ人）がもっとも多かった項目は「仕事と家庭の両立のための支援制度」の35.6%、次いで「研修などの教育訓練」32.4%であった。以下、「配置・昇進・処遇」29.8%、「評価システム」29.2%、「給与」28.2%であった。

次に、「Ⅱ 転職型」、「Ⅲ 再就職型」、「Ⅳ 離職型」を選んだ人 4333 人に転職・再就職回数について尋ねた。

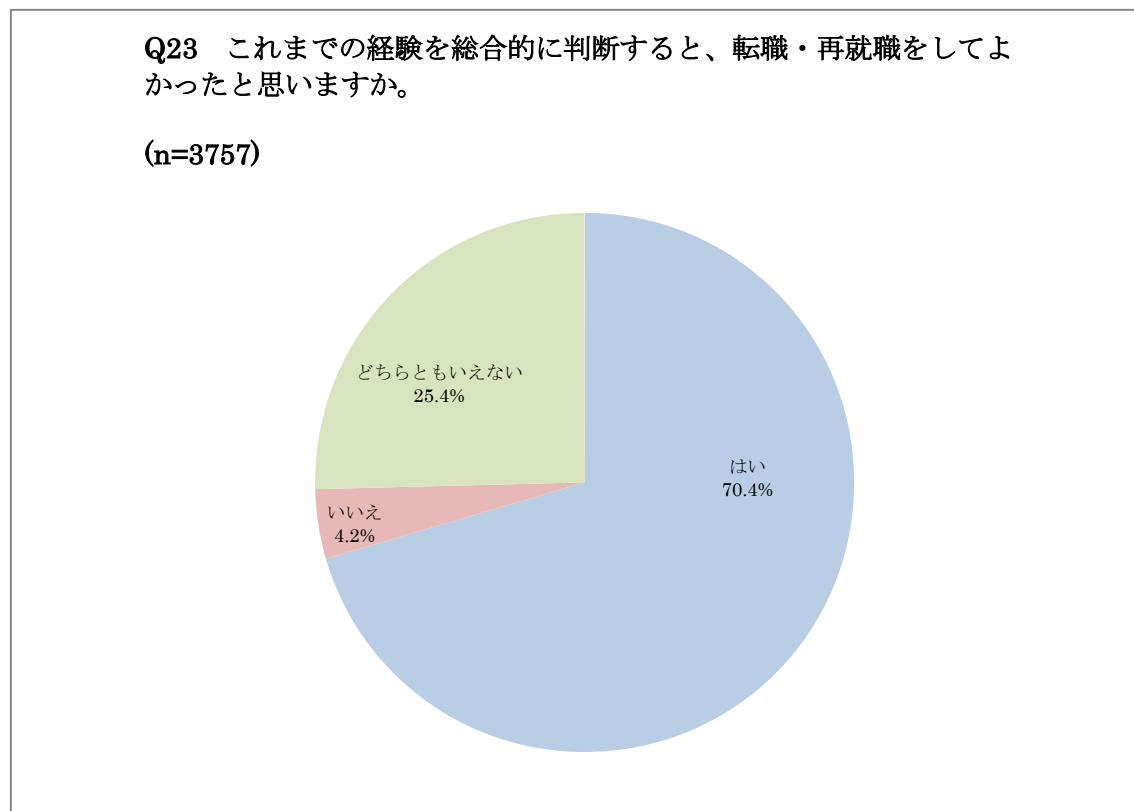
図 3-17 転職・再就職の回数



転職・再就職の経験回数が「1回」の人は全体の約4分の1、「2回」の人はおよそ5分の1であった。「3回」以上転職・再就職した人は全体の4割近くに及んだ。転職・再就職経験が「ない」人は13.3%だった。

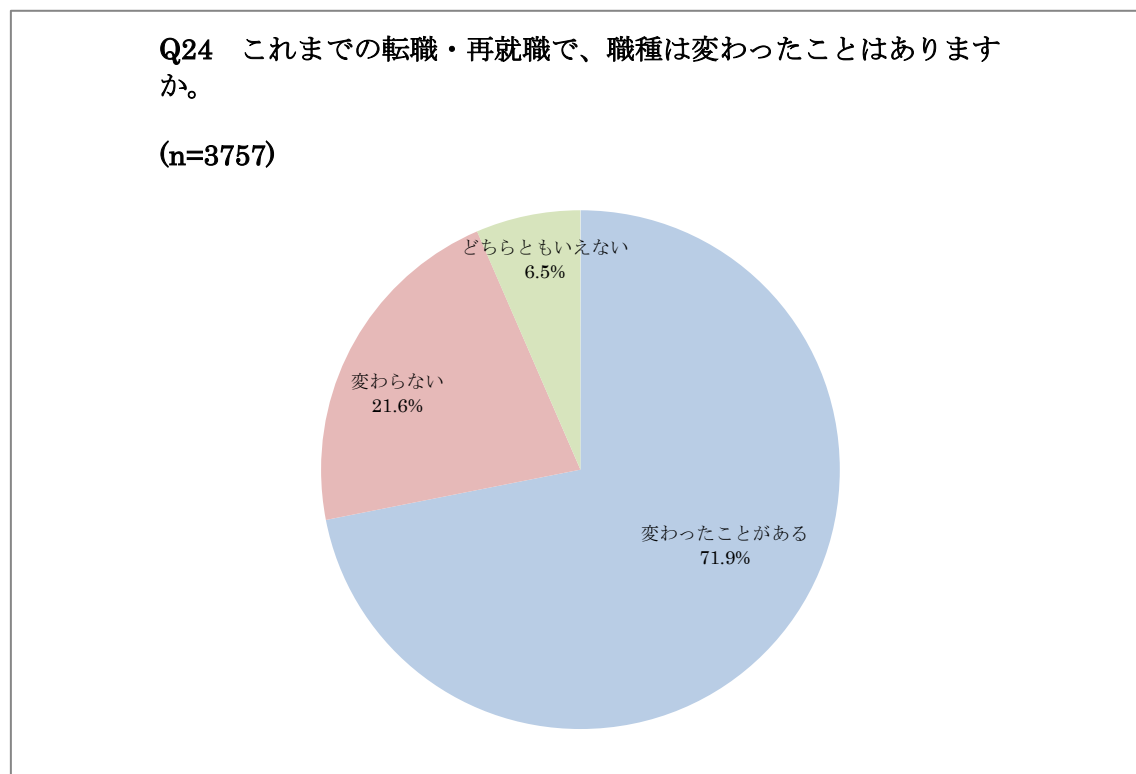
転職あるいは再就職経験者 3757 人を対象に、転職・再就職をしたことの評価 (Q23)、職種の変化 (Q24)、職場選びの条件 (Q25)、転職・再就職経験の評価 (Q26)、転職・再就職準備 (Q27) について尋ねた。

図 3-18 転職・再就職への評価



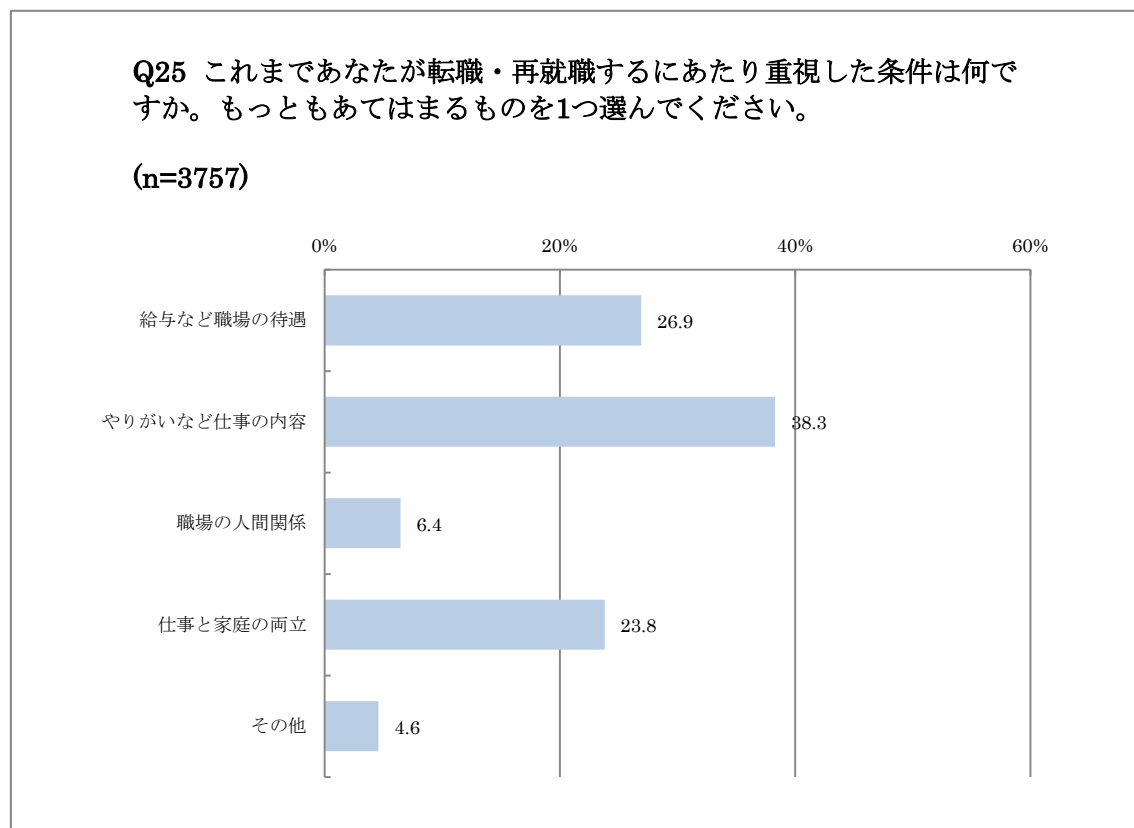
転職・再就職をしてよかったと思うかという設問に対して、7 割の人が「はい」と答え、他方、「いいえ」を選択した人は 4.2%と、肯定的に捉えている人が多かった。また、「どちらともいえない」は 25.4%であった。

図 3-19 転職・再就職による職種の変化



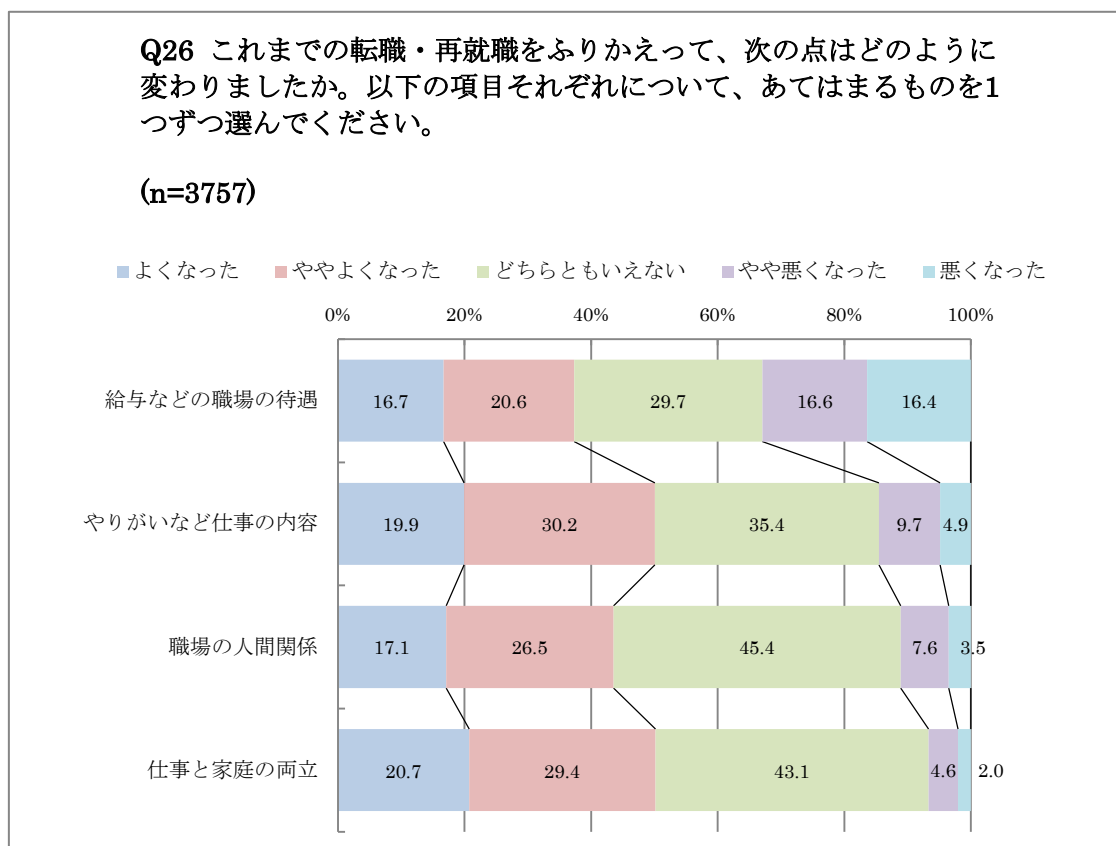
7割以上の方が職種について「変わったことがある」と回答した。また、「変わらない」人は21.6%、「どちらともいえない」は6.5%となった。

図 3-20 転職・再就職時に重視した条件



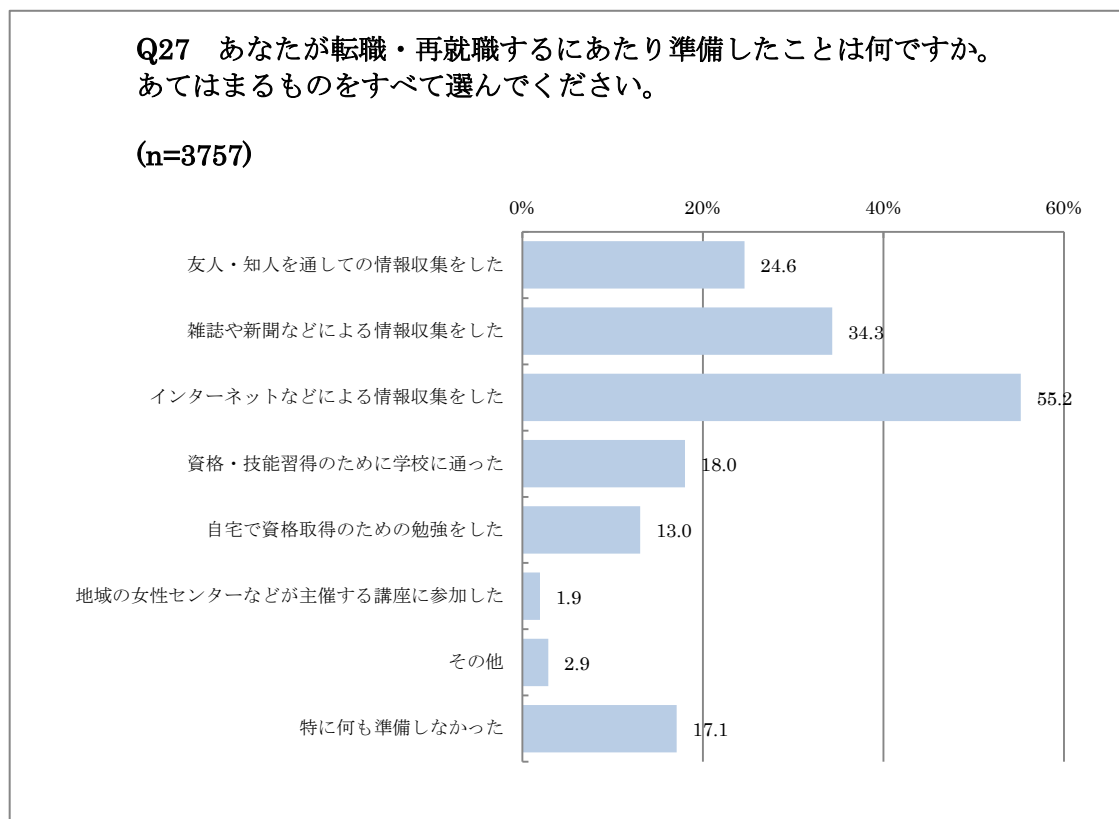
転職・再就職にあたり重視した条件として、「やりがいなど仕事の内容」を選んだ人が全体の4割でもっとも多かった。次いで「給与など職場の待遇」26.9%、「仕事と家庭の両立」23.8%であった。それと比べ、現職、初職、最長職の職場への満足度で高い傾向があった「職場の人間関係」を転職・再就職で重視した人は6.4%であった。

図 3-21 転職・再就職時に重視した条件への評価



「やりがいなど仕事の内容」と「仕事と家庭の両立」が「よくなった」「ややよくなった」と感じている人がもっとも多く 50.1%いるが、他方「仕事と家庭の両立」で「どちらともいえない」を選んでいる人は 43.1%いた。「職場の人間関係」も 43.6%の人が「よくなった」「ややよくなった」と評価しているが、45.4%の人が「どちらともいえない」を選択していた。「給与などの職場の待遇」を「よくなった」「ややよくなった」と評価している人は回答者の 37.3%、「どちらともいえない」が 29.7%、「やや悪くなった」「悪くなった」と感じている人は 33.0%となった。「やりがいなど仕事の内容」「仕事と家庭の両立」「職場の人間関係」は「やや悪くなった」「悪くなった」を選択している人は少なく、変化がない、もしくは転職・再就職をしたことで好転したと感じている人が多かった。だが、「給与などの職場の待遇」では「よくなった」「ややよくなった」と「どちらともいえない」、「やや悪くなった」「悪くなった」はいずれも 30%前後であった。

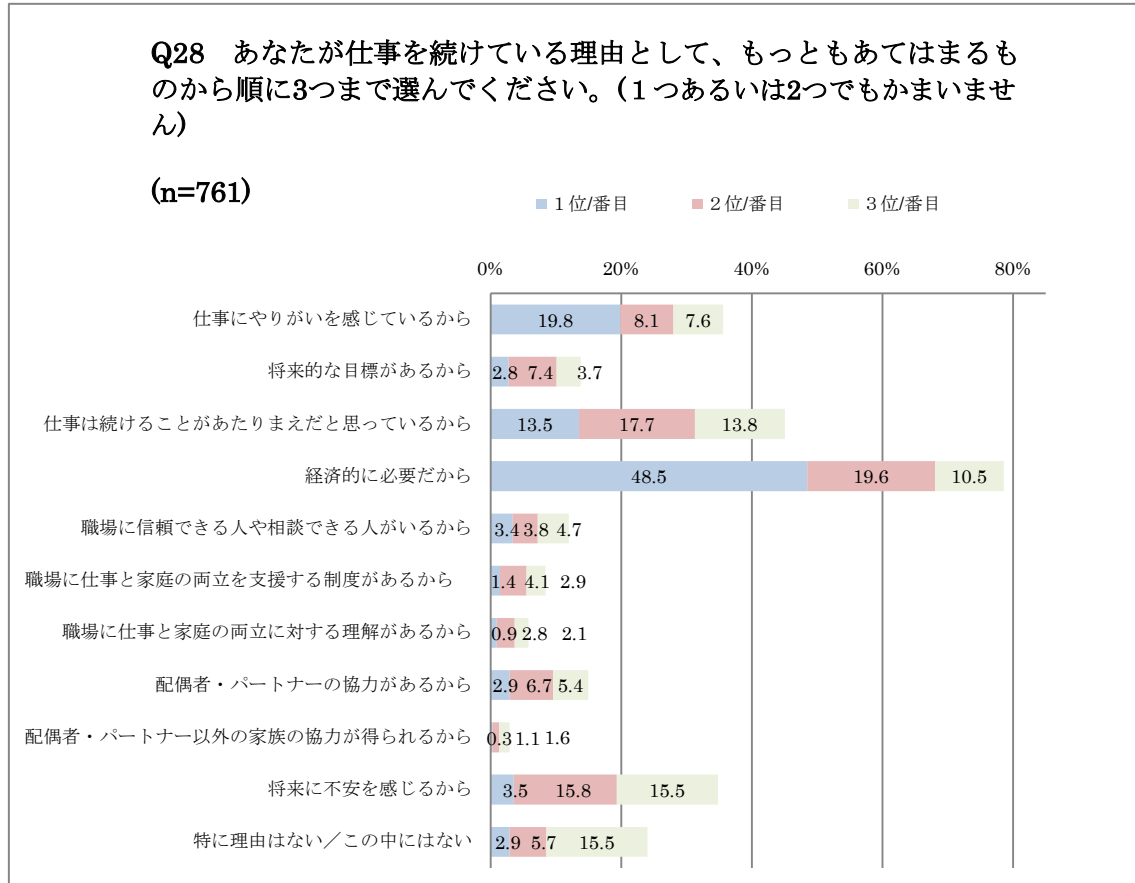
図 3-22 転職・再就職のための準備



一番多いのは、「インターネットなどによる情報収集をした」で半数以上の人を選んだ。次いで「雑誌や新聞などによる情報収集をした」34.3%、「友人・知人を通しての情報収集をした」24.6%であった。情報収集を重視する人の中でも、特にインターネットを利用する人が多い。また、「資格・技能習得のために学校に通った」「自宅で資格取得のための勉強をした」と資格取得を重視する人がそれぞれ18.0%と13.0%である一方、「特に何も準備しなかった」を選んでいる人が17.1%いた。

Q1で「Ⅰ 初職継続型」に該当する人 761 人を対象に初職を継続する理由について聞いた。

図 3-23 初職継続理由

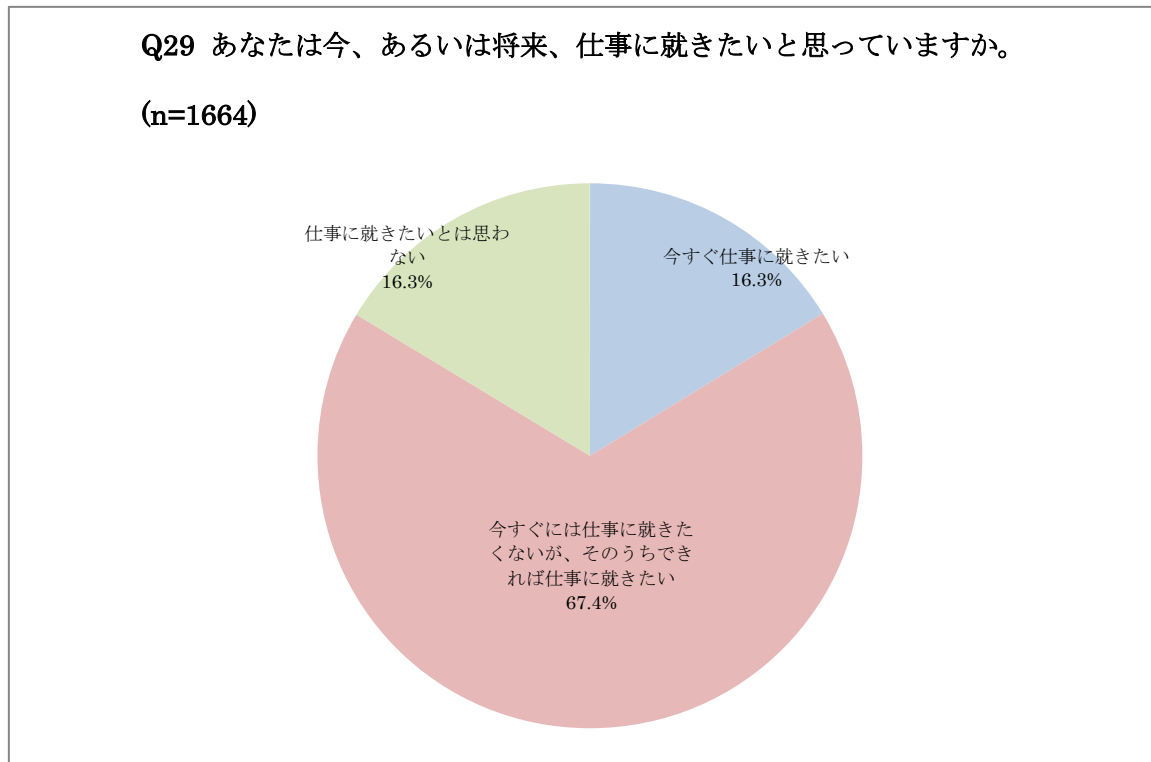


1 位にあげられた理由としてもっとも多いのが全体の 5 割近くの人を選んだ「経済的に必要だから」で、2 位、3 位まで合わせると 8 割の対象者が選択していた。1 位～3 位までを合わせると、以下、「仕事は続けることがあたりまえだと思っているから」、「仕事にやりがいを感じているから」、「将来に不安を感じるから」となっていた。しかし、1 位の理由のみに着目すると、「経済的に必要だから」の次に多いのが「仕事にやりがいを感じているから」で 2 割近くの人を選択していた。

4. 現非就業層の就労意向

Q1で「IV離職型」と「V就業経験なし」の人1664人を対象に今後の就業希望について聞いた。

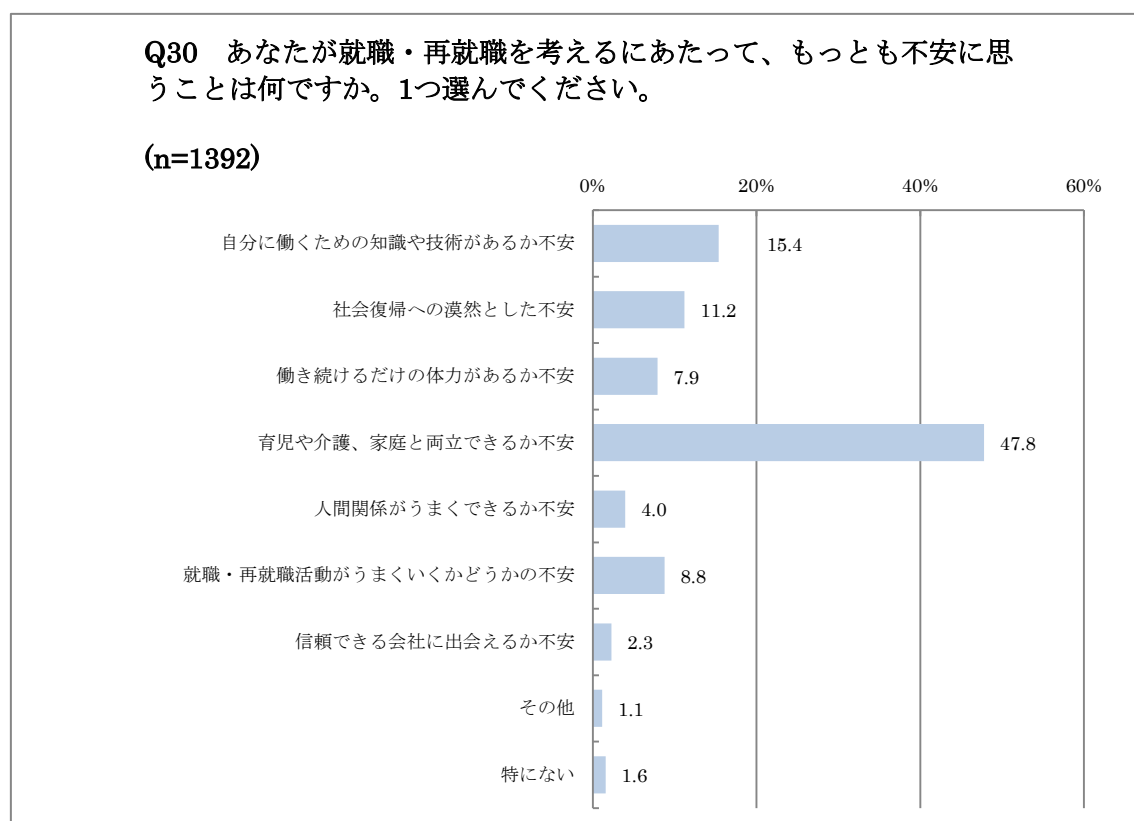
図 4-1 現非就業層の就業意欲



全体の83.7%が就業意欲を持っており、16.3%は「今すぐ仕事に就きたい」を選んでいて、また、「仕事に就きたいとは思わない」を選んだ人は16.3%であった。

前問で「今すぐ仕事に就きたい」もしくは「今すぐには仕事に就きたくないが、そのうちできれば仕事に就きたい」を選んだ就業希望者 1392 人に、就職・再就職を考えるにあたって一番不安に思うことを聞いた。

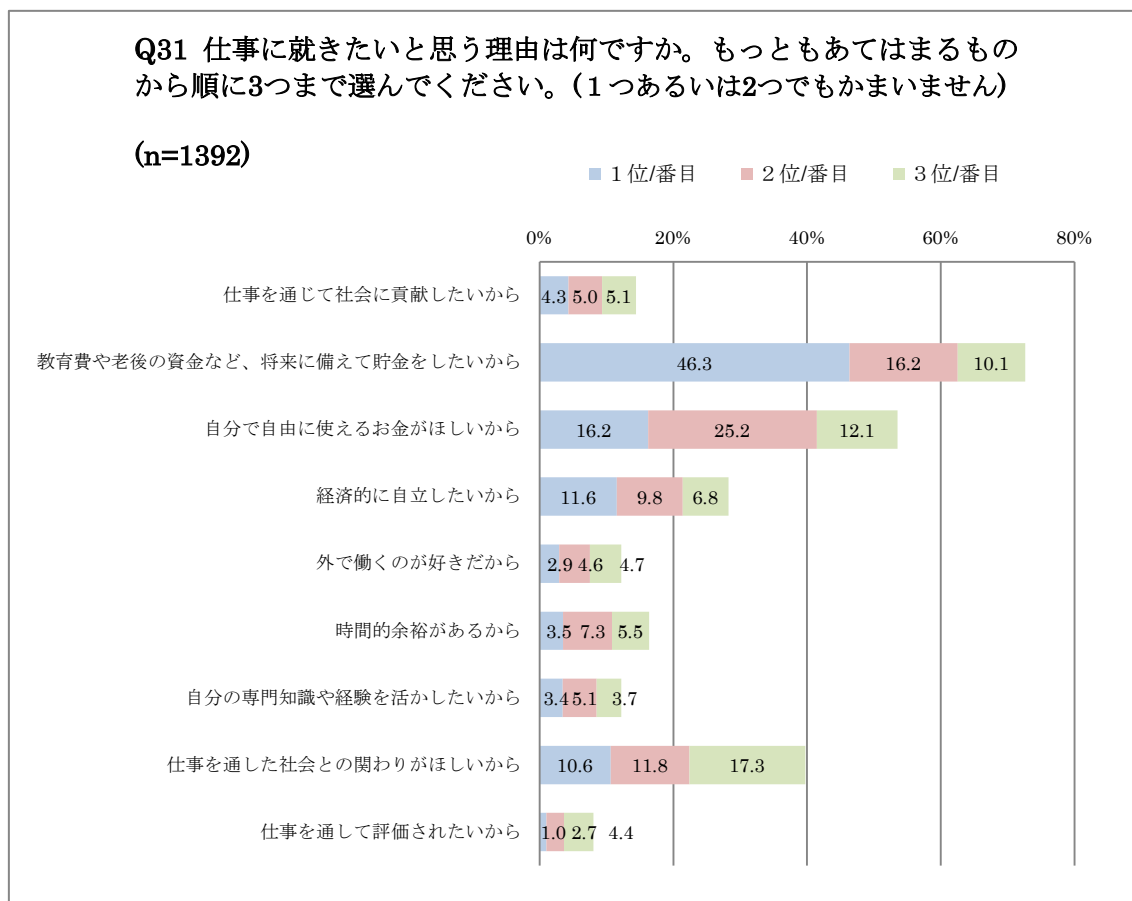
図 4-2 現非就業層の就職・再就職への不安



半数近くが「育児や介護、家庭と両立できるか不安」を選んでいった。以下、「自分に働くための知識や技術があるか不安」15.4%、「社会復帰への漠然とした不安」11.2%となっていた。

現在仕事に就いておらず、就業を希望する人(Q29 で「今すぐに仕事に就きたい」、「今すぐにはないが、近いうちに仕事に就きたい」と答えた人)に仕事に就きたいと思う理由を聞いた。

図 4-3 現非就業層の就業希望理由

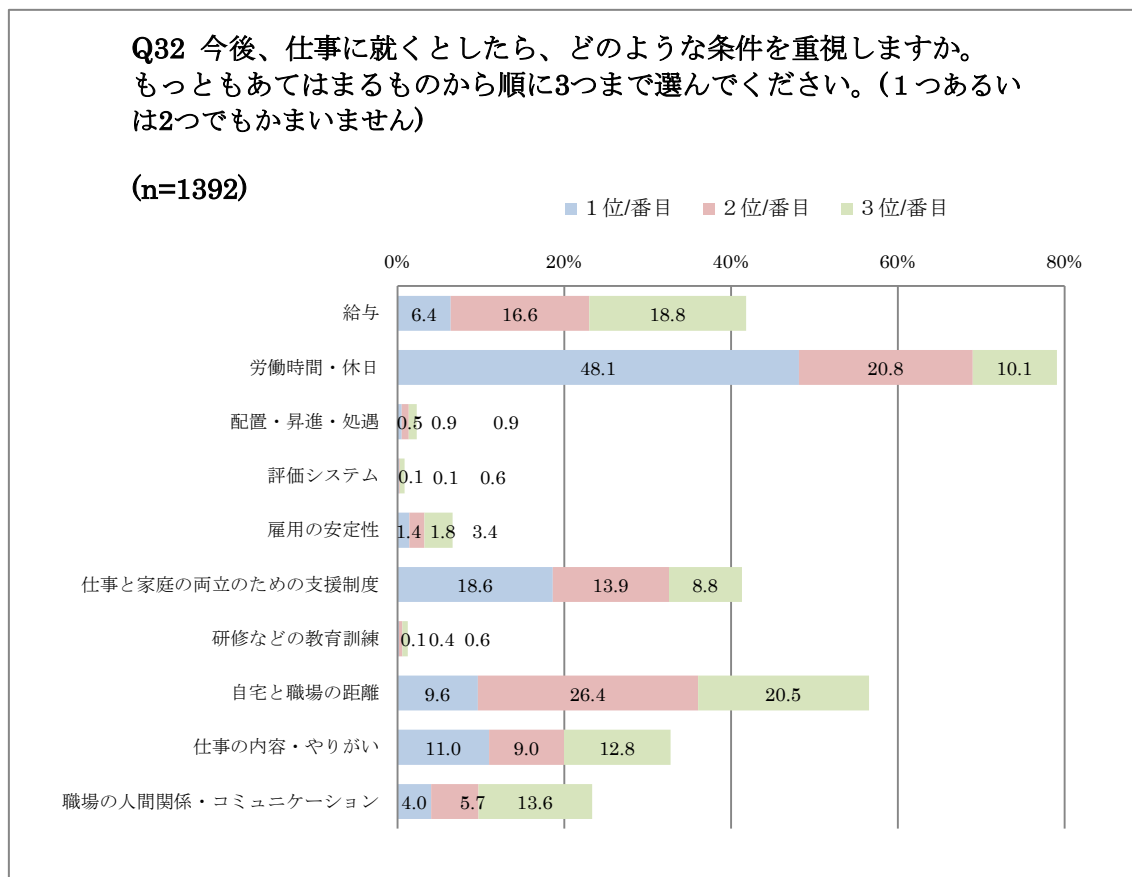


1位～3位を含めてもっとも多い理由は、「教育費や老後の資金など、将来に備えて貯金をしたいから」で、次いで、「自分で自由に使えるお金がほしいから」、「仕事を通した社会との関わりがほしいから」と続いた。

1位の理由としては半数近くの人が「教育費や老後の資金など、将来に備えて貯金をしたいから」(46.3%)を選んでいて、2位の理由としてもっとも多いのは「自分で自由に使えるお金がほしいから」25.2%であった。3位の理由としてもっとも多いのは「仕事を通した社会との関わりがほしいから」17.3%となった。

現在、仕事に就いておらず、かつ就業を希望する人に、今後仕事に就くとしたらどのような条件を重視するか聞いた。

図 4-4 就職・再就職の際重視する条件

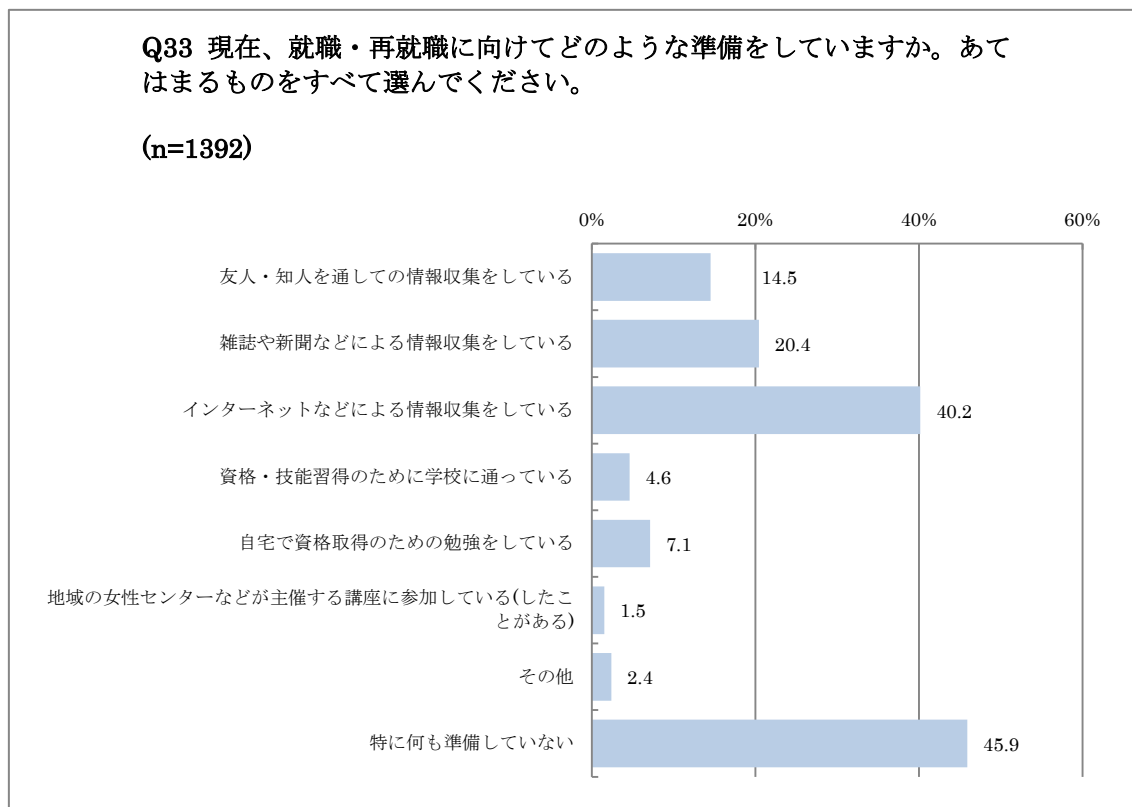


この結果、全体を総合すると、「労働時間・休日」がもっとも多く、次いで「自宅と職場の距離」、続いて「給与」となった。

仕事に就く際の職場選びで重視する条件として 1 位にあげられたのは、半数近くが選択した「労働時間・休日」(48.1%)、「仕事と家庭の両立のための支援制度」18.6%と続いた。2 位は、「自宅と職場の距離」26.4%がもっとも多く、次いで「労働時間・休日」20.8%、「給与」16.6%となった。3 位にもっとも多くあげられたのは、「自宅と職場の距離」20.5%で、次いで「給与」18.8%、「職場の人間関係・コミュニケーション」13.6%となった。

現在、仕事に就いておらず、かつ就業を希望する人に、現在、就職・再就職に向けてどのような準備をしているのかを聞いた。

図 4-5 就職・再就職への準備

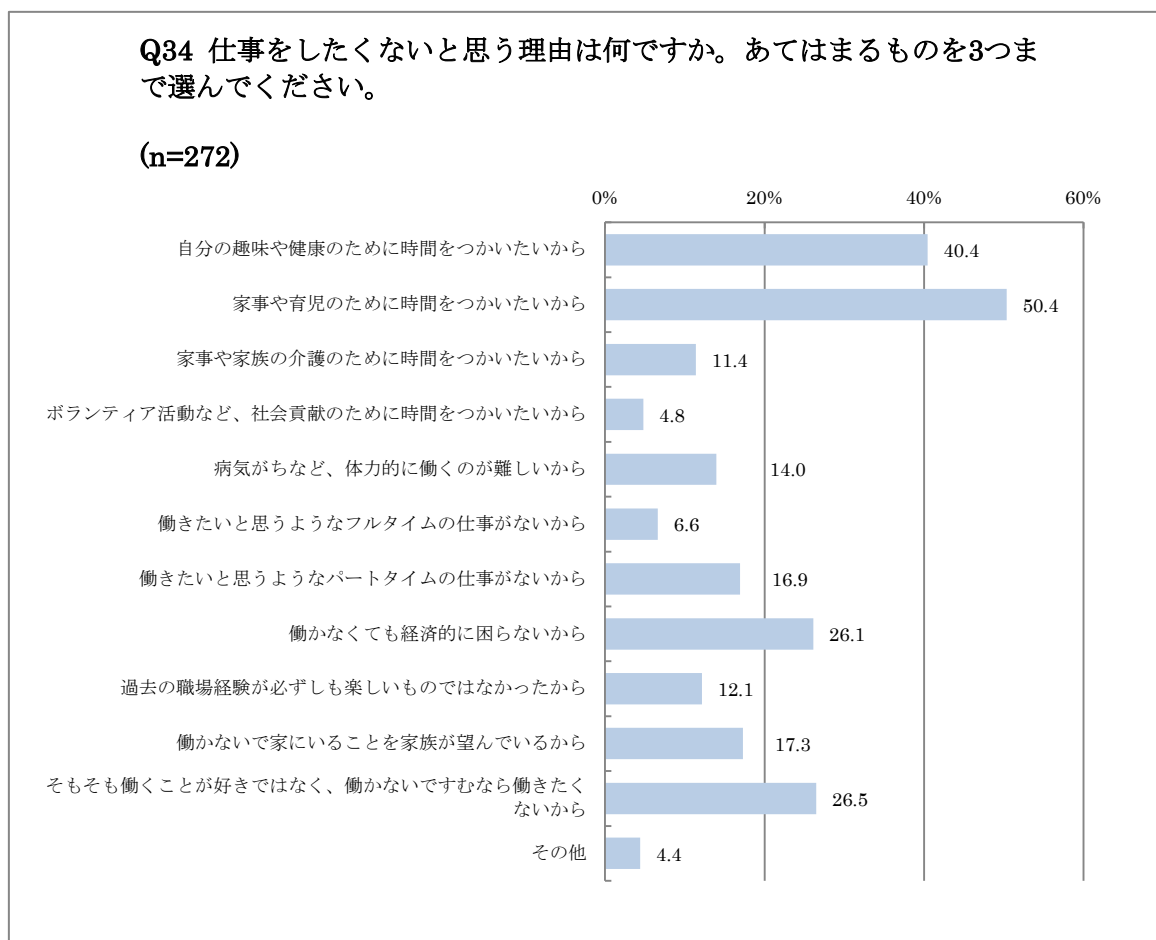


就職・再就職に向けた準備として、もっとも多いのが、「特になにも準備していない」45.9%、次いで、「インターネットなどによる情報収集をしている」40.2%、「雑誌や新聞などによる情報収集をしている」20.4%と続いた。

「その他」の記述(自由回答)で多かったのは「ハローワークに通っている」であった。

現在仕事に就いていない人かつ、Q29で「仕事に就きたいと思わない」と答えた人を対象に、仕事をしたくないと思う理由を聞いた。

図 4-6 仕事をしたくない理由



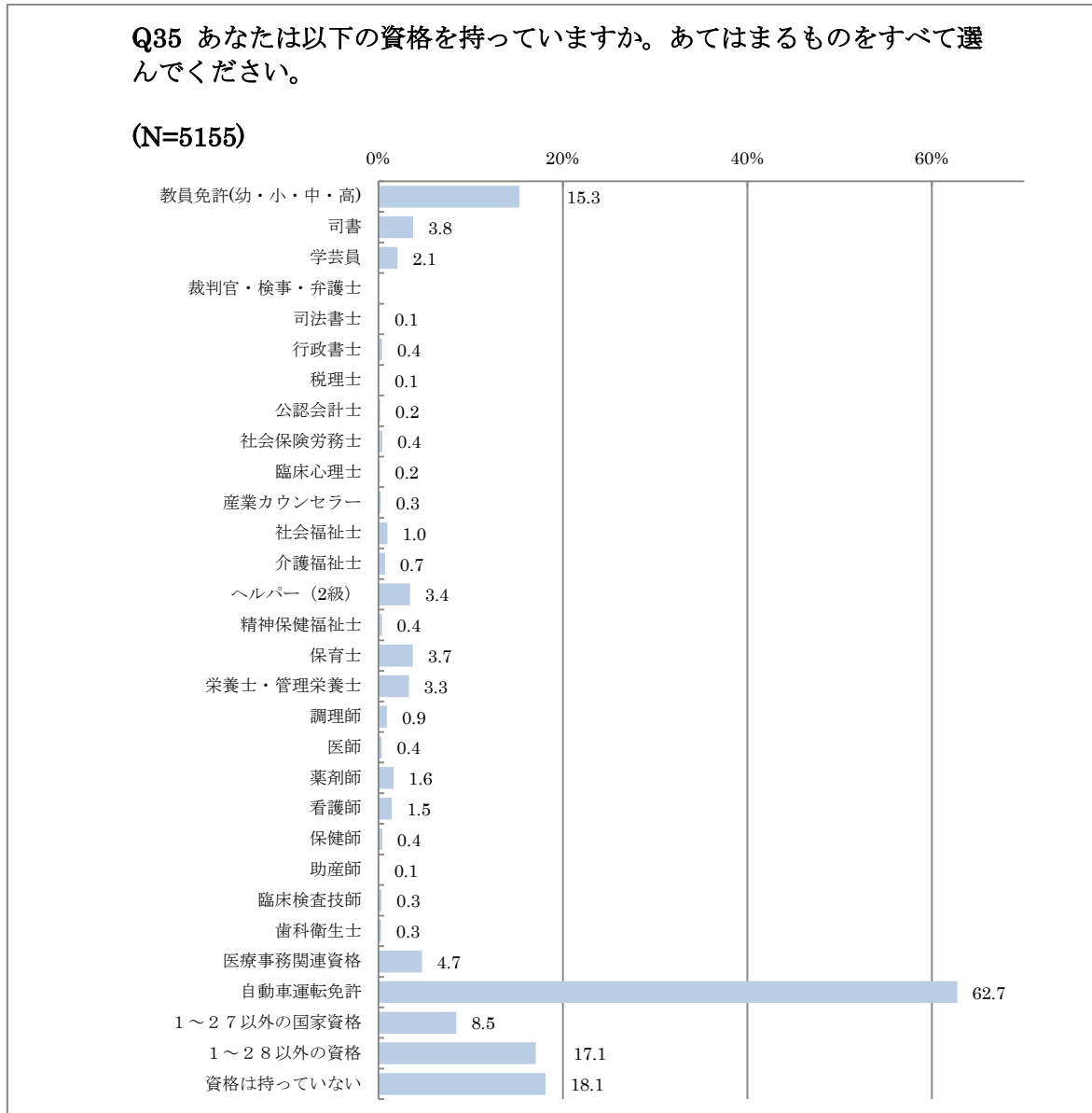
もっとも多いのは、「家事や育児のために時間をつかいたいから」50.4%、次いで「自分の趣味や健康のために時間をつかいたいから」40.4%、「そもそも働くことが好きではなく、働かないですむなら働きたくないから」26.5%であった。

「その他」の意見として、「面接に通る自信がない」、「資格がないので自信がない」などがあげられた。

5. 資格などについて

全員を対象に、国家資格等の資格の有無を聞いた。

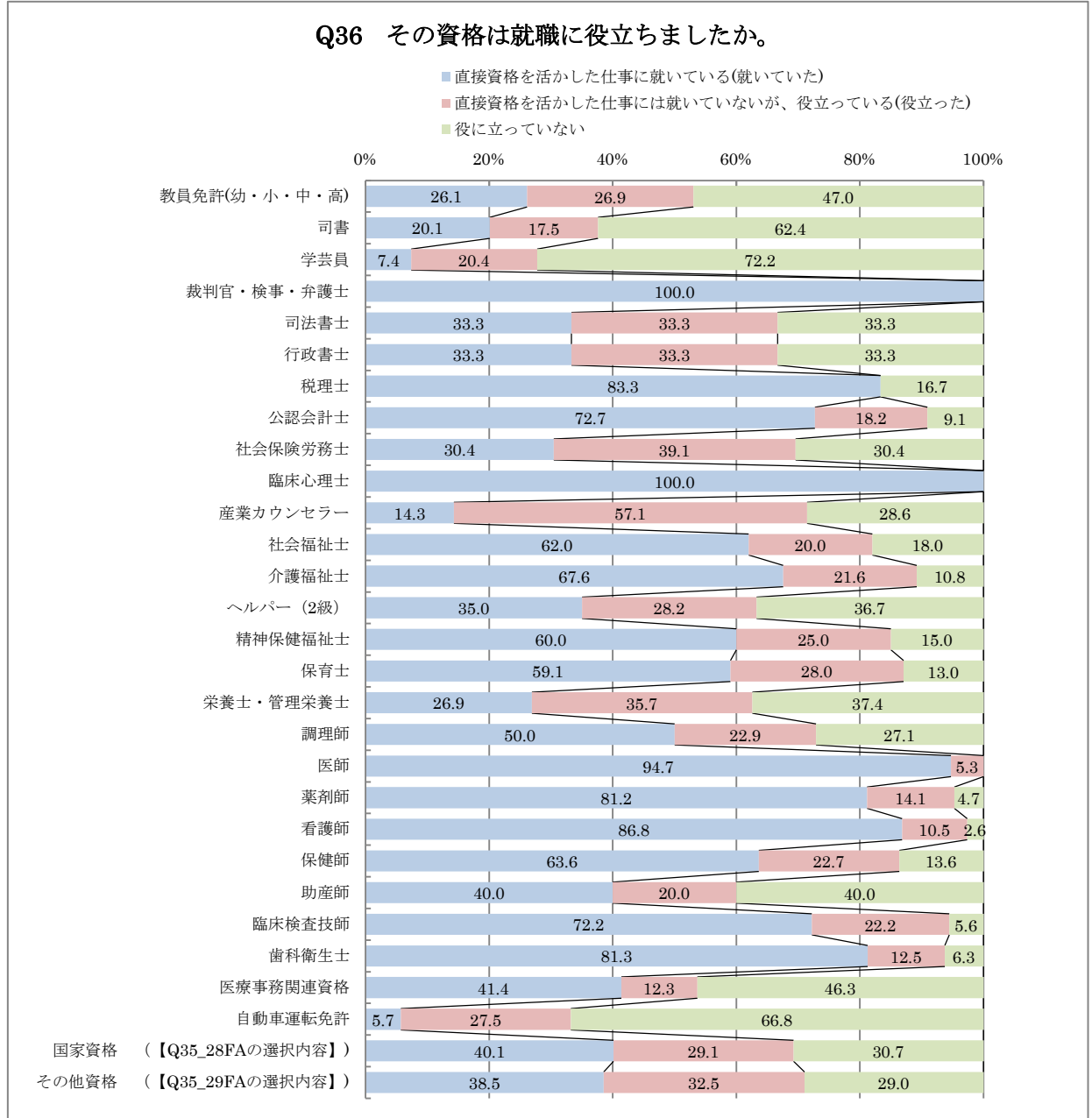
図 5-1 資格



もっとも多いのは、「自動車運転免許」で 62.7%と過半数を占める唯一の資格となっていた。次いで、「資格は持っていない」と答えた人が 18.1%、「1～28 以外の資格」の人が 17.1%、「教員免許(幼・小・中・高)」15.3%、「1～27 以外の国家資格」(上記にない国家資格と回答したもの) 8.5%と続いた。それ以外はすべて 5%未満であり、1%未満の資格も 16 個存在した。

Q35 の資格取得者にそれぞれの資格が就職に役立ったのか聞いた。

図 5-2 資格の効果

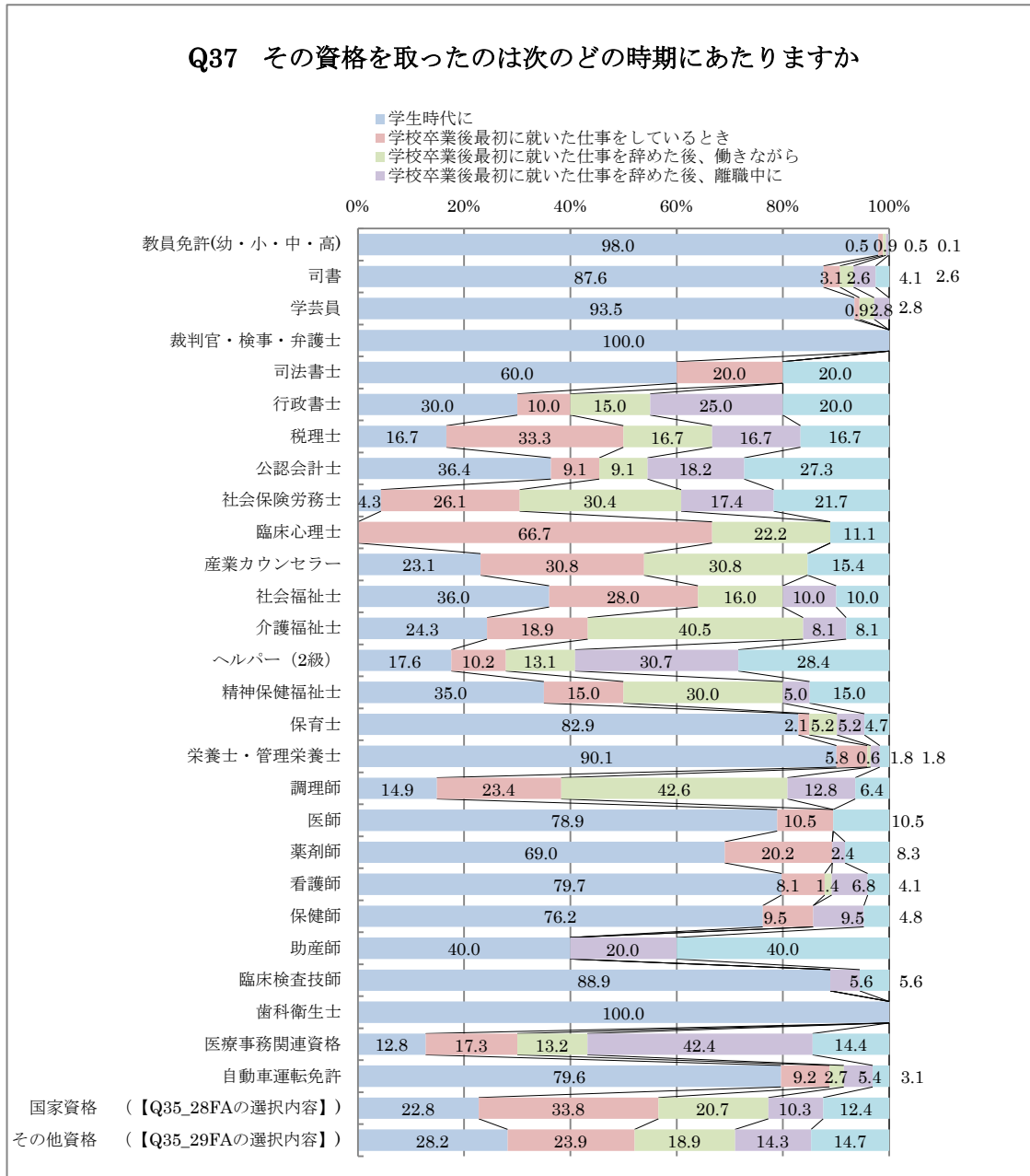


全対象者の 62.7%がもっていた自動車運転免許は、過半数の 66.8%が「役に立っていない」と答え、「直接資格を活かした仕事に就いている(就いていた)」と答えた人は 5.7%にとどまった。

全対象者の 15.3%がもっていた教員免許においては、「直接資格を活かした仕事に就いている(就いていた)」と答えた人は 26.1%と約 4 分の 1 で、「直接資格を活かした仕事には就いていないが役立っている(役立っていた)」が 26.9%、「役に立っていない」と答えた人は 47.0%となった。

Q35 で答えた資格取得がどの時期か聞いた。

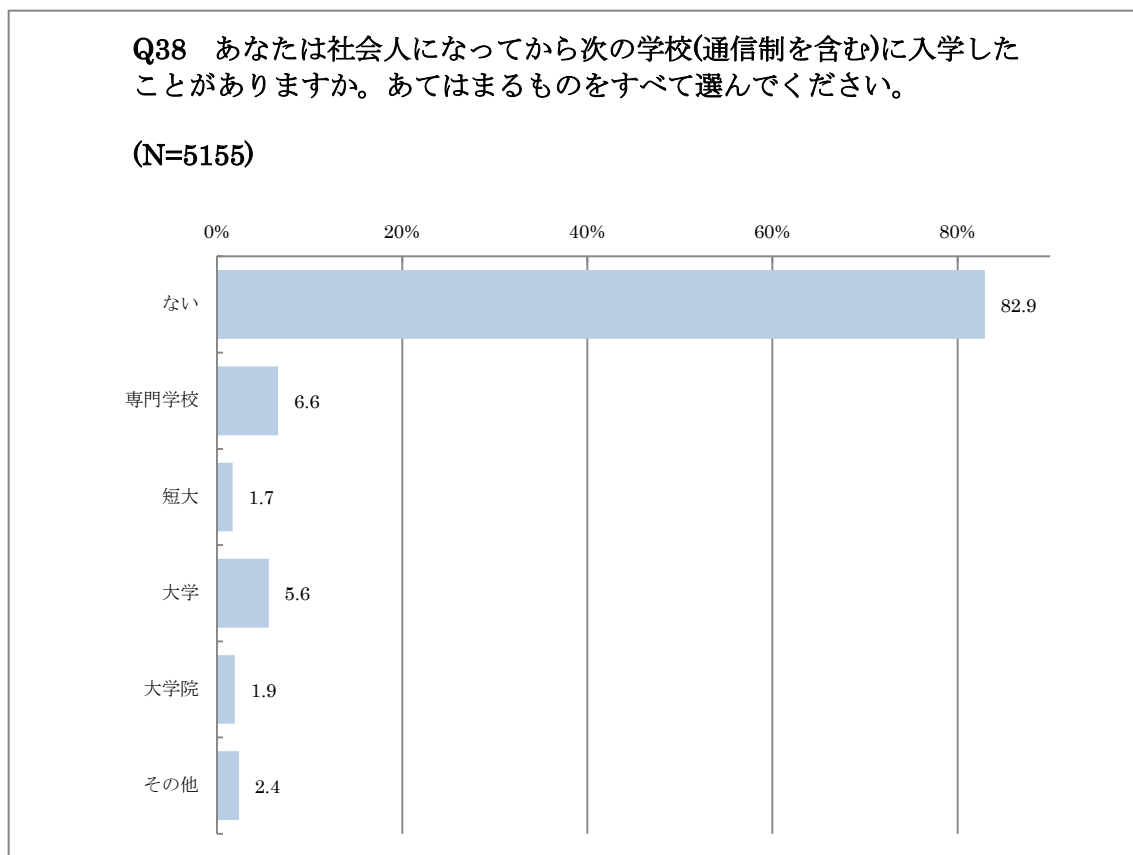
図 5-3 資格の取得時期



自動車運転免許は 79.6%、教員免許は 98.0%の人が「学生時代に」取得したと回答していた。

全員を対象に、社会人になってから、学校(通信制を含む)に入学したことがあるか聞いた。

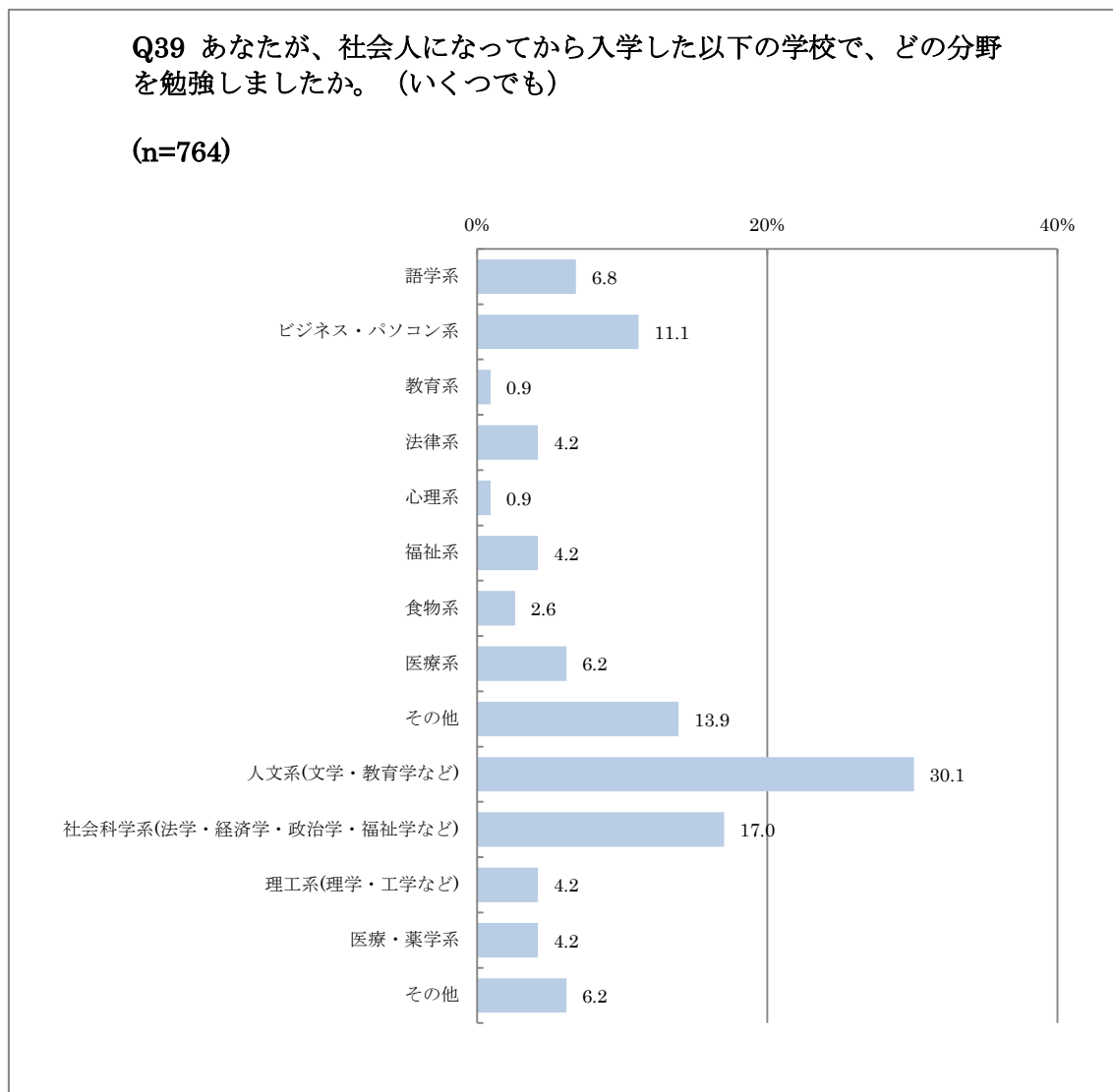
図 5-4 社会人入学経験



8割以上(82.9%)の人が「ない」と回答した。社会人になってから学校に入学したことがある人のうち、「専門学校」に入学したことがある人は6.6%、「大学」は5.6%であった。

Q38 の社会人になってから学校に入ったことのある人を対象に、入学した学校の学問分野を聞いた。

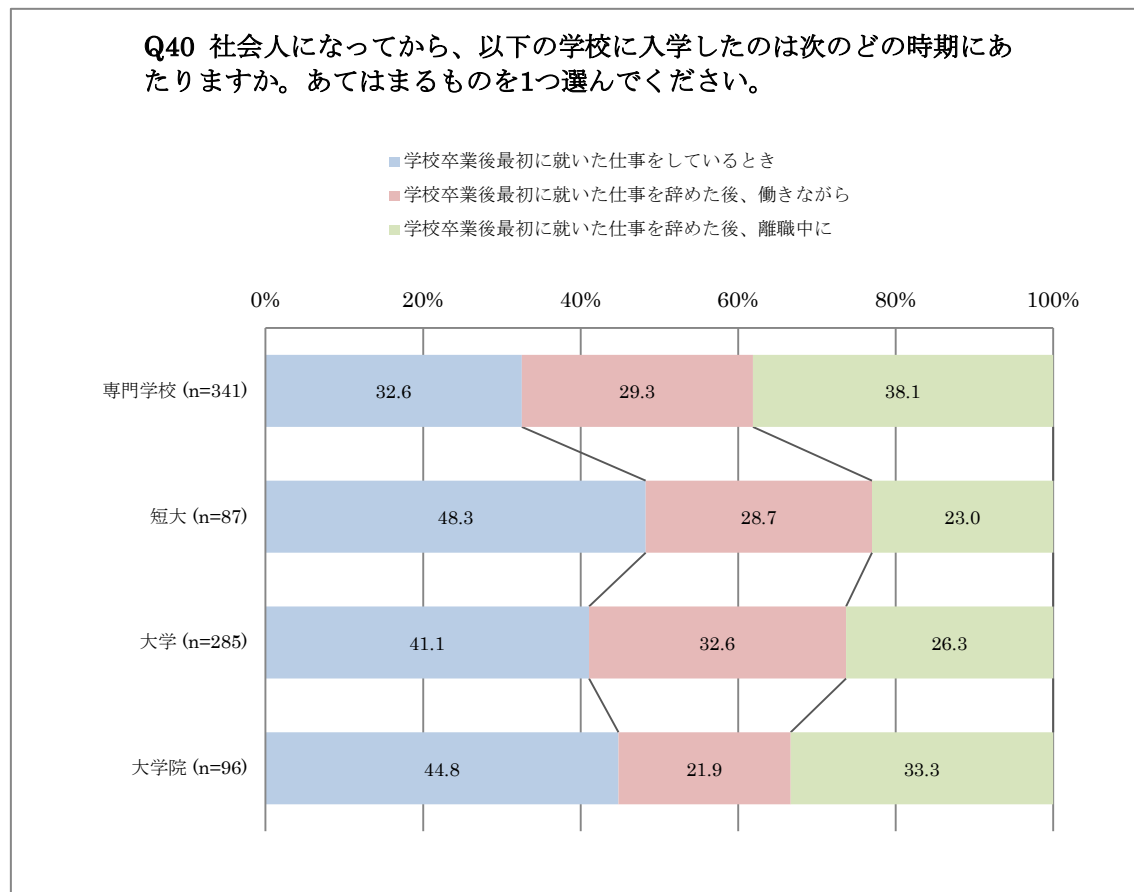
図 5-5 社会人入学で学んだ分野



専門学校では「その他」を除くと、「ビジネス・パソコン系」が 11.1%でもっとも多く、次いで「語学系」の 6.8%であった。短大・大学・大学院では「人文系」が 30.1%と最も多く、次いで「社会科学系」が 17.0%であった。

Q38 の社会人になってから学校に入ったことがある人を対象に、入学した時期を聞いた。

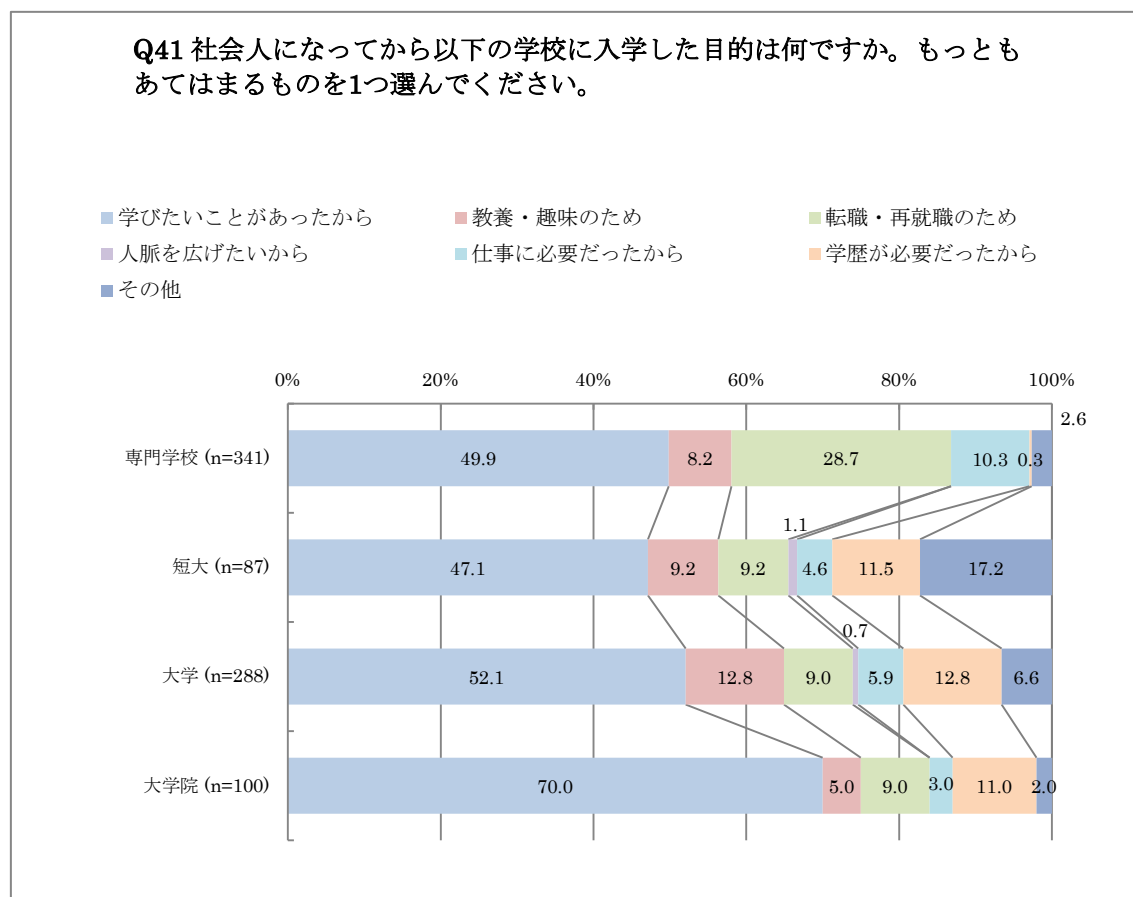
図 5-6 社会人入学をした時期



専門学校は、「学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、離職中に」と答えた人(38.1%)がもっとも多いが、短大、大学、大学院は「学校卒業後最初に就いた仕事をしているとき」がもっとも多く、それぞれ48.3%、41.1%、44.8%となっていた。

Q38 で社会人になってから学校(通信制を含む)に入学したことがあると答えた人を対象に、それぞれの学校に入学した目的を聞いた。

図 5-7 社会人入学の目的

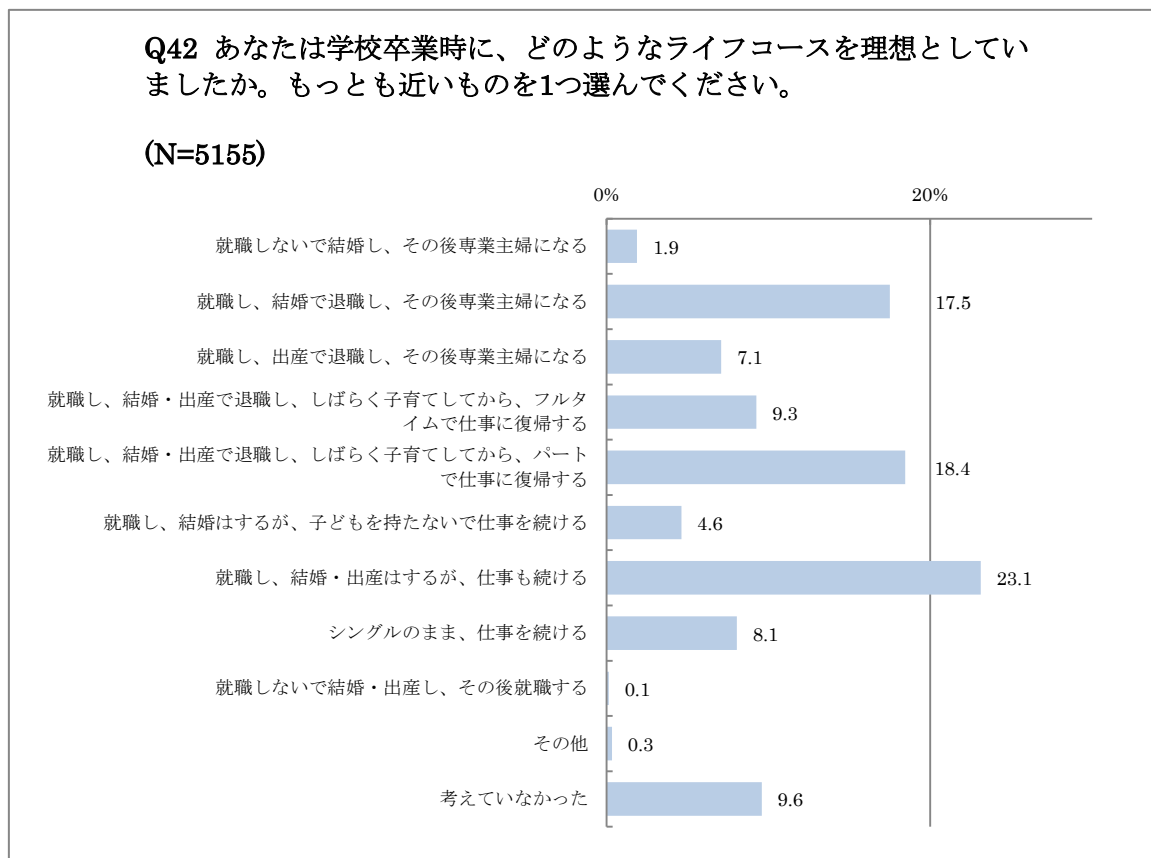


全ての学校種において、「学ばないことがあったから」と答えた人がもっとも多く、専門学校・短大・大学では約半数、大学院では7割となっていた。専門学校では「転職・再就職のため」が二番目に多く、28.7%であった。

6. 就業意識

全員を対象に、学校卒業時、どのようなライフコースが理想であったのかを聞いた。

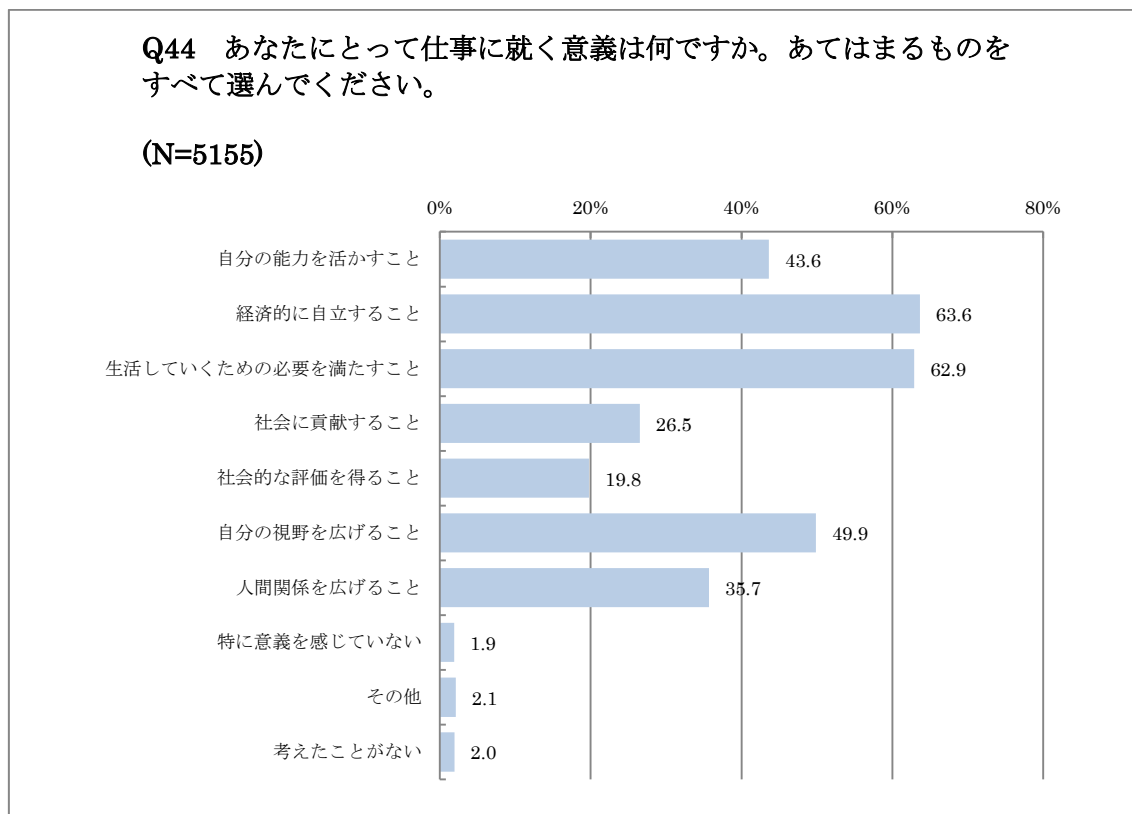
図 6-1 学卒時の理想のライフコース



もっとも多かったのは「就職し、結婚・出産はするが、仕事も続ける」23.1%で、以下「就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてからパートで復帰する」18.4%、「就職し、結婚で退職し、その後専業主婦になる」17.5%となった。「考えていなかった」は9.6%であった。

全員に仕事に就く意義について聞いた。

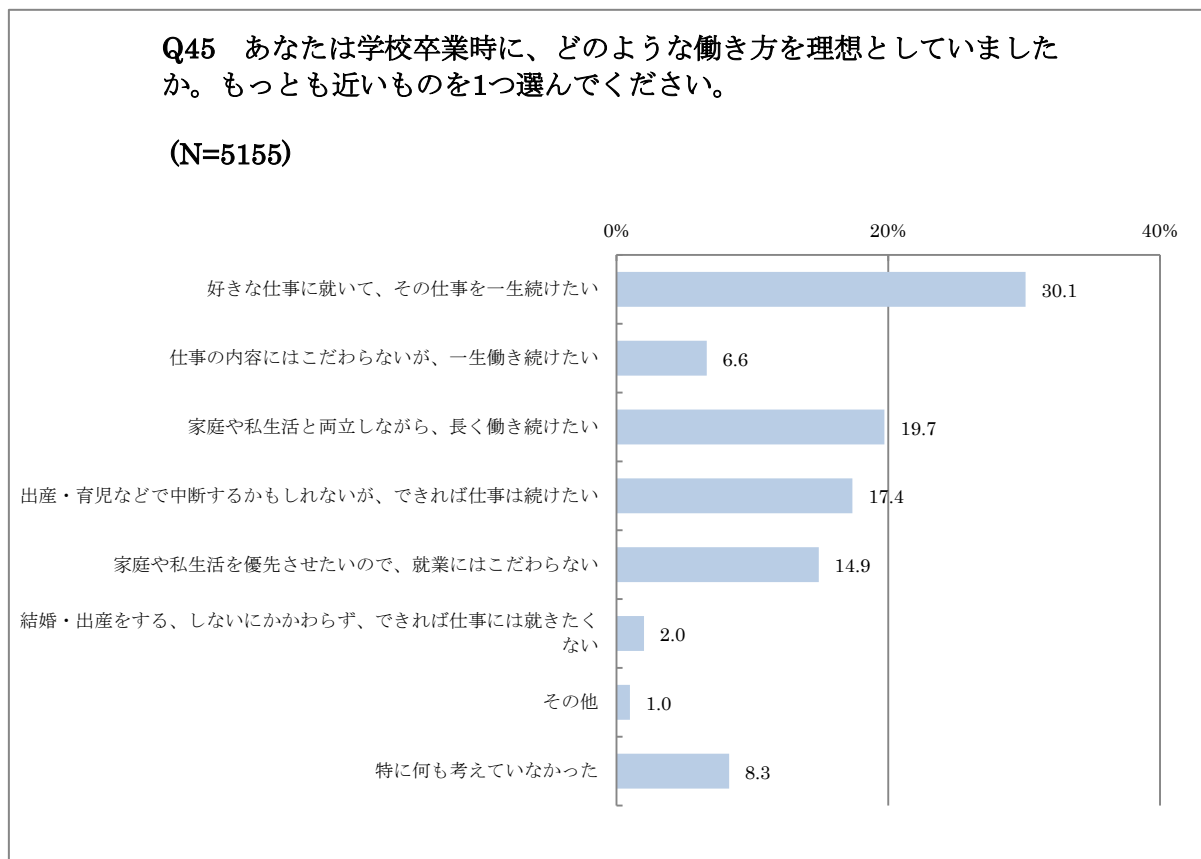
図 6-2 就業の意義



もっとも多い順に、「経済的に自立すること」63.6%、「生活していくための必要を満たすこと」62.9%、「自分の視野を広げる」49.9%、「自分の能力を活かすこと」43.6%となった。

全員に、学校卒業時どのような働き方を理想としていたのかを聞いた。

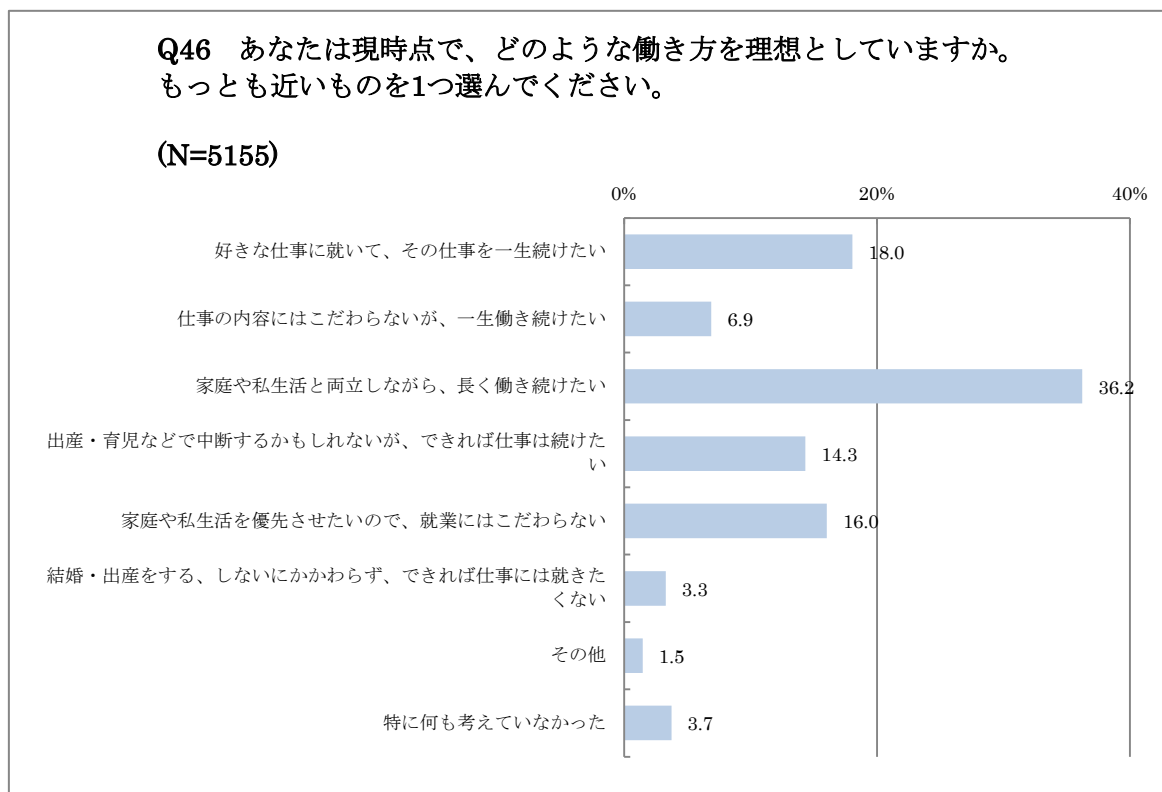
図 6-3 学卒時の理想の働き方



学校卒業時の理想の働き方としてもっとも多いのは、「好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい」で 30.1%、次いで、「家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい」19.7%、さらに「出産・育児などで中断するかもしれないが、できれば仕事は続けたい」17.4%と続いた。「特に何も考えていなかった」と答えた人は 8.3%となった。

全員を対象に現時点での働き方の理想を聞いた。

図 6-4 現時点の理想の働き方

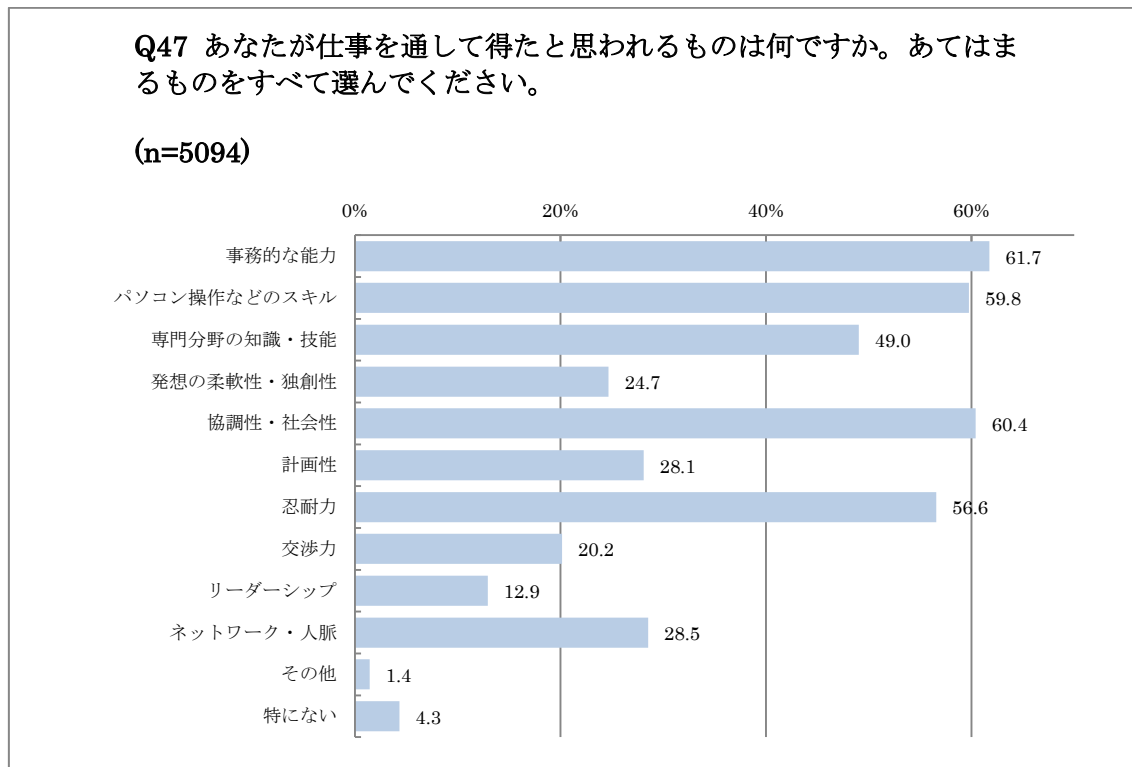


現時点の理想の働き方として、もっとも多いのは「家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい」36.2%、次いで「好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい」18.0%、さらに「家庭や私生活を優先させたいので、就業にはこだわらない」16.0%と続いた。「特に何も考えていなかった」と答えた人は3.7%にとどまった。

学卒時と比べて、「好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい」と答える人が少なくなり、一方「家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい」と答える人が多くなった。

仕事をしたことのある人を対象に、仕事を通して得たと思われるものを聞いた。

図 6-5 仕事を通して得たもの

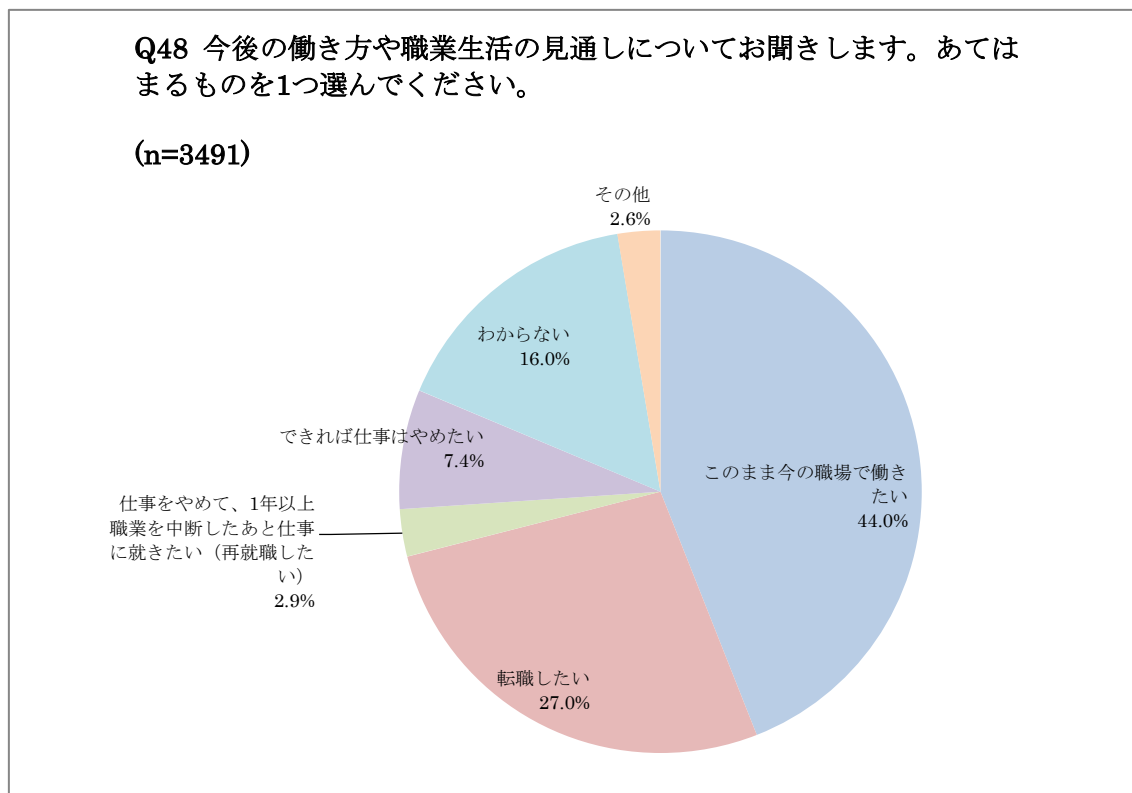


多いものから順に「事務的な能力」61.7%、「協調性・社会性」60.4%、「パソコン操作などのスキル」59.8%、「忍耐力」56.6%となった。「特にない」は4.3%にとどまった。

7. 現有業層の転職意向

現在、仕事をしている人を対象に、今後の働き方や職業生活の見通しについて聞いた。

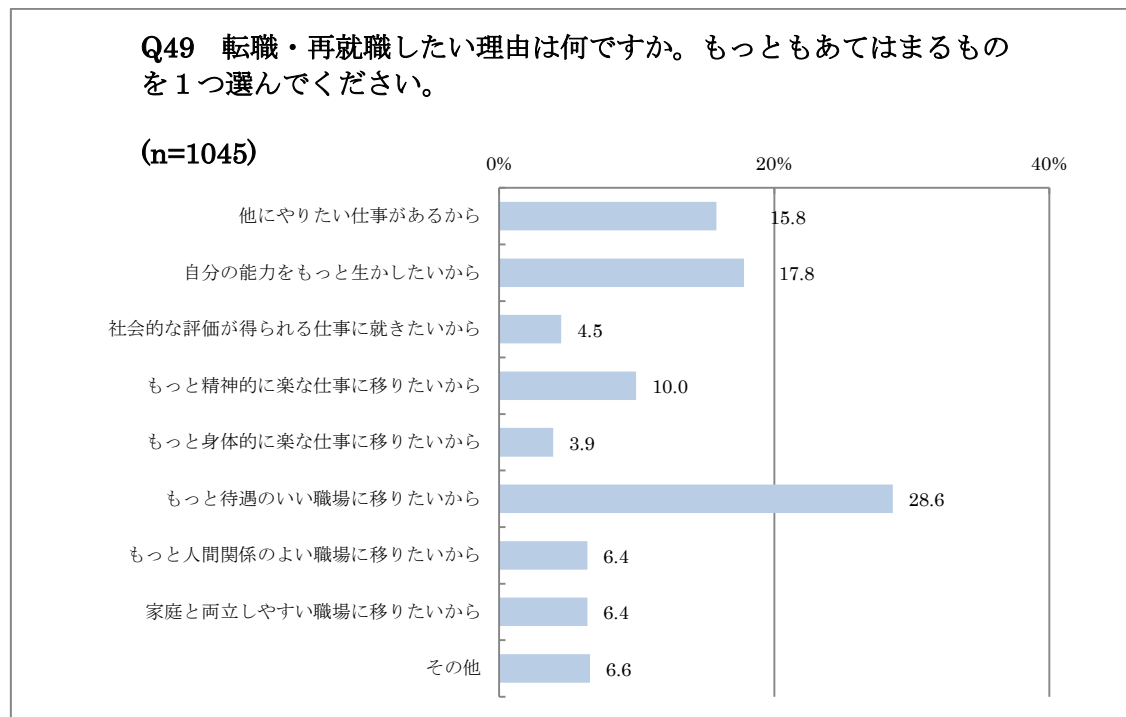
図 7-1 就業に対する見通し



もっとも多いのは、「このまま今の職場で働きたい」44.0%、次いで「転職したい」27.0%となった。「わからない」が16.0%となった。

Q48(現在、仕事をしている人を対象に、今後の働き方や職業生活の見通しについて聞いた設問)で「転職したい」もしくは「仕事をやめて、1年以上職業を中断したあと仕事に就きたい(再就職したい)」と答えた人に転職・再就職したい理由を聞いた。

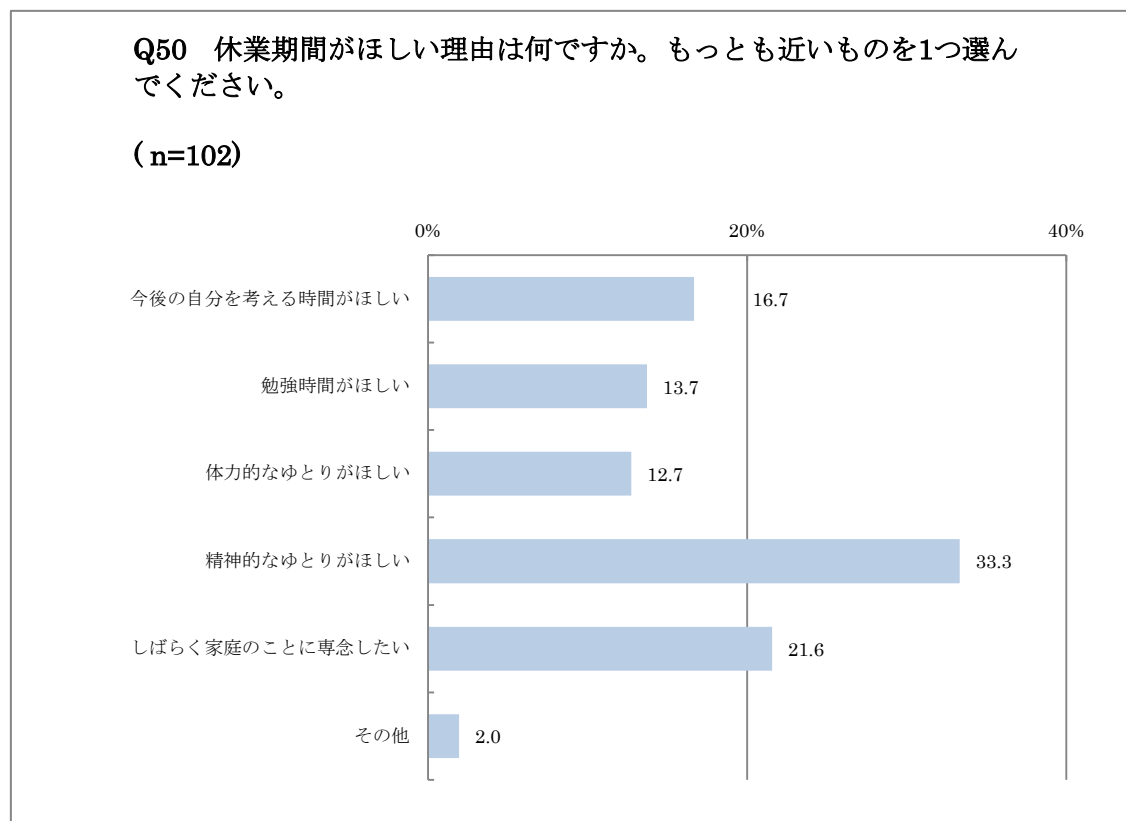
図 7-2 有業層の転職・再就職希望理由



「もっと待遇のいい職場に移りたいから」がもっとも多く 28.6%、次いで「自分の能力をもっと生かしたいから」17.8%、さらに「他にやりたい仕事があるから」15.8%と続いた。

Q48(現在、仕事をしている人を対象に、今後の働き方や職業生活の見通しについて聞いた設問)で「仕事をやめて、1年以上職業を中断したあと仕事に就きたい(再就職したい)」と答えた人に休業期間がほしい理由を聞いた。

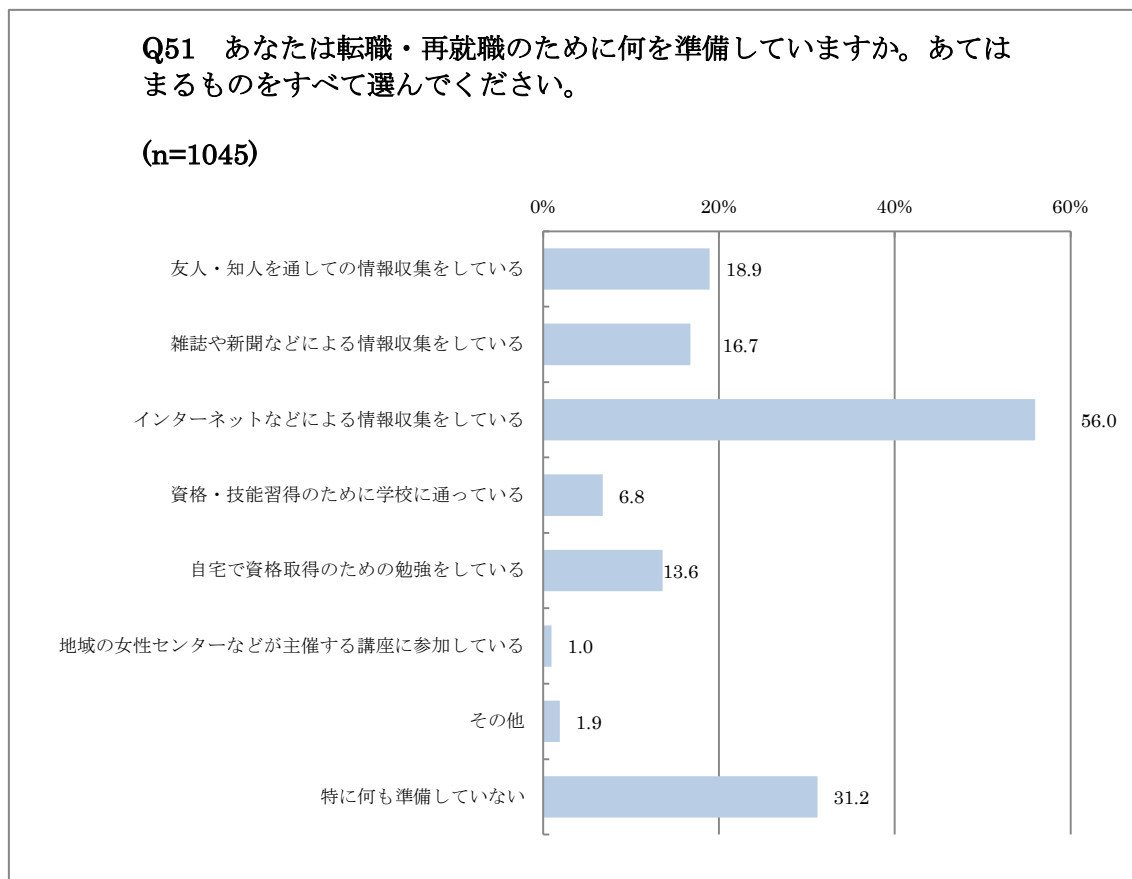
図 7-3 休業期間希望理由



「精神的なゆとりがほしい」を選んだ人がもっとも多く 33.3%、次いで「しばらく家庭のことに専念したい」 21.6%、「今後の自分を考える時間がほしい」 16.7%となった。

Q48 で現在就業している人に今後の就業展望を「転職したい」もしくは「仕事をやめて、1年以上職業を中断したあと仕事に就きたい（再就職したい）」を選択した人を対象に転職・再就職へ向けた準備を聞いた。

図 7-4 転職・再就職への準備

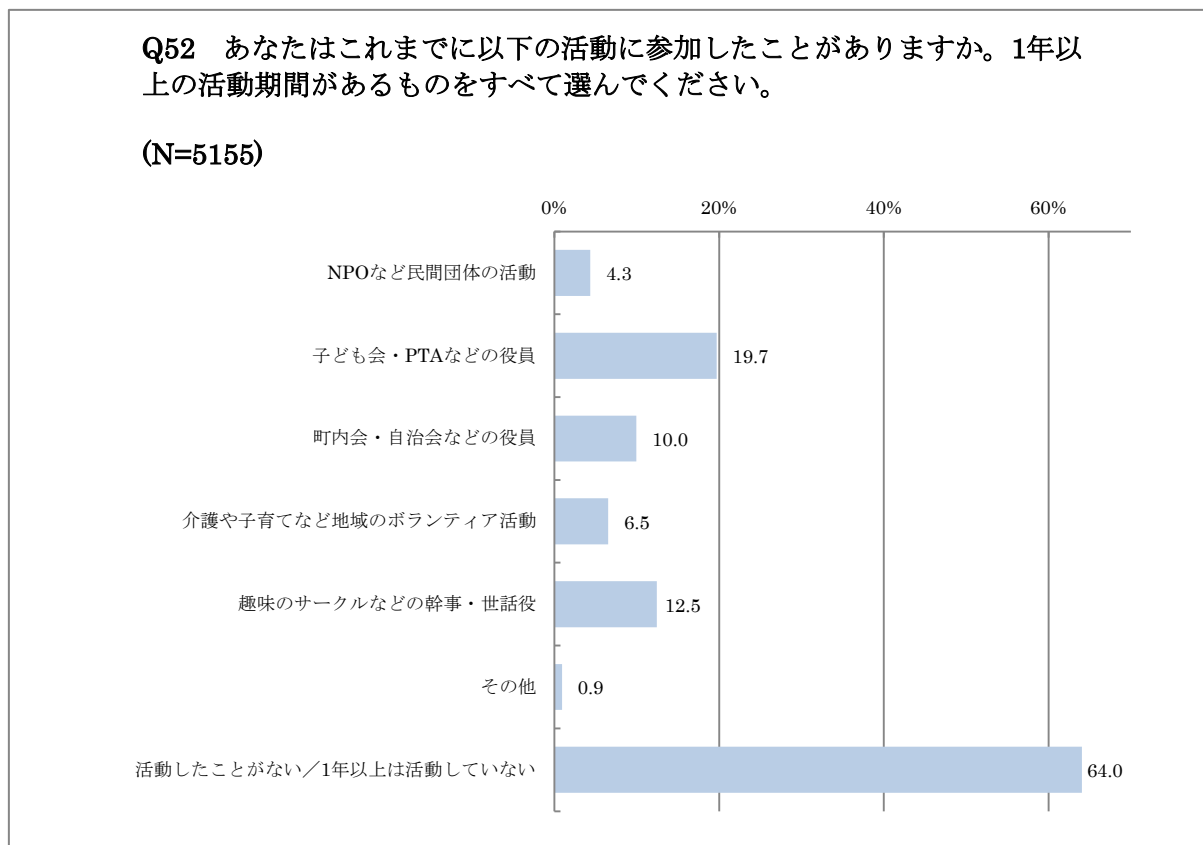


「インターネットなどによる情報収集をしている」が 56.0% ともっとも多いが、2 番目に多いのが「特に何も準備していない」の 31.2% であった。以下、「友人・知人を通しての情報収集をしている」18.9%、「雑誌や新聞などによる情報収集をしている」16.7%、「自宅で資格取得のための勉強をしている」が 13.6% となっていた。「その他」の記述の中には「人材紹介会社に登録」「求人に応募している」「資格取得のための講座をうけるために貯金中」などすでに具体的な活動をしている人もみられた。

8. 社会活動と再就職支援

調査対象者全員に就労以外の社会活動について聞いた。

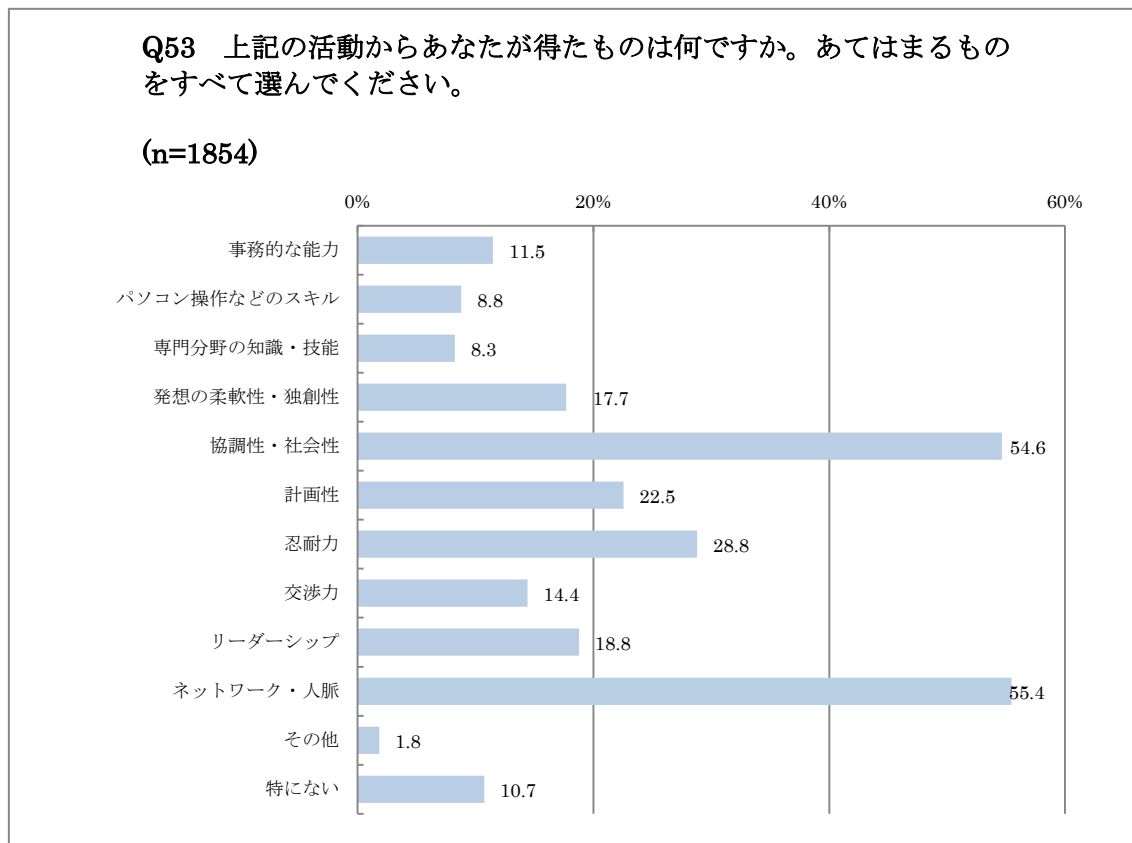
図 8-1 社会活動



「活動したことがない／1年以上は活動していない」を選んだ人がもっとも多く 64.0%であった。次に約 2 割の人が「子ども会・PTA などの役員」をしていた。以下、「趣味のサークルなどの幹事・世話役」12.5%、「町内会・自治会などの役員」10.0%、「介護や子育てなど地域のボランティア活動」6.5%、「NPO など民間団体の活動」4.3%であった。

前問で「活動したことがない／1年以上は活動していない」以外を選んだ人にその活動について聞いた。

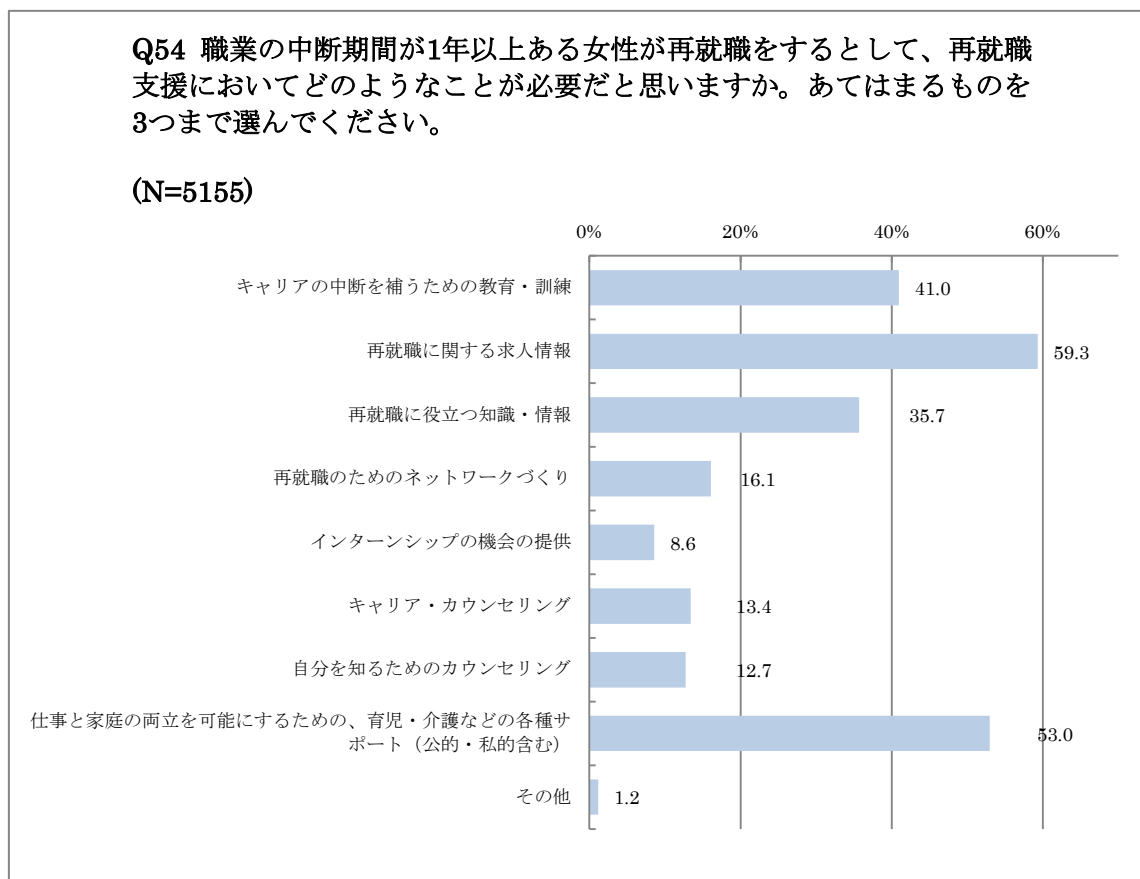
図 8-2 社会活動で得たもの



突出して多いのが「ネットワーク・人脈」の 55.4%と「協調性・社会性」の 54.6%であった。以下、「忍耐力」28.8%、「計画性」22.5%、「リーダーシップ」18.8%、「発想の柔軟性・独創性」17.7%と続いた。

調査対象者全員に女性が再就職するにあたり必要な支援（Q54）、大学に求める就職支援の条件（Q55）を尋ねた。

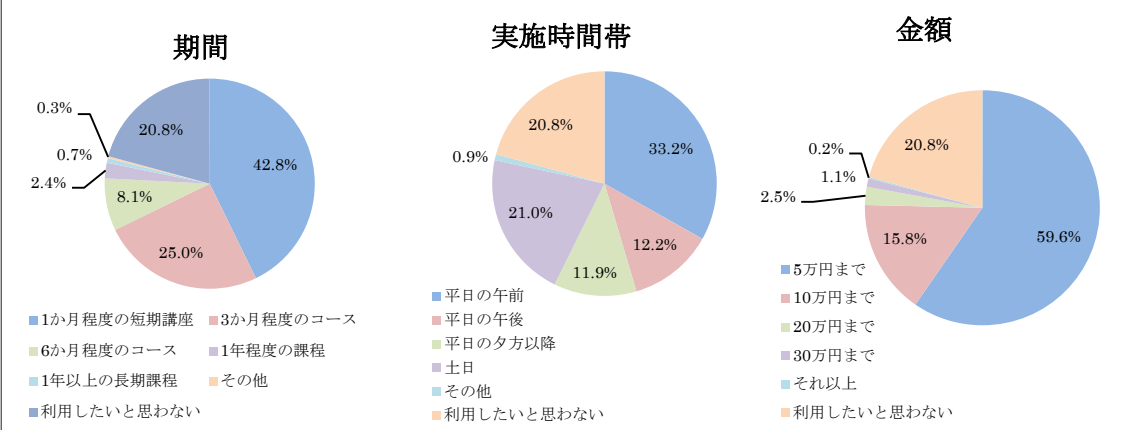
図 8-3 再就職支援



全体の6割が「再就職に関する求人情報」を必要と考えていた。次いで「仕事と家庭の両立を可能にするための、育児・介護などの各種サポート（公的・私的含む）」の53.0%、「キャリアの中断を補うための教育・訓練」41.0%、「再就職に役立つ知識・情報」35.7%となった。

図 8-4 大学の再就職支援

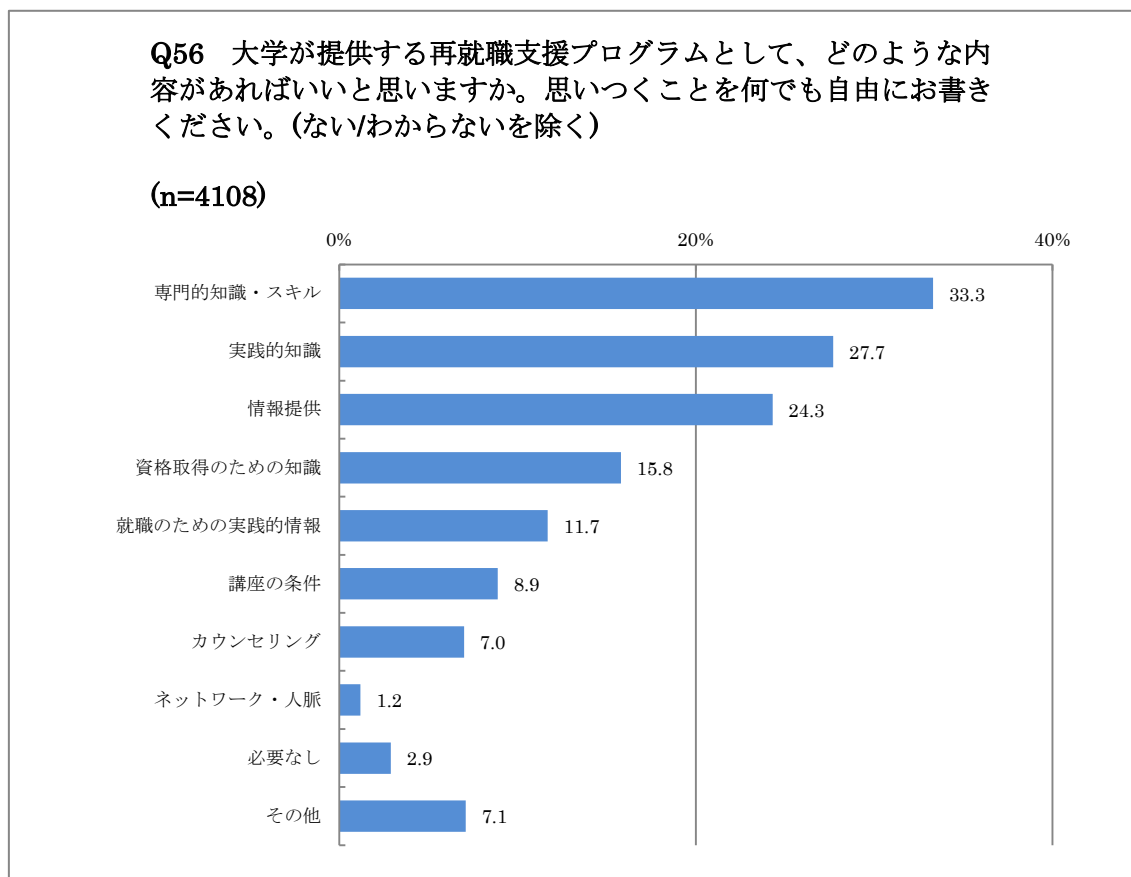
Q55 大学が再就職支援プログラムを提供するとして、どのような条件なら、あなたは利用したいと思いますか。各項目であてはまるものを1つ選んでください。
(N=5155)



大学が女性の再就職を支援するプログラムを提供するとした場合、利用したいと思う期間、実施時間帯、金額についてそれぞれ聞いた。期間については「1 か月程度の短期講座」42.8%、時間帯は「平日の午前」33.2%、金額は「5 万円まで」59.6%がもっとも多い結果となった。

「利用したいと思わない」人は全体の 20.8%であった。

図 8-5 大学の再就職支援(自由記述)



大学に対して再就職のためにどのような支援を期待するか、自由に記述してもらい内容を整理した。最も多い順に、「専門的知識・スキル」33.3%、「実践的知識」27.7%、「情報提供」24.3%であったが、大学の支援を期待しない人も3%程度いた。

(コーディングについては、資料2を参照。)

9. 家族状況

本章では、調査対象者の婚姻状況、子ども、年収などをみた。

まず、調査対象者全員に婚姻状況について聞いた。

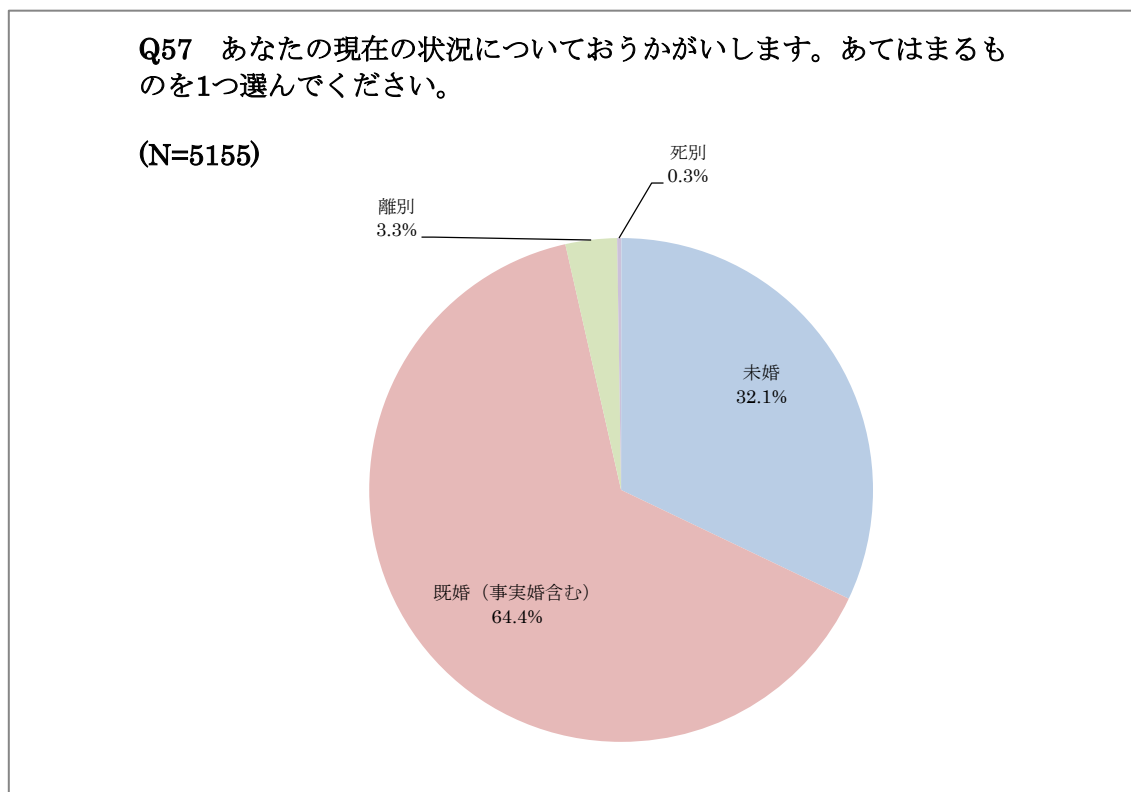
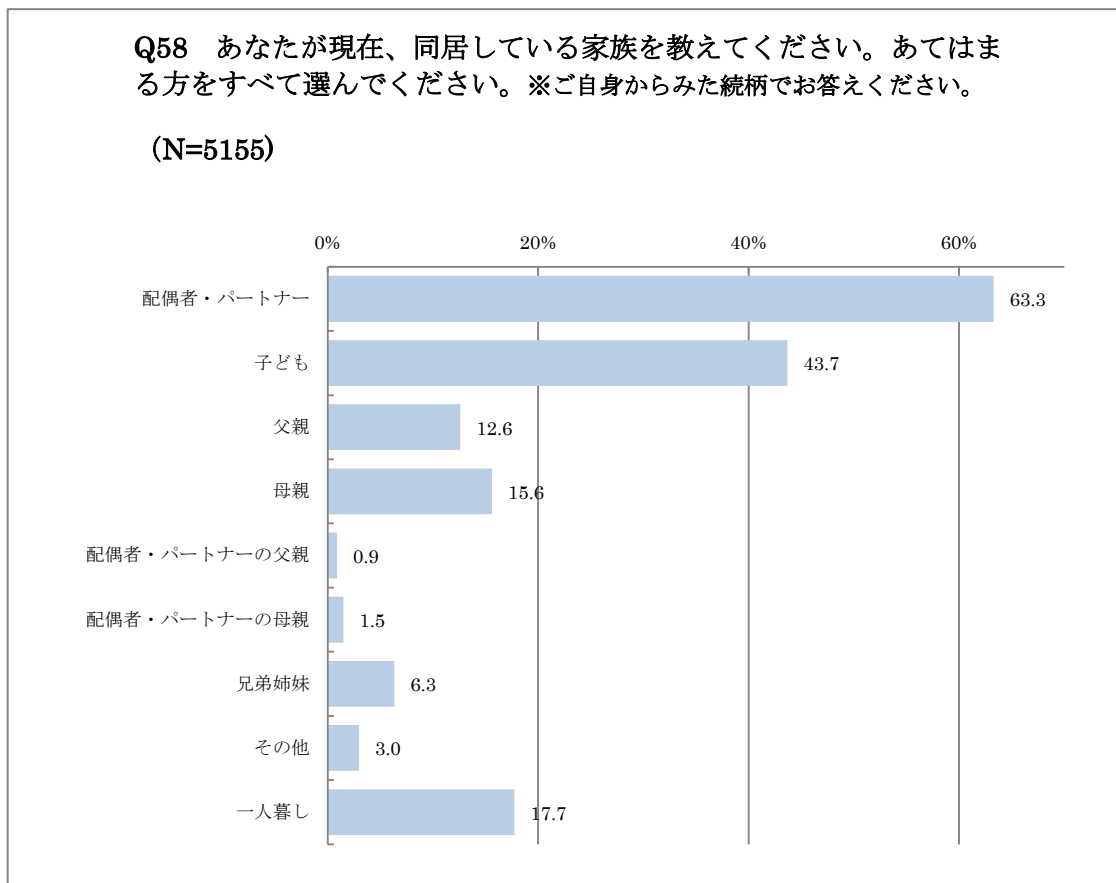


図 9-1 婚姻状況

調査対象者の 65%近くが「既婚（事実婚含む）」であり、「未婚」が 32.1%、「離別」3.3%、「死別」0.3%であった。

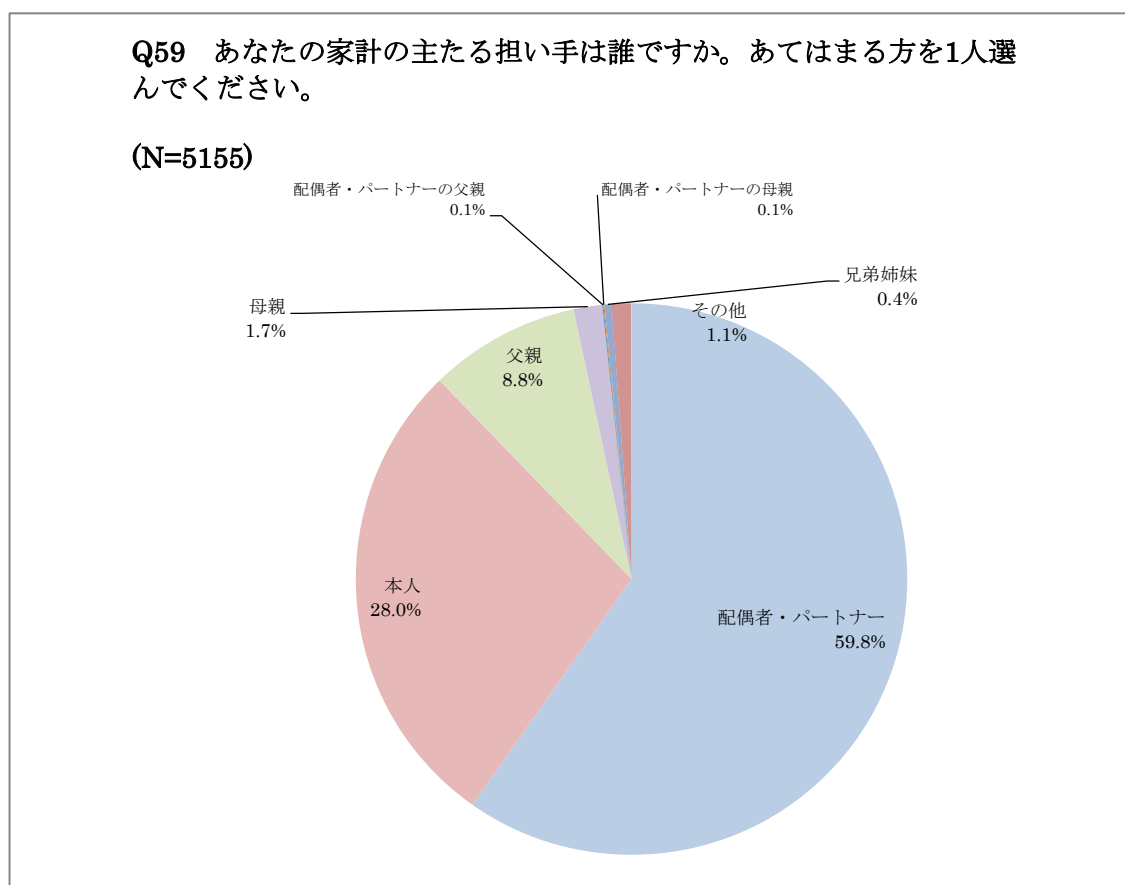
次に、調査対象者全員に同居している人との関係（Q58）、家計（Q59）について聞いた。

図 9-2 同居者



対象者の 63.3%が「配偶者・パートナー」と同居しており、「子ども」と同居は 43.7%であった。以下、「一人暮らし」17.7%、「母親」15.6%、「父親」12.6%となっていた。

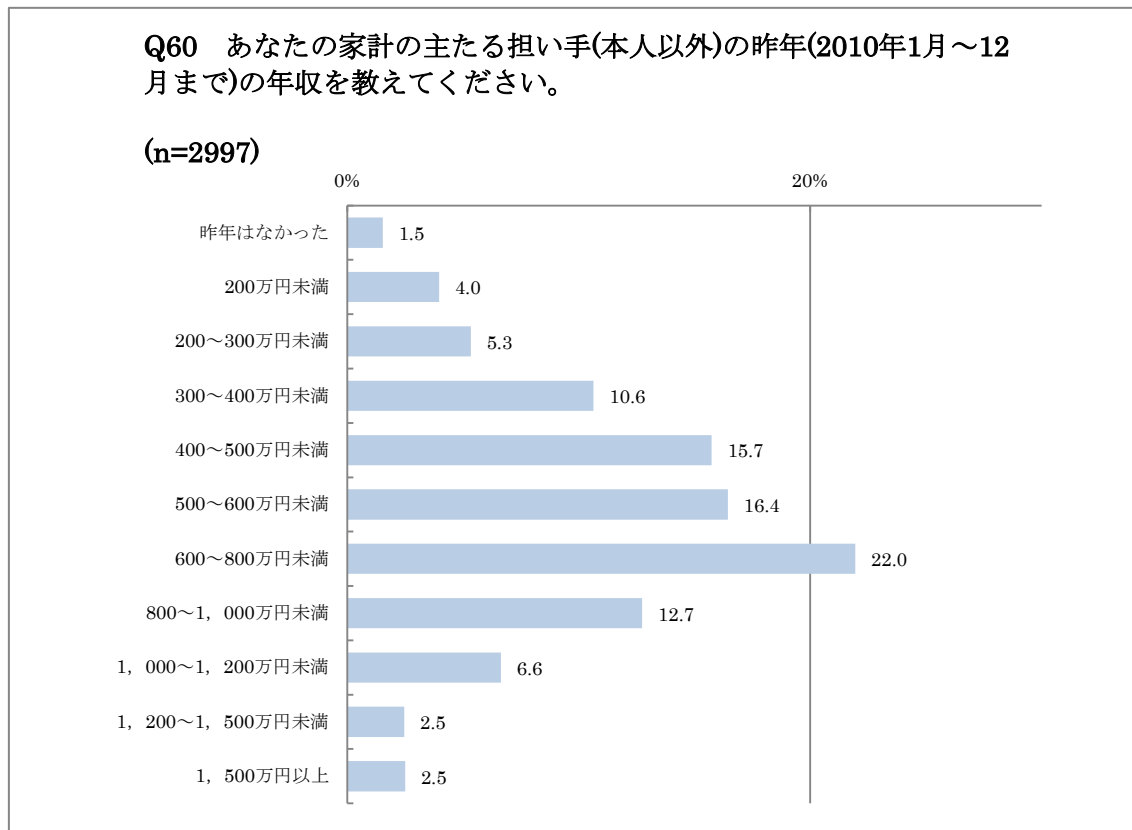
図 9-3 家計の主たる担い手



6割近くの人が「配偶者・パートナー」が家計の主たる担い手と回答していた。以下、「本人」28.0%、「父親」8.8%となった。「その他」の回答で最も多いものが「配偶者と折半」「同棲相手と半々」であった。

前問「家計の主たる担い手」の具体的な昨年の年収を聞いた。

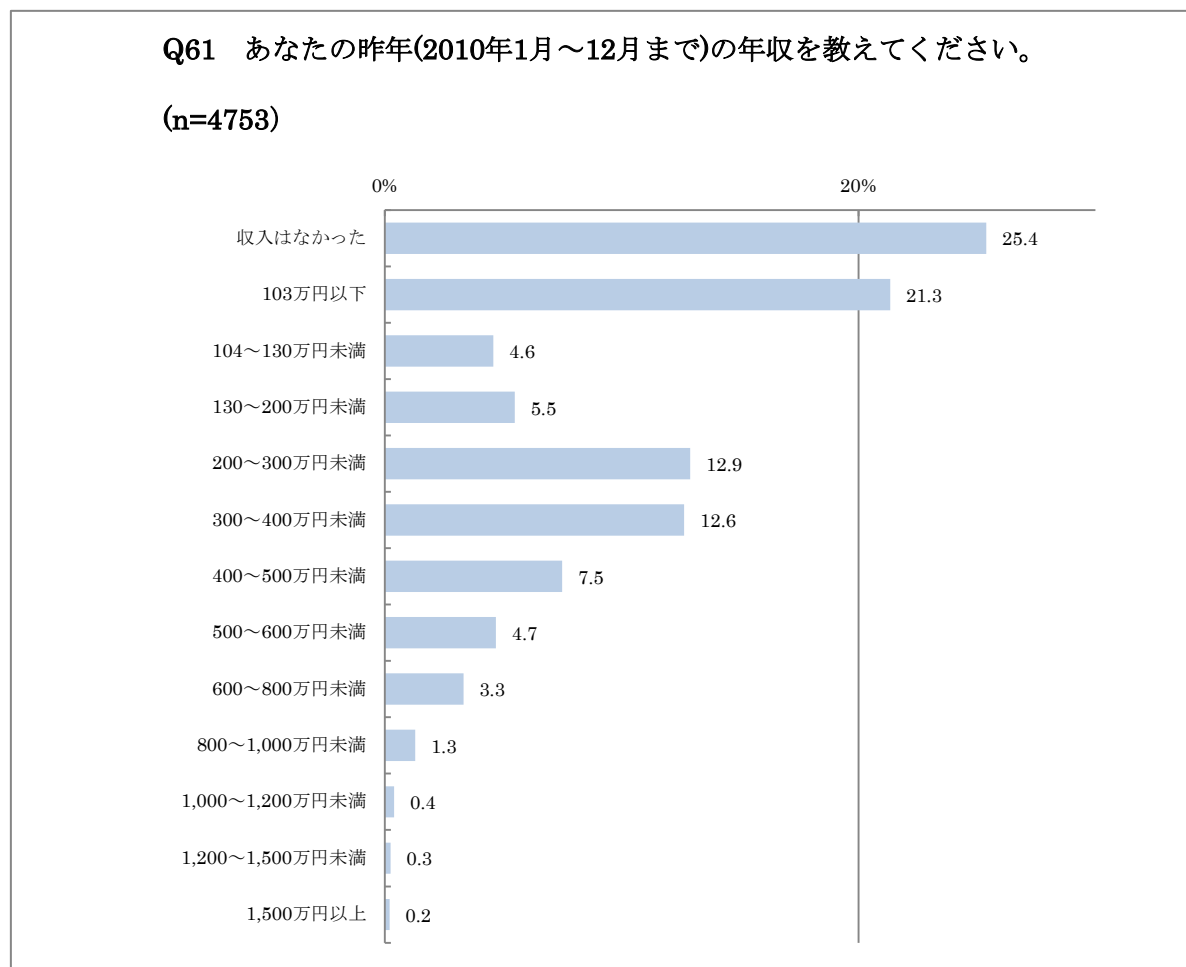
図 9-4 家計の主たる担い手（本人以外）の年収（わからない・答えたくないを除く）



「600～800 万円未満」が 22.0%と最も多く、以下「500～600 万円未満」16.4%、「400～500 万円未満」15.7%、「800～1,000 万円未満」12.7%、「300～400 万円未満」10.6%となっていた。1,000 万円以上が全体の 11.6%いる反面、「200 万円未満」が 4.0%、「昨年はなかった」が 1.5%あった。

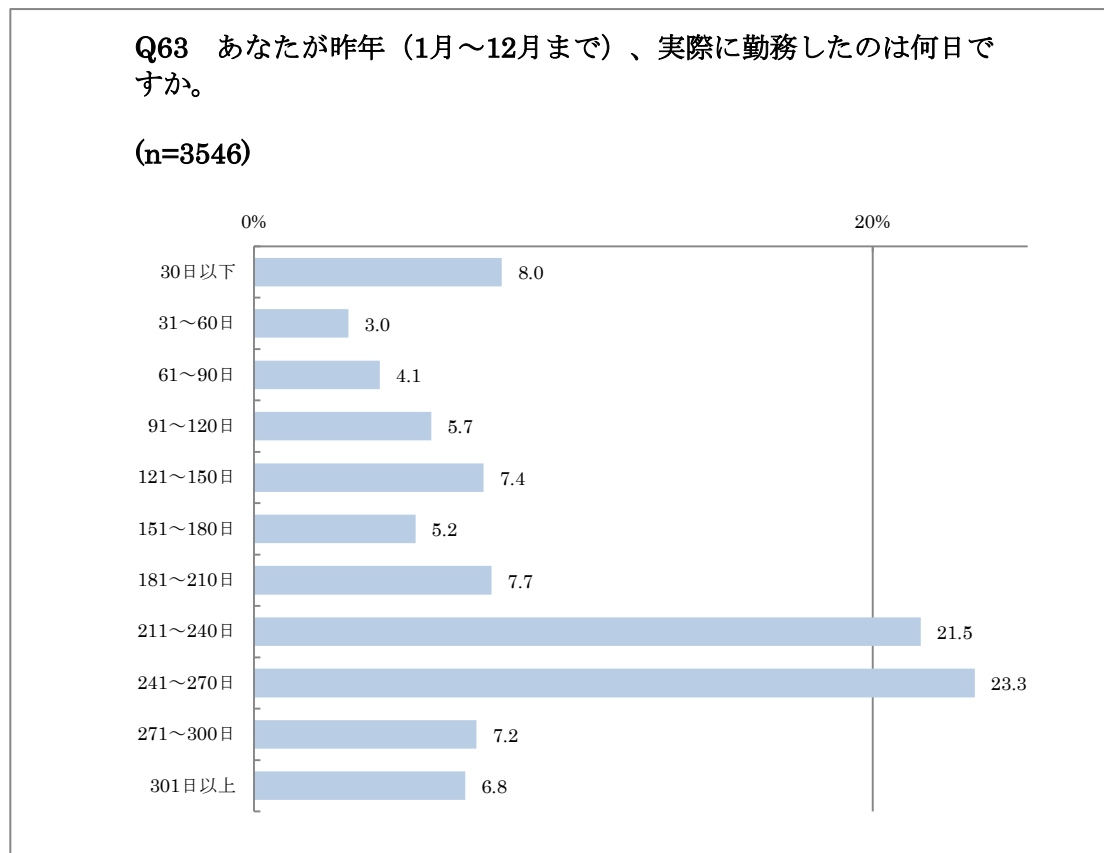
調査対象者の昨年の年収は以下の通りである。全対象者から「わからない・答えたくない」を除いた4753人について示した。

図 9-5 本人の年収（わからない・答えたくないを除く）



もっとも多いのが「収入はなかった」で 25.4%と 4 分の 1 近くを占めた。次いで「103 万円以下」が 21.3%、この 2 つで 46.7%と半数近くを占めている。以下、「200～300 万円未満」12.9%、「300～400 万円未満」12.6%となっていた。

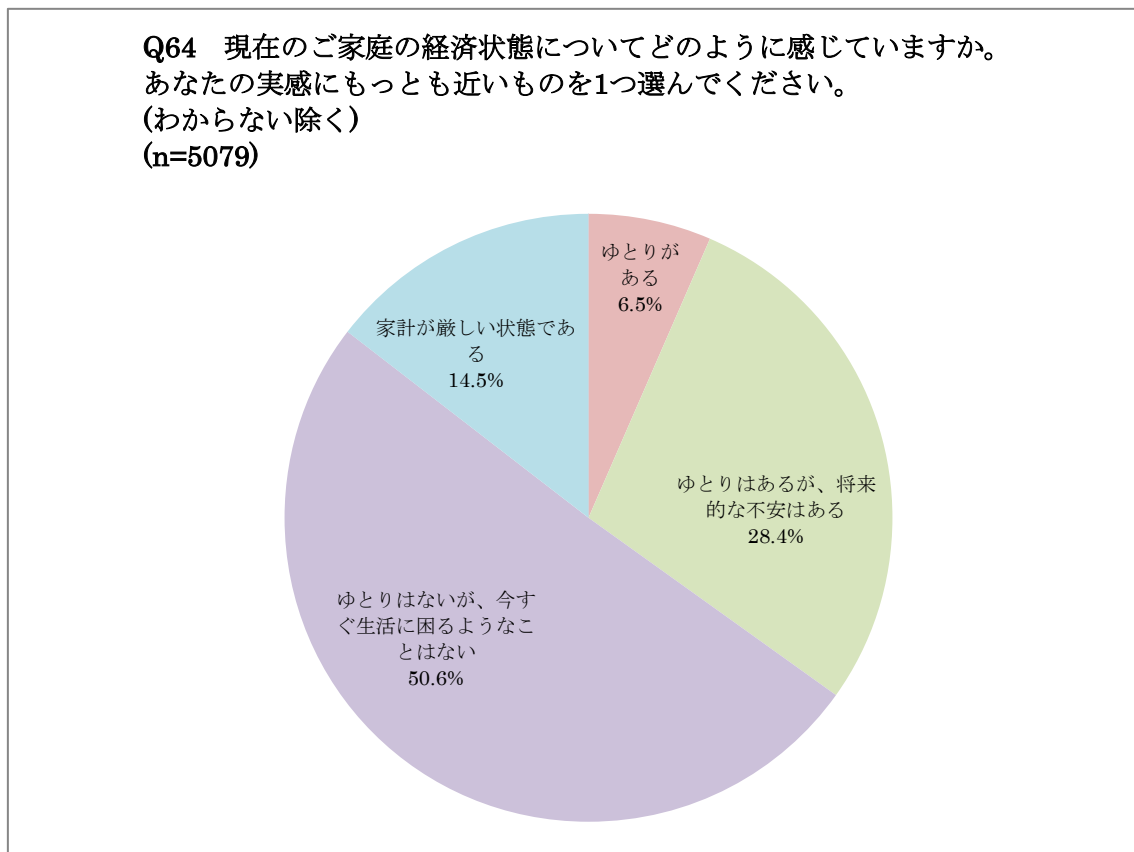
図 9-6 年間の勤務日数



勤務日(昨年)でもっとも多いのは、「241～270日」で23.3%、次いで「211～240日」の21.5%となった。「30日以下」は8.0%となった。

対象者全員に、現在の家庭の経済状態について聞いた。

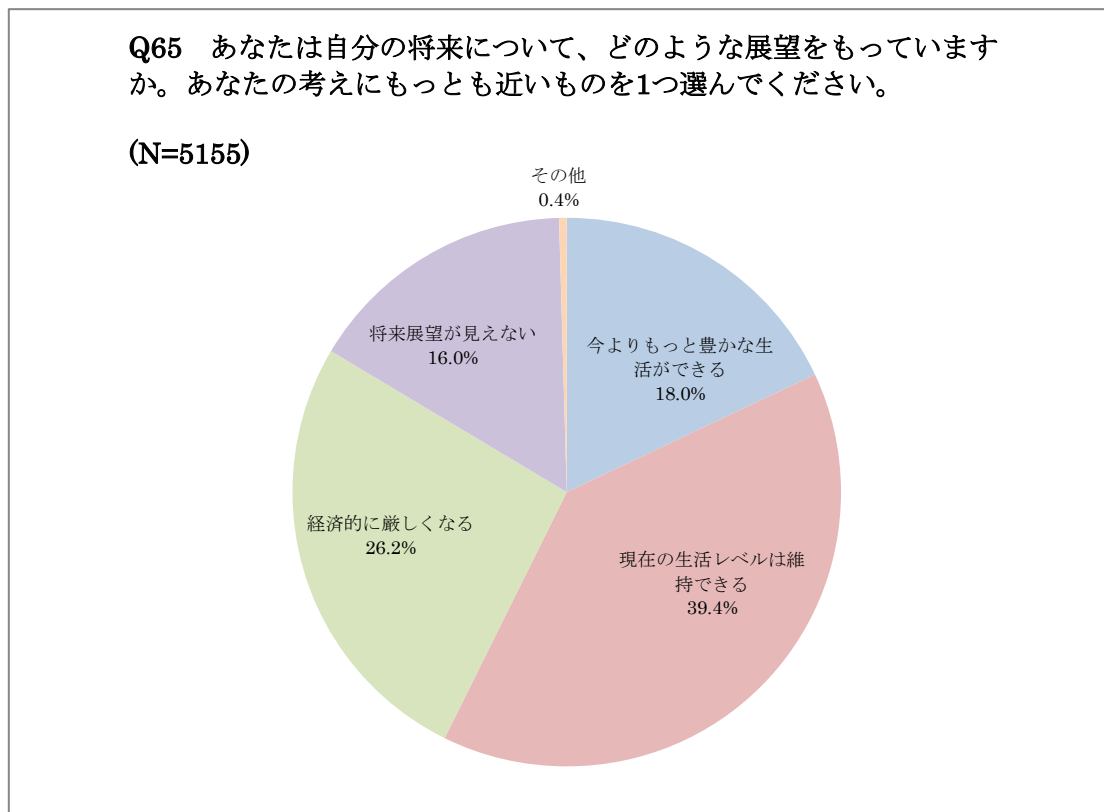
図 9-7 家庭の経済状況（わからないを除く）



「ゆとりはないが、今すぐ生活に困るようなことはない」が 50.6%ともっとも多く半数近くに及んだ。次いで「ゆとりはあるが、将来的な不安はある」が 28.4%であった。「家計が厳しい状態である」は 14.5%となり、反面「ゆとりがある」と回答した人は 6.5%にとどまった。

対象者全員に自分の将来についての展望を聞いた。

図 9-8 将来展望

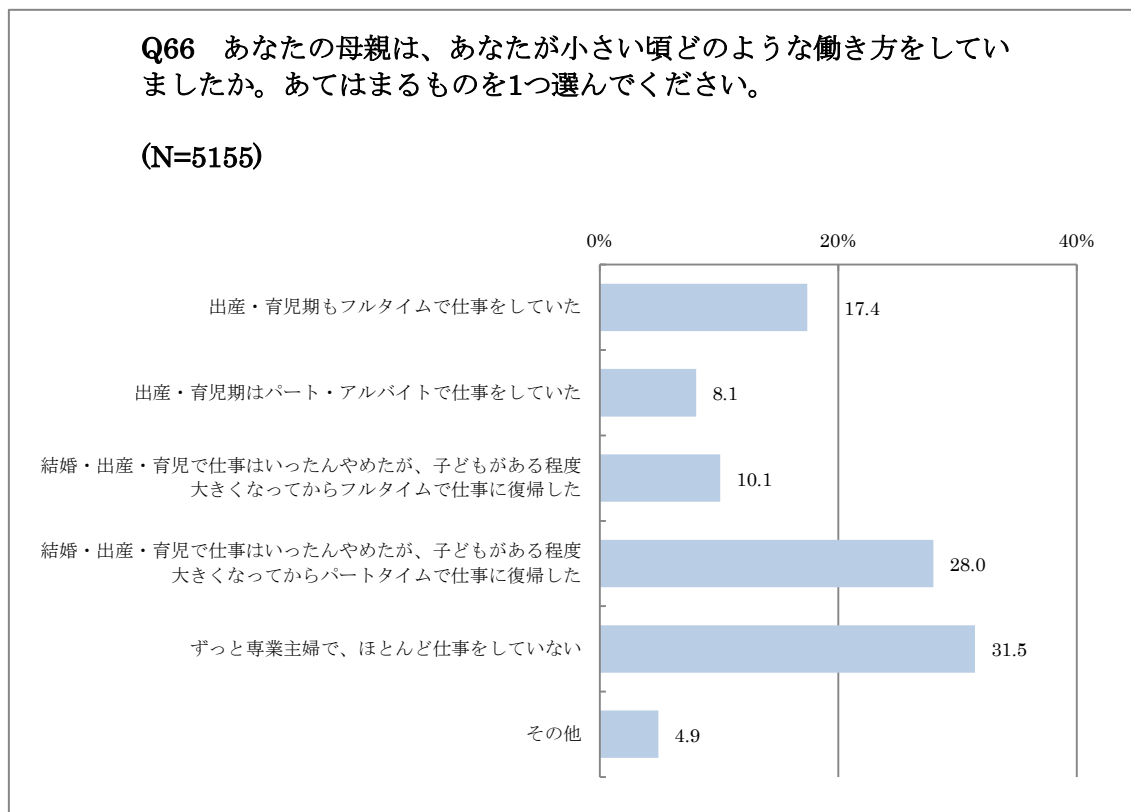


現状維持（「現在の生活レベルは維持できる」）を選んだ人がもっとも多く約4割であった。次いで「経済的に厳しくなる」が26.2%、「今よりもっと豊かな生活ができる」が18.0%であった。

「将来展望が見えない」と答えた人は16.0%であった。

全員を対象に、母親の働き方について聞いた。

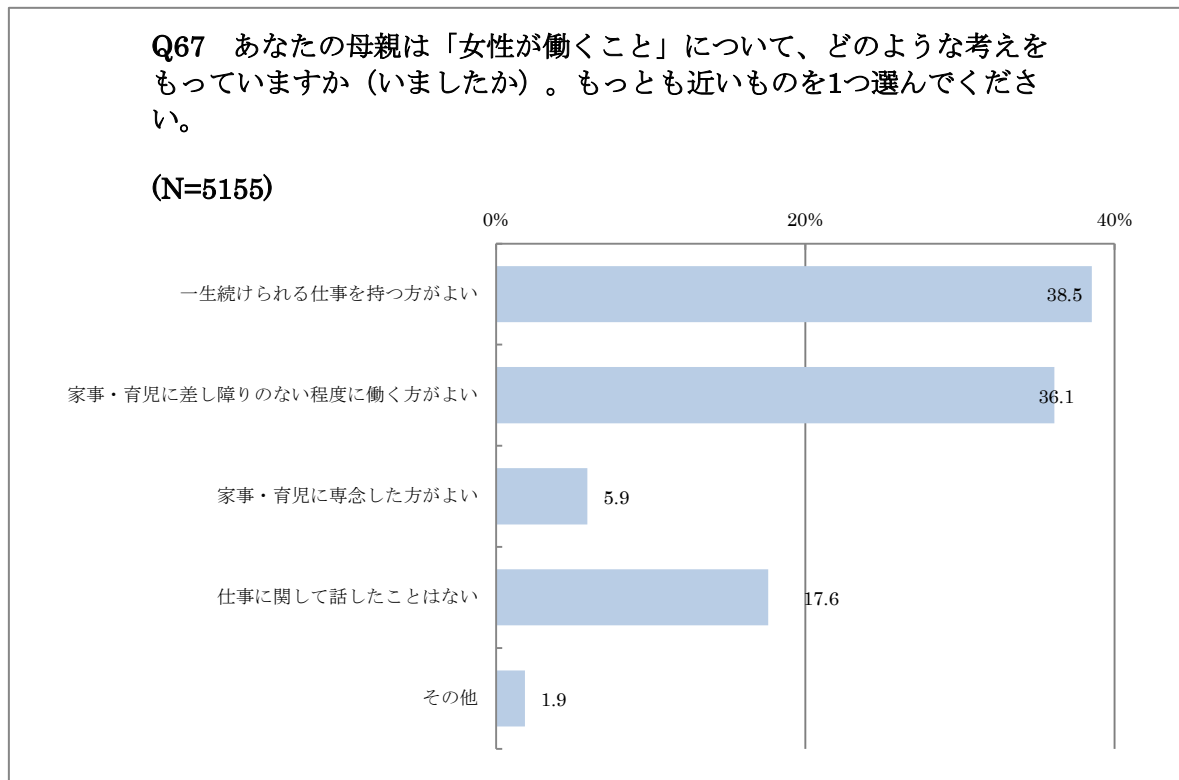
図 9-9 母親の働き方



もっとも多いのは、「ずっと専業主婦で、ほとんど仕事をしていない」が 31.5%、次いで「結婚・出産・育児で仕事はいったんやめたが、子どもがある程度大きくなってからパートタイムで仕事に復帰した」28.0%、「出産・育児期もフルタイムで仕事をしていた」17.4%となった。

全員を対象に、母親が「女性が働くこと」についてどのような考えをもっているか(いたか)を聞いた。

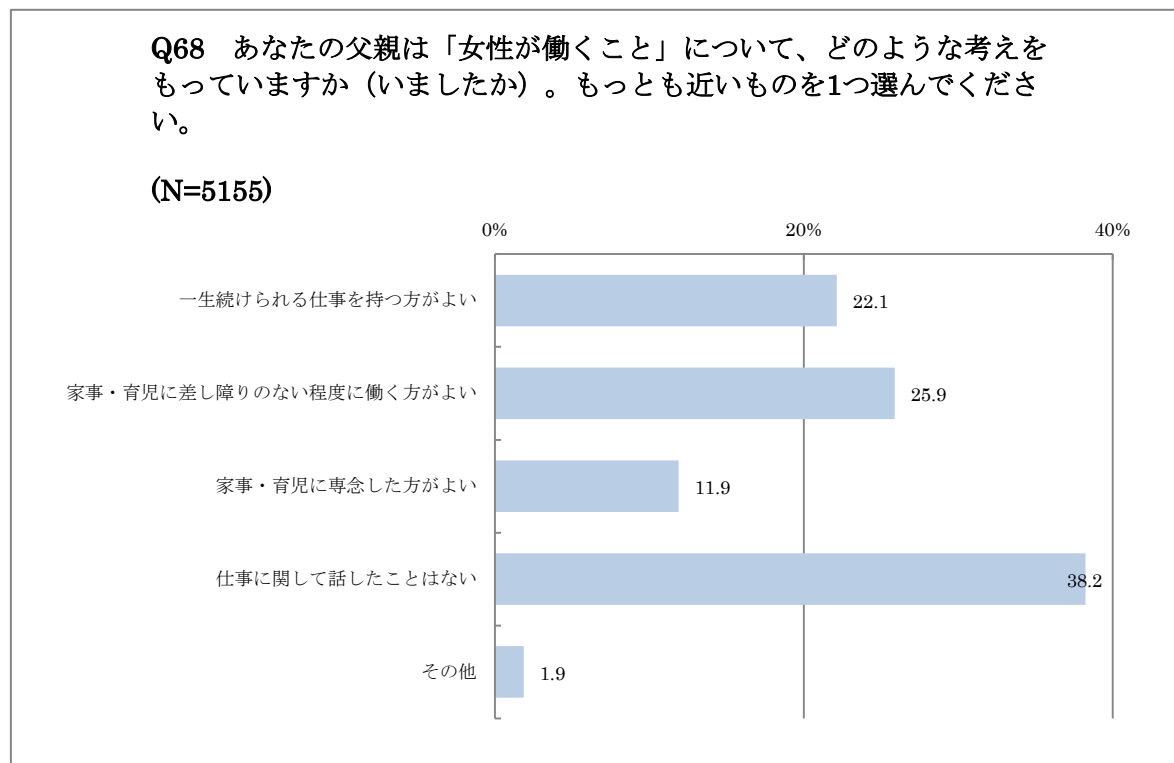
図 9-10 母親の「女性が働くこと」についての考え



「一生続けられる仕事を持つ方がよい」が 38.5%と最も多く、次に「家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい」 36.1%、「仕事に関して話したことはない」 17.6%と続いた。

全員を対象に、父親の「女性が働くこと」についての考えを聞いた。

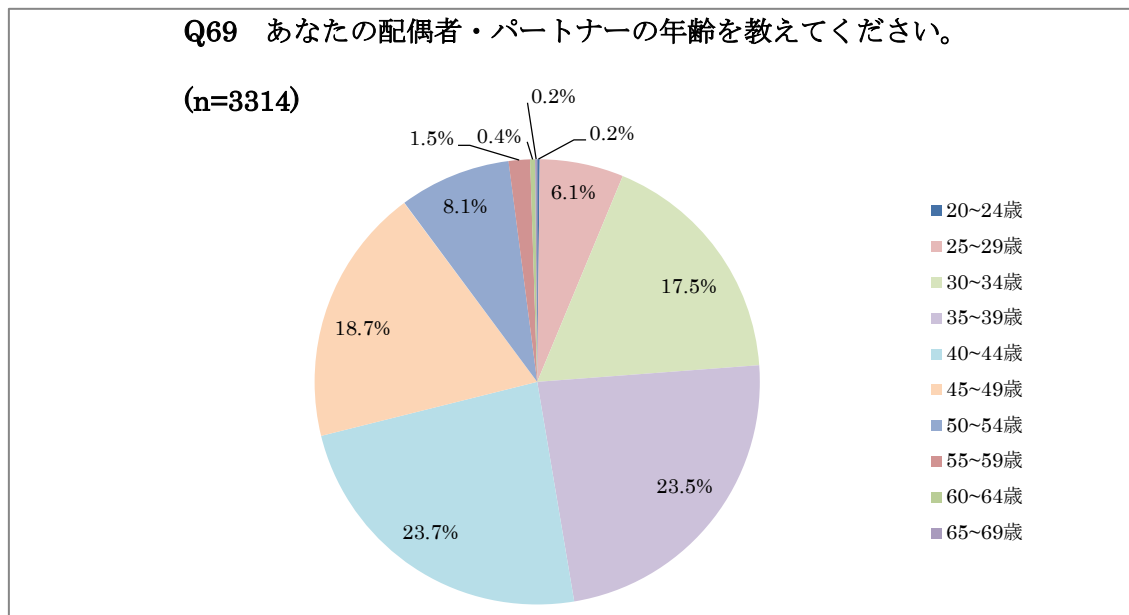
図 9-11 父親の「女性が働くこと」についての考え



もっとも多いのは、「仕事に関して話したことはない」38.2%、次いで順に「家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい」25.9%、「一生続けられる仕事を持つ方がよい」22.1%、「家事・育児に専念した方がよい」11.9%となった。

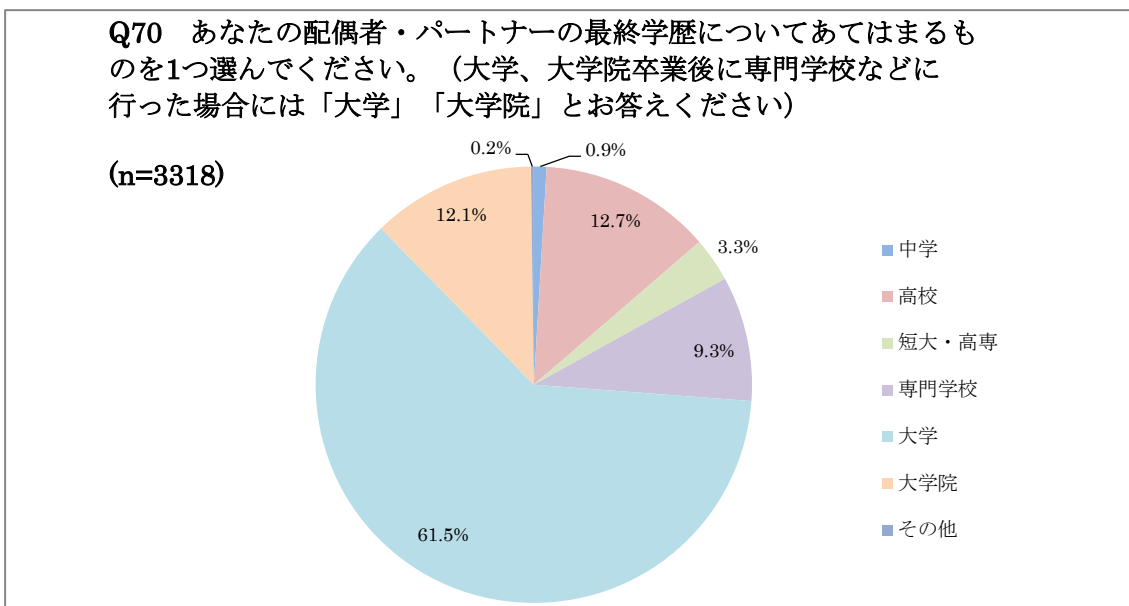
配偶者・パートナーのいる人に配偶者・パートナーについて聞いた。

図 9-12 配偶者・パートナーの年齢



配偶者・パートナーの年齢は、もっとも低い年齢が 22 歳、もっとも高い年齢は 67 歳であった。

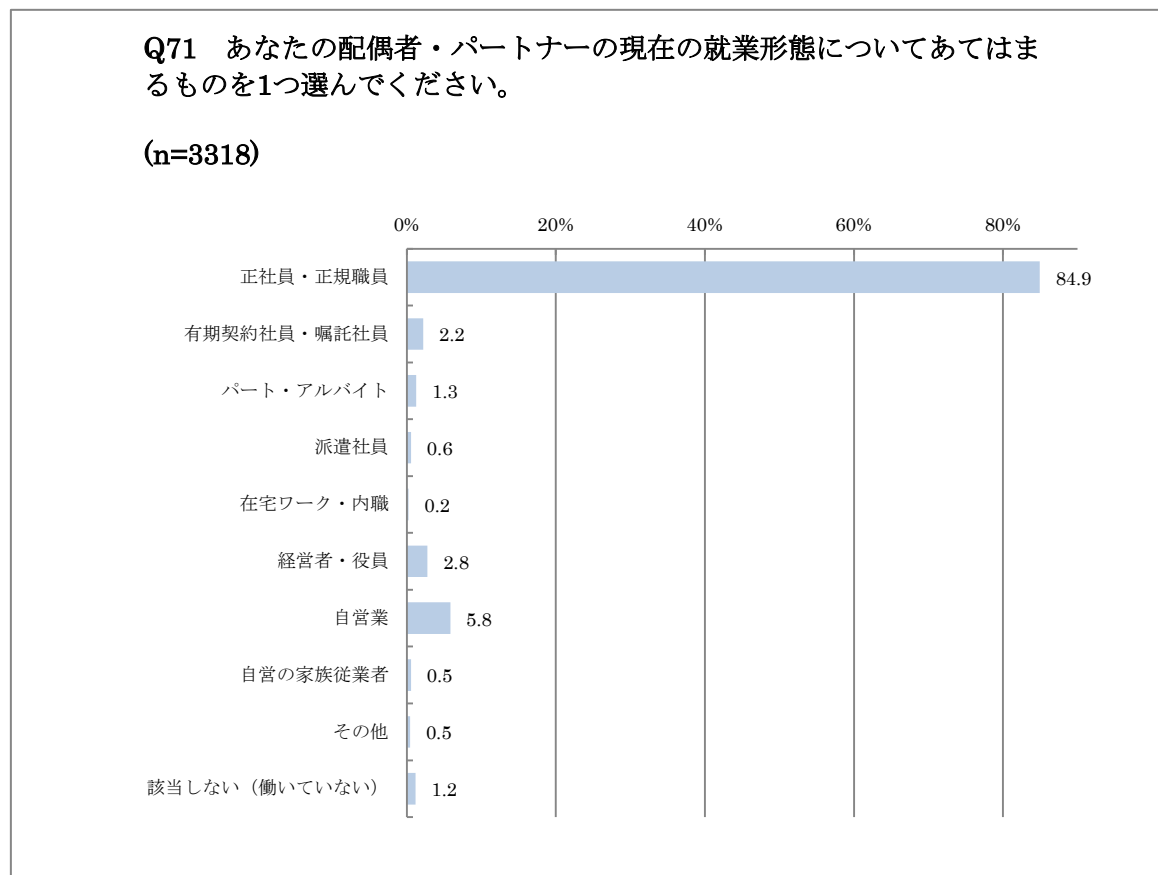
図 9-13 配偶者・パートナーの最終学歴



61.5%の人の最終学歴が「大学」で、以下「高校」12.7%、「大学院」12.1%、「専門学校」9.3%であった。

配偶者・パートナーのいる人を対象に、配偶者・パートナーの現在の就業形態を聞いた。

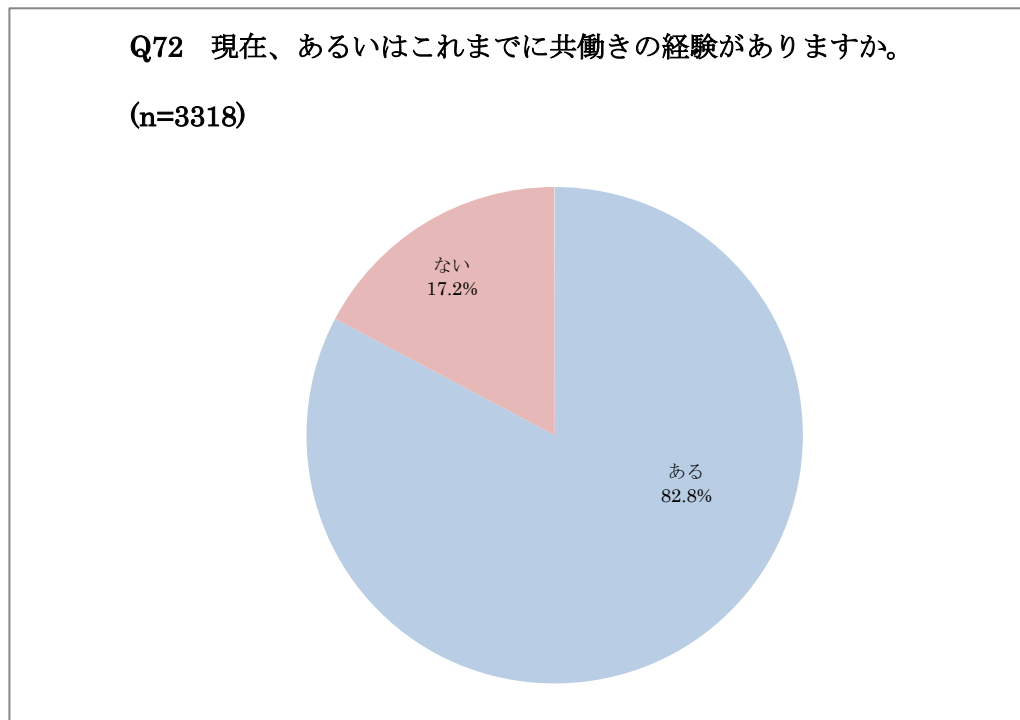
図 9-14 配偶者・パートナーの就業形態



「正社員・正規職員」が 84.9%となった。2 番目に多いのは「自営業」で 5.8%であった。

配偶者・パートナーのいる人を対象に、これまでの共働き経験の有無を聞いた。

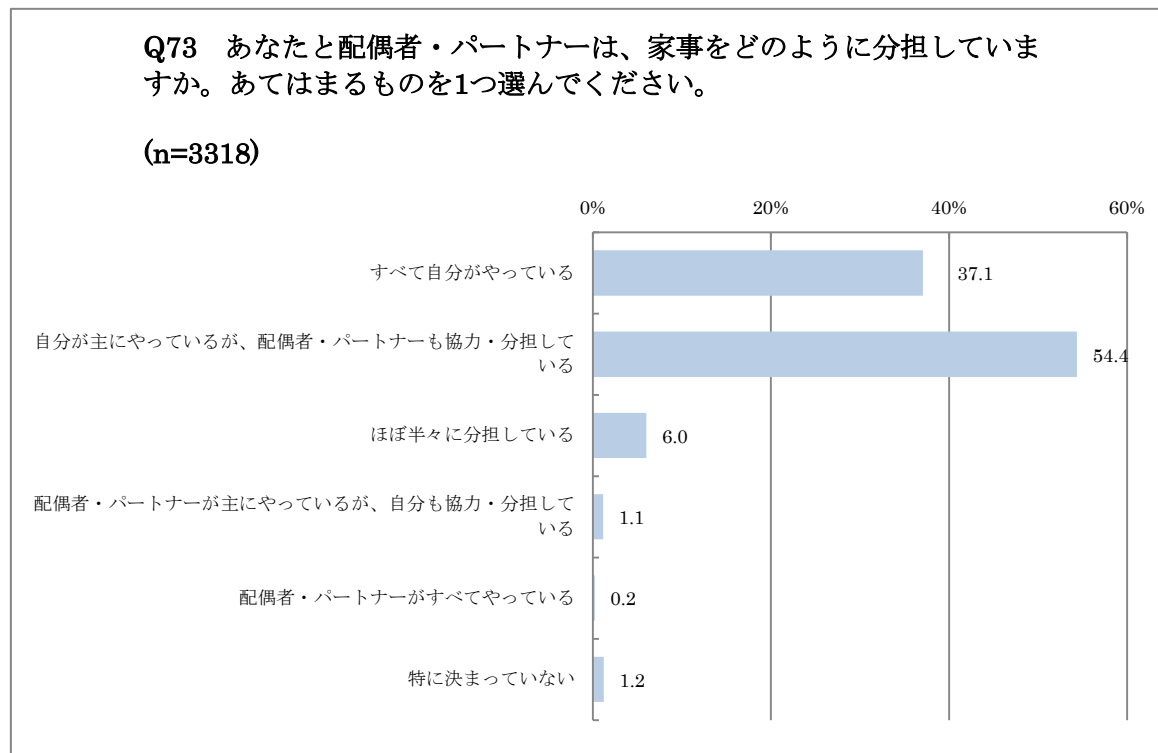
図 9-15 共働き経験



共働き経験の「ある」人は 82.8%で、「ない」と答えた人は 17.2%であった。

配偶者・パートナーのいる人を対象に配偶者・パートナーとの家事分担について聞いた。

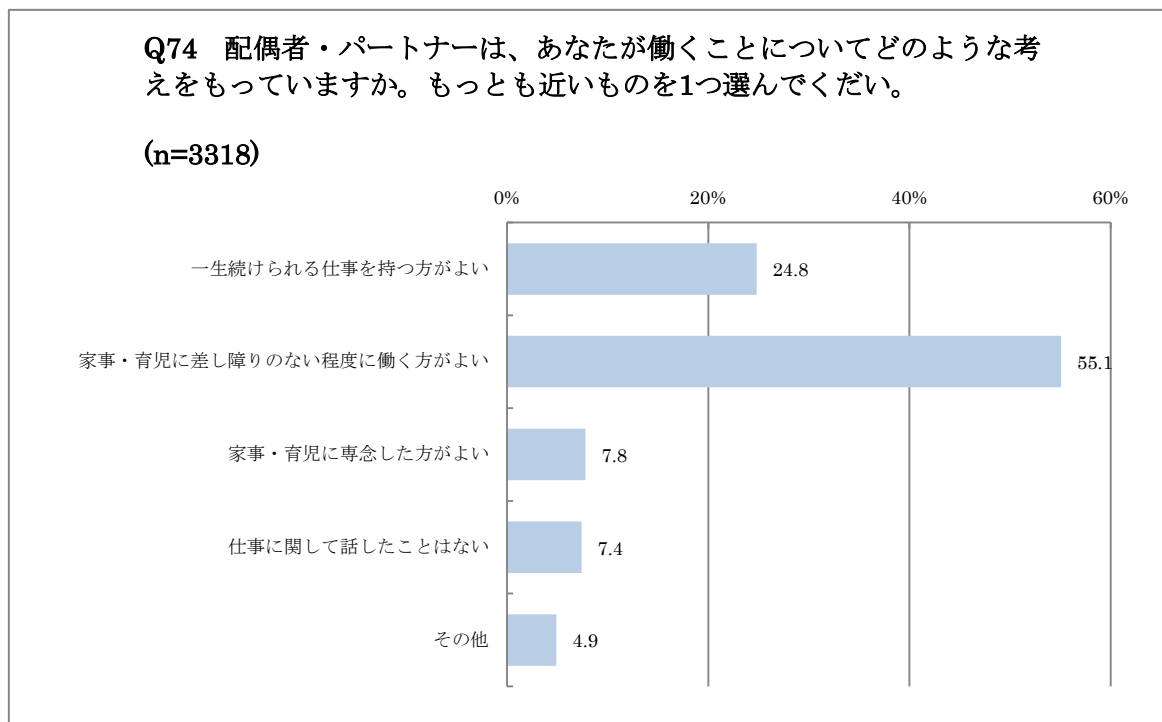
図 9-16 家事分担



家事分担において、もっとも多いのは、「自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している」で 54.4%と過半数を占め、次いで「すべて自分がやっている」が 37.1%であった。

配偶者・パートナーのいる人を対象に、配偶者・パートナーが働くことについてどのような考えを持っているかを聞いた。

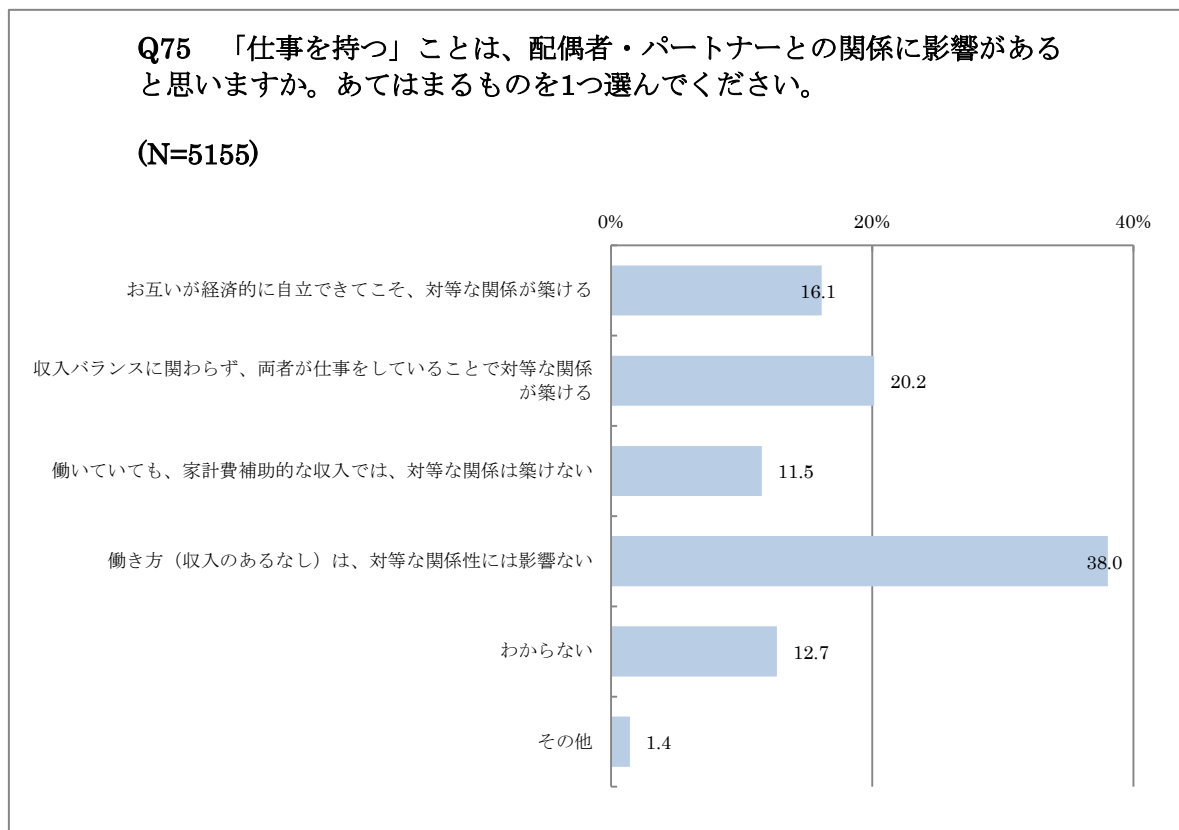
図 9-17 配偶者・パートナーの「妻が働くこと」についての意識



もっとも多いのは、「家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい」で 55.1%と過半数を占めた。次いで、「一生続けられる仕事を持つ方がよい」 24.8%であった。「家事・育児に専念した方がよい」は 7.8%、「仕事に関して話したことはない」が 7.4%であった。

全員を対象に、「仕事を持つ」ことは、配偶者・パートナーとの関係に影響があるかを聞いた。

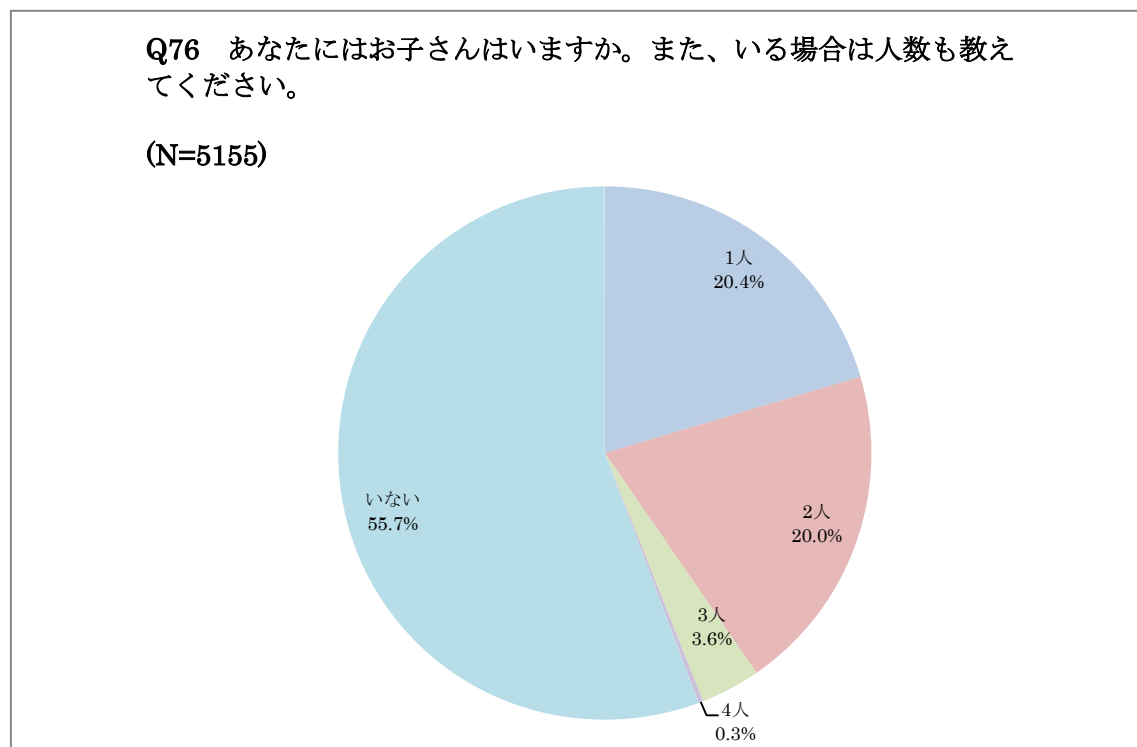
図 9-18 「対等な関係性」についての考え



もっとも多いのは、「働き方(収入のあるなし)は対等な関係性には影響ない」で 38.0%、次いで、「収入バランスに関わらず、両者が仕事をしていることで対等な関係が築ける」20.2%、「お互いが経済的に自立できてこそ、対等な関係が築ける」16.1%となった。

全員を対象に、子どもの有無という場合は人数を聞いた。

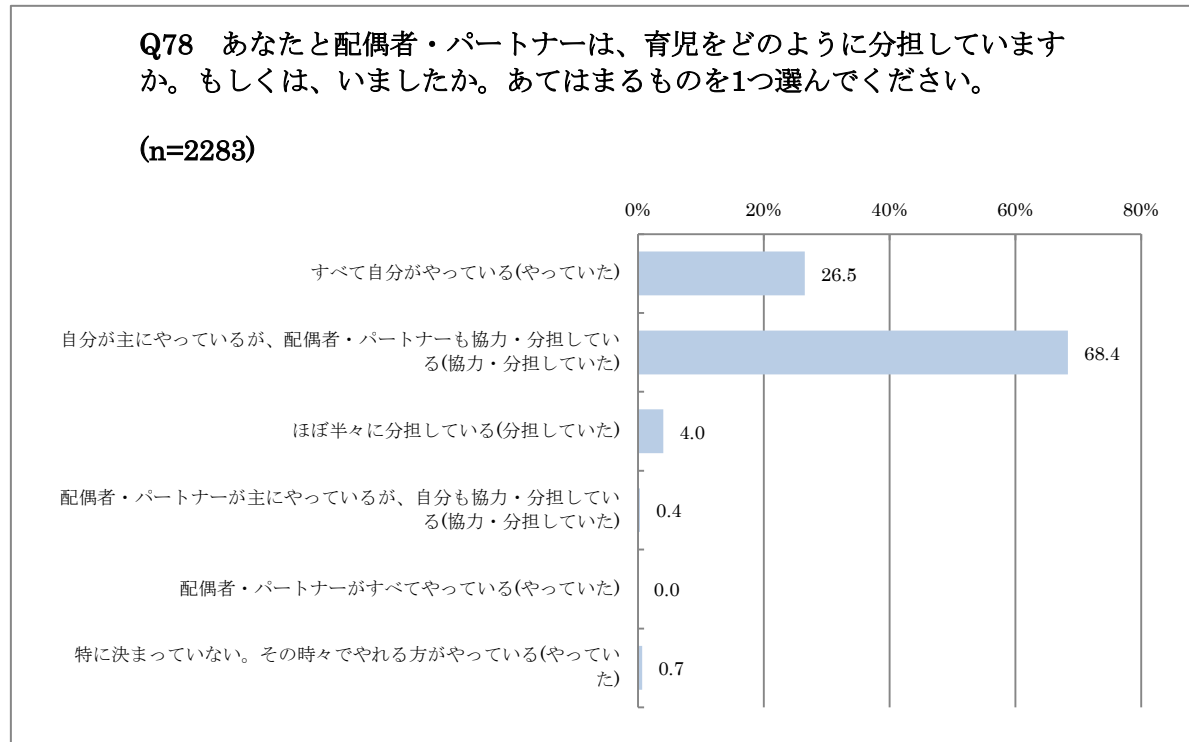
図 9-19 子どもの有無・人数



子どもについては、「いない」と回答した人がもっとも多く、55.7%と過半数に及んだ。次いで、「1人」20.4%、「2人」20.0%、「3人」3.6%となった。

配偶者・パートナーのいる人を対象に、育児の分担について聞いた。

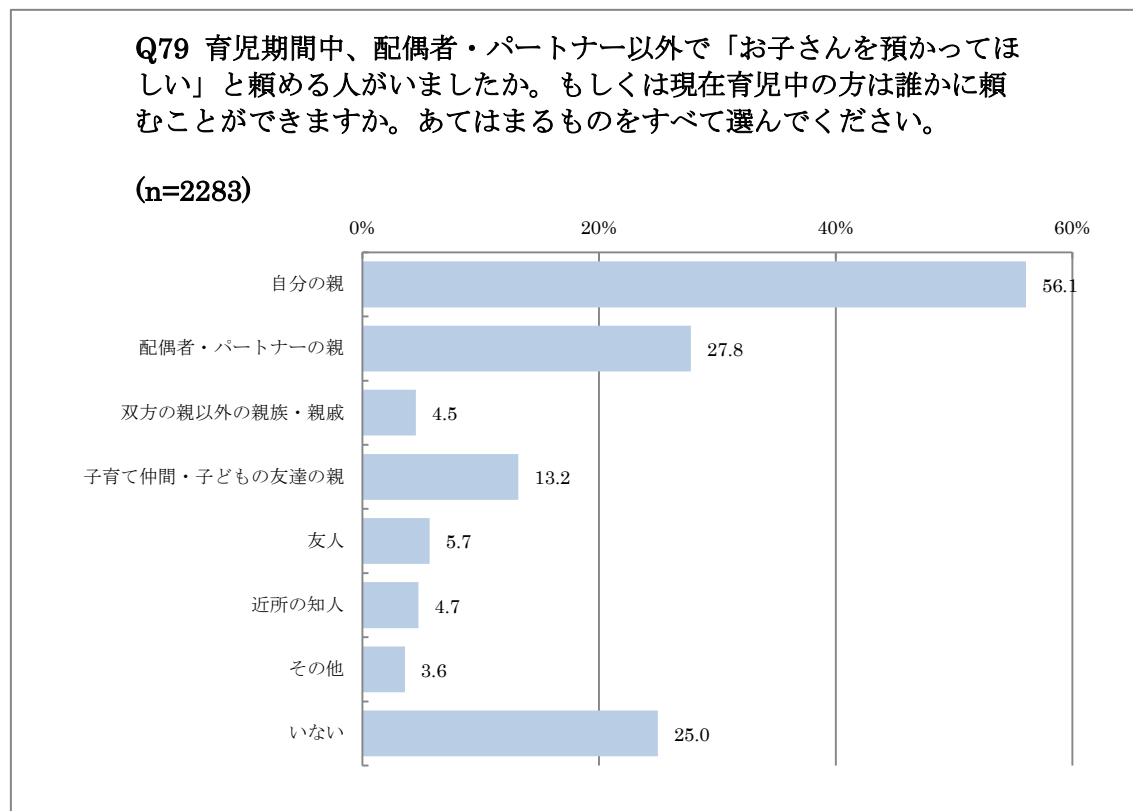
図 9-20 育児分担



育児分担において、もっとも多いのは、「自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している(協力・分担していた)」で 68.4%と約 7 割となった。次いで多いのは、「すべて自分がやっている(やっていた)」で 26.5%であった。「ほぼ半々に分担している(分担していた)」は 4.0%となった。

子どものいる人を対象に、育児期間中、配偶者・パートナー以外で子どもを預かってほしいと頼める人がいたか(育児中の場合は頼める人がいるか)を聞いた。

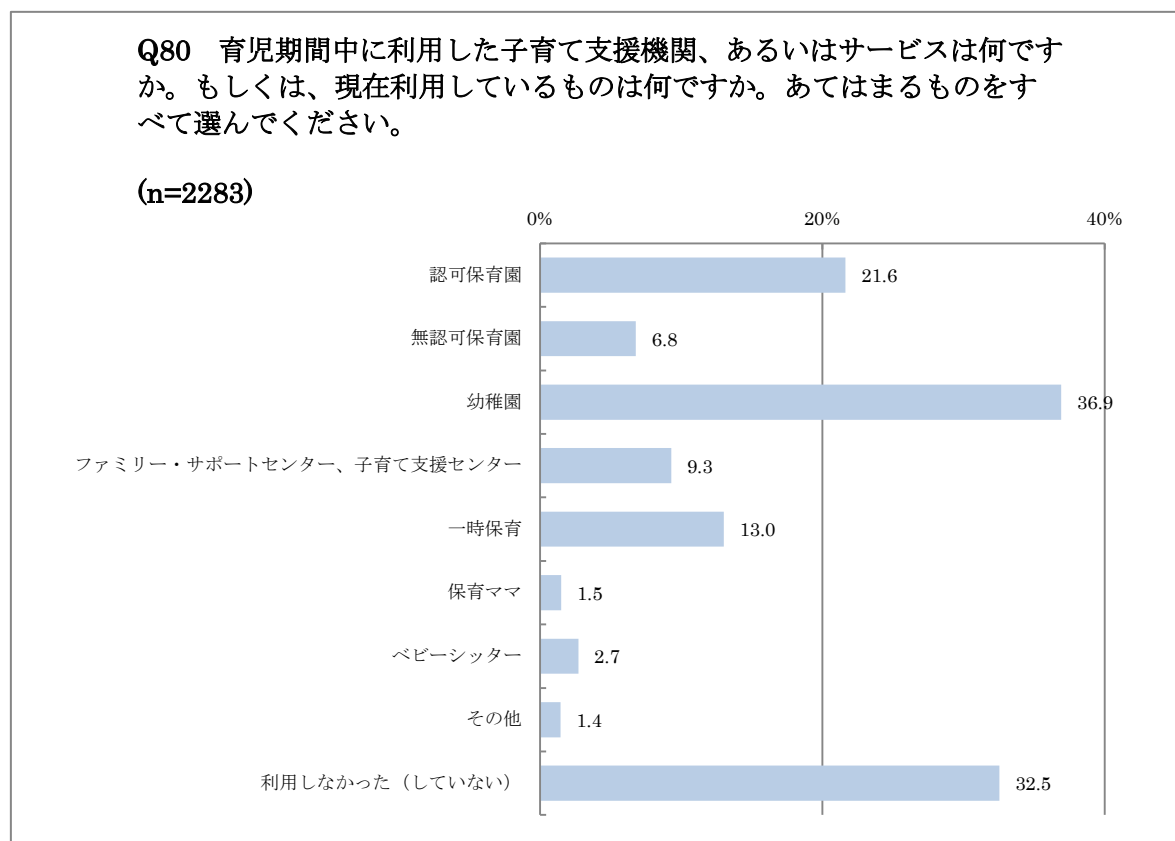
図 9-21 人的育児サポート



もっとも多いのは「自分の親」で 56.1%と過半数の人があげていた。次いで、「配偶者・パートナーの親」が 27.8%であった。また、4 分の 1 の人が「いない」と答えた。

子どものいる人を対象に、育児期間中に利用した子育て支援機関、あるいはサービス、もしくは現在利用しているものを聞いた。

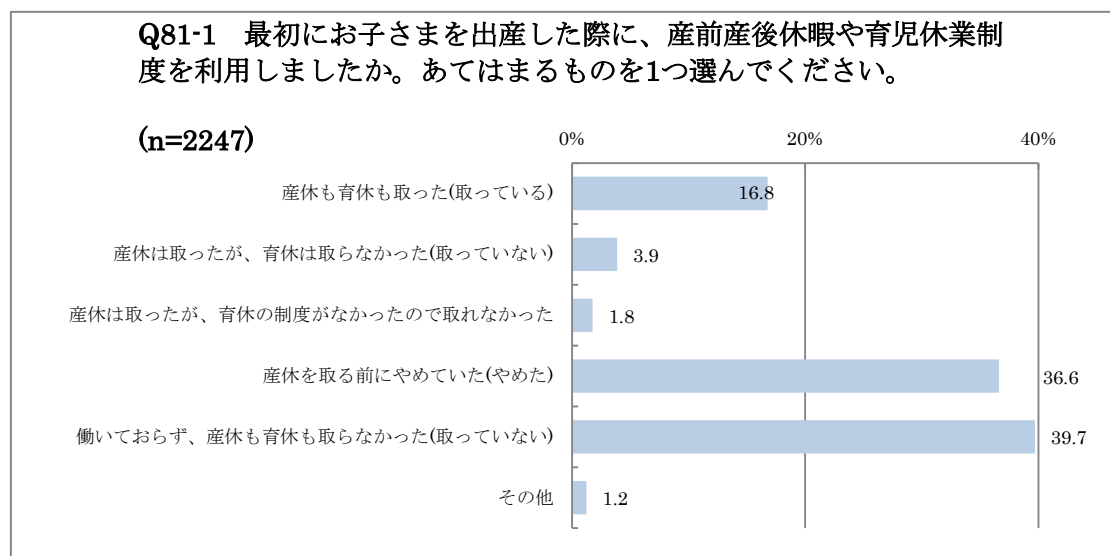
図 9-22 育児支援サービス



もっとも多いのは、「幼稚園」で 36.9%、次いで「利用していなかった(利用していない)」32.5%、「認可保育園」21.6%の順となった。

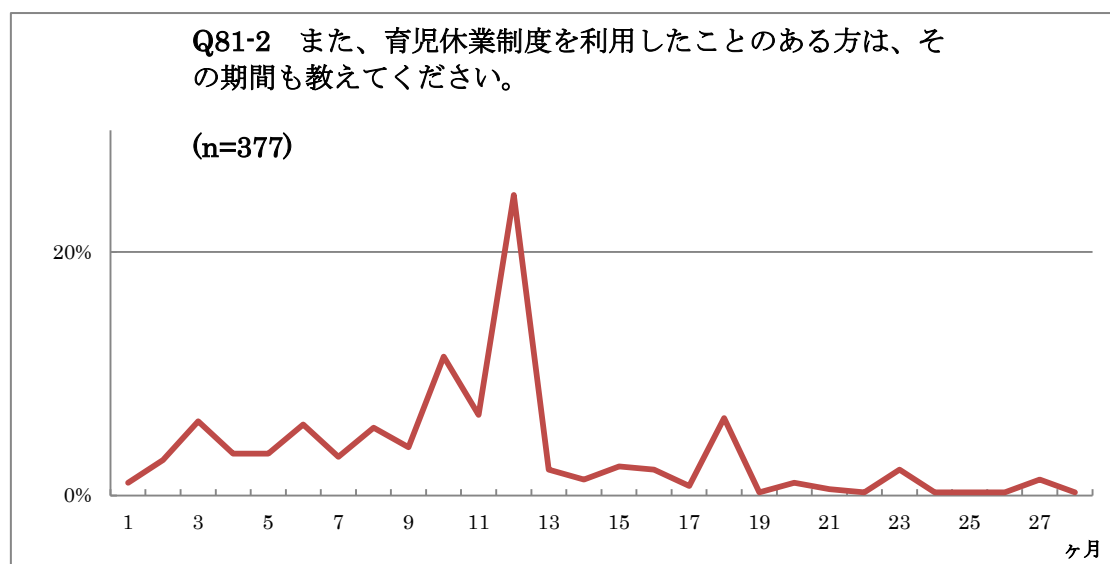
子どものいる人を対象に、最初に子どもを出産した際、産前産後休暇もしくは育児休業制度を利用したかを聞いた。

図 9-23 第1子出産時の産休・育休取得



「働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)」がもっとも多く 39.7%、次に、「産休を取る前にやめていた(やめた)」の 36.6%、「産休も育休も取った(取っている)」16.8%となった。

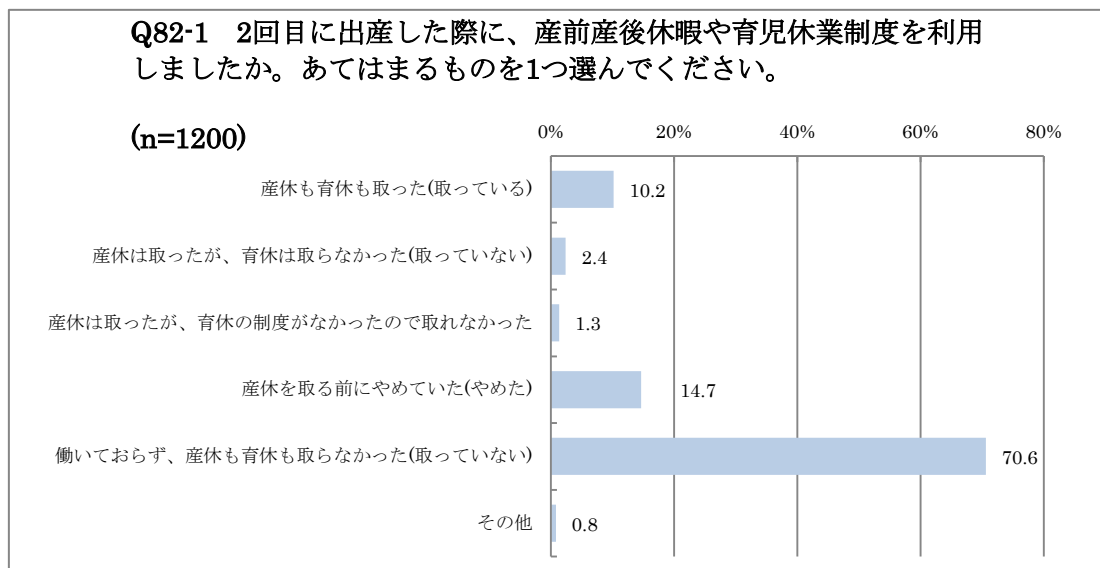
図 9-24 第1子出産時の産休・育休取得期間



第1子の育児休業取得者(377人)の取得期間は、「1年(12ヶ月)」が 24.7%、次いで、「10ヶ月」が 11.4%であった。また、1年以内の人は 78.2%であった。

2人以上の子どもがいる人を対象に、2回目に出産した際、産前産後休暇や育児休業制度を利用したかを聞いた。

図 9-25 第2子出産時の産休・育休取得



70.6%の人が「働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)」を選び、以下、「産休を取る前にやめていた(やめた)」14.7%、「産休も育休も取った(取っている)」10.2%となった。

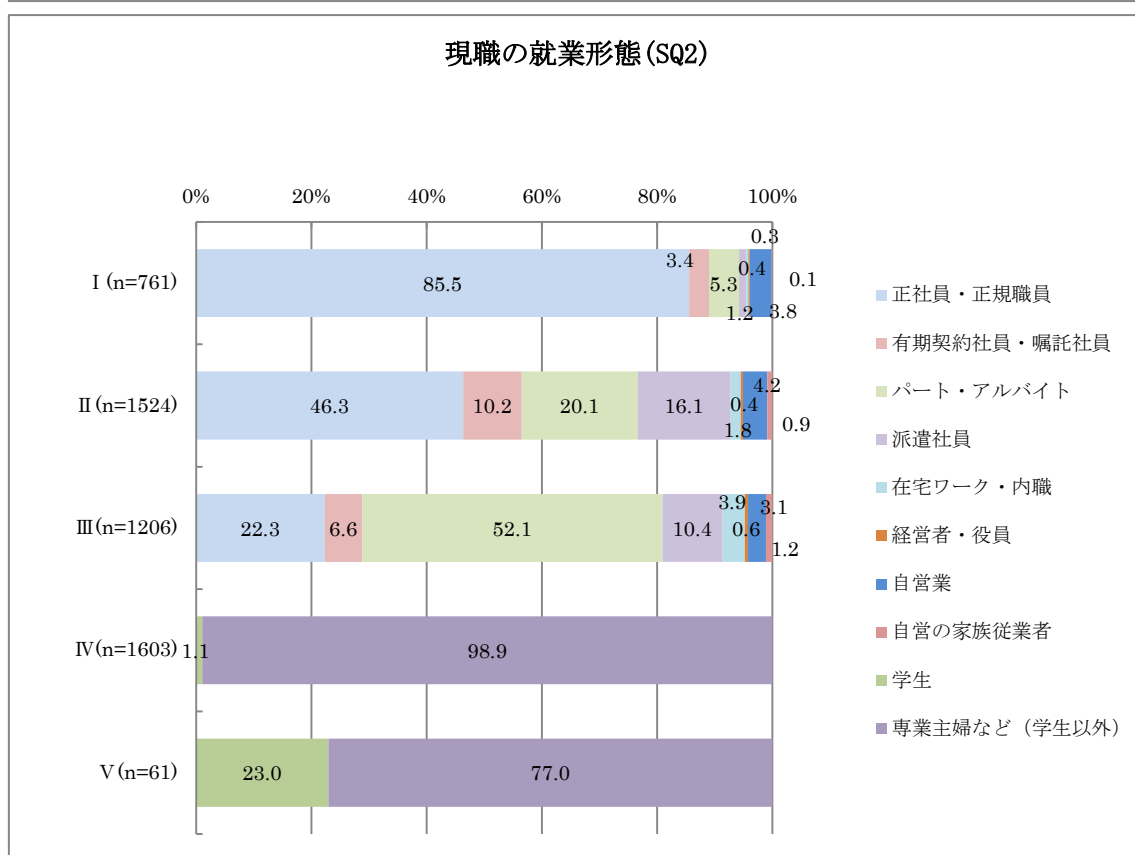
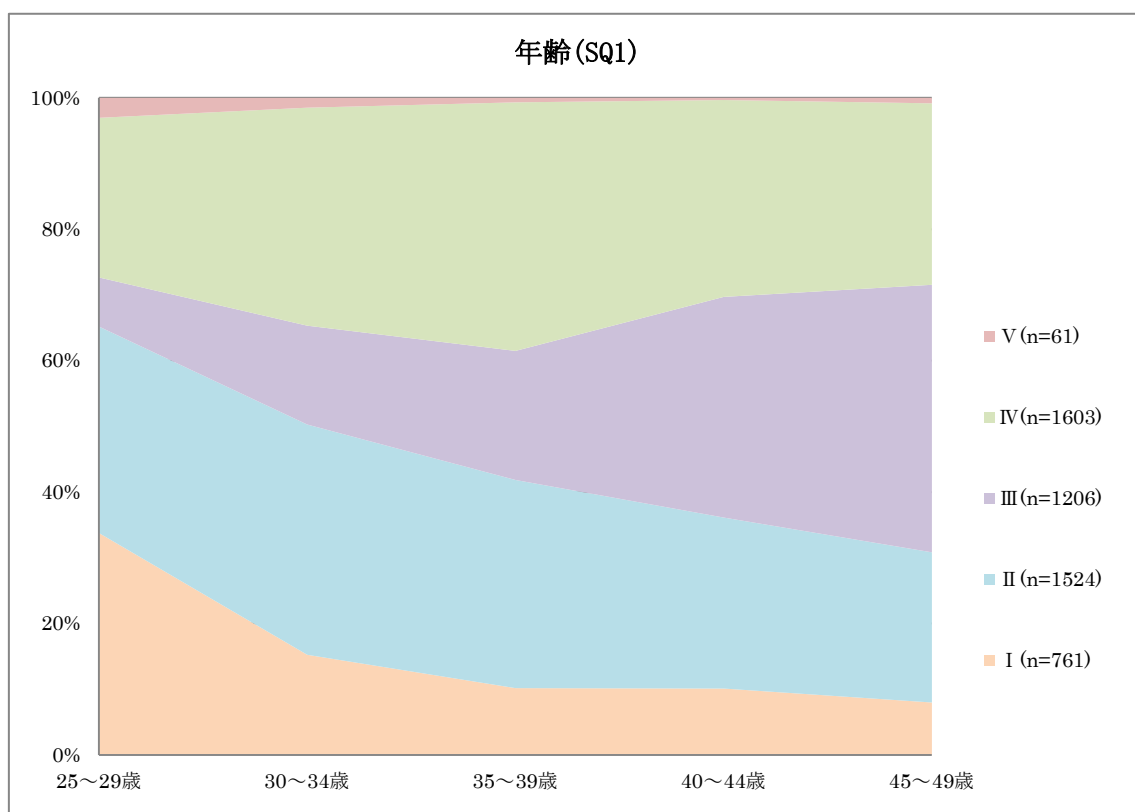
図 9-26 第2子出産時の産休・育休取得期間

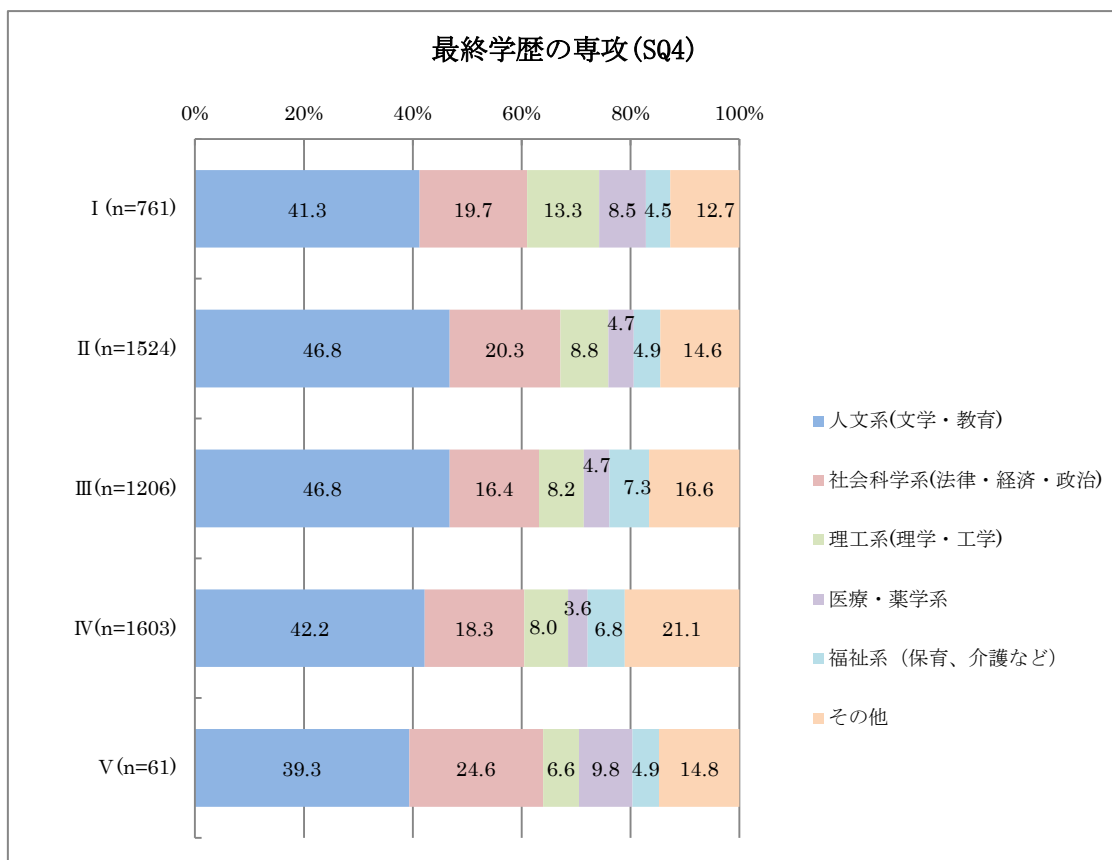
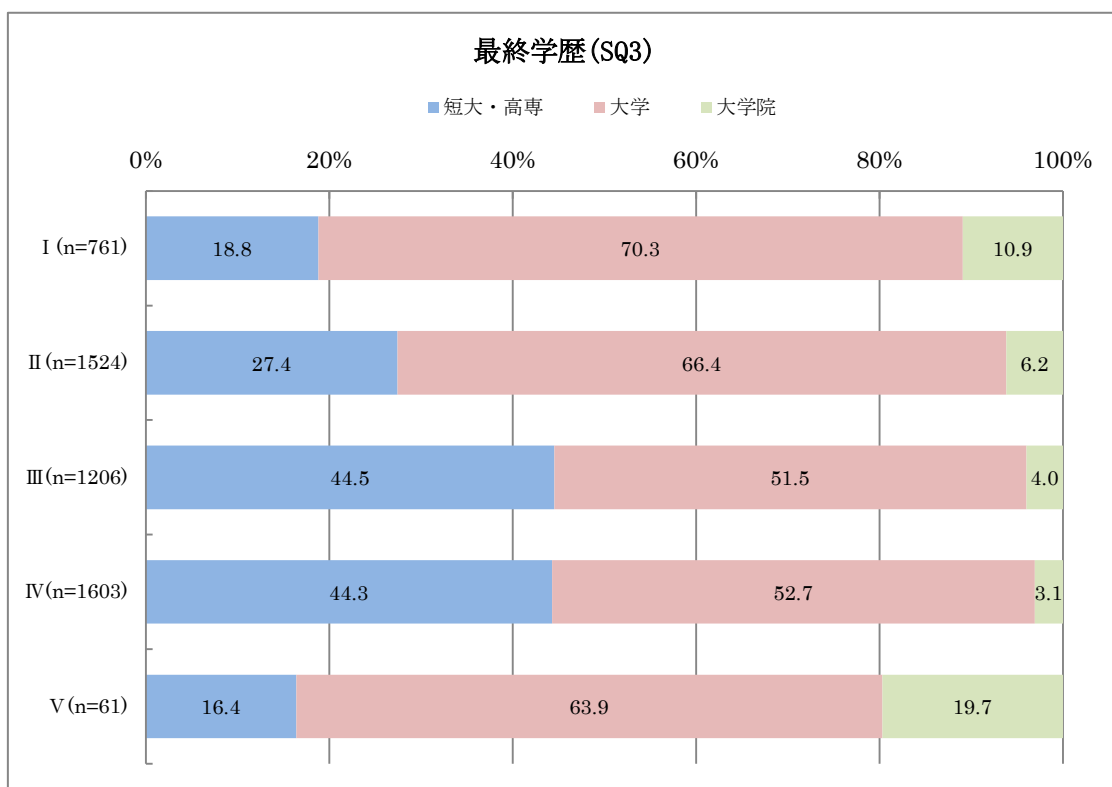


第2子育児休業取得者(122人)の取得期間を見ると、「12ヶ月」が17.2%と最も多く、続いて「6ヶ月」の10.7%であった。1年以内の人は該当者全体の76.2%と約8割に及んだ。

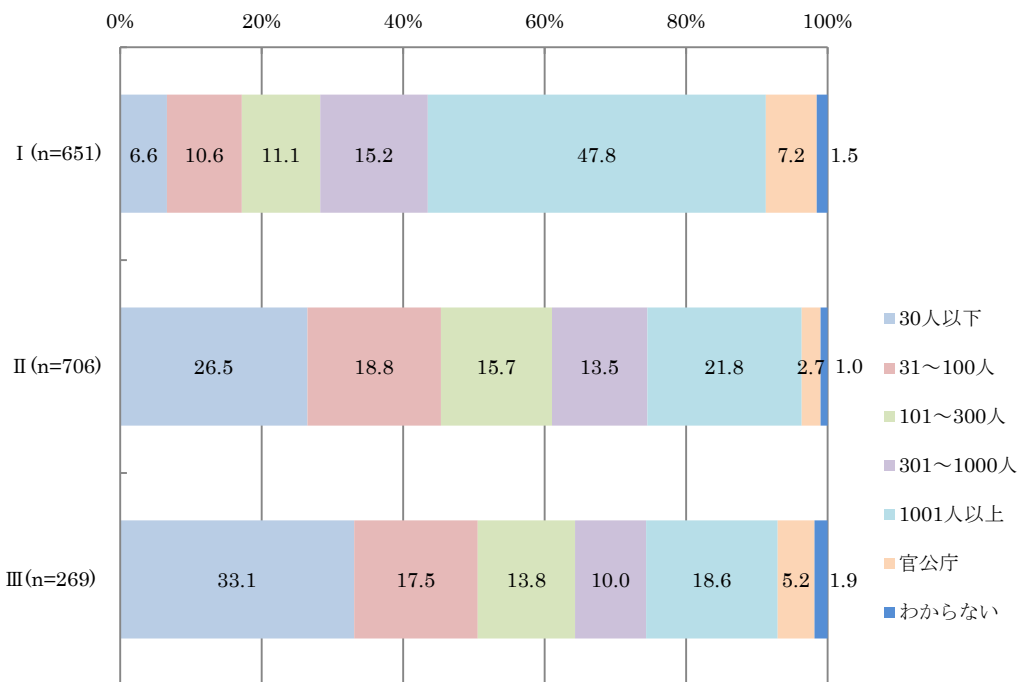
Ⅲ 5つのライフコース・パターン(Q1)別のクロス集計 (質問項目順)

※図の中にはnが少ない項目も含まれるが、参考として掲載する。

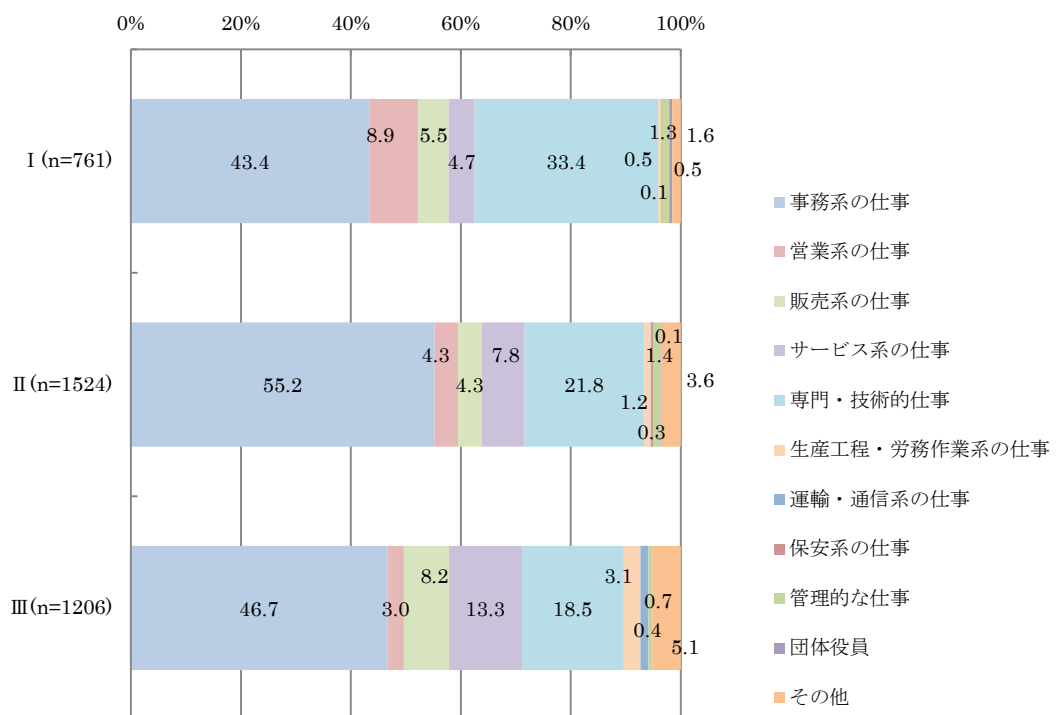


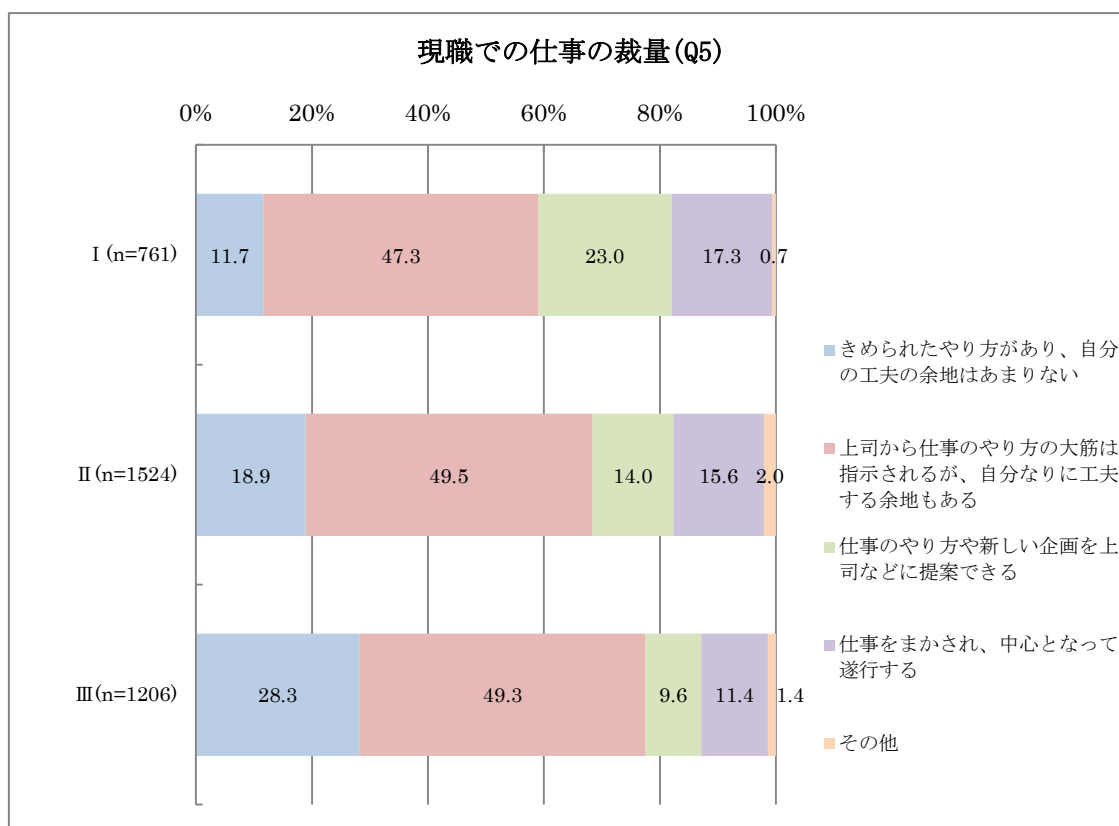
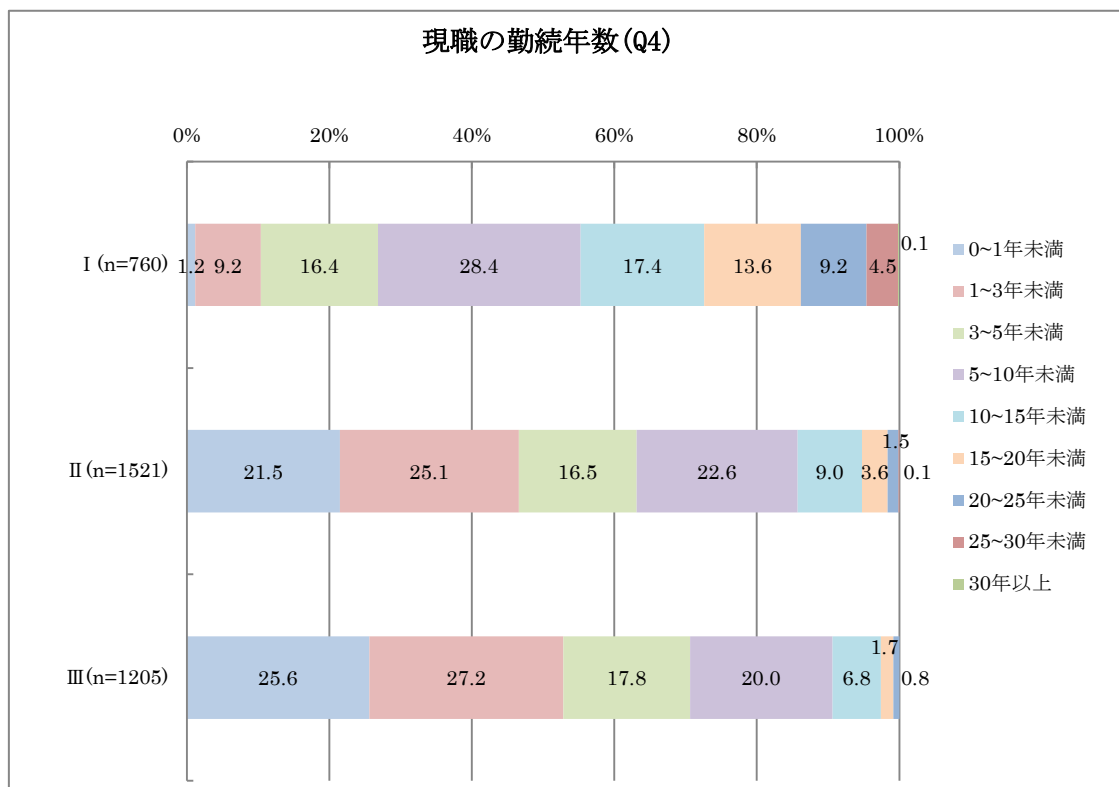


正社員・正規職員のみの現職就業先(従業員規模)(Q2)

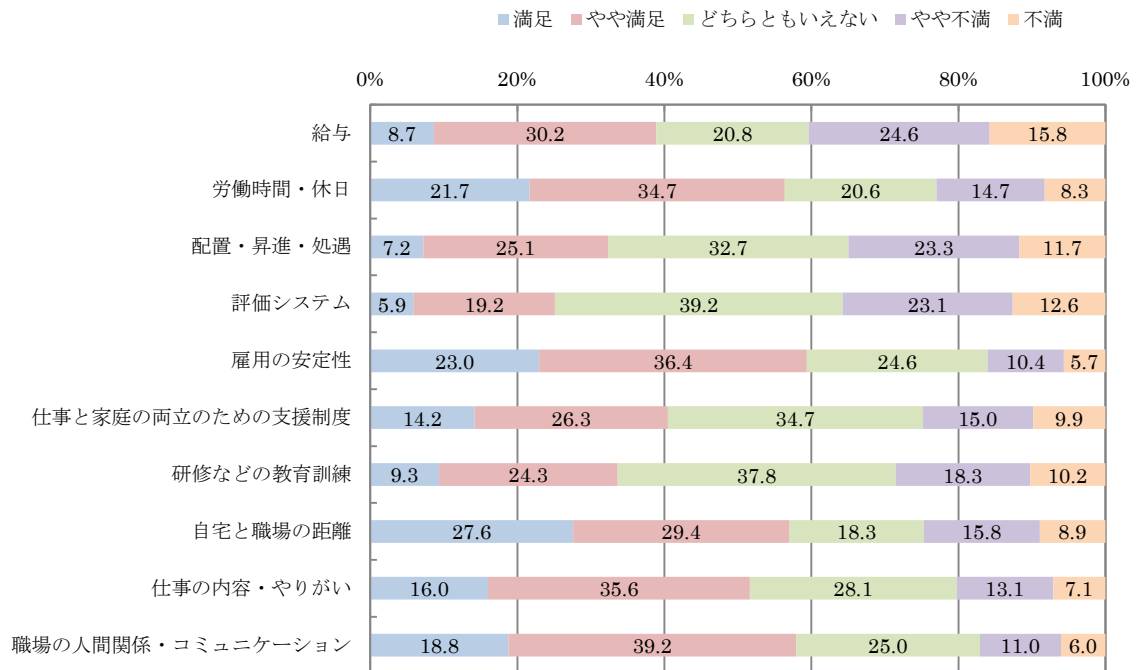


現職の仕事内容(Q3)

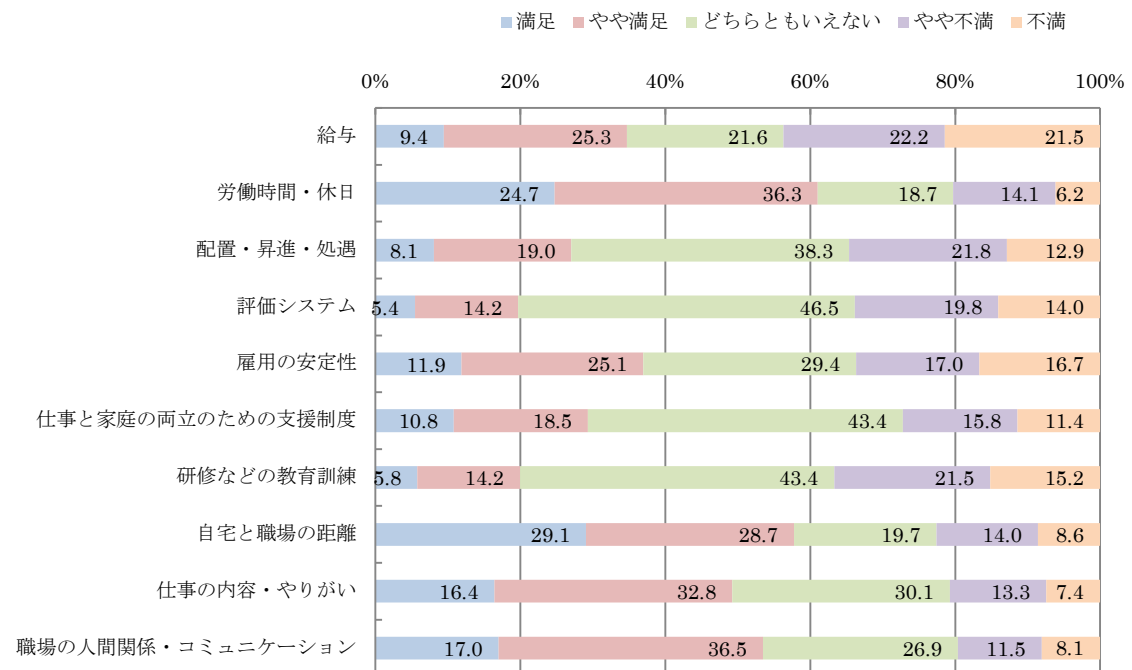




I（初職継続型）の現職の満足度(Q6)
(n=761)

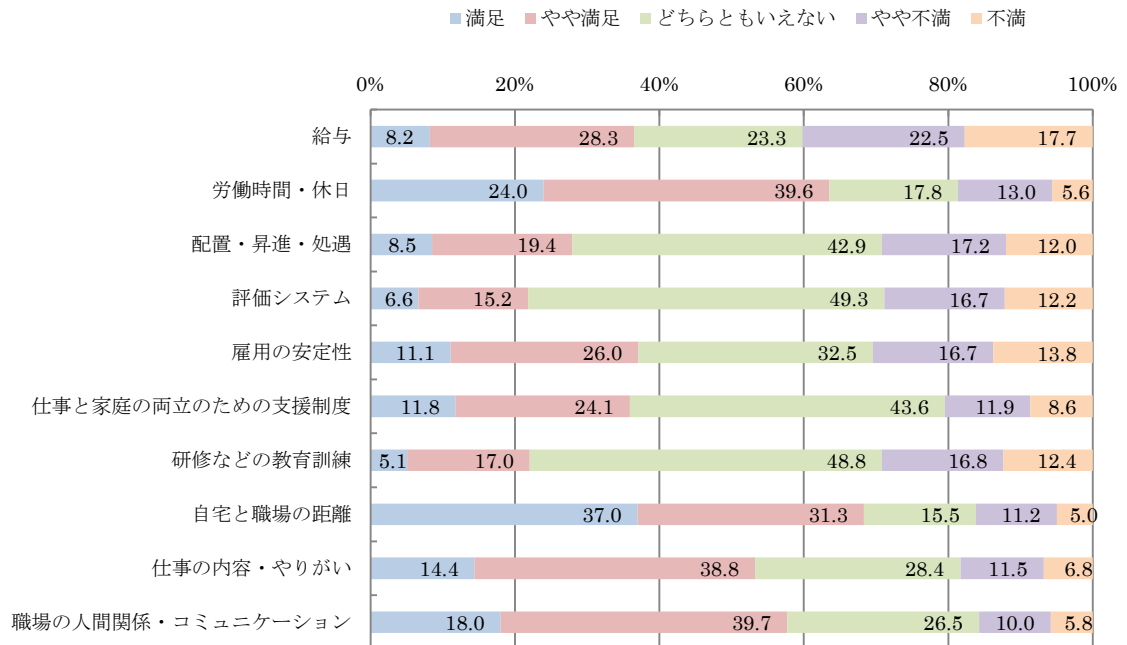


II（転職型）の現職の満足度(Q6)
(n=1524)

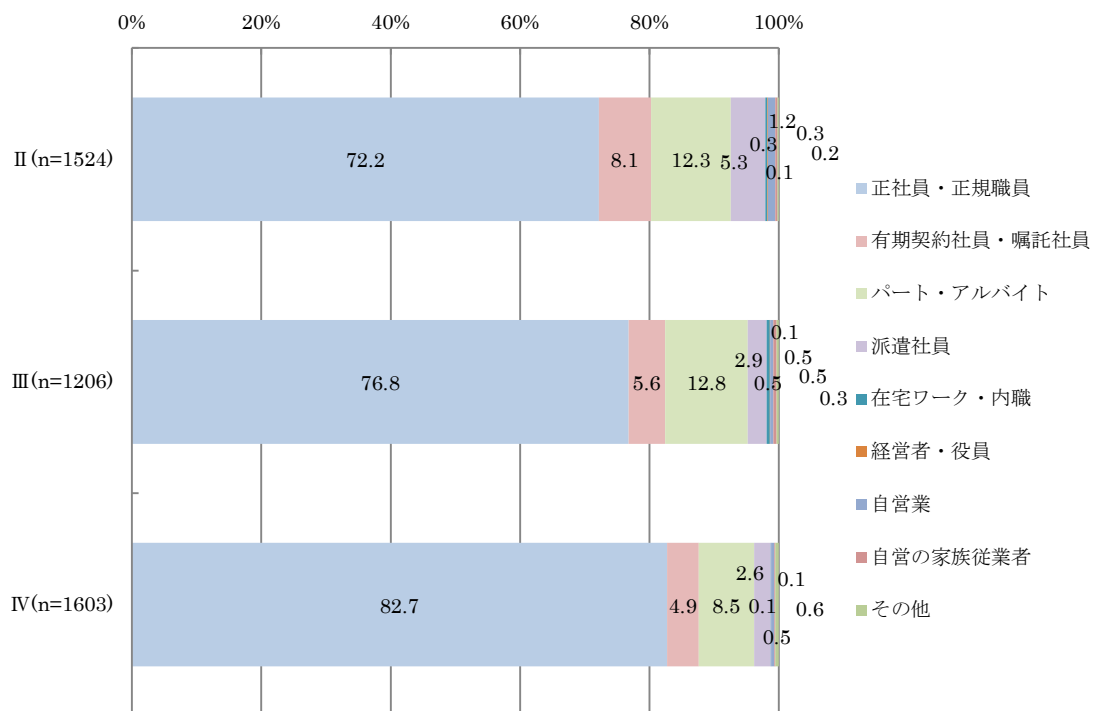


Ⅲ（再就職型）の現職の満足度(Q6)

(n=1206)



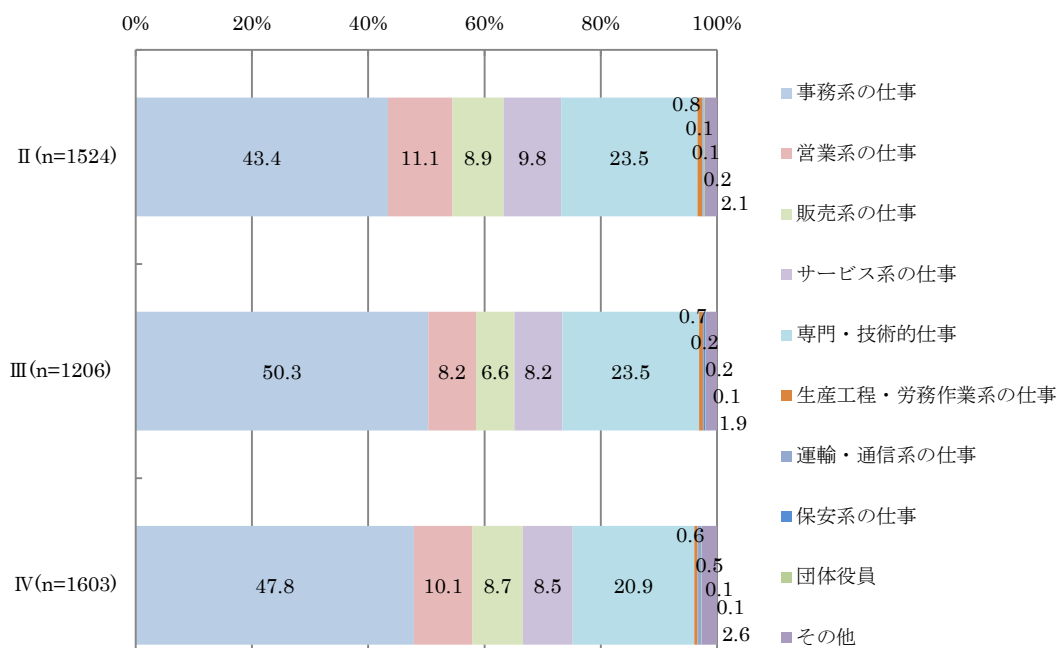
初職の就業形態(Q7)



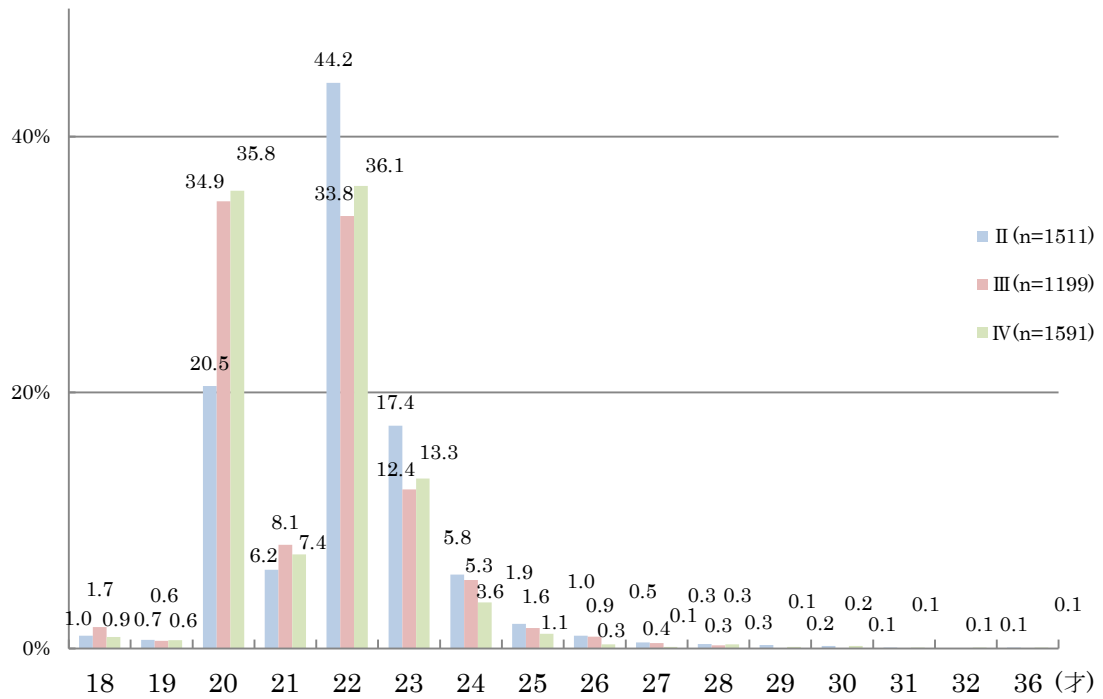
正社員・正規職員のための初職の就業先(従業員規模) (Q8)



初職の仕事内容 (Q9)



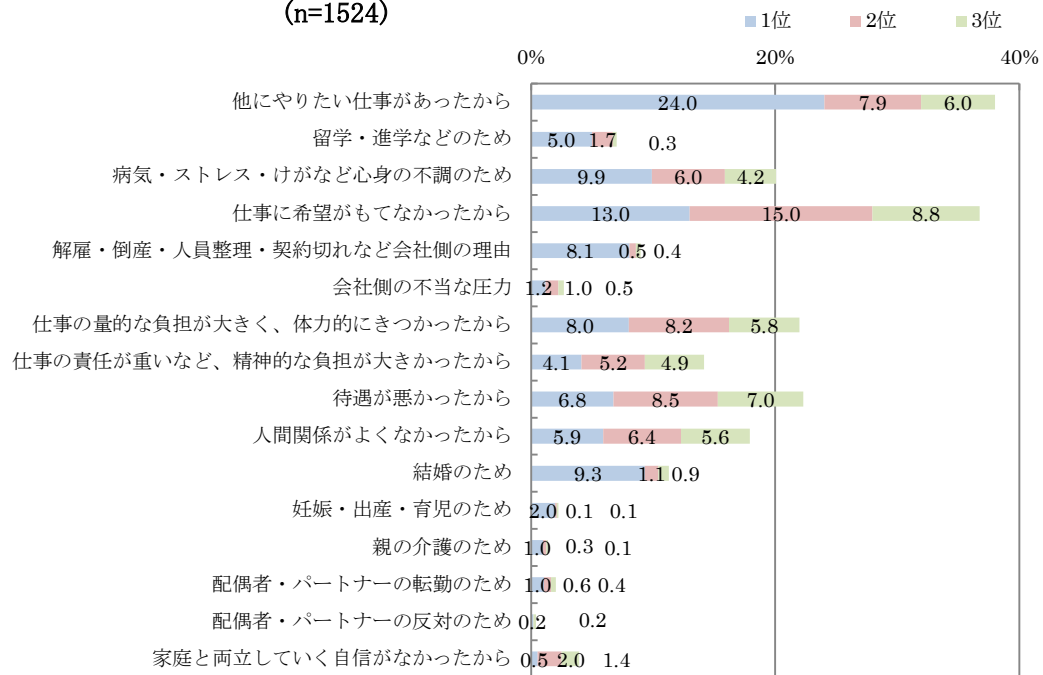
初職に就いた年齢(Q10)



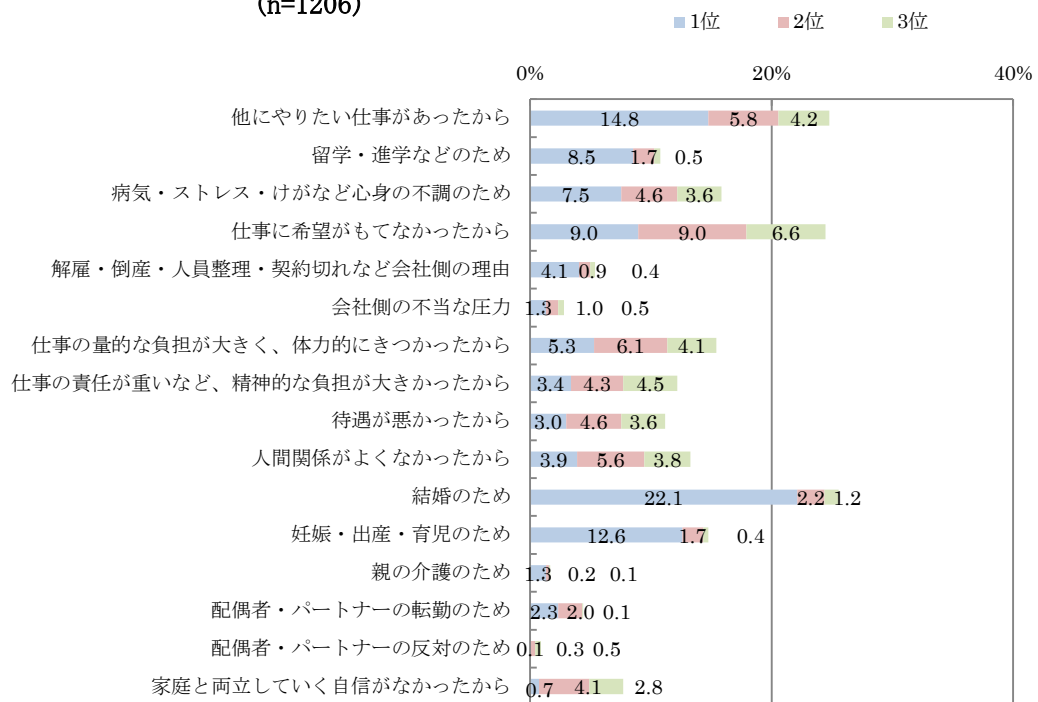
初職の勤続年数(Q11)



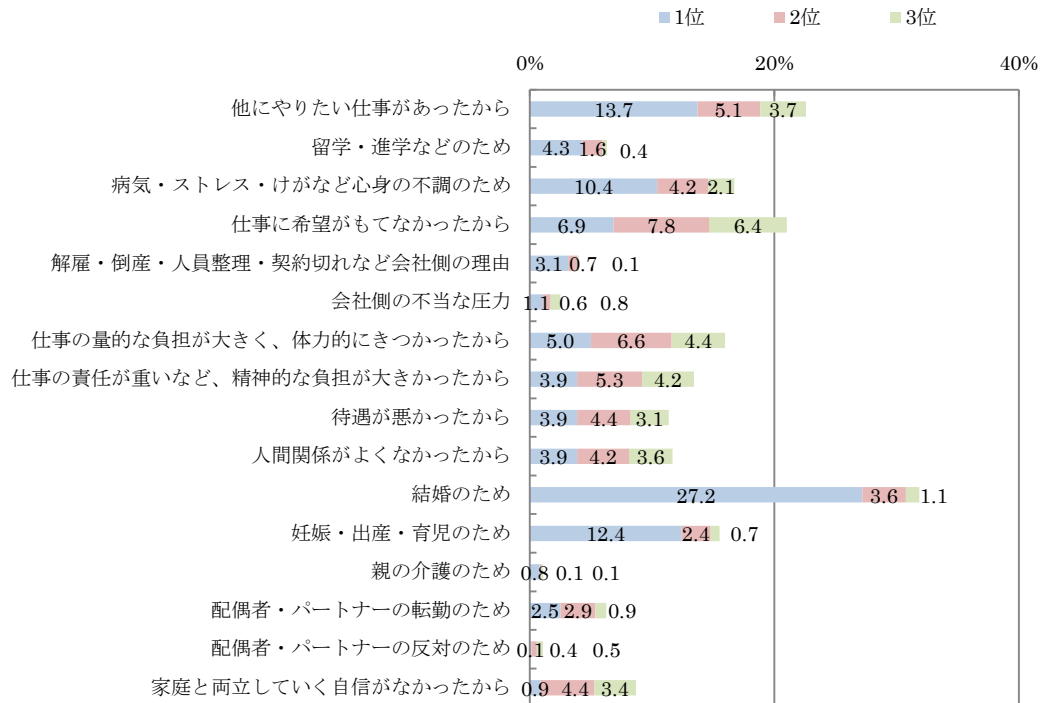
II（転職型）_初職をやめた理由（Q12） （n=1524）



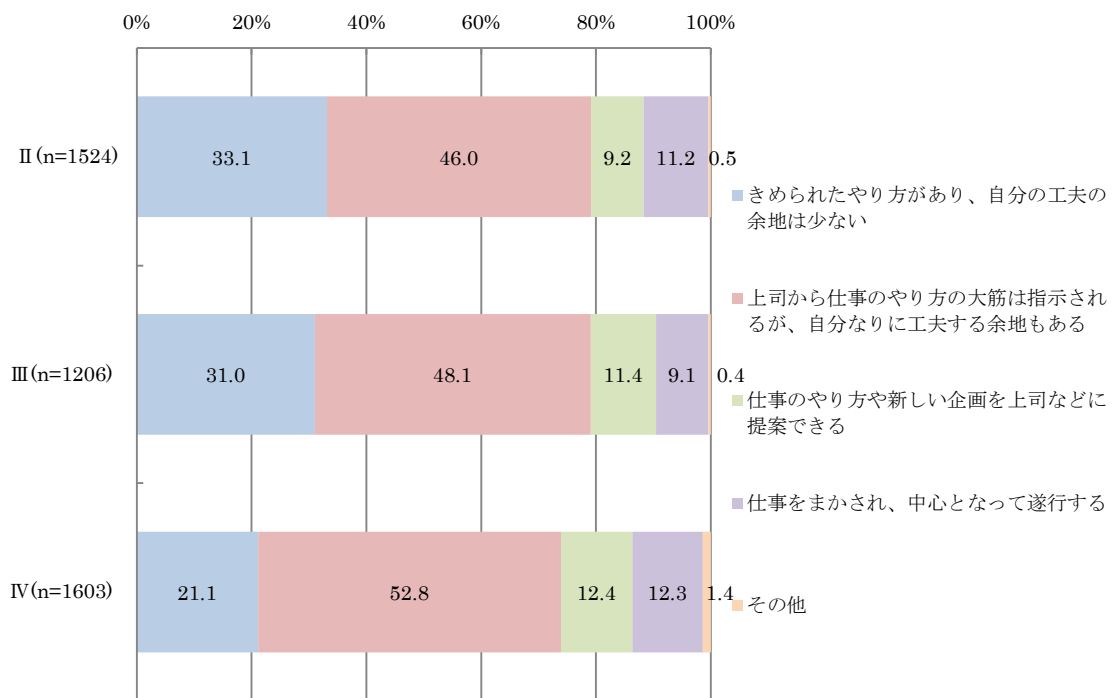
III（再就職型）_初職をやめた理由（Q12） （n=1206）



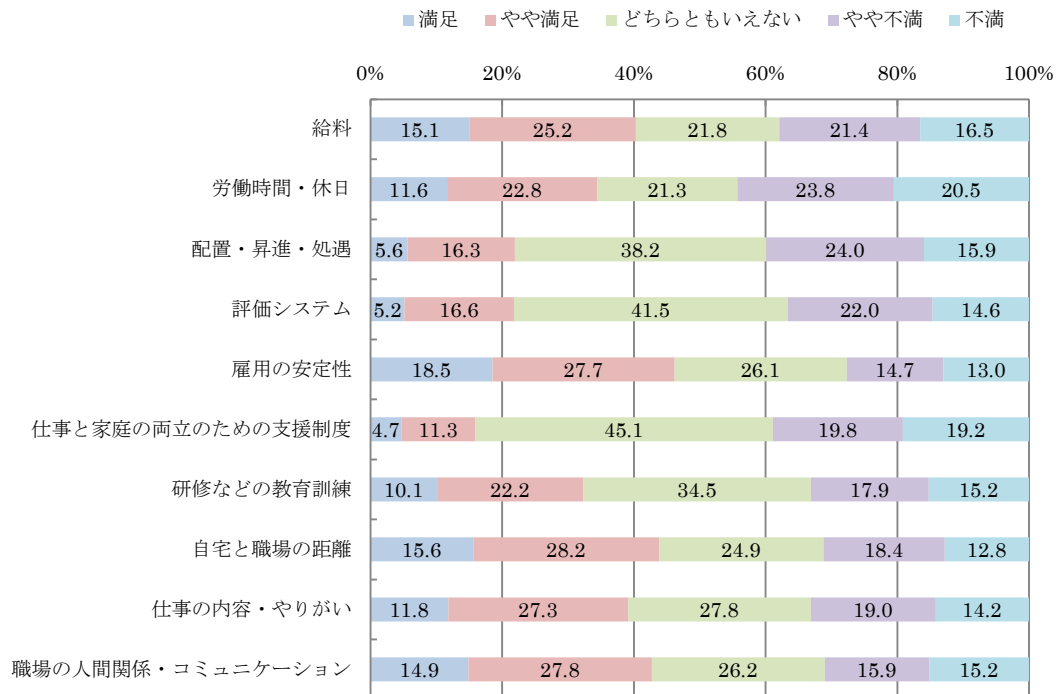
IV（離職型）_初職をやめた理由(Q12) (n=1603)



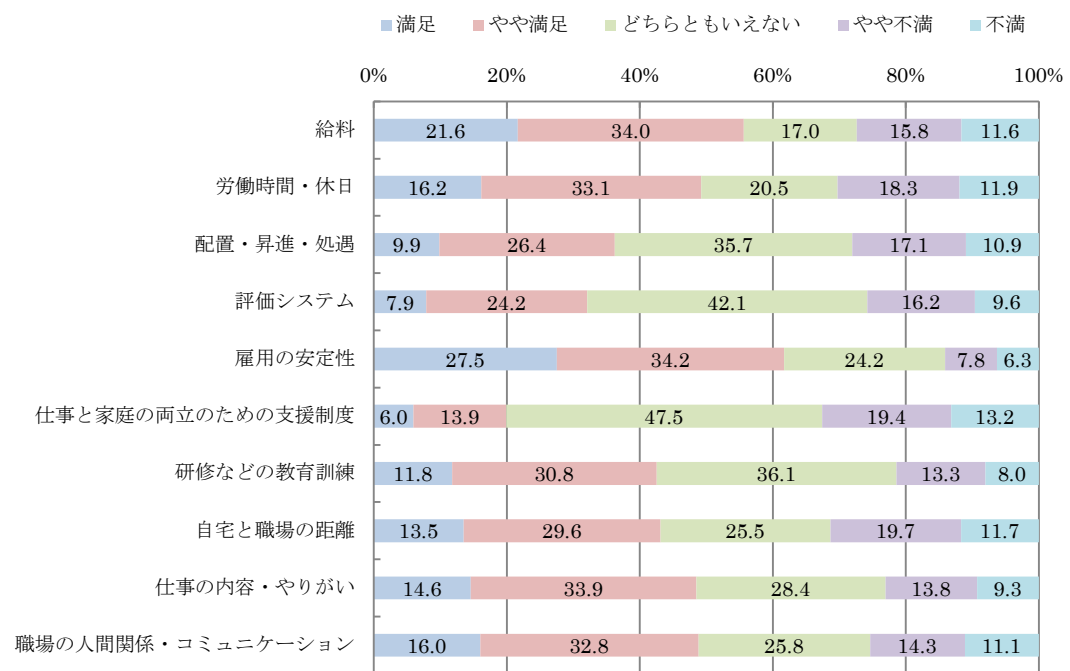
初職における仕事の裁量(Q13)



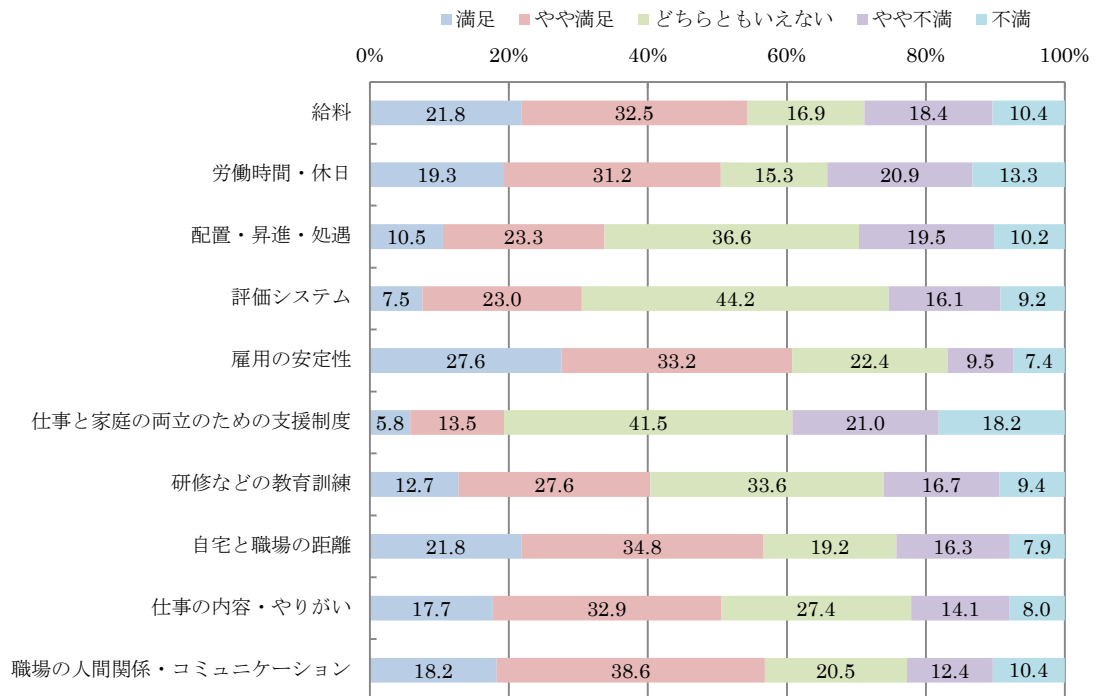
II (転職型) _初職の満足度(Q14) (n=1524)

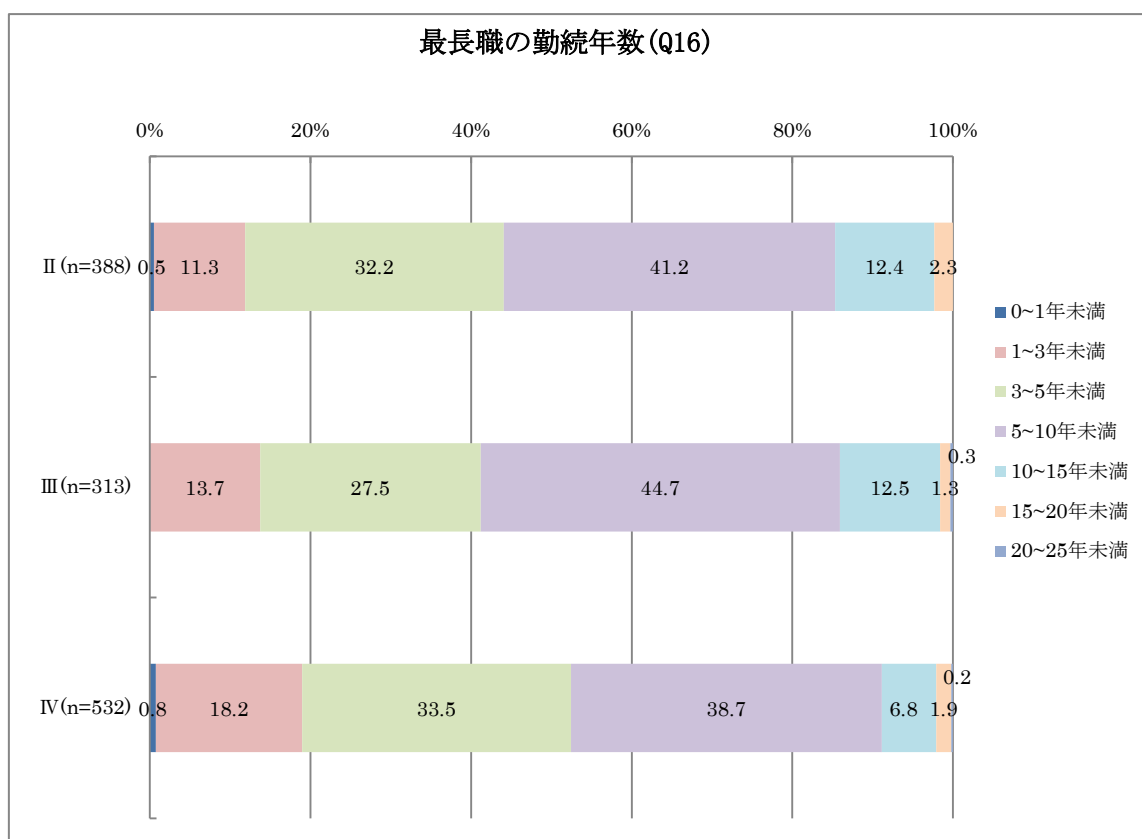
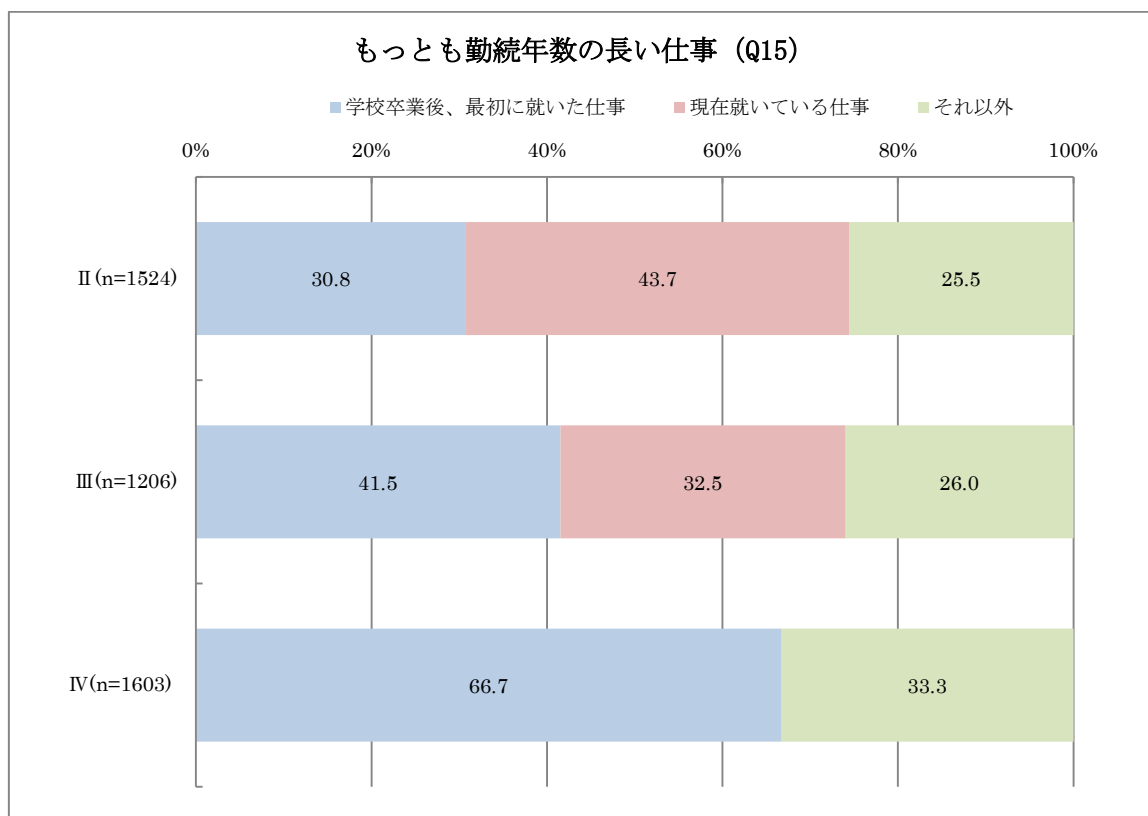


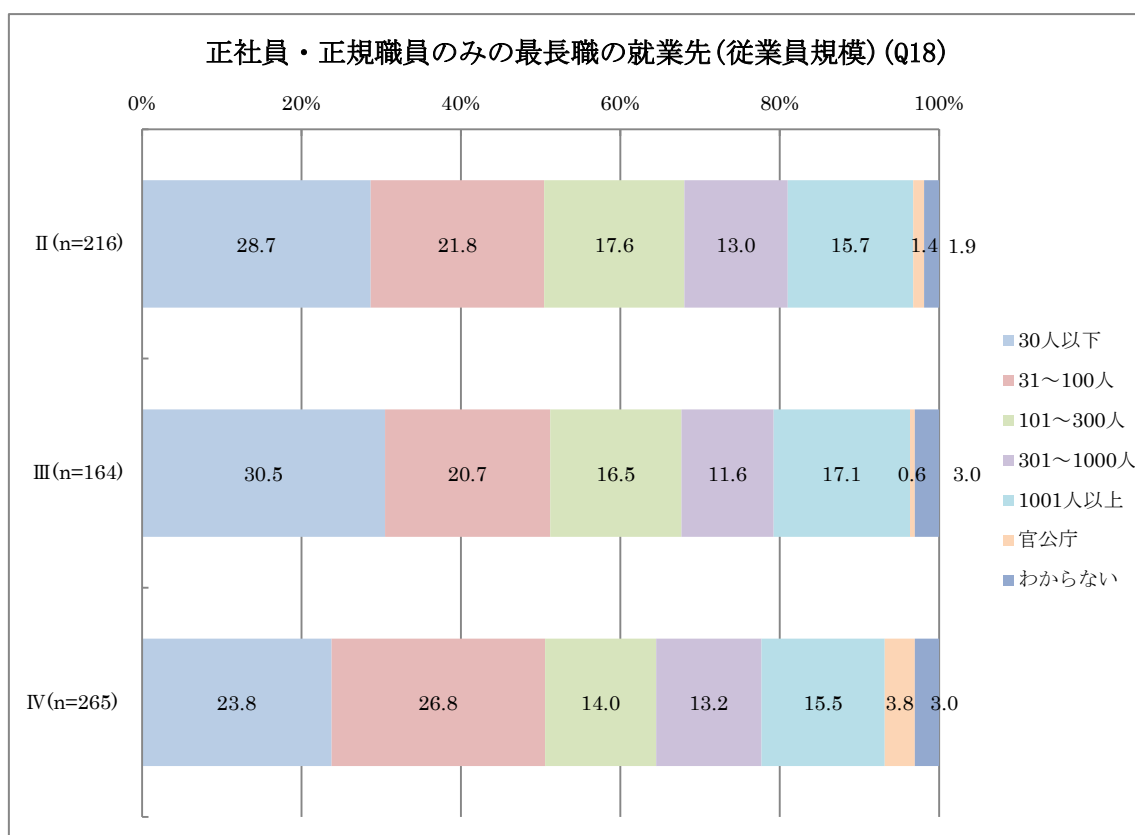
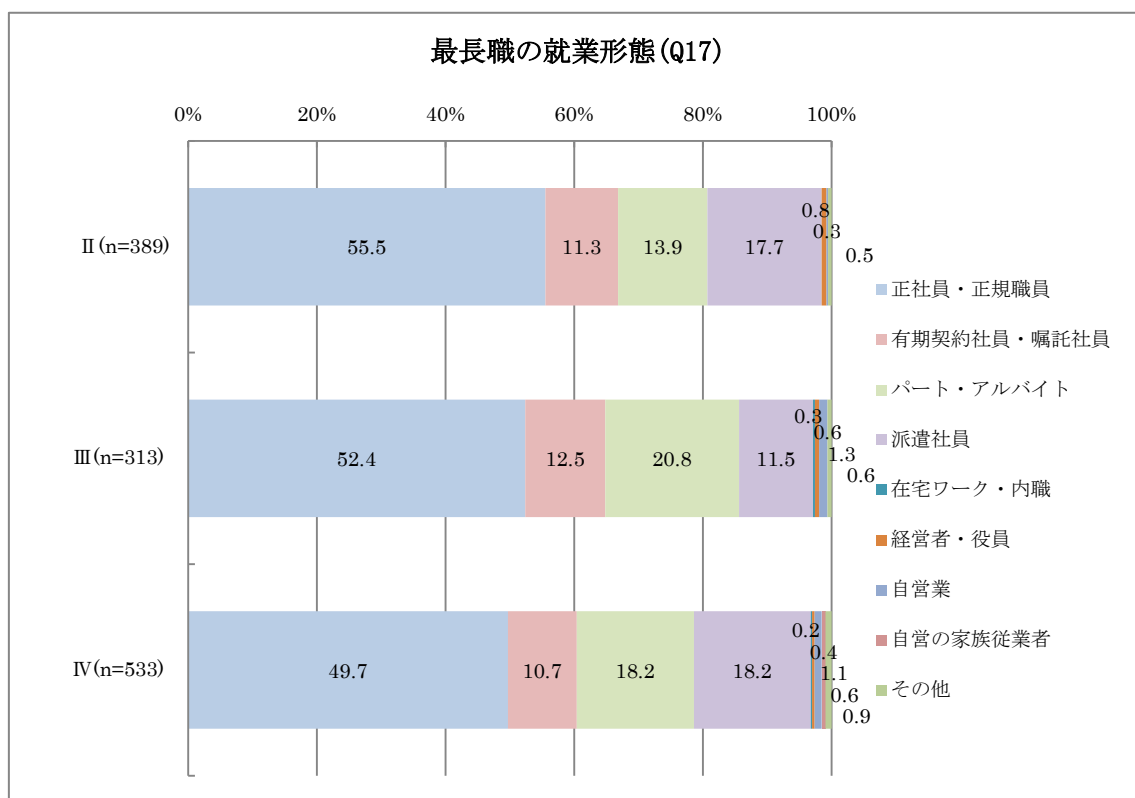
III (再就職型) _初職の満足度(Q14) (n=1206)

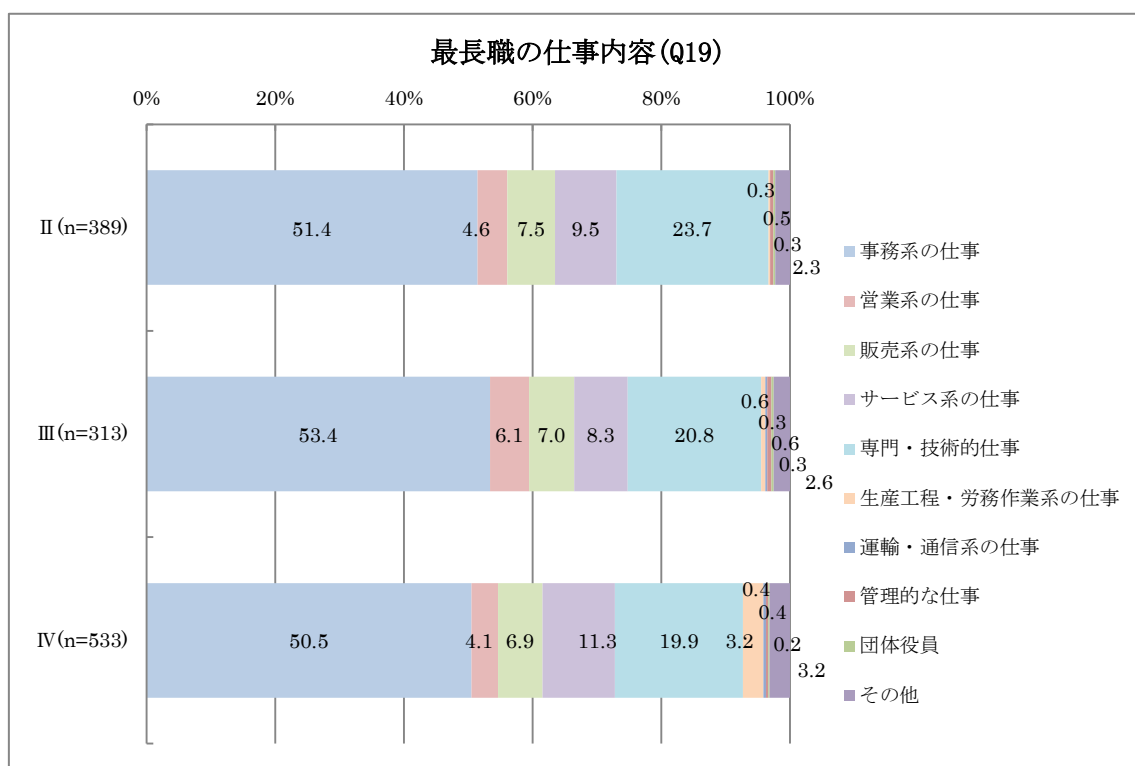


IV（離職型）_初職の満足度(Q14)
(n=1603)

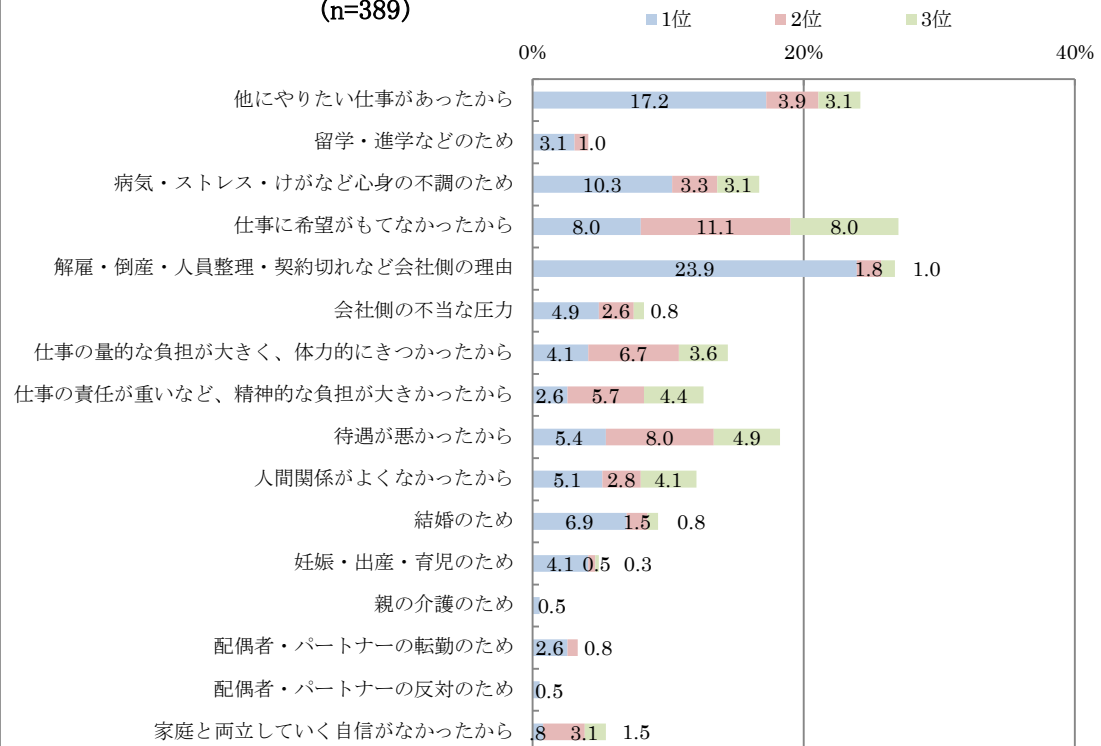




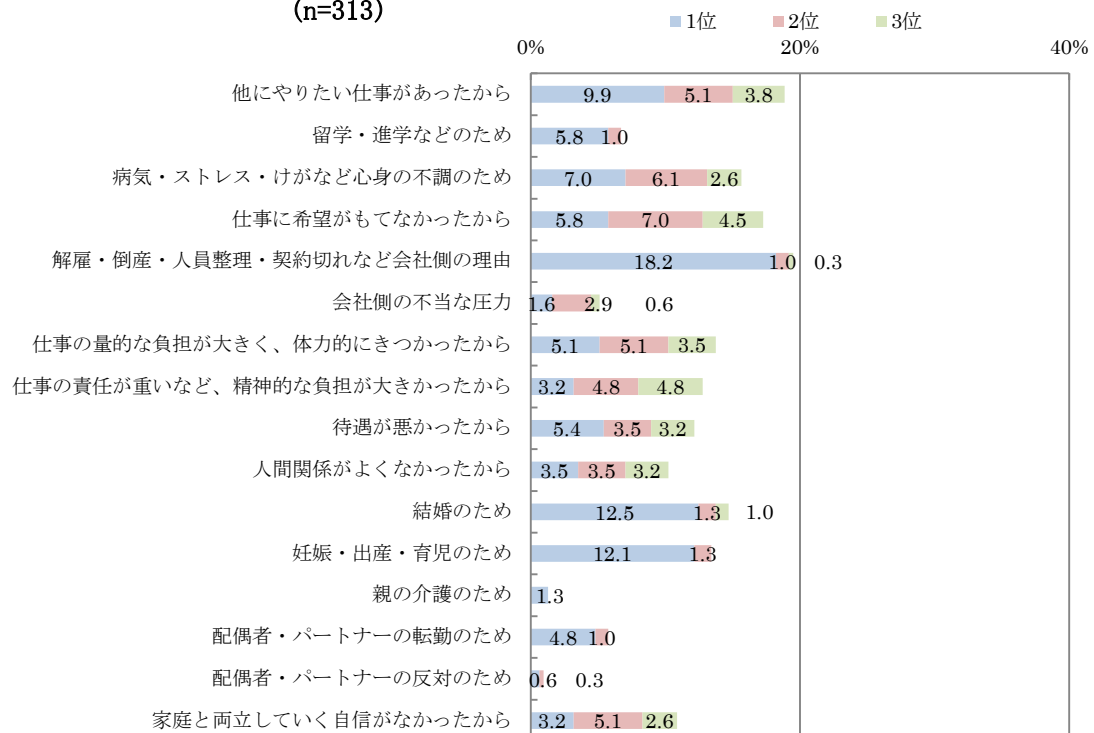




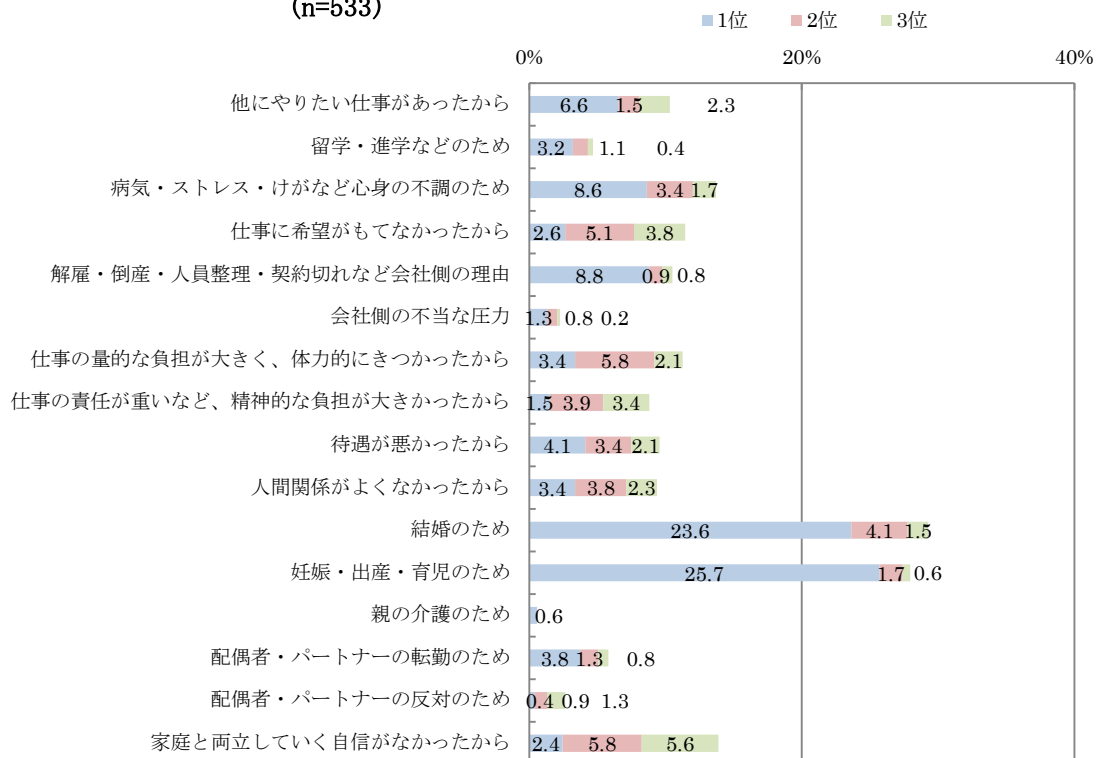
II（転職型）_最長職をやめた理由（Q20） （n=389）



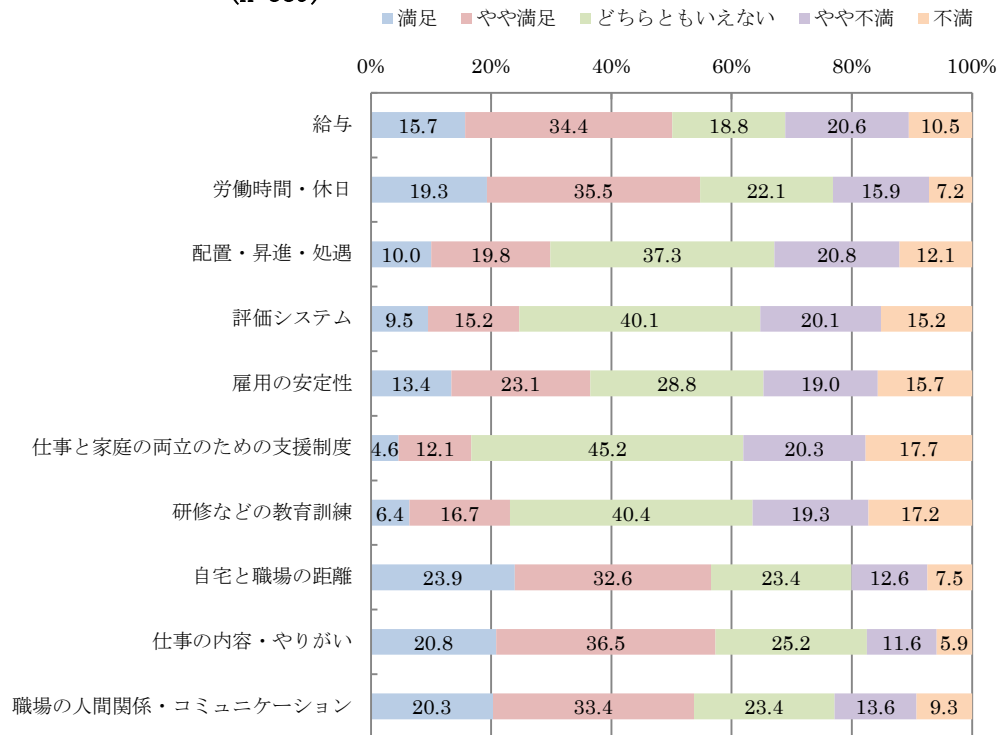
III（再就職型）_最長職をやめた理由（Q20） （n=313）



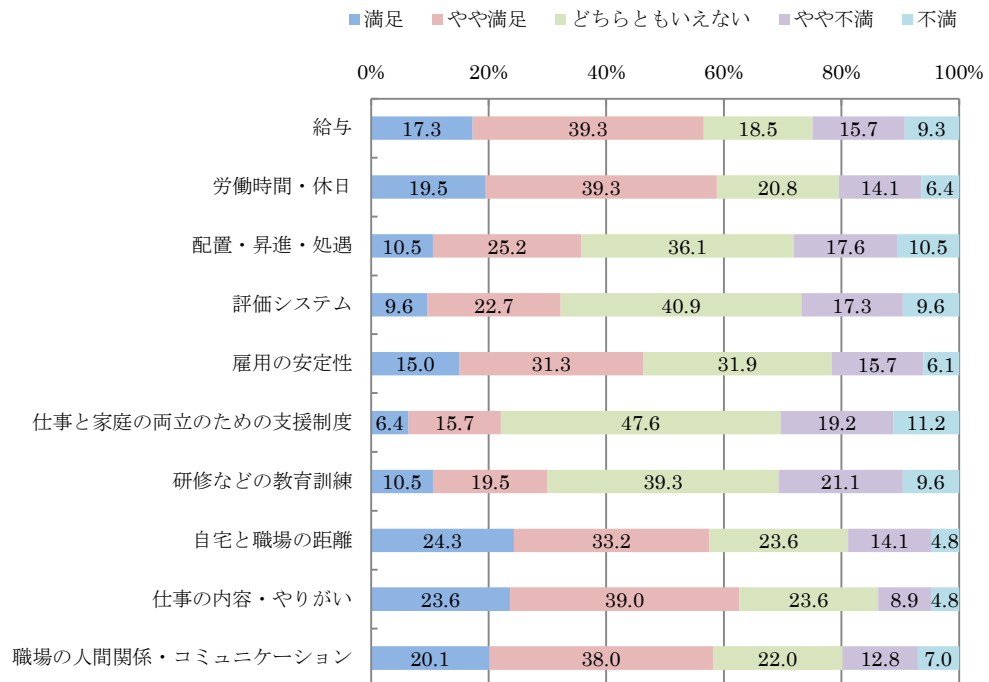
IV（離職型）_最長職をやめた理由(Q20)
(n=533)



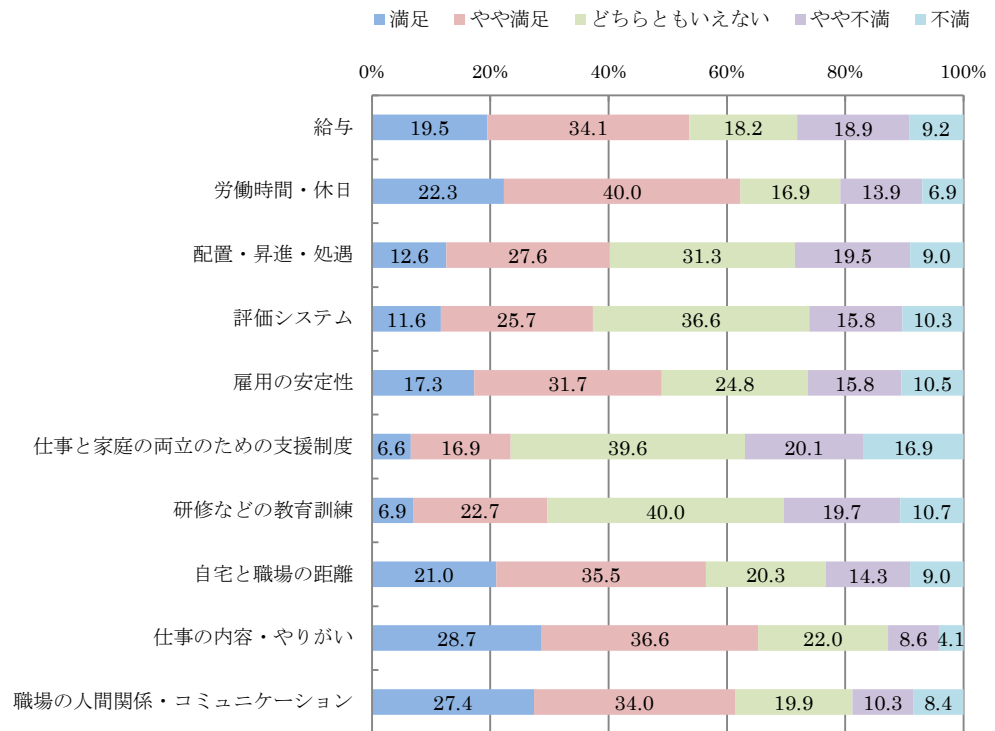
Ⅱ（転職型）_最長職の満足度(Q21) (n=389)

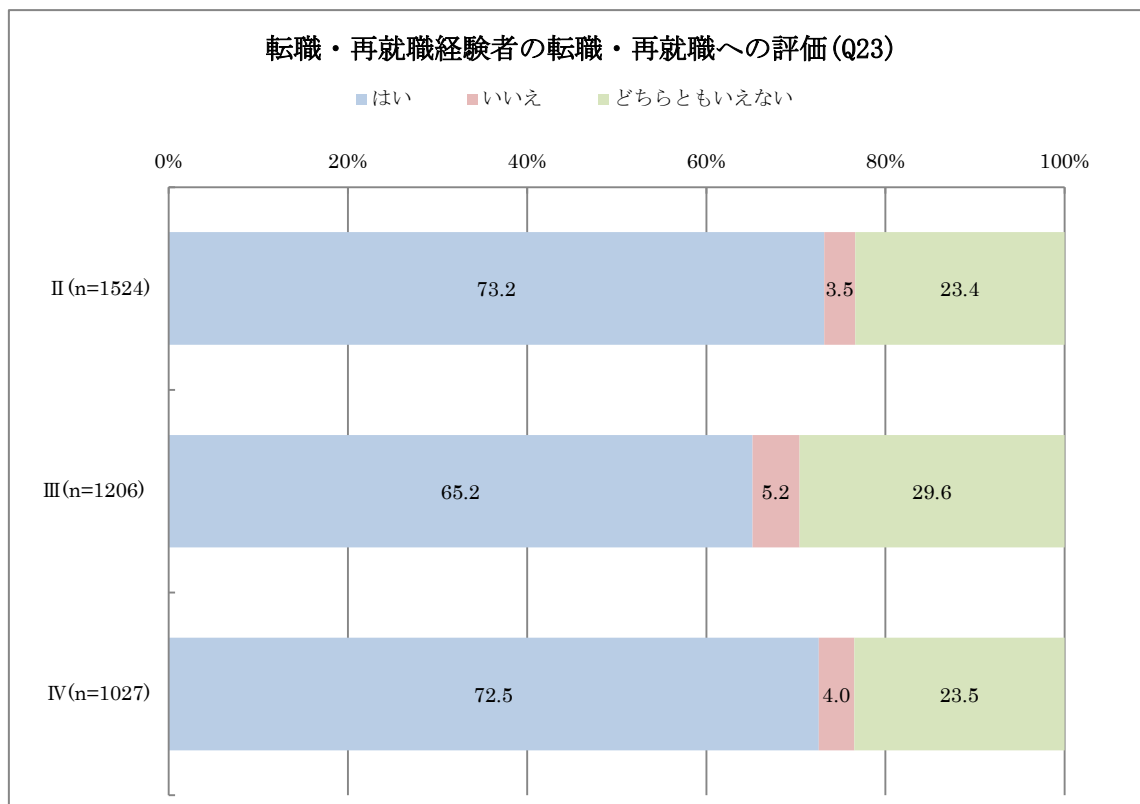
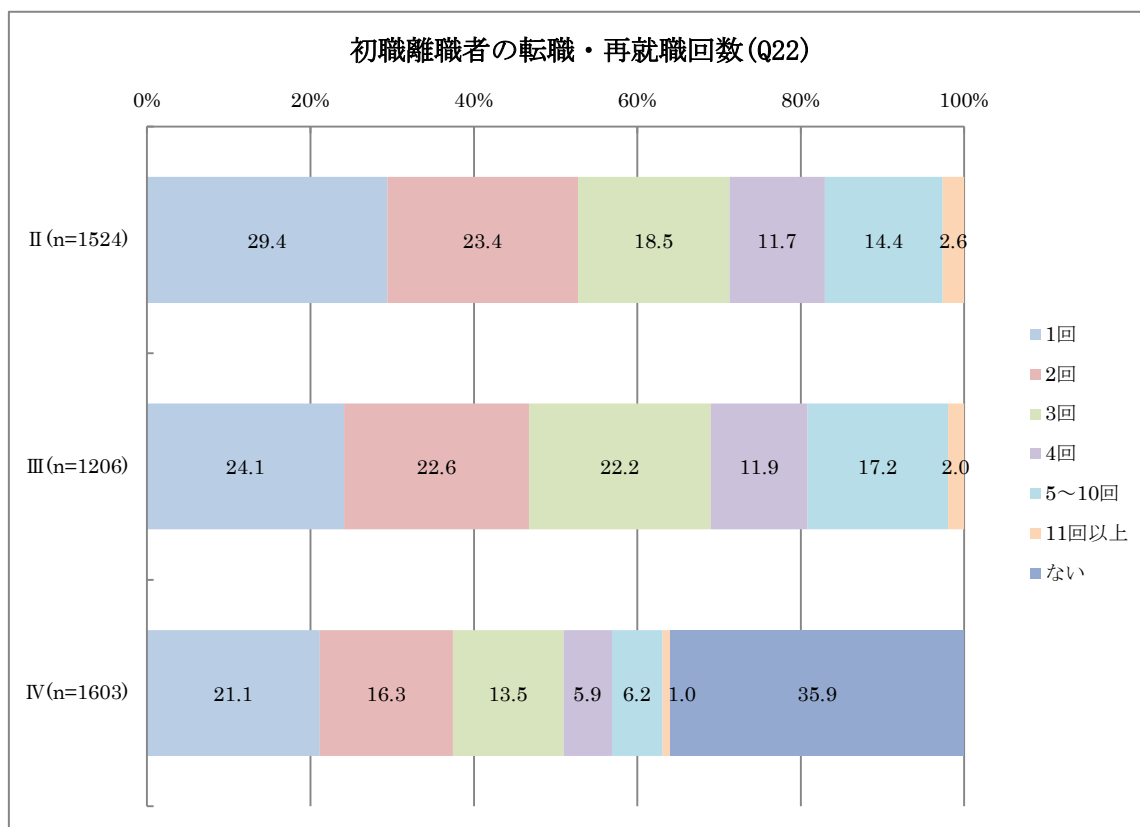


Ⅲ（再就職型）_最長職の満足度(Q21) (n=313)

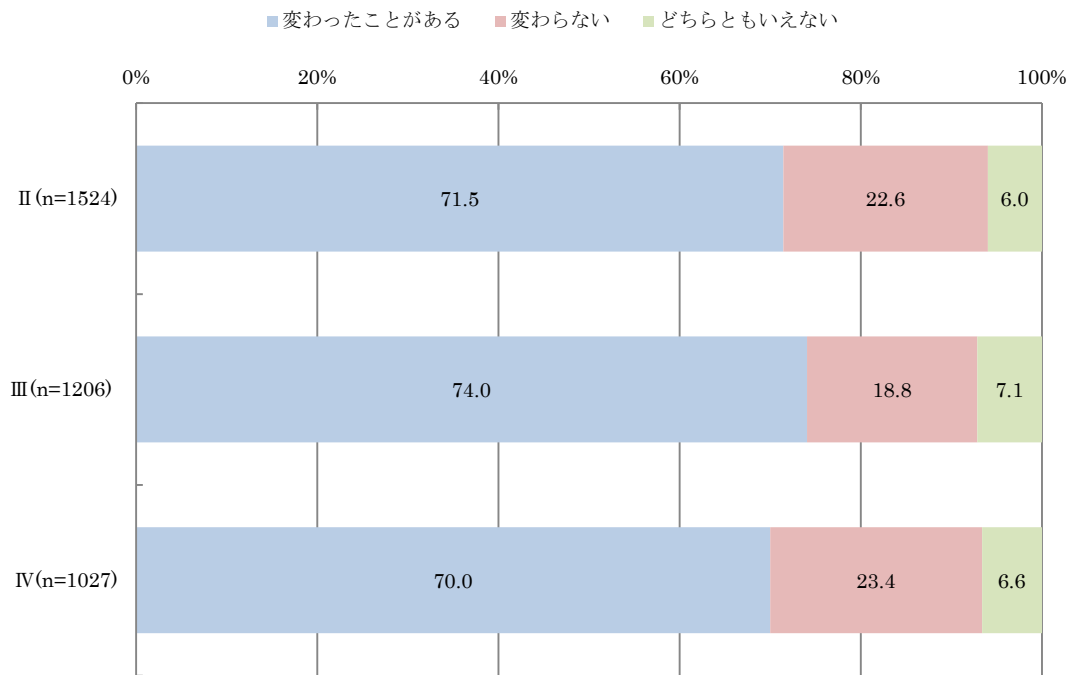


IV（離職型）_最長職の満足度(Q21)
(n=533)

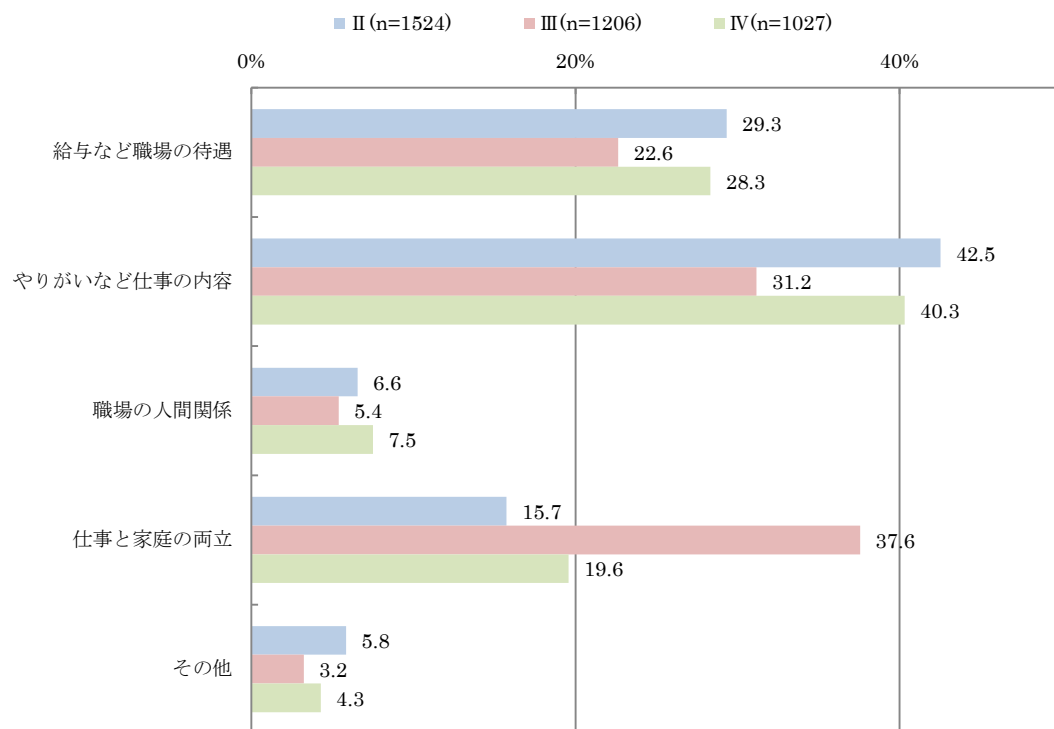




転職・再就職経験者による職種の変化(Q24)



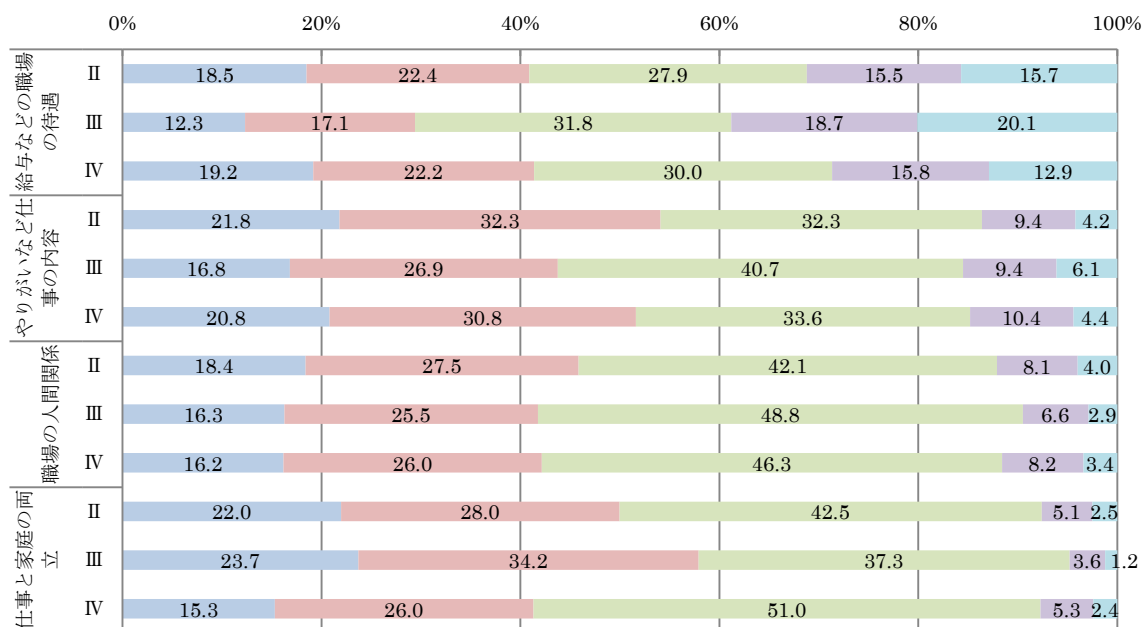
転職・再就職時に重視した条件(Q25)



転職・再就職で変わったこと (Q26)

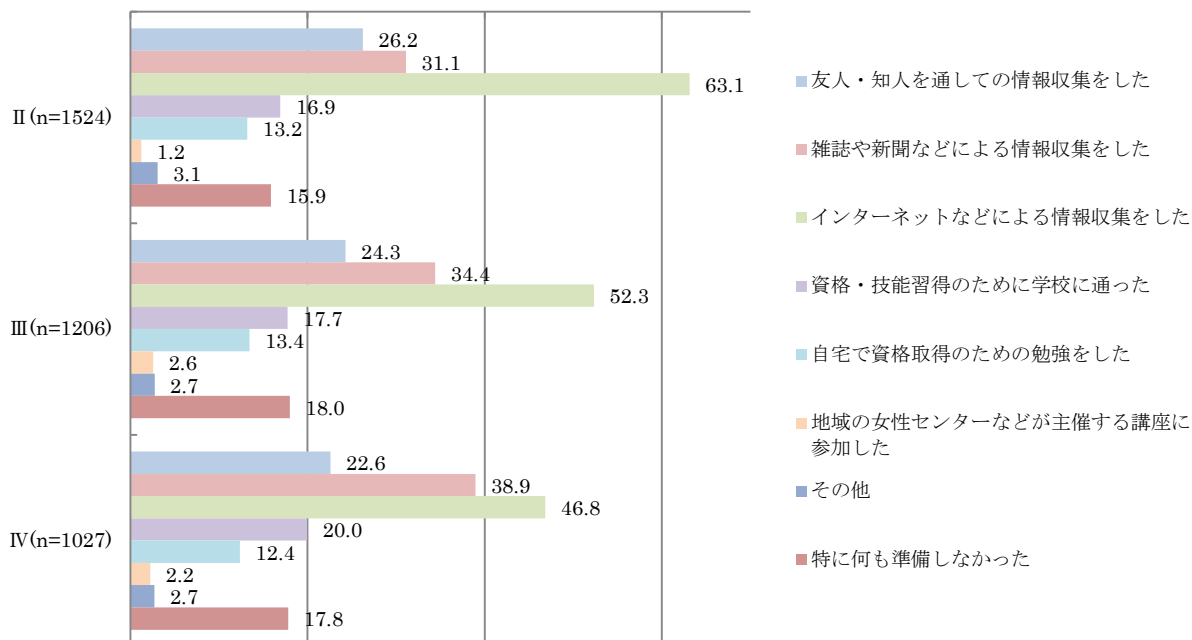
Ⅱ (n=1524) Ⅲ (n=1206) Ⅳ (n=1027)

■ よくなった ■ ややよくなった ■ どちらともいえない ■ やや悪くなった ■ 悪くなった



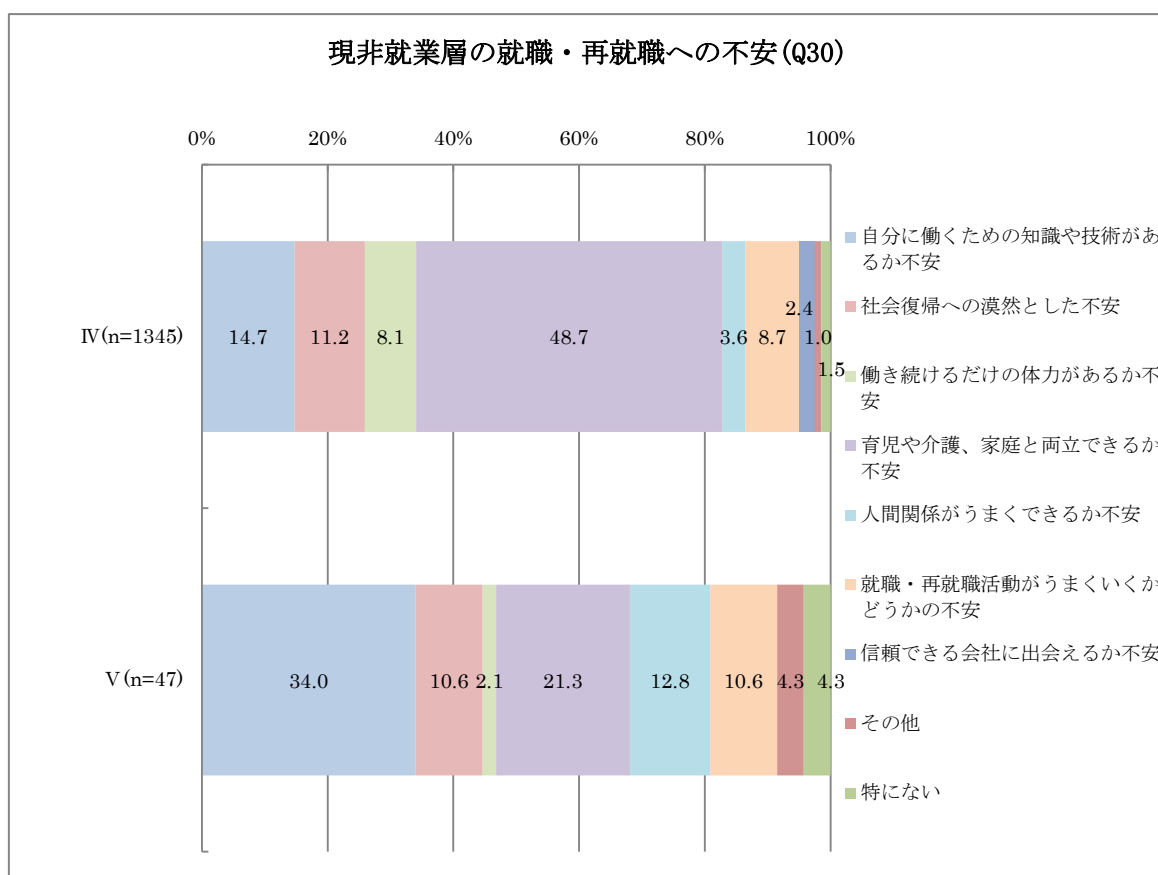
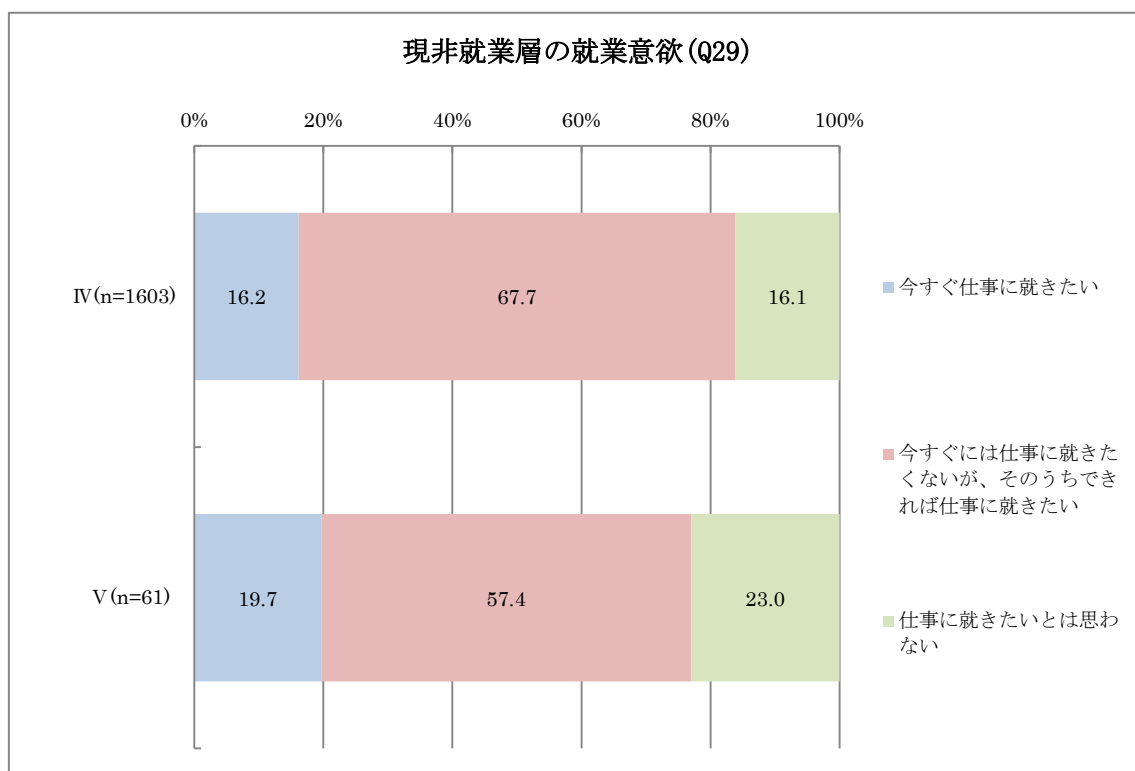
転職・再就職のための準備 (Q27)

0% 20% 40% 60%

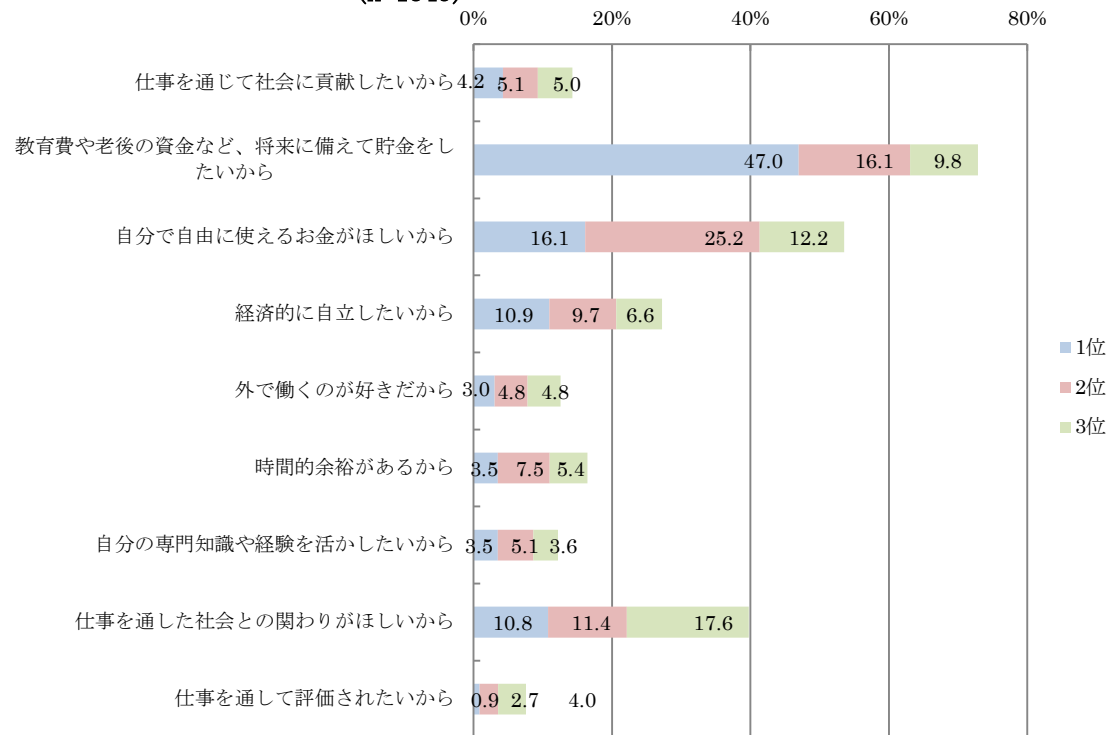


I（初職継続型）_初職継続理由（Q28）
（n=761）

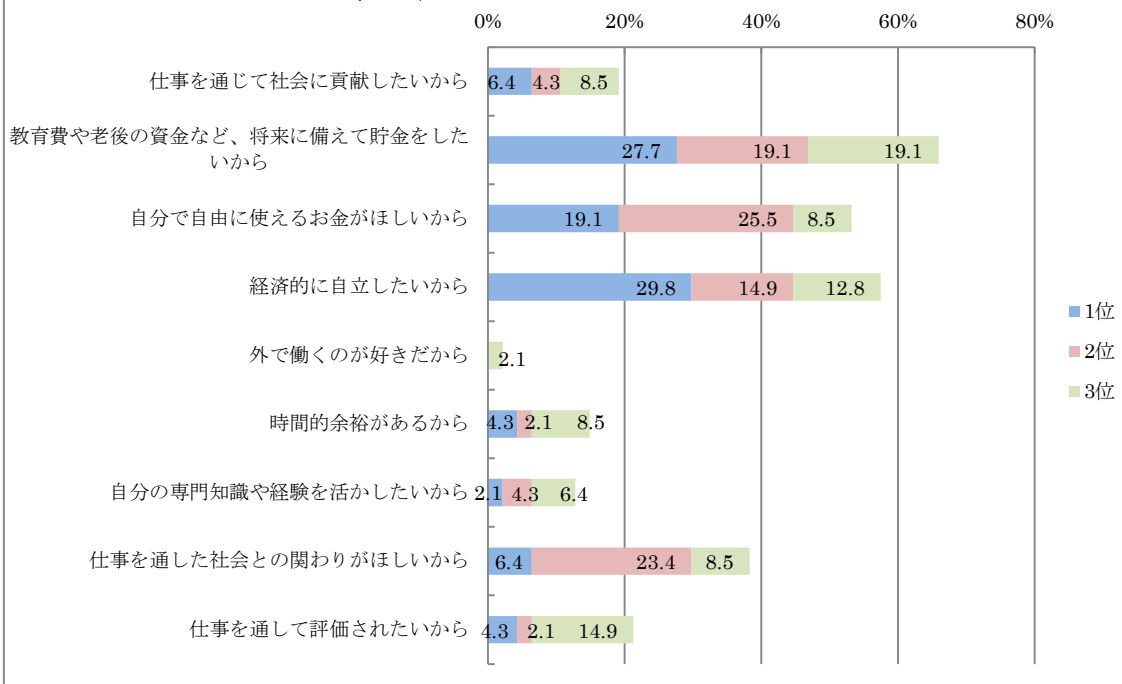




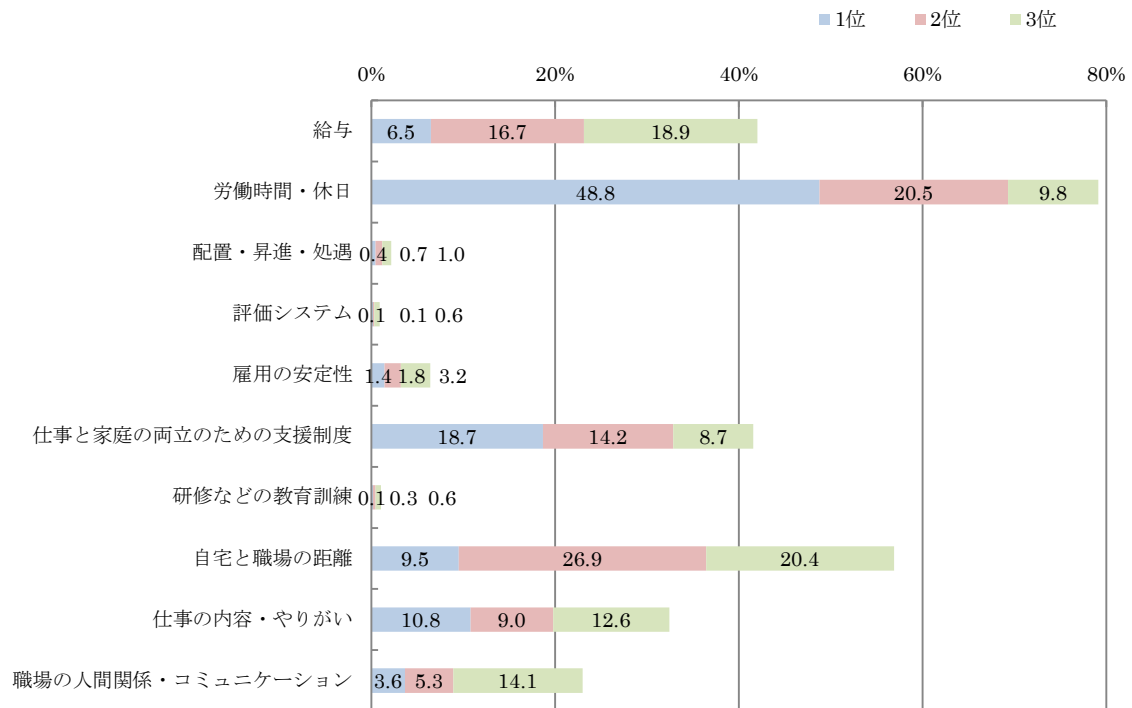
IV（離職型）_就業希望理由（Q31）
（n=1345）



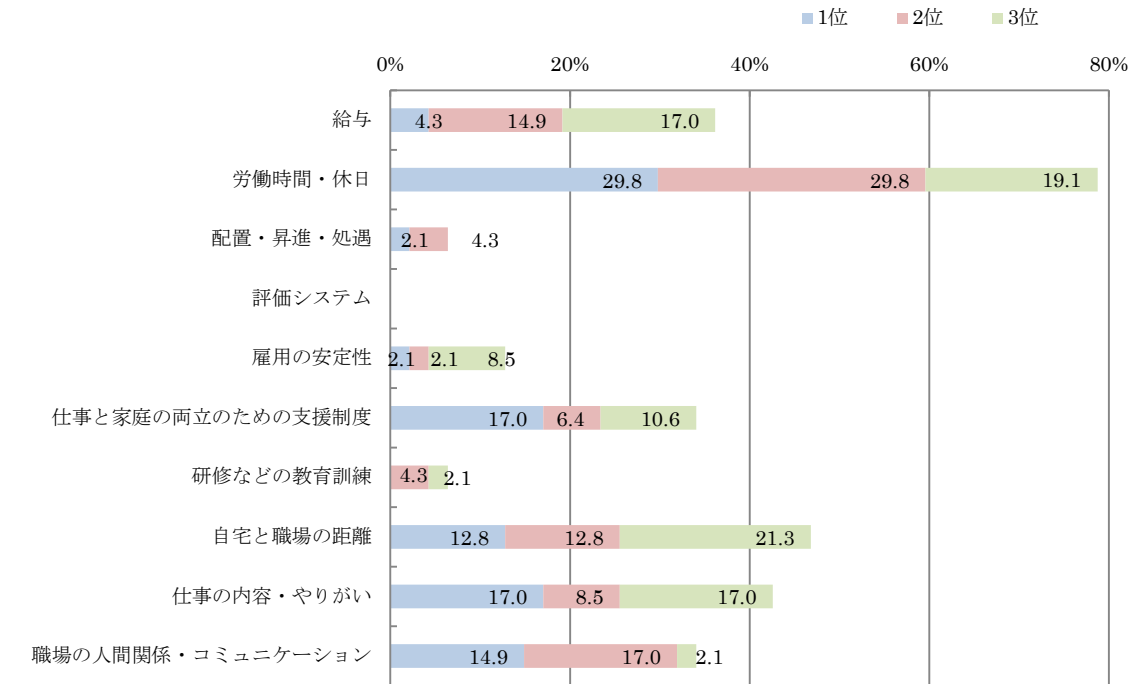
V（就業経験なし）_就業希望理由（Q31）
（n=47）



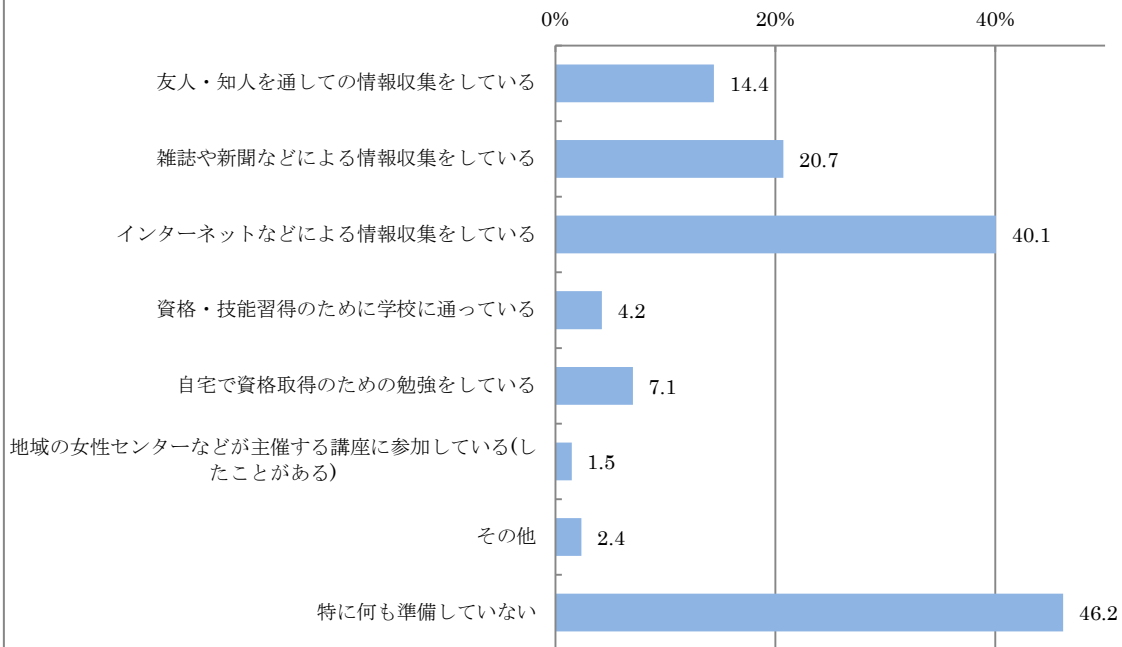
IV（離職型）_就職の際重視する条件(Q32)
(n=1345)



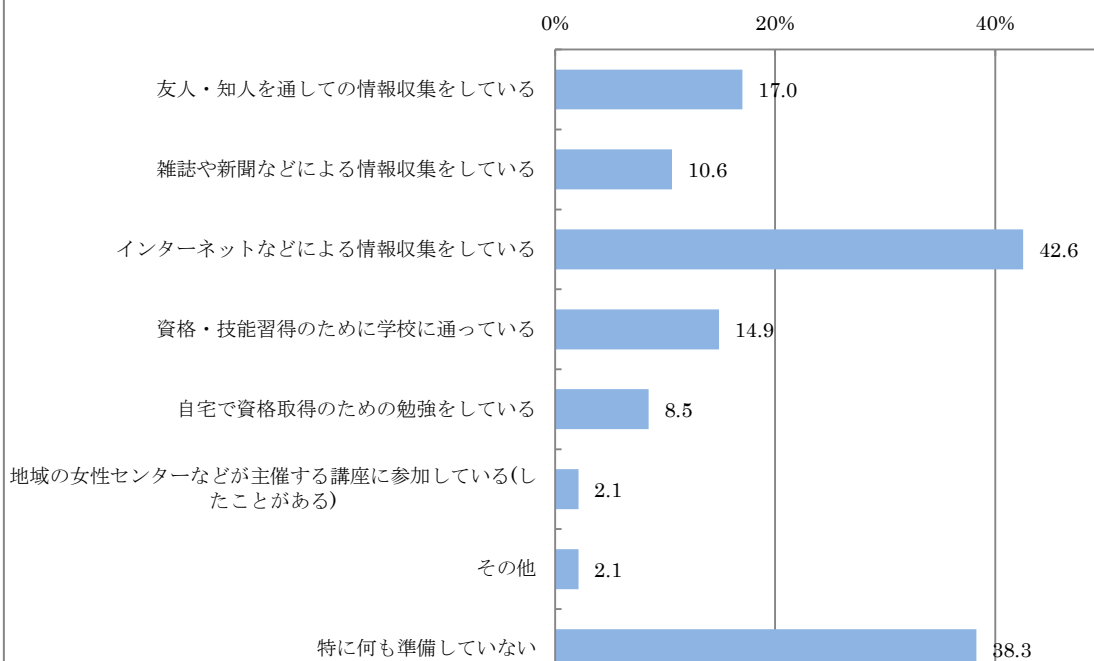
V（就業経験なし）_就職の際重視する条件(Q32)
(n=47)



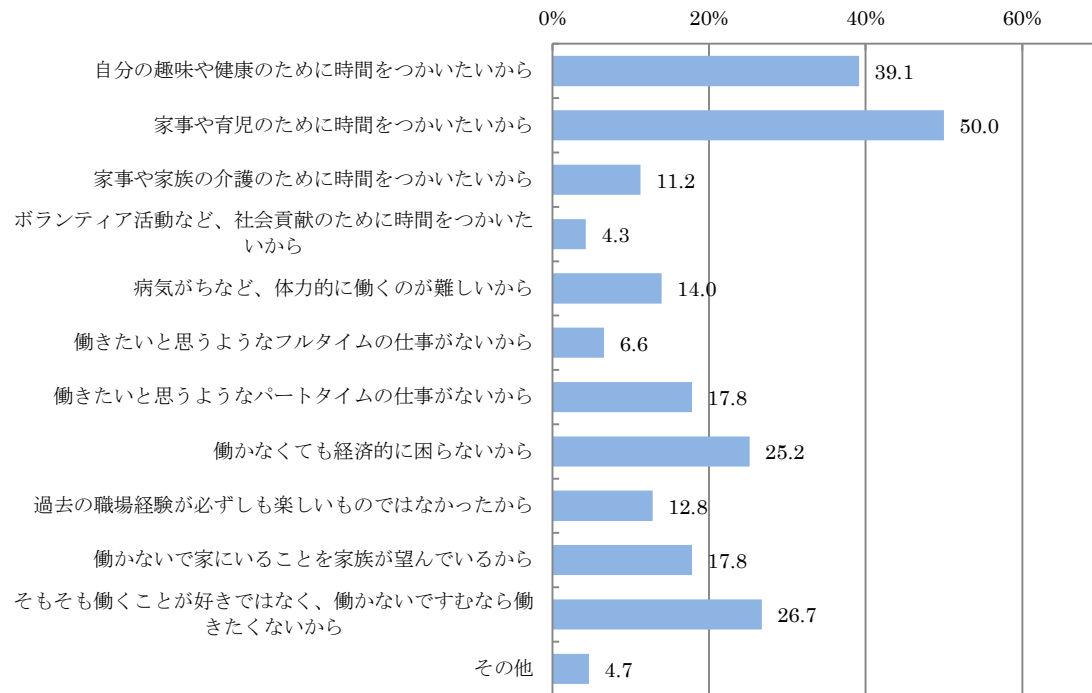
IV（離職型）_就職・再就職への準備(Q33)
(n=1345)



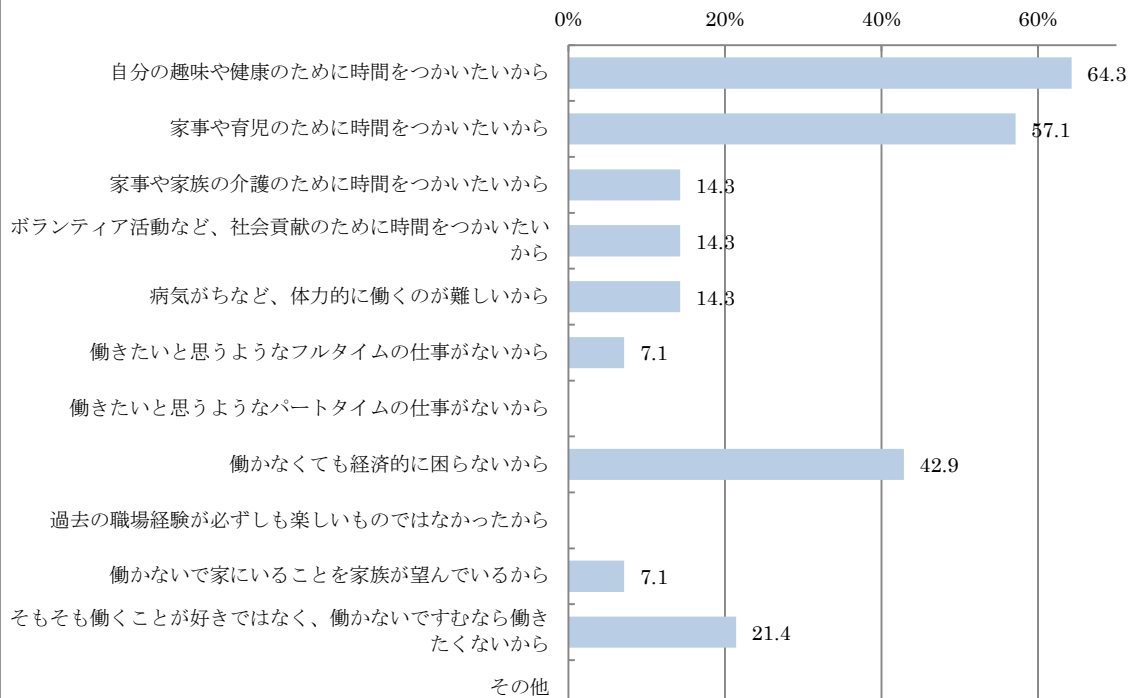
V（就業経験なし）_就職・再就職への準備(Q33)
(n=47)



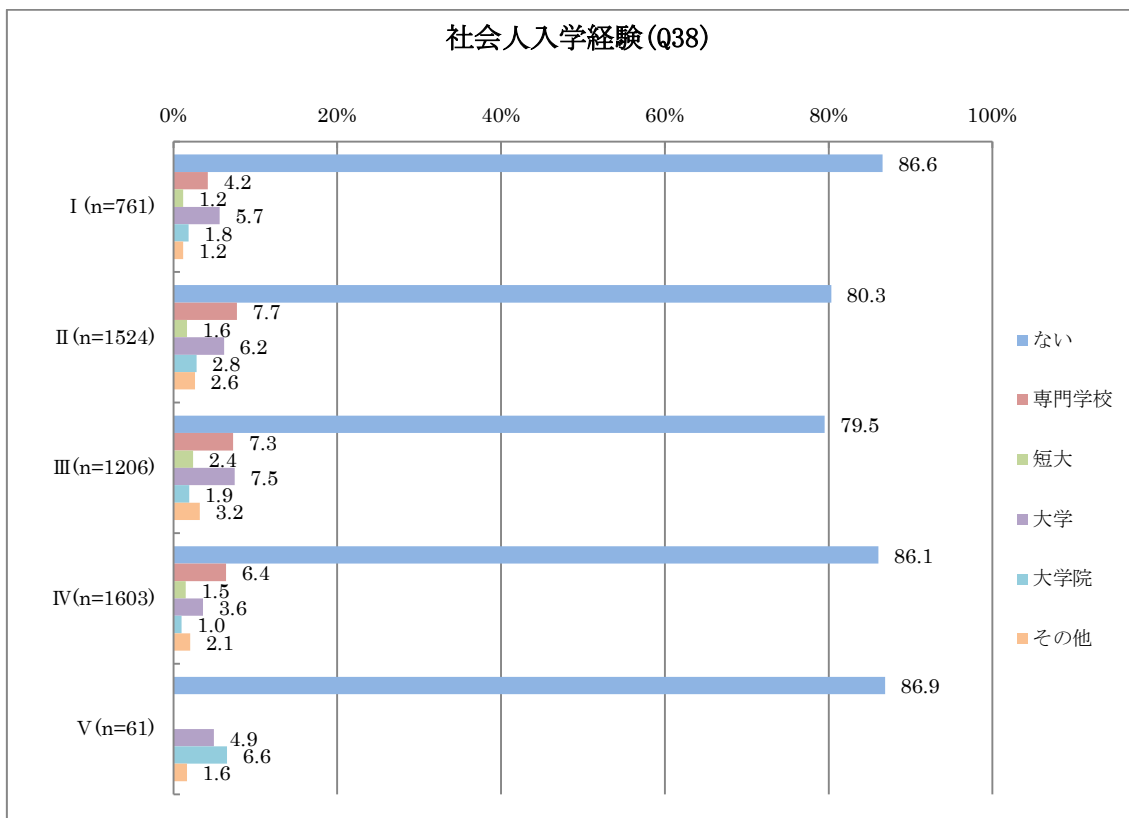
IV（離職型）_仕事をしたくない理由(Q34)
(n=258)



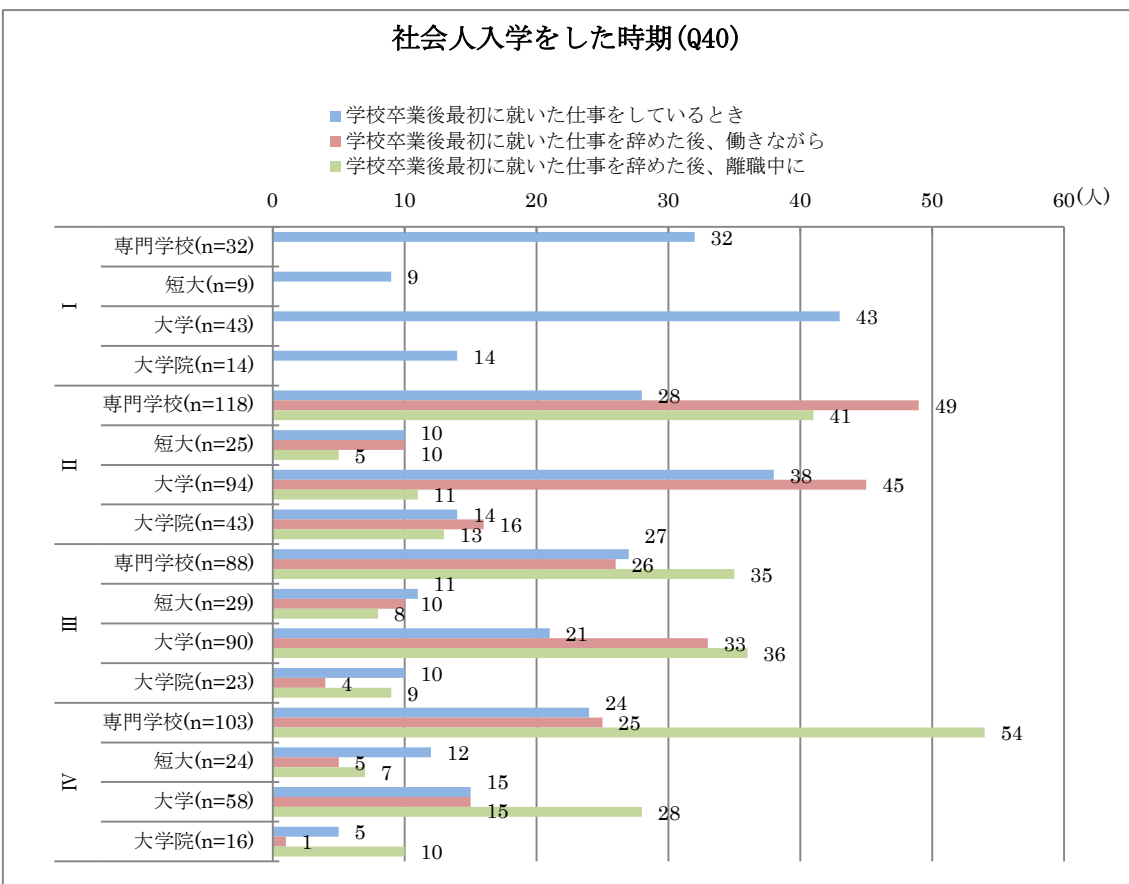
V（就業経験なし）_仕事をしたくない理由(Q34)
(n=14)



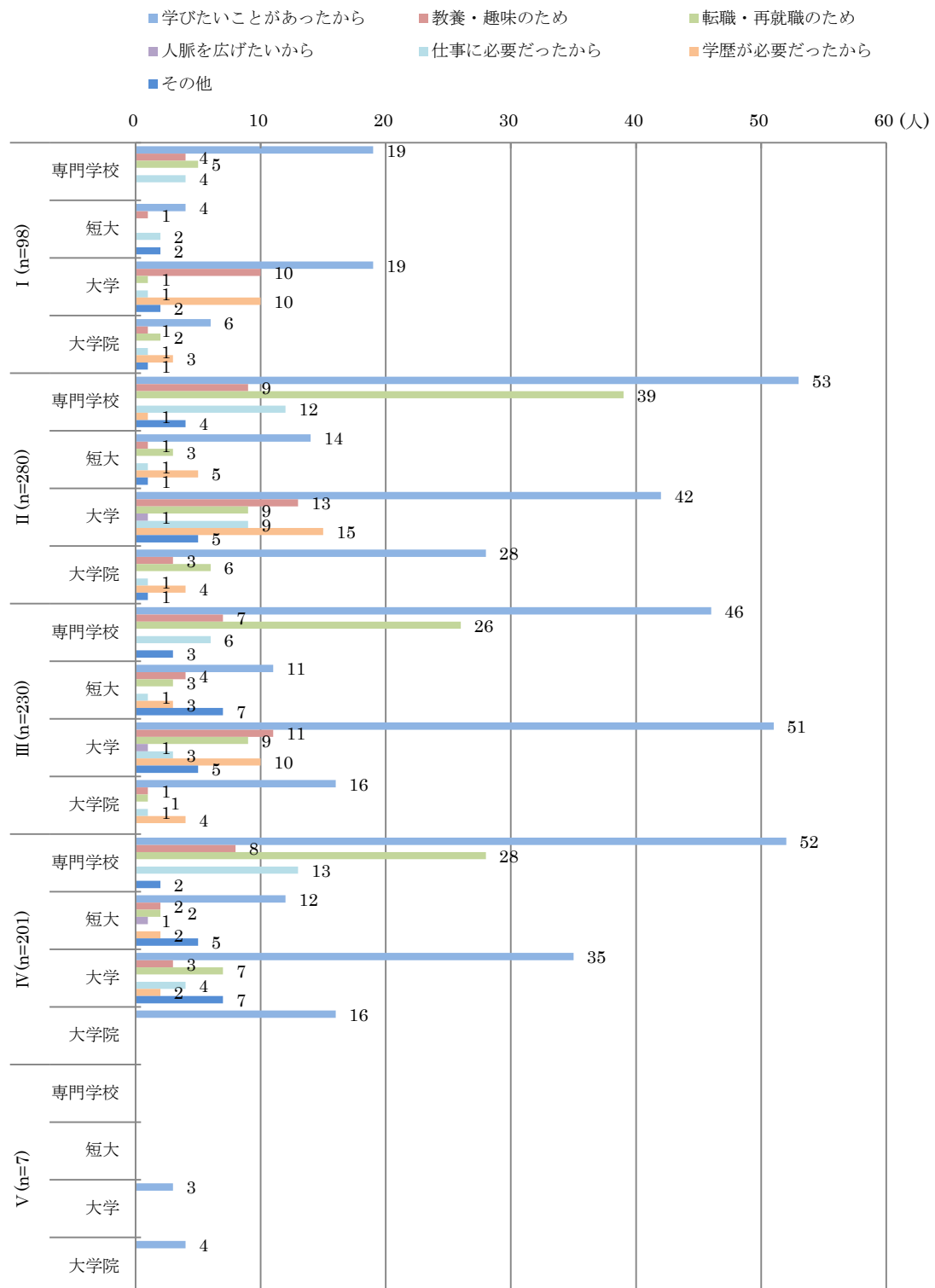
社会人入学経験 (Q38)



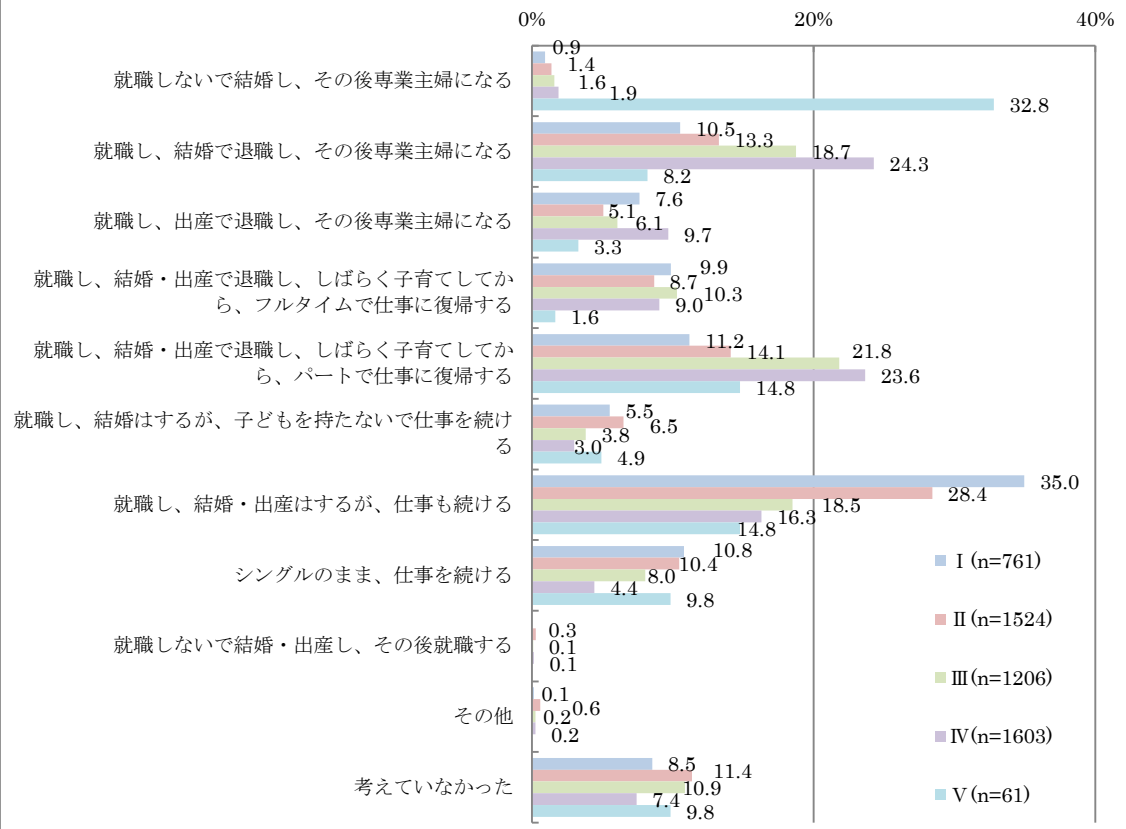
社会人入学をした時期 (Q40)



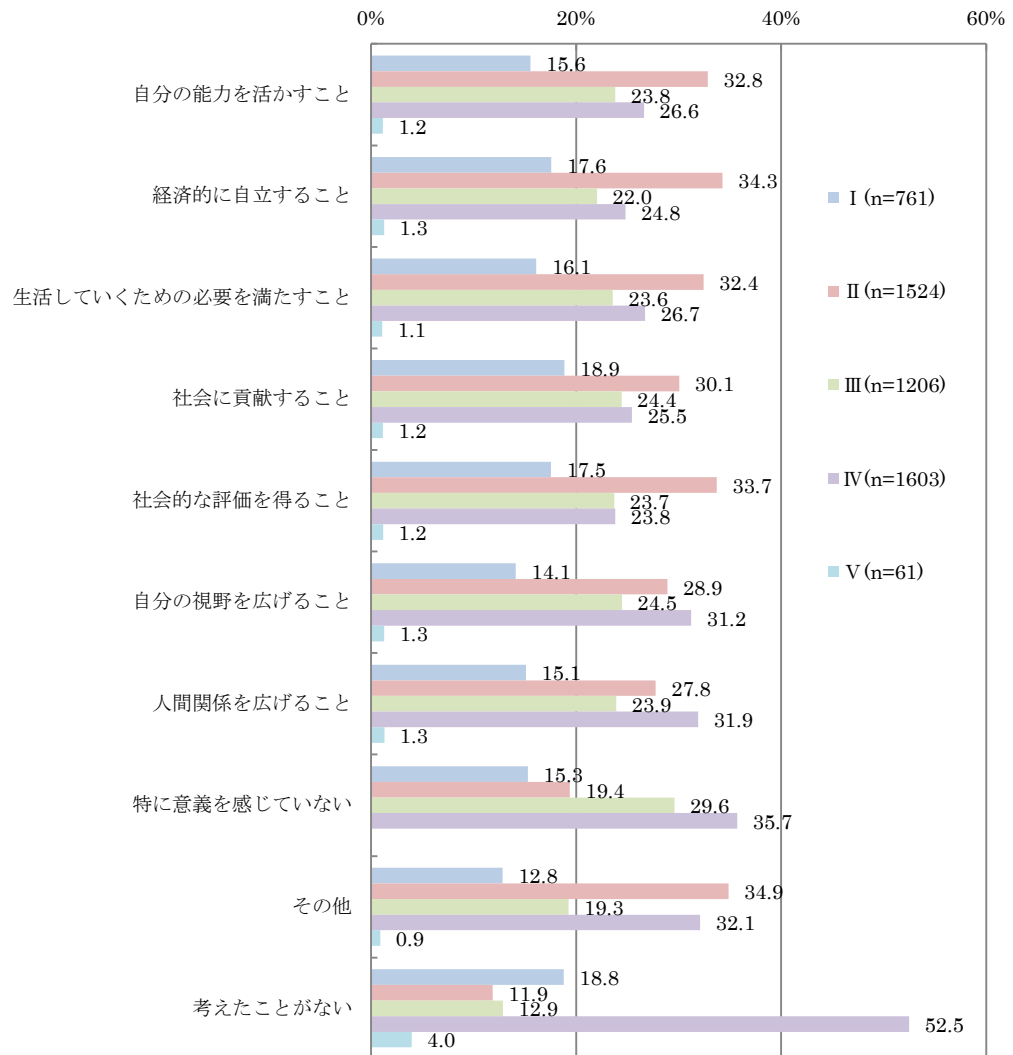
社会人入学の目的(Q41)



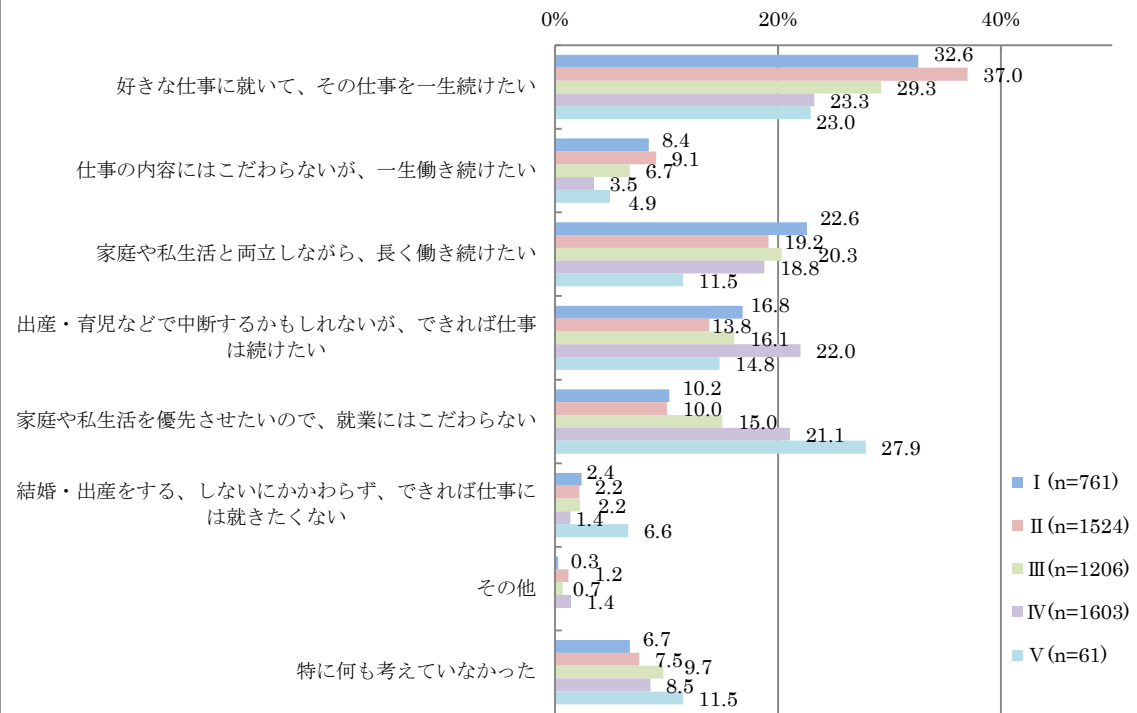
学卒時の理想のライフコース (Q42)



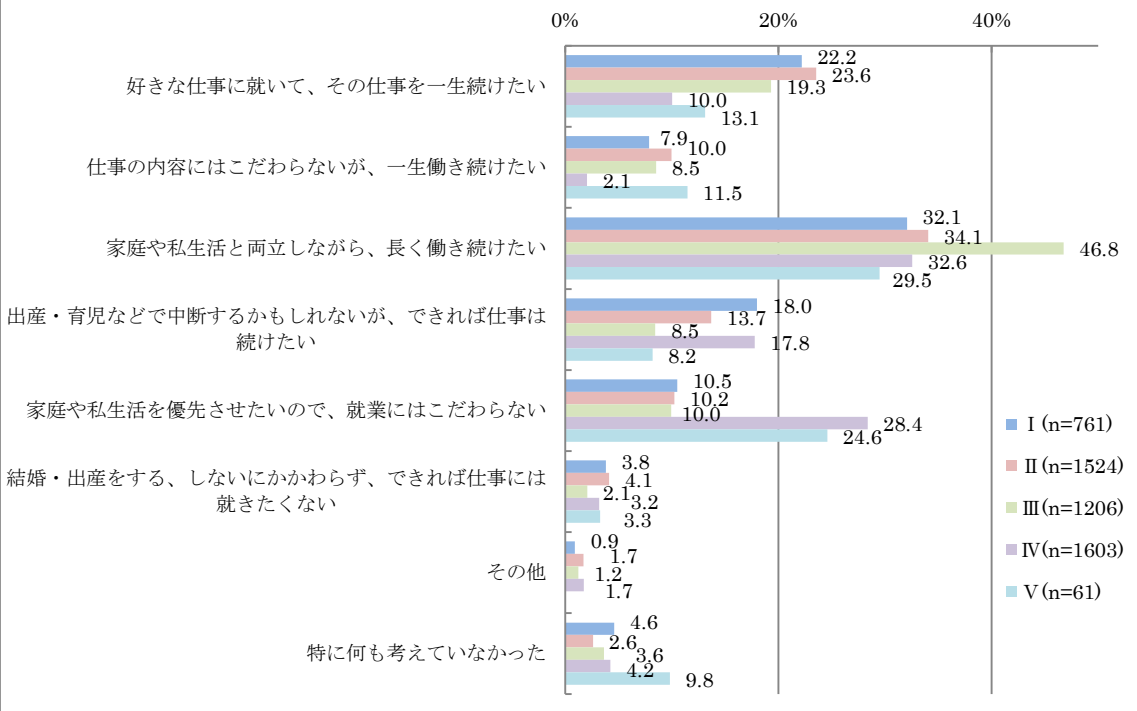
就業の意義(Q44)

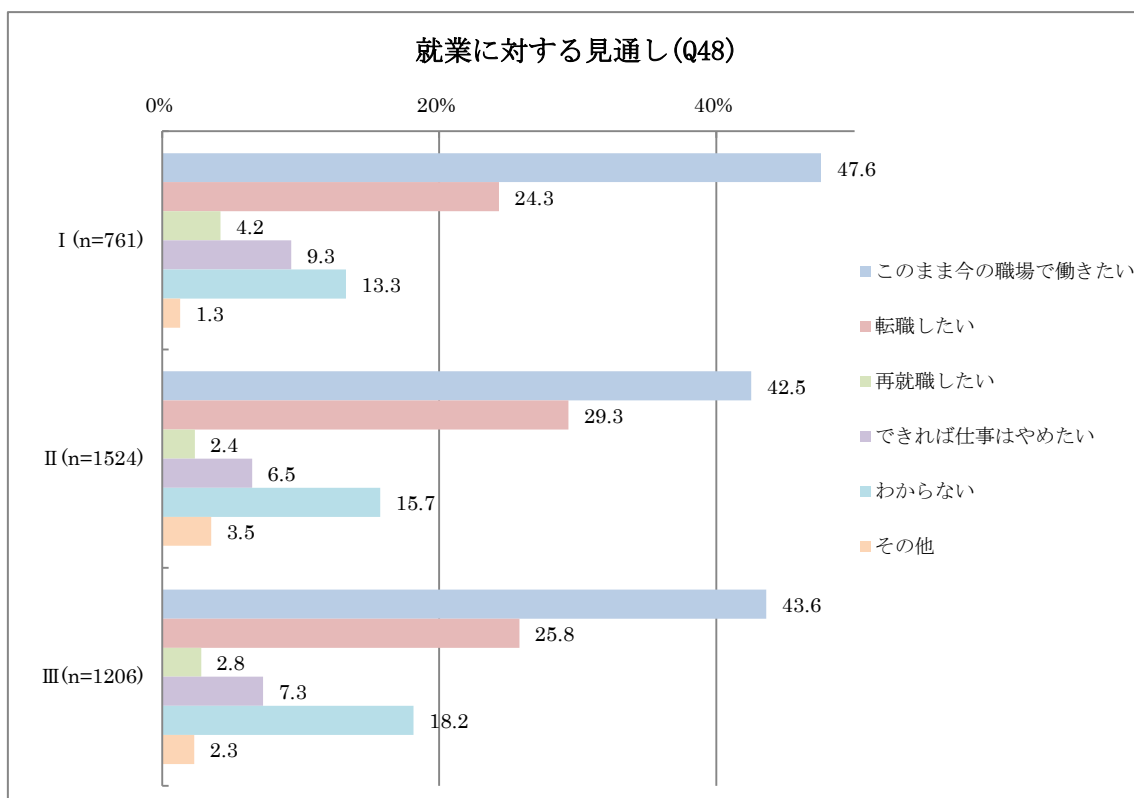
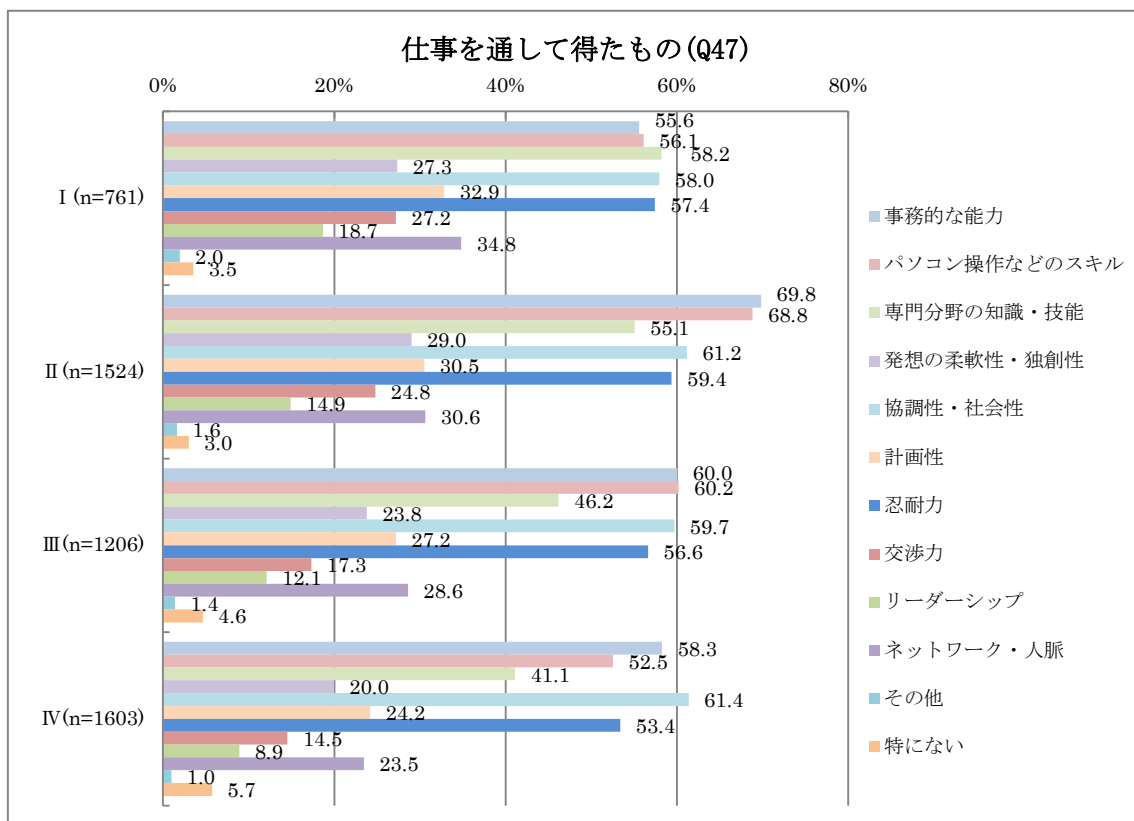


学卒時の理想的働き方(Q45)

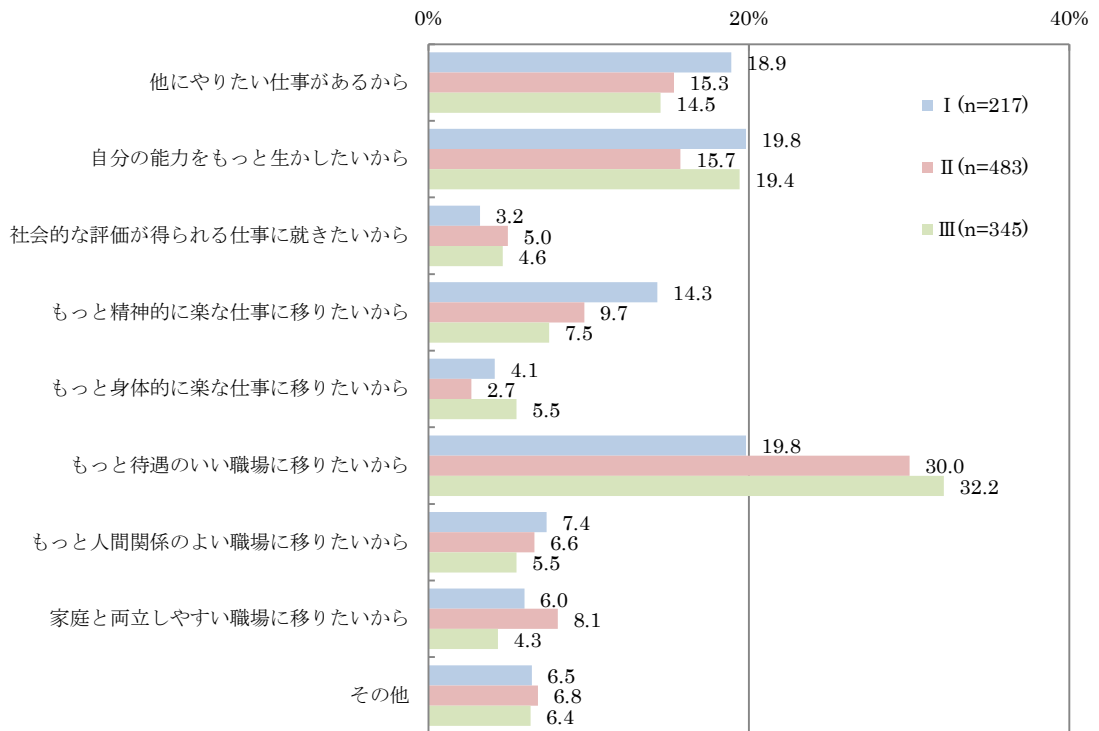


現在の理想働き方(Q46)

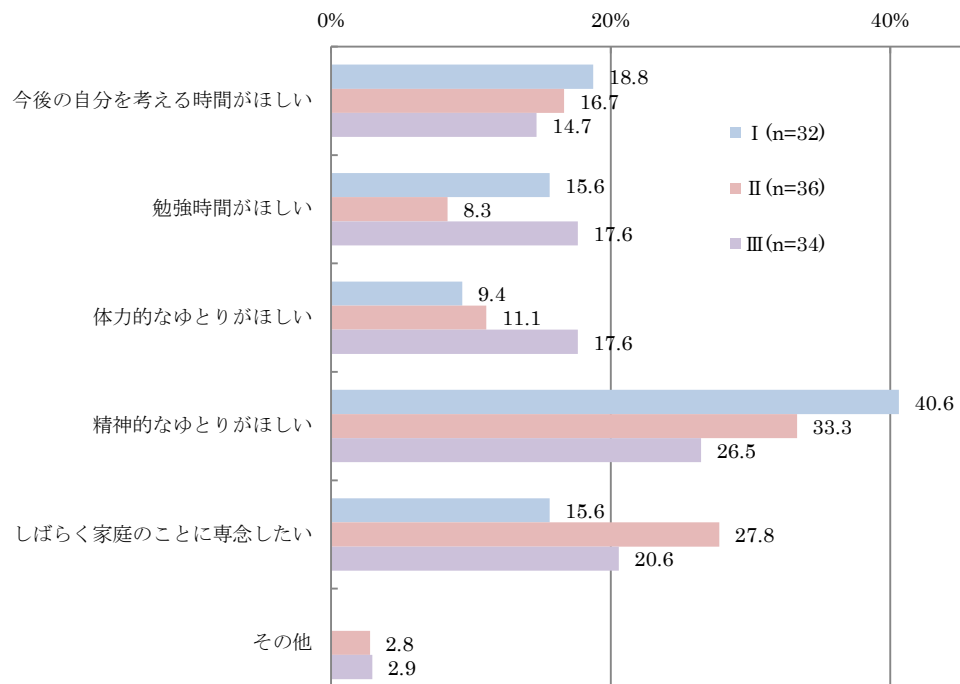




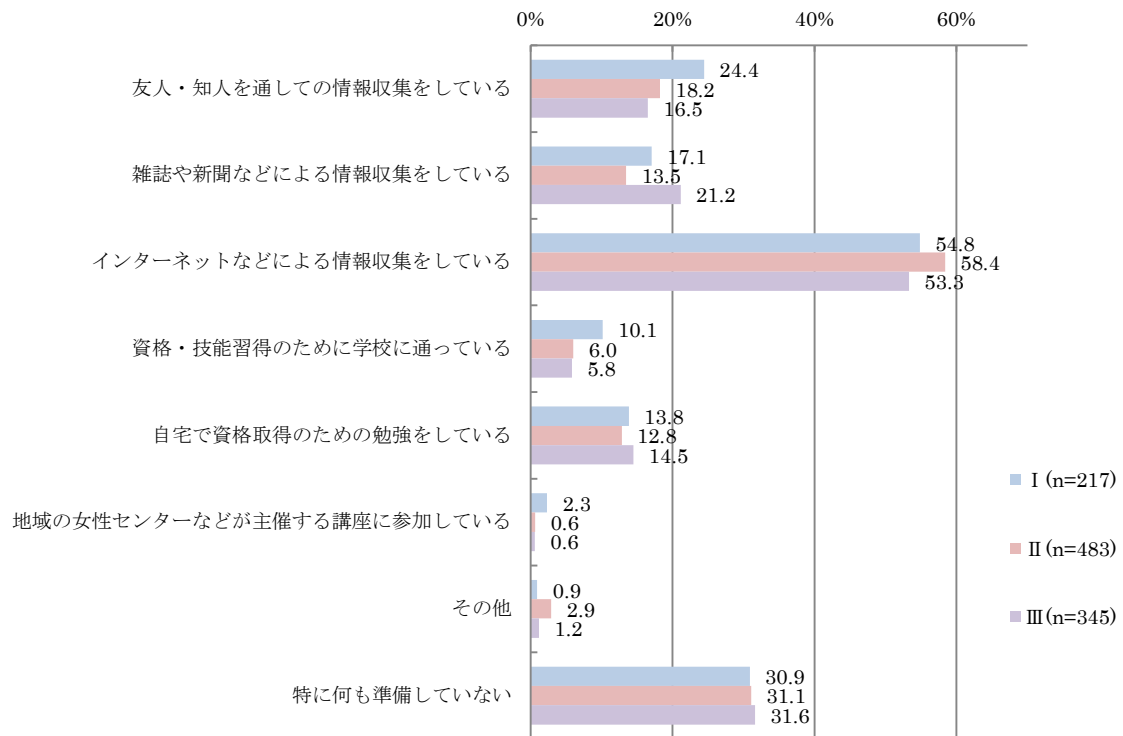
有業層の転職・再就職希望理由 (Q49)



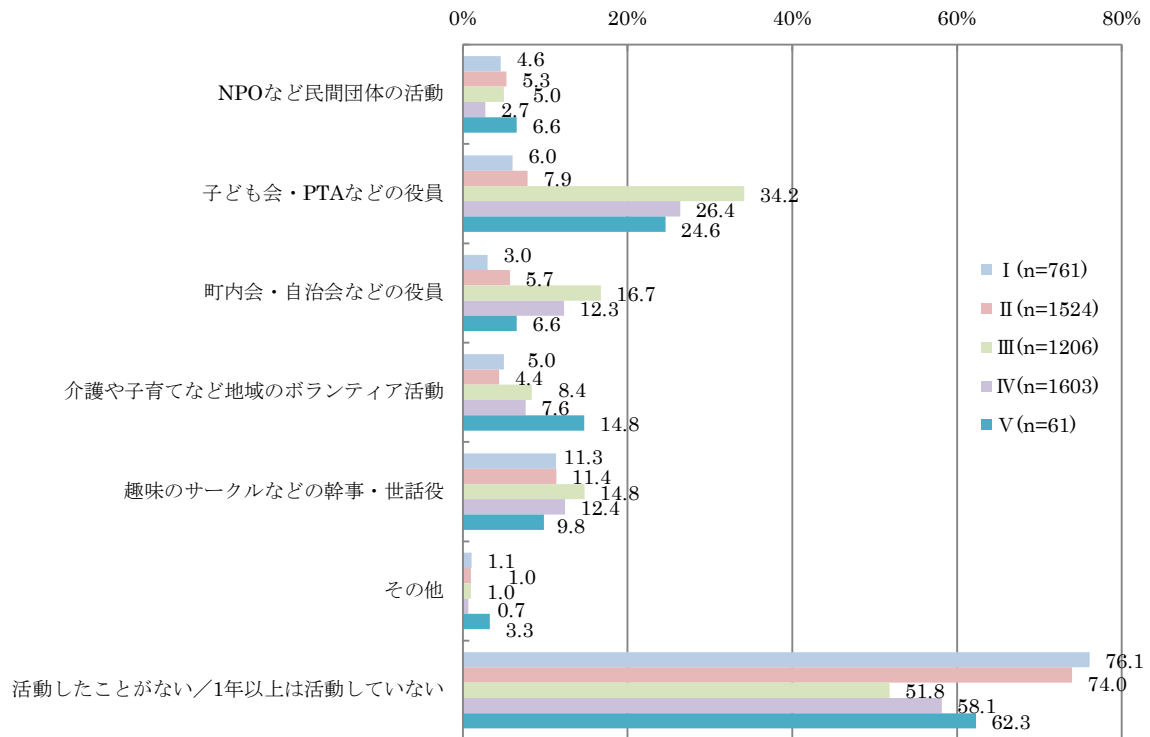
休業期間希望理由 (Q50)

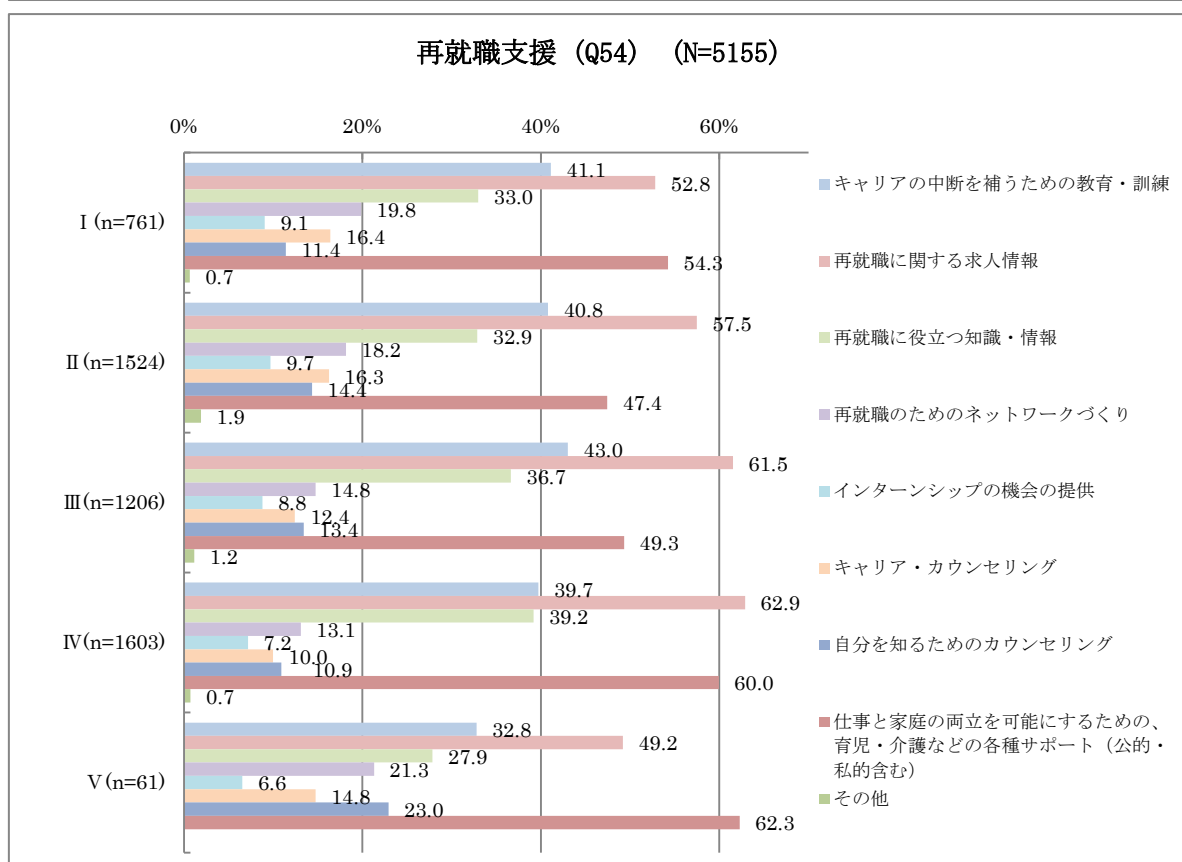
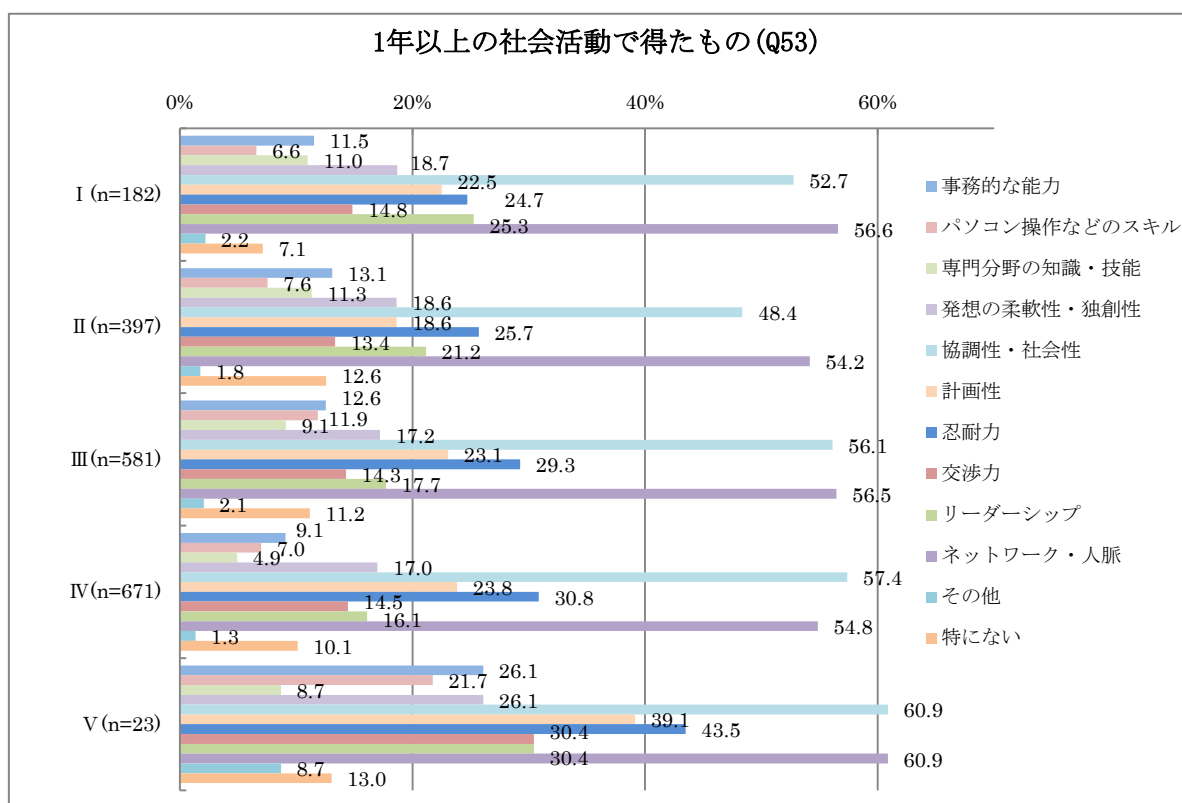


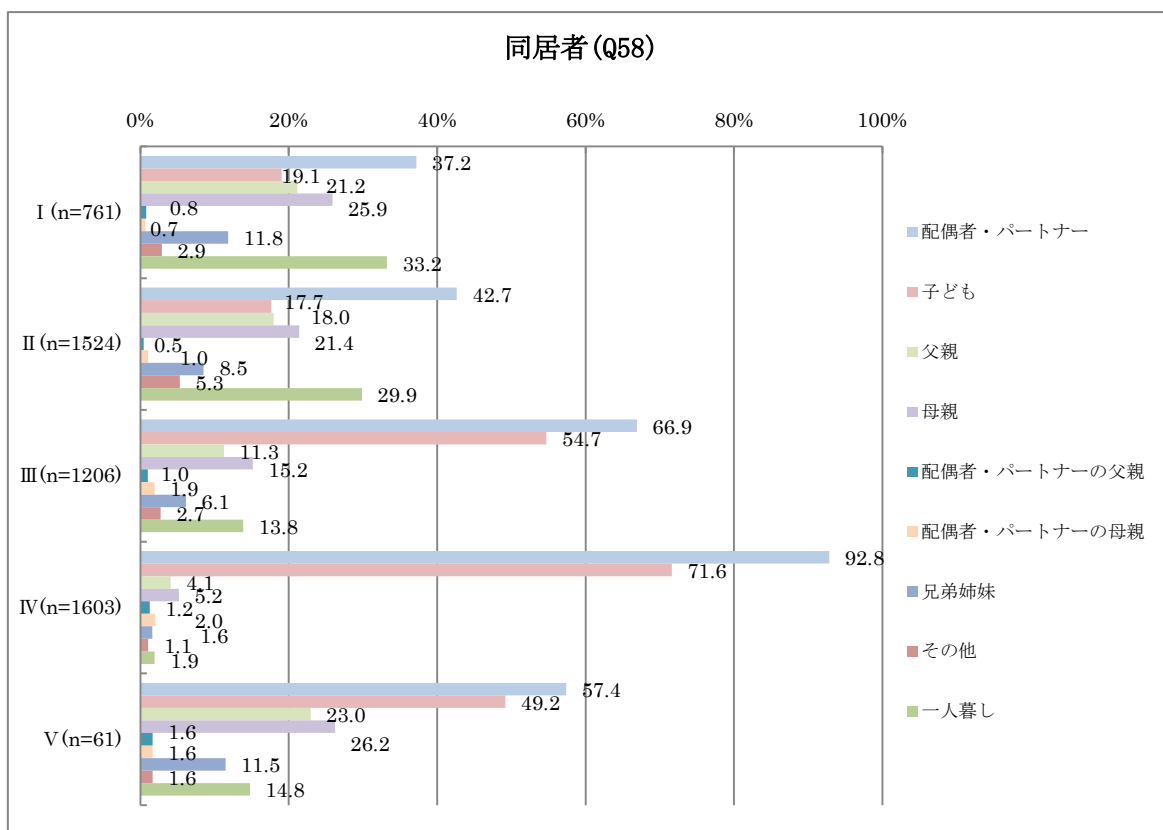
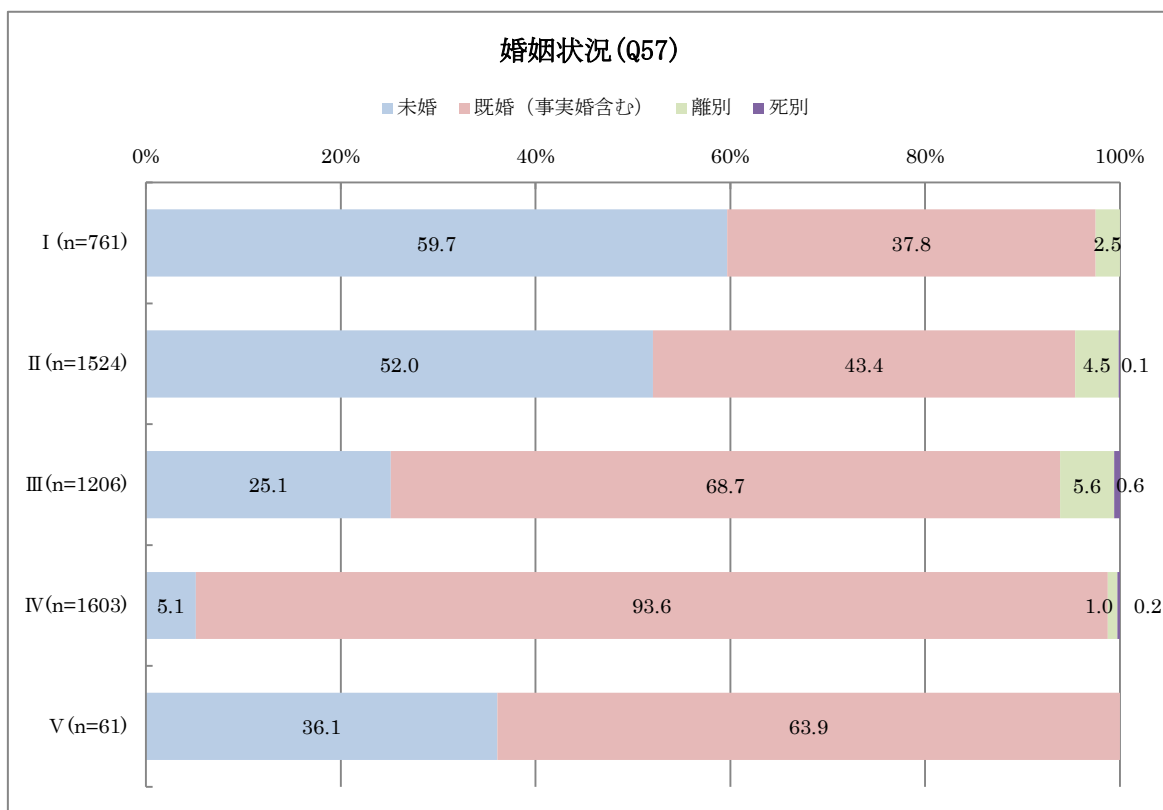
転職・再就職への準備 (Q51)

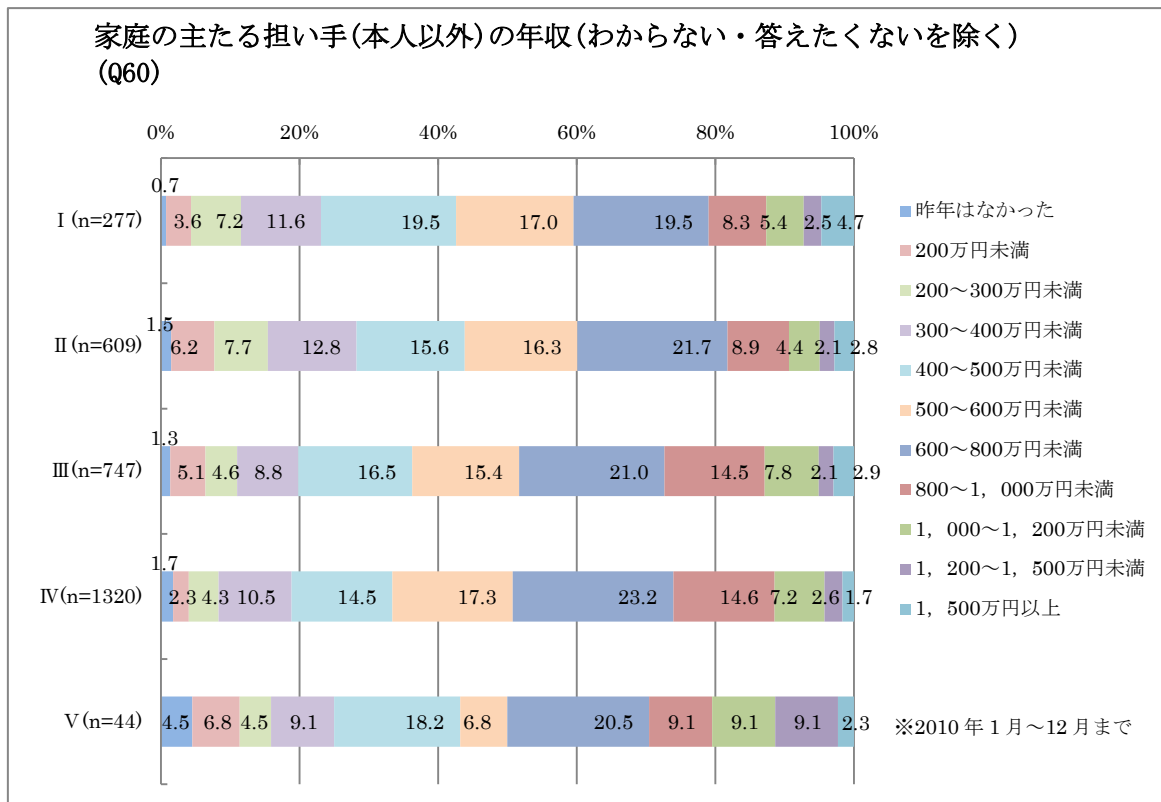
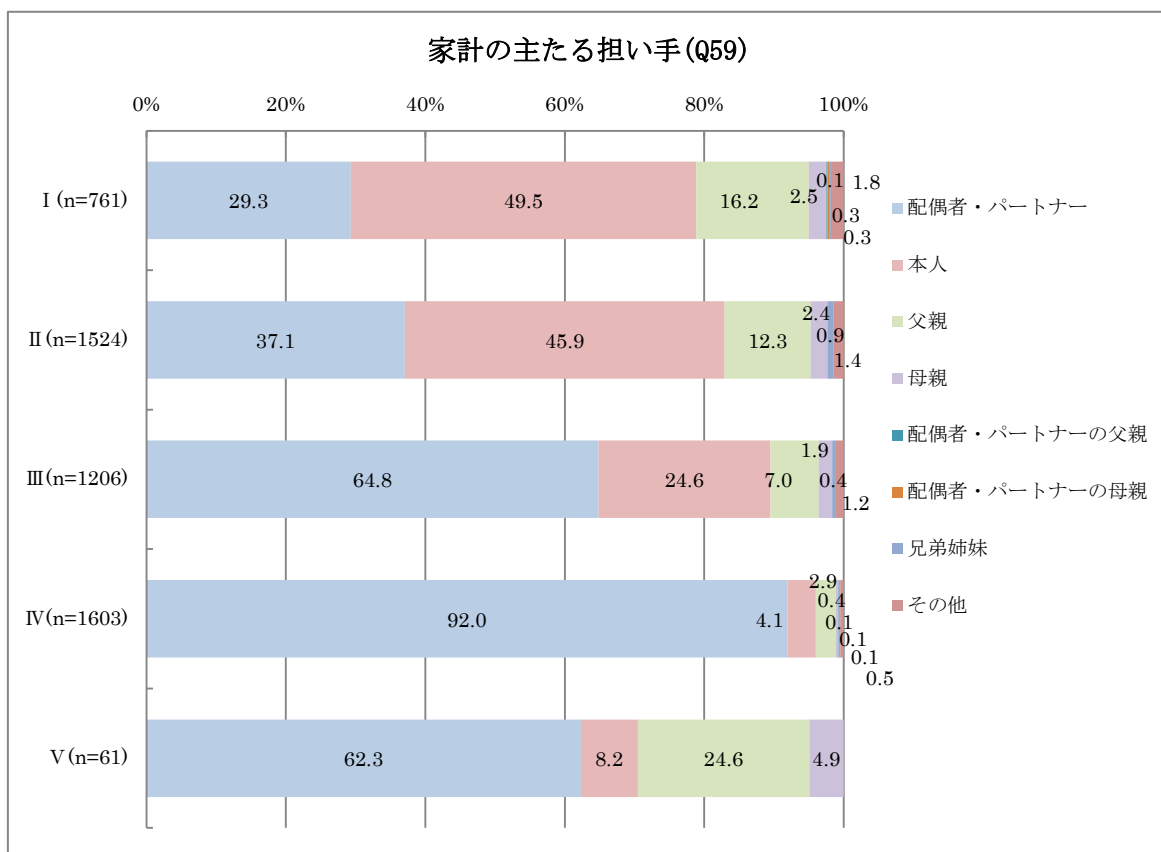


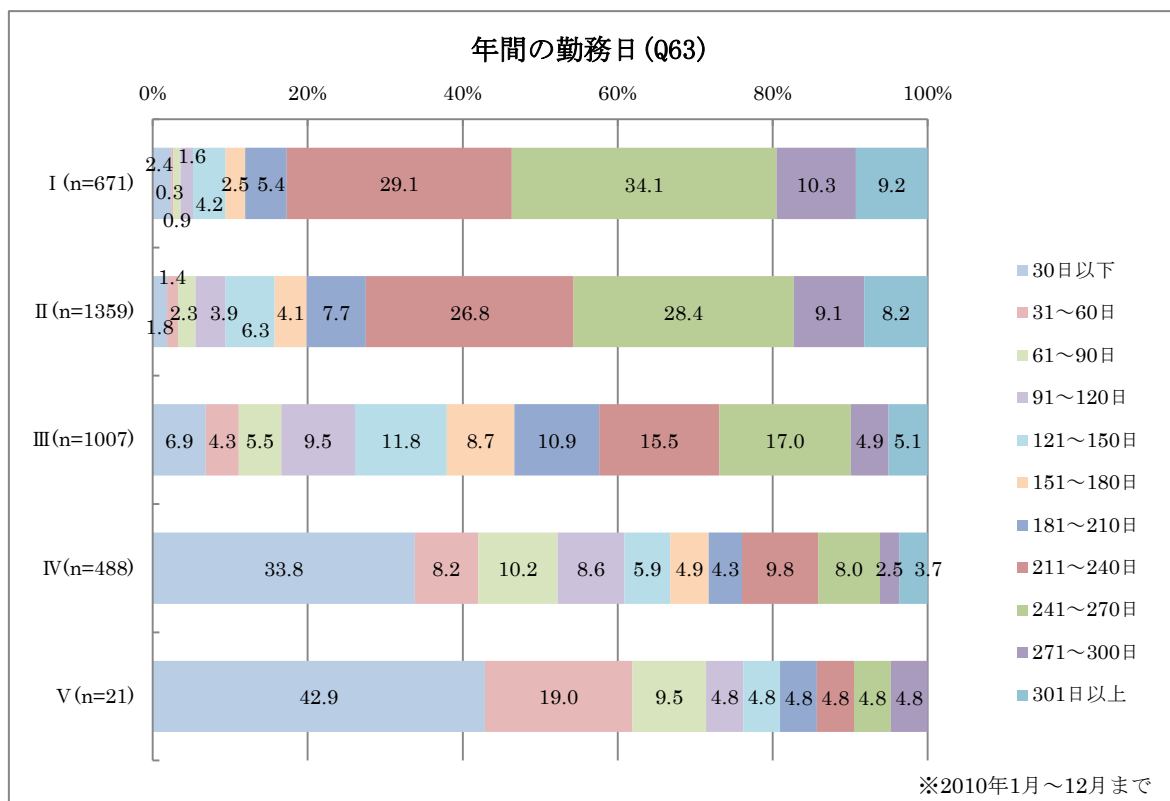
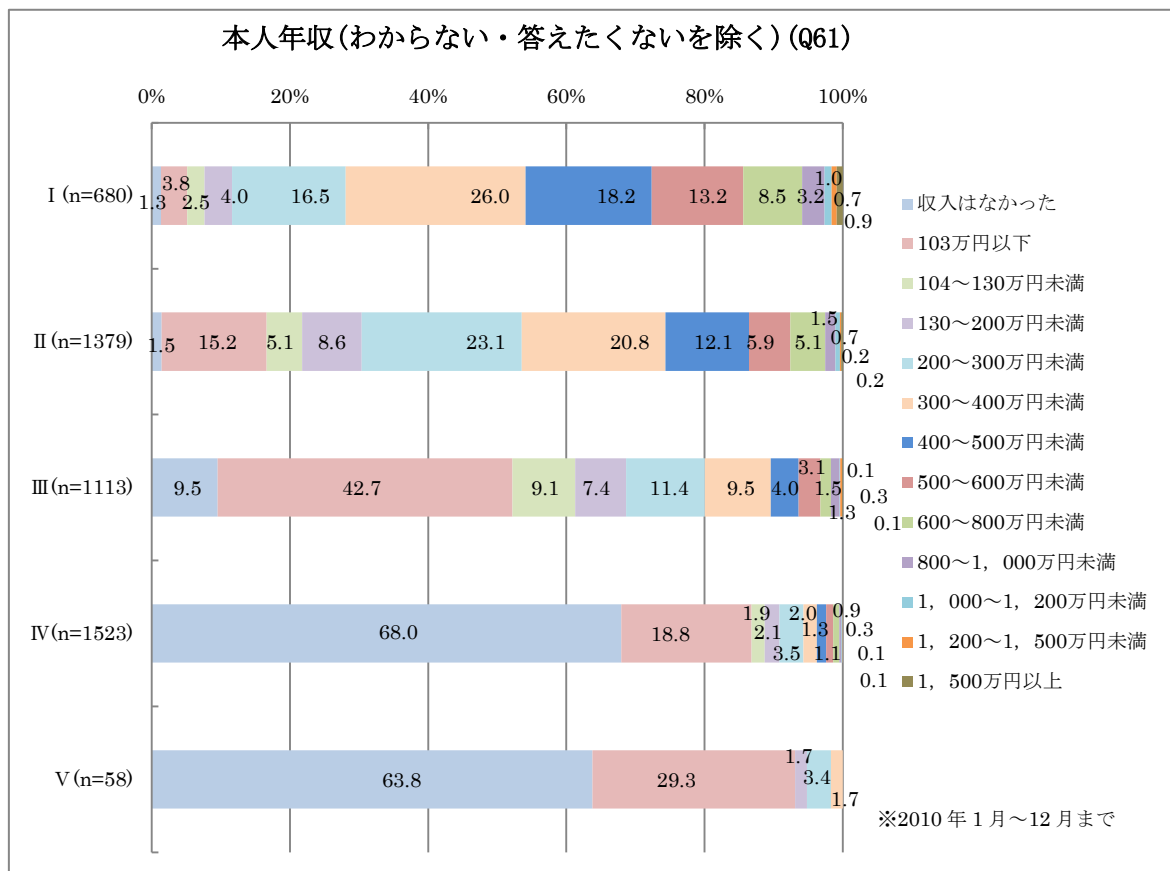
社会活動 (Q52) (N=5155)



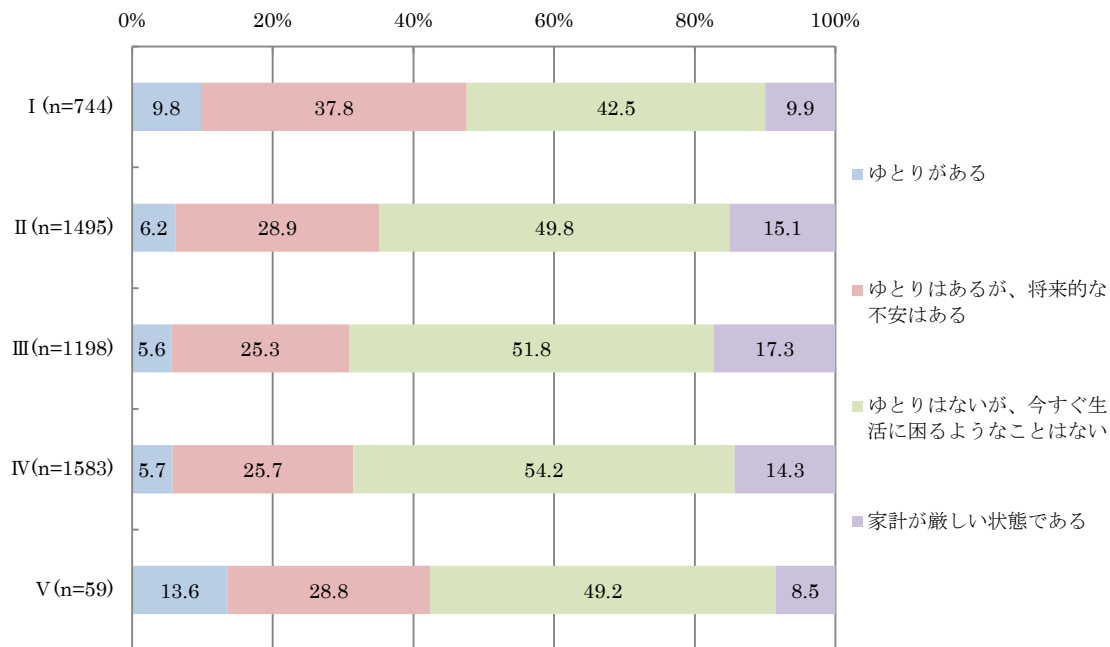




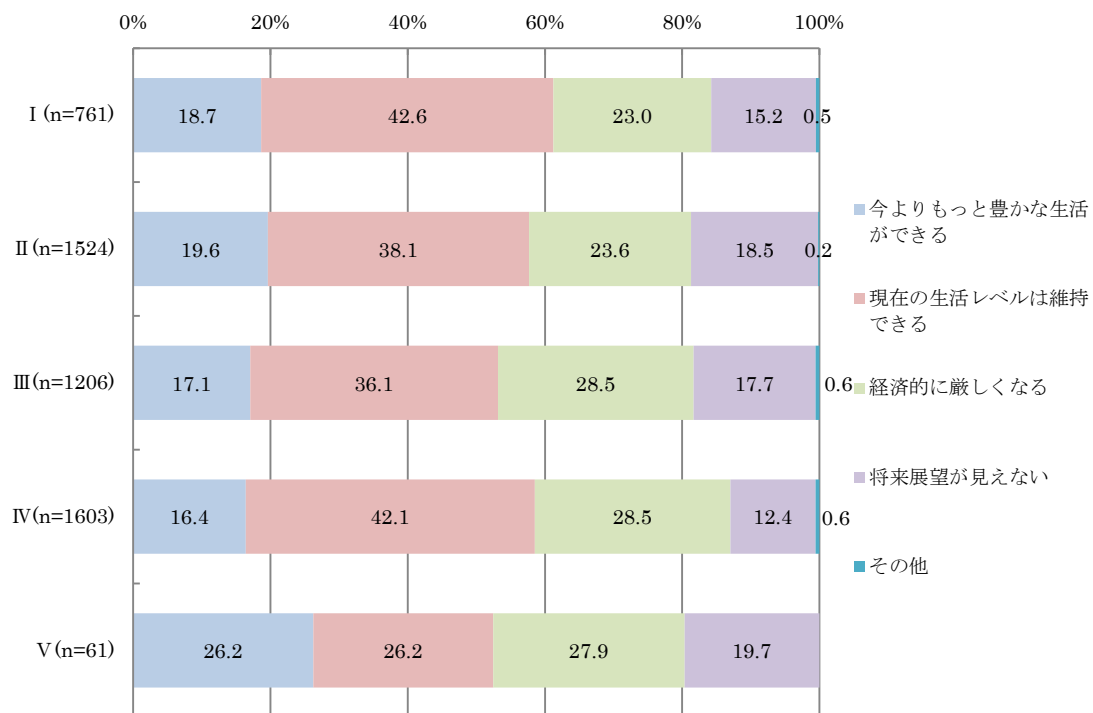


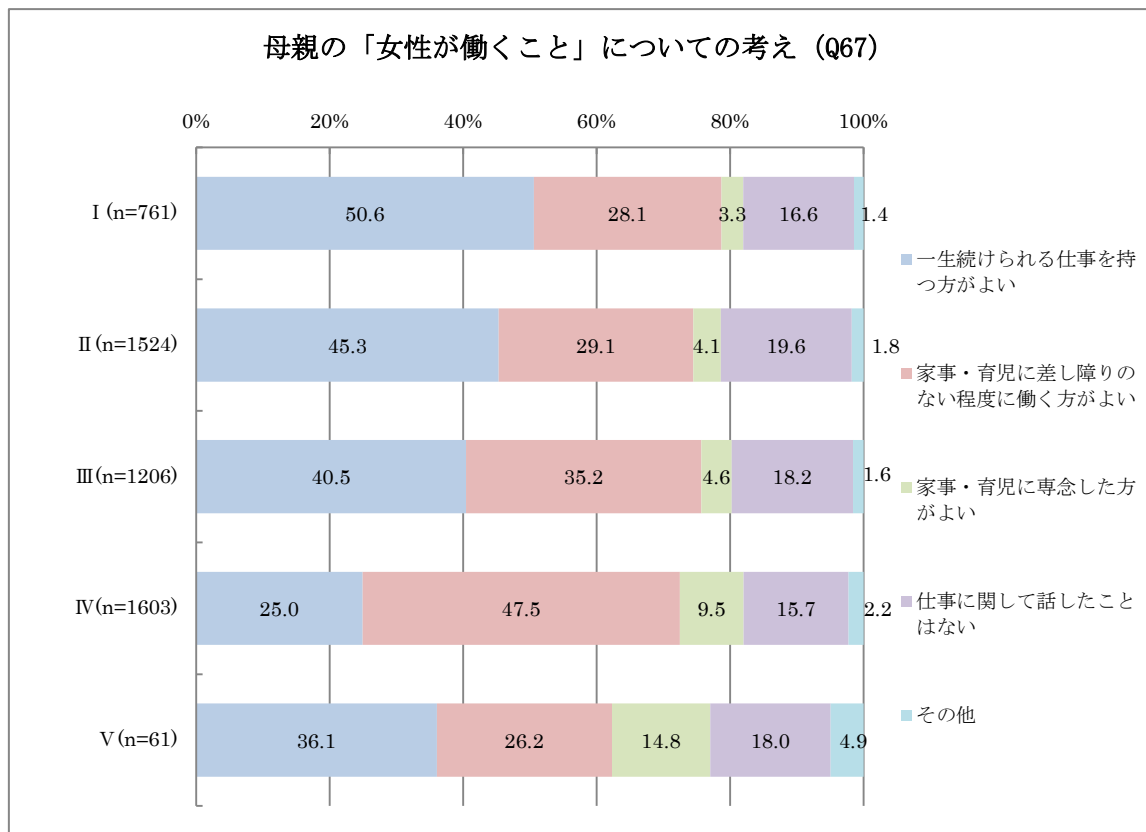
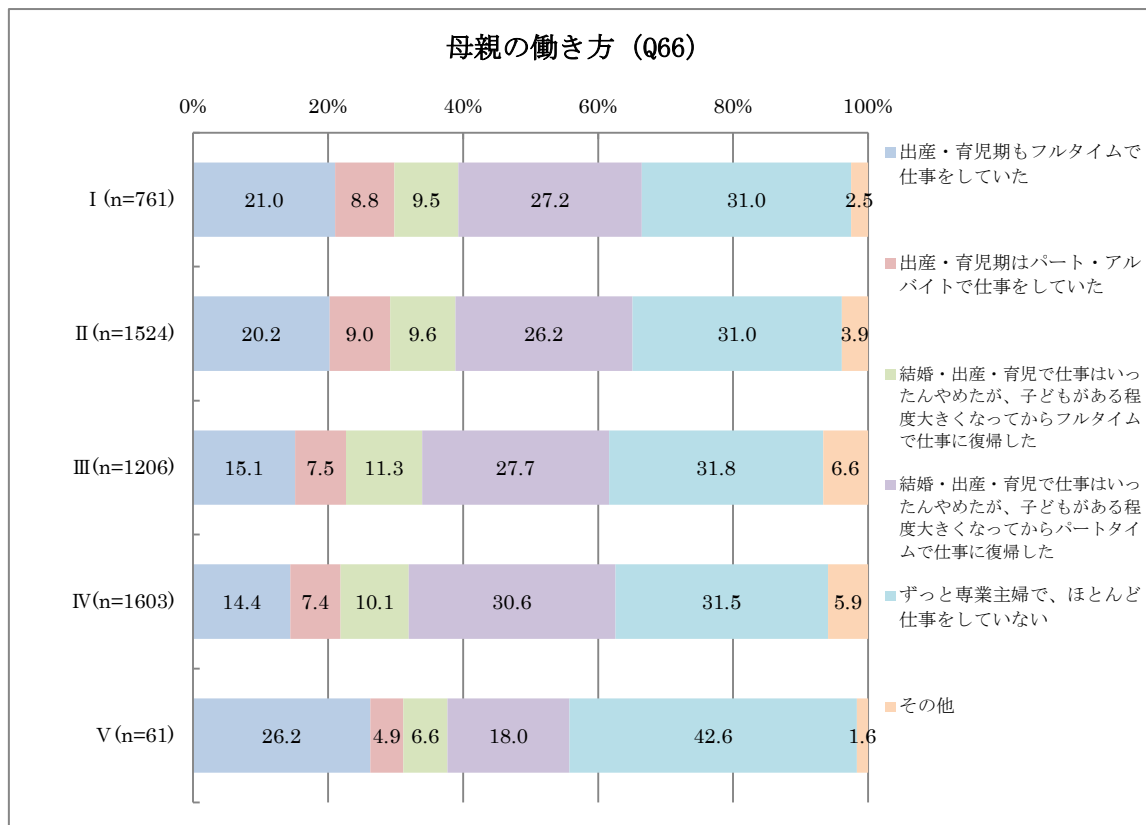


家庭の経済状況(わからないを除く) (Q64)

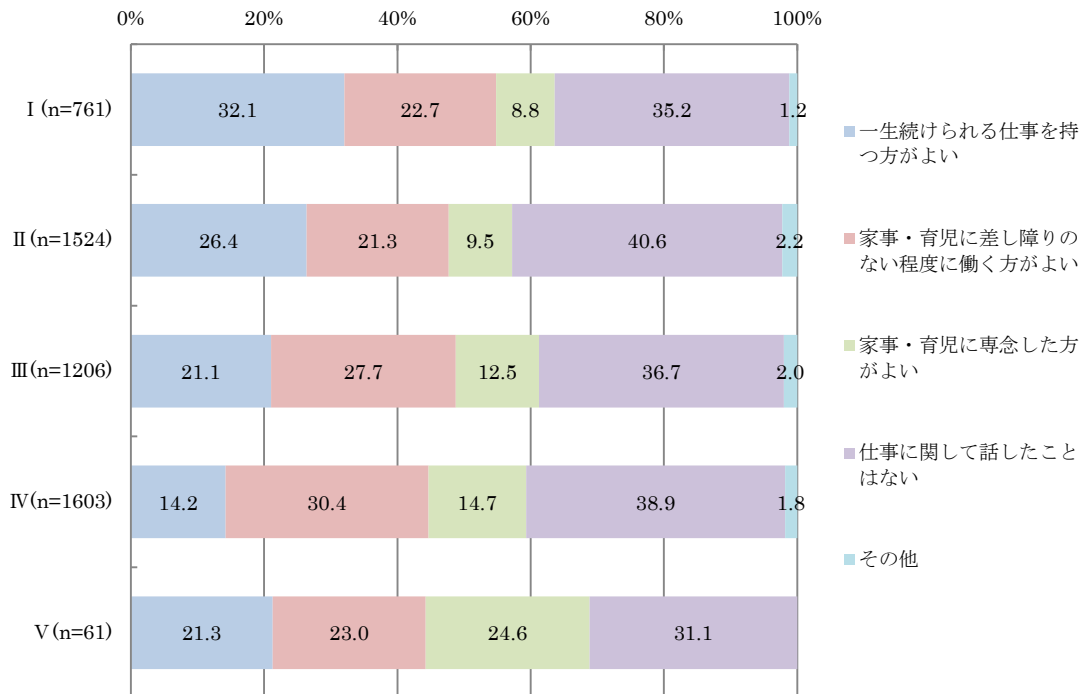


将来展望 (Q65)

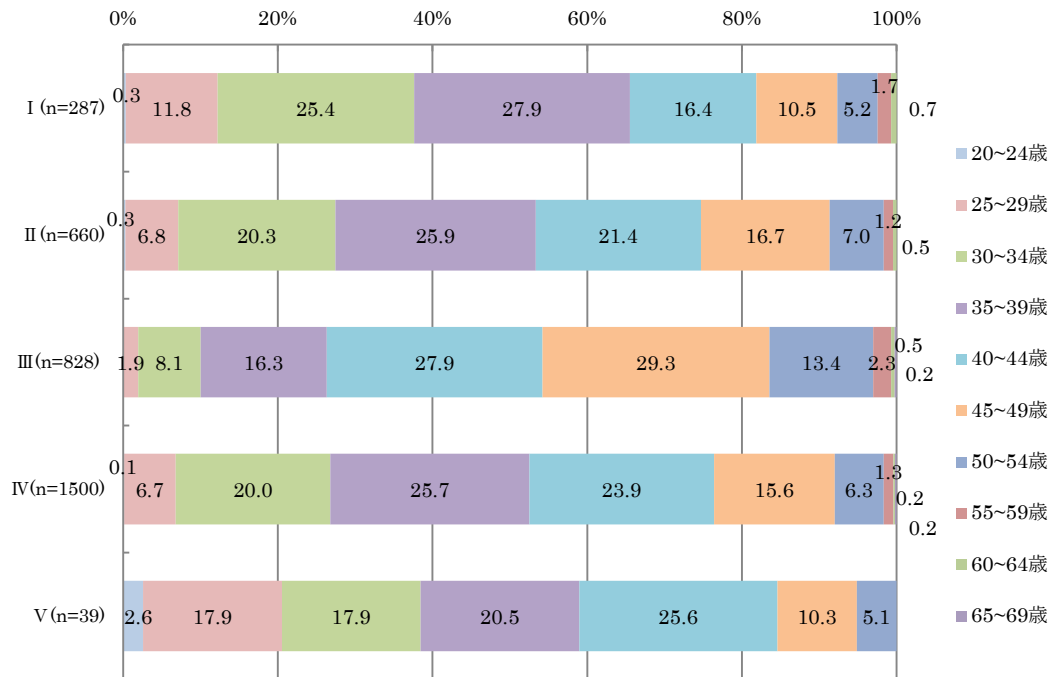




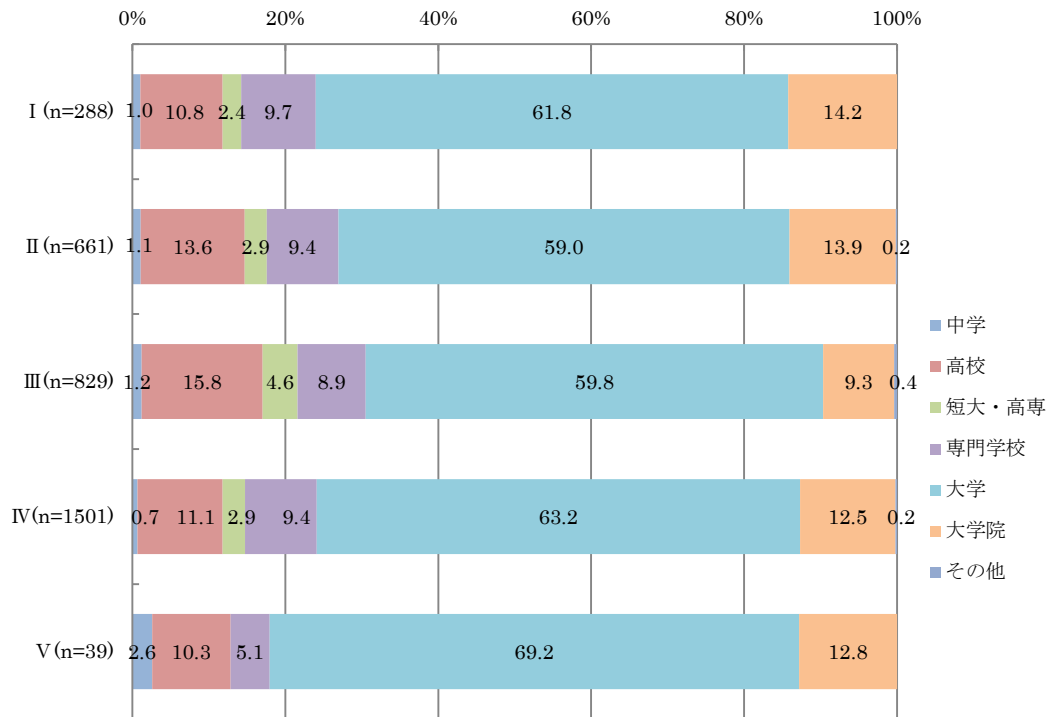
父親の「女性が働くこと」についての考え (Q68)



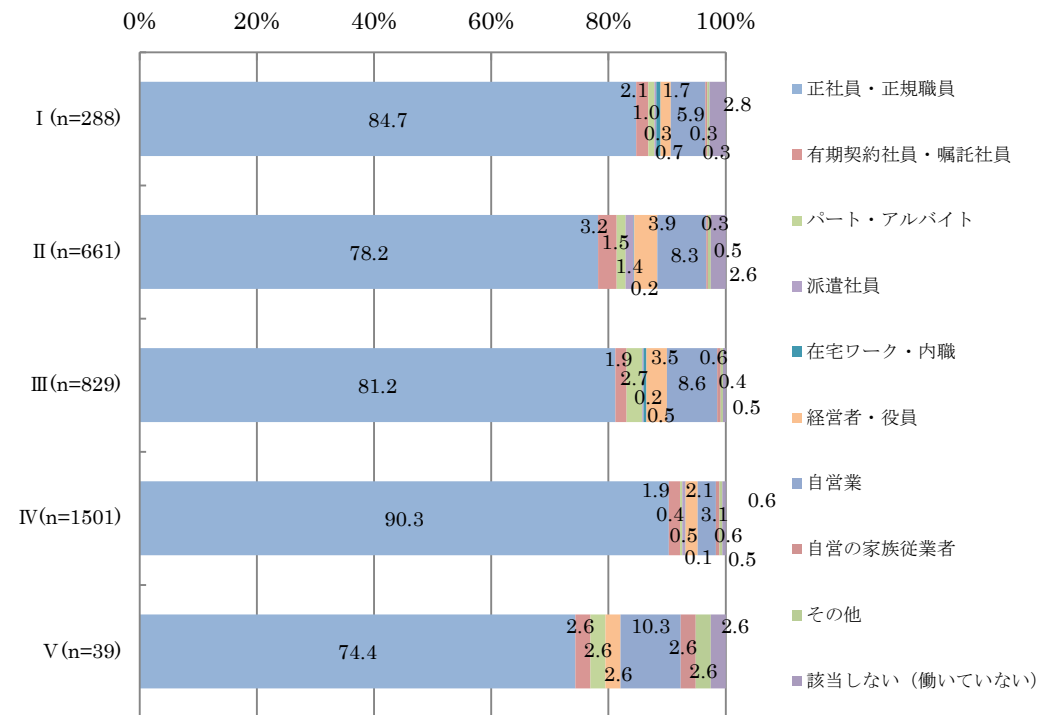
配偶者・パートナーの年齢 (Q69)

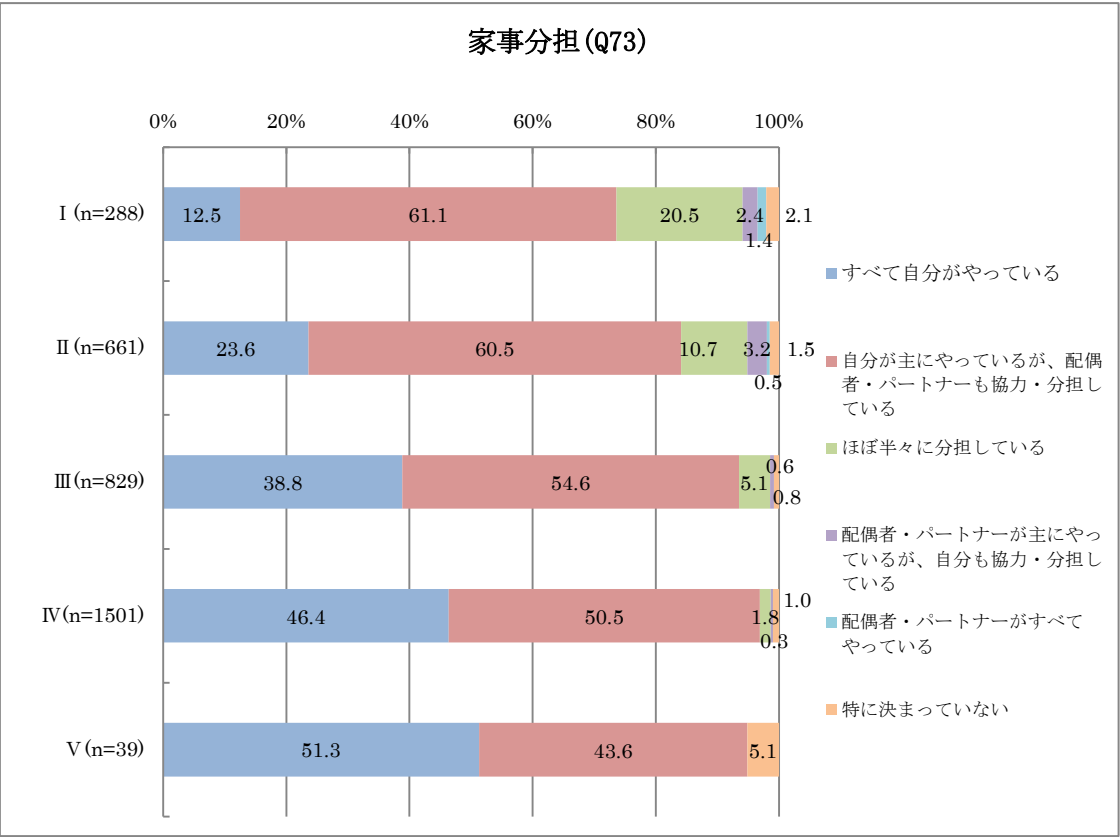
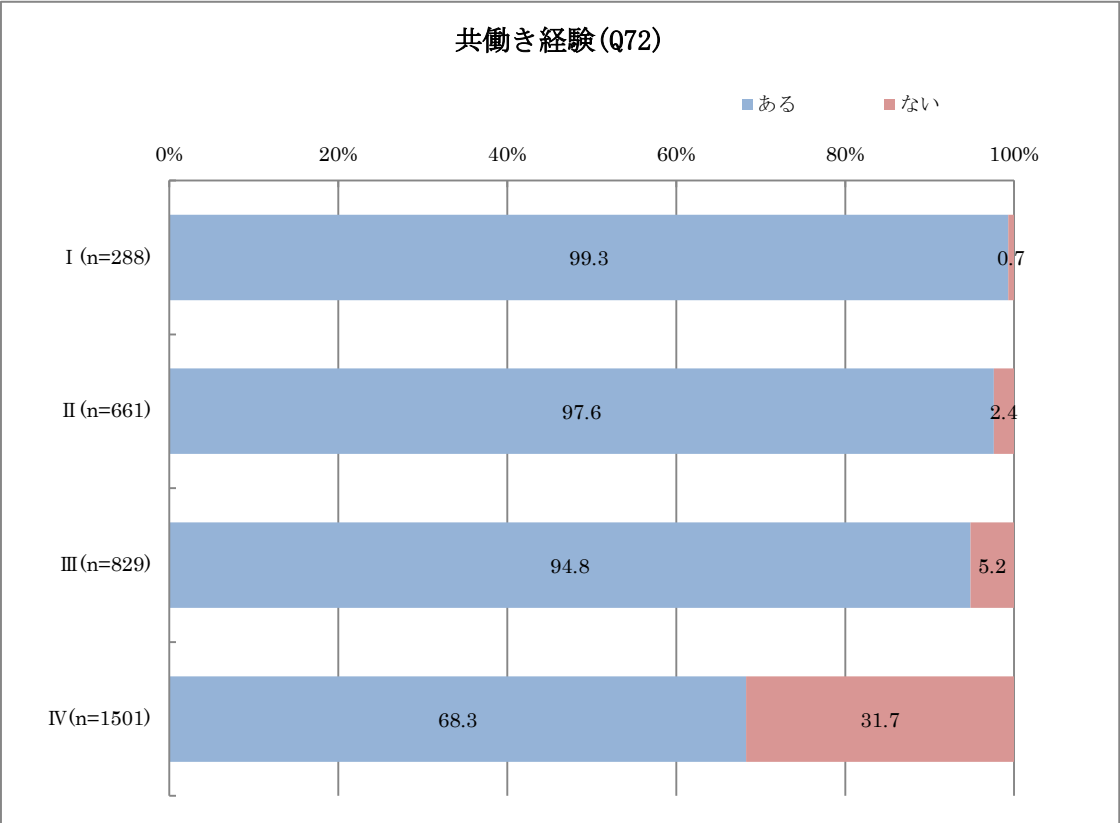


配偶者・パートナーの最終学歴(Q70)

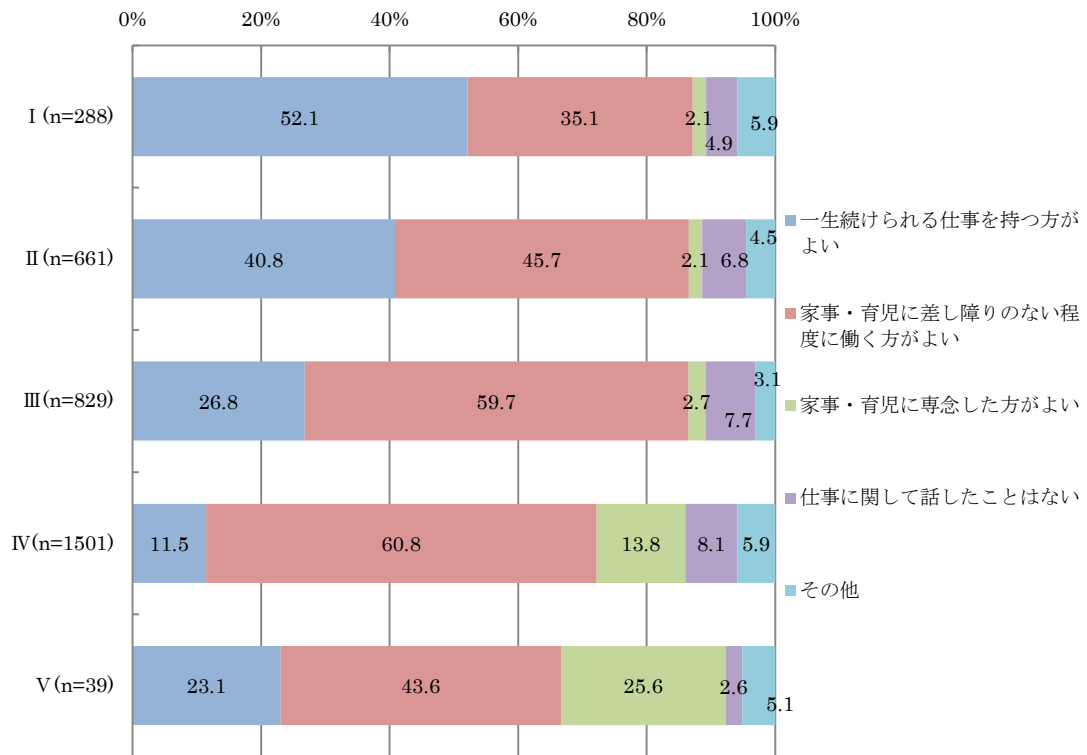


配偶者・パートナーの就業形態(Q71)

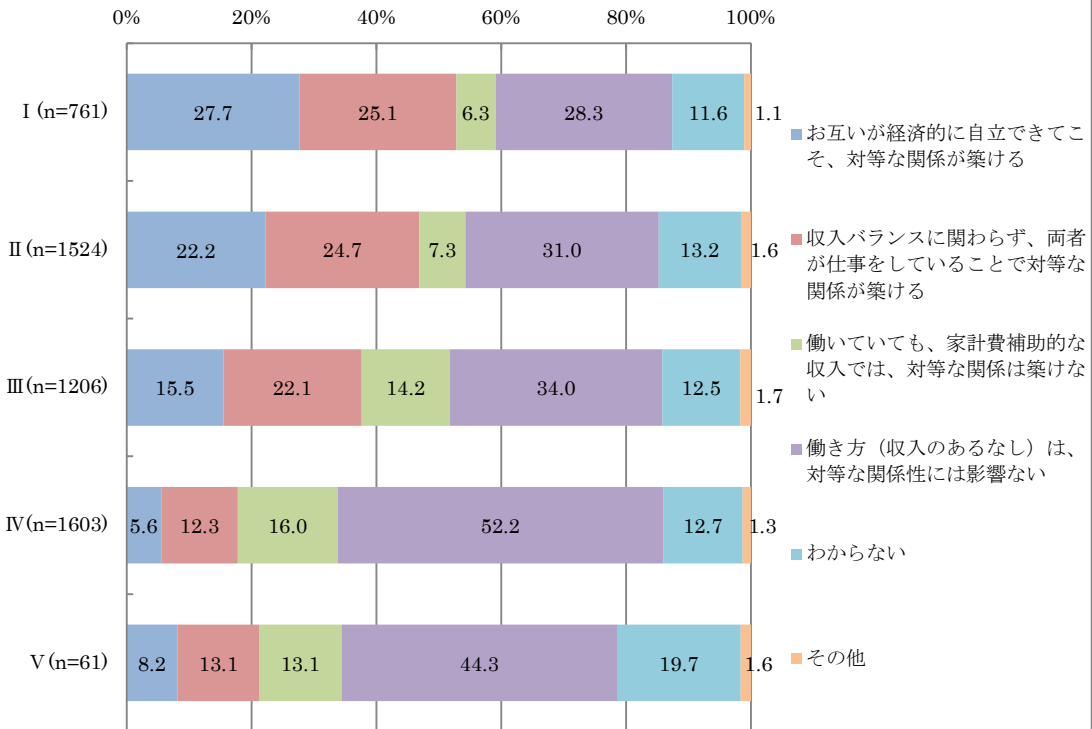




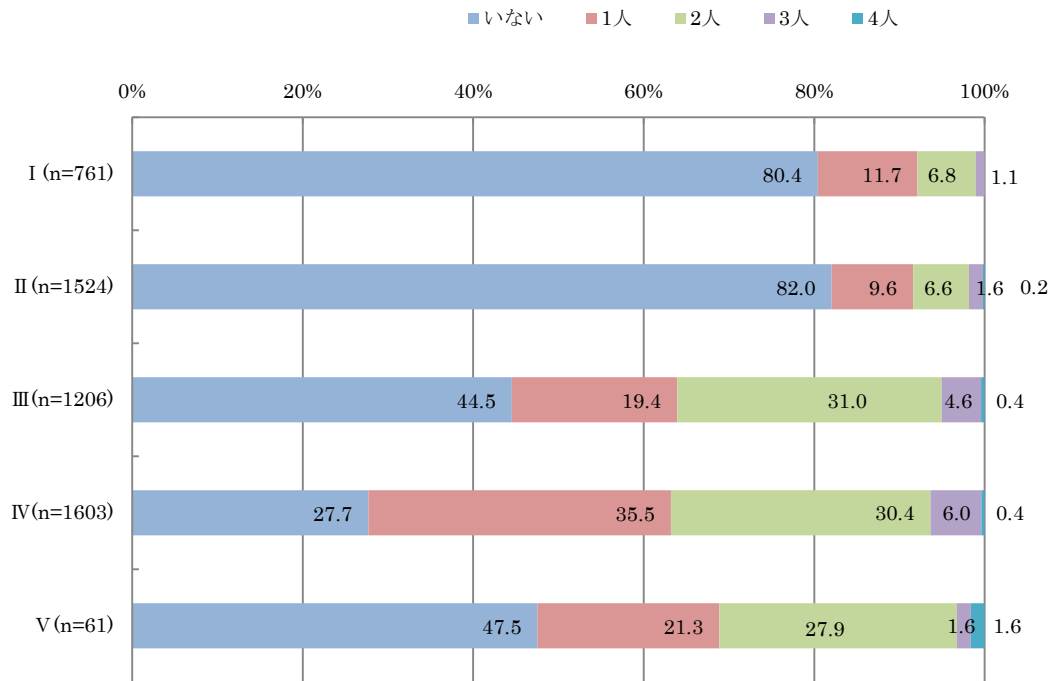
配偶者・パートナーの「妻が働くこと」に関する意識(Q74)



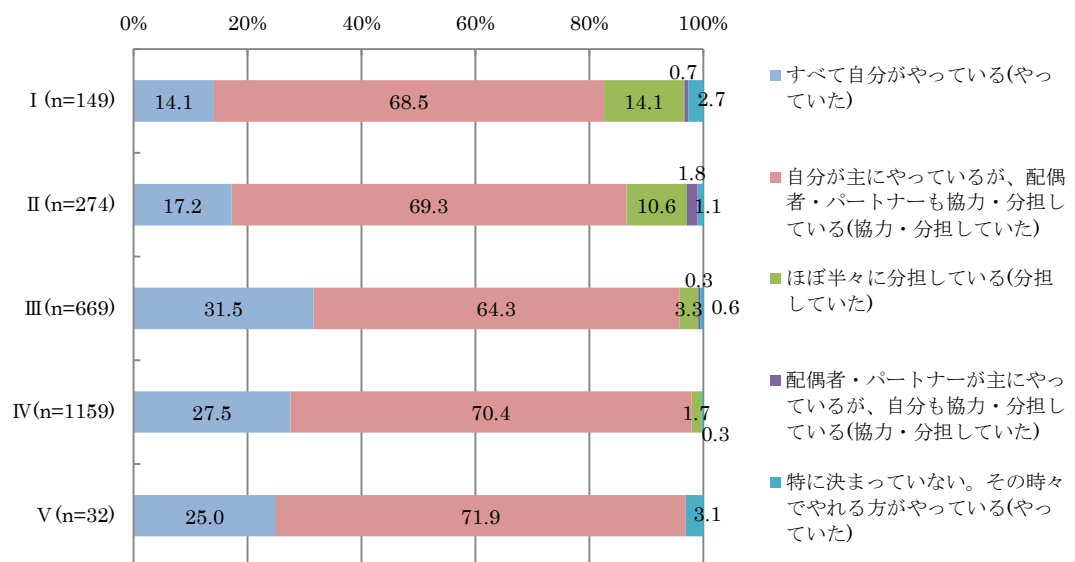
「対等な関係性」についての考え (Q75)



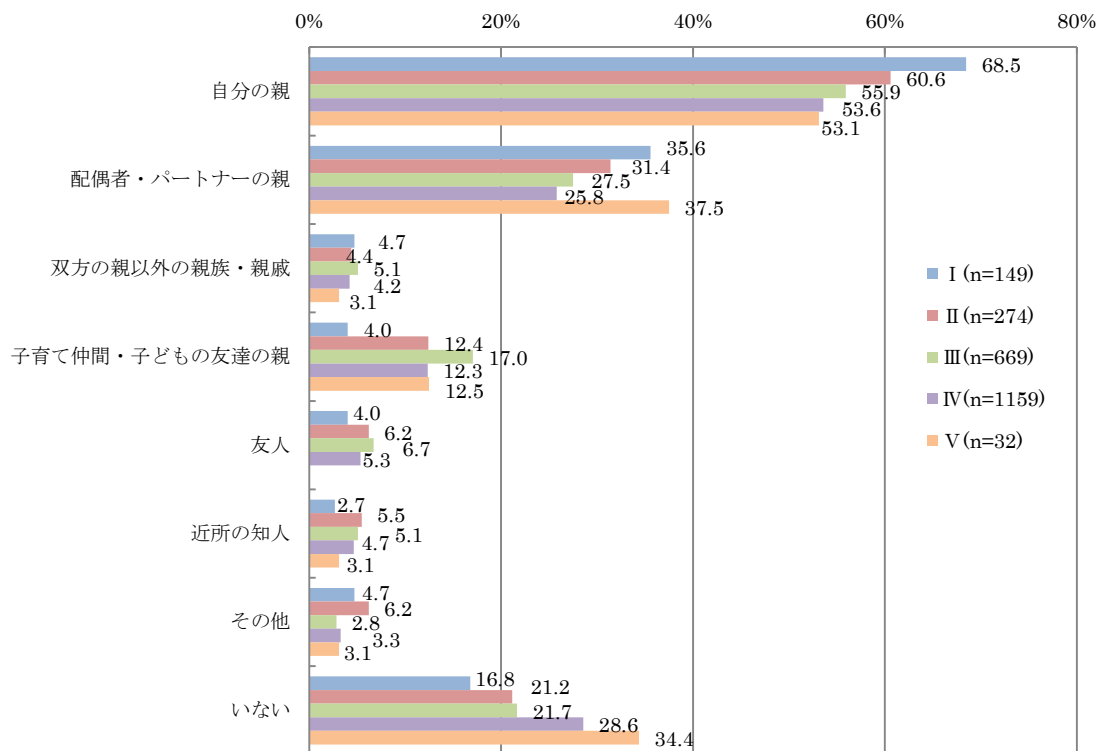
子どもの有無・人数(Q76)



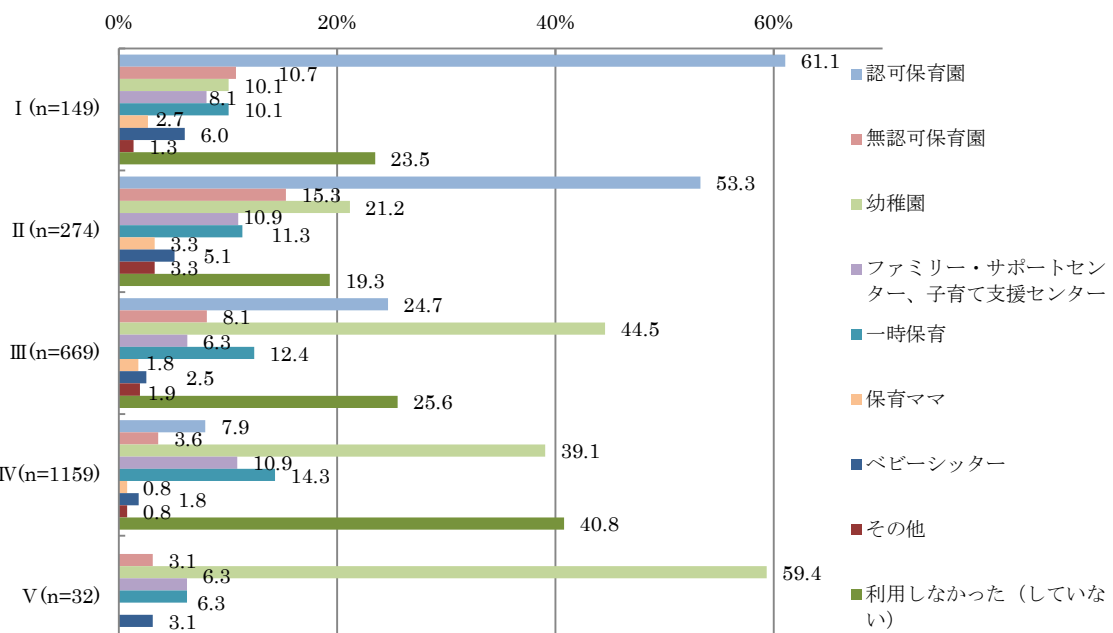
育児分担 (Q78)



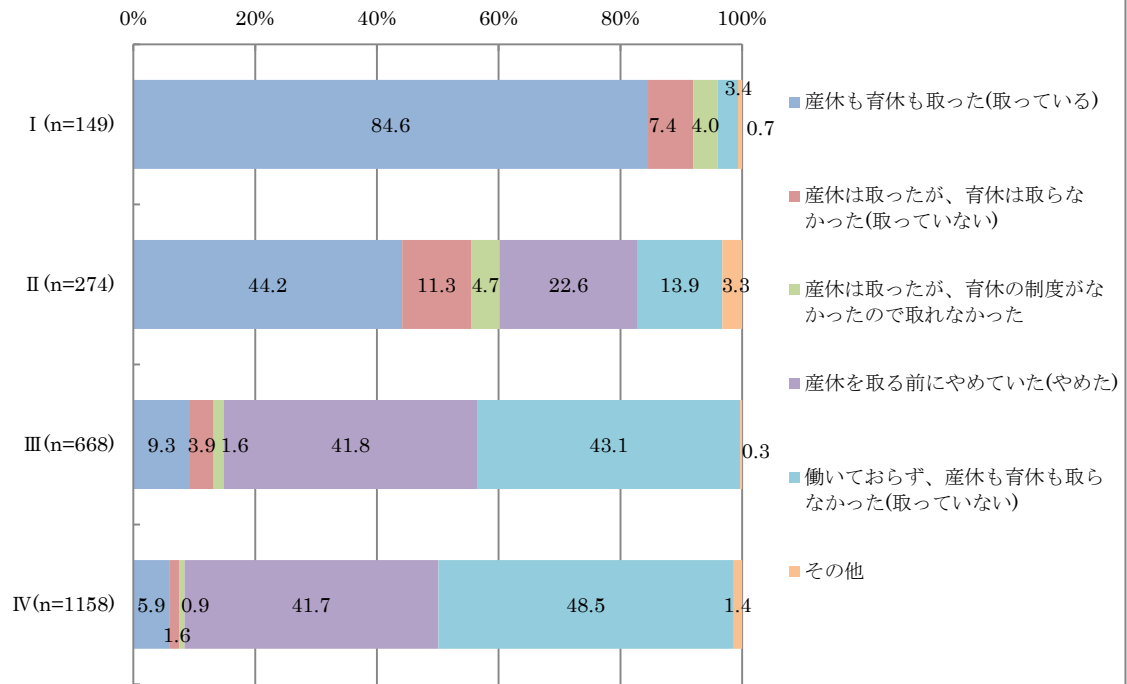
育児期間中に配偶者・パートナー以外で子どもを預かってほしいと頼める人(Q79)



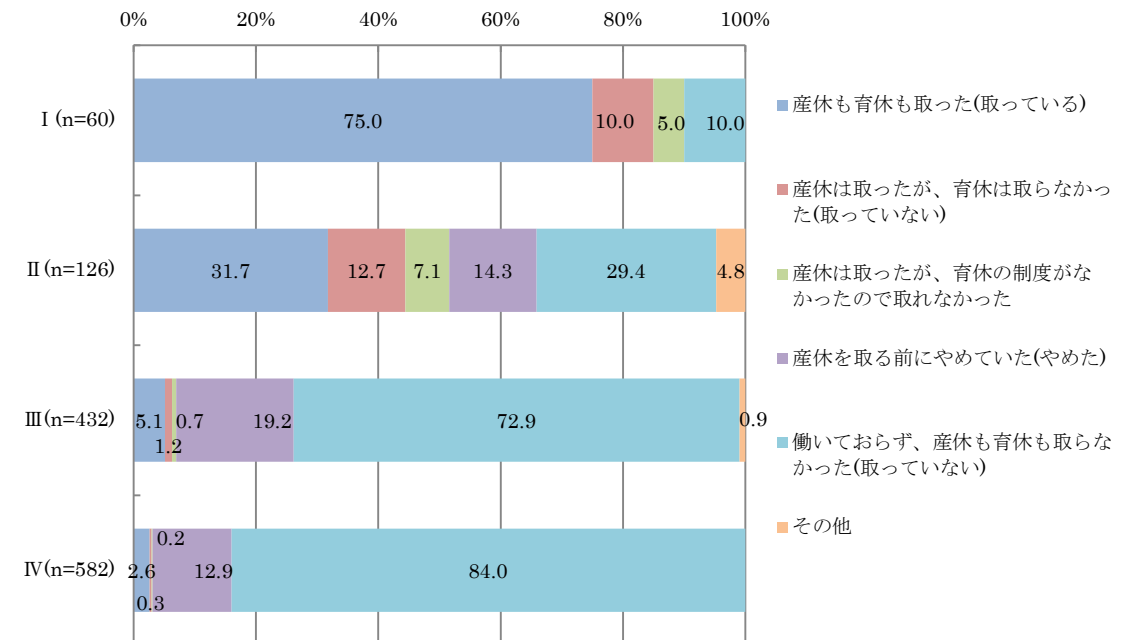
育児期間中に利用した子育て支援機関、あるいはサービス(Q80)



第1子の産休・育休取得 (Q81)



第2子の産休・育休取得 (Q82)



IV 考察

女性の再就職支援と大学の役割

大沢真知子・盧回男

日本は女性人材を浪費しているのではないか。

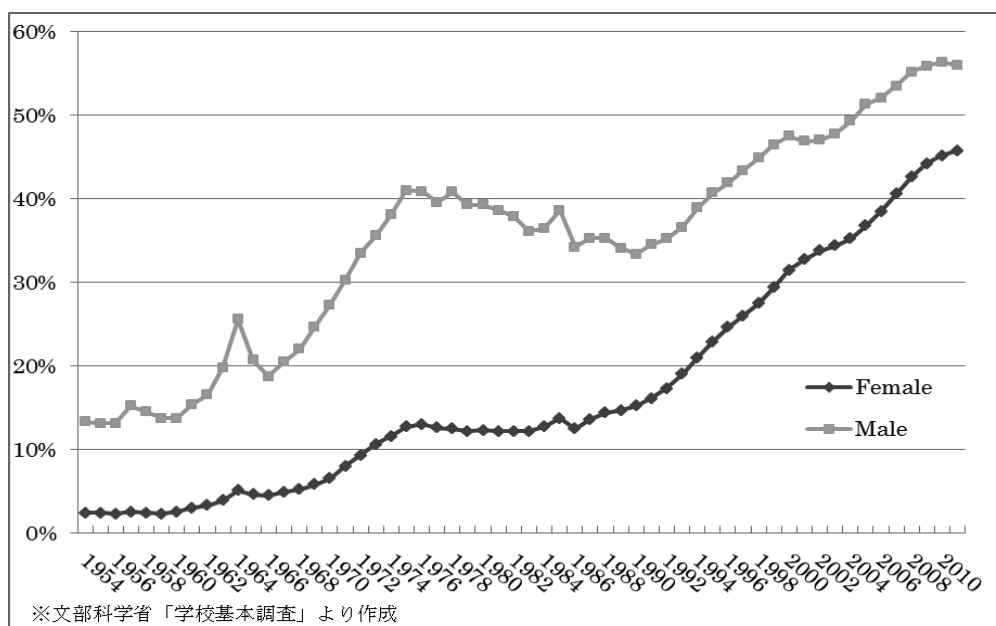
均等法が施行されて以来、女性の大学への進学率は加速的に上昇している。しかし、女性の勤続年数は男性の勤続年数に比較して短く、大卒労働者のあいだには大きな男女間賃金格差が存在している。それが、男女の固定的な役割分業を合理的なものとし、女性の社会進出スピードをゆるめている。

他方、女性人材がうまく活用されれば、大きな経済効果が期待できる。女性の活躍を促進するためにはどうしたらいいのか。大学はそこにどのような役割を果たすことができるのか考えてみたい。

1. 大学の進学率の変化

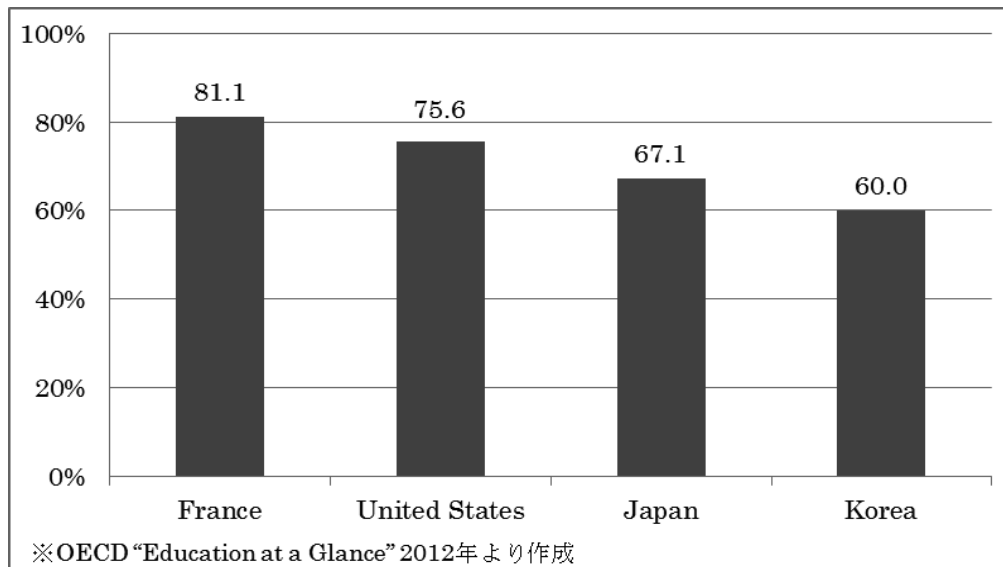
均等法が施行された後の大きな変化として、まず指摘できるのが女性の進学率の上昇である。図1は男女別の大学進学率をみたものであるが、1986年以降女性の大学への進学率の増加が加速しているのがわかる。均等法が施行されたことによって、新たに雇用機会が生まれ、教育投資の効果が高まることを予測した女性たちが自らに投資するようになったからである。

図1. 男女別大学進学率の推移(1954~2011)



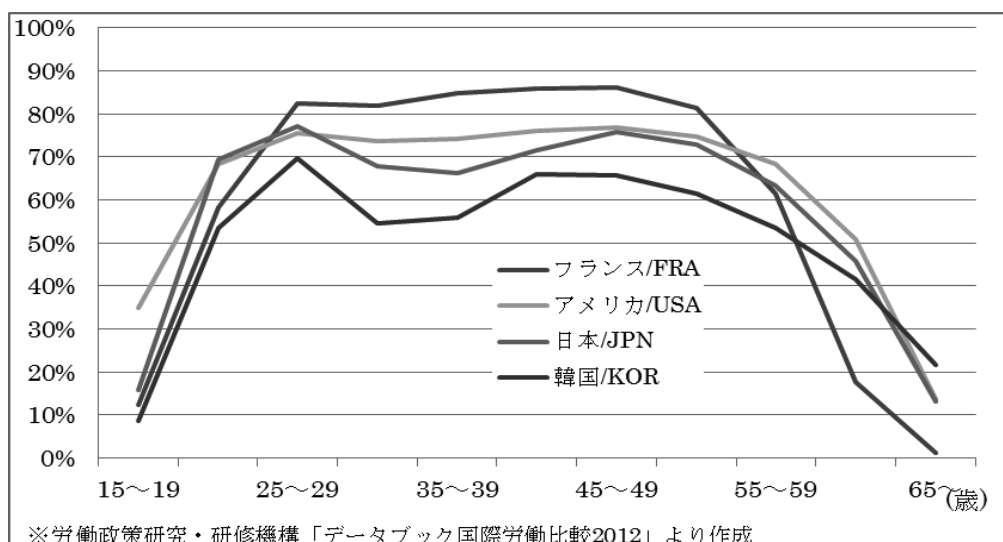
とはいうものの、大学を卒業した後の女性の就職率を国際的に比較すると、図 2 にあるように、フランスやアメリカに比べて、韓国や日本では大卒女性の労働参加率は低い。

図 2 大卒女性(25~64 歳)の就業率の国際比較(2010)



日本の女性の労働力率のもうひとつの特徴は、女性の結婚や出産時にあたる 30 代で低くなることである。図 3-1 は、女性の労働力率の 4 カ国比較だが、フランスやアメリカでは結婚時や出産時の落ち込みがみられないのに対して日本や韓国では労働力率が一時的に落ち込む傾向がみられる。

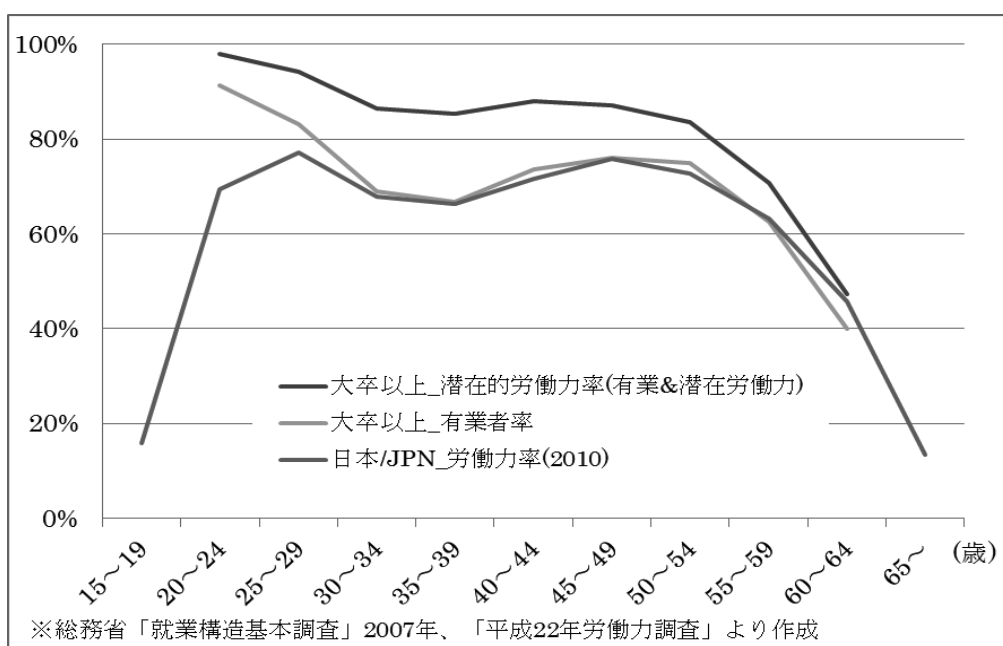
図 3-1 年齢階級別女性労働力率



しかし、結婚や出産後に仕事を辞める女性が多いのであるが、その多くは働きたいと考えている。

図 3-2 は、大卒女性の潜在的労働力率と実際の労働力率を比較したものである。有業者に、現在は働いてはいないが働きたいと思っている女性(潜在的就業希望者)を加えると、年齢階級別の労働力率は台形型になる。これをみても、潜在労働力率は台形型であり、かつどの年齢層でも実際に働いている女性の割合を大きく上回っている。

図 3-2 大卒女性の潜在的労働力率と年齢階級別労働力率



内閣府の推計では、潜在的就業希望者は全国で342万人(平成23年版男女共同参画白書)。彼女たちが働けば、国内総生産を約 7 兆円引き上げるといわれている。逆にいえば、稀少な人的資源が有効に活用されず、浪費されていることがわかる。

2. 管理職に占める女性比率

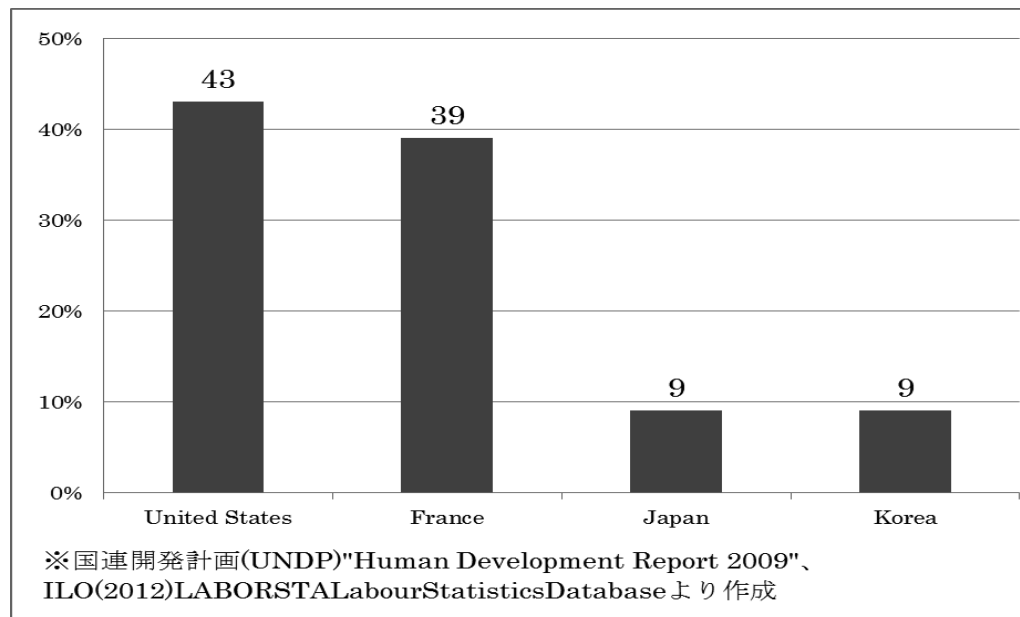
日本には大きな男女間の賃金格差が存在するが、その要因のもっとも大きなものは、管理職に占める女性の割合が低く、大きな性差が存在するからである(厚生労働省、2009)。業務の与え方や配置転換、人事評価制度などの雇用管理制度面で女性が男性と同じように扱われていない。それがキャリアの男女差となって管理職の女性比率を低めているのである。

管理職比率を国際比較でみると、アメリカでは管理職に占める女性の割合は 43%、フランスでは 39%と、過半数にせまる数字になっているのに対して、日本や韓国では 9%と低い

数字になっている。

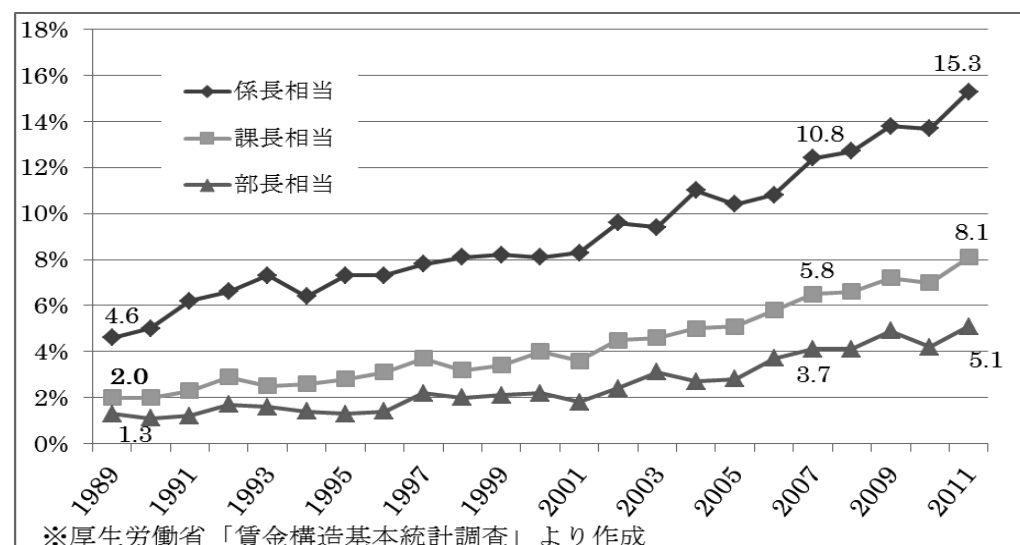
女性は高学歴化してきたものの、その能力を企業が十分に活かされていらないことがわかる。

図 4-1 管理職の女性比率の国際比較



とはいうものの、時系列でみると、均等法施行後、どのレベルの管理職でも女性比率が増えていることがわかる。とくに、係長職での女性比率は 00 年代の後半になって大きく上昇している(図 4-2)。

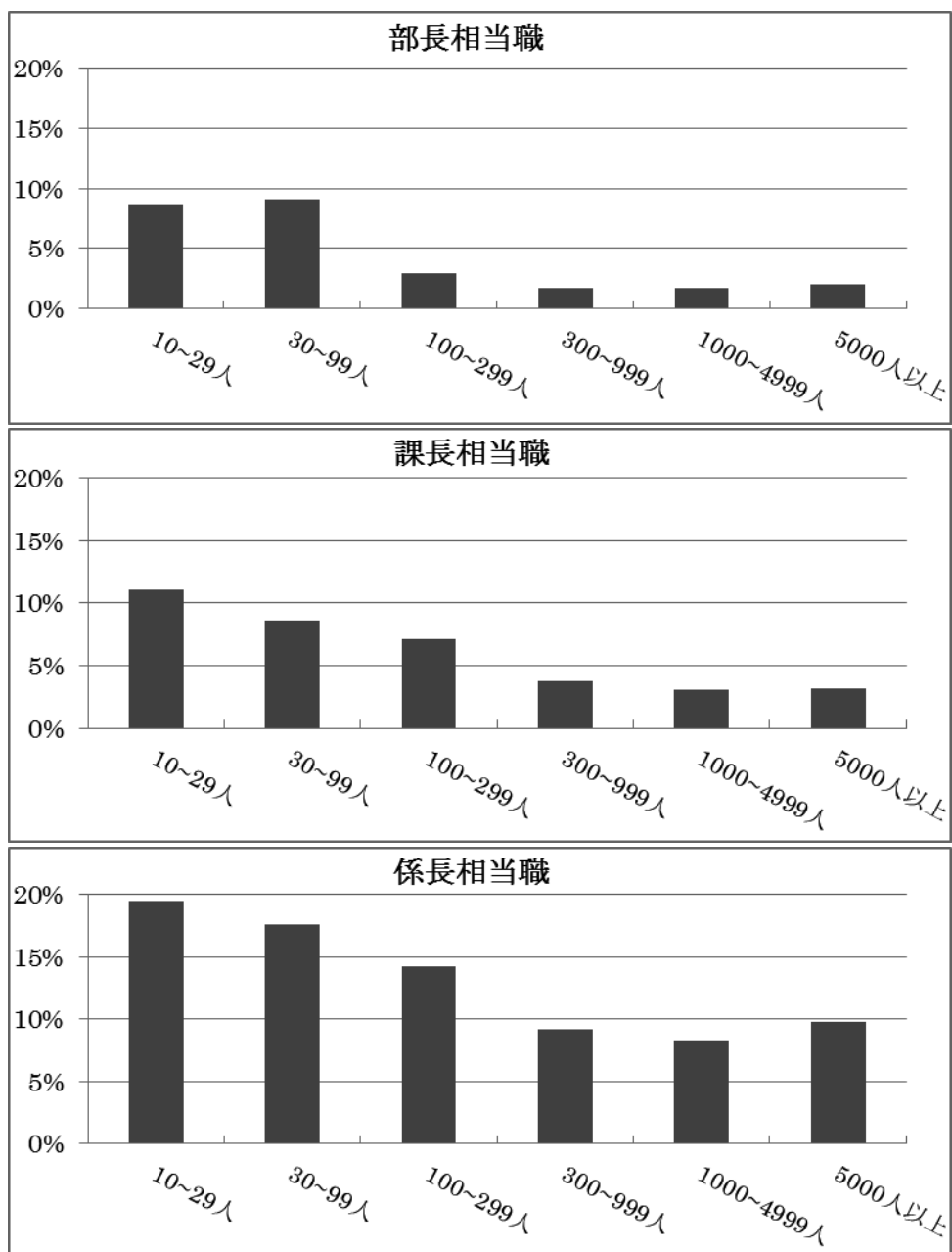
図 4-2 役職別管理職に占める女性割合の推移(企業規模 100 人以上)



興味深いことは、企業規模別にみると、従業員規模が大きくなるほど管理職に占める女性比率が低いことである。図4-3は、管理職の女性比率を事業所規模別にみたものである。

これをみると、事業所規模が小さいほど、管理職の女性比率が高いことがわかる。ただし、係長職では、5000人以上のところで、少し女性比率が高まる傾向がみられる。

図4-3 企業規模別役職別管理職に占める女性割合（平成23年）



※出所：厚生労働省「平成23年度雇用均等基本調査」

もともと日本の大手企業では、女性労働者を一般職の補助的な仕事につける傾向があり、

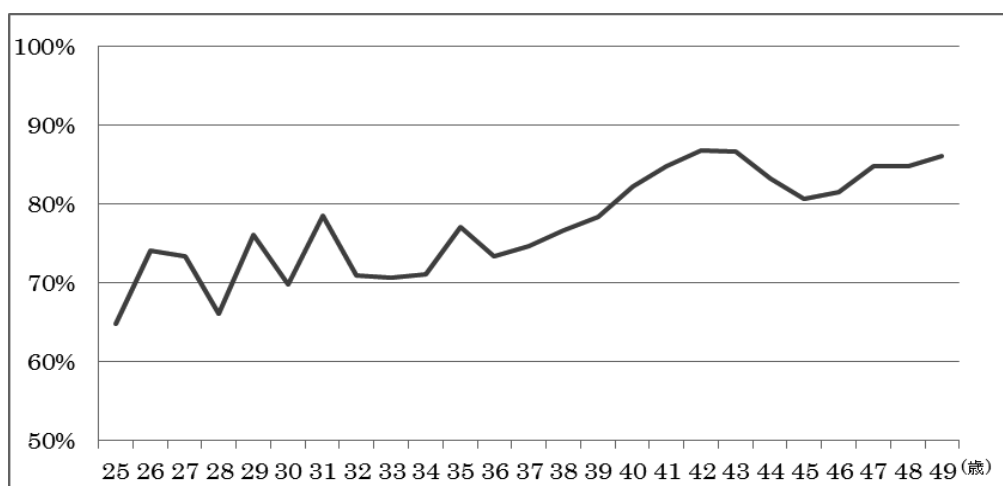
女性の活用が遅れていた。しかし、86年に男女雇用機会均等法が施行され、数度にわたる改正をへて、この法律がより強制力の強いものに変化していった。また、経済の構造が変化し、サービス経済化が進展する中で、大手企業が次第に総合職の女性採用を増やし、2000年代にはいると女性の能力活用に力をいれはじめたことなどの成果が5000人以上規模の係長職の女性比率の増大となってデータに反映されていると思われる。

しかし、日本の経済の中で生産性も高く、高い付加価値を生み出しているセクターで女性の活用がされていない。たしかに係長職では女性比率が上昇しているとはいうものの、経営の中核部に女性がほとんどいないなど、日本の女性の能力がまだまだ活用されていないことがここからわかる。

3. 労働力の非正規化の影響

ここまで公的なデータを用いて日本女性の人材活用について述べてきた。以下では、本調査からわかったことについてまとめてみた。まず、若い世代になるほど初職から非正規労働者として働く人の割合がふえていることである。図5は、初職の雇用形態が正社員であった人の比率をみているが、年齢が若くなるほど、正社員の割合が低くなり、25歳では3割以上の大卒の女性が非正規労働者として卒業後はじめての仕事についている。もっとも最近の労働力調査でも、女性労働者の半数以上が非正規の仕事についており、労働力の非正規化は男性よりも女性にその影響が大きくなっている。非正規労働者の中には、キャリアを形成する機会が与えられず、長期間正社員との間で大きな生産性格差が生じてしまう。非正社員自身が会社以外の場所で職業能力を磨き、キャリアを形成していくことが必要になる。ここにも大学の役割があると思われる。

図5 初職における正規雇用者割合の変化(N=5155)

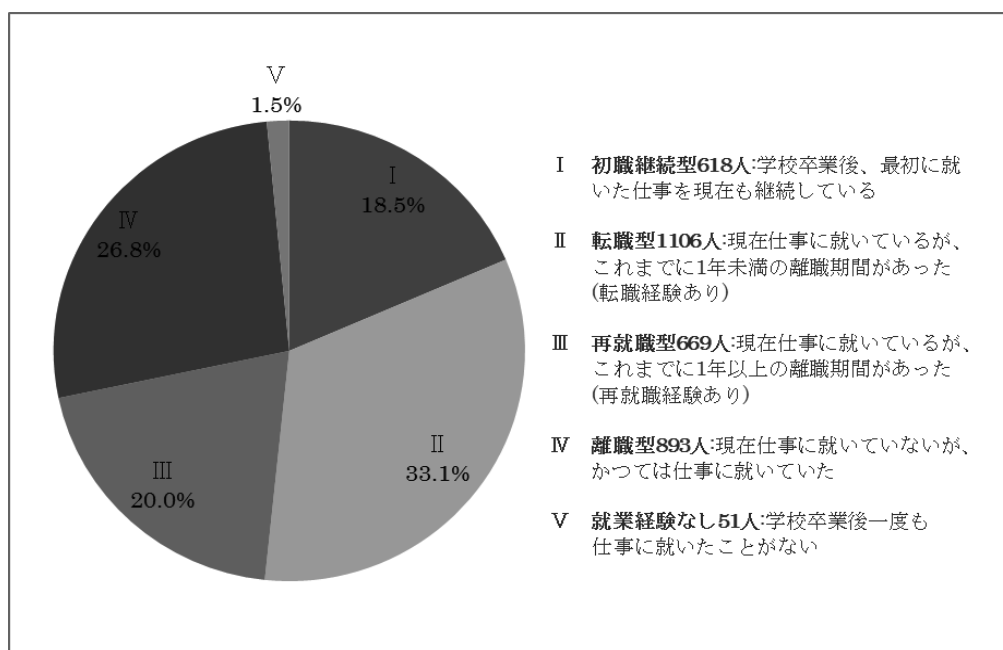


4. 高学歴女性のライフコース

本調査では、高学歴の女性のライフコースについて聞いている。Ⅰ継続的に働いているか、Ⅱ現在仕事についているが今までに一年未満の離職期間があった、Ⅲ現在仕事についているがこれまでに一年以上の離職期間があった、Ⅳ現在は働いていないがかつては働いていた、Ⅴ一度も働いたことがないという5つのグループに分けて、その分布をみた。

図6-1は対象者5155人のうち、大卒以上の3337人について示している。

図6-1 大卒女性の働き方の5パターン(n=3337)



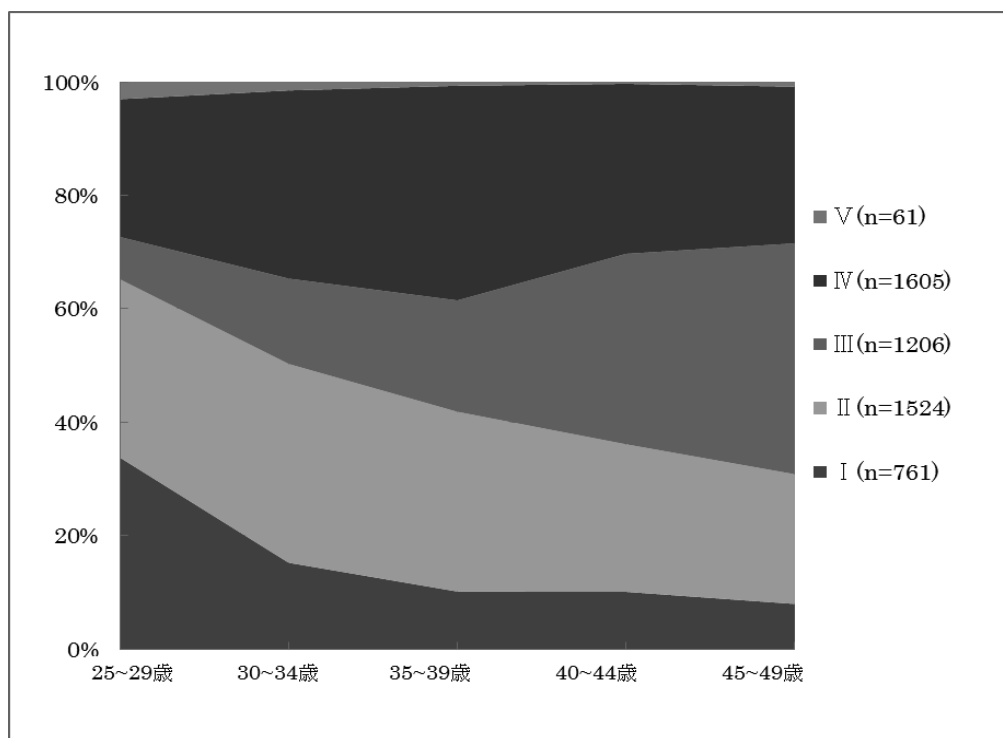
初職を継続している人は18.5%、就業経験のない1.5%(51人)を除く残りの人は初職を辞めている。日本では、会社に入って経験を積みながら仕事の能力を高めていくのが一般的であるので、継続就業が少ないことは、入社してキャリアを積み重ねて中核の労働者になっていく女性が少ないということを意味する。ここからも、男性ほど女性の能力が活用されていないことがわかる。

さらに、図表6-2では、全対象者(5155人)について年齢別に女性のライフコースの分布がどのように変化しているのかをみた。これをみると、予想の通り、若い年齢層では、現在仕事をしているが、過去に1年未満の転職を経験している女性の割合が高い。他方、結婚や出産の時期にある女性では、1年以上の離職期間がある女性が増えている。

ここから、女性のライフサイクルに合わせて、多様な再就職支援が必要なことがわかる。特に20代においては、仕事の能力を獲得するための支援が必要である。他方、休職期間が

長期になりがちな子どものいる母親には、それに加えて、カウンセリングも含めた意識面でのサポートが必要になっている。

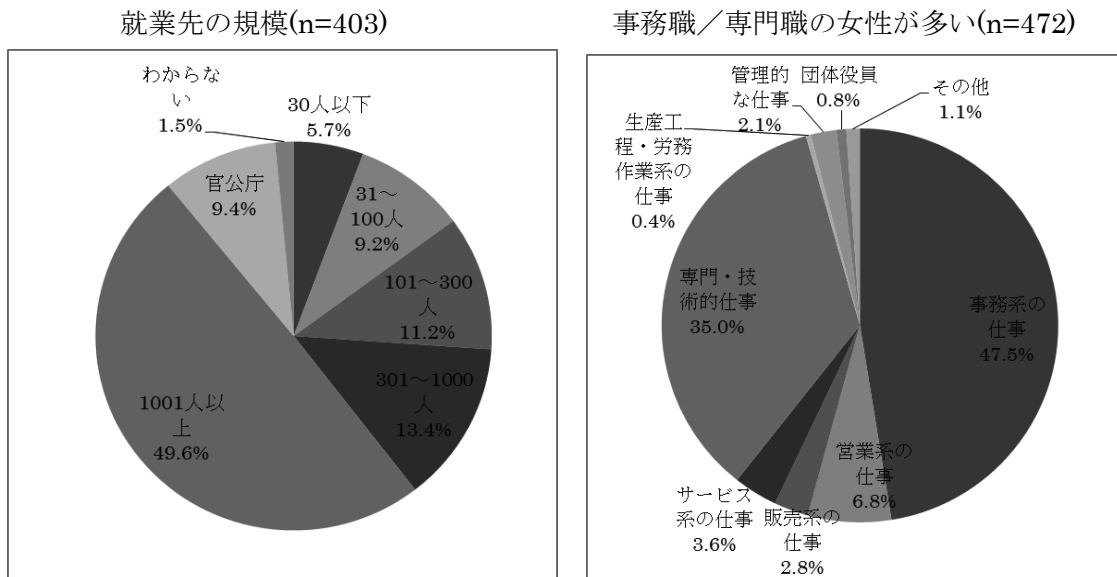
図 6-2 年齢別の女性のライフコースの分布



5. 就業継続者の特徴

仕事が続くできればキャリアが蓄積できる。どのような女性が継続就業をしているのだろうか。この点については、本報告書の次の章でより詳細な分析をしているが、継続者の特徴を簡単にみていくと、まず、事務職や専門職についていること、また、大企業に勤めている人が多いという特徴がある。他方、先程の管理職比率を見ると、大企業ほど女性の管理職比率が低くなっており、日本では大企業ほど女性が継続して働いているにもかかわらず、女性の能力活用がきちんとなされていない。ここにもうひとつの日本の企業社会がかかえる問題がみえてくる。女性社員がキャリア開発のなかにうまく組み込まれておらず、女性人材が活かされていないのである。

図 7 継続就業者の特徴



大手企業では有能な女性を採用しているにもかかわらず、最近まで、女性の活用にそれほど熱心に取り組んでこなかった。ここにきて両立支援を充実させた結果、女性社員の定着率が上昇し、それにみあう成果を上げてもらうために、各社、新たに女性の人材を活用するための人事管理制度を導入し始めている。

6. 転職する女性の増加

継続して働く女性がどの程度いるのかを見ていくことも重要であるが、1年未満の離職期間があったと回答している女性が 33.1%おり、継続就業者よりも多いことは注目に値する。

90年代後半になって入社した女性の間でそれ以前の女性に比べて転職率が上昇しているという研究結果が報告されており(労働政策研究・研究機構、2009)、今のべた本調査の結果からも3人に1人の大卒の女性が1年未満の転職を経験していることがわかった。

従来の研究では、転職型と再就職型とが一緒に分類されることが多く、その結果、女性には出産育児などの個人的な理由で辞める傾向があると考えられてきた。しかし、後述の初職を辞めた理由は、転職型と再就職型の女性では明らかに異なっている。

後者は、結婚や出産などにより、就業を一時的に中断している女性たちが多く含まれているのに対して、前者は、年齢も若く、自身の適職を探して転職をしている女性が多く含まれる。前者の女性たちのキャリア形成を支援していくことも大学の重要な役割になっている。

7. 初職離職理由

もうひとつ本調査から浮かび上がってきた興味深い結果は、初職を辞めた理由が、結婚や出産といった個人的な理由よりも仕事上の理由の方が多かったことである。

25～49 歳の大卒以上の女性に初職をやめた理由を聞いたところ(図 8-1)、「他にやりたい仕事があったから」(19.0%)と答えた人がもっとも多かった。次が「結婚のため」(16.7%)、3 番目が、「病気・ストレス・けがなど心身の不調のため」(10%)と「仕事に希望がもてなかったから」(10%)となっている。

図 8-1 25～49 大卒以上初職をやめた理由 1 位 (n=2668)

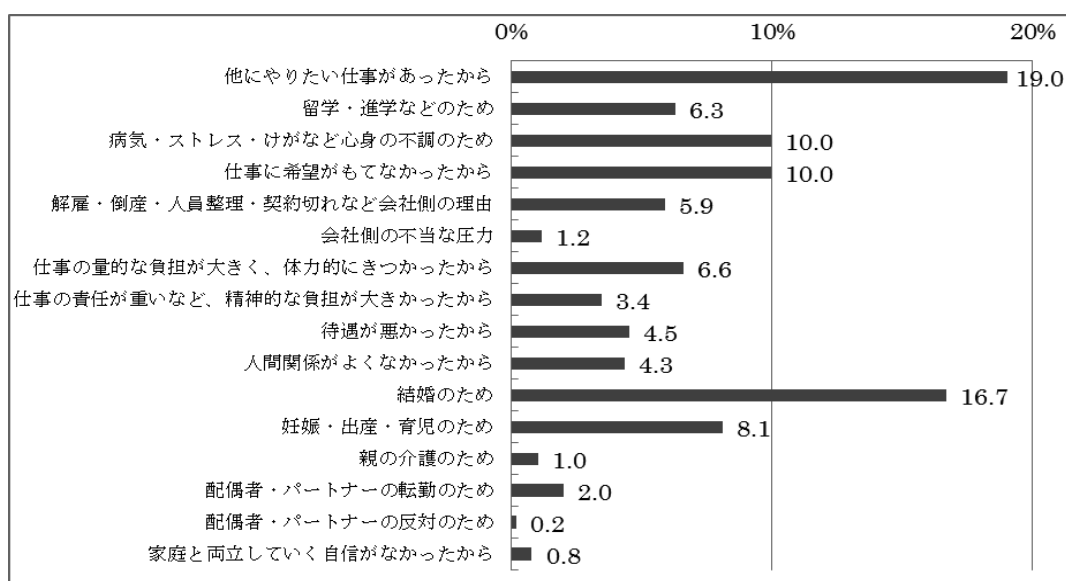
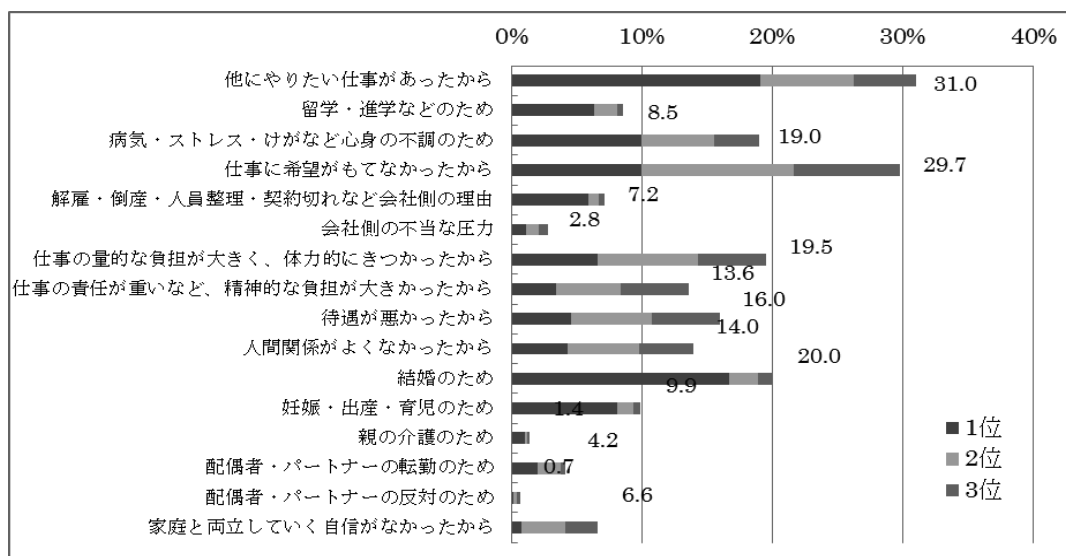


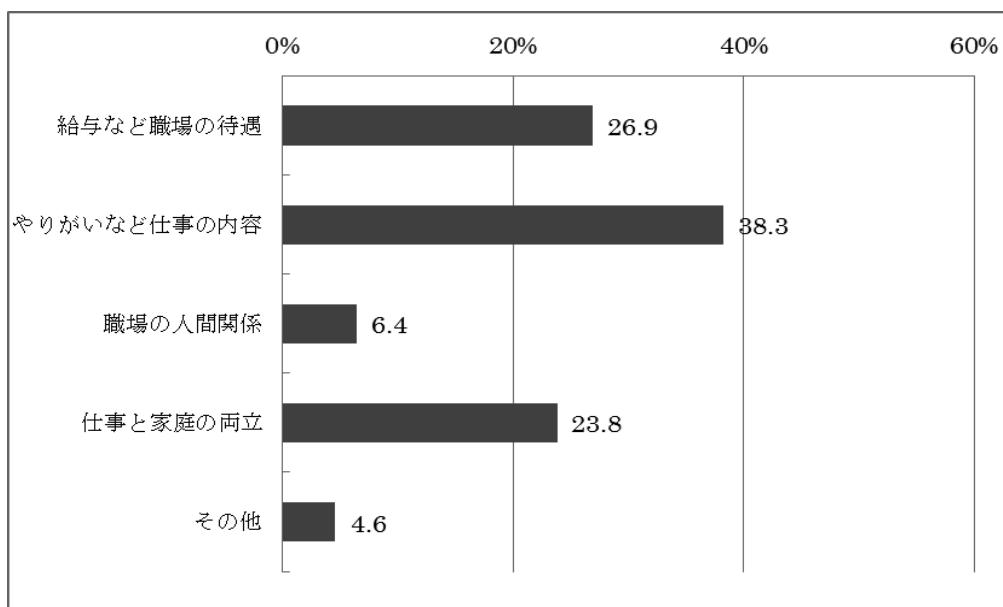
図 8-2 25～49 大卒以上初職をやめた理由 1～3 位 (n=2668)



さらに、本調査では、初職を辞めた理由を当てはまるものから順番に 3 つ選んでもらっている¹

そこで、もっとも当てはまるから 2 番目あるいは 3 番目に当てはまると答えた人の合計を割合にしてみたのが図 8-2 である。すると、第 1 位が「他にやりたい仕事があったから」(31.0%)、第 2 位が「仕事に希望がもてなかったから」(29.7%)、第 3 位が「結婚のため」(20.0%)、第 4 位が「仕事の量的な負担が大きく、体力的にきつかったから」(19.5%)となり、「結婚のため」の順位が 1 番目の理由のみの時よりさらに後退している。

図 9 転職・再就職時に重視した条件(n=3757)



さらに、転職に際して重視したものの第 1 位は「やりがいなど仕事の内容」(38.3%)、第 2 位が「給与など職場の待遇」(26.9%)、第 3 位が「仕事と家庭の両立」(23.8%)と続いている(図 9)。また、転職経験者の 7 割が転職してよかったと回答している。

これらの結果から明らかになったように、女性が仕事を辞めている理由は、結婚や育児よりも、仕事上の理由を上げている女性が多い。

今まで日本では、M 字就労を前提に、女性が結婚や出産後も就業が継続できるように支援することに、政策の重点がおかれてきた。しかし、この調査結果をみると、女性が辞め

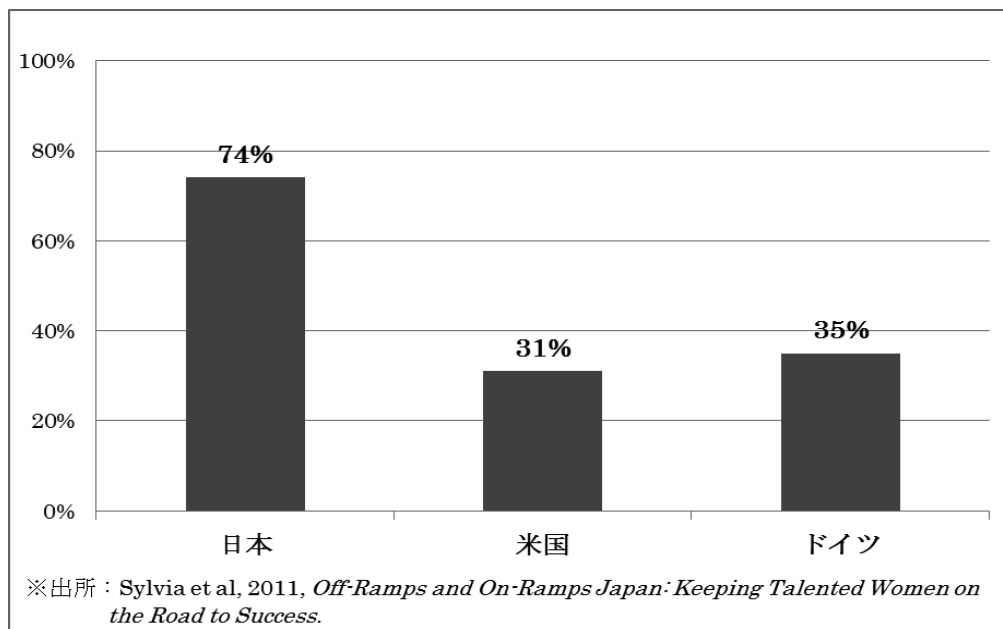
¹ 質問は「あなたが学校卒業後、最初に就いた仕事を辞めた理由は何ですか。もっとも当てはまるものから順に 3 つまで選んでください。」(1 つあるいは 2 つでもかまいません) というものである。

ている理由には実は仕事上での理由が多く、キャリアの先が見えずに転職している女性が多い。既述のように、日本の企業の中で女性がキャリア開発のなかにうまく組み込まれていないことがわかる。女性政策も両立支援だけではなく、能力開発にもっと力を入れる必要があるのである。

同様の結果は、アメリカの Center for Work-Life Policy(現 Center for Talent Innovation) というシンクタンクが 2011 年に行なった調査においても実証されている。

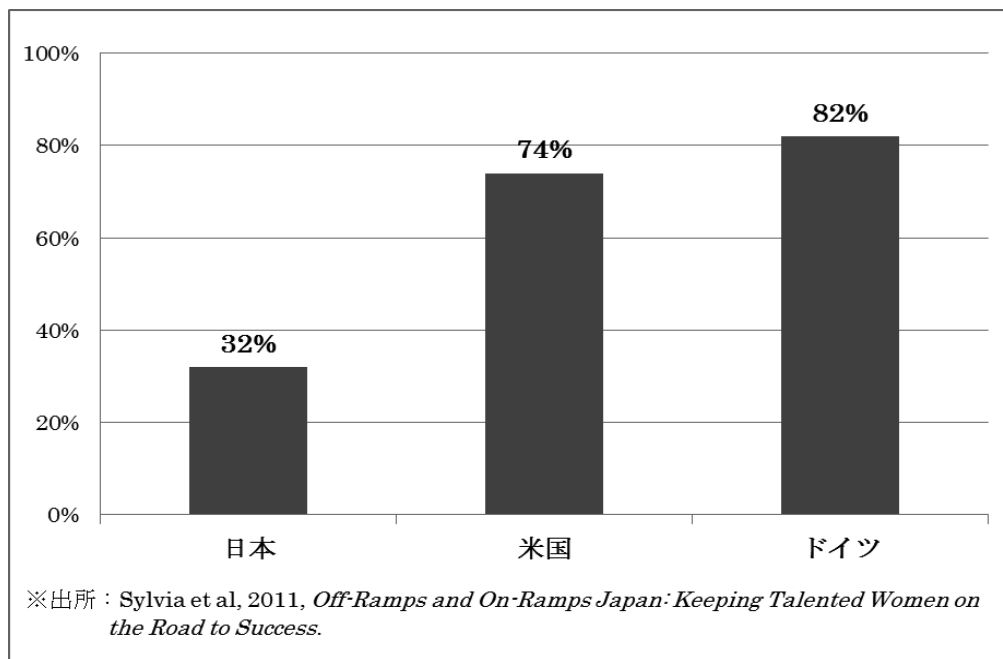
この調査によると、自発的に仕事を辞めている女性は、日本の 25 歳から 34 歳までの高学歴女性の 74%であるのに対して、アメリカでは 31%、ドイツでは 35%となっており、日本と比較してその割合が低い(図 10-1)。

図 10-1 自ら仕事を辞める有能な女性



また、仕事を辞めた理由を聞くと、アメリカやドイツでは育児がもっとも多く、アメリカ 74%、ドイツでは 82%となっている。他方、日本ではその割合が 32%と低くなっている(図 10-2)。

図 10-2 育児を理由で仕事を離れる女性割合



日本では、育児よりも先行きの見えないキャリアにやる気をなくし仕事を辞めている女性が多い。49%の女性が、フレキシビリティに欠ける勤務体系やキャリアを発展させる機会が与えられないために仕事をやめているのである。

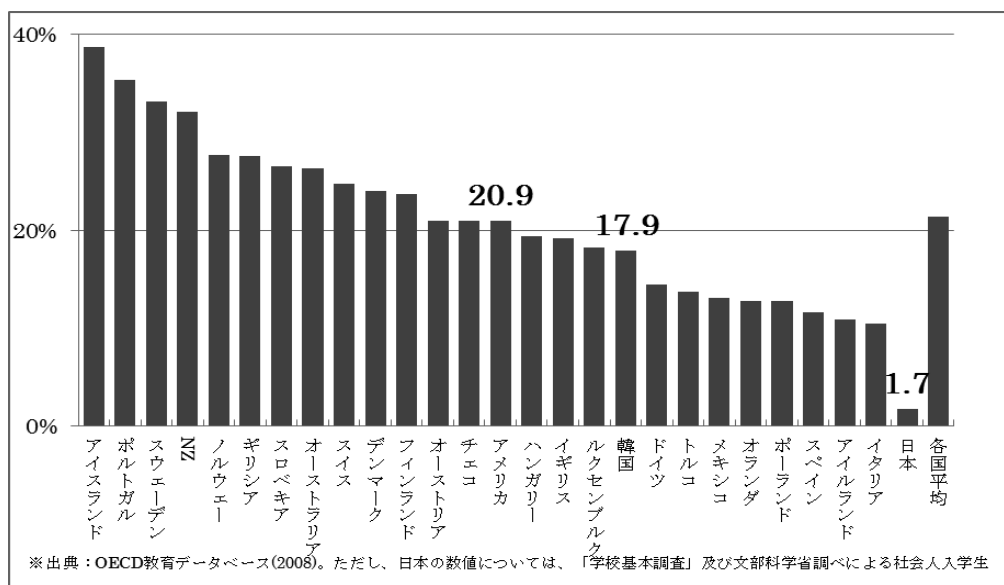
これらの調査結果をみると、今まで言われていたように、高学歴の女性が仕事を辞めるのは、家事や育児という要因よりも、職場に起因した理由によることが多く、それが高学歴女性の離職率を高めていることがわかる。

8. 大学生に占める社会人の割合

日本の場合には、入社してから、会社がさまざまな能力開発をおこない、従業員の人材育成に重要な役割を果たしてきた。そのために、日本の大学は社会人教育にはそれほど大きな役割を果たしてこなかった。

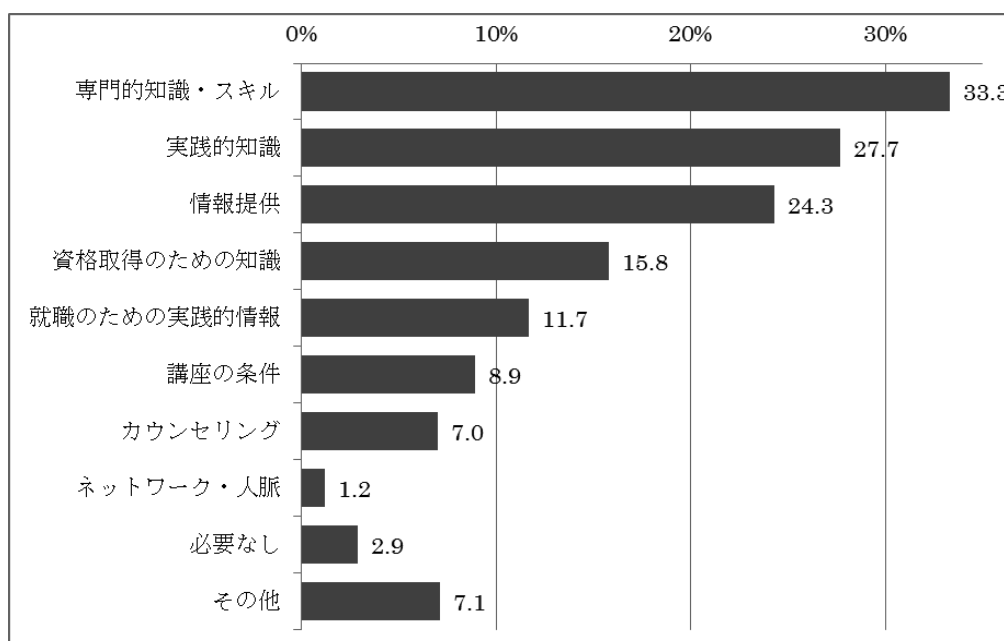
図 11 は、大学に入学している 25 歳以上の人口の割合の国際比較であるが、日本の割合は、1.7%と極端に低い。それに対してアメリカでは 20.9%、韓国は 17.9%と、ともに高い割合を示している。他の国では大学が人を生涯にわたって教育するという意味で重要な役割を果たしている。今後、日本でも、大学が若い人の教育だけでなく、卒業後も、さまざまな形で個人のキャリア形成を支援していくようなプログラムを開発し、提供していくことが必要になっている。

図 11 25 歳以上の入学者の割合(国際比較)



本調査の中で、回答者に再就職支援として大学に期待する支援は何かと聞いたところ、33.3%の人が専門的知識やスキルを提供してほしい、27.7%が、実践的知識を得たい、24.3%が情報を提供してほしいといった要望が多かった(図 12)。

図 12 大学に期待する支援(n=4108) 複数回答



今後の研究では、具体的に、どういう専門的知識、スキル、実践的知識を提供していけば女性のキャリア開発に有用なのかということ、さらに突き詰めていく必要がある。こ

れについては、今後の課題としたい。

参考文献

- Kathy Matsui. et al. October 1, 2010 Womenomics 3.0 : The Time is Now. *Goldman Sachs Global Economics, Commodities and Strategy Research*. (online),
http://www.goldmansachs.com/our-thinking/focus-on/investing-in-women/bios-pdfs/womenomics3_the_time_is_now_pdf.pdf.
- 国連開発計画(UNDP) , 2009, "Human Development Report 2009",
http://hdr.undp.org/en/media/HDR_2009_EN_Complete.pdf#search='Human+Development+Report+2009'.
- 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局, 2009, 「男女間の賃金格差レポート」,
http://www.joseishugyo.go.jp/jouhou/hourei_pdf/45_2009.pdf.
- 厚生労働省, 各年版『賃金構造基本統計調査』.
- 厚生労働省, 2012, 「平成 23 年度雇用均等基本調査」,
http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusyo/toukei/.
- ILO, 2012, LABORSTA Labour Statistics Database, <http://laborsta.ilo.org/>.
- 文部科学省, 2012, 「学校基本調査」, <http://winet.nwec.jp/toukei/save/xls/L113060.xls/>.
- 内閣府男女共同参画局, 2011, 『平成 23 年版男女共同参画白書』, 日経印刷.
- 内閣府男女共同参画局, 2012, 「平成 24 年版男女共同参画白書」,
<http://www.gender.go.jp/whitepaper/h24/zentai/pdf/74-79.pdf>.
- OECD, 2008, "Education at a Glance",
<http://www.oecd.org/education/skills-beyond-school/41284038.pdf>.
- OECD, 2012, "Education at a Glance",
<http://www.uis.unesco.org/Education/Documents/oecd-eag-2012-en.pdf>.
- 労働政策研究・研究機構, 2009, 『労働政策研究・研究機構報告書 No105 結婚・出産・育児期の退職と再就職-女性のキャリア形成と課題』.
- 労働政策研究・研修機構, 2012, 『データブック 国際労働比較 2012 年版』.
- Sylvia Ann Hewlett et al, 2001, *Off-Ramps and On-Ramps Japan: Keeping Talented Women on the Road to Success*, Center for Work-Life Policy.
- 総務省, 2007, 『就業構造基本調査』.
- 総務省, 2010, 「平成 22 年労働力調査」,
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2010/index.htm>.

初職継続者の特徴と課題

——それでも遠い「ワーク・ライフ・バランス」——

三具 淳子

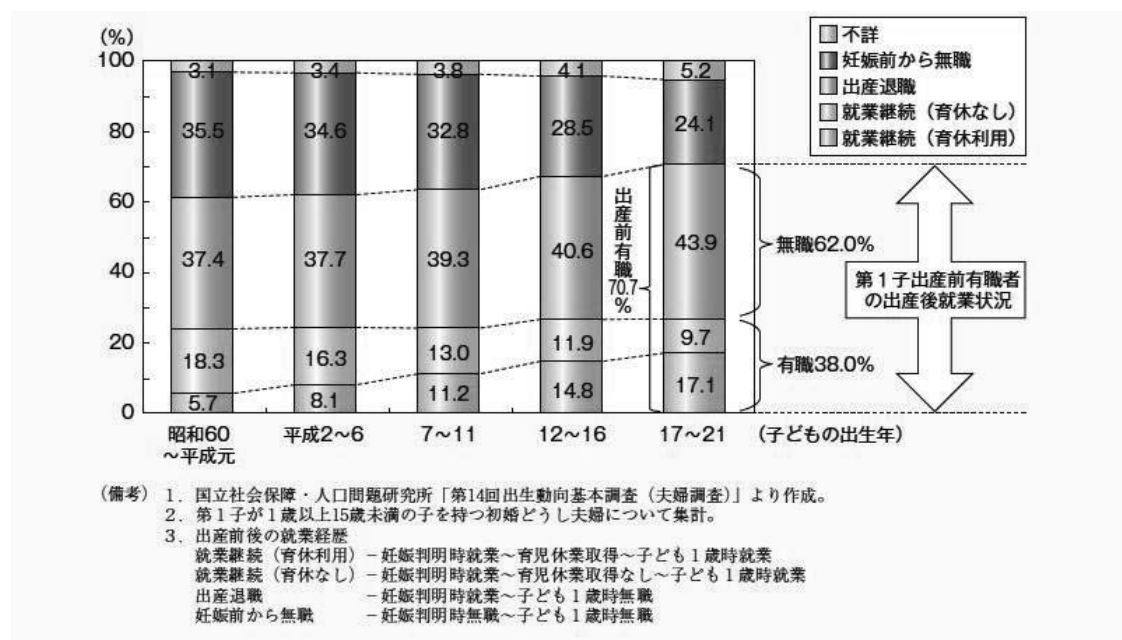
1. 問題設定

「ワーク・ライフ・バランス憲章」は「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」を目指すことを謳っている。これに向けて国は、とりわけ子育て世代に対しては、男女雇用機会均等法、介護・育児休業法、公的保育制度によってワークとライフを支援するアプローチをとっている。

ところで、男女共同参画白書は、毎年、出産前後に女性の継続状況がどのように変化するかを示しており、これは、ワーク・ライフ・バランスを推進するための施策が効果をあげているかどうかを確認する指標として読むことができる。すなわち、第1子出産を経ても就業を継続することが可能な社会かどうかを示すバロメーターであるといえる。

図1はその平成24年版であるが、これを見ると、育児休業を取得している女性は増えていることは確認できるものの、出産を機に離職する女性の割合はむしろ増えている。

図1



出典：平成24年版 男女共同参画白書

この図は、第 1 子の出産が女性の就業継続の分岐点になっている現実をふまえて、第 1 子を出産した女性だけを対象として、出産前後の就業状況を表したものである。そのため当然であるが、この外側には、婚姻状況に関わらず、調査時点で第 1 子の出産を経験しなかった多くの女性たちが存在している。それでは、これらすべての女性を含めた女性全体のなかで、出産して就業を継続する女性はどれほど存在するのだろうか。第 1 子を出産した女性だけでなく、同じ年代の女性全体のなかで、子どもをもち、就業を継続する人がいったいどの程度存在するのか俯瞰する作業が必要なのではないかと考えられる。

出産を超えて就業を継続できる環境がすべての女性に用意されているわけではない現状がある。この点を踏まえ、本章では、調査データの中から、出産時の就業継続支援制度や保育サービスを利用しやすい立場にある初職を継続してきた女性たち（「I 初職継続型」）に焦点をあてて、その特徴をさぐる。さらに国の女性就業継続支援制度の恩恵を最も受けやすい立場にある、初職継続層の正規雇用者に限定して分析をすすめ、全体社会において就業を継続しつつ正規雇用で子どもをもつ人がどれほど存在するのを見ていく。

2. 女性の継続就業への関心

一般労働者における男女の賃金格差の原因は何か。山口一男は、「男女賃金差別」をもたらす日本の特殊状況¹をまとめ、そこからの脱却の道のひとつとして、統計的差別の原因となっている女性の結婚・育児による高い離職率の改善をあげている（山口 2008）。こうした関心とは別に、1990 年以降深刻化する少子化問題の解消に向けて、就業中の女性が子どもをもちやすい社会を実現するための環境整備が行なわれている。

女性の就業継続支援にかかわって、国が進める主要な施策は、男女雇用機会均等法、介護・育児休業法、公的保育制度である。だが、これらの政策目標とその展開を 21 世紀初頭の日本の社会的文脈と関連づけて論じた萩原久美子（萩原 2012）は、これらの政策が、企業裁量型、正社員中心、雇用上のジェンダー平等実現に対する国家介入の脆弱性を内包していることを指摘し、さらに、雇用中心の「労働」概念とジェンダー中立的な組織と自律的個人の「選択」²を前提としているため、その効果が限定的であるとした。

だが、限定的とはいえ、もっともその恩恵を受けているのは、初職を中断することなく続けている正社員である。そうであるなら、少なくとも初職継続の正社員・正規職員は政策の意図を反映して結婚・子育てを順調に実現していることが期待される。しかしながら、意外にもこの点を明らかに示すデータは見当たらない。そこで、本章では、まずはじめに、初職継続者についてその特徴を明らかにし、次いで、初職継続者のうち正規雇用者に限定してそのライフイベントに注目しながらこの点について分析を試みる。

3. 初職継続者の特徴

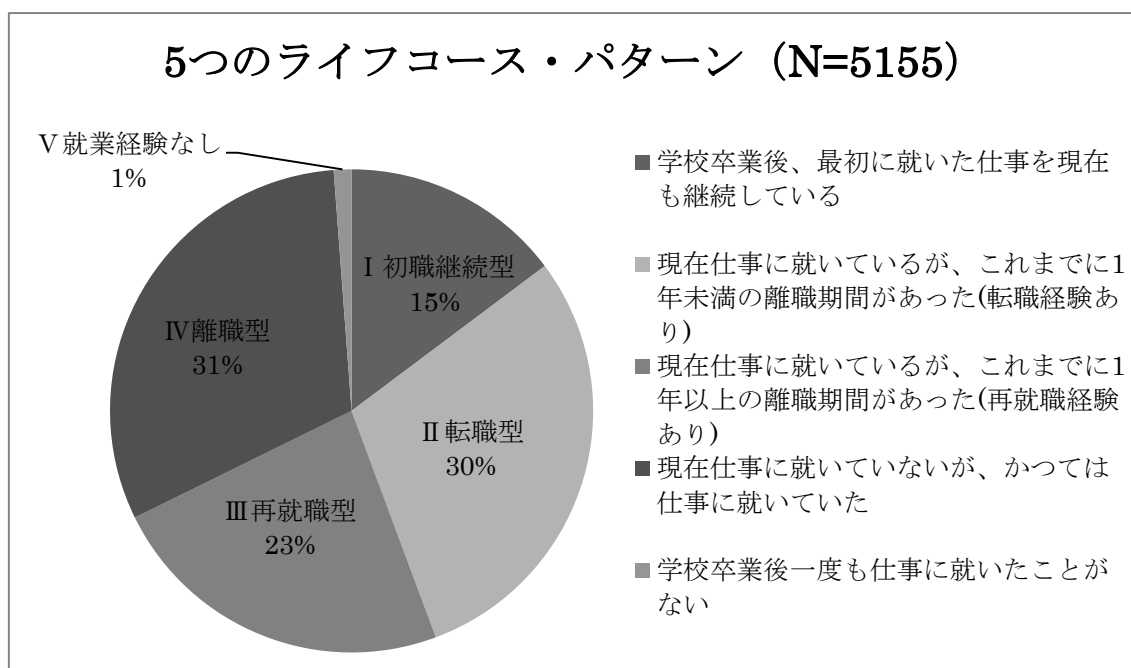
<5つのライフコース・パターン>

第Ⅰ部で示したように、本調査対象者は首都圏在住の、25-49歳の短大・高専卒以上の女性5155人である。対象者を次の5つライフコース・パターンに分類した。

- I 初職継続型：学校卒業後、最初に就いた仕事を現在も継続している
- II 転職型：現在仕事に就いているが、これまでに1年未満の離職期間があった
- III 再就職型：現在仕事に就いているが、これまでに1年以上の離職期間があった
- IV 離職型：現在仕事についていないが、かつては仕事についていた
- V 就業経験なし：学校卒業後一度も仕事についたことがない

初職継続者は761人、15%である。そのうち、正社員・正規職員は、86%を占める（651人）。これは、対象者全体に占める正社員・正規職員の割合が、32%であることと大きく異なる。

図2



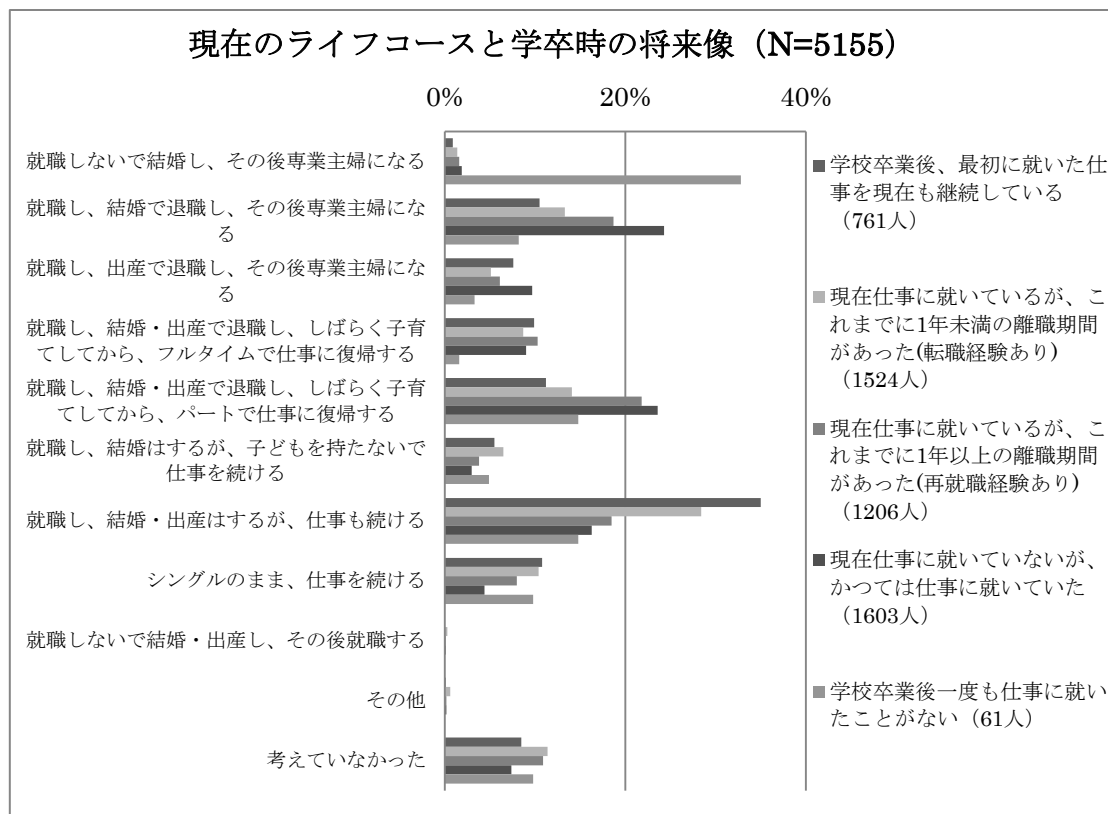
＜現在のライフコースと学卒時の将来像＞

ライフコース・パターンⅠの「初職継続型」（761人）の人が、学校を卒業する段階で将来のライフコースをどのように描いていたかを見てみよう。現在のライフコース・パターン別に結果を示したのが次の図である。

「就職しないで結婚し、その後専業主婦になる」と考えていたのは「Ⅴ就業経験なし」で突出して多く、「就職し、結婚で退職し、その後専業主婦になる」「就職し、出産で退職し、その後専業主婦になる」は「Ⅳ離職型」に多い。

一方、「就職し、結婚・出産はするが、仕事も続ける」と考えていたのは「Ⅰ初職継続型」に多く、職業とライフイベントを視野に入れた将来像をどのようなものとして描いていたかという学卒時における意識のありようが、現在に至るまでのプロセスに少なからず作用しているとみることができるだろう。

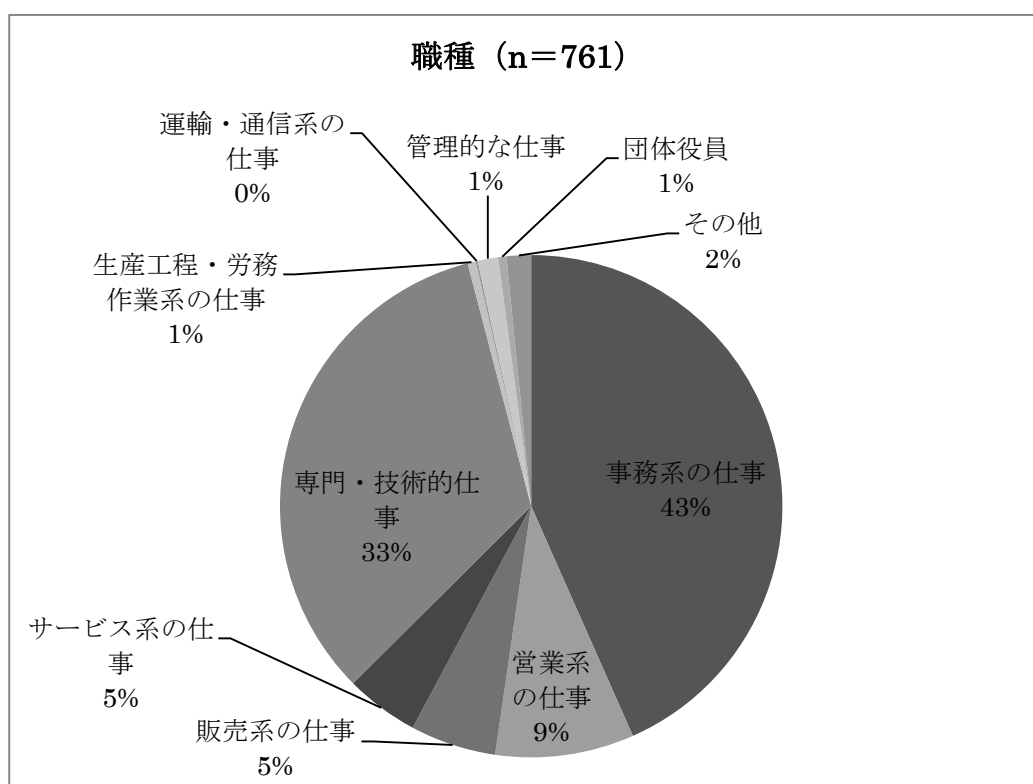
図 3



<職種>

職種では、「事務系の仕事」43%、「専門・技術の仕事」33%が多くみられる。対象者全体（5155人）のうち現在仕事についている3491人では、「事務系の仕事」50%、「専門・技術の仕事」が23%であることと比べて、「事務系の仕事」の割合が少なく、「専門・技術の仕事」の割合が多い。ここで、「事務系の仕事」とは、事務員、秘書、事務用機器操作員をさす。「専門・技術の仕事」とは研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなどである。

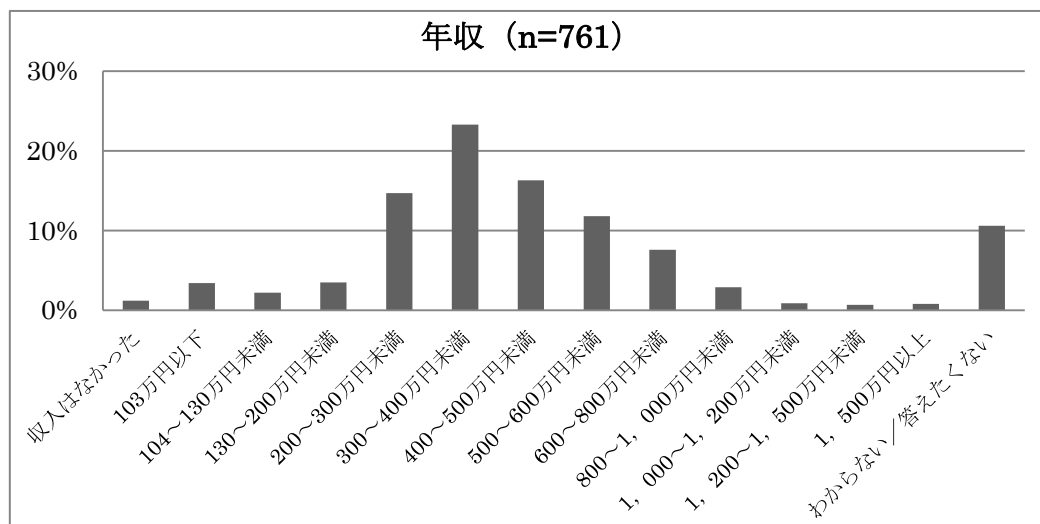
図 4



＜昨年の年収＞

昨年の年収では、「300～400 万円未満」が最も多い。「収入がなかった」がわずかに含まれるが、個票から、この人たちは大学院卒であり、昨年はまだ就職していなかったことが確認された。

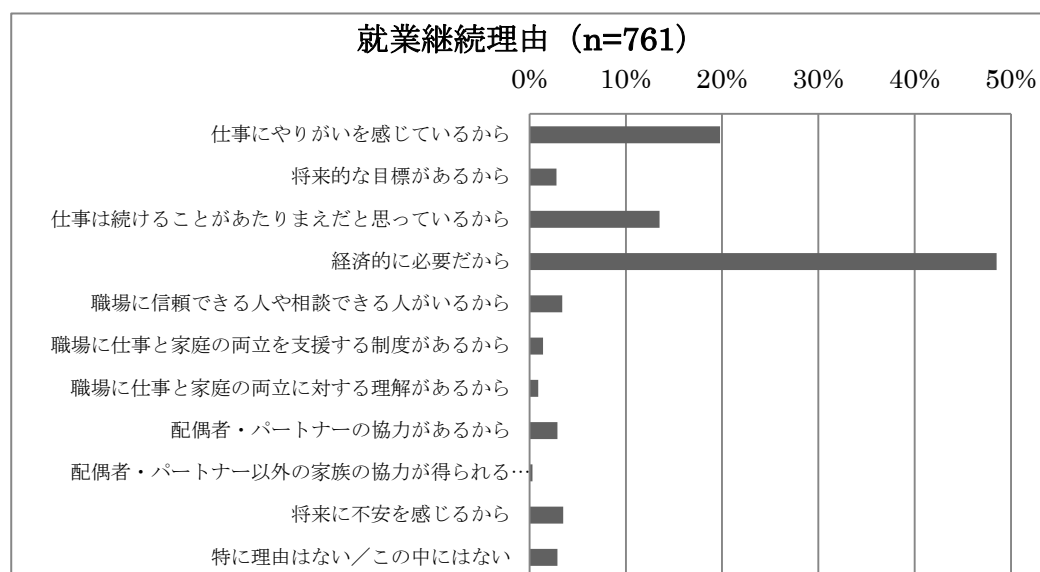
図 5



＜就業継続の理由＞

初職を継続している人に、仕事を続けている理由を聞いた。「経済的に必要だから」と答えた人がもっとも多く 49%、次いで、「仕事にやりがいを感じているから」20%、「仕事は続けることがあたりまえだと思っているから」14%と続いた。

図 6



<現在の家族状況>

女性の就業継続は、結婚・出産・介護などの家族状況によって大きく左右される。初職を継続している女性たちは、こうした家族イベントとどのように向き合っているのだろうか。婚姻状況と既婚者の子ども数について次に示した。初職継続者の60%は未婚である。対象者全体では未婚は32%であり、大きなちがいとなっている。

初職を継続している既婚者（288人）中、子どもがいない人は51%、子どもがいる人では1人29%、2人18%、3人2%となっている。対象者全体では子どもがいない人が56%、子どもがいる人では1人20%、2人20%、3人4%である。

こうしてみると、初職を継続している女性における未婚者の割合が、対象者全体における未婚者の割合のおよそ2倍であるが、既婚者における子どものいる人の割合には大きな違いはみられない。

図 7

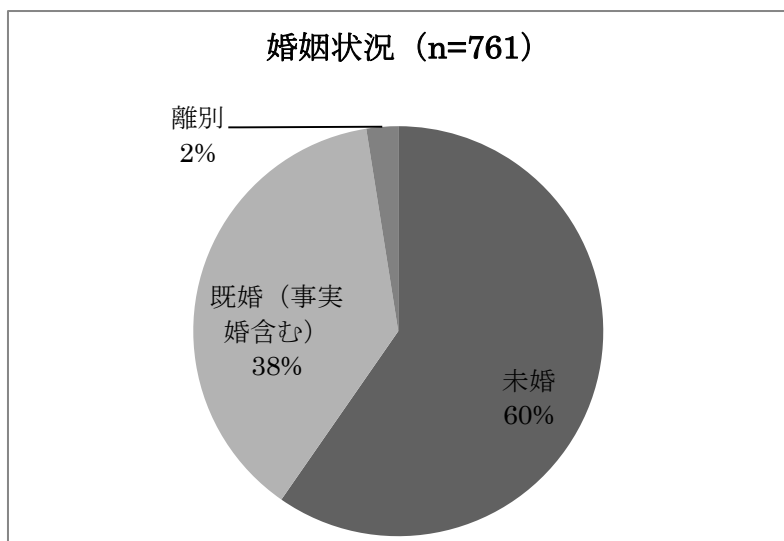
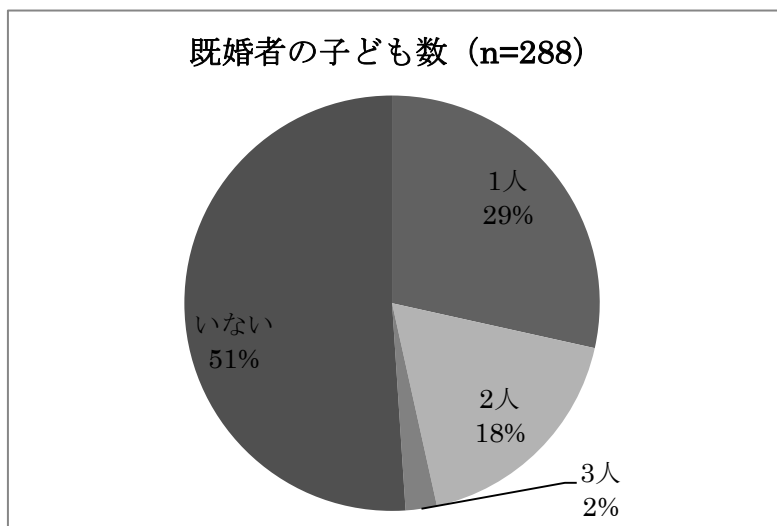


図 8



＜家計の主たる担い手＞

家計の担い手を既婚者と未婚者に分けて見てみると、既婚者では「配偶者・パートナー」が 77%、「本人」が 20%であった。対象者全体でみると「配偶者・パートナー」が 93%、「本人」は 6%である。

未婚者では、「本人」67%、「それ以外」33%である。対象者全体では未婚者の場合、「本人」66%、「それ以外」34%で初職継続者とあまり変わらない。

図 9

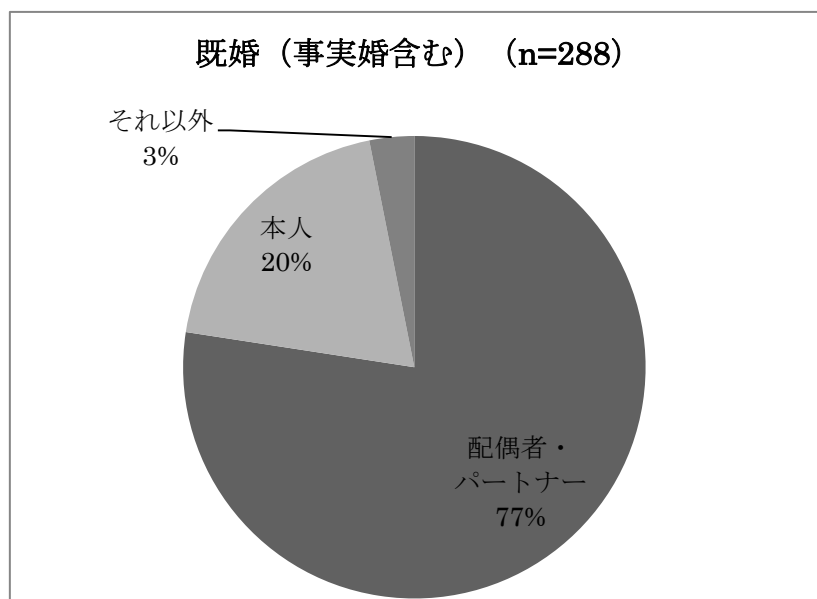
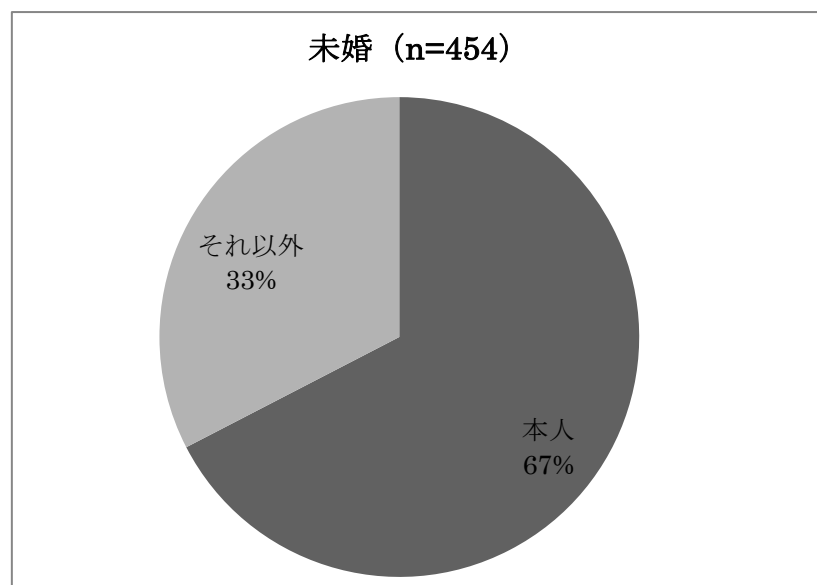


図 10



＜初職継続者の特徴＞

ここまで、初職を継続して現在に至った人の特徴をみてきた。明らかになったことは次のとおりである。

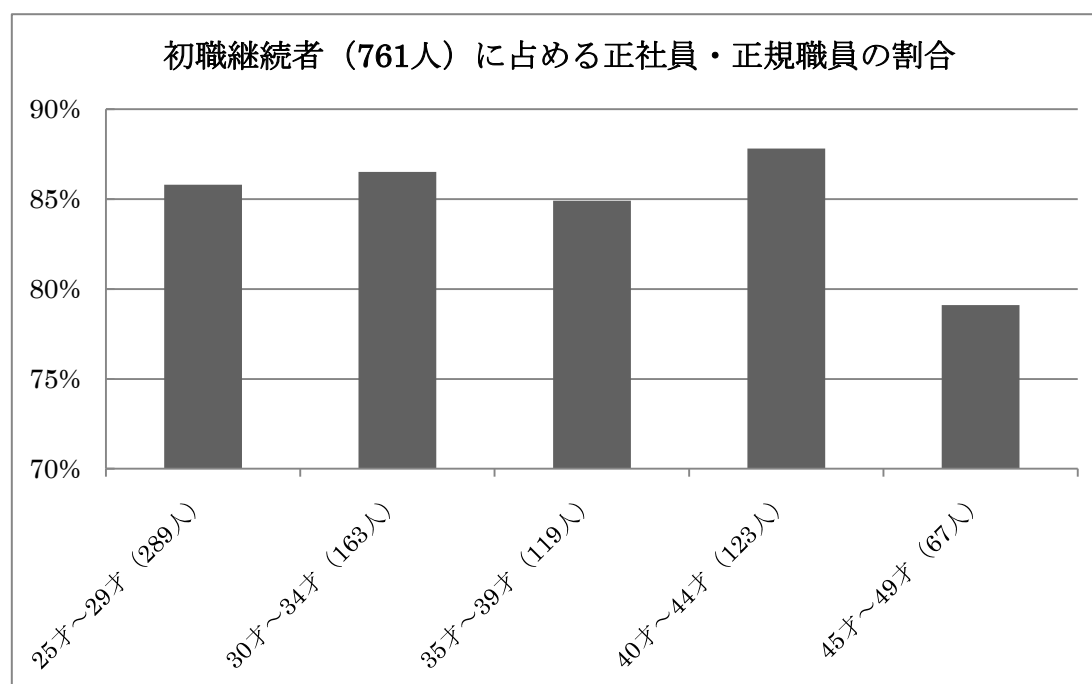
- ① 学卒時のライフデザインのありようが、その後のライフコースに反映される。
- ② 「専門・技術的な仕事」に就いている人が 3 割強、「事務系の仕事」に就いている人が 4 割強である。
- ③ 年収 400 万円以上が 4 割を占める。
- ④ 就業継続の理由として突出しているのは「経済的な必要」である。
- ⑤ 未婚が 6 割である（対象者全体では未婚は 3 割）。
- ⑥ 既婚者の半数は子どもがいない（対象者全体でも半数は子どもがいない）。
- ⑦ 主な生計支持者は、既婚者の場合 8 割が「配偶者・パートナー」であり、未婚者の場合は 7 割が「本人」である。

4. 初職継続者で正社員・正規職員の特徴

以下では、初職継続で正規雇用者に限定してみていく。これは、日本の労働市場においては、初職をいったん辞めてしまうと、その後、正規雇用として再就職することが非常に困難であること、および、正規雇用者以外では、育児休業取得が事実上困難となるためである。このように限定することで、国の女性就業継続支援策をもっとも受けやすい人たちに現れた「成果」を確かめることができると思う。

それでは、初職継続者のうち正規雇用者（651人）は、各年齢集団のどのくらいの割合を占めるだろうか。正規雇用者の割合は、年齢分布 25～44 歳では 85%前後、40 代後半では減少するがそれでも 79%である。対象者全体においては、正社員・正規職員の割合が 32%であることは前述の通りである。

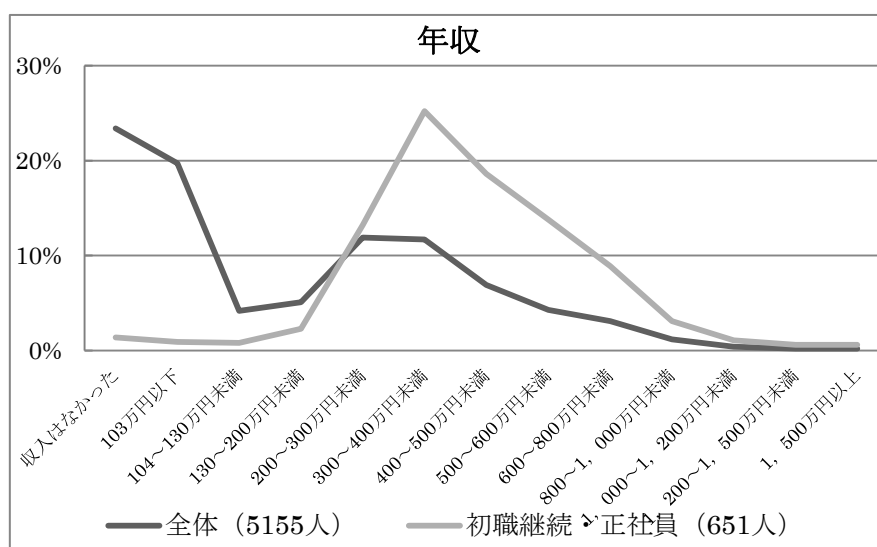
図 11



<年収>

次に、初職継続で正社員・正規職員の女性の年収をみてみよう。ここでの年収は調査前年のものである。対象者全体では、調査時点で無業の人が 3 割、再就職の人が 2 割であることを反映して、「収入はなかった」「103 万円以下」がそれぞれ 20%を超えて最も多い割合を占める。これに対して、初職継続の正社員・正規職員女性の場合は、「300～400 万円未満」が最も多くおよそ 4 分の 1 の人がここに集中しており、収入はここを中心に両側に広がっている。

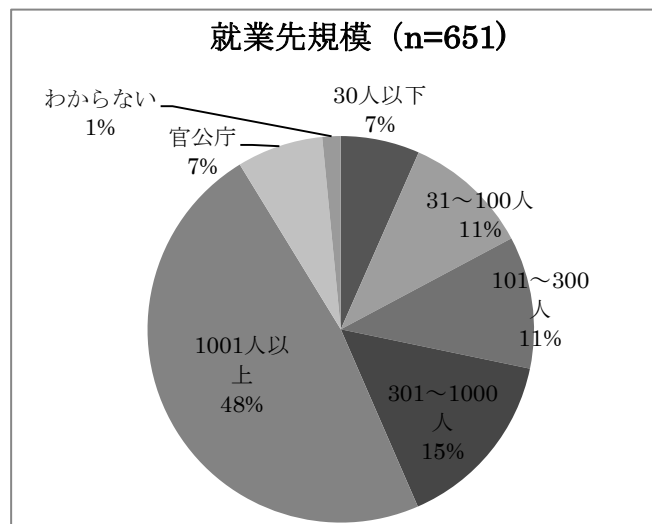
図 12



<就業先の規模>

就業先規模を見ると、「1001 人以上」が 48%、「301～1000 人」が 15%で、合わせると 6 割強となる。官公庁が 7%である。

図 13

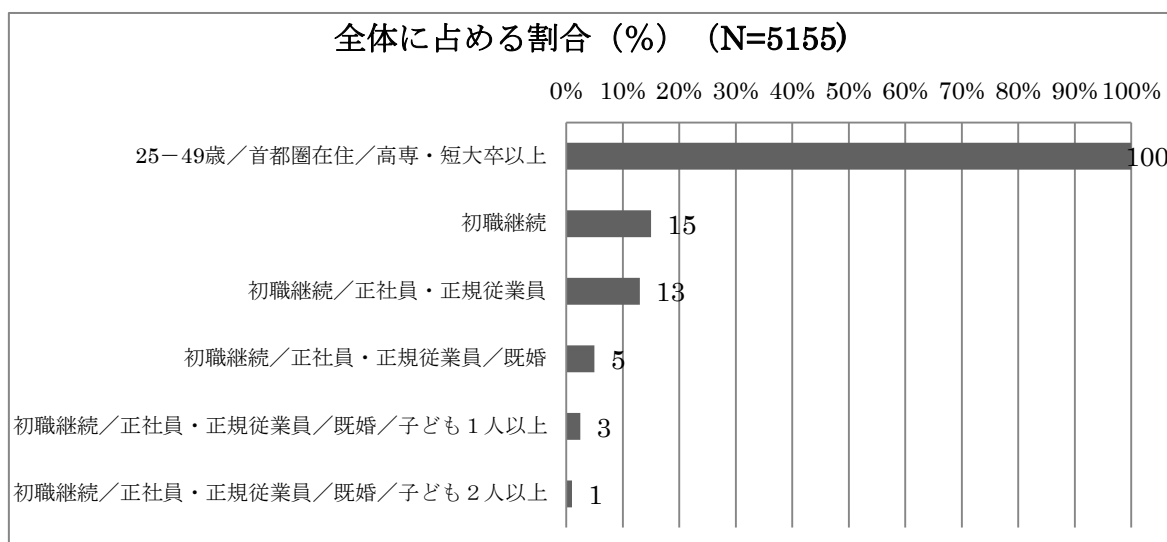


<ライフイベント>

それでは、初職継続し正社員・正規従業員である女性のライフイベントについて見ていこう。まず、既婚者の割合は 651 人中 251 人 39%である。次に既婚で子どもが 1 人以上いる人は、651 人中 128 人 (20%)、既婚で子どもが 2 人以上いる人は、651 人中 50 人 (8%)である。

さらに、これが対象者全体の中ではどのくらいの割合となるのかを算出すると、図 14 のように既婚者の割合は 5%、既婚者で子どもが 1 人以上いる人は 3% (2.5%を四捨五入)、既婚者で子どもが 2 人以上いる人は実に 1% (0.9%を四捨五入) となることがわかった。

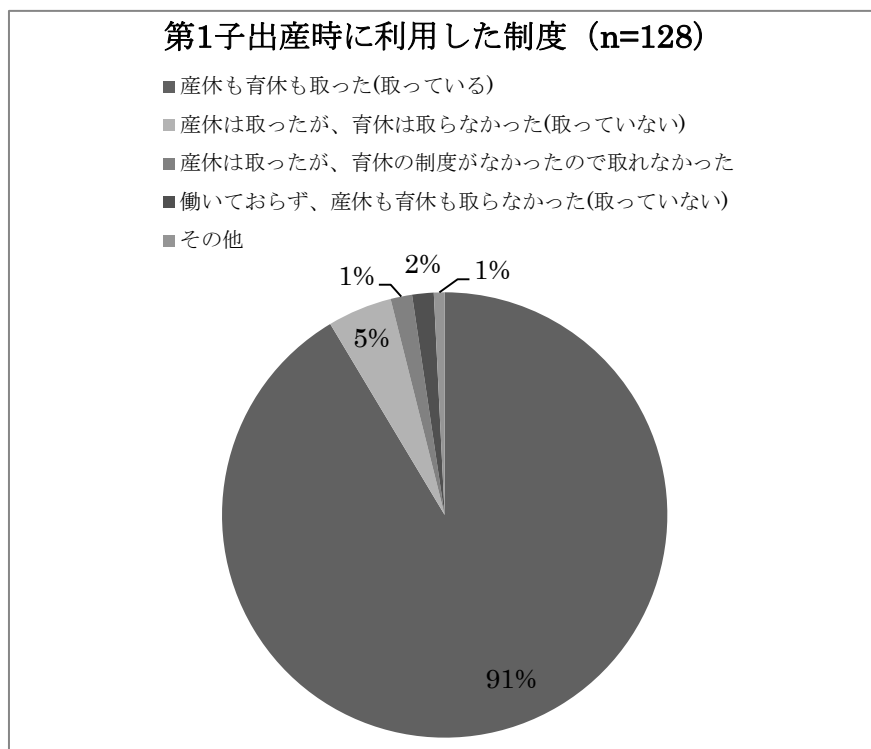
図 14



＜第1子出産時に利用した制度＞

初職を継続し、正社員・正規従業員である人で、子どもを1人以上もつ人が、全体の3%であることが明らかになった。この人たちが第1子出産時に利用した制度をみてみよう。91%が「産休も育休も取った（取っている）」と答えている。

図 15



＜就業継続意向＞

最後に、初職継続&正規雇用者の就業継続意向をみておこう。「このまま今の職場で働きたい」と継続就業を希望する人は62%である。初職を継続している正社員・正規職員（651人）では、「このまま今の職場で働きたい」が48%であることを見ると、既婚で子どもがある人では、現状を続ける意向をもつ人が多い。

図 16

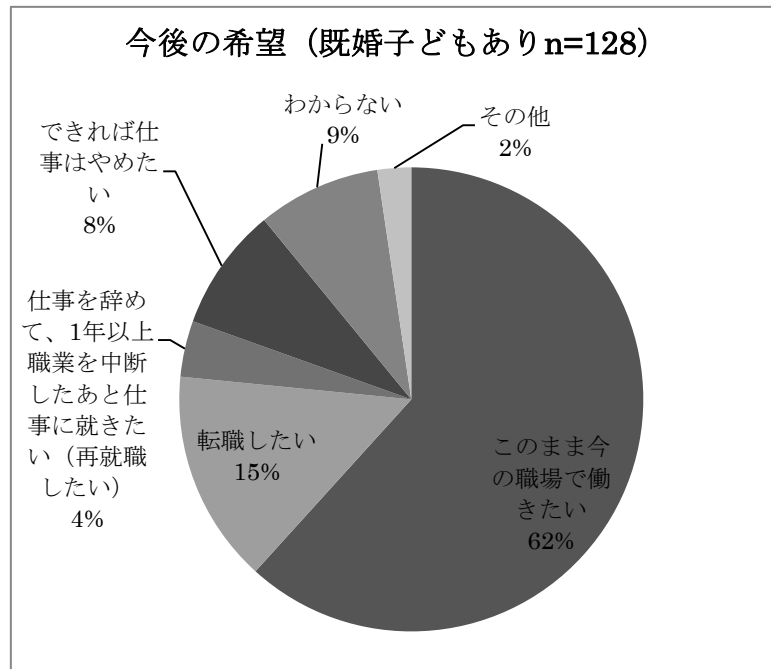
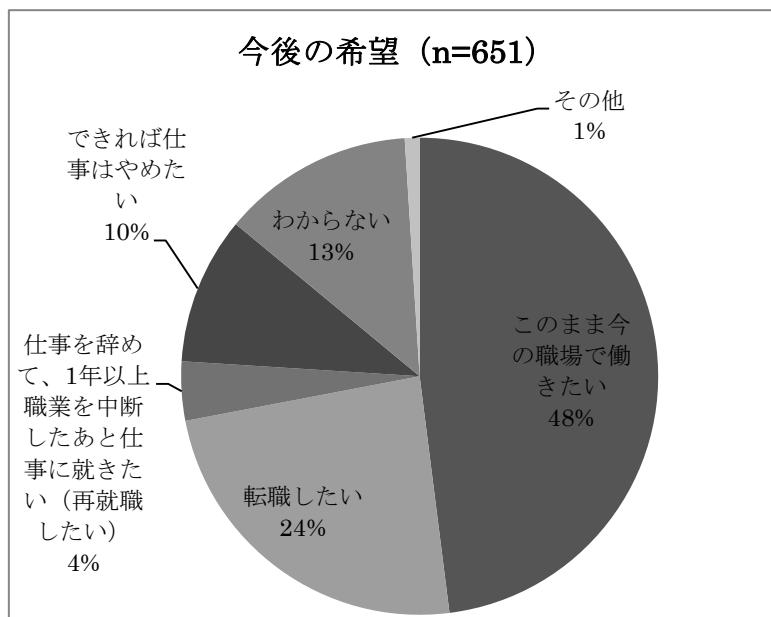


図 17



5. 初職継続の正社員・正規職員は「ワーク・ライフ・バランス」モデルたりえるのか

本章では、対象者全体の 15%にあたる初職継続型の人たちに焦点をあててその特徴をさぐってきた。その 8 割が事務または専門・技術的仕事に従事し、4 割が年間 400 万円以上の収入を得ている。6 割が未婚で、既婚者の半数に子どもがいる。こうした像が浮かび上がってきた。

このうちの 85%は正社員・正規職員である。社会のなかで雇用の流動化が進めば進むほど、反対に、この対象者たちの労働市場での優位性が際立ってくる。無期雇用という点からみて雇用が相対的に安定しているのに加え、育児休業制度は「従業上の地位、雇用条件の制約が大きく、正社員中心・雇用保険主義の制度となって（萩原 2012: 31）」おり、「雇用期間が一年未満、所定労働時間が 6 時間以下、週所定労働日数が 5 日以下の労働者は適用除外（萩原 2012: 31）」となっている点からみて、国の「ワーク・ライフ・バランス」実現のための施策の恩恵に最も浴することが出来る層といえる。

こうした点をふまえ、初職継続の正社員・正規職員に限定してライフイベントの実現状況を分析した。本稿は、すべての女性が結婚し出産することを当然視しているわけではないが、上記の政策下にあつては、図 14 で見たように、この最も有利な層にあつても、子どもをもって働き続けているのは、わずかに全体の 3%にすぎないことがわかった。2 人以上の子どもとなると、それを実現しているのはわずか 1%である。

しかも、本調査は短大・高専卒以上を対象としており、初職継続で正社員・正規職員である可能性の低い高卒以下の学歴の人たちを含んではいない。したがって、首都圏在住の 25-49 歳の女性全体を分母としてみれば、この数字はより低いものとなることが容易に推察される。

この事実は何を物語っているのだろうか。まずもって、正社員・正規職員として初職を継続し、結婚し子どもをもつということが、これほどまでに「特別なこと」であることに驚く。この、政策意図にもっとも合致しているはずの対象においてさえ、その成果はあまりにも乏しい。結婚して子どもをもつことはまだまだ遠い課題であるといえる。さらに、少子化対策という側面から言えば、初職を継続している正社員・正規職員のなかで人口置換率を超える 2 人以上の子どもをもつ人は全体の 1%にも満たない。初職を継続し正社員・正規職員である人が結婚・子育てをすることは「ワーク・ライフ・バランス」のモデルたりえるだろうか。

本調査結果の範囲で言えば、仮に、この層の女性たちのほとんどが結婚し子どもをもつたとしても、対象者全体の 13%である。しかも、前述のように育児休業制度の適用が限定的である以上、その成果が正社員・正規職員以外の女性に波及する可能性は絶たれている。そうであるなら、初職を継続している正社員・正規職員を「ワーク・ライフ・バランス」のモデル、あるいは、これをけん引する層とみることには大いに疑問をもたざるをえない。

¹ 女性の結婚・育児による高い離職率、雇用における年功賃金制度や正規雇用の強い雇用保障、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みの遅れ、人事決定が、人事部・人事課の裁量に任されている、の4点を示した。

² 原伸子は、雇用の多様化論にもとづく多様な働き方が個人の自己責任において「選択」という論理に支えられていること、雇用政策と少子化対策からなっていることを日本のワーク・ライフ・バランス政策の特徴としてあげている。ただし、「自律的個人」を前提とした「選好」理論は、その背後にある社会的強制を排除することになると警鐘を鳴らしている（原 2011）。

【文献】

萩原久美子, 2012, 「『ワーク・ライフ・バランス』をめぐる二つの世界」『女性学』19: 22-35.

原伸子, 2011, 「ワーク・ライフ・バランス政策の論理——批判的考察」『経済志林』78 (4) : 165-194.

内閣府, 2012, 『平成 24 年版男女共同参画白書』.

山口一男, 2008, 「男女の賃金格差解消への道筋——統計的差別の経済的不合理の理論的・実証的根拠」『日本労働研究雑誌』574: 40-68.

就労意欲と断続するキャリア

—初職離職、転職、再就職行動に着目して—

杉浦 浩美

1. 問題の所在

女性の就業中断や離職、キャリアの断続については、これまで多くの調査・研究が積み重ねられてきた。特に 1990 年代以降、少子化が問題化されてからは、女性のライフコースにおける出産・育児期の就労支援が社会的課題とされた。先行研究では、「出産退職は減少傾向が認められず、むしろ増加傾向にある」（新谷 1998）、「結婚退職から出産退職へという離職時期のシフト」（岩澤 2004）等の指摘がなされ、さらに第 1 回の 21 世出生児縦断調査（2001 年度）においては、第 1 子出産前に有職であった母親の 67.4%が無職という調査結果も示された¹。こうした結果を受け、「第 1 子の妊娠・出産で多くの女性が仕事を辞めてしまう」という問題設定のもとに、「どのような条件なら、あるいはどのような支援があれば女性は仕事を辞めないのか」が政策的関心ともなり、多くの調査・研究がなされてきたのである（例えば直近のもので、労働政策研究・研修機構 2009,2010,2012）。

だが、改めて言うまでもなく、女性が仕事を辞める理由は「妊娠・出産・育児」ばかりではない。「出産退職」に対するアプローチは重要であるが、一方で、そこに関心が集中するあまり、女性の就業中断に対する見方が、やや一元的になっている恐れはないだろうか。例えば、未婚女性の離職や、あるいは「出産・育児」以外を理由とする離職については「出産退職」ほどには、問題化されていない。さらに「出産退職」についても、本当に「育児との両立困難」を退職理由とみなしているのか、その背後に他の要因はないのか、検討すべきことも多いように思われる。

本稿では、以上の問題意識を起点に、女性の離職、転職、再就職行動に着目し、キャリア移動がどのような要因で起こっているのか、「家族的要因」以外の観点からも検討することを試みる。さらに、そのキャリア移動が、女性自身の就労への意欲や評価、満足度とどのように関係しているのか、明らかにしていきたい。

2. 先行研究

女性の就業中断については、これまでも初職離職率の高さが指摘されてきた。内閣府男女共同参画局の調査（2007）では、初職を就業継続している女性の割合は 15.0%に過ぎない。さらに、男性に比べて女性の初職離職率が高いことも指摘されている（例えば三輪 2011）。離職理由について、20 歳代前半については「仕事や職場に満足していないことや仕事の強度に耐えきれないことがやめる理由となっている」とされるが、20 歳代後半については「結婚や出産が離職を起こす第 1 の理由となる」（松繁 2001）とされる。女性のキャリア断続は「結婚や出産に伴う離職が無視できない割合を占める」（三輪 2011）といったように、ラ

ライフイベント（家族的要因）との関係から解釈されることが多かった。「妊娠・出産」といった「目に見えやすい理由」があがってくるため、それ以外の要因、例えば、仕事内容や働き方、仕事へのコミットメントなど「就労そのもの」との関係から問う視点が薄くなってしまうのではないか。

だが、総合職や専門職など、キャリア型女性の就業継続研究においては、ライフイベントだけでその離職行動が問われることは少ない。例えば、大内は先行研究を整理しながら、女性の就業継続を促進する要因は、「個人の意識要因」「家族状況要因」「職場・仕事状況要因」の3要因が複雑に絡んで成り立っている」（大内 2012）と指摘する。そこでは、企業の育成・活用方法や就労へのモチベーション、女性のキャリア意識など「就労そのもの」との関係も重要な要因として示されるのだ。こうした観点は、今のところ一部の女性を対象とした関心にとどまっており、女性の離職行動全体を問う視点とはなっていないように思える。

これまで女性のキャリアの軌跡は「妊娠・出産」で仕事をいったんやめ、子どもがある程度大きくなったら、労働市場に復帰するが多くが非正規雇用となるといった、いわゆるM字型の解釈で説明されることが多かった。だが、そのような解釈の陰に隠れて見えにくくなっている問題もあるのではないか。女性労働者全般に対しても、離職や断続の理由をもっと多角的にとらえていく必要があると考える。

3. 調査データと方法

本稿では、調査対象者 5155 人のうち、これまで何らかの就業経験のある 5094 人を考察対象とし、初職離職、転職、再就職行動について分析していく。その際、この 5094 人を「子どもあり層」と「子どもなし層」という軸で分けて比較し、さらに「子どもなし層」の初職離職、転職、再就職行動に着目し分析するという方法をとる。これは、女性の離職行動が、もっぱら出産や育児といった家族的要因と結び付けて考えられがちであることに対し、あえて「子どもなし層」を抽出し、その行動に着目することでそれ以外の要因を浮かび上がらせたい、と考えるからである。

4. 分析

（1）「子どもなし層」においても、8割が初職を辞めている

これまで何らかの就業経験のある 5094 人のうち、学卒後の初職を継続している人は 761 人で、全体の 15%に過ぎない。残りの 8割以上の女性が、転職、再就職、離職を経験していることになる。初職継続者の特徴は、前章でも触れているように、未婚者が 454 人で 6割を占め、既婚者は 288 人（37.8%）、さらに、既婚者のうち半数以上の 147 人は子どもがいないと答えている。未婚、離死別で子どものいる 8 人を加えても、子どもがいて初職を継続している人は 149 人で、初職継続者の内の 2割程度（19.6%）である。これをふまえ、以下、子どものある／なしに着目して、その就業プロセスをおつてみる。

【子どもあり層の就業プロセス】

まず、子どものいる女性に限定して、その就業プロセスについてみることにする。

本調査では、無業期間が1年未満の人は「Ⅱ転職型」としているが、これは、ごく短い中断をはさんでの就業継続層（職場や働き方を変えながらも就業を継続している人）と、とらえている。この転職層のうち、子どもがいる人は274人である。したがって、妊娠・出産後も何らかの形で就業を継続している人は、先ほどの初職継続者と合わせ423人となる。調査対象者全体で、何らかの就業経験のある人のうち、子どものいる人は2251人なので、それに対しての割合を出すと、本調査で「子どもがいる人のうち、何らかの形で就業を継続した人」は18.8%（内、初職継続者が6.6%、転職経験者が12.2%）という結果となる。就業をいったん中断はしたが、その後、職場復帰した人（「Ⅲ再就職型」）は669人で約3割（29.7%）、残り1159人が離職しており、離職者は子どもがいる女性全体の約半数（51.5%）を占める。

【子どもなし層の就業プロセス】

本調査の調査対象者全体で何らかの就業経験のある人のうち、子どものいない人は2843人である。そのうち、初職を継続している人は612人（21.5%）で、子どもがいる人の初職継続率6.6%と比べればぐんと高くなる。しかし逆に言えば、子どもがいない人においても、約8割が初職を辞めていることになる。この初職を辞めた2231人の就業プロセスに着目すると、転職型は1250人で44.0%、再就職型が537人で18.9%、離職型が444人で15.6%となる。初職継続者、転職経験者を合わせての就業継続層は65.5%。「子どもあり」の就業継続層が約2割であることを思えば、こちらも格段に多くなるが、このうち、初職継続者を除いた4割以上的人是「妊娠・出産・育児」以外の理由で初職を辞めたと推測される。さらに、そのうち2割の人が何らかの理由で職業を中断しており、15%以上的人是、何らかの理由で労働市場から退出している。

図1 子どもあり層の就業プロセス
(n=2251)

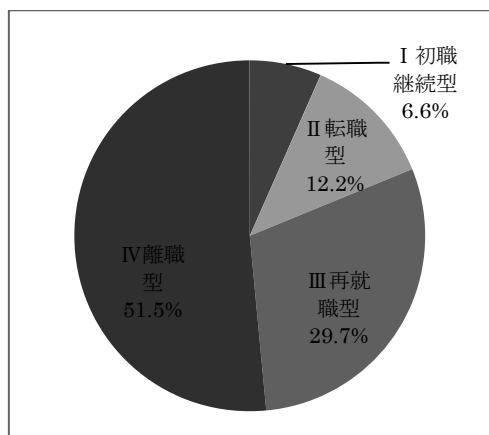
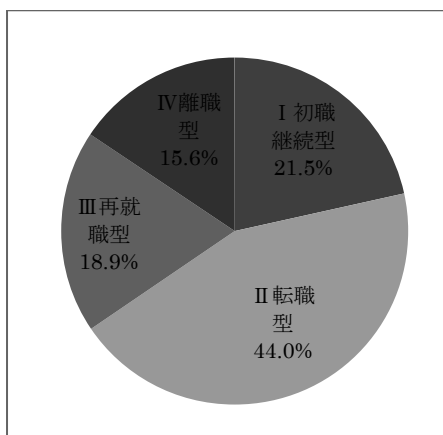


図2 子どもなし層の就業プロセス
(n=2843)



以上確認してきたように、子どものいる女性といない女性の就業プロセスには明らかな違いがあり、「妊娠・出産・育児」が女性のキャリアに大きな影響を与えていることは、本調査でも確認できる。

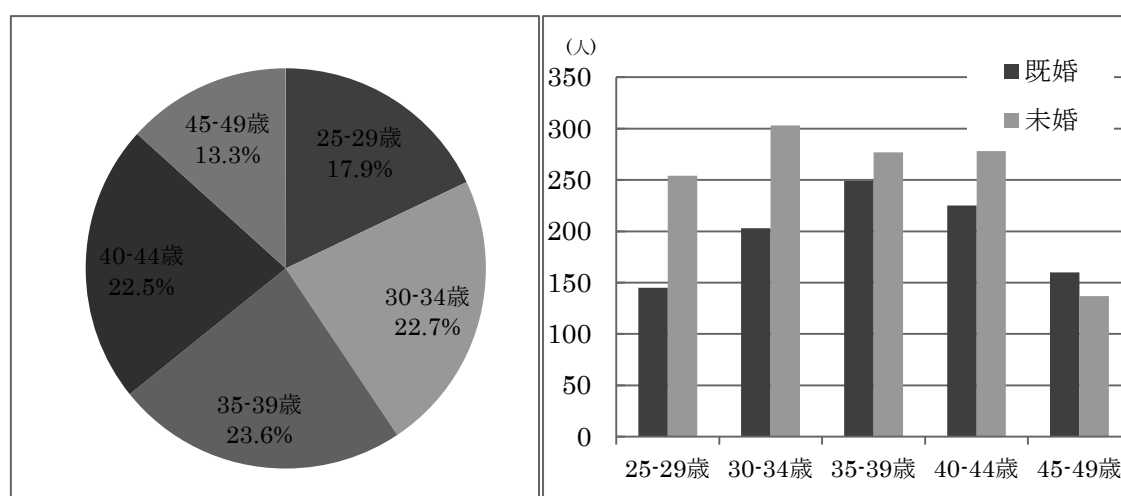
その一方で、子どもがいない女性においても 8 割近くの人が、初職を辞め、転職や再就職、あるいは離職といった何らかのキャリア変更を経験している。女性は、子どもがいようがいまいが、初職を辞めている。本調査の調査対象者は短大卒（高専卒含む）以上の高学歴層であり、初職正規雇用率も高い。こうした比較的「恵まれた」と思える層においても、「妊娠・出産以外の理由」での高い初職離職率が確認できるのである。

なぜ、女性は初職を辞めるのか、これまで、家族的要因に隠されて見えてこなかった離職行動の背景にあるものを、「子どもなし層」の初職離職行動に着目することで、探っていくと同時に、そのキャリアの断続が何を意味するのか、確認していきたい。

（２）子どもなし層の初職離職行動

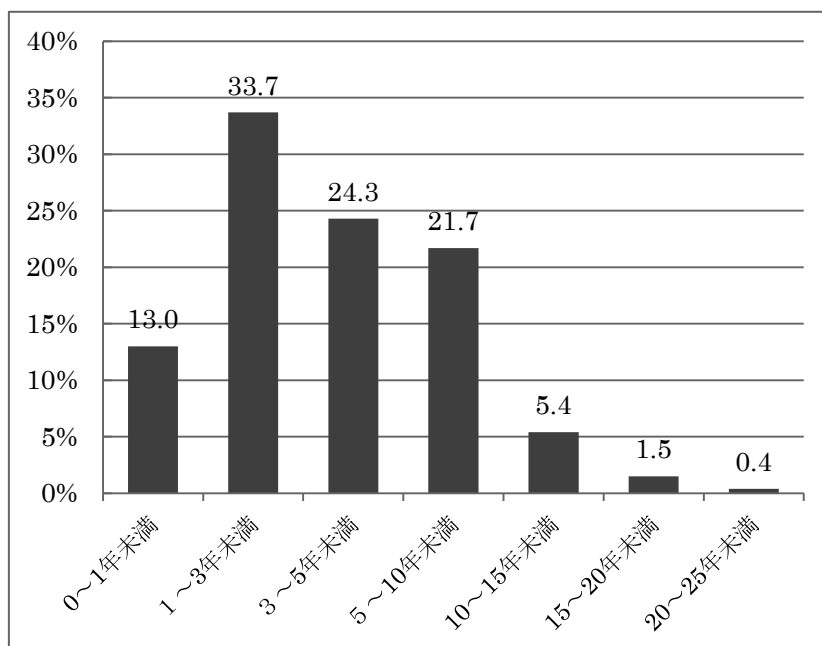
初職を辞めた子どもなし層のプロフィールは以下の通りである。45-49 歳層を除くと、どの年齢層においても、未婚者の方が多い。

図 3 初職離職者・子どもなし層のプロフィール（n=2231）



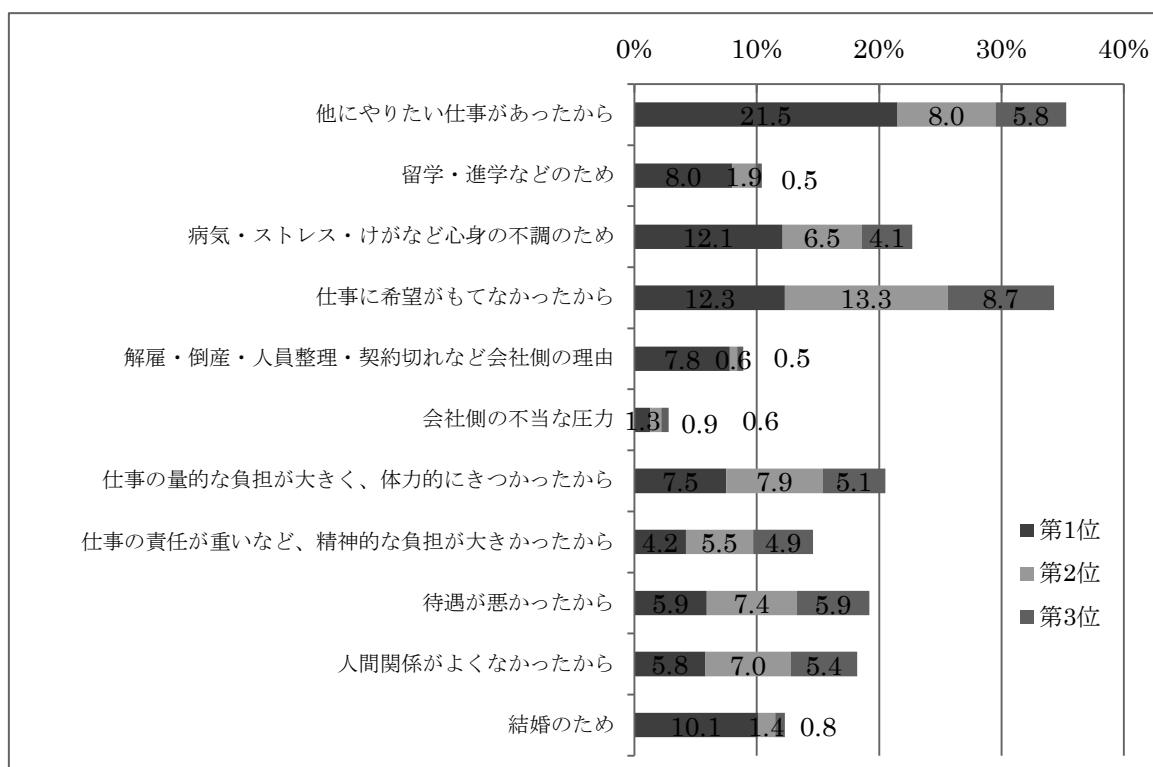
初職勤続年数は、3 年未満までが 46.7%、5 年未満までが 71.0%、10 年未満までが 92.7% である。女性はたとえ子どもがいなくても、7 割が 5 年未満で、9 割以上が 10 年未満で初職を辞めていることになる。

図4 初職離職者・子どもなし層の初職勤続年数（n＝2231）



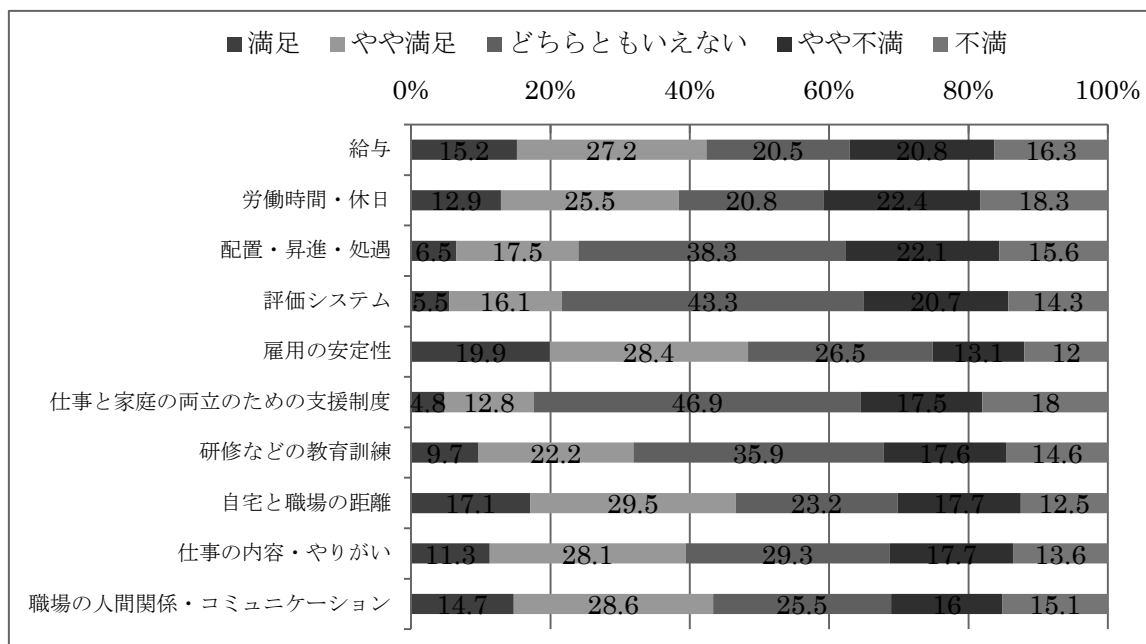
「子どもなし層」の初職退職理由を第3位までたしあげてみると「他にやりたい仕事があったから」「仕事に希望が持てなかったから」がそれぞれ3割以上を占め、仕事へのモチベーションの問題が大きいことを示している。

図5 初職離職者・子どもなし層の初職離職理由（n＝2231）



初職への評価もみておく。もっとも満足度の高いもの（やや満足も含む）は「雇用の安定性」で48.3%、ついで「自宅と職場の距離」46.6%、「給与」42.4%となる。反対に不満（やや不満含む）と答えられているものは「労働時間・休日」40.7%、ついで「配置・昇進・処遇」37.7%、「給与」37.1%となる。

図6 初職離職者・子どもなし層の初職評価（n=2231）



以上、子どもなし層の初職離職理由を第1位から第3位までたしあげてみると、「他にやりたい仕事があったから」「仕事に希望がもてなかったから」が多く、ついで「病気・ストレス・けがなど心身の不調のため」となる。初職評価においては「雇用の安定性」への満足度がもっとも高く、「やや満足」まで含めると48.3%となる。反対に不満項目としてあげられているのは、「労働時間・休日」や「配置・昇進・処遇」といった項目である。「就労意欲」をもちながらも「働き方」への疑問や「先の見通しのなさ」が離職の背景にあることがうかがえる。だが、女性の就労状況が厳しい現状においては、女性が初職手放すことの影響は大きい。特に、正規雇用という安定した職業を手放すことの意味は大きいはずだ。初職を離職した後、女性たちは、どのようなキャリア・プロセスを経ているのか。

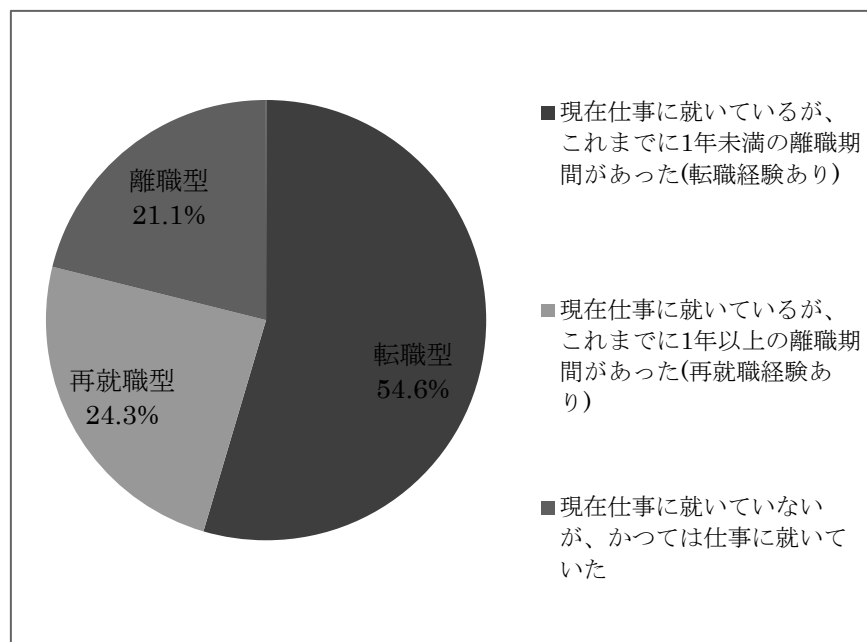
以下からは、初職離職者・子どもなし層のうち、初職を正規雇用でスタートした1622人についてみていくことにする。

なお、本調査対象者5155人のうち初職を正規雇用でスタートした人は4003人である。そのうち8割以上の3352人が離職している。初職が正規雇用だった人の離職率は83.7%となっている。

（３）正規雇用初職離職者の４割以上が、いったん労働市場から退出

正規雇用の初職を辞めた後の働き方をみる。１年未満に転職しているのは 54.6%。残りの 45.4%はいったん労働市場から退出、再就職するのは 24.3%で、２割はそのまま離職している。

図 7 正規雇用初職離職者・子どもなし層の離職後就労パターン（n=1622）



離職後 1 年未満で就労復帰する人と、1 年以上のブランクが空く人では離職理由に違いはあるのだろうか。転職型と 1 年以上ブランクの空く再就職型・離職型を比較してみる。

違いが大きい項目は「仕事に希望がもてなかったから」で転職型が 40.0%、再就職型・離職型が 30.2%である。ついで「結婚のため」で転職型は 9.7%、再就職型・離職型は 18.5%。さらに「留学進学などのため」は、転職型が 7.3%、再就職型・離職型が 14.8%となる。

転職型の離職理由は「就労意欲要因」が占める割合が高く、再就職型・離職型の離職理由では「仕事に希望がもてなかったから」のボリュームが小さくなる分、「病気・ストレス・けがなど心身の不調のため」の占める割合が大きくなっている。

図 8 正規雇用初職離職者・子どもなし層／転職型の離職理由（n=886）

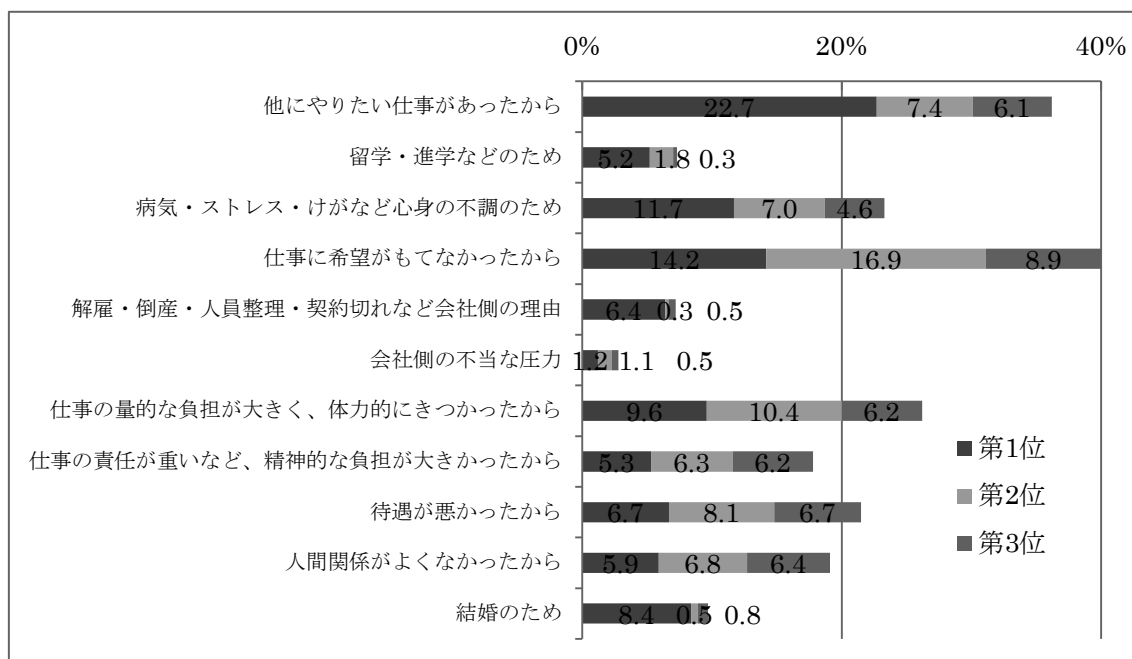
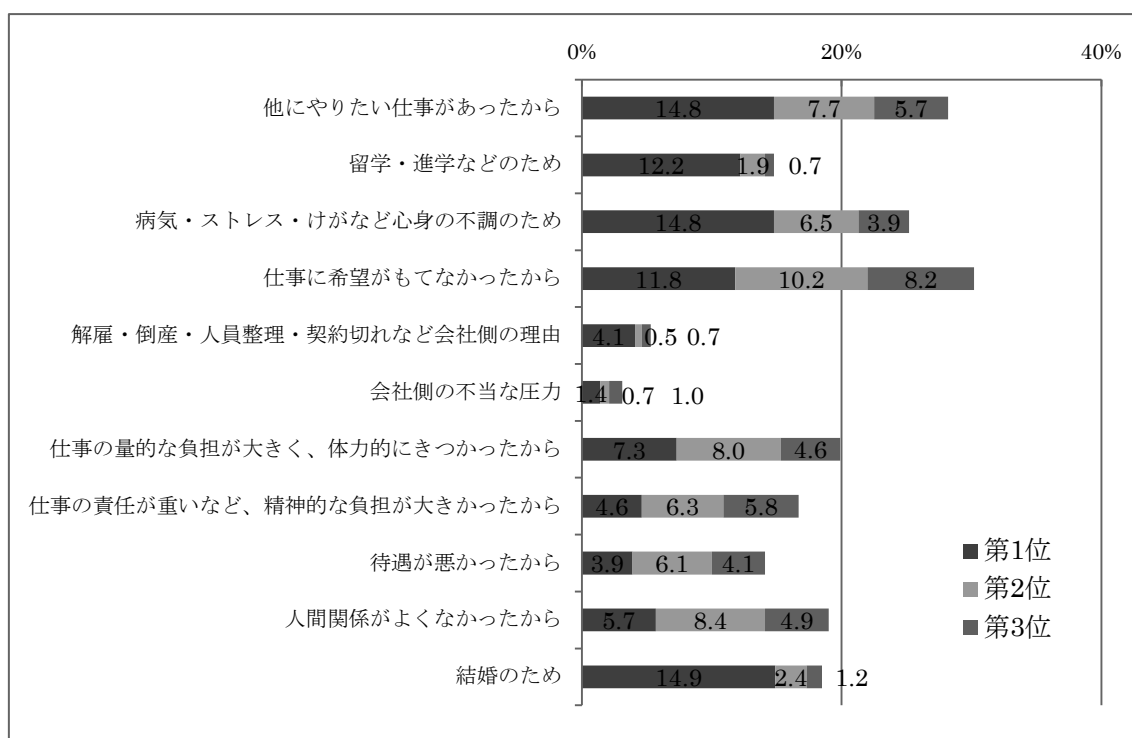


図 9 正規雇用初職離職者・子どもなし層／再就職型・離職型の離職理由（n=736）



（４）正規雇用初職離職者の経済状況

女性が正規雇用を離職する背景には、ある程度の経済的保障があることが予測される。実態はどうであるか。正規雇用初職離職者の約半数は未婚であり、家計責任については「本人が主たる家計の担い手である」と回答している人が４割いる。この中には配偶者・パートナーがいても「自分が主たる家計の担い手」となっている人も含まれる。

図 10 正規雇用初職離職者・子どもなし層
婚姻状況（n=1622）

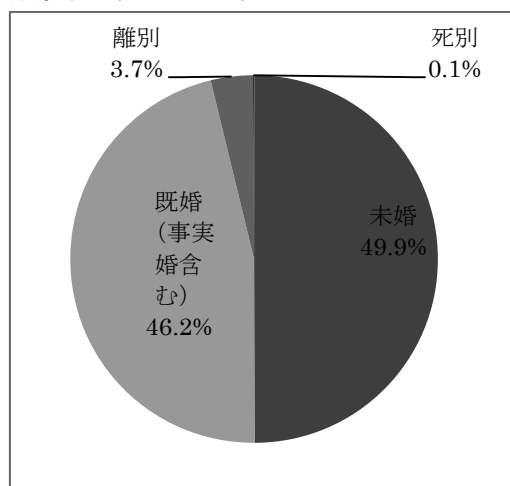
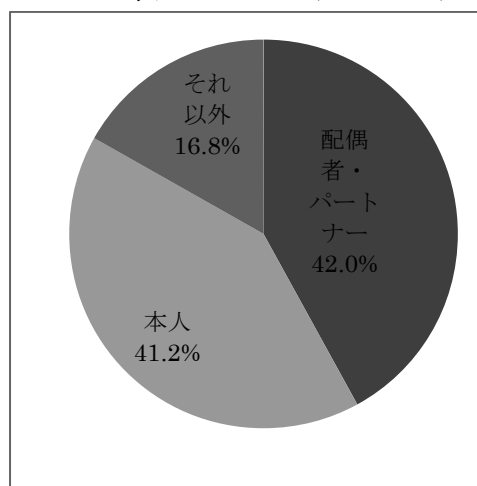
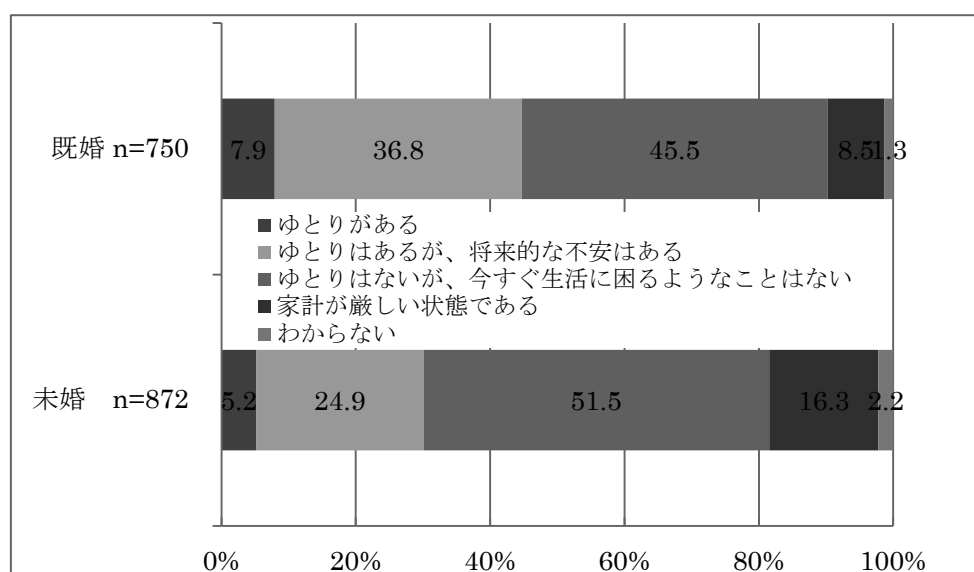


図 11 正規雇用初職離職者・子どもなし層
主たる家計の担い手（n=1622）



経済状況に関しては、「家計が厳しい状態である」が既婚 8.5%、未婚で 16.3%、「ゆとりはないが、今すぐ生活に困るようなことはない」も含めると、どちらも半数を超える。

図 12 正規雇用初職離職者・子どもなし層の経済状況（n=1622）



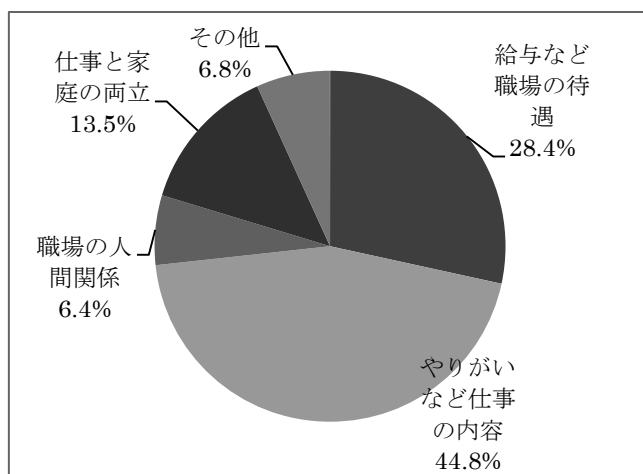
正規雇用という比較的安定していると思われる初職を離職している人の中には、自活する必要がある人や家計を支える必要がある人もふくまれていることが確認できる。

（５）転職・再就職後の働き方

以下からは、正規雇用初職離職者・子どもなし層のうち、現職ありの 1280 人の働き方を確認していく。

子どもなし層の正規雇用初職離職者が転職・再就職に際して重視した条件は、「やりがいなど仕事の内容」がもっとも多く、44.8%で約半数となる。次に「給与など職場の待遇」で 28.4%となる。

図 13 正規雇用初職離職者・子どもなし層／現職あり
転職・再就職に際して重視した条件（n = 1280）

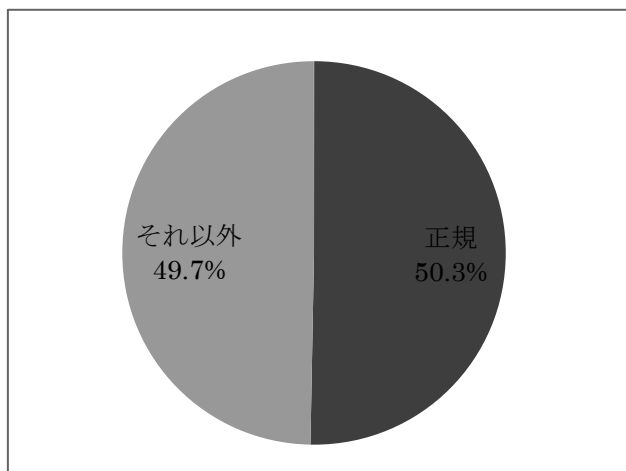


初職離職の背景に「就労意欲」の問題があることは既に確認したが、転職・再就職に際しても、やはり「やりがいなど仕事の内容」といった「就労意欲」が重視されている。「給与など職場の待遇」を重視した人は 3 割にとどまっている。

では、転職・再就職によって働き方や待遇はどのように変化したのか。「現職あり」の雇用形態、仕事内容、年収など確認していきたい。

まず、雇用形態であるが、正規雇用初職離職者のうち、現職ありの 1280 人の正規雇用率は 50.3%。正規雇用を離職した人は、半数が非正規雇用に移っている。

図 14 正規雇用初職離職者・子どもなし層の現職ありの正規雇用率（n = 1280）



正規雇用初職を離職した人で「現職あり」の年収をみると、200～300万円未満、300～400万円未満がそれぞれ2割で、4割がこの範囲内にある。次に多いのが、103万円以下である。これを調査対象者全体のうち、正規雇用の初職を継続している651人の年収とくらべてみる。もっとも多いのが300～400万円未満で25.2%、次に多いのが400～500万円未満で18.6%、3番目に多いのが500～600万円未満で13.8%である。300～600万円未満で全体の57.6%を占めている。離職層では400万円以上の年収がある人は24.8%にとどまっているが、継続層では46.7%となり半数近くとなる。初職離職者は初職継続者に比べて年収ラインが低いところに位置していることがわかる。

図 15 正規雇用初職の離職者・子どもなし層／現職ありの年収（n = 1280）

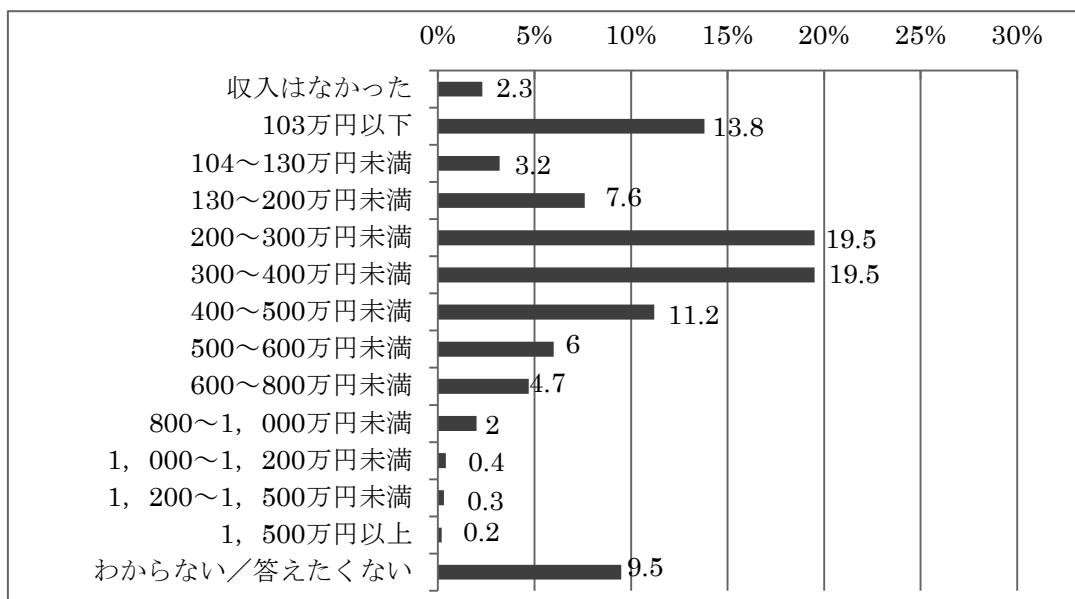
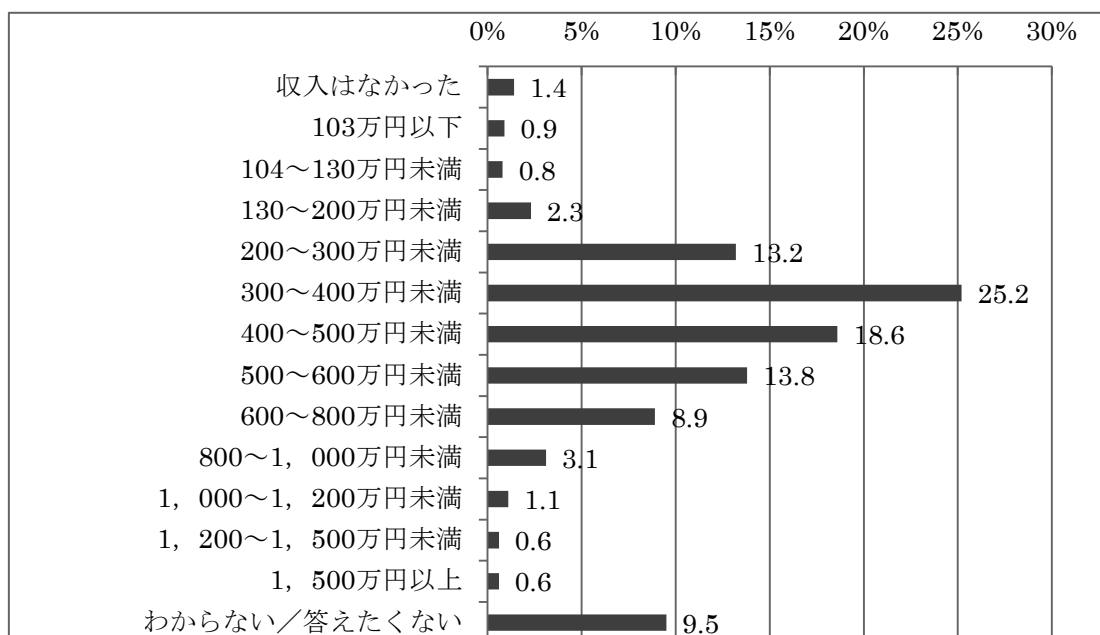


図 16 正規雇用初職継続者の年収（n=651）



勤務先の企業規模について確認する。現業も正規雇用となっている 644 人の企業規模をみてる。30 人以下がもっとも多く、27.5%。30～100 人以下と合わせると 45.5%となる。これを正規雇用初職離職者の初職時の企業規模と比べてみる。もっとも多いのが 1001 人以上で 33.2%。30 人以下は 13.5%、30～100 人以下と合わせても 26.4%である。同じ正規雇用であっても、初職離職後の勤務先規模の方が、初職時の勤務先規模に比べて小さくなっていることがわかる。

図 17 正規雇用初職の離職者・子どもなし層
現職ありの企業規模（n=644）

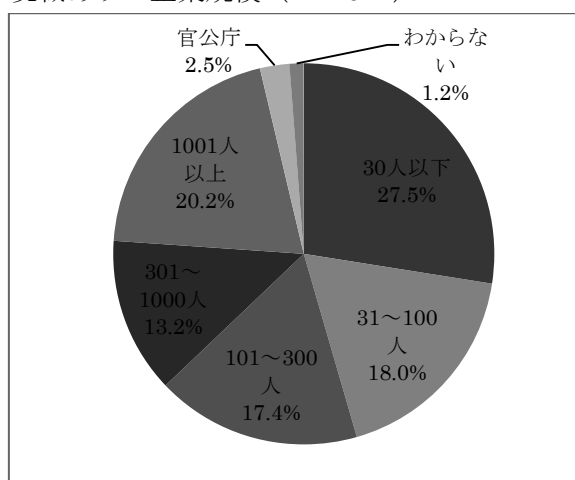
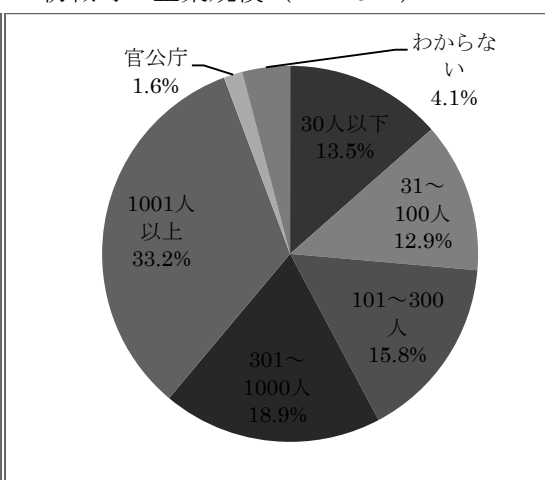


図 18 正規雇用初職離職者・子どもなし層
初職時の企業規模（n=1622）



ここまですを確認すると、正規雇用初職の離職によって 2 割が労働市場から退出し、現職ありの人においても、その半数が非正規雇用に移っている。さらに現職が正規雇用層においても、年収は、初職継続者より低いラインにとどまり、勤務先規模は、初職入社時の規模に比べ小さくなっている。

データからは、雇用条件的には不利な転職・再就職をした人が多いと推測される。では、重視した条件としてもっとも多くあげられていた「やりがいなど仕事の内容」についてはどうだろうか。転職、あるいは再就職によって仕事の内容は変化したのか。「やりがい」は得られたのか。

（6）正規雇用初職離職後の仕事の内容

正規雇用初職離職者で現職ありの仕事の内容は、「事務系の仕事」が 58.7%で約 6 割、正規雇用初職離職者の初職時の仕事の内容は「事務系の仕事」48.8%だから、離職後の現職の方が「事務系の仕事」の占める割合は高い。同じ比較で「専門・技術的工作」は離職後の現職が 19.0%、初職時の 22.1%と比べると、こちらは占める割合が低くなっている。

図 19 正規雇用初職離職者・子どもなし層
現職の仕事の内容（n = 1280）

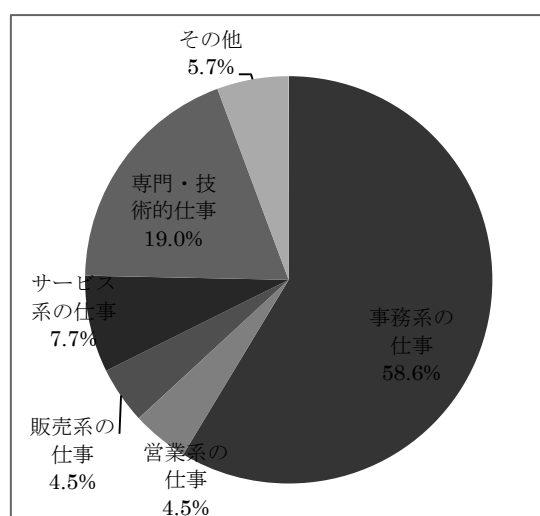
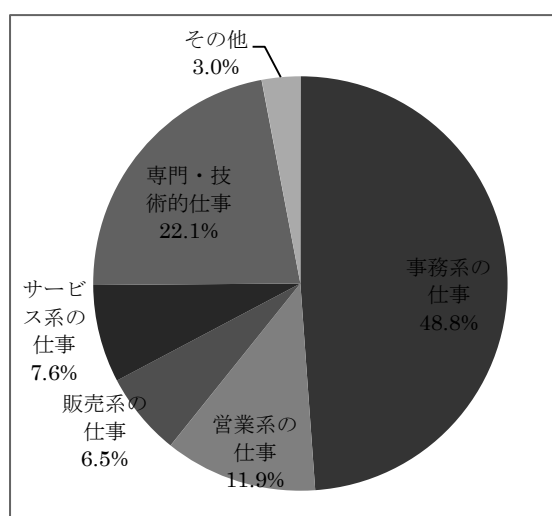


図 20 正規雇用初職離職者子・どもなし層
初職時の仕事の内容（n = 1622）



同じように、仕事の裁量をみてみる。正規雇用初職離職者で現職の仕事の裁量は、「工夫する余地もある」がもっとも多く 43.2%、ついで「工夫の余地は少ない」が 33.4%となっている。正規雇用初職離職者の初職時の仕事の裁量は、「工夫の余地がある」が 44.3%、「工夫の余地は少ない」が 31.3%なので、初職時に比べ、離職量度はほとんど変わっていない。むしろ、「裁量の余地は少ない」という回答が若干ではあるが増えている。

図 21 正規雇用初職離職者・子どもなし層
現職の仕事の裁量 (n = 1280)

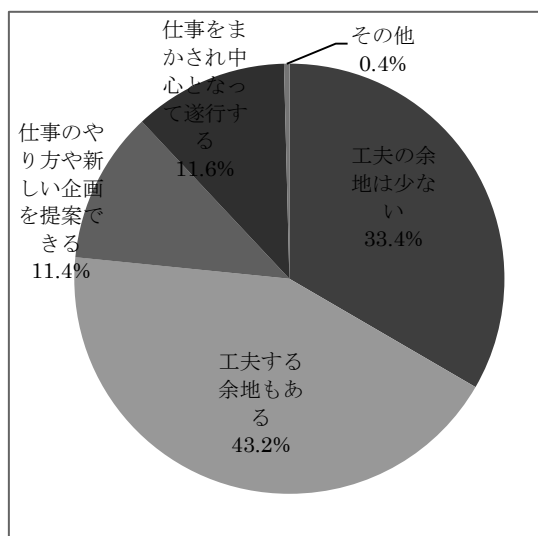
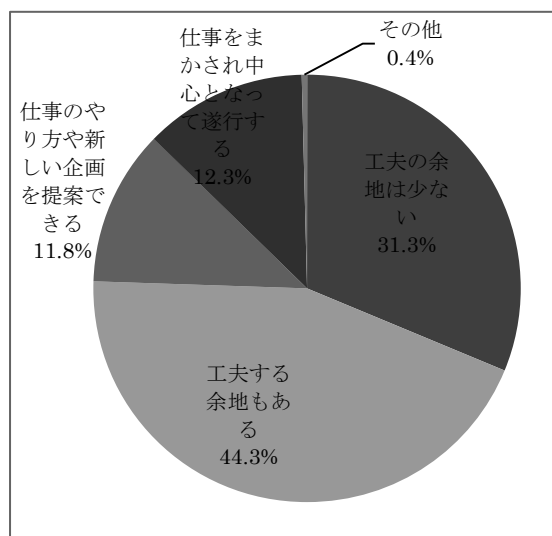


図 22 正規雇用初職離職者・子どもなし層
初職時の仕事の裁量 (n=1622)



(7) 転職・再就職経験への評価

転職・再就職後の現職と、初職の仕事の内容や裁量について比べてみたが、「やりがいなど仕事の内容」が得られたかどうか、ここから推測することは難しい。だが、転職・再就職経験に対する評価は高く、「転職・再就職をしてよかったか」という質問には約 7 割が「はい」と答えている。また、項目別評価では「やりがいなど仕事の内容」を「よくなった」「ややよくなった」としている人が約半数いる。

図 23 正規雇用初職離職者・子どもなし層／現職あり
「転職・再就職をしてよかったか」 (n = 1280)

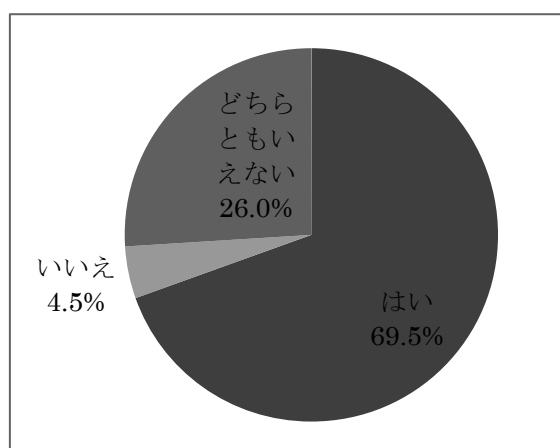
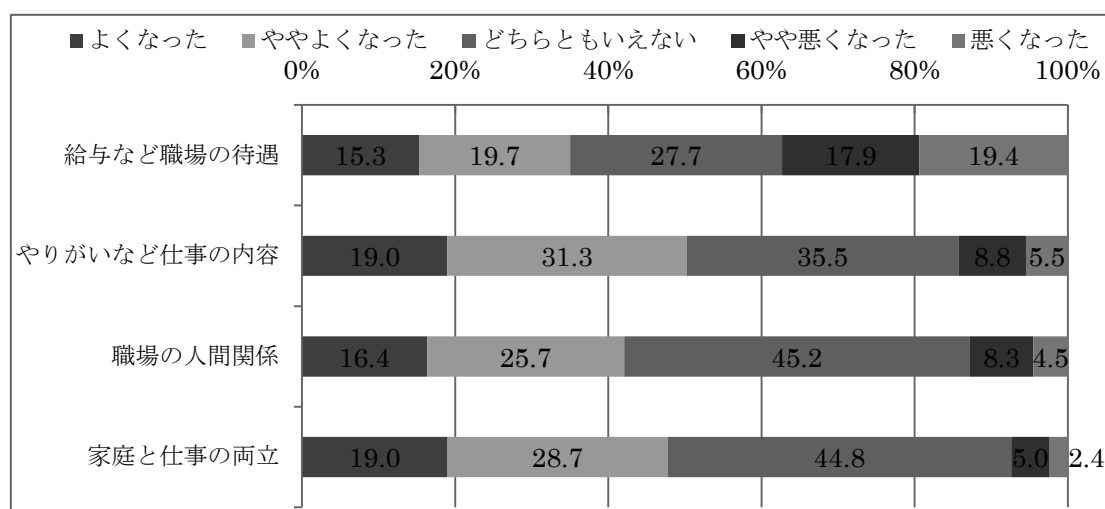


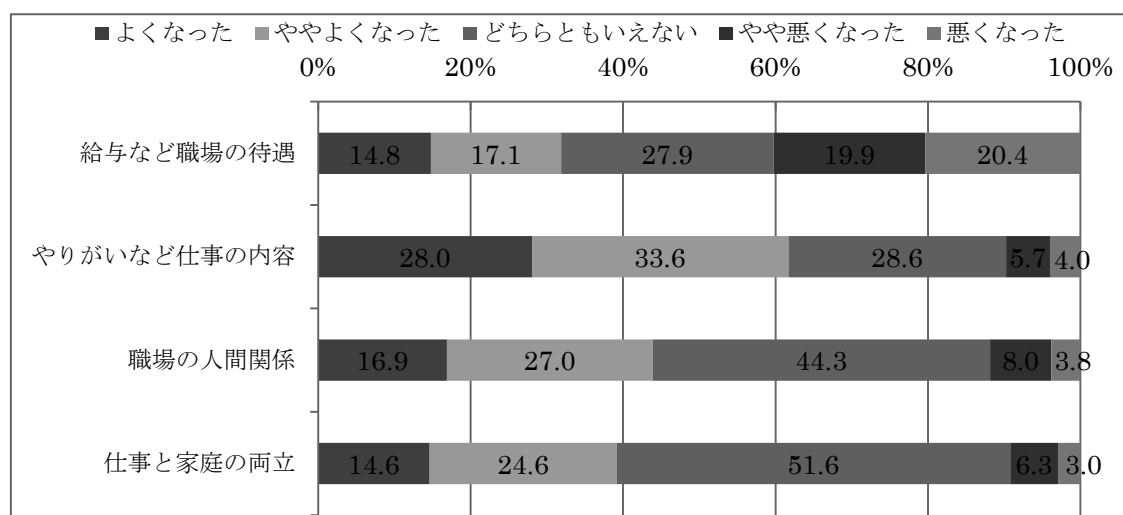
図 24 正規雇用初職離職者・子どもなし層／現職あり
 転職・再就職への項目別評価（n=1280）



4つの評価項目のなかで、ポジティブ評価が高いのは「やりがいなど仕事の内容」で、「よくなった」「ややよくなった」と答えている人が50.3%。反対に、「給与など職場の待遇」は「よくなった」「ややよくなった」が35%であるのに対し、「悪くなった」「やや悪くなった」が37.3%であり、「悪くなった」と答えている人の方が多い。

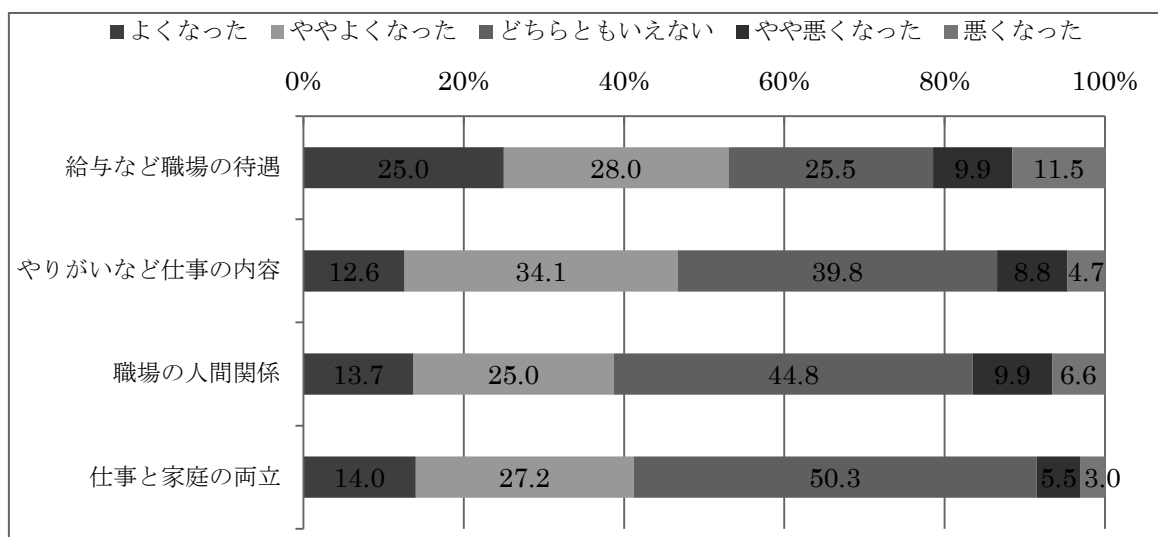
さらに詳しくみてみる。「やりがいなど仕事の内容」を重視項目として挙げた人の項目別評価では、6割以上が「やりがいなど仕事の内容」が「よくなった」「ややよくなった」と回答している一方で、「給与など職場の待遇」については「悪くなった」「やや悪くなった」と回答している人が4割いる。

図 25 正規雇用初職離職者・子どもなし層／現職ありの転職・再就職への項目別評価
 「やりがいなど仕事の内容」を重視した人の評価（n=574）



同じように「給与など職場の待遇」を重視項目として挙げた人の項目別評価をみてもみる。「給与など職場の待遇」を重視した人で、「給与など職場の待遇」が「よくなった」「ややよくなった」と回答している人は53%で半数以上。これは、正規雇用初職離職者・子どもなし層全体の回答35%に比べて、高い結果となっている。「やりがいなど仕事の内容」については「よくなった」「ややよくなった」と回答している人は46.7%、「どちらともいえない」が39.8%である。「やりがい」と「待遇」の両方を改善するような転職・再就職を果たしている女性は、多くはないことがうかがえる。

図 26 正規雇用初職離職者・子どもなし層／現職ありの転職・再就職への項目別評価
「給与など職場の待遇」を重視した人の評価（n=364）



5. 考察

ここまで、子どもなし層の初職離職行動と転職・再就職行動に着目してきた。

初職離職の要因としては、「他にやりたい仕事があったから」「仕事に希望がもてなかったから」といった、就労へのモチベーションの問題があがっており、転職・再就職に際しても、重視項目でもっとも多いのは「やりがいなど仕事の内容」である。つまり、女性は就労への意欲があるからこそ仕事を辞める、ということになる。だが、就労意欲によるキャリアの断続は、女性に不利な働き方をもたらす。

正規雇用初職離職者の転職・再就職後の雇用形態は半数が非正規となっている。現職が正規の場合も、初職継続者と比べて年収ラインは低く、勤務先規模は、初職時の企業規模より小さい規模の割合が増える。初職離職は、女性に雇用の安定性や経済的な側面において、不利なものとなっている。

仕事内容については、初職、離職後現職ともに「事務系の仕事」の割合がもっとも大きい。初職後現職の方がその占める割合は大きい。逆に「専門・技術的仕事」の占める割

合は、初職時に比べ、離職後現職の方が小さくなっている。仕事の裁量についても、初職と離職後現職では大きな変化はなく、キャリアが積み重なっているとは言い難い。その意味で、転職・再就職経験を「よかった」と評価する人は 7 割に上るが、この「よかった」の中身についてさらに検討していく必要がある。さらに、転職・再就職に際して重視した項目の項目別評価の分析からは、「やりがいなど仕事の内容」を重視した結果「給与など職場の待遇」が悪くなったというように、就労意欲とキャリア形成のギャップが生じている。女性の転職・再就職行動は、一般的な意味での「キャリア・アップ（より満足度の高い仕事を得て、それに付随して給与等の待遇もアップする）」ではなく、初職への展望のなさから「やりがい」を求めて移動するが、労働条件は不利になるという、就労意欲ゆえのキャリアの断続が生じている、とみることができるだろう。

6. まとめ

本稿では、就労経験のある調査対象者のうち、「子どもなし層」をあえて抽出し、その初職離職行動と転職・再就職行動に着目してきた。その結果、女性は「子どもなし層」においても初職離職率が高く、女性は子どもがいようがいまいが、キャリアが断続していることが明らかになった。これは、「女性の就業継続支援＝両立支援」として語られがちな現状に対し、改めて、他のアプローチの必要性を示唆するものである。

同時に「子どもあり層」、すなわち「家族的要因によって労働市場から退出する」と考えられがちである女性たちにおいても、離職の背景にあるものを、今一度、点検する必要があるのではないか。

以下は、職離職理由の第 1 位を「子どもなし層」と「子どもあり層」で比較したものである。「子どもあり層」において「結婚のため」と「妊娠・出産・育児のため」の割合が高く、離職理由としては、やはり家族的要因が大きいというふうに見える。だが、「子どもあり層」の初職離職理由を第 3 位までたしあげてみると、もっとも多いのは「結婚のため」であるが、次の「妊娠・出産・育児のため」と同じようなボリュームで「他にやりたい仕事があったから」「仕事に希望がもてなかったから」があがってくる。第 1 位だけに注目すると家族的要因が多くを占めているように見えるが、第 3 位までに注目すると「子どもなし層」と共通の問題が背景にあることがわかる。

図 27 初職離職者の初職離職理由／第 1 位

子どもなし層（n=2231） 子どもあり層（n=2102）

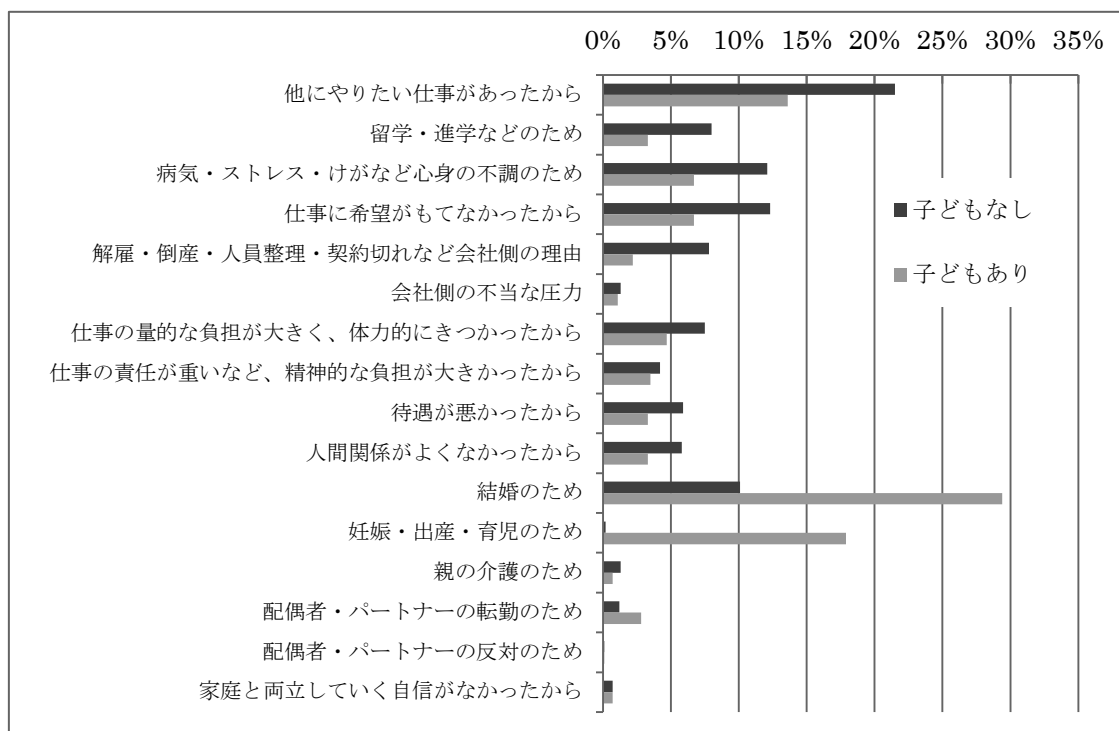
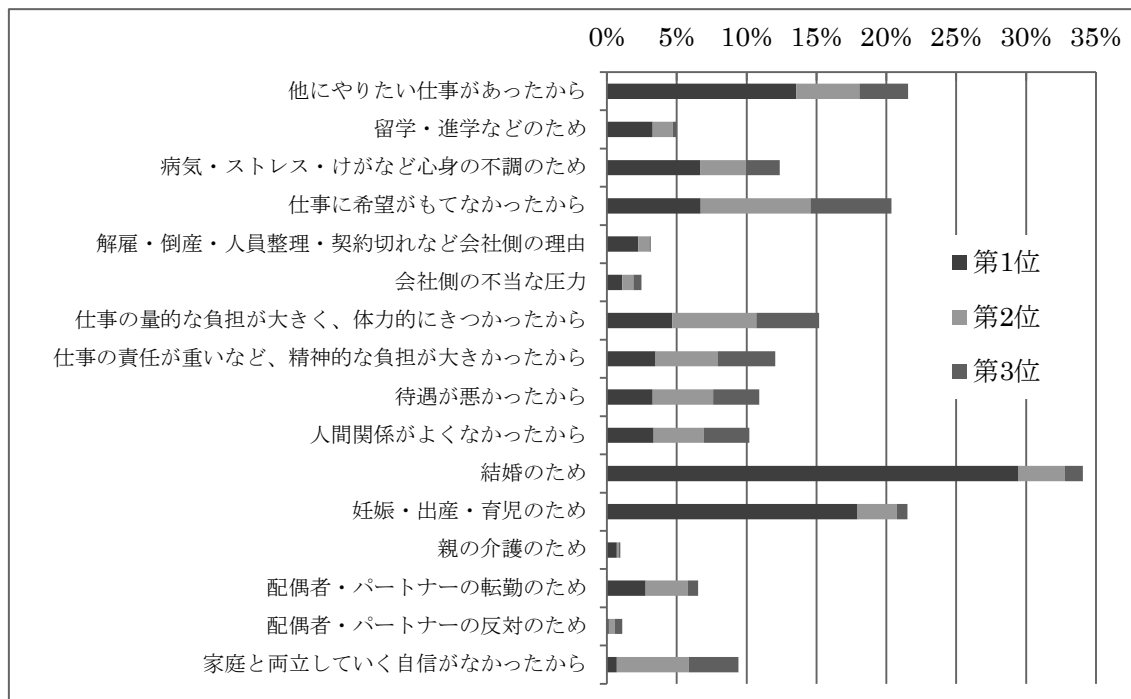
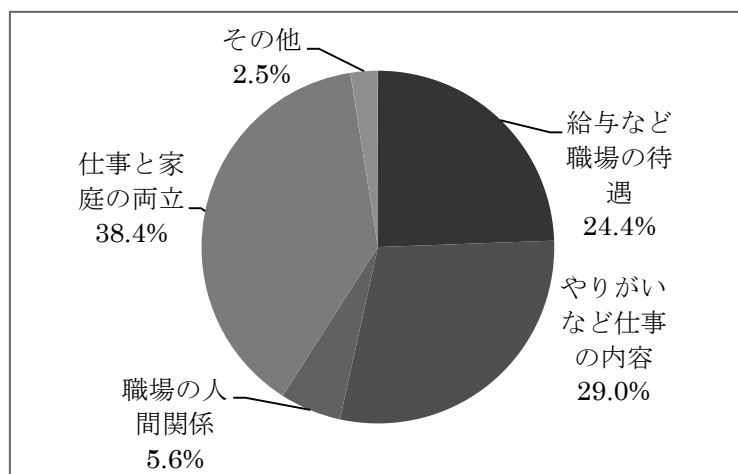


図 28 初職離職者の初職離職理由／第 3 位まで 子どもあり層（n=2102）



最後に、転職・再就職経験ありの「子どもあり層」の転職・再就職の際に重視した条件を見ておく。

図 29 転職・再就職するにあたり重視した条件・子どもあり層（n = 1658）



「仕事と家庭の両立」が4割ともっと多い点は「子どもなし層」との明確な違いだが、「やりがいなど仕事の内容」も3割を占めている。「子どもあり層」の転職・再就職行動においても「やりがい」は重要なファクターとなっている。

そもそも女性の就業継続において、「妊娠・出産」時に「両立問題」が立ち上がってくるのは、「その職場で働きたい」「この仕事を続けたい」という意欲があるからだろう。そうした就労意欲がもてなければ、「妊娠・出産」は退職への「きっかけ」となるはずだ。「家族的要因」とみなされている離職行動についても、就労意欲との関係から検討していくようなアプローチが必要であると考ええる。

¹ 2010 年度調査では、出産前後に仕事を辞めた母親の割合は 54.1%、2001 年度調査に比べ、13.3 ポイントの減少と報告されている。ただし、母親全体の状況でみると、出産半年後に「有職」（育児休業中等の休業を含む）は 36.6%。出産した女性全体からみれば、就労しているのは全体の 3 割から 4 割に過ぎない。

参考文献

- 岩澤美帆 2004 「妻の就業と出生行動」『人口問題研究』60-1,pp50-69.
- 大内章子 2012 「女性総合職・基幹職のキャリア形成」『ビジネス&アカウンティングレビュー』9号,pp107-127.
- 厚生労働省「平成 23 年版 働く女性の実情」（2012 年 8 月 18 日アクセス）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/11.html>
- 新谷由里子 1998 「結婚・出産期の女性の就業とその規定要因」『人口問題研究』54-4,pp46-62.
- 内閣府男女共同参画局 2007 『女性のライフプランニング支援に関する調査報告書』
21 世紀出生児縦断調査（2013 年 2 月 15 日アクセス）
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/shusshoujib/01/dl/gaikyo01.pdf>
- 松繁寿和 2001 「大卒新入女性社員が 20 代で会社を辞めるとき」脇坂明・富田安信編『大卒女性の働き方』日本労働研究機構, pp101-115.
- 三輪哲 2011 「女性のキャリア移動における小企業の意味」『日本政策金融公庫論集』第 10 号,pp59-87.
- 労働政策研究・研修機構 2009 『出産・育児期の就業継続と育児休業—大企業と中小企業の比較を中心に—』
- 労働政策研究・研修機構 2010 『女性の働き方と出産・育児期の就業継続』
- 労働政策研究・研修機構 2012 『出産・育児と就業継続』

「氷河期世代」における「不安」の中身

——「女性とキャリアに関する調査」の自由記述分析から——

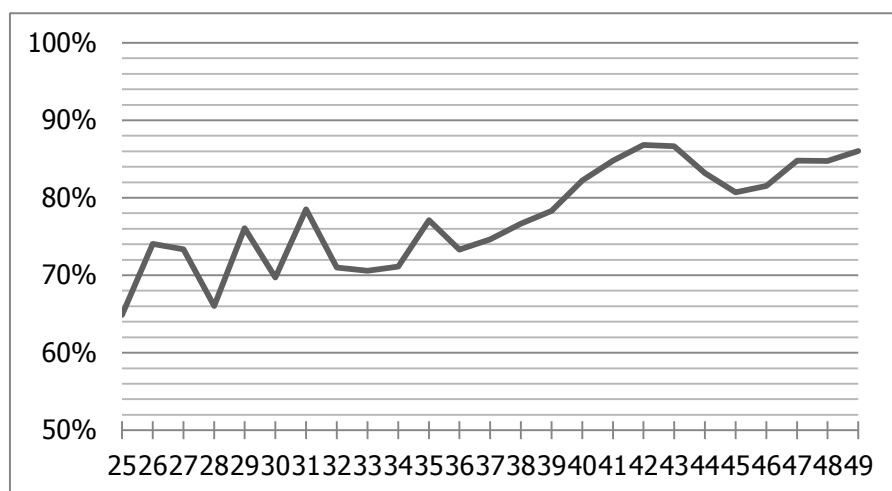
仲田周子

1. 課題

1980 年代後半から続いた日本のバブル景気は、1990 年代初めに崩壊し、長い不況と停滞の時期に入った。「失われた 10 年（あるいは 20 年）」とも呼ばれるこの不況は、経済の悪化に伴う多数の企業倒産や従業員のリストラが行われたほか、格差や貧困などの社会問題を浮上させることとなった。特に若年層への不況による衝撃は大きく、新規採用の抑制から就職難が深刻化し、いわゆる就職氷河期という状況が続き、その影響が長期間に渡って及んでいることが言及されている（太田・有田・近藤 2007）。また、不況下の女性の生き方に関しては、経済不況が女性の就業に強く反映され、結果的に収入や結婚、出産などへの選択肢を予想以上に制約していることが指摘されている（樋口・太田 2004）。

25～49 歳（調査時点）という本調査の対象者たちも、こうした社会経済状況とは決して無関係ではない。1962 年～1986 年に出生した彼女たちは、まさに上記のバブル景気から不況の時代に学校を卒業し、社会へ出ていくという経験をした人びとである。例えば、図表 1 は、本調査の対象者のうち、初職の雇用形態を正規雇用と答えた 4003 人について年齢別の割合を示したものであるが、学校卒業時に経済状況が不安定であった若年層ほど正規雇用の変動が激しく、またその割合も低くなっていることがわかるだろう。本調査における初職の正規雇用者の割合は、1991 年のバブル経済崩壊後も 80%台を保っていたが、40 歳を境にして 70%台へ推移し、25 歳では 64.9%に落ち込んでいる。最も正規雇用者の割合が大きい 42 歳の 86.8%と比べると、20 ポイント以上も低くなっているのである。こ

図表 1 初職における正規雇用者割合の推移（n=4003）



の正規雇用の減少は、初職を非正規雇用からスタートする／せざるを得ない人の増加と表裏一体の関係にある。つまり、本調査においても、90年代以降の不況という社会・経済的状況が雇用形態の変化として表れているのである。

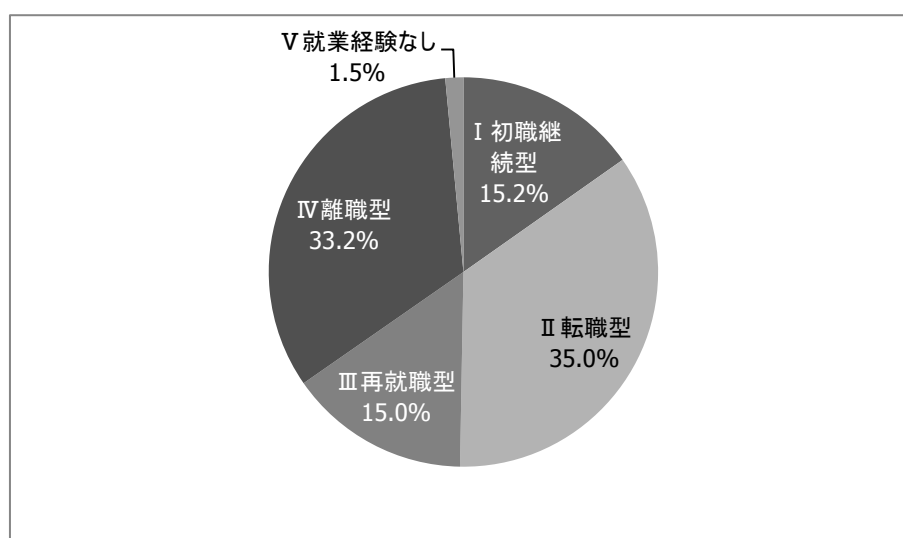
もちろん不況は誰でも経験することであり、特定の世代に固有の出来事ではないが、初職に就く学卒時の雇用情勢がその後の就業行動にも多大な影響を与えるならば、学卒時に不況が重なった世代に注目することは、今日の女性の生き方（キャリア）を考える上で重要なことだろう。

このような問題意識から、本稿では、正規雇用割合の低下を雇用の不安定化と捉え、正規割合の低下とその変動が顕著であった30～34歳の世代（「氷河期世代」）に注目する¹。その際、彼女たちの自由記述を糸口にして、この世代の現在の姿をあぶり出すことを試みたい。

2. 「氷河期世代」の特徴

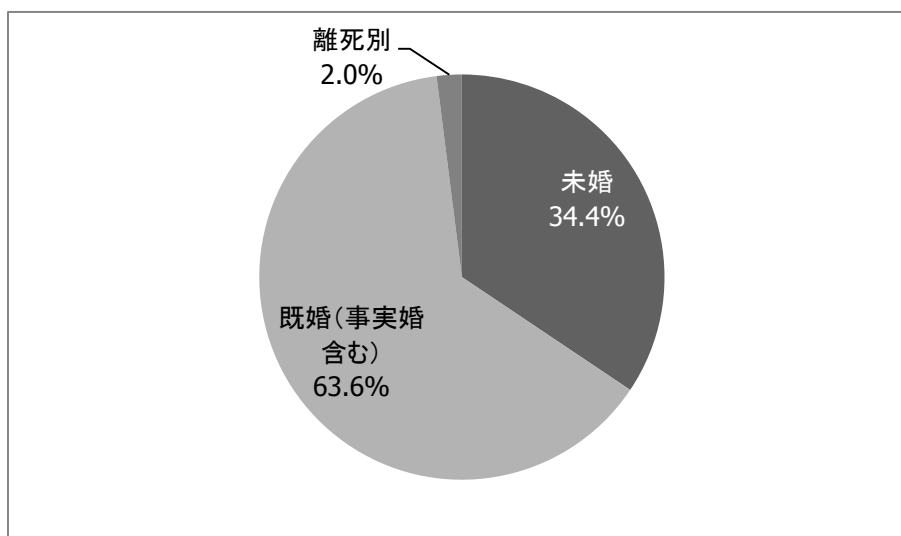
まず、「氷河期世代」がどのような人びとであるか確認しておこう。本稿における「氷河期世代」とは、30～49歳にあたる調査対象者4299人のうち、就職氷河期の渦中で学校を卒業したと推定される30～34歳（1070人）のグループである。図表1で示した正規雇用の割合を基準にしているため、一般的に就職氷河期とされる世代より年齢は低い²。彼女たちは1977年から1981年に出生し、短大卒であれば1998年から2002年、大卒であれば2000年から2004年に卒業したと推測され³、小学校時代にバブル景気を過ごし、不況のなかで就職活動を行った。なお、氷河期世代で、学卒後に就業したのは1054人で、そのうち正規雇用者は744人であった。

図表2 ライフコース・パターン（n=1070）



「氷河期世代」の現在のライフコース・パターンは、図表 2 のようになる。学校を卒業して現在までの働き方として、「Ⅱ転職型」（仕事に就いているが、1 年未満の離職期間があった）が 35.0%と最も多く、次に「Ⅳ離職型」（仕事に就いていないが、かつては就いていた）、「Ⅰ初職継続型」（学校卒業後、最初に就いた仕事を継続している）、「Ⅲ再就職型」（仕事に就いているが、1 年以上の離職期間があった）という順番になっている。「Ⅰ初職継続型」と「Ⅱ転職型」、「Ⅲ再就職型」の 3 つのライフコース・パターンの合計は 699 人で、「氷河期世代」全体の 65%を超える人びとが、現在、何らかの形で仕事に就いていることになる。

図表 3 婚姻状況（n=1070）



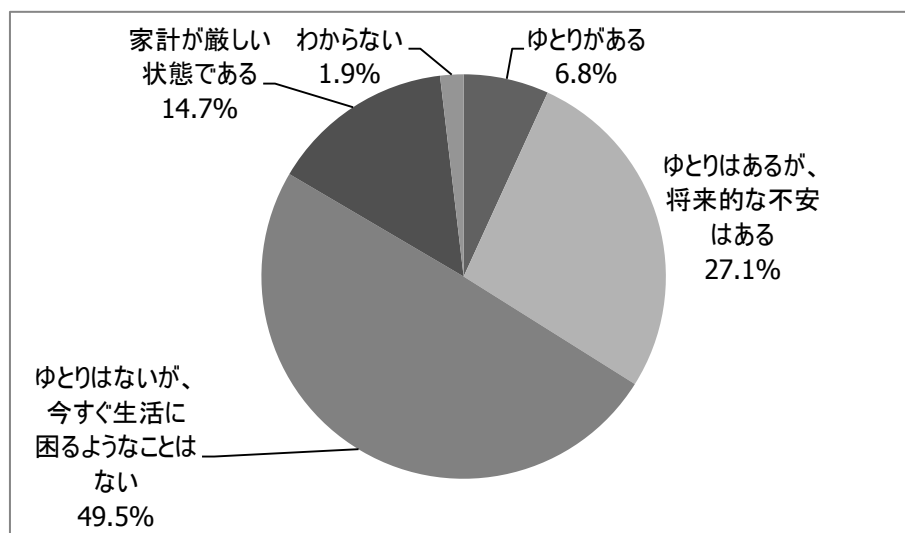
婚姻状況については、「未婚」が 34.4%、「既婚（事実婚含む）」が 63.6%で、「離死別」は 2.0%であった（図表 3）。また、子どもの有無については、「いない」と回答した人が 59.0%で、全体の半数以上を占める。子どもが「いる」と答えた人のうち、「1 人」が 25.8%、「2 人」が 13.7%、「3 人以上」が 1.5%であった（図表は省略）。

では、現在の経済状況についてはどのように感じているのだろうか。図表 4 をみると、家庭に「ゆとりがある」と答えた人は 6.8%であるが、「ゆとりはあるが、将来的な不安はある」、「ゆとりはないが、今すぐ生活に困るようなことはない」をあわせると 83.4%になり、大部分の人が今すぐ経済的に困窮するような状況にはないことがわかる。また、将来の生活への見通しについてたずねた結果も、約 4 割の人が「現在の生活レベルは維持できる」と回答しており、「今よりもっと豊かな生活ができる」と考えている人とあわせて 6 割以上の人が、将来の生活に対してもそれほど困難な予測をもっていないことが示された（図表 5）。

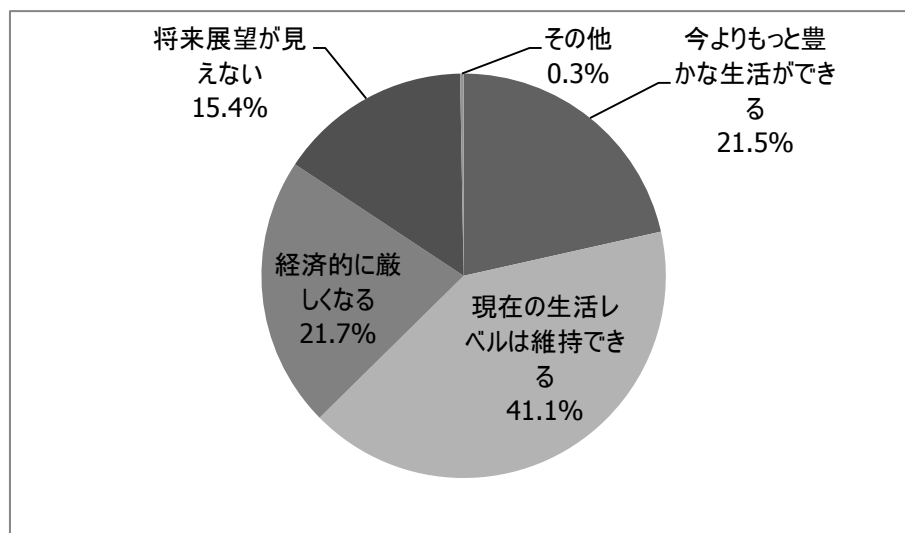
これらの結果をみる限り、数字の上では、現在の「氷河期世代」に雇用の不安定化の影

響を確認することはできなかった。

図表 4 家庭の経済状況 (n=1070)



図表 5 将来展望 (n=1070)



3. 「氷河期世代」の自由記述

次に、「氷河期世代」の自由記述をみてみよう。分析の対象としたのは、本調査の質問項目 83 に設定した「これからの職業生活や家庭生活における希望や不安について、思っていること」を記入する自由記述欄である。対象者 1070 人のうち、「わからない」「特になし」などの回答を除き、記述があったものは 953 人であった。ただし、「特に不安はない。

どんな事が起きても自分で何とかするしかないし、何とかできると信じている。」のように、何かしらの意見と併記された記述に関しては、分析対象に含めている。

分析方法は、テキスト分析ソフト **KH Coder** を用いて行った⁴。具体的な分析手続は以下のとおりである。

手順①：「氷河期世代」の自由記述の全体像をさぐるため、**KH Coder** で頻出語をリストアップした。

手順②：自由記述のなかで、最も使用頻度高かった「不安」の語句が記述された 422 人を抽出した。

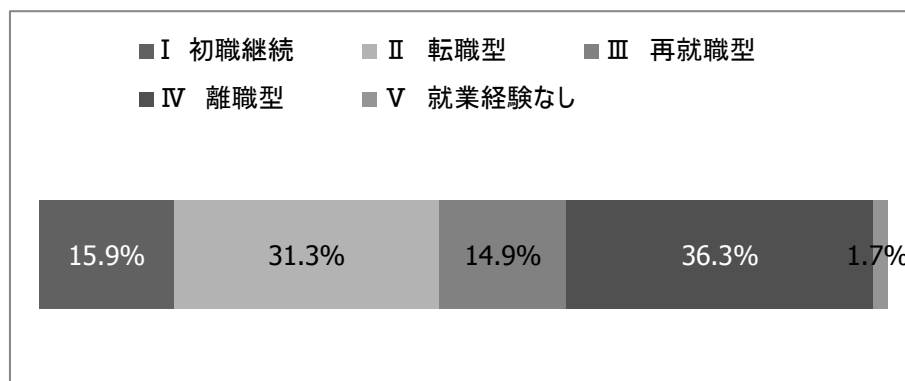
手順③：「不安」の記述がどのような語句と結びついているか確認するため、再度 **KH Coder** を使って頻出語句を抽出し、上位 50 位内の語句を対象に意味が類似するもののカテゴリー化を行った。(図表 6)

図表 6 カテゴリー一覧

カテゴリー	語句	出現数
就労	仕事、働く、働ける、就職、雇用、復帰、続ける、パート、転職、職場、会社	595
家庭・育児	生活、家庭、家事、子供、こども、育児、子育て、出産、保育園、教育	488
結婚	結婚	40
経済	収入、お金、経済、年金、老後	183

4. 「不安」の全体像

図表 7 「不安」記述のキャリア・パターン



「不安」を記述した人びとのライフコース・パターンは、図表 7 のようになる。これを見ると「Ⅱ転職型」、「Ⅳ離職型」で全体の 7 割近くを占めており、「氷河期世代」の「不安」は、「転職」と「離職」という就業行動と何かしら関連していることが推察される。

では、「不安」がどのように構成されているのか、具体的な記述の中身をみてみよう。

<就労に関する「不安」>

「不安」を構成する要素のなかで最も大きなボリュームをもつのが、「就労」である。婚姻状況や子どもの有無によってその内容は異なるが、現在、就業している人は仕事の「継続」をめぐって、就業していない人は仕事の「空白」をめぐる「不安」を書き込む傾向がみられた。

- ・「現状のまま定年まで働き続けるのかと思うととても不安。」（Ⅰ継続型、未婚、子どもなし）
- ・「非正規でいつまで働くことができるのか不安です。転職したいと思うが、だんだん希望の職種に就けなくなってくると思うと不安。」（Ⅱ転職型、既婚、子どもなし）
- ・「事務系の就職が現在、確実に減少している。だからと言って、いまさら営業が出来る訳でもなく、特にこれと言った技術を持っている訳でもない人間は、どうやって再就職や転職を考えたらいいのか分からなくて不安になる。」（Ⅲ再就職型、未婚、子どもなし）
- ・「仕事にまた就けるのかが不安。夫の転勤に伴って過疎地へ行くことになるので現実問題自分の専門に関わる仕事がない。働かない期間がのびるにつれてどんどん遅れてしまうし、自分がダメな人間になっていくような気がする。」（Ⅳ離職型、既婚、子どもなし）
- ・「仕事に就けるかどうか不安がある」（就業経験なし、未婚、子どもなし）

<家庭・育児に関する「不安」>

「就労」に次いで多いのが、「育児」に関する記述である。全体を概観すると、「子ども」をもつことと、それに付随する家庭と仕事の両立についての悩みが記述されている。2010 年の平均初婚年齢が 28.8 歳、また第一子出産年齢は 29.9 歳であることを考えると、この世代が結婚、出産というライフイベントのさなかにあり、そのことが反映されているといえるだろう。

- ・「女性としても子供を持ちたいとは思いますが、仕事の責任や負担もじょじょ〔ママ〕に重くなり、これから先、本当に仕事も子育てもしっかりと両立出来るのかは本当に不安。ど

ちらも中途半端になりたくないし、子育てのことで後悔はしたくないので。かといって、仕事もやり以上は後悔したくないし、最善を尽くし、キャリアアップをはかりたいから。」

（Ⅰ継続型、既婚、子どもなし）

・「子供が生まれた後家事と仕事の両立ができるかどうか、育児の負担が昇進などに影響しないか、夫の転勤などにより仕事を辞めることにならないか、などが不安。希望としては、よりよい資格を取得して能力を発揮しつつ待遇のよい仕事に就きたい。」（Ⅱ転職型、既婚、子どもなし）

・「仕事における課題や展望があるものの、やはり子どもを産んだり結婚を機に、一旦そのプロセスが途切れてしまうのではないかという不安がある」（Ⅲ再就職型、未婚、子どもなし）

・「今はすこしだが貯金もできているが、生活にはあまり余裕がない。これから子供が大きくなるにつれて教育費や食費が増えてくることを考えると不安になる。家計を少しでも支えるために、こどもが大きくなったら働きたいと考えているが、大学卒業後、たいしたキャリアもないうえ、出産、育児で働いていなかったのだからちゃんと働けるかとても不安に思う。」（Ⅳ離職型、既婚、子どもなし）

<経済に関する「不安」>

「就労」「家庭・育児」に次いで多かったのが、収入や年金などの経済的な不安である。これは、調査実施直前に年金受給年齢の引き上げが報道された影響もあると考えられる。

・「今後の日本の経済を考えると、給料は上がらないと思うので、マイホームを持ったり子どもの教育にお金をかけたりすることが難しくなるのではないかと不安。年金受給年齢の引き上げが持ち上がっているが、定年から年金受給年齢に達するまでに働く場所があるかどうか。」（Ⅰ継続型、未婚、子どもなし）

・「経済的に不安定なため、結婚に踏み切れない。」（Ⅱ転職型、未婚、子どもなし）

・「自分の雇用形態が安定したものではないので、いまの収入がいつまで続くのかわからないのが不安である」（Ⅲ再就職型、既婚、子どもなし）

・「子育てに専念したいが、収入のために働く可能性が高いので憂鬱。きちんと再就職できるかどうか不安である。」（Ⅳ離職型、既婚、子どもあり）

おわりに——複雑な「不安」の要素

本稿では、「氷河期世代」という 30～34 歳の特定の世代に注目して、考察を試みた。数字で確認できる「氷河期世代」の現在の生活レベルや将来展望には、必ずしも厳しさが表れていない一方で、その自由記述には「不安」の要素が溢れている。

「子どもがもう一人欲しいが家計を考えると厳しい。家を購入し子ども達の学費と住宅ローンを考えると早くフルタイムで働きたいのに保育園は激戦でとても入れる状況ではなく（無認可や私立は乳児の保育料が高すぎる）小学校に上がるまで働くことは難しいのではないかという悩み。また、フルタイムで仕事をする事で、配偶者や子供たちに何かしらの負担がかかり私自身の気持ちの余裕もなくなるのではないかという仕事と家庭・育児の両立に対する不安も大きい。」（IV 離職型、既婚、子供あり）

「氷河期世代」が抱える「不安」とは、「就労」や「家庭・育児」、「経済」という要素で構成されているが、それは単独で成り立つ悩みではなく、上記の記述にみられるように複数の要素が複雑に絡みあっている。今後は自由記述の分析を深めて、この「不安」が何を背景にしたものなのか、検討したい。

参考文献・資料

樋口美雄・太田清・家計経済研究所, 2004『女性たちの平成不況——デフレで働き方・暮らしはどう変わったか』日本経済新聞社.

小林美美, 2008『ルポ“正社員”の若者たち——就職氷河期世代を追う』岩波書店.

武石恵美子, 2006『雇用システムと女性のキャリア』勁草書房.

太田聡一・有田玄史・近藤絢子, 2007「溶けない氷河——世代効果の展望」『日本労働研究雑誌』No.569, pp.4-16.

文部科学省『学校基本調査』

¹ 20代は、正規雇用率の変化が最も顕著に現れている世代ではあるが、就業年数が短いこと、他の世代に比べて未婚者が多いことから、結婚・出産などのライフイベントとの関連を検討するにはキャリア形成が十分ではないと判断し、分析対象からは除くこととした。

² 一般的な就職氷河期世代は、1993年から2000年にかけて就職活動をした人びとを指す（）。

³ 本調査では、学校卒業年の質問項目を設けていないため、卒業年は出生年から推定している。

⁴ <http://khc.sourceforge.net/>

離職女性における就業意欲 3 パターンの特徴

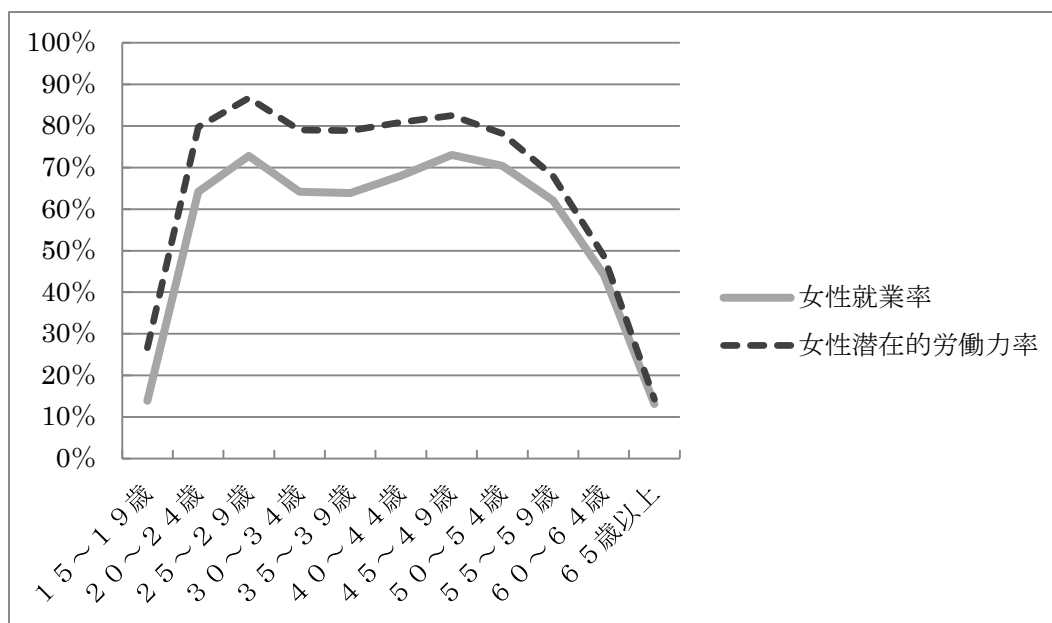
御手洗 由佳

1. 本稿の背景・目的

女性の労働力率は M 字カーブと言われ、過半数の人が出産もしくは育児で一旦離職し、その後育児期を脱した女性が再就職を目指すことが理由として挙げられている。また、図 1 にあるように、女性の就業率と、就業希望者・完全失業者・就業者を含めた潜在的労働力率¹の間には差が見られる。特に、M 字カーブの底となる、「30～34 歳」「35～39 歳」において差は大きく見られ、潜在的には就業意欲を持つ人が多いことがわかる。ただし、就業意欲においても、「今すぐ働きたい」と考える層、時間的に余裕を持って「そのうち」と考える層に分けられる。さらに、潜在的労働力率には含まれない就業非希望層が就業希望層と比較してどのような特徴を持つのかという点も考える余地がある。

本稿では、就業希望の選択肢から、就業希望層の中でも、早期の就職を希望する「今すぐ仕事に就きたい」層、やや余裕を見る「そのうち仕事に就きたい」層及び、就業非希望層という 3 層の特徴を把握することを目的とする。

図 1 女性の就業率及び潜在的労働力率



出典:総務省統計局「労働力調査」2011 年「労働力調査 詳細統計」2011 年より作成。

注:岩手県、宮城県及び福島県を除く全国結果。

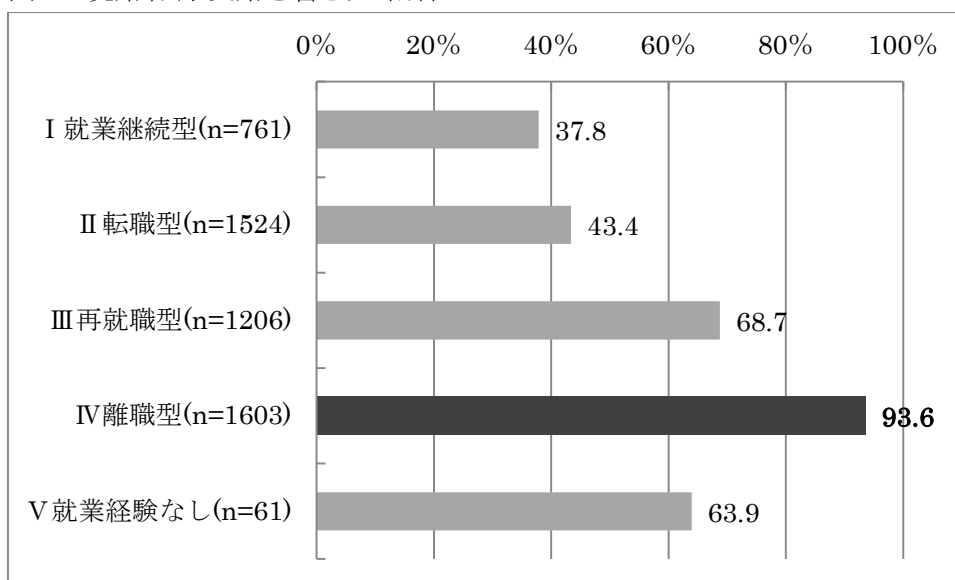
2. 先行研究・分析視角

女性の再就職選択に関する先行研究は、一定の蓄積がある(樋口 2009、中井・赤地 2000 など)²⁾。ただし、多くの先行研究は、実際に再就職した人としていない人を比較しているが、離職者の就業希望に注目した研究は少ない。就業意欲に関する分析を行っている研究として、武石(2001)及び日本労働研究機構(2000)がある。これによれば、大卒無業女性の調査からの分析の結果、再就職選択の有無は、夫の年収や初職の状況が影響を及ぼし、今すぐ働きたいと考える人においては、末子年齢が大きな影響力を持つことを挙げている(武石 2001、日本労働研究機構 2000)。本稿では、離職女性の就業意欲から再就職選択の特徴を把握する。

本調査における離職型(ライフコースパターンⅣ、現在仕事に就いていないが、かつては仕事に就いていた)の特徴は、既婚者(事実婚を含む)の割合(93.6%)及び子どものいる人の割合(72.3%)がライフコース・5パターンの中でもっとも多いことが挙げられる(図2)。

本稿では、離職型かつ既婚の女性(離職型の95.3%)に限定し、就業意欲別に見た特徴を明らかにしたい。具体的には、就業意識の違いや、先行研究で指摘されているような末子年齢及び、経済的余裕など本人の置かれている状況などで特徴が見られるのかという点である。さらに、就業希望層の中でも「今すぐ仕事に就きたい」層及び「そのうち仕事に就きたい」層では、就業に求める条件や理由においてどのような特徴が見られるのかに注目したい。

図2 既婚者(事実婚を含む)の割合



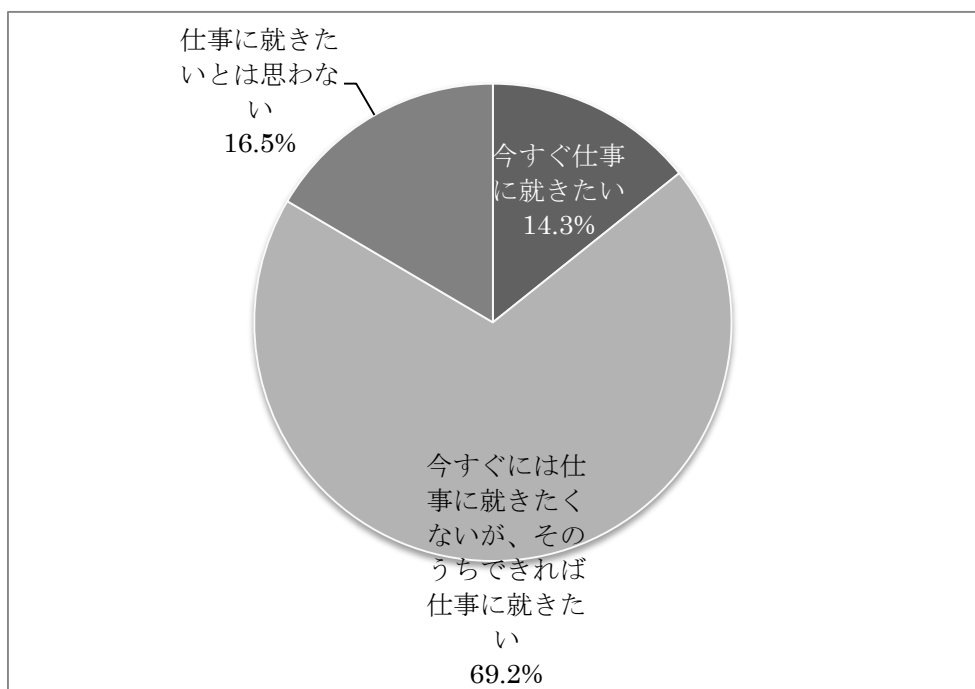
3. 就業ニーズ3パターンの特徴

まず、本稿の対象である離職型かつ既婚者における就労意欲を見たい。対象は1501人である。

就業意欲(「あなたは今、あるいは将来、仕事に就きたいと思っていますか」という設問に対する選択肢)に関して見ると、「今すぐ仕事に就きたい」は14.3%で214人、「今すぐには仕事に就きたくないが、そのうちできれば仕事に就きたい」(以下、略「そのうち仕事に就きたい」)は1039人で69.2%と最も多く、「仕事に就きたいとは思わない」(以下、就業非希望層)は248人(16.5%)であった(図3)。このように、離職型かつ既婚者の就業意欲を持つ人の割合は高い。

以下では、就業希望層として「今すぐ仕事に就きたい」と考える層及び「そのうち仕事に就きたい」と考える層、さらに就業非希望層の3パターンそれぞれの特徴を見たい。

図3 就業意欲(n=1501)



(1) 就業希望（「今すぐ仕事に就きたい」）層の特徴

「今すぐ仕事に就きたい」と望む層は、214 人であり、離職かつ既婚者全体の 14.3% を占める。この層は、就業意欲が強いことや、他の層に比べて就業可能な状況にあることが推測される。

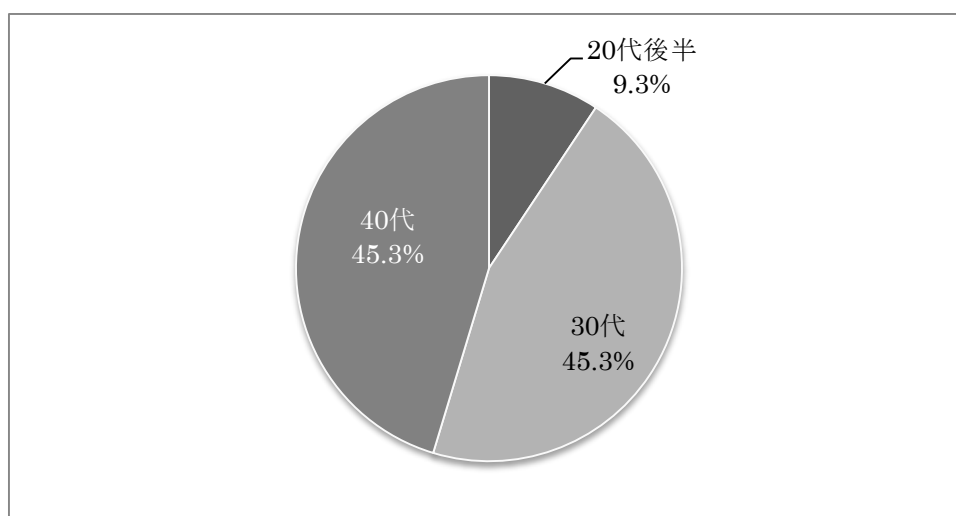
1) 属性

「今すぐ仕事に就きたい」層における年齢分布を見ると、30 代、40 代がそれぞれ 45.3% で同じ割合であるが、20 代後半は 9.3% で、平均年齢は 38.0 歳である(図 4)。

子どものいない人は約 4 分の 1 で、4 分の 3 の人が子どもを持つ。子どものいる人において末子年齢は、平均して 6.4 歳となっている。労働政策研究・研修機構(2009)が実施した再就職をした人の調査において、子育て後最初の再就職時の末子平均年齢は 4.8 歳となっていることと比べると、やや高い傾向が見られる。また、割合で見ると、末子 3 歳未満は 28.5% と全体の約 3 割、末子 6 歳未満では、52.5% と約半数に及ぶ。

家計の主たる担い手における年収(昨年)に関しては、400 万円以下が 2 割で、400～800 万円が 4 割、800～1000 万円以上が 2 割であった(図は省略)。

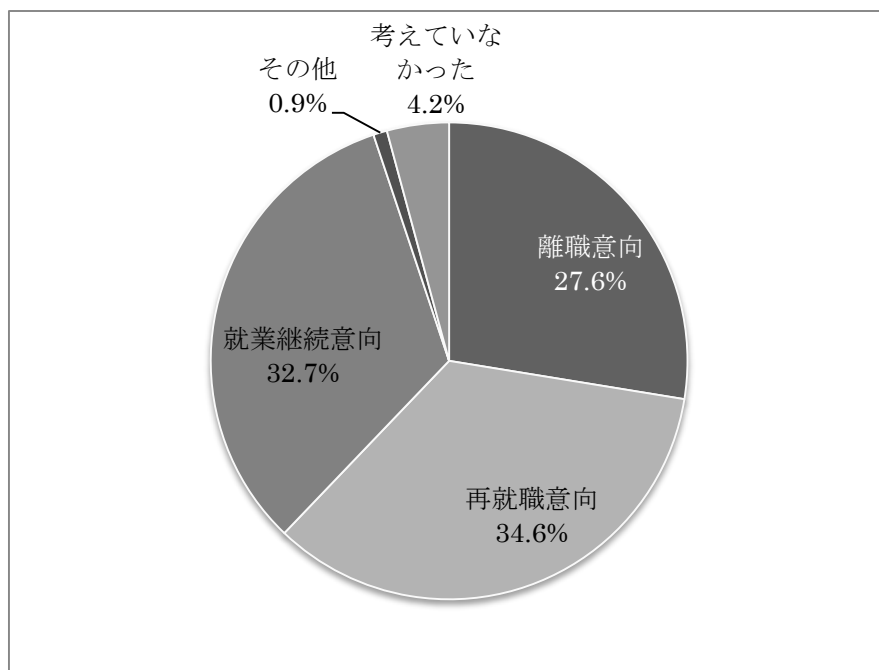
図 4 年代(n=214)



次いで、学校卒業時におけるライフコース意向を見ると、「再就職意向」（「就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、フルタイムで仕事に復帰する」及び「就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、パートタイムで仕事に復帰する」）が 34.6% でもっとも多くを占める。一方、「就業継続意向」（「就職し、結婚はするが、子どもを持たないで仕事を続ける」、「就職し、結婚・出産はするが、仕事も続ける」、「シングルのまま、仕事を続ける」の合計）も 32.7% と約 3 割、「離職意向」（「就職し、結婚で退職し、その後専業主婦になる」及び「結婚し、出産で退職しその後専業主婦になる」）

も 27.6%と「再就職意向」以外の意向も見られた(図 5)。

図 5 学卒時のライフコース意向(n=214)



2) 就業意識

「今すぐ仕事に就きたい」と考える層はなぜ仕事に就きたいと考えるのだろうか。

仕事に就きたい理由として 1 位に挙げられたのは「教育費や老後など将来に備えて貯金をしたいから」が 48.8%と半数近くを占めた。また、3 位までを総合すると、「自分で自由に使えるお金がほしいから」、「仕事を通した社会とのかかわりがほしいから」という回答も見られた。さらに「経済的に自立したい」と考える層も 3 割を占めた(図は省略)。ここでは、自分の知識や経験を生かした仕事をしたいという意向よりも、むしろ、経済的な理由や社会的な繋がりとといった項目を選んでいる人が多く見られる。

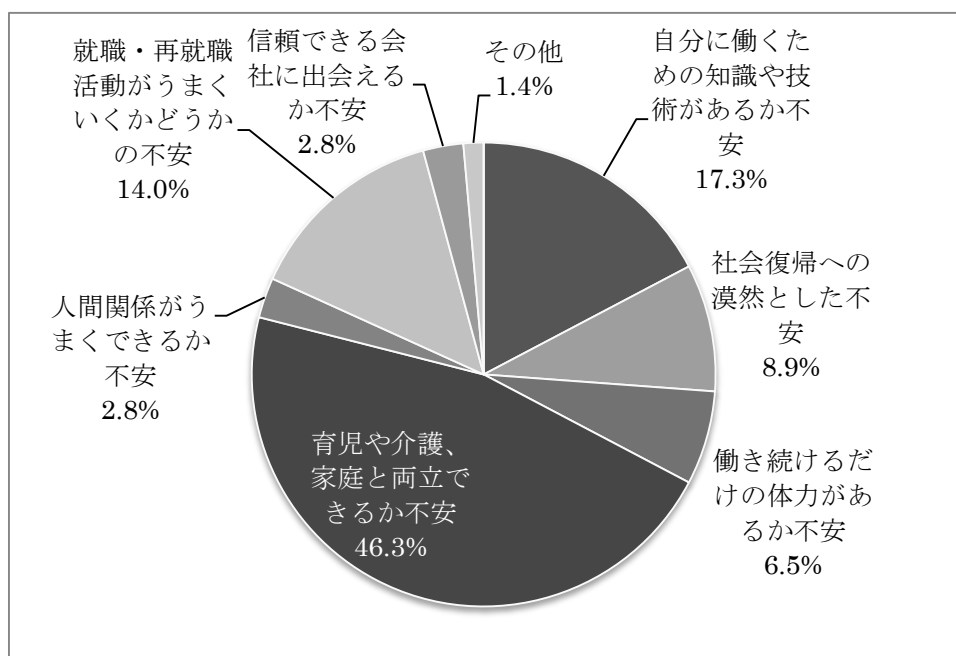
仕事に就く意義(複数回答)に関しては、「自分の視野を広げること」、「生活していくための必要を満たすこと」、「経済的に自立すること」、「人間関係を広げること」の順でこの 4 項目が約半数以上に及び、就業に関してポジティブに捉え、多様な意義を見出している人が多いことが確認された(図は省略)。また、「自分の能力を活かすこと」と捉える人は 4 割にとどまり、就業を能力発揮の場と捉えるよりも、経済的な必要に加え、自分自身の内面的な成長や社会生活の充実といった要素を重視している傾向が見られた。

次いで、仕事に就くにあって何を重視するのかに注目する。1 位の理由として、「労働時間・休日」を挙げる人が最も多く見られた。3 位までの理由を総合してみると、「労働時間・休日」に次いで、「自宅と職場の距離」、「給与」、「仕事と家庭の両立のための支援制度」の順となる(図は省略)。奥津(2009: 73)が行った結婚・育児期に退職し、その後

再就職した女性に対するヒアリング調査においても、求職条件として、「①労働時間の短さ、②通勤の近さ=就業場所の近さ、③雇用形態の3つに集約され」ているとし、また、「これら3つの条件は子の生活時間に合わせて自己が行動し、家庭運営に支障を来さない」ことによるとしている。本調査での回答においても、家庭を優先させた回答として本項目を挙げていることが推察される。

また、就職・再就職にあたっての不安を聞いたところ、「特にない」と答えた人はおらず、家庭との両立に対する不安と答えた人が半数見られた。他には、「自分に働くための知識や技術があるか不安」が2割、「就職・再就職がうまくできるか不安」が1割であり、就職活動や就職後うまくやっていけるかどうかの不安が見られた(図6)。

図6 就業にあたっての不安(n=214)



では、「今すぐ仕事に就きたい」層は、再就職へ向けて、どのような準備を行っているのだろうか。実際に何らかの準備を行っている人は8割を超えた。内容としては、「インターネット」による情報収集が約7割と多く、次いで、「雑誌や新聞」、「友人・知人を通しての情報収集」となった(図は省略)。「インターネットによる情報収集」は、再就職をした経験のある再就職型(ライフコース・パターンⅢ)の人に対して再就職準備(転職を含む)として何を行なったかを聞いた質問においても、もっとも割合の高いことから、再就職におけるツールとしてインターネットの役割は大きいことが推察された。

(2)就業希望（「そのうち仕事に就きたい」）層の特徴

次いで対象者全体の約 7 割ともっとも多くの人を選んだ「今すぐには仕事に就きたくないが、そのうちできれば仕事に就きたい」（以下、そのうち仕事に就きたい）層の特徴を分析する。対象は、1039 人である。

この層は、すぐに仕事に就かないあるいは就けない理由があると考え、家事や育児などを中心としたすぐには就業へ移ることができない壁が存在するのではないかと、もしくは、就業の必要性がやや低いのではないかと推測される。

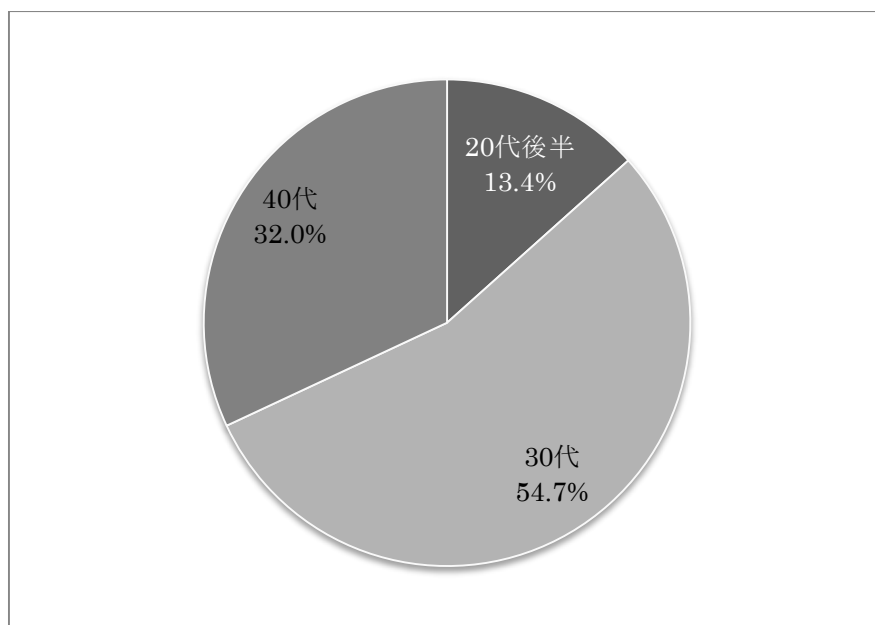
1) 属性

「そのうち仕事に就きたい」層の年齢分布は、半数以上が 30 代を占め、40 代が 3 割、20 代後半が 1 割であった(図 7)。平均年齢は、36.6 歳であり、「今すぐ仕事に就きたい」層よりも、やや若い傾向が見られた。

さらに、末子年齢の平均は 4.8 歳であり、末子 3 歳未満の割合は 4 割を超え、末子 6 歳未満の割合も約 7 割と、末子が小さい人が多い傾向が見られた。

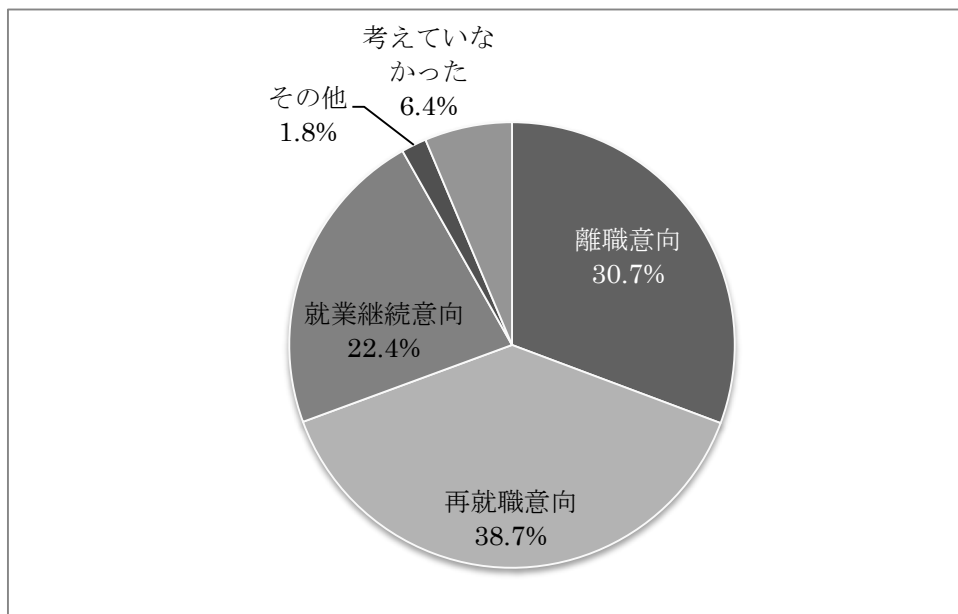
家計の主たる担い手における年収(昨年)に関しては、400 万円以下が約 1 割で、400～800 万円が約 4 割、800～1000 万円以上が約 2 割となっていた(図は省略)。「今すぐ仕事に就きたい」層と比較して、若干、400 万円以下の割合が少ないが、その他の割合はほぼ同じであった。

図 7 年代(n=1039)



学卒時のライフコース意向を見ると、学卒時に再就職を意向していた者が約 4 割と最も多いものの、「離職意向」が 3 割、「就業継続意向」も 2 割を占めた(図 8)。

図 8 学卒時のライフコース意向(n=1039)



2) 就業意識

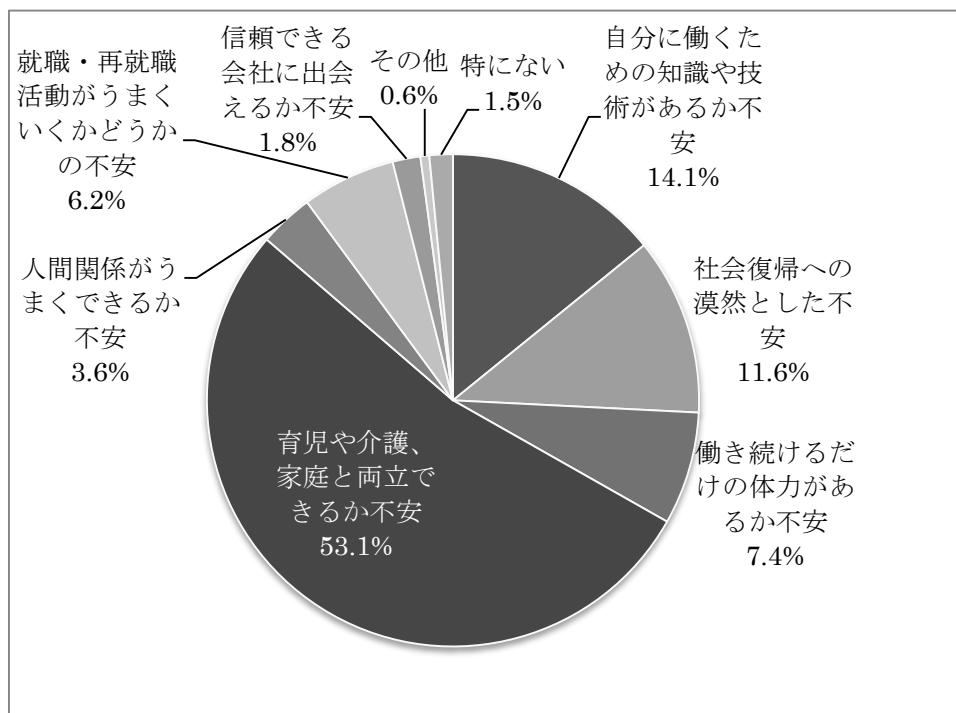
仕事に就きたい理由に関しては、「今すぐ仕事に就きたい」層と同様に、「教育費や老後の資金など、将来に備えて貯金をしたいから」といった回答がもっとも多く、3 位までの合計では、「自分で自由に使えるお金がほしいから」が全体の 5 割の人が、「仕事を通した社会とのかかわりがほしいから」を 4 割の人が挙げていた。この層においても、経済的な理由に加え、社会との接点として就業を捉えていることがうかがえた(図は省略)。

また、就業の意義(複数回答)については、約半数以上の人が挙げた項目として多い順に、「生活していくための必要を満たすこと」、「自分の視野を広げること」、「経済的に自立すること」の 3 項目となり、「今すぐ仕事に就きたい」層よりも 1 項目(「人間関係を広げること」)が少ない結果となった(図は省略)。

仕事に就くにあたって重視する条件は、「今すぐ仕事に就きたい」層と同様に、「労働時間・休日」が 1 位で半数を占めた。ただし、こちらの層では、「仕事と家庭のための両立支援制度」を重視するといった声も 2 割程度見られた。3 位までを合わせると、「労働時間・休日」に次いで、「自宅と職場の距離」、「仕事と家庭の両立のための支援制度」の順に多く見られた(図は省略)。

仕事に就くにあたっての不安においても、家庭との両立に関する不安が 5 割を超えている。また、「自分に知識や技術があるのか不安」や「社会復帰への漠然とした不安」もそれぞれ 1 割程度見られた(図 9)。

図 9 就業にあたっての不安(n=1039)



就職への準備に関しては、「特に何も準備していない」が半数を占めるものの、半数は何かの準備を行っていた。内容としては、「インターネット」での情報収集がもっとも多く 3 割、「雑誌や新聞など」2 割、「友人や知人を通しての情報収集」も 1 割見られた(図は省略)。

(3) 就業非希望層の特徴

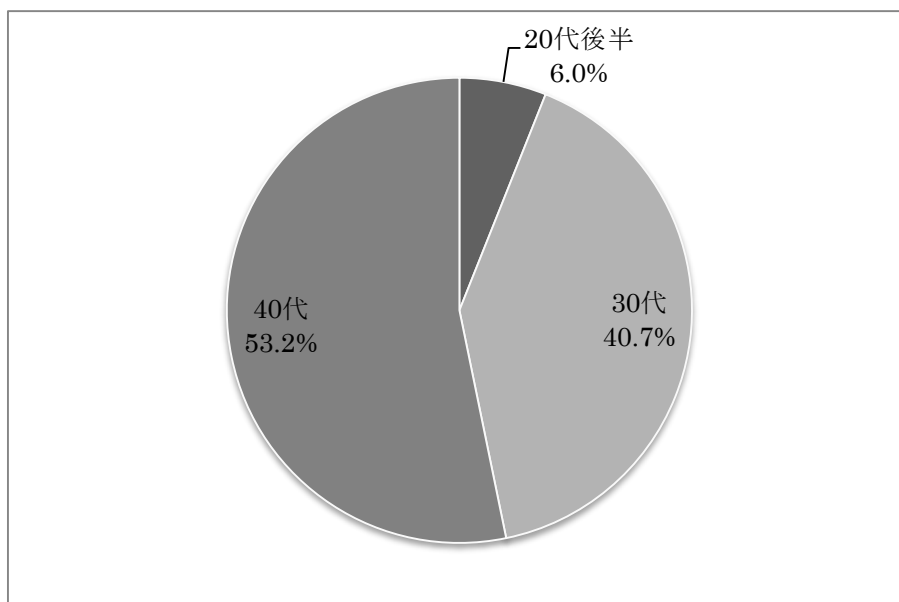
「仕事に就きたいとは思わない」と回答した 248 人(対象者全体の 16.5%)の特徴を見たい。

この層は、就業を希望しないということで、他の層に比べて就業に対する意識が低いことや、世帯収入が高いなど仕事に就く経済的な必要性が低いことあるいは、就業を希望しても就けない理由があるのではないかという点が推測される。

1) 属性

まず、就業非希望層の年齢分布を見ると、40代が半数以上に及び、30代は約4割、20代後半は6%であった(図10)。平均年齢は40.0歳となり、3層のうちで最も高い。

図10 年代(n=248)

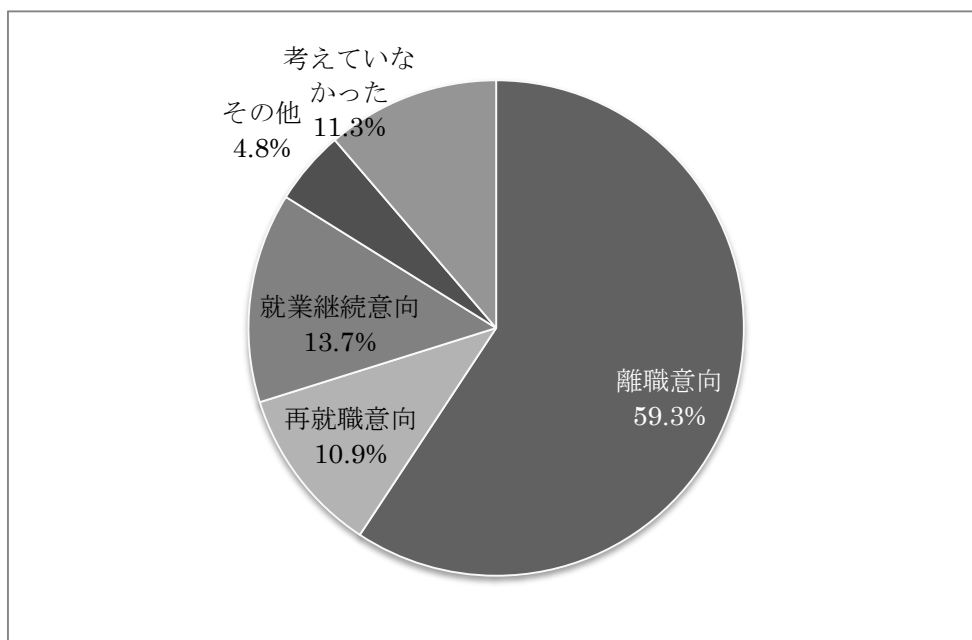


末子年齢に関しても、平均が9.4歳と高く、末子3歳未満の割合が2割、末子6歳未満の割合が3割となり、末子の小さい人の割合が他の2層と比べて少ない結果であった。

また、家計の主たる担い手における年収(昨年)は、1000万円以上が2割を占めるなど、他の層と比較して、高所得者が多い(図は省略)。

次いで、学卒時の就業意向との関連に注目すると、学卒時に「離職意向」であった人が約 6 割と多く、学卒時に現在と同じ意向を持つ人が多いことがうかがえた。さらに、「考えていなかった」も 1 割程度見られた(図 11)。

図 11 学卒時のライフコース意向(n=248)

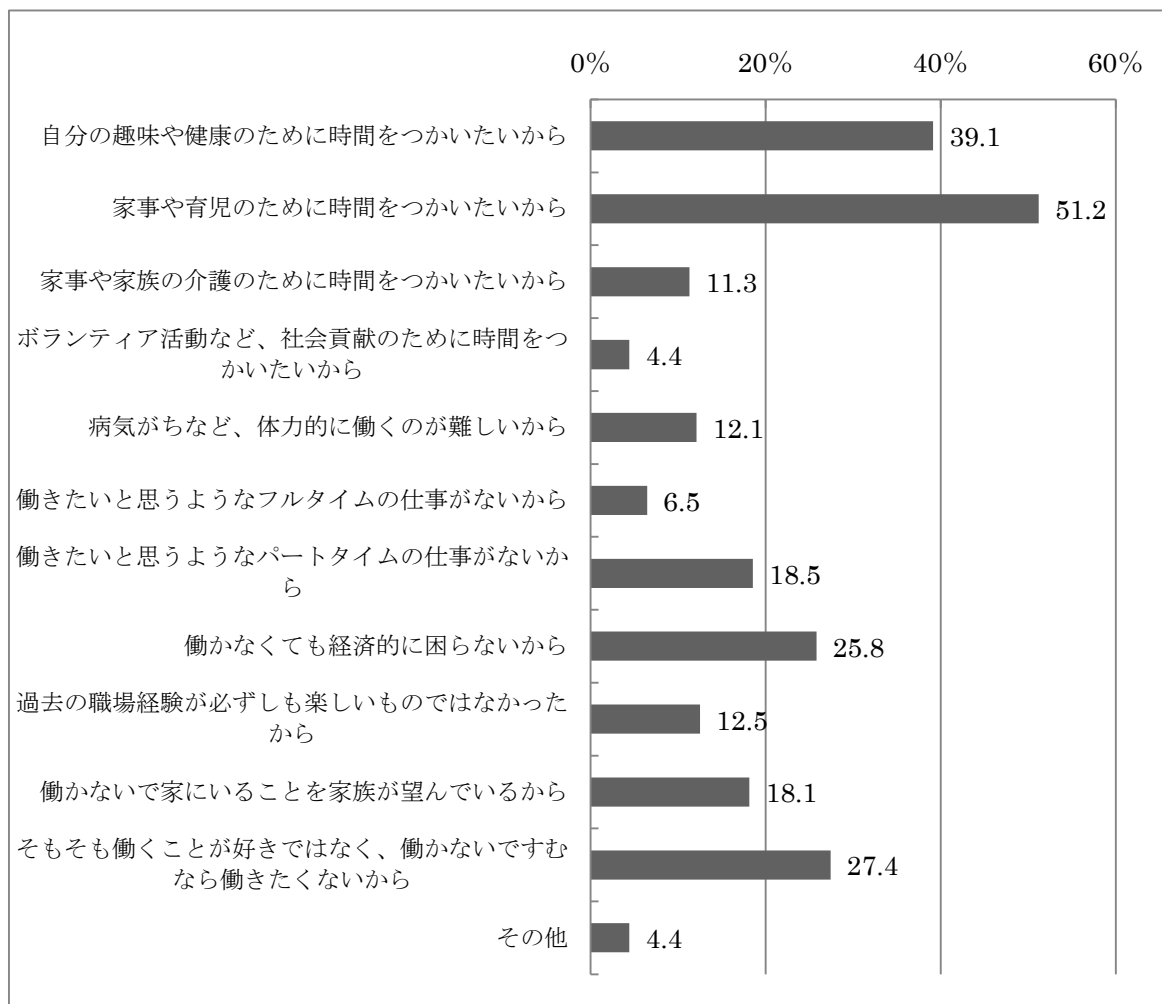


2) 就業意識

まず、仕事に就きたくない理由(複数回答)としてもっとも多いのは、「家事や育児のために時間をつかいたいから」51.2%であり、次いで「自分の趣味や健康のために時間をつかいたいから」で約4割、「そもそも働くことが好きではなく、働かないですむなら働きたくないから」約3割となった(図12)。この層においても家庭重視の傾向が見られた。

仕事に就きたくない理由から見られる特徴として、仕事をしたくても体力的な面や希望の就業形態がないという何らかの理由で就けない状況にある人よりも、家事・育児や自分の趣味・健康といった就業と代替の時間を確保したいなど、仕事に就かないということに対して肯定的に捉えている人が多い傾向が確認された。

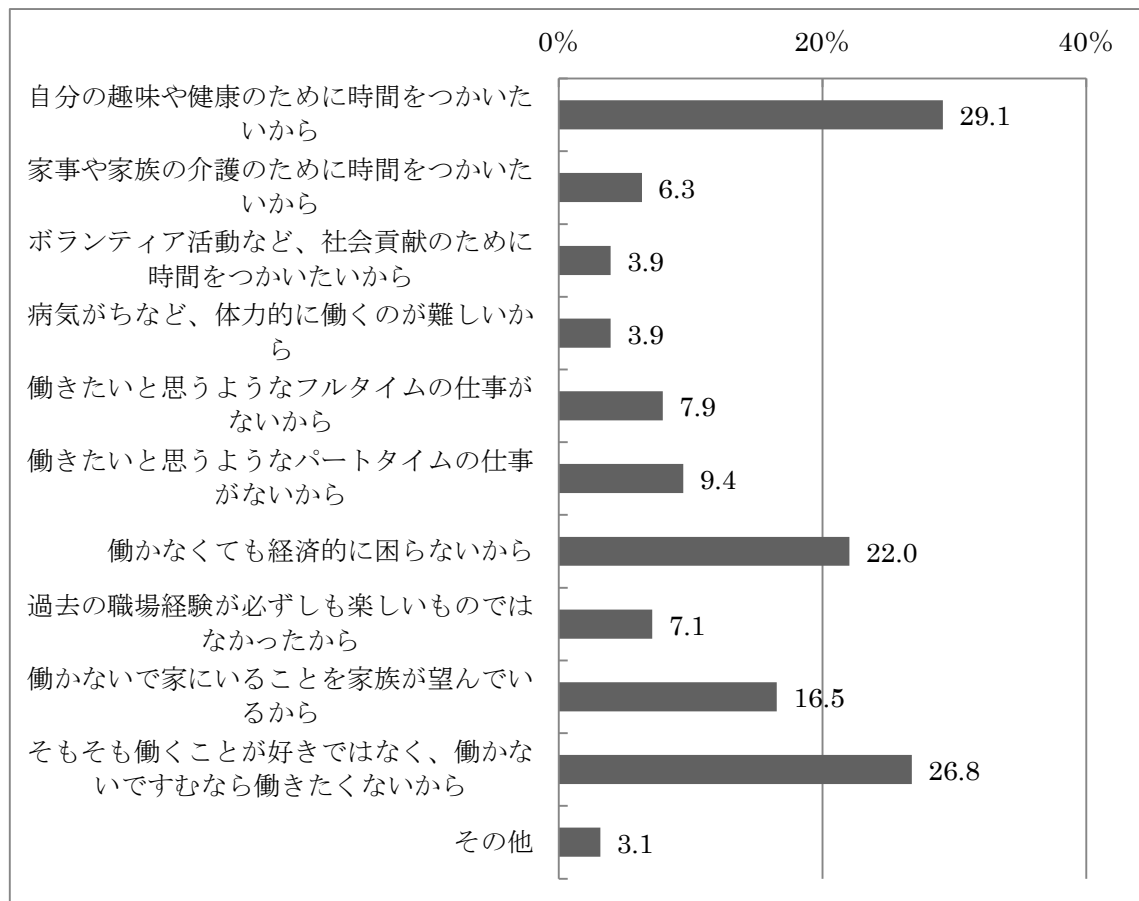
図12 仕事をしたくない理由(n=248)



さらに、仕事をしたくない理由(複数回答)に「家事や育児のために時間をつかいたいから」と回答した人が他にどのような回答をしたのかを見た。この結果、「自分の趣味や健康のために時間をつかいたいから」、「そもそも働くことが好きではなく、働かないですむなら働きたくないから」がそれぞれ約 3 割、「働かなくても経済的に困らないから」が約 2 割という結果となった(図 13)。

さらに就業の意義(複数回答)に関しては、半数以上の人が挙げた項目は「経済的に自立すること」1 項目のみとなり、他の 2 層と比べて、就業の意義として挙げている項目が少ないという特徴が見られた。

図 13 仕事をしたくない理由「家事や育児のために時間をつかいたいから」と回答した人の他の回答(n=127)



4. 本稿からの知見

本稿では、離職型かつ既婚女性に注目した。まず、全体として、就業意欲を持つ者が多いということがいえる。

また、就業非希望層は就業希望層に比べると、家計の主たる担い手の年収(1000 万円以上の割合)がやや高いこと、就業に対して多様な意義を挙げる人が少ないといった特徴が見られた。

さらに、就業非希望層と就業希望層のうち「今すぐ仕事に就きたい」、「そのうち仕事に就きたい」の3 パターンの間では、「そのうち仕事に就きたい」、「今すぐ仕事に就きたい」、就業非希望層の順に年齢が高くなり、末子年齢においては、「そのうち仕事に就きたい」層でもっとも低い傾向が見られた。

さらに、全体の共通点としては、就業希望層の就職への不安や、就業非希望層の仕事に就きたくない理由においても家庭要因が挙げられており、全ての層において仕事に対する希望は家庭生活とのセットとして考えられていることが考察された。

¹潜在的労働力率=(就業者+就業希望者+完全失業者)÷15歳以上人口

²先行研究によれば、他に以下のような知見がある。

樋口(2009)は、出産後無業である人が雇用者として就業しているかどうかの選択行動について分析を行っている。これによれば、再就職する人は、学歴が高い人ほど少なく、均等法、育児休業法、改正均等法といった法律効果の影響もプラスに働いていること、失業率が低い状況は再就職に有利に働くことを示している。

また、中井・赤地(2000)によれば、末子出生時に不就業であった者がパートタイムとして再就職するか否かは、夫の階層的地位の低さや父親の階層的地位の低さに有意であることを示している。

学歴については関連が見られないことを挙げられている(柳 2000 など)。

参考文献

- 奥津眞里, 2009, 「主婦の再就職と働き方の選択—結婚・育児等によるリタイアと職業復帰」, 労働政策研究・研修機構, 『日本労働研究雑誌 No.586』, pp.68-77.
- 武石恵美子, 2001, 「大卒女性の再就業の状況分析」, 脇坂明、富田安信編, 『大卒女性の働き方～女性が仕事をつづけるとき、やめるとき～』, 日本労働研究機構.
- 中井美樹・赤地真由子, 2000, 「市場参加/社会参加—キャリアパターンの多様性とその背景」, 盛山和夫編, 『日本の階層システム4—ジェンダー市場・家族』, 東京大学出版会.
- 日本労働研究機構, 2000, 『調査研究報告書 No.135 高学歴女性の労働力の規定要因に関する研究』.
- 樋口美雄, 2009, 「女性の継続就業支援策とその効果」, 武石恵美子編, 『女性の働きかた』, ミネルヴァ書房.
- 柳信寛, 2008, 「既婚女性の就労コースとその規定要因」, 安河内恵子編, 『既婚女性の就業とネットワーク』.
- 労働政策研究・研修機構, 2009, 『労働政策研究報告書 No.105 結婚・出産・育児期の退職と再就職—女性のキャリア形成と課題』.

参考資料(WEB)

厚生労働省, 2012, 「21世紀出生児縦断調査」.

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/shusshoujib/01/dl/gaikyo01.pdf>

(アクセス日 2013年2月15日)

総務省統計局, 2012a, 「労働力調査 2011年」.

<http://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2011/index.htm>

(アクセス日 2013年2月15日)

総務省統計局, 2012b 「労働力調査 詳細集計 2011年」.

<http://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2011/index.htm>

(アクセス日 2013年2月15日)

V 資料

度数分布表

[TABLE007]

CELL	割付セル	N	%
	単一回答		
1	自営業・内職者・家族従業者・役員	251	4.9
2	正規の職員・従業員	1626	31.5
3	非正規の職員・従業員	1614	31.3
4	無業	1664	32.3
	全体	5155	100.0

[TABLE003]

SQ1	年齢	N	%
	単一回答		
1	25-29歳	856	16.6
2	30-34歳	1070	20.8
3	35-39歳	1171	22.7
4	40-44歳	1218	23.6
5	45-49歳	840	16.3
	全体	5155	100.0

[TABLE008]

SQ2	あなたの現在の仕事の就業形態について、あてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	正社員・正規職員		1626	31.5
2	有期契約社員・嘱託社員		260	5.0
3	パート・アルバイト		975	18.9
4	派遣社員		379	7.4
5	在宅ワーク・内職		77	1.5
6	経営者・役員		15	0.3
7	自営業		130	2.5
8	自営の家族従業者		29	0.6
9	学生		31	0.6
10	専業主婦など（学生以外）		1633	31.7
	全体		5155	100.0

[TABLE009]

SQ3	あなたの最終学歴にあてはまるものを1つ選んでください。（大学もしくは大学院卒業後に専門学校などに入学した場合には「大学」もしくは「大学院」とお答えください） ※現在学生の方は、現在の学校ではなく、既に卒業している学校についてお答えください。		N	%
	単一回答			
1	短大・高専		1818	35.3
2	大学		3051	59.2
3	大学院		286	5.5
	全体		5155	100.0

[TABLE010]

SQ4	前問でお答えの最終学歴【SQ2の選択内容】の段階でどの分野の勉強をしていましたか。以下の中で最もあてはまるものをひとつお選びください。			
	単一回答		N	%
1	人文系(文学・教育)		2291	44.4
2	社会科学系(法律・経済・政治)		966	18.7
3	理工系(理学・工学)		467	9.1
4	医療・薬学系		257	5.0
5	福祉系(保育・介護など)		308	6.0
6	その他		866	16.8
	全体		5155	100.0

[TABLE011]

Q1	現在までのあなたの働き方についてあてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	学校卒業後、最初に就いた仕事を現在も継続している		761	14.8
2	現在仕事に就いているが、これまでに1年未満の離職期間があった(転職経験あり)		1524	29.6
3	現在仕事に就いているが、これまでに1年以上の離職期間があった(再就職経験あり)		1206	23.4
4	現在仕事に就いていないが、かつては仕事に就いていた		1603	31.1
5	学校卒業後一度も仕事に就いたことがない		61	1.2
	全体		5155	100.0

[TABLE012]

Q2	現在の仕事についてお伺いします。すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	30人以下		319	19.6
2	31～100人		249	15.3
3	101～300人		220	13.5
4	301～1000人		221	13.6
5	1001人以上		515	31.7
6	官公庁		80	4.9
7	わからない		22	1.4
	全体		1626	100.0

[TABLE013]

TABLE 10

Q3	現在の仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)		1735	49.7
2	営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)		169	4.8
3	販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)		206	5.9
4	サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)		315	9.0
5	専門・技術的仕事(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなど)		809	23.2
6	生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)		59	1.7
7	運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)		23	0.7
8	保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)		1	0.0
9	管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)		40	1.1
10	団体役員		5	0.1
11	その他		129	3.7
全体			3491	100.0

[TABLE014]

Q4	現在のお仕事の勤続期間をお答えください。 ※1ヶ月未満の方も「最低1ヶ月以上」でお答えください。		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述							
1	年		3491	3486	5.34	5.74	0.00	30.00
2	ヶ月		3491	3486	5.36	3.24	0.00	11.00

[TABLE015]

[TABLE019]				
Q5	現在の仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	きめられたやり方があり、自分の工夫の余地はあまりない		718	20.6
2	上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある		1708	48.9
3	仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる		504	14.4
4	仕事をまかされ、中心となって遂行する		508	14.6
5	その他		53	1.5
全体			3491	100.0

[TABLE016]

Q6	現在の仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。	全体	1	2	3	4	5
			満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
	単一回答						
1	給与	3491	309	959	768	797	661
		1000	8.9	27.4	22.0	22.8	18.9
2	労働時間・休日	3491	831	1294	657	484	225
		1000	23.8	37.1	18.8	13.9	6.4
3	配置・昇進・処遇	3491	281	714	1350	716	430
		1000	8.0	20.5	38.7	20.5	12.3
4	評価システム	3491	208	546	1601	679	457
		1000	6.0	15.6	45.9	19.5	13.1
5	雇用の安定性	3491	490	972	1027	539	463
		1000	14.0	27.8	29.4	15.4	13.3
6	仕事と家庭の両立のための支援制度	3491	415	773	1452	498	353
		1000	11.9	22.1	41.6	14.3	10.1
7	研修などの教育訓練	3491	220	606	1537	670	458
		1000	6.3	17.4	44.0	19.2	13.1
8	自宅と職場の距離	3491	1099	1039	626	468	259
		1000	31.5	29.9	17.9	13.4	7.4
9	仕事の内容・やりがい	3491	546	1239	1015	442	249
		1000	15.6	35.5	29.1	12.7	7.1
10	職場の人間関係・コミュニケーション	3491	619	1333	920	380	239
		1000	17.7	38.2	26.4	10.9	6.8

[TABLE017]

Q7	あなたの学校卒業後、最初に就いた仕事の就業形態について、あてはまるものを1つ選んでください。	N	%
	単一回答		
1	正社員・正規職員	3352	77.4
2	有期契約社員・嘱託社員	270	6.2
3	パート・アルバイト	479	11.1
4	派遣社員	157	3.6
5	在宅ワーク・内職	12	0.3
6	経営者・役員	2	0.0
7	自営業	32	0.7
8	自営の家族従業者	13	0.3
9	その他	16	0.4
	全体	4333	100.0

※0.05

[TABLE018]

Q8	学校卒業後、最初に就いた仕事についてお伺いします。すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。	N	%
	単一回答		
1	30人以下	404	12.1
2	31～100人	420	12.5
3	101～300人	477	14.2
4	301～1000人	647	19.3
5	1001人以上	1215	36.2
6	官公庁	57	1.7
7	わからない	132	3.9
	全体	3352	100.0

[TABLE019]			
Q9	学校卒業後、最初に就いた仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。		
	単一回答	N	%
1	事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)	2035	47.0
2	営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)	430	9.9
3	販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)	354	8.2
4	サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)	386	8.9
5	専門・技術的仕事(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなど)	977	22.5
6	生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)	29	0.7
7	運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)	12	0.3
8	保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)	7	0.2
9	管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)	0	0.0
10	団体役員	6	0.1
11	その他	97	2.2
	全体	4333	100.0

[TABLE020]								
Q10S1N	学校卒業後、最初に仕事に就いた時の年齢を教えてください。 【歳】							
	自由記述		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	歳		4333	4301	21.65	1.58	18.00	36.00

[TABLE021]								
Q11	その仕事(学校卒業後、最初に就いた仕事)には何年就いていましたか。 ※1ヶ月未満の方も「最低1ヶ月以上」でお答えください。							
	自由記述		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	年		4333	4329	3.90	3.43	0.00	23.00
2	ヶ月		4333	4333	3.70	3.59	0.00	11.00

[TABLE022]																	
Q12	あなたが卒業後、最初に就いた仕事(その仕事は得意ですか、もっと得意になるものか)に満足していますか、(満足していない場合は理由を教えてください)	年齢															
			満足しています	満足していません	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)	満足していません(理由を教えてください)
	得意・得意な仕事があったから		得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから	得意・得意な仕事があったから
1	10代・20代	4222	764	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
2	30代・40代	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
3	50代・60代	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
4	70代・80代	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
5	その他	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
6	全体	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
7	満足しています	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
8	満足していません	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
9	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
10	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
11	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
12	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
13	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
14	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
15	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
16	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
17	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
18	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
19	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
20	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
21	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
22	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
23	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
24	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
25	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
26	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
27	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
28	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
29	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
30	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
31	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
32	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
33	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
34	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
35	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
36	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
37	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
38	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
39	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
40	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
41	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
42	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
43	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
44	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
45	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
46	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
47	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
48	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
49	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
50	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
51	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
52	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
53	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
54	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
55	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
56	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
57	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
58	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
59	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
60	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
61	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
62	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
63	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
64	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
65	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
66	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
67	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
68	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
69	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
70	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
71	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
72	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
73	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
74	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
75	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
76	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
77	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
78	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
79	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
80	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
81	満足していません(理由を教えてください)	4222	774	248	400	416	220	51	285	188	207	189	367	207	46	94	3
82	満足していません(理由を教えてください)	4222	774														

Q13	学校卒業後、最初に就いた仕事をやめるころの仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない		1218	28.1
2	上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある		2127	49.1
3	仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる		476	11.0
4	仕事をまかされ、中心となって遂行する		478	11.0
5	その他		34	0.8
全体			4333	100.0

[TABLE024]

Q14	学校卒業後、最初に就いた仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。	全体	1	2	3	4	5
			満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1	給与	4333	840	1315	808	811	559
2	労働時間・休日	4333	19.4	30.3	18.6	18.7	12.9
3	配置・昇進・処遇	4333	861	1247	817	918	670
4	評価システム	4333	15.7	28.8	18.9	21.2	15.5
5	雇用の安定性	4333	373	939	1600	883	538
6	仕事と家庭の両立のための支援制度	4333	8.6	21.7	36.9	20.4	12.4
7	研修などの教育訓練	4333	295	913	1849	789	487
8	自宅と職場の距離	4333	6.8	21.1	42.7	18.2	11.2
9	仕事の内容・やりがい	4333	1056	1366	1049	470	392
10	職場の人間関係・コミュニケーション	4333	24.4	31.5	24.2	10.8	9.0
11		4333	236	556	1927	872	742
12		4333	5.4	12.8	44.5	20.1	17.1
13		4333	500	1153	1499	701	480
14		4333	11.5	26.6	34.6	16.2	11.1
15		4333	750	1345	996	779	463
16		4333	17.3	31.0	23.0	18.0	10.7
17		4333	639	1352	1205	681	456
18		4333	14.7	31.2	27.8	15.7	10.5
19		4333	712	1439	1039	612	531
20		4333	16.4	33.2	24.0	14.1	12.3

[TABLE025]

Q15	あなたが今まで就いた仕事でもっとも勤続年数が高い仕事は何ですか。		N	%
	単一回答			
1	学校卒業後、最初に就いた仕事		2040	47.1
2	現在就いている仕事		1058	24.4
3	それ以外		1235	28.5
全体			4333	100.0

[TABLE026]

Q16	これまでに一番長く勤めた仕事について、その勤続年数をおこたえください。		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述							
1	年		1235	1233	5.46	3.29	0.00	20.00
2	ヶ月		1235	1234	3.30	3.55	0.00	11.00

[TABLE027]

Q17	前問でお答えのもっとも長く継続していた仕事の就業形態について、あてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	正社員・正規職員		645	52.2
2	有期契約社員・嘱託社員		140	11.3
3	パート・アルバイト		216	17.5
4	派遣社員		202	16.4
5	在宅ワーク・内職		2	0.2
6	経営者・役員		7	0.6
7	自営業		11	0.9
8	自営の家族従業者		3	0.2
9	その他		9	0.7
	全体		1235	100.0

[TABLE028]

Q18	前問でお答えのもっとも長く継続していた仕事の就業形態についてお伺いします。すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	30人以下		175	27.1
2	31～100人		152	23.6
3	101～300人		102	15.8
4	301～1000人		82	12.7
5	1001人以上		103	16.0
6	官公庁		14	2.2
7	わからない		17	2.6
	全体		645	100.0

[TABLE029]				
Q19	あなたがもっとも長く継続していた仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)		636	51.5
2	営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)		59	4.8
3	販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)		88	7.1
4	サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)		123	10.0
5	専門・技術の仕事(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教授、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなど)		263	21.3
6	生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)		20	1.6
7	運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)		3	0.2
8	保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)		0	0.0
9	管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)		6	0.5
10	団体役員		3	0.2
11	その他		34	2.8
全体			1235	100.0

[TABLE030]																
Q18	あなたがもっとも長く継続している仕事をあてはまるものを選んでください(1つから複数選んでも構いません)		全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	単一回答			1. 給与・待遇がよい仕事	2. 仕事・業務が面白い仕事	3. 仕事・業務がやりがいのある仕事	4. 仕事・業務がやりがいのある仕事	5. 仕事・業務がやりがいのある仕事	6. 仕事・業務がやりがいのある仕事	7. 仕事・業務がやりがいのある仕事	8. 仕事・業務がやりがいのある仕事	9. 仕事・業務がやりがいのある仕事	10. 仕事・業務がやりがいのある仕事	11. 仕事・業務がやりがいのある仕事	12. 仕事・業務がやりがいのある仕事	13. 仕事・業務がやりがいのある仕事
1	1. 給与・待遇		1235	123	47	109	45	107	27	30	29	40	40	102	101	42
			1000	100	38	87	51	100	22	40	22	43	43	153	153	35
2	2. 給与・待遇		1235	38	10	50	40	10	20	17	59	40	42	30	10	10
			1000	32	11	43	74	12	19	19	59	43	34	29	12	10
3	3. 給与・待遇		1235	38	1	39	40	4	4	38	59	40	38	14	4	4
			1000	29	0	33	33	0	0	32	43	32	31	11	0	0

[TABLE031]						
Q21	もっとも長く継続していた仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。		全体	1	2	3
	単一回答			満足	やや満足	どちらともいえない
1	給与		1235	219	439	228
			1000	177	355	185
2	労働時間・休日		1235	255	474	241
			1000	206	384	195
3	配置・昇進・処遇		1235	139	303	425
			1000	113	245	344
4	評価システム		1235	129	287	479
			1000	104	216	388
5	雇用の安定性		1235	191	357	344
			1000	155	289	279
6	仕事と家庭の両立のための支援制度		1235	73	186	536
			1000	59	151	434
7	研修などの教育訓練		1235	95	247	493
			1000	77	200	399
8	自宅と職場の距離		1235	281	420	273
			1000	228	340	221
9	仕事の内容・やりがい		1235	308	459	289
			1000	249	372	234
10	職場の人間関係・コミュニケーション		1235	288	430	266
			1000	233	348	215

[TABLE032]

Q22	あなたは現在まで転職・再就職の経験が何回ありますか。		N	%
	単一回答			
1	1回		1078	24.9
2	2回		890	20.5
3	3回		767	17.7
4	4回		416	9.6
5	5～10回		526	12.1
6	11回以上		80	1.8
7	ない		576	13.3
全体			4333	100.0

[TABLE033]

Q23	これまでの経験を総合的に判断すると、転職・再就職をしてよかったと思いますか。		N	%
	単一回答			
1	はい		2646	70.4
2	いいえ		157	4.2
3	どちらともいえない		954	25.4
全体			3757	100.0

[TABLE034]

Q24	これまでの転職・再就職で、職種は変わったことはありますか。		N	%
	単一回答			
1	変わったことがある		2701	71.9
2	変わらない		811	21.6
3	どちらともいえない		245	6.5
全体			3757	100.0

[TABLE035]

Q25	これまであなたが転職・再就職するにあたり重視した条件は何ですか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	給与など職場の待遇		1011	26.9
2	やりがいなど仕事の内容		1438	38.3
3	職場の人間関係		242	6.4
4	仕事と家庭の両立		894	23.8
5	その他		172	4.6
全体			3757	100.0

[TABLE036]									
Q26			全体	1	2	3	4	5	
	これまでの転職・再就職をふりかえて、次の点はどのように変わりましたか。以下の項目それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。			よくなった	ややよくなった	どちらともいえない	やや悪くなった	悪くなった	
	単一回答								
1	給与などの職場の待遇		3757	627	775	1117	623	615	
			100.0	16.7	20.6	29.7	16.6	16.4	
2	やりがいなど仕事の内容		3757	749	1133	1329	363	183	
			100.0	19.9	30.2	35.4	9.7	4.9	
3	職場の人間関係		3757	642	994	1704	286	131	
			100.0	17.1	26.5	45.4	7.6	3.5	
4	仕事と家庭の両立		3757	779	1106	1621	174	77	
			100.0	20.7	29.4	43.1	4.6	2.0	

[TABLE037]				
Q27	あなたが転職・再就職するにあたり準備したことは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。			
	複数回答		N	%
1	友人・知人を通しての情報収集をした		925	24.6
2	雑誌や新聞などによる情報収集をした		1289	34.3
3	インターネットなどによる情報収集をした		2074	55.2
4	資格・技能習得のために学校に通った		677	18.0
5	自宅で資格取得のための勉強をした		490	13.0
6	地域の女性センターなどが主催する講座に参加した		73	1.9
7	その他		108	2.9
8	特に何も準備しなかった		642	17.1
	全体		3757	100.0

[TABLE038]																
Q28	あなたが仕事を探している理由として、もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください (1つあるいは2つでもかまいません)			全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答
					仕事にやりがいを感じていく 将来的な目標があるから	仕事は続けることがあり まうと思っ	経済的に必要だから	職歴に連続できる人から	職場に仕事と家庭の両 立を支援する制度があ るから	職場に仕事と家庭の両 立に対する理解がある から	配偶者・パートナーの 協力があるから	配偶者・パートナー以外 の家族の協力が得られ るから	将来に不安を感じない から	特に選ばない(この 中はない)		
	単一回答															
1	240名/票目	761			131	21	105	389	26	11	7	26	2	27	22	0
		100.0			17.2	2.8	13.8	51.1	3.4	1.4	0.9	3.4	0.3	3.5	2.9	0.0
2	240名/票目	761			42	99	105	149	23	31	21	9	1	139	43	56
		100.0			5.5	13.0	13.8	19.6	3.0	4.1	2.8	1.2	0.1	18.2	5.7	7.4
3	240名/票目	761			28	29	105	80	38	22	16	41	12	118	119	127
		100.0			3.7	3.8	13.8	10.5	5.0	2.9	2.1	5.4	1.6	15.5	15.5	16.7

[TABLE039]			
Q29	あなたは今、あるいは将来、仕事に就きたいと思っていますか。		
	単一回答		N %
1	今すぐ仕事に就きたい		271 16.3
2	今すぐには仕事に就きたくないが、そのうちできれば仕事に就きたい		1121 67.4
3	仕事に就きたいとは思わない		272 16.3
	全体		1664 100.0

TABLE040

Q30	あなたが就職・再就職を考えるにあたって、もっとも不安に思うことは何ですか。1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	自分に働くための知識や技術があるか不安		214	15.4
2	社会復帰への漠然とした不安		156	11.2
3	働き続けるだけの体力があるか不安		110	7.9
4	育児や介護、家庭と両立できるか不安		665	47.8
5	人間関係がうまくできるか不安		55	4.0
6	就職・再就職活動がうまくいくかどうかの不安		122	8.8
7	信頼できる会社に出会えるか不安		32	2.3
8	その他		16	1.1
9	特にない		22	1.6
	全体		1392	100.0

[TABLE041]													
Q31	仕事を続けたいと思う理由は何ですか。もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。(1つあるいは2つでもかまいません)												
	全体	理由											
		仕事を通じて社会に貢献したいから	教育費や老後の資金など、将来に備えて貯蓄をしたいから	自分で自由に使えるお金がほしいから	経済的に自立したいから	将来働くのが好きだから	時間的余裕があるから	自分の専門知識や経験を活かしたいから	仕事を通じた社会との関わりがほしいから	仕事を通じて評価されたいから	無回答		
単一回答													
1	1位/票目	1392	60	645	229	181	41	49	48	148	14	9	
		100%	4.3	46.3	16.5	13.0	2.9	3.5	3.4	10.6	1.0	0.6	
2	2位/票目	1392	50	229	201	137	64	102	71	164	17	171	
		100%	3.6	16.5	14.5	9.9	4.6	7.3	5.1	11.8	1.2	12.3	
3	3位/票目	1392	71	141	198	95	65	51	24	241	31	432	
		100%	5.1	10.1	14.2	6.8	4.7	3.6	1.7	17.3	2.2	30.7	

[TABLE042]													
Q32	今後、仕事を続けたいとあら、どのような条件を重視しますか。もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。(1つあるいは2つでもかまいません)			全体									
	単一回答			給与	労働時間・休日	配置・昇進・異動	評価システム	雇用の安定性	仕事と家庭の両立のための支援制度	研修などの教育訓練	会社と職場の距離	仕事の内容・やりがい	職場の人間関係・コミュニケーション
1	1位/票目	1392	39.4	670	7	2	20	259	2	134	152	58	9
2	2位/票目	1392	31.4	48.4	0.4	0.4	1.4	18.4	0.1	8.4	11.4	4.8	0.2
3	3位/票目	1392	23.4	29.4	12	0.4	29	184	0.4	184	12.4	79	60
4	4位/票目	1392	18.4	20.4	0.8	0.1	1.8	128.4	0.4	26.4	9.8	5.4	4.1
5	5位/票目	1392	10.4	14.4	13	0.4	47	102	0.4	28.4	1.78	18.4	131
6	6位/票目	1392	10.4	18.4	0.8	0.8	3.4	6.8	0.8	20.4	12.8	12.8	6.8

[TABLE043]

Q33	現在、就職・再就職に向けてどのような準備をしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。		N	%
	複数回答			
1	友人・知人を通しての情報収集をしている		202	14.5
2	雑誌や新聞などによる情報収集をしている		284	20.4
3	インターネットなどによる情報収集をしている		559	40.2
4	資格・技能習得のために学校に通っている		64	4.6
5	自宅で資格取得のための勉強をしている		99	7.1
6	地域の女性センターなどが主催する講座に参加している(したことがある)		21	1.5
7	その他		33	2.4
8	特に何も準備していない		639	45.9
全体			1392	100.0

[TABLE044]

Q34	仕事をしたくないと思う理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。			
	複数回答		N	%
1	自分の趣味や健康のために時間をつかいたいから		110	40.4
2	家事や育児のために時間をつかいたいから		137	50.4
3	家事や家族の介護のために時間をつかいたいから		31	11.4
4	ボランティア活動など、社会貢献のために時間をつかいたいから		13	4.8
5	病気がちななど、体力的に働くのが難しいから		38	14.0
6	働きたいと思うようなフルタイムの仕事がないから		18	6.6
7	働きたいと思うようなパートタイムの仕事がないから		46	16.9
8	働かなくても経済的に困らないから		71	26.1
9	過去の職場経験が必ずしも楽しいものではなかったから		33	12.1
10	働かないで家にいることを家族が望んでいるから		47	17.3
11	そもそも働くことが好きではなく、働かないですむなら働きたくないから		72	26.5
12	その他		12	4.4
全体			272	100.0

[TABLE046]

Q36		全体	1	2	3
	その資格は就職に役立ちましたか。		直接資格を活かした仕事に就いている(就いていない)	直接資格を活かした仕事には就いていないが、役立っている(役立った)	役に立っていない
	単一回答				
1	教員免許(幼・小・中・高)	788 100.0	206 26.1	212 26.9	370 47.0
2	司書	194 100.0	39 20.1	34 17.5	121 62.4
3	学芸員	108 100.0	8 7.4	22 20.4	78 72.2
4	裁判官・検事・弁護士	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
5	司法書士	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3
6	行政書士	21 100.0	7 33.3	7 33.3	7 33.3
7	税理士	6 100.0	5 83.3	0 0.0	1 16.7
8	公認会計士	11 100.0	8 72.7	2 18.2	1 9.1
9	社会保険労務士	23 100.0	7 30.4	9 39.1	7 30.4
10	臨床心理士	9 100.0	9 100.0	0 0.0	0 0.0
11	産業カウンセラー	14 100.0	2 14.3	8 57.1	4 28.6
12	社会福祉士	50 100.0	31 62.0	10 20.0	9 18.0
13	介護福祉士	37 100.0	25 67.6	8 21.6	4 10.8
14	ヘルパー(2級)	177 100.0	62 35.0	50 28.2	65 36.7
15	精神保健福祉士	20 100.0	12 60.0	5 25.0	3 15.0
16	保育士	193 100.0	114 59.1	54 28.0	25 13.0
17	栄養士・管理栄養士	171 100.0	46 26.9	61 35.7	64 37.4
18	調理師	46 100.0	24 50.0	11 22.9	13 27.1
19	医師	19 100.0	18 94.7	1 5.3	0 0.0
20	薬剤師	85 100.0	69 81.2	12 14.1	4 4.7
21	看護師	76 100.0	66 86.8	8 10.5	2 2.6
22	保健師	22 100.0	14 63.6	5 22.7	3 13.6
23	助産師	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0
24	臨床検査技師	18 100.0	13 72.2	4 22.2	1 5.6
25	歯科衛生士	16 100.0	13 81.3	2 12.5	1 6.3
26	医療事務関連資格	244 100.0	101 41.4	30 12.3	113 46.3
27	自動車運転免許	3234 100.0	185 5.7	890 27.5	2159 66.8
28	国家資格 (【Q35_28FAの選択内容】)	436 100.0	175 40.1	127 29.1	134 30.7
29	その他資格 (【Q35_29FAの選択内容】)	880 100.0	339 38.5	286 32.5	255 29.0

[TABLE047]									
Q37		全体	1	2	3	4	5		
	その資格を取ったのは次のどの時期にあたりますか。								
	学生時代に		学校卒業後最初に就いた仕事をしているとき	学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、働きながら	学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、離職中に	その他			
単一回答									
1	教員免許(幼・小・中・高)	782	766	7	4	4	1		
		100.0	98.0	0.9	0.5	0.5	0.1		
2	司書	194	170	6	5	6	5		
		100.0	87.6	3.1	2.6	3.1	2.6		
3	学芸員	107	100	1	3	3	0		
		100.0	93.5	0.9	2.8	2.8	0.0		
4	裁判官・検事・弁護士	2	2	0	0	0	0		
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
5	司法書士	5	3	1	0	0	1		
		100.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0		
6	行政書士	20	6	2	3	5	4		
		100.0	30.0	10.0	15.0	25.0	20.0		
7	税理士	6	1	2	1	1	1		
		100.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7		
8	公認会計士	11	4	1	1	2	3		
		100.0	36.4	9.1	9.1	18.2	27.3		
9	社会保険労務士	23	1	6	7	4	5		
		100.0	4.3	26.1	30.4	17.4	21.7		
10	臨床心理士	9	0	6	2	0	1		
		100.0	0.0	66.7	22.2	0.0	11.1		
11	産業カウンセラー	13	3	4	4	0	2		
		100.0	23.1	30.8	30.8	0.0	15.4		
12	社会福祉士	50	18	14	8	5	5		
		100.0	36.0	28.0	16.0	10.0	10.0		
13	介護福祉士	37	9	7	15	3	3		
		100.0	24.3	18.9	40.5	8.1	8.1		
14	ヘルパー(2級)	176	31	18	23	54	50		
		100.0	17.6	10.2	13.1	30.7	28.4		
15	精神保健福祉士	20	7	3	6	1	3		
		100.0	35.0	15.0	30.0	5.0	15.0		
16	保育士	193	160	4	10	10	9		
		100.0	82.9	2.1	5.2	5.2	4.7		
17	栄養士・管理栄養士	171	154	10	1	3	3		
		100.0	90.1	5.8	0.6	1.8	1.8		
18	調理師	47	7	11	20	6	3		
		100.0	14.9	23.4	42.6	12.8	6.4		
19	医師	19	15	2	0	0	2		
		100.0	78.9	10.5	0.0	0.0	10.5		
20	薬剤師	84	58	17	0	2	7		
		100.0	69.0	20.2	0.0	2.4	8.3		
21	看護師	74	59	6	1	5	3		
		100.0	79.7	8.1	1.4	6.8	4.1		
22	保健師	21	16	2	0	2	1		
		100.0	76.2	9.5	0.0	9.5	4.8		
23	助産師	5	2	0	0	1	2		
		100.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0		
24	臨床検査技師	18	16	0	0	1	1		
		100.0	88.9	0.0	0.0	5.6	5.6		
25	歯科衛生士	16	16	0	0	0	0		
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
26	医療事務関連資格	243	31	42	32	103	35		
		100.0	12.8	17.3	13.2	42.4	14.4		
27	自動車運転免許	3205	2552	294	86	173	100		
		100.0	79.6	9.2	2.7	5.4	3.1		
28	国家資格 (【Q35.28FAの選択内容】)	435	99	147	90	45	54		
		100.0	22.8	33.8	20.7	10.3	12.4		
29	その他資格 (【Q35.29FAの選択内容】)	872	246	208	165	125	128		
		100.0	28.2	23.9	18.9	14.3	14.7		

[TABLE048]				
Q38	あなたは社会人になってから次の学校(通信制を含む)に入学したことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。			
	複数回答		N	%
1	ない		4275	82.9
2	専門学校		341	6.6
3	短大		87	1.7
4	大学		288	5.6
5	大学院		100	1.9
6	その他		122	2.4
全体			5159	100.0

[TABLE049]

Q39	あなたが、社会人になってから入学した以下の学校で、どの分野を勉強しましたか。(いくつでも)		N	%
	複数回答			
1	語学系		52	6.8
2	ビジネス・パソコン系		85	11.1
3	教育系		7	0.9
4	法律系		32	4.2
5	心理系		7	0.9
6	福祉系		32	4.2
7	食物系		20	2.6
8	医療系		47	6.2
9	その他		106	13.9
10	人文系(文学・教育学など)		230	30.1
11	社会科学系(法学・経済学・政治学・福祉学など)		130	17.0
12	理工系(理学・工学など)		32	4.2
13	医療・薬学系		32	4.2
14	その他		47	6.2
全体			764	100.0

[TABLE050]

Q40		全体	1	2	3
			学校卒業後最初に就いた仕事をしているとき	学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、働きながら	学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、離職中に
1	専門学校	341 100.0	111 32.6	100 29.3	130 38.1
2	短大	87 100.0	42 48.3	25 28.7	20 23.0
3	大学	285 100.0	117 41.1	93 32.6	75 26.3
4	大学院	96 100.0	43 44.8	21 21.9	32 33.3

[TABLE051]

Q41	社会人になってから以下の学校に入学した目的は何ですか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。	全体	1	2	3	4	5	6	7
			学びたいことがあったから	教養・趣味のため	転職・再就職のため	人脈を広げたいから	仕事に必要なことから	学歴が必要だったから	その他
1	専門学校	341 100.0	170 49.9	28 8.2	98 28.7	0 0.0	35 10.3	1 0.3	9 2.6
2	短大	87 100.0	41 47.1	8 9.2	8 9.2	1 1.1	4 4.6	10 11.5	15 17.2
3	大学	288 100.0	150 52.1	37 12.8	26 9.0	2 0.7	17 5.9	37 12.8	19 6.6
4	大学院	100 100.0	70 70.0	5 5.0	9 9.0	0 0.0	3 3.0	11 11.0	2 2.0

[TABLE052]				
Q42	あなたは学校卒業時に、どのようなライフコースを理想としていましたか。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	就職しないで結婚し、その後専業主婦になる		97	1.9
2	就職し、結婚で退職し、その後専業主婦になる		902	17.5
3	就職し、出産で退職し、その後専業主婦になる		365	7.1
4	就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、フルタイムで仕事に復帰する		477	9.3
5	就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、パートで仕事に復帰する		951	18.4
6	就職し、結婚はするが、子どもを持たないで仕事を続ける		238	4.6
7	就職し、結婚・出産はするが、仕事も続ける		1192	23.1
8	シングルのまま、仕事を続ける		415	8.1
9	就職しないで結婚・出産し、その後就職する		7	0.1
10	その他		17	0.3
11	考えていなかった		494	9.6
全体			5155	100.0

[TABLE053]									
					1	2	3	4	5
Q43	あなたは自分の人生や仕事についてどのように考えていますか。以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。			全体	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
	単一回答								
1	人生が充実しないのは、大半が周囲の環境によると思う			5155	207	825	1644	1759	720
				1000	4.0	16.0	31.9	34.1	14.0
2	家族や周りにあわせて、人生を送っていけばよい			5155	130	1064	1736	1661	564
				1000	2.5	20.6	33.7	32.2	10.9
3	自分のこれからの人生や生き方には、大変関心をもっている			5155	1427	2431	1010	234	53
				1000	27.7	47.2	19.6	4.5	1.0
4	人生設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている			5155	1170	2172	1397	349	67
				1000	22.7	42.1	27.1	6.8	1.3
5	人生で起きる問題の多くは処理できるとは思えない			5155	182	956	2110	1533	374
				1000	3.5	18.5	40.9	29.7	7.3
6	自分が望む生き方をするために、具体的な計画を立てている			5155	255	1180	2140	1338	242
				1000	4.9	22.9	41.5	26.0	4.7
7	人生で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく			5155	645	2401	1629	417	63
				1000	12.5	46.6	31.6	8.1	1.2
8	新しいことを始めようと決めても、出だしてつまずくすぐにあきらめてしまう			5155	144	1280	1946	1473	312
				1000	2.8	24.8	37.7	28.6	6.1
9	人生設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない			5155	169	1348	2278	1133	227
				1000	3.3	26.1	44.2	22.0	4.4
10	どうすれば人生をよりよく生きられるのか、考えたことがある			5155	1080	2427	1145	411	92
				1000	21.0	47.1	22.2	8.0	1.8
11	自分が期待しているような人生を、この先実現できそうである			5155	286	1129	2502	926	312
				1000	5.5	21.9	48.5	18.0	6.1
12	何かしようとする時、自分にそれができかどうか不安になる			5155	703	2309	1332	670	141
				1000	13.6	44.8	25.8	13.0	2.7
13	自分の人生を主体的に送っている			5155	561	1732	2094	640	128
				1000	10.9	33.6	40.6	12.4	2.5

[TABLE054]

Q44	あなたにとって仕事に就く意義は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。		N	%
	複数回答			
1	自分の能力を活かすこと		2250	43.6
2	経済的に自立すること		3281	63.6
3	生活していくための必要を満たすこと		3243	62.9
4	社会に貢献すること		1367	26.5
5	社会的な評価を得ること		1020	19.8
6	自分の視野を広げること		2571	49.9
7	人間関係を広げること		1840	35.7
8	特に意義を感じていない		98	1.9
9	その他		109	2.1
10	考えたことがない		101	2.0
全体			5155	100.0

[TABLE055]

Q45	あなたは学校卒業時に、どのような働き方を理想としていましたか。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい		1552	30.1
2	仕事の内容にはこだわらないが、一生働き続けたい		342	6.6
3	家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい		1017	19.7
4	出産・育児などで中断するかもしれないが、できれば仕事は続けたい		895	17.4
5	家庭や私生活を優先させたいので、就業にはこだわらない		767	14.9
6	結婚・出産をする、しないにかかわらず、できれば仕事には就きたくない		104	2.0
7	その他		51	1.0
8	特に何も考えていなかった		427	8.3
全体			5155	100.0

[TABLE056]

Q46	あなたは現時点で、どのような働き方を理想としていますか。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい		930	18.0
2	仕事の内容にはこだわらないが、一生働き続けたい		355	6.9
3	家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい		1867	36.2
4	出産・育児などで中断するかもしれないが、できれば仕事は続けたい		738	14.3
5	家庭や私生活を優先させたいので、就業にはこだわらない		826	16.0
6	結婚・出産をする、しないにかかわらず、できれば仕事には就きたくない		170	3.3
7	その他		76	1.5
8	特に何も考えていなかった		193	3.7
全体			5155	100.0

[TABLE057]

Q47	あなたが仕事を通して得たと思われるものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。		N	%
	複数回答			
1	事務的な能力		3145	61.7
2	パソコン操作などのスキル		3044	59.8
3	専門分野の知識・技能		2498	49.0
4	発想の柔軟性・独創性		1257	24.7
5	協調性・社会性		3077	60.4
6	計画性		1431	28.1
7	忍耐力		2881	56.6
8	交渉力		1027	20.2
9	リーダーシップ		658	12.9
10	ネットワーク・人脈		1453	28.5
11	その他		73	1.4
12	特にない		221	4.3
全体			5094	100.0

[TABLE058]

Q48	今後の働き方や職業生活の見通しについてお聞きます。あてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	このまま今の職場で働きたい		1536	44.0
2	転職したい		943	27.0
3	仕事を辞めて、1年以上職業を中断したあと仕事に就きたい(再就職したい)		102	2.9
4	できれば仕事はやめたい		258	7.4
5	わからない		560	16.0
6	その他		92	2.6
全体			3491	100.0

[TABLE059]

Q49	転職・再就職したい理由は何ですか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	他にやりたい仕事があるから		165	15.8
2	自分の能力をもっと生かしたいから		186	17.8
3	社会的な評価が得られる仕事に就きたいから		47	4.5
4	もっと精神的に楽な仕事に移りたいから		104	10.0
5	もっと身体的に楽な仕事に移りたいから		41	3.9
6	もっと待遇のいい職場に移りたいから		299	28.6
7	もっと人間関係のよい職場に移りたいから		67	6.4
8	家庭と両立しやすい職場に移りたいから		67	6.4
9	その他		69	6.6
全体			1045	100.0

[TABLE060]

Q50	休業期間がほしい理由は何ですか。もっとも近いものを1つ選んでください。		
	単一回答	N	%
1	今後の自分を考える時間がほしい	17	16.7
2	勉強時間がほしい	14	13.7
3	体力的なゆとりがほしい	13	12.7
4	精神的なゆとりがほしい	34	33.3
5	しばらく家庭のことに専念したい	22	21.6
6	その他	2	2.0
	全体	102	100.0

[TABLE061]

Q51	あなたは転職・再就職のために何を準備していますか。あてはまるものをすべて選んでください。		
	複数回答	N	%
1	友人・知人を通しての情報収集をしている	198	18.9
2	雑誌や新聞などによる情報収集をしている	175	16.7
3	インターネットなどによる情報収集をしている	585	56.0
4	資格・技能習得のために学校に通っている	71	6.8
5	自宅で資格取得のための勉強をしている	142	13.6
6	地域の女性センターなどが主催する講座に参加している	10	1.0
7	その他	20	1.9
8	特に何も準備していない	326	31.2
	全体	1045	100.0

[TABLE062]

Q52	あなたはこれまでに以下の活動に参加したことがありますか。1年以上の活動期間があるものをすべて選んでください。		
	複数回答	N	%
1	NPOなど民間団体の活動	224	4.3
2	子ども会・PTAなどの役員	1016	19.7
3	町内会・自治会などの役員	513	10.0
4	介護や子育てなど地域のボランティア活動	337	6.5
5	趣味のサークルなどの幹事・世話役	642	12.5
6	その他	48	0.9
7	活動したことがない／1年以上は活動していない	3301	64.0
	全体	5155	100.0

[TABLE063]

Q53	上記の活動からあなたが得たものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。		N	%
	複数回答			
1	事務的な能力		213	11.5
2	パソコン操作などのスキル		163	8.8
3	専門分野の知識・技能		153	8.3
4	発想の柔軟性・独創性		328	17.7
5	協調性・社会性		1013	54.6
6	計画性		418	22.5
7	忍耐力		534	28.8
8	交渉力		267	14.4
9	リーダーシップ		348	18.8
10	ネットワーク・人脈		1028	55.4
11	その他		34	1.8
12	特になし		199	10.7
全体			1854	100.0

[TABLE064]

Q54	職業の中断期間が1年以上ある女性が再就職をするとして、再就職支援においてどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。		N	%
	複数回答			
1	キャリアの中断を補うための教育・訓練		2111	41.0
2	再就職に関する求人情報		3058	59.3
3	再就職に役立つ知識・情報		1839	35.7
4	再就職のためのネットワークづくり		829	16.1
5	インターンシップの機会の提供		442	8.6
6	キャリア・カウンセリング		692	13.4
7	自分を知るためのカウンセリング		657	12.7
8	仕事と家庭の両立を可能にするための、育児・介護などの各種サポート(公的・私的含む)		2730	53.0
9	その他		60	1.2
全体			5155	100.0

[TABLE065]

Q55	大学が再就職支援プログラムを提供するとして、どのような条件なら、あなたは利用したいと思いますか。各項目であてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	複数回答			
1	1か月程度の短期講座		2205	42.8
2	3か月程度のコース		1288	25.0
3	6か月程度のコース		415	8.1
4	1年程度の課程		124	2.4
5	1年以上の長期課程		36	0.7
6	その他		16	0.3
7	平日の午前		1710	33.2
8	平日の午後		631	12.2
9	平日の夕方以降		613	11.9
10	土日		1085	21.0
11	その他		45	0.9
12	5万円まで		3074	59.6
13	10万円まで		812	15.8
14	20万円まで		128	2.5
15	30万円まで		59	1.1
16	それ以上		11	0.2
17	利用したいと思わない		1071	20.8
全体			5155	100.0

[TABLE066]

Q57	あなたの現在の状況についてお答えください。あてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	未婚		1654	32.1
2	既婚(事実婚含む)		3318	64.4
3	離別		170	3.3
4	死別		13	0.3
全体			5155	100.0

[TABLE067]

Q58	あなたが現在、同居している家族を教えてください。あてはまる方をすべて選んでください。※ご自身からみた続柄でお答えください。		N	%
	複数回答			
1	配偶者・パートナー		3263	63.3
2	子ども		2252	43.7
3	父親		650	12.6
4	母親		805	15.6
5	配偶者・パートナーの父親		46	0.9
6	配偶者・パートナーの母親		77	1.5
7	兄弟姉妹		327	6.3
8	その他		154	3.0
9	一人暮らし		915	17.7
全体			5155	100.0

[TABLE068]

Q59	あなたの家計の主たる担い手は誰ですか。あてはまる方を1人選んでください。		N	%
	単一回答			
1	配偶者・パートナー		3082	59.8
2	本人		1443	28.0
3	父親		456	8.8
4	母親		87	1.7
5	配偶者・パートナーの父親		3	0.1
6	配偶者・パートナーの母親		3	0.1
7	兄弟姉妹		22	0.4
8	その他		59	1.1
	全体		5155	100.0

[TABLE069]

Q60	あなたの家計の主たる担い手の昨年(2010年1月～12月まで)の年収を教えてください。		N	%
	単一回答			
1	昨年はなかった		46	1.2
2	200万円未満		119	3.2
3	200～300万円未満		160	4.3
4	300～400万円未満		319	8.6
5	400～500万円未満		472	12.7
6	500～600万円未満		493	13.3
7	600～800万円未満		658	17.7
8	800～1,000万円未満		382	10.3
9	1,000～1,200万円未満		199	5.4
10	1,200～1,500万円未満		74	2.0
11	1,500万円以上		75	2.0
12	わからない／答えたくない		715	19.3
	全体		3712	100.0

[TABLE070]

Q61	あなたの昨年(2010年1月～12月まで)の年収を教えてください。		N	%
	単一回答			
1	収入はなかった		1207	23.4
2	103万円以下		1014	19.7
3	104～130万円未満		218	4.2
4	130～200万円未満		261	5.1
5	200～300万円未満		613	11.9
6	300～400万円未満		601	11.7
7	400～500万円未満		356	6.9
8	500～600万円未満		223	4.3
9	600～800万円未満		158	3.1
10	800～1,000万円未満		61	1.2
11	1,000～1,200万円未満		19	0.4
12	1,200～1,500万円未満		12	0.2
13	1,500万円以上		10	0.2
14	わからない／答えたくない		402	7.8
全体			5155	100.0

[TABLE071]

Q62S1N	あなたの昨年(1月～12月まで)の労働時間についておうかがいします。あなたは収入を得る仕事を1週間あたりに平均して何時間していましたか。(残業時間も含めてお答えください。) 【時間／1週間あたり】		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述						
1	時間／1週間あたり		3546	32.61	17.97	1.00	168.00

[TABLE072]

Q63	あなたが昨年(1月～12月まで)、実際に勤務したのは何日ですか。		N	%
	単一回答			
1	30日以下		284	8.0
2	31～60日		108	3.0
3	61～90日		144	4.1
4	91～120日		203	5.7
5	121～150日		263	7.4
6	151～180日		185	5.2
7	181～210日		272	7.7
8	211～240日		764	21.5
9	241～270日		826	23.3
10	271～300日		255	7.2
11	301日以上		242	6.8
全体			3546	100.0

[TABLE073]

Q64	現在のご家庭の経済状態についてどのように感じていますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つ選んでください。		
	単一回答	N	%
1	ゆとりがある	332	6.4
2	ゆとりはあるが、将来的な不安はある	1440	27.9
3	ゆとりはないが、今すぐ生活に困るようなことはない	2569	49.8
4	家計が厳しい状態である	738	14.3
5	わからない	76	1.5
	全体	5155	100.0

[TABLE074]

Q65	あなたは自分の将来について、どのような展望をもっていますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。		
	単一回答	N	%
1	今よりもっと豊かな生活ができる	926	18.0
2	現在の生活レベルは維持できる	2030	39.4
3	経済的に厳しくなる	1353	26.2
4	将来展望が見えない	823	16.0
5	その他	23	0.4
	全体	5155	100.0

[TABLE075]

Q66	あなたの母親は、あなたが小さい頃どのような働き方をしていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。		
	単一回答	N	%
1	出産・育児期もフルタイムで仕事をしていた	897	17.4
2	出産・育児期はパート・アルバイトで仕事をしていた	417	8.1
3	結婚・出産・育児で仕事はいったんやめたが、子どもがある程度大きくなってからフルタイムで仕事に復帰した	521	10.1
4	結婚・出産・育児で仕事はいったんやめたが、子どもがある程度大きくなってからパートタイムで仕事に復帰した	1443	28.0
5	ずっと専業主婦で、ほとんど仕事をしていない	1623	31.5
6	その他	254	4.9
	全体	5155	100.0

[TABLE076]

Q67	あなたの母親は「女性が働くこと」について、どのような考えをもっていますか(いましたか)。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	一生続けられる仕事を持つ方がよい		1986	38.5
2	家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい		1861	36.1
3	家事・育児に専念した方がよい		305	5.9
4	仕事に関して話したことはない		907	17.6
5	その他		96	1.9
全体			5155	100.0

[TABLE077]

Q68	あなたの父親は「女性が働くこと」について、どのような考えをもっていますか(いましたか)。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	一生続けられる仕事を持つ方がよい		1141	22.1
2	家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい		1334	25.9
3	家事・育児に専念した方がよい		613	11.9
4	仕事に関して話したことはない		1971	38.2
5	その他		96	1.9
全体			5155	100.0

[TABLE078]

Q69SIN	あなたの配偶者・パートナーの年齢を教えてください。 【歳】		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述							
1	歳		3318	3314	40.25	7.14	22.00	67.00

[TABLE079]

Q70	あなたの配偶者・パートナーの最終学歴についてあてはまるものを1つ選んでください。(大学、大学院卒業後に専門学校などに行った場合には「大学」「大学院」とお答えください)		N	%
	単一回答			
1	中学		31	0.9
2	高校		423	12.7
3	短大・高専		108	3.3
4	専門学校		307	9.3
5	大学		2040	61.5
6	大学院		402	12.1
7	その他		7	0.2
全体			3318	100.0

[TABLE080]

Q71	あなたの配偶者・パートナーの現在の就業形態についてあてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	正社員・正規職員		2818	84.9
2	有期契約社員・嘱託社員		73	2.2
3	パート・アルバイト		42	1.3
4	派遣社員		19	0.6
5	在宅ワーク・内職		8	0.2
6	経営者・役員		92	2.8
7	自営業		194	5.8
8	自営の家族従業者		18	0.5
9	その他		15	0.5
10	該当しない(働いていない)		39	1.2
全体			3318	100.0

[TABLE081]

Q72	現在、あるいはこれまでに共働きを経験がありますか。		N	%
	単一回答			
1	ある		2742	82.7
2	ない		572	17.2
全体			3314	100.0

[TABLE082]

Q73	あなたと配偶者・パートナーは、家事をどのように分担していますか。あてはまるものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	すべて自分がやっている		1230	37.1
2	自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している		1804	54.4
3	ほぼ半々に分担している		199	6.0
4	配偶者・パートナーが主にやっているが、自分も協力・分担している		38	1.1
5	配偶者・パートナーがすべてやっている		7	0.2
6	特に決まっていない		40	1.2
全体			3318	100.0

[TABLE083]

Q74	配偶者・パートナーは、あなたが働くことについてどのような考えをもっていますか。もっとも近いものを1つ選んでください。		N	%
	単一回答			
1	一生続けられる仕事を持つ方がよい		823	24.8
2	家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい		1827	55.1
3	家事・育児に専念した方がよい		259	7.8
4	仕事に関して話したことはない		246	7.4
5	その他		163	4.9
全体			3318	100.0

[TABLE084]

Q75	「仕事を持つ」ことは、配偶者・パートナーとの関係に影響があると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	お互いが経済的に自立できてこそ、対等な関係が築ける		831	16.1
2	収入バランスに関わらず、両者が仕事をしていることで対等な関係が築ける		1039	20.2
3	働いていても、家計費補助的な収入では、対等な関係は築けない		595	11.5
4	働き方（収入のあるなし）は、対等な関係性には影響ない		1961	38.0
5	わからない		655	12.7
6	その他		74	1.4
	全体		5155	100.0

[TABLE085]

【TABLE005】

Q76	あなたにはお子さんはいますか。また、いる場合は人数も教えてください。			
	単一回答		N	%
1	1人		1051	20.4
2	2人		1031	20.0
3	3人		186	3.6
4	4人		15	0.3
5	いない		2872	55.7
	全体		5155	100.0

[TABLE086]

Q77		出産したときのあなたの年齢を教えてください。 ※出産した順番にお知らせください。		
複数回答			N	%
1	最初に産んだ子供 歳で出産		2279	99.8
2	2番目		1219	53.4
3	3番目		199	8.7
4	4番目		15	0.7
5	自身で出産していない(養子など)		4	0.2
		全体	2283	100.0

[TABLE087]

Q77_1N	最初に産んだ子供 歳で出産							
	自由記述		全体	統計量母数	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	最初に産んだ子供 歳で出産		2283	2273	29.46	3.83	17.00	43.00

[TABLE088]

Q77.2N	2番目 歳で出産						
	自由記述		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	2番目 歳で出産		1219	31.47	3.49	20.00	43.00

[TABLE089]

TABLE069							
Q77_3N	3番目 歳で出産						
	自由記述		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	3番目 歳で出産		199	33.20	3.49	25.00	43.00

[TABLE090]						
Q77_4N	4番目 歳で出産					
	自由記述	全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
1	4番目 歳で出産	15	34.73	4.33	29.00	43.00

[TABLE093]				
Q78	あなたと配偶者・パートナーは、育児をどのように分担していますか。もしくは、いましたか。あてはまるものを1つ選んでください。			
	単一回答		N	%
1	すべて自分がやっている(やっていた)		606	26.5
2	自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している(協力・分担していた)		1561	68.4
3	ほぼ半々に分担している(分担していた)		92	4.0
4	配偶者・パートナーが主にやっているが、自分も協力・分担している(協力・分担していた)		8	0.4
5	配偶者・パートナーがすべてやっている(やっていた)		0	0.0
6	特に決まっていない。その時々でやれる方がやっている(やっていた)		16	0.7
	全体		2283	100.0

[TABLE094]				
Q79	育児期間中、配偶者・パートナー以外で「お子さんを預かってほしい」と頼める人がいましたか。もしくは現在育児中の方は誰かに頼むことができますか。あてはまるものをすべて選んでください。			
	複数回答		N	%
1	自分の親		1280	56.1
2	配偶者・パートナーの親		634	27.8
3	双方の親以外の親族・親戚		103	4.5
4	子育て仲間・子どもの友達の親		301	13.2
5	友人		130	5.7
6	近所の知人		108	4.7
7	その他		82	3.6
8	いない		570	25.0
	全体		2283	100.0

[TABLE095]				
Q80	育児期間中に利用した子育て支援機関、あるいはサービスは何ですか。もしくは、現在利用しているものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。			
	複数回答		N	%
1	認可保育園		494	21.6
2	無認可保育園		155	6.8
3	幼稚園		843	36.9
4	ファミリー・サポートセンター、子育て支援センター		212	9.3
5	一時保育		297	13.0
6	保育ママ		34	1.5
7	ベビーシッター		62	2.7
8	その他		33	1.4
9	利用しなかった(していない)		743	32.5
	全体		2283	100.0

[TABLE096]

Q81	最初にお子さまを出産した際に、産前産後休暇や育児休業制度を利用しましたか。あてはまるものを1つ選んでください。また、育児休業制度を利用したことのある方は、その期間も教えてください。		N	%
	単一回答			
1	産休も育休も取った(取っている)		377	16.8
2	産休は取ったが、育休は取らなかった(取っていない)		87	3.9
3	産休は取ったが、育休の制度がなかったので取れなかった		40	1.8
4	産休を取る前にやめていた(やめた)		823	36.6
5	働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)		892	39.7
6	その他		28	1.2
	全体		2247	100.0

[TABLE097]

Q81_1N	産休も育休も取った(取っている) →育児ヶ月		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述						
1	産休も育休も取った(取っている) →育児ヶ月		377	10.97	6.05	1.00	40.00

[TABLE098]

Q82	2回目に出産した際に、産前産後休暇や育児休業制度を利用しましたか。あてはまるものを1つ選んでください。また、育児休業制度を利用したことのある方は、その期間も教えてください。		N	%
	単一回答			
1	産休も育休も取った(取っている)		122	10.2
2	産休は取ったが、育休は取らなかった(取っていない)		29	2.4
3	産休は取ったが、育休の制度がなかったので取れなかった		16	1.3
4	産休を取る前にやめていた(やめた)		176	14.7
5	働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)		847	70.6
6	その他		10	0.8
	全体		1200	100.0

[TABLE099]

Q82_1N	産休も育休も取った(取っている) →育児ヶ月		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値
	自由記述						
1	産休も育休も取った(取っている) →育児ヶ月		122	10.36	5.88	1.00	36.00

大学の再就職支援(自由記述) コーディング表(Q56)

大カテゴリ	中カテゴリ	コード番号	コード	記述例	N	%
能力養成	実践的知識	1	PCスキル	PCスキル、パソコン、ITスキル、電子スキルなど	828	16.1
		2	語学	語学、英語、中国語など	162	3.1
		3	プレゼンテーション/発想・企画力養成	プレゼンテーション、ロジカルシンキングなど	37	0.7
		4	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル、ディベート、人間関係を円滑にするなど	108	2.1
能力養成	専門的知識・スキル	5	資格取得のための知識	資格、司書、簿記、会計、学芸員、保育士など	650	12.6
		6	専門的知識・スキル	専門的知識、専門スキル、経済学、法律実務、税、経営知識、その分野の最新情報など	420	8.1
		7	スキルアップ・キャリアアップ/実践的プログラム	即戦力として働けるような内容、すぐに役立つスキル習得など	491	9.5
		8	一般的事務スキル	コピー・OA機器操作、ファイリング、ビジネス文書作成など	96	1.9
		9	長期離職者のための再就職OJT・職業訓練・実習	再就職のための実習、学んだことを生かす訓練、プランニングを埋める再学習など	192	3.7
		10	企業から認められる履修プログラム・就職推薦制度	受講終了と同時に資格が得られる、就職しやすいなど	167	3.2
		11	メンタルカウンセリング	メンタルケア、自分を見つめ直す、自己啓発、人生設計、自己分析など	76	1.5
		12	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング、適性、企業との相性、適性診断など	212	4.1
		13	ネットワーク・人脈	ネットワーク、人脈、仲間づくり、友人など	50	1.0
		14	求人情報・就職斡旋・紹介	求人など	354	6.9
情報提供		15	業界・企業情報・企業説明会	企業との連携、企業動向、特色ある企業情報、企業が求める人材・スキル情報など	232	4.5
		16	社会に関する知識・情報	社会の現状、社会情勢、社会の知識など	103	2.0
		17	インターンシップに関する情報	インターンシップ先の検索、職場見学など	146	2.8
		18	女性のための講座・家庭と仕事の両立に関する情報	女性が自立するための講座、ライフワーク・バランスなど	123	2.4
		19	保育所の情報・紹介		14	0.3
		20	在宅ワーク・独立・起業に関する情報		26	0.5
		21	経験談/有識者・現場の企業人の講演	再就職経験談、OBへの質問・面談など	138	2.7
		22	就職のためのHow to	ビジネスマナー、面接の仕方、自己アピール、履歴書の書き方など	310	6.0
		23	就職相談窓口の設置	専任担当者いつでも相談できるなど	34	0.7
		24	保育サービス	託児など	92	1.8
その他	講座の条件	25	料金	無料、奨学金、割引、貸し付けなど	120	2.3
		26	講座条件 その他	期間、通信教育、Eラーニング、ディスカッション形式、立地、授業の振替、選択制など	155	3.0
		27	その他		291	5.6
		28	必要なし/その他の否定的意見	必要がない、大学には必要がない、期待していない、大学だけでは無理など	121	2.3
特になし		29	特になし/わからない/思いつかない		1047	20.3

年代	雇用形態	記述
25-29歳	非正規の職員・従業員	転職の時期を迷う
25-29歳	無業	年金がもらえるか不安
25-29歳	無業	現在妊娠中で、来月にも子供が生まれます。環境が変わるので今後の生活費がどの程度変わるのかが分からないので不安はあります。また、税金が増えることなどにより今まで通りの貯蓄が不可能になりそうで将来の生活に不安があります。現在の不安はすべて先が予想出来ないことによる不安だと思います。
25-29歳	正規の職員・従業員	このまま同じ会社にては、経済的に豊かにはなれず、これからの生活が不安。家庭をもち、こどもを育てていけない。
25-29歳	非正規の職員・従業員	薬剤師は来年から6年制の卒業生が出てくるので、これから先安定した仕事につけるかどうか。
25-29歳	正規の職員・従業員	自身及び配偶者共に外資系企業勤務なので、今後の合併等が気になる。
25-29歳	正規の職員・従業員	どうやってレベルアップをはかるか。
25-29歳	正規の職員・従業員	私が仕事を辞めたら家計が不安定になるので、仕事をやめたいがやめられない
25-29歳	正規の職員・従業員	出産などにより仕事はどうなるのか
25-29歳	正規の職員・従業員	両立できるか不安
25-29歳	非正規の職員・従業員	アルバイトから抜け出せない
25-29歳	正規の職員・従業員	一度出産で離れたら、元のポジションに戻るかわからない。
25-29歳	正規の職員・従業員	経済的な不安がある
25-29歳	正規の職員・従業員	現在育休中のため、復帰後仕事と家のことがどの程度両立できるか、子どもが病気になったとき仕事を休むことがどのくらいあるのか、気持ちにゆとりが持てるか
25-29歳	正規の職員・従業員	収入的に、出産しても仕事は続けざるをえなそうだが、実際やろうとすると、絶対大変で、不安に思う
25-29歳	無業	長く働ける就職先が見つかるかどうか不安
25-29歳	正規の職員・従業員	年収が大幅に増える展望が持てず、仕事の安定はあるが、見通しは決して明るくない。現状をどう好転させられるのか分からない。
25-29歳	無業	心の病のため集中力がなく、何もできる気がしない。働くことを考えるだけで泣いてしまう。パートナーのほうが12歳年上なため、無職で働けない私は老後どう生きたらよいかわからない。
25-29歳	正規の職員・従業員	自分自身もそうだし世間(情勢も)変わっていくので、先が見えない
25-29歳	無業	こどもが病気になったときに自由に休める環境はムズカシンドラウナ。。。
25-29歳	無業	再就職が決まりそうな現在、仕事に没頭しすぎたり、ストレスによる鬱病の再発など、今のあたたかな家庭状態を維持できるのが非常に不安。
25-29歳	正規の職員・従業員	とにかくこの社会の仕組みでは正社員という地位をみすみす手放せないと思う。
25-29歳	正規の職員・従業員	早く結婚して落ち着きたい
25-29歳	非正規の職員・従業員	仕事がなくなったとき
25-29歳	正規の職員・従業員	海外で働きたい夢が叶ったが、就いた仕事が自分に合わず、転職を考えているが、自分が今後何をして働いていきたいのか、具体的なイメージが全く沸かないので不安だ。将来はずっと独身で仕事を続けていくよりも、結婚して子育てをしたいので、恋人がいない今の状況も不安だ。
25-29歳	非正規の職員・従業員	子どもが生まれてからの養育費、住宅ローン
25-29歳	非正規の職員・従業員	将来の人生設計をたてる暇が無い
25-29歳	正規の職員・従業員	今の仕事を辞めたいと思うが、代わりに何ができるかというところとわからない為、辞められない。元々結婚で仕事を辞めるつもりもないので、仕事を辞める、ということに抵抗がある。
25-29歳	正規の職員・従業員	自分が満足いく生活レベルほど稼げるのか、老後もそれなりに生活が出来るのか、想像が出来ず何となく不安
25-29歳	非正規の職員・従業員	年金をもらう歳まで生きていないと思う。
30-34歳	無業	デンマークのように、国が失業者に生活保護を支給すべき！
30-34歳	正規の職員・従業員	経済的な不安が大きい。貯金はわりとあるが、漠然と。
30-34歳	正規の職員・従業員	長く続けられない仕事では安定は難しいが、長く続けられる仕事自体が市場に無い。
30-34歳	正規の職員・従業員	社会保障制度が崩壊している。
30-34歳	非正規の職員・従業員	派遣なので安定性の面で不安があります。
30-34歳	非正規の職員・従業員	仕事において、先が見えない
30-34歳	非正規の職員・従業員	子が未就学児は保育園に預けられる。子が小学1～3年生であれば学童がある。4年生以降は学童もなく、どうやって父母の帰りを待つのか不安。学童に預けるにせよ、小学生以降の生活は不安。
30-34歳	正規の職員・従業員	今後フルタイムで職場復帰するので、保育園との両立が可能であるか。時間的な余裕のなさを懸念しています。やっていけるかとても不安です。
30-34歳	非正規の職員・従業員	自分が「こんな仕事をしたい」と思うと、そのような仕事の会社は求人していないので、転職するときやりたい仕事に就けるか不安。
30-34歳	正規の職員・従業員	公務員も安定していない職業になりそうで不安
30-34歳	非正規の職員・従業員	やりたいことを優先させると収入が伴わないに近い。今後収入を増やすにはどうしたらいいか。子どもを産んだ時に、育てるときに力になってくれる資源があるかどうか。子育てしながらも安心して働ける環境がほしい。働きたい気持ちがある女性がみな働ける環境を作ってほしい。
30-34歳	無業	子どもが小さいので、働き口があるかどうか
30-34歳	正規の職員・従業員	現在子供が幼いが職場のサポートが整っていない
30-34歳	非正規の職員・従業員	自分の雇用形態が安定したものではないので、いまの収入がいつまで続くのかわからないのが不安である
30-34歳	無業	年金が当てにならないので、老後の生活が先輩
30-34歳	非正規の職員・従業員	両親の年金の受給が遅くなる中、入院や通院した際の支出をどこからまかなえばいいのかわからない。
30-34歳	正規の職員・従業員	老後が心配
30-39歳	正規の職員・従業員	夫婦の仲や希望の仕事につけるか不安
35-39歳	自営業・内職者・家族従業者・役員	老後の生活が不安

35-39歳	無業	再就職先が見つからないのでは、という不安はある
35-39歳	正規の職員・従業員	景気低迷に伴う企業の体力低下、社会システムの破たん。
35-39歳	非正規の職員・従業員	介護との両立
35-39歳	非正規の職員・従業員	保育所不足を解消したほうがいい
35-39歳	正規の職員・従業員	老後の生活がどうなるのか展望が描けない。将来年金がもらえないのなら年金保険料の分を個人的に貯金したいと思っています。
35-39歳	非正規の職員・従業員	一日先すらわからないのが不安。
35-39歳	正規の職員・従業員	年金については不安
35-39歳	無業	年金に不安。日本に不安
35-39歳	自営業・内職者・家族従業者・役員	収入・貯蓄面で老後が不安
35-39歳	自営業・内職者・家族従業者・役員	自分は子供を持つつもりがないが、子供を生み育てるにはお金がかかり厳しい情勢だと思う。また、結婚出産をしない場合、老後をどう生きるかも重い問題。
35-39歳	非正規の職員・従業員	今は生活に逼迫していないが、この先景気がよくなるとは思えないし、年金にもあまり頼ることができそうにないこと、消費税もあがるし、収入はそこまで増えないのに支出だけが非常に増えていきそうな、不安材料がおおいので、ちょっと切りつめて貯金をしていかないといけないなと、思っているところです。それから、自然災害も不安の材料なので、なるべく有事に備えられるようにすこしでも不安をとりのぞけるような生活を送っていききたいと思っています。
35-39歳	無業	将来の漠然とした不安がある。
35-39歳	正規の職員・従業員	子供の様子がしっかり見れるか
35-39歳	無業	老後の生活が不安
35-39歳	正規の職員・従業員	このまま定年まで同じ業務内容をしつづけるのは、スキルアップがあるのかが見えない
35-39歳	正規の職員・従業員	子供が小学校に上がった時、フルタイムではなく隔日等で働ける職場を探せるか
35-39歳	無業	働きながら育児を両立できるか不安
35-39歳	無業	会社はフルタイムばかりだパートはあまりない
35-39歳	正規の職員・従業員	これから生活レベルをどうあげていくか悩む
35-39歳	無業	子育てをしている間に年を取ってしまったので、仕事が見つかるか不安
35-39歳	無業	今のままの生活が続けばよいと思う。
35-39歳	正規の職員・従業員	年金がもらえない
35-39歳	非正規の職員・従業員	主人の仕事が長時間で、育児を手伝うのが難しい。私も、長女の幼稚園の送迎や手伝いで、思うように働けない。義母に子供を預けたくても、長時間勤務をしていて、合間にしかみてもらえない。保育園に預けたいが、待機児童が多く、思うような園に入れなく、仕方なく幼稚園に通っている。専業主婦が多い為、仕事をする人の立場で考えてもらえず、辛い時がある。これから、経済的に厳しくなり、子供の将来が心配だし、私も、キャリアをもっと伸ばしたいと思う。
35-39歳	正規の職員・従業員	結婚しても貯蓄を続けていけるか不安
35-39歳	無業	本当に働けるのかどうか？ブランクがあるので不安
35-39歳	正規の職員・従業員	子どもができたときに仕事に復帰できるか。
35-39歳	非正規の職員・従業員	子どもがもう少し大きくなったらフルタイムで長く勤められるような事務仕事がしたい
35-39歳	正規の職員・従業員	不況が当分続くと思われるため、リストラや倒産が心配である。親がますます高齢になり介護と仕事の両立が難しくなる恐れがある。共働きではまあまあ何とかなるが、片働きでは経済的に余裕がないので、リストラや介護の問題が発生して片働きになってしまったらどうなるのか不安がある。
35-39歳	非正規の職員・従業員	扶養枠で働いているので仕事が忙しいときに年収を気にして働かないといけなかったことや仕事で遅くなったときに夫より早く帰りたいと思うので焦ることがある
35-39歳	正規の職員・従業員	この不景気や増税を控えていて、老後を迎えられるのかが不安
35-39歳	無業	今後親の介護などが必要になった時に困らないようにしておきたい
35-39歳	正規の職員・従業員	健康
35-39歳	無業	就職できるのか。できたとして両立できるのか
35-39歳	無業	いつまで生きられるのか
35-39歳	無業	この先仕事に就けるかどうか
35-39歳	非正規の職員・従業員	貯金がないこと
35-39歳	非正規の職員・従業員	1日も早く主人が定年退職してくれるのを待っています。今住んでいる所より田舎に住みたいと考えているからです。老後を都会で暮らすべきではないと思っています。(それは金銭的にも精神的にも)あとできるなら実家(四国)に近いところで過ごしたいと考えています。今回の地震により強く思うようになりました。
35-39歳	正規の職員・従業員	放射能汚染
35-39歳	正規の職員・従業員	年齢的に転職は無理。今の会社で処遇が良くならなければ生活レベルも向上しない。
35-39歳	非正規の職員・従業員	住宅の購入をしたいと思うが、ローンなどを組むと経済状況にどのような変化があるのか不安になる。
35-39歳	正規の職員・従業員	仕事はやりがいがありすぎるくらい充実しています。結婚もせずこのまま一人でずっと生きていくのか、と思うときみしい気もしますが、子供が好きではないので、多分一生一人で生きていくと思います。父親は「未婚の母でもいいから子供を産んでほしい」と希望していますが、叶えてあげることにはできそうにもありません。妹2人はともに家庭を築き、子供にも恵まれ、パートで働いています。うらやましいと思う反面、一人で自由に仕事や趣味を楽しめないことを考えると、このまま独身で働き続けるほうが性に合っているな、とも思います。将来の希望は、年老いた両親の生活の面倒をみて、自分が老いたらボケる前に身辺整理をして、老人ホームに入居することです。
35-39歳	非正規の職員・従業員	老後のお金を貯蓄して行かなければならないことに不安がある。
40-44歳	無業	これから教育費がかかっていくので、今の経済状態では不安。
40-44歳	正規の職員・従業員	年金もいつもらえるかわからないし、長生きしたくない
40-44歳	非正規の職員・従業員	年齢を考えると、体力的にいつまで職業を続けられるのか不安。
40-44歳	正規の職員・従業員	結婚相手にめぐまれず、一人なのでどうなっていくのかと不安
40-44歳	自営業・内職者・家族従業者・役員	子供が大きくなるにつれ、教育資金など膨らむばかり。主人の収入は増えるどころか減る可能性も高く、今以上に生活費を切り詰めなければいけないと思う。
40-44歳	無業	安定した生活を続けられるか不安
40-44歳	非正規の職員・従業員	いつまで派遣社員として働けるか不安

40-44歳	正規の職員・従業員	現在の給与状況、社会保険などの補償などを思うと、将来の生活に不安を感じる
40-44歳	正規の職員・従業員	先行きが不安
40-44歳	非正規の職員・従業員	派遣社員なので雇用の心配がある。給与の面でもボーナスと交通費、退職金がないのがとても不満でもあるし、それによって不安になる。
40-44歳	自営業・内職者・家族従業者・役員	将来安泰と思っているわけではないが、何かあっても何とかできるだろうと思っているので、特に不安はない。
40-44歳	正規の職員・従業員	もしこのまま結婚できなかったら老後の生活に不安を感じる。
40-44歳	非正規の職員・従業員	仕事は専門職や正社員ではないので将来的には不安がある。職業生活、家庭生活共に今は決まった展望が無いのが事実なので、不安定ではあります。
40-44歳	無業	稼ぎ手である夫が尋常じゃないほど多忙なので、家事はすべて自分がやっている。再び働きたいと思うこともあるが、自分の今の年齢や健康状態では、家事をすべてこなし、働きに出るということは考えられない。(持病があるため。)
40-44歳	非正規の職員・従業員	配偶者が降格してしまい、収入も減り、いつ解雇されるか不安 自分自身もいつ契約が終了するか不安
40-44歳	非正規の職員・従業員	いつ仕事先がなくなるかわからない
40-44歳	正規の職員・従業員	家庭のない人間がどうやって孤独感を減らしながら老いていけるか、日々考えてしまう。
40-44歳	非正規の職員・従業員	今は子供が大きいので特に心配はないのですが、これからは、親が倒れた時との心配がある
40-44歳	非正規の職員・従業員	資格をとりたいがおかねがかかりすぎる。支援金があればいいのに。女性は年齢で才能がある人も敬遠される
40-44歳	非正規の職員・従業員	現在は自分の収入も家庭経済の基盤として繰り入れているが、不安定な雇用なのでいつ辞めなければならないか分からないし、次の仕事に就けても現在より収入は減ると思う。その時に現在と同じ生活や預貯金の余裕がなくなると思うと、夫の収入だけでどんな生活ができるか不安だし、老後の生活設計も含め、不安要素ばかりである。
40-44歳	無業	病気や老後が心配
40-44歳	非正規の職員・従業員	大学進学の経済的不安
40-44歳	非正規の職員・従業員	年をとった時に働けなくなったら、収入が断たれて生活できなくなる。
40-44歳	正規の職員・従業員	年金もらえるのかな。
40-44歳	非正規の職員・従業員	とくにない。家のローンももうすぐ終わりそうだし、なるようになると思う。
40-44歳	無業	専業主婦にも税金がかかるようになると、働いたほうがよいのかなあと漠然と思っています。
40-44歳	正規の職員・従業員	今の会社が先が短いので、転職活動をしなければならないが、40歳ということもあり、正社員は難しいのではないかと いう不安。
40-44歳	無業	子供が私立小学校に入り、経済的な不安があるので働きに出たいが、まだ低学年で手が掛かると、だいぶブランクがあるので仕事につけるか不安。また、子供が病気したときなどに預け先が確保できない等、子供に負担がかかることを考えるとなかなか就職活動に本腰を入れる気持ちになれない。
40-44歳	無業	今はゆとりのない生活なのでもう少し収入を増やしてゆとりのある暮らしがしたい
45-49歳	非正規の職員・従業員	年金支給が始まる時まで働けるかどうか不安
45-49歳	非正規の職員・従業員	子供の世代では今までのような専業主婦は無理だと思う
45-49歳	非正規の職員・従業員	来年子供が小学校に上がるので、フルタイムの仕事に変えたいと思っています。今はパートなので、フルで働けば収入も3倍くらいになるので、生活にもかなりゆとりができると期待しています。ただ、年齢的に仕事が見つかるかどうか不安です...
45-49歳	非正規の職員・従業員	手術をしたことにより、働けなくなる気がする
45-49歳	正規の職員・従業員	年金問題
45-49歳	非正規の職員・従業員	老後の経済的な不安
45-49歳	非正規の職員・従業員	もともと夫婦してからだが丈夫なほうではないことで、収入が安定しない
45-49歳	正規の職員・従業員	今の会社も、この先何年働けるかわからないし、両親も年をとっていつ介護が必要になるかわからない。
45-49歳	正規の職員・従業員	今後両親の面倒を見る可能性が高いこと、自分自身の老後が不安。
45-49歳	非正規の職員・従業員	学費がかかるのに 給与が少ない
45-49歳	正規の職員・従業員	今はいいけど自分が病気になった時に一番下の子の生活が不安
45-49歳	正規の職員・従業員	仕事が続けられる体力が続くかが心配
45-49歳	非正規の職員・従業員	思うような仕事に就くことができるか不安である。件数が限られそう。
45-49歳	正規の職員・従業員	子供がいないので老後が不安。仕事をいつまで続けるか悩んでいる。やりがいはない。地域社会に溶け込めない。夫と上手いいかない。心から信じられる人がいない。
45-49歳	非正規の職員・従業員	老後が心配。住宅ローンが60歳を過ぎても残るので、定年後はどうやって生活していくのか展望が見えない。お互いの健康問題。いつどうなるかわからない年代なので、健康に気を付けたいと思っている
45-49歳	正規の職員・従業員	人事異動が自分の希望通りにはならないため、不安がある
45-49歳	正規の職員・従業員	結婚もしたいと思っている。出産はあきらめかけているが、できれば、可能性を残しながら仕事も続けたい
45-49歳	非正規の職員・従業員	年金に関する政府の態度、政府の税金無駄遣い
45-49歳	非正規の職員・従業員	もっと働きたい希望があっても、年齢で企業側に断られることが多い。
45-49歳	正規の職員・従業員	転職をしたいが、良い所があるかどうかわからない。
45-49歳	無業	今後年金がどうなるか不安。貯蓄だけで生活していけるか不安。
45-49歳	非正規の職員・従業員	自分よりも子供たちの就職状況が厳しすぎ、正社員でも収入が低く結婚できるかもわからないことが不安
45-49歳	非正規の職員・従業員	夫の退職金が期待できないので、自分も数年後には正職員で働き、老後に備えたい。
45-49歳	正規の職員・従業員	協力者がいない
45-49歳	無業	パートなどをしたい気持ちはあるが仕事から離れている期間が長いので適応できるか不安
45-49歳	無業	年金が少々不安
45-49歳	非正規の職員・従業員	40代の就職口がない。簡単な誰にでもできるようなどちらかというと体力仕事しかなくきつい。将来ずっと続けられるか不安。長寿になっているので探せばもしかすると何かいい就職が見つかり末永くやっていけるかもしれないという希望も少しはある
45-49歳	非正規の職員・従業員	塾などは夜遅くまでやることになるが、そうすると夕食が作れない
45-49歳	正規の職員・従業員	仕事を続けたいが、現在、就業中の企業の先行きが不安になってきたため、
45-49歳	非正規の職員・従業員	収入は上がらないと思うのですが、税金負担が重くなりそうなので(増税)、経済的に不安。
45-49歳	正規の職員・従業員	年金が当てにならないので不安です。
45-49歳	正規の職員・従業員	仕事が多忙過ぎて家事に手が回らず、他の家族の負担になっている。

キャリアに関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

本調査は、女性のライフコースとキャリアプロセスの実態を把握し、将来に向けて、
どのようなキャリア支援が有効かを明らかにするための調査です。

この調査から得られる結果は、集合データとして統計的に処理され、個人を特定するものではありません。

また、これらの結果は、研究の目的にのみ使用します。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願いいたします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう（掲示板やホームページへの書き込みを含む）、ご協力お願いします。

AC 割付条件設定（回答者には表示されません）

- ☐ 1. 自営業・内職・家庭・役員
- ☐ 2. 正規社員
- ☐ 3. 非正規社員
- ☐ 4. 無業（学生含む）

Q1 現在までのあなたの働き方についてあてはまるものを1つ選んでください。 【必須入力】

- ☐ 1. 学校卒業後、最初に就いた仕事を現在も継続している
- ☐ 2. 現在仕事に就いているが、これまでに1年未満の離職期間があった（転職経験あり）
- ☐ 3. 現在仕事に就いているが、これまでに1年以上の離職期間があった（再就職経験あり）
- ☐ 4. 現在仕事に就いていないが、かつては仕事に就いていた
- ☐ 5. 学校卒業後一度も仕事に就いたことがない

Q2 現在の仕事についてお伺いします。 すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。 【必須入力】

- ☐ 30人以下
- ☐ 31～100人
- ☐ 101～300人
- ☐ 301～1000人
- ☐ 1001人以上
- ☐ 官公庁
- ☐ わからない

Q3 現在の仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)
- ☐ 2. 営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)
- ☐ 3. 販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)
- ☐ 4. サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)
- ☐ 5. 専門・技術的仕事
(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなど)
- ☐ 6. 生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)
- ☐ 7. 運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)
- ☐ 8. 保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)
- ☐ 9. 管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)
- ☐ 10. 団体役員
- ☐ 11. その他

Q4 現在のお仕事の勤続期間をお答えください。
※1ヶ月未満の方も「最低1ヶ月以上」でお答えください。

例)-2年の場合は2年0ヶ月
-2年1週間の場合は2年1ヶ月
-6ヶ月の場合は0年6ヶ月

【全て必須】

年 ヶ月(半角数字)

Q5 現在の仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。
もっともあてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. きめられたやり方があり、自分の工夫の余地はあまりない
- ☐ 2. 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある
- ☐ 3. 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる
- ☐ 4. 仕事をまかせられ、中心となって遂行する
- ☐ 5. その他

Q6 現在の仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。
【必須入力】

		1 満足	2 やや満足	3 どちらとも いえない	4 やや不満	5 不満
1. 給与	→	☐	☐	☐	☐	☐
2. 労働時間・休日	→	☐	☐	☐	☐	☐
3. 配置・昇進・処遇	→	☐	☐	☐	☐	☐
4. 評価システム	→	☐	☐	☐	☐	☐
5. 雇用の安定性	→	☐	☐	☐	☐	☐
6. 仕事と家庭の両立のための支援制度	→	☐	☐	☐	☐	☐
7. 研修などの教育訓練	→	☐	☐	☐	☐	☐
8. 自宅と職場の距離	→	☐	☐	☐	☐	☐
9. 仕事の内容・やりがい	→	☐	☐	☐	☐	☐
10. 職場の人間関係・コミュニケーション	→	☐	☐	☐	☐	☐

Q7 あなたの学校卒業後、最初に就いた仕事の就業形態について、あてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 正社員・正規職員
☐ 2. 有期契約社員・嘱託社員
☐ 3. パート・アルバイト
☐ 4. 派遣社員
☐ 5. 在宅ワーク・内職
☐ 6. 経営者・役員
☐ 7. 自営業
☐ 8. 自営の家族従業者
☐ 9. その他

Q8 学校卒業後、最初に就いた仕事についてお伺いします。
すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 30人以下
☐ 31～100人
☐ 101～300人
☐ 301～1000人
☐ 1001人以上
☐ 官公庁
☐ わからない

Q9 学校卒業後、最初に就いた仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)
- ☐ 2. 営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)
- ☐ 3. 販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)
- ☐ 4. サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)
- ☐ 5. 専門・技術的仕事
(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、
記者、デザイナー、SEなど)
- ☐ 6. 生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)
- ☐ 7. 運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)
- ☐ 8. 保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)
- ☐ 9. 管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)
- ☐ 10. 団体役員
- ☐ 11. その他

Q10 学校卒業後、最初に仕事に就いた時の年齢を教えてください。
【必須入力】

歳(半角数字)

Q11 その仕事(学校卒業後、最初に就いた仕事)には何年就いていましたか。
※1ヶ月未満の方も「最低1ヶ月以上」でお答えください。

例) -2年の場合は2年0ヶ月
-2年1週間の場合は2年1ヶ月
-6ヶ月の場合は0年6ヶ月

【全て必須】

年 ヶ月(半角数字)

Q12 あなたが学校卒業後、最初に就いた仕事をやめた理由は何ですか。
もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。(1つあるいは2つでもかまいません)
※あてはまるものがない場合も、この中からお気持ちに近いものをお選びください。
【1位まで必須】

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 他にやりたい仕事があったから | 9. 待遇が悪かったから |
| 2. 留学・進学などのため | 10. 人間関係がよくなかったから |
| 3. 病気・ストレス・けがなど心身の不調のため | 11. 結婚のため |
| 4. 仕事に希望がもてなかったから | 12. 妊娠・出産・育児のため |
| 5. 解雇・倒産・人員整理・契約切れなど会社側の理由 | 13. 親の介護のため |
| 6. 会社側の不当な圧力 | 14. 配偶者・パートナーの転勤のため |
| 7. 仕事の量的な負担が大きく、体力的にきつかったから | 15. 配偶者・パートナーの反対のため |
| 8. 仕事の責任が重いなど、精神的な負担が大きかったから | 16. 家庭と両立していく自信がなかったから |
- (半角数字のみ、上記より番号を記入)

1位:	
2位:	
3位:	

Q13 学校卒業後、最初に就いた仕事をやめるころの仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない
- ☐ 2. 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある
- ☐ 3. 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる
- ☐ 4. 仕事をまかせられ、中心となって遂行する
- ☐ 5. その他

Q14 学校卒業後、最初に就いた仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。

【必須入力】

		1 満足	2 やや満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 不満
1. 給与	→	☐	☐	☐	☐	☐
2. 労働時間・休日	→	☐	☐	☐	☐	☐
3. 配置・昇進・処遇	→	☐	☐	☐	☐	☐
4. 評価システム	→	☐	☐	☐	☐	☐
5. 雇用の安定性	→	☐	☐	☐	☐	☐
6. 仕事と家庭の両立のための支援制度	→	☐	☐	☐	☐	☐
7. 研修などの教育訓練	→	☐	☐	☐	☐	☐
8. 自宅と職場の距離	→	☐	☐	☐	☐	☐
9. 仕事の内容・やりがい	→	☐	☐	☐	☐	☐
10. 職場の人間関係・コミュニケーション	→	☐	☐	☐	☐	☐

【Q1】で1-3と答えた方の表示：「現在就いている仕事の勤続期間：【Q4S1Nの選択内容】年【Q4S2Nの選択内容】ヶ月」

【Q1】で2-4と答えた方の表示：「学校卒業後、最初に就いた仕事の勤続期間：【Q11S1Nの選択内容】年【Q11S2Nの選択内容】ヶ月」

Q15 あなたが今まで就いた仕事でもっとも勤続年数が長い仕事は何ですか。

【必須入力】

- ☐ 1. 学校卒業後、最初に就いた仕事
- ☐ 2. 現在就いている仕事
- ☐ 3. それ以外

【Q1】で1-3と答えた方の表示：「現在就いている仕事の勤続期間：【Q4S1Nの選択内容】年【Q4S2Nの選択内容】ヶ月」

【Q1】で2-4と答えた方の表示：「学校卒業後、最初に就いた仕事の勤続期間：【Q11S1Nの選択内容】年【Q11S2Nの選択内容】ヶ月」

Q16 これまでに一番長く勤めた仕事について、その勤続年数をおこたえください。

例) -2年の場合は2年0ヶ月
 -2年1週間の場合は2年1ヶ月
 -6ヶ月の場合は0年6ヶ月

【全て必須】

年 月(半角数字)

Q17 前問でお答えのもっとも長く継続していた仕事の就業形態について、あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 正社員・正規職員
- ☐ 2. 有期契約社員・嘱託社員
- ☐ 3. パート・アルバイト
- ☐ 4. 派遣社員
- ☐ 5. 在宅ワーク・内職
- ☐ 6. 経営者・役員
- ☐ 7. 自営業
- ☐ 8. 自営の家族従業者
- ☐ 9. その他

Q18 前問でお答えのもっとも長く継続していた仕事の就業形態についてお伺いします。すべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 30人以下
- ☐ 31～100人
- ☐ 101～300人
- ☐ 301～1000人
- ☐ 1001人以上
- ☐ 官公庁
- ☐ わからない

Q19 あなたがもっとも長く継続していた仕事の内容についてあてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 事務系の仕事(事務員、秘書、事務用機械操作員など)
- ☐ 2. 営業系の仕事(営業・企画営業、ルートセールス、メディカル営業など)
- ☐ 3. 販売系の仕事(店主、販売店員、保険外交員など)
- ☐ 4. サービス系の仕事(ホームヘルパー、美容師、クリーニング、調理師、接客、給仕、客室乗務員、観光ガイドなど)
- ☐ 5. 専門・技術的仕事
(研究者、医師、弁護士、税理士、大学教員、看護師、保育士、栄養士、幼小中高教員、塾講師、記者、デザイナー、SEなど)
- ☐ 6. 生産工程・労務作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、清掃員など)
- ☐ 7. 運輸・通信系の仕事(運転手、郵便配達員など)
- ☐ 8. 保安系の仕事(自衛官、警察官、消防員、警備員など)
- ☐ 9. 管理的な仕事(課長相当以上の管理職、役員など)
- ☐ 10. 団体役員
- ☐ 11. その他

Q20

あなたがもっとも長く継続していた仕事をやめた理由は何ですか。

もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。(1つあるいは2つでもかまいません)

※あてはまるものがない場合も、この中からお気持ちに近いものをお選びください。

【1位まで必須】

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 他にやりたい仕事があったから | 9. 待遇が悪かったから |
| 2. 留学・進学などのため | 10. 人間関係がよくなかったから |
| 3. 病気・ストレス・けがなど心身の不調のため | 11. 結婚のため |
| 4. 仕事に希望がもてなかったから | 12. 妊娠・出産・育児のため |
| 5. 解雇・倒産・人員整理・契約切れなど会社側の理由 | 13. 親の介護のため |
| 6. 会社側の不当な圧力 | 14. 配偶者・パートナーの転勤のため |
| 7. 仕事の量的な負担が大きく、体力的にきつかったから | 15. 配偶者・パートナーの反対のため |
| 8. 仕事の責任が重いなど、精神的な負担が大きかったから | 16. 家庭と両立していく自信がなかったから |

(半角数字のみ、上記より番号を記入)

1位:	
2位:	
3位:	

Q21

もっとも長く継続していた仕事について、以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。

【必須入力】

		1 満足	2 やや満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 不満
1. 給与	→	☐	☐	☐	☐	☐
2. 労働時間・休日	→	☐	☐	☐	☐	☐
3. 配属・昇進・処遇	→	☐	☐	☐	☐	☐
4. 評価システム	→	☐	☐	☐	☐	☐
5. 雇用の安定性	→	☐	☐	☐	☐	☐
6. 仕事と家庭の両立のための支援制度	→	☐	☐	☐	☐	☐
7. 研修などの教育訓練	→	☐	☐	☐	☐	☐
8. 自宅と職場の距離	→	☐	☐	☐	☐	☐
9. 仕事の内容・やりがい	→	☐	☐	☐	☐	☐
10. 職場の人間関係・コミュニケーション	→	☐	☐	☐	☐	☐

Q22

あなたは現在まで転職・再就職の経験が何回ありますか。

【必須入力】

- ☐ 1回
☐ 2回
☐ 3回
☐ 4回
☐ 5回
☐ 6回
☐ 7回
☐ 8回
☐ 9回
☐ 10回
☐ 11回以上
☐ ない

Q23 これまでの経歴を総合的に判断すると、転職・再就職をしてよかったと思いますか。
【必須入力】

- ☐ 1. はい
☐ 2. いいえ
☐ 3. どちらともいえない

Q24 これまでの転職・再就職で、職種は変わったことがありますか。
【必須入力】

- ☐ 1. 変わったことがある
☐ 2. 変わらない
☐ 3. どちらともいえない

Q25 これまであなたが転職・再就職するにあたり重視した条件は何ですか。
もっともあてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 給与など職場の待遇
☐ 2. やりがいなど仕事の内容
☐ 3. 職場の人間関係
☐ 4. 仕事と家庭の両立
☐ 5. その他

Q26 これまでの転職・再就職をふりかえて、次の点はどのように変わりましたか。
以下の項目それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。
【必須入力】

		1 よ く な っ た	2 やや よ く な っ た	3 ど ち ら と も い え な い	4 やや 悪 く な っ た	5 悪 く な っ た
1. 給与などの職場の待遇	→	☐	☐	☐	☐	☐
2. やりがいなど仕事の内容	→	☐	☐	☐	☐	☐
3. 職場の人間関係	→	☐	☐	☐	☐	☐
4. 仕事と家庭の両立	→	☐	☐	☐	☐	☐

Q27 あなたが転職・再就職するにあたり準備したことは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 友人・知人を通しての情報収集をした
- ☐ 2. 雑誌や新聞などによる情報収集をした
- ☐ 3. インターネットなどによる情報収集をした
- ☐ 4. 資格・技能習得のために学校に通った
- ☐ 5. 自宅で資格取得のための勉強をした
- ☐ 6. 地域の女性センターなどが主催する講座に参加した
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 特に何も準備しなかった

Q28 あなたが仕事を続けている理由として、もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。
(1つあるいは2つでもかまいません)
【1位まで必須】

- 1. 仕事にやりがいを感じているから
- 2. 将来的な目標があるから
- 3. 仕事は続けることがあたりまえだと思っているから
- 4. 経済的に必要だから
- 5. 職場に信頼できる人や相談できる人がいるから
- 6. 職場に仕事と家庭の両立を支援する制度があるから
- 7. 職場に仕事と家庭の両立に対する理解があるから
- 8. 配偶者・パートナーの協力があるから
- 9. 配偶者・パートナー以外の家族の協力が得られるから
- 10. 将来に不安を感じるから
- 11. 特に理由はない／この中にはない

(半角数字のみ、上記より番号を記入)

1位:	
2位:	
3位:	

Q29 あなたは今、あるいは将来、仕事に就きたいと思っていますか。
【必須入力】

- ☐ 1. 今すぐ仕事に就きたい
- ☐ 2. 今すぐには仕事に就きたくないが、そのうちできれば仕事に就きたい
- ☐ 3. 仕事に就きたいとは思わない

Q30

あなたが就職・再就職を考えるにあたって、もっとも不安に思うことは何ですか。1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 自分に働くための知識や技術があるか不安
- ☐ 2. 社会復帰への漠然とした不安
- ☐ 3. 働き続けるだけの体力があるか不安
- ☐ 4. 育児や介護、家庭と両立できるか不安
- ☐ 5. 人間関係がうまくできるか不安
- ☐ 6. 就職・再就職活動がうまくいくかどうかの不安
- ☐ 7. 信頼できる会社に出会えるか不安
- ☐ 8. その他
- ☐ 9. 特になし

Q31

仕事に就きたいと思う理由は何ですか。もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。

(1つあるいは2つでもかまいません)

※あてはまるものがない場合も、この中からお気持ちに近いものをお選びください。

【1位まで必須】

- 1. 仕事を通じて社会に貢献したいから
- 2. 教育費や老後の資金など、将来に備えて貯金をしたいから
- 3. 自分で自由に使えるお金がほしいから
- 4. 経済的に自立したいから
- 5. 外で働くのが好きだから
- 6. 時間的余裕があるから
- 7. 自分の専門知識や経験を活かしたいから
- 8. 仕事を通じた社会との関わりがほしいから
- 9. 仕事を通して評価されたいから

(半角数字のみ、上記より番号を記入)

1位:	
2位:	
3位:	

Q32

今後、仕事に就くとしたら、どのような条件を重視しますか。もっともあてはまるものから順に3つまで選んでください。

(1つあるいは2つでもかまいません)

※あてはまるものがない場合も、この中からお気持ちに近いものをお選びください。

【1位まで必須】

- 1. 給与
- 2. 労働時間・休日
- 3. 配置・昇進・処遇
- 4. 評価システム
- 5. 雇用の安定性
- 6. 仕事と家庭の両立のための支援制度
- 7. 研修などの教育訓練
- 8. 自宅と職場の距離
- 9. 仕事の内容・やりがい
- 10. 職場の人間関係・コミュニケーション

(半角数字のみ、上記より番号を記入)

1位:	
2位:	
3位:	

Q33 現在、就職・再就職に向けてどのような準備をしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 友人・知人を通しての情報収集をしている
- ☐ 2. 雑誌や新聞などによる情報収集をしている
- ☐ 3. インターネットなどによる情報収集をしている
- ☐ 4. 資格・技能習得のために学校に通っている
- ☐ 5. 自宅で資格取得のための勉強をしている
- ☐ 6. 地域の女性センターなどが主催する講座に参加している(したことがある)
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 特に何も準備していない

Q34 仕事をしたくないと思う理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。
【必須入力】(3個まで選択)

- ☐ 1. 自分の趣味や健康のために時間をつかいたいから
- ☐ 2. 家事や育児のために時間をつかいたいから
- ☐ 3. 家事や家族の介護のために時間をつかいたいから
- ☐ 4. ボランティア活動など、社会貢献のために時間をつかいたいから
- ☐ 5. 病気がちなど、体力的に働くのが難しいから
- ☐ 6. 働きたいと思うようなフルタイムの仕事がないから
- ☐ 7. 働きたいと思うようなパートタイムの仕事がないから
- ☐ 8. 働かなくても経済的に困らないから
- ☐ 9. 過去の職場経験が必ずしも楽しいものではなかったから
- ☐ 10. 働かないで家にいることを家族が望んでいるから
- ☐ 11. そもそも働くことが好きではなく、働かないですむなら働きたくないから
- ☐ 12. その他

Q35 あなたは以下の資格を持っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

【教育系】

- ☐ 1. 教員免許(幼・小・中・高)
- ☐ 2. 司書
- ☐ 3. 学芸員

【法律系】

- ☐ 4. 裁判官・検事・弁護士
- ☐ 5. 司法書士
- ☐ 6. 行政書士
- ☐ 7. 税理士
- ☐ 8. 公認会計士
- ☐ 9. 社会保険労務士

【心理系】

- ☐ 10. 臨床心理士
- ☐ 11. 産業カウンセラー

【福祉系】

- ☐ 12. 社会福祉士
- ☐ 13. 介護福祉士
- ☐ 14. ヘルパー(2級)
- ☐ 15. 精神保健福祉士
- ☐ 16. 保育士

【食物系】

- ☐ 17. 栄養士・管理栄養士
- ☐ 18. 調理師

【医療系】

- ☐ 19. 医師
- ☐ 20. 薬剤師
- ☐ 21. 看護師
- ☐ 22. 保健師
- ☐ 23. 助産師
- ☐ 24. 臨床検査技師
- ☐ 25. 歯科衛生士
- ☐ 26. 医療事務関連資格

【その他】

- ☐ 27. 自動車運転免許
- ☐ 28. 1～27以外の国家資格

- ☐ 29. 1～28以外の資格

- ☐ 30. 資格は持っていない

Q35

その資格は就職に役立ちましたか。

【必須入力】

1
直接資格を活かした仕事に
就いている(就いていた)2
直接資格を活かした仕事には就いていないが、
役立っている(役立った)3
役に立っていない

【教育系】

1. 教員免許(幼・小・中・高)

→

○

○

○

2. 司書

→

○

○

○

3. 学芸員

→

○

○

○

【法律系】

4. 裁判官・検事・弁護士

→

○

○

○

5. 司法書士

→

○

○

○

6. 行政書士

→

○

○

○

7. 税理士

→

○

○

○

8. 公認会計士

→

○

○

○

9. 社会保険労務士

→

○

○

○

【心理系】

10. 臨床心理士

→

○

○

○

11. 産業カウンセラー

→

○

○

○

【福祉系】

12. 社会福祉士

→

○

○

○

13. 介護福祉士

→

○

○

○

14. ヘルパー(2級)

→

○

○

○

15. 精神保健福祉士

→

○

○

○

16. 保育士

→

○

○

○

【食糧系】

17. 栄養士・管理栄養士

→

○

○

○

18. 調理師

→

○

○

○

【医療系】

19. 医師

→

○

○

○

20. 薬剤師

→

○

○

○

21. 看護師

→

○

○

○

22. 保健師

→

○

○

○

23. 助産師

→

○

○

○

24. 臨床検査技師

→

○

○

○

25. 歯科衛生士

→

○

○

○

26. 医療事務関連資格

→

○

○

○

【その他】

27. 自動車運転免許

→

○

○

○

28. 国家資格 (【Q35_28FAの選択内容】)

→

○

○

○

29. その他資格 (【Q35_29FAの選択内容】)

→

○

○

○

Q37 その資格を取ったのは次のどの時期にあたりますか。
【必須入力】

	1 学生時代に	2 学校卒業後最初に就いた仕事をしているとき	3 学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、働किながら	4 学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、離職中に	5 その他
【教育系】					
1. 教員免許(幼・小・中・高)	→ ○	○	○	○	○
2. 司書	→ ○	○	○	○	○
3. 学芸員	→ ○	○	○	○	○
【法律系】					
4. 裁判官・検事・弁護士	→ ○	○	○	○	○
5. 司法書士	→ ○	○	○	○	○
6. 行政書士	→ ○	○	○	○	○
7. 税理士	→ ○	○	○	○	○
8. 公認会計士	→ ○	○	○	○	○
9. 社会保険労務士	→ ○	○	○	○	○
【心理系】					
10. 臨床心理士	→ ○	○	○	○	○
11. 産業カウンセラー	→ ○	○	○	○	○
【福祉系】					
12. 社会福祉士	→ ○	○	○	○	○
13. 介護福祉士	→ ○	○	○	○	○
14. ヘルパー(2級)	→ ○	○	○	○	○
15. 精神保健福祉士	→ ○	○	○	○	○
16. 保育士	→ ○	○	○	○	○
【食糧系】					
17. 栄養士・管理栄養士	→ ○	○	○	○	○
18. 調理師	→ ○	○	○	○	○
【医療系】					
19. 医師	→ ○	○	○	○	○
20. 薬剤師	→ ○	○	○	○	○
21. 看護師	→ ○	○	○	○	○
22. 保健師	→ ○	○	○	○	○
23. 助産師	→ ○	○	○	○	○
24. 臨床検査技師	→ ○	○	○	○	○
25. 歯科衛生士	→ ○	○	○	○	○
26. 医療事務関連資格	→ ○	○	○	○	○
【その他】					
27. 自動車運転免許	→ ○	○	○	○	○
28. 国家資格 (【Q35_28FAの選択内容】)	→ ○	○	○	○	○
29. その他資格 (【Q35_29FAの選択内容】)	→ ○	○	○	○	○

Q38 あなたは社会人になってから次の学校(通信制を含む)に入学したことがありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. ない
☐ 2. 専門学校
☐ 3. 短大
☐ 4. 大学
☐ 5. 大学院
☐ 6. その他

Q39 あなたが、社会人になってから入学した以下の学校で、どの分野を勉強しましたか。(いくつでも)

【必須入力】

専門学校

- ☐ 1. 語学系
☐ 2. ビジネス・パソコン系
☐ 3. 教育系
☐ 4. 法律系
☐ 5. 心理系
☐ 6. 福祉系
☐ 7. 食物系
☐ 8. 医療系
☐ 9. その他

短大・大学・大学院

- ☐ 10. 人文系(文学・教育学など)
☐ 11. 社会科学系(法学・経済学・政治学・福祉学など)
☐ 12. 理工系(理学・工学など)
☐ 13. 医療・薬学系
☐ 14. その他

Q40 社会人になってから、以下の学校に入学したのは次のどの時期にあたりますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

		1 学校卒業後最初に就いた仕事をしているとき	2 働きながら 学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、	3 離職中に 学校卒業後最初に就いた仕事を辞めた後、
1. 専門学校	→	☐	☐	☐
2. 短大	→	☐	☐	☐
3. 大学	→	☐	☐	☐
4. 大学院	→	☐	☐	☐

041 社会人になってから以下の学校に入学した目的は何ですか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

	1	2	3	4	5	6	7
	学びたいことがあったから	教養・趣味のため	転職・再就職のため	人脈を広げたいから	仕事に必要なだったから	学歴が必要だったから	その他
1. 専門学校	→ ☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 短大	→ ☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 大学	→ ☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 大学院	→ ☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

042 あなたは学校卒業時に、どのようなライフコースを理想としていましたか。もっとも近いものを1つ選んでください。
【必須入力】

専業主婦型

- ☐ 1. 就職しないで結婚し、その後専業主婦になる
☐ 2. 就職し、結婚で退職し、その後専業主婦になる
☐ 3. 就職し、出産で退職し、その後専業主婦になる

中断・復帰型

- ☐ 4. 就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、フルタイムで仕事に復帰する
☐ 5. 就職し、結婚・出産で退職し、しばらく子育てしてから、パートで仕事に復帰する

両立型

- ☐ 6. 就職し、結婚はするが、子どもを持たないで仕事を続ける
☐ 7. 就職し、結婚・出産はするが、仕事も続ける

シングル型

- ☐ 8. シングルのまま、仕事を続ける

その他

- ☐ 9. 就職しないで結婚・出産し、その後就職する
☐ 10. その他
☐ 11. 考えていなかった

043

あなたは自分の人生や仕事についてどのように考えていますか。
以下の項目それぞれにあてはまるものを1つずつ選んでください。
【必須入力】

	1 あてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 あてはまらない
1. 人生が充実しないのは、大半が周囲の環境によると思う	→ ☐	☐	☐	☐	☐
2. 家族や周りにあわせて、人生を送っていけばよい	→ ☐	☐	☐	☐	☐
3. 自分のこれからの人生や生き方には、大変関心をもっている	→ ☐	☐	☐	☐	☐
4. 人生設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている	→ ☐	☐	☐	☐	☐
5. 人生で起きる問題の多くは処理できるとは思えない	→ ☐	☐	☐	☐	☐
6. 自分が望む生き方をするために、具体的な計画を立てている	→ ☐	☐	☐	☐	☐
7. 人生で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	→ ☐	☐	☐	☐	☐
8. 新しいことを始めようと決めても、出だしでつまずくとすぐにあきらめてしまう	→ ☐	☐	☐	☐	☐
9. 人生設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない	→ ☐	☐	☐	☐	☐
10. どうすれば人生をよりよく生きられるのか、考えたことがある	→ ☐	☐	☐	☐	☐
11. 自分が期待しているような人生を、この先実現できそうである	→ ☐	☐	☐	☐	☐
12. 何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる	→ ☐	☐	☐	☐	☐
13. 自分の人生を主体的に送っている	→ ☐	☐	☐	☐	☐

044

あなたにとって仕事に就く意義は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 自分の能力を活かすこと
☐ 2. 経済的に自立すること
☐ 3. 生活していくための必要を満たすこと
☐ 4. 社会に貢献すること
☐ 5. 社会的な評価を得ること
☐ 6. 自分の視野を広げること
☐ 7. 人間関係を広げること
☐ 8. 特に意義を感じていない
☐ 9. その他
☐ 10. 考えたことがない

045

あなたは学校卒業時に、どのような働き方を理想としていましたか。もっとも近いものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい
☐ 2. 仕事の内容にはこだわらないが、一生働き続けたい
☐ 3. 家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい
☐ 4. 出産・育児などで中断するかもしれないが、できれば仕事は続けたい
☐ 5. 家庭や私生活を優先させたいので、就業にはこだわらない
☐ 6. 結婚・出産をする、しないにかかわらず、できれば仕事には就きたくない
☐ 7. その他
☐ 8. 特に何も考えていなかった

Q46 あなたは現時点で、どのような働き方を理想としていますか。もっとも近いものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 好きな仕事に就いて、その仕事を一生続けたい
- ☐ 2. 仕事の内容にはこだわらないが、一生働き続けたい
- ☐ 3. 家庭や私生活と両立しながら、長く働き続けたい
- ☐ 4. 出産・育児などで中断するかもしれないが、できれば仕事は続けたい
- ☐ 5. 家庭や私生活を優先させたいので、就業にはこだわらない
- ☐ 6. 結婚・出産をする、しないにかかわらず、できれば仕事には就きたくない
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 特に何も考えていなかった

Q47 あなたが仕事を通して得たと思われるものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 事務的な能力
- ☐ 2. パソコン操作などのスキル
- ☐ 3. 専門分野の知識・技能
- ☐ 4. 発想の柔軟性・独創性
- ☐ 5. 協調性・社会性
- ☐ 6. 計画性
- ☐ 7. 忍耐力
- ☐ 8. 交渉力
- ☐ 9. リーダーシップ
- ☐ 10. ネットワーク・人脈
- ☐ 11. その他
- ☐ 12. 特になし

Q48 今後の働き方や職業生活の見通しについてお聞きます。あてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. このまま今の職場で働きたい
- ☐ 2. 転職したい
- ☐ 3. 仕事を辞めて、1年以上職業を中断したあと仕事に就きたい(再就職したい)
- ☐ 4. できれば仕事はやめたい
- ☐ 5. わからない
- ☐ 6. その他

Q49 転職・再就職したい理由は何ですか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 他にやりたい仕事があるから
- ☐ 2. 自分の能力をもっと生かしたいから
- ☐ 3. 社会的な評価が得られる仕事に就きたいから
- ☐ 4. もっと精神的に楽な仕事に移りたいから
- ☐ 5. もっと身体的に楽な仕事に移りたいから
- ☐ 6. もっと待遇のいい職場に移りたいから
- ☐ 7. もっと人間関係のよい職場に移りたいから
- ☐ 8. 家庭と両立しやすい職場に移りたいから
- ☐ 9. その他

Q50

休業期間がほしい理由は何ですか。もっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 今後の自分を考える時間がほしい
☐ 2. 勉強時間がほしい
☐ 3. 体力的なゆとりがほしい
☐ 4. 精神的なゆとりがほしい
☐ 5. しばらく家庭のことに専念したい
☐ 6. その他

Q51

あなたは転職・再就職のために何を準備していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 友人・知人を通しての情報収集をしている
☐ 2. 雑誌や新聞などによる情報収集をしている
☐ 3. インターネットなどによる情報収集をしている
☐ 4. 資格・技能習得のために学校に通っている
☐ 5. 自宅で資格取得のための勉強をしている
☐ 6. 地域の女性センターなどが主催する講座に参加している
☐ 7. その他
☐ 8. 特に何も準備していない

Q52

あなたはこれまでに以下の活動に参加したことがありますか。1年以上の活動期間があるものをすべて選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. NPOなど民間団体の活動
☐ 2. 子ども会・PTAなどの役員
☐ 3. 町内会・自治会などの役員
☐ 4. 介護や子育てなど地域のボランティア活動
☐ 5. 趣味のサークルなどの幹事・世話役
☐ 6. その他
☐ 7. 活動したことがない／1年以上は活動していない

前問で、以下の活動を1年以上したことがあるとお答えの方にお伺いします。

NPOなど民間団体の活動

子ども会・PTAなどの役員

町内会・自治会などの役員

介護や子育てなど地域のボランティア活動

趣味のサークルなどの幹事・世話役

その他

Q53

上記の活動からあなたが得たものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 事務的な能力
☐ 2. パソコン操作などのスキル
☐ 3. 専門分野の知識・技能
☐ 4. 発想の柔軟性・独創性
☐ 5. 協調性・社会性
☐ 6. 計画性
☐ 7. 忍耐力
☐ 8. 交渉力
☐ 9. リーダーシップ
☐ 10. ネットワーク・人脈
☐ 11. その他
☐ 12. 特になし

Q54 職業の中断期間が1年以上ある女性が再就職をするとして、再就職支援においてどのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

【必須入力】(3個まで選択)

- ☐ 1. キャリアの中断を補うための教育・訓練
- ☐ 2. 再就職に関する求人情報
- ☐ 3. 再就職に役立つ知識・情報
- ☐ 4. 再就職のためのネットワークづくり
- ☐ 5. インターンシップの機会の提供
- ☐ 6. キャリア・カウンセリング
- ☐ 7. 自分を知るためのカウンセリング
- ☐ 8. 仕事と家庭の両立を可能にするための、育児・介護などの各種サポート(公的・私的含む)
- ☐ 9. その他

Q55 大学が再就職支援プログラムを提供するとして、どのような条件なら、あなたは利用したいと思いますか。
各項目であてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

期間について

- ☐ 1. 1か月程度の短期講座
- ☐ 2. 3か月程度のコース
- ☐ 3. 6か月程度のコース
- ☐ 4. 1年程度の課程
- ☐ 5. 1年以上の長期課程
- ☐ 6. その他

時間帯について

- ☐ 7. 平日の午前
- ☐ 8. 平日の午後
- ☐ 9. 平日の夕方以降
- ☐ 10. 土日
- ☐ 11. その他

修了までにかかる費用について

- ☐ 12. 5万円まで
- ☐ 13. 10万円まで
- ☐ 14. 20万円まで
- ☐ 15. 30万円まで
- ☐ 16. それ以上
- ☐ 17. 利用したいと思わない

Q56 大学が提供する再就職支援プログラムとして、どのような内容があればいいと思いますか。
思いつくことを何でも自由にお書きください。

【必須入力】

※500文字以内でご記入ください。

Q57

あなたの現在の状況についておうかがいします。あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 未婚
- ☐ 2. 既婚(事実婚含む)
- ☐ 3. 離別
- ☐ 4. 死別

Q58

あなたが現在、同居している家族を教えてください。あてはまる方をすべて選んでください。

※ご自身からみた続柄でお答えください。

【必須入力】

- ☐ 1. 配偶者・パートナー
- ☐ 2. 子ども
- ☐ 3. 父親
- ☐ 4. 母親
- ☐ 5. 配偶者・パートナーの父親
- ☐ 6. 配偶者・パートナーの母親
- ☐ 7. 兄弟姉妹
- ☐ 8. その他
- ☐ 9. 一人暮らし

Q59

あなたの家計の主たる担い手は誰ですか。あてはまる方を1人選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 配偶者・パートナー
- ☐ 2. 本人
- ☐ 3. 父親
- ☐ 4. 母親
- ☐ 5. 配偶者・パートナーの父親
- ☐ 6. 配偶者・パートナーの母親
- ☐ 7. 兄弟姉妹
- ☐ 8. その他

Q60

あなたの家計の主たる担い手の昨年(2010年1月～12月まで)の年収を教えてください。

【必須入力】

- ☐ 昨年はない
- ☐ 200万円未満
- ☐ 200～300万円未満
- ☐ 300～400万円未満
- ☐ 400～500万円未満
- ☐ 500～600万円未満
- ☐ 600～800万円未満
- ☐ 800～1,000万円未満
- ☐ 1,000～1,200万円未満
- ☐ 1,200～1,500万円未満
- ☐ 1,500万円以上
- ☐ わからない／答えたくない

Q61 あなたの昨年(2010年1月～12月まで)の年収を教えてください。

【必須入力】

- ☐ 収入はなかった
- ☐ 103万円以下
- ☐ 104～130万円未満
- ☐ 130～200万円未満
- ☐ 200～300万円未満
- ☐ 300～400万円未満
- ☐ 400～500万円未満
- ☐ 500～600万円未満
- ☐ 600～800万円未満
- ☐ 800～1,000万円未満
- ☐ 1,000～1,200万円未満
- ☐ 1,200～1,500万円未満
- ☐ 1,500万円以上
- ☐ わからない／答えたくない

Q62 あなたの昨年(1月～12月まで)の労働時間についておうかがいします。

あなたは収入を得る仕事を1週間あたり平均して何時間していましたか。《残業時間も含めてお答えください。》

【必須入力】

時間／1週間あたり(半角数字)

Q63 あなたが昨年(1月～12月まで)、実際に勤務したのは何日ですか。

【必須入力】

- ☐ 30日以下
- ☐ 31～60日
- ☐ 61～90日
- ☐ 91～120日
- ☐ 121～150日
- ☐ 151～180日
- ☐ 181～210日
- ☐ 211～240日
- ☐ 241～270日
- ☐ 271～300日
- ☐ 301日以上

Q64 現在のご家庭の経済状態についてどのように感じていますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. ゆとりがある
- ☐ 2. ゆとりはあるが、将来的な不安はある
- ☐ 3. ゆとりはないが、今すぐ生活に困るようなことはない
- ☐ 4. 家計が厳しい状態である
- ☐ 5. わからない

Q65 あなたは自分の将来について、どのような展望をもっていますか。
あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 今よりもっと豊かな生活ができる
- ☐ 2. 現在の生活レベルは維持できる
- ☐ 3. 経済的に厳しくなる
- ☐ 4. 将来展望が見えない
- ☐ 5. その他

Q66 あなたの母親は、あなたが小さい頃どのような働き方をしていましたか。
あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 出産・育児期もフルタイムで仕事をしていた
- ☐ 2. 出産・育児期はパート・アルバイトで仕事をしていた
- ☐ 3. 結婚・出産・育児で仕事はいったんやめたが、子どもがある程度大きくなってからフルタイムで仕事に復帰した
- ☐ 4. 結婚・出産・育児で仕事はいったんやめたが、子どもがある程度大きくなってからパートタイムで仕事に復帰した
- ☐ 5. ずっと専業主婦で、ほとんど仕事をしていない
- ☐ 6. その他

Q67 あなたの母親は「女性が働くこと」について、どのような考えをもっていますか(いましたか)。
もっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 一生続けられる仕事を持つ方がよい
- ☐ 2. 家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい
- ☐ 3. 家事・育児に専念した方がよい
- ☐ 4. 仕事に関して話したことはない
- ☐ 5. その他

Q68 あなたの父親は「女性が働くこと」について、どのような考えをもっていますか(いましたか)。
もっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 一生続けられる仕事を持つ方がよい
- ☐ 2. 家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい
- ☐ 3. 家事・育児に専念した方がよい
- ☐ 4. 仕事に関して話したことはない
- ☐ 5. その他

Q69 あなたの配偶者・パートナーの年齢を教えてください。

【必須入力】

歳(半角数字)

Q70

あなたの配偶者・パートナーの最終学歴についてあてはまるものを1つ選んでください。
 (大学、大学院卒業後に専門学校などに行った場合には「大学」「大学院」とお答えください)

【必須入力】

- ☐ 1. 中学
☐ 2. 高校
☐ 3. 短大・高専
☐ 4. 専門学校
☐ 5. 大学
☐ 6. 大学院
☐ 7. その他

Q71

あなたの配偶者・パートナーの現在の就業形態についてあてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 正社員・正規職員
☐ 2. 有期契約社員・嘱託社員
☐ 3. パート・アルバイト
☐ 4. 派遣社員
☐ 5. 在宅ワーク・内職
☐ 6. 経営者・役員
☐ 7. 自営業
☐ 8. 自営の家族従業者
☐ 9. その他
☐ 10. 該当しない(働いていない)

Q72

現在、あるいはこれまでに共働きを経験がありますか。

【必須入力】

- ☐ 1. ある
☐ 2. ない

Q73

あなたと配偶者・パートナーは、家事をどのように分担していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. すべて自分がやっている
☐ 2. 自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している
☐ 3. ほぼ半々に分担している
☐ 4. 配偶者・パートナーが主にやっているが、自分も協力・分担している
☐ 5. 配偶者・パートナーがすべてやっている
☐ 6. 特に決まっていない

Q74

配偶者・パートナーは、あなたが働くことについてどのような考えをもっていますか。
 もっとも近いものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. 一生続けられる仕事を持つ方がよい
☐ 2. 家事・育児に差し障りのない程度に働く方がよい
☐ 3. 家事・育児に専念した方がよい
☐ 4. 仕事に関して話したことはない
☐ 5. その他

Q75 「仕事を持つ」ことは、配偶者・パートナーとの関係に影響があると思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. お互いが経済的に自立できてこそ、対等な関係が築ける
☐ 2. 収入バランスに関わらず、両者が仕事をしていることで対等な関係が築ける
☐ 3. 働いていても、家計費補助的な収入では、対等な関係は築けない
☐ 4. 働き方(収入のあるなし)は、対等な関係性には影響ない
☐ 5. わからない
☐ 6. その他

Q76 あなたにはお子さんはいますか。
また、いる場合は人数も教えてください。

【必須入力】

- ☐ 1人
☐ 2人
☐ 3人
☐ 4人
☐ 5人
☐ 6人以上
☐ いない

Q77 出産したときのあなたの年齢を教えてください。
※出産した順番にお知らせください。
※6人以上のお子さんがある場合は、5人目までと、末子のお子さんについてお知らせください。
【必須入力】

- ☐ 最初に産んだ子供 歳で出産(半角数字)
☐ 2番目 歳で出産(半角数字)
☐ 3番目 歳で出産(半角数字)
☐ 4番目 歳で出産(半角数字)
☐ 5番目 歳で出産(半角数字)
☐ 末子 歳で出産(半角数字)
☐ 自身で出産していない(養子など)

Q78 あなたと配偶者・パートナーは、育児をどのように分担していますか。もしくは、いましたか。
あてはまるものを1つ選んでください。

【必須入力】

- ☐ 1. すべて自分がやっている(やっていた)
☐ 2. 自分が主にやっているが、配偶者・パートナーも協力・分担している(協力・分担していた)
☐ 3. ほぼ半々に分担している(分担していた)
☐ 4. 配偶者・パートナーが主にやっているが、自分も協力・分担している(協力・分担していた)
☐ 5. 配偶者・パートナーがすべてやっている(やっていた)
☐ 6. 特に決まっていない。その時々でやれる方がやっている(やっていた)

Q79

育児期間中、配偶者・パートナー以外で「お子さんを預かってほしい」と頼める人がいましたか。
もしくは現在育児中の方は誰かに頼むことができますか。あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 自分の親
☐ 2. 配偶者・パートナーの親
☐ 3. 双方の親以外の親族・親戚
☐ 4. 子育て仲間・子どもの友達の親
☐ 5. 友人
☐ 6. 近所の知人
☐ 7. その他
☐ 8. いない

Q80

育児期間中に利用した子育て支援機関、あるいはサービスは何ですか。もしくは、現在利用しているものは何ですか。
あてはまるものをすべて選んでください。
【必須入力】

- ☐ 1. 認可保育園
☐ 2. 無認可保育園
☐ 3. 幼稚園
☐ 4. ファミリー・サポートセンター、子育て支援センター
☐ 5. 一時保育
☐ 6. 保育ママ
☐ 7. ベビーシッター
☐ 8. その他
☐ 9. 利用しなかった(していない)

Q81

最初にお子さまを出産した際に、産前産後休暇や育児休業制度を利用しましたか。
あてはまるものを1つ選んでください。
また、育児休業制度を利用したことのある方は、その期間も教えてください。
【必須入力】

- ☐ 1. 産休も育休も取った(取っている) → 育休 ヶ月(半角数字)
☐ 2. 産休は取ったが、育休は取らなかった(取っていない)
☐ 3. 産休は取ったが、育休の制度がなかったので取れなかった
☐ 4. 産休を取る前にやめていた(やめた)
☐ 5. 働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)
☐ 6. その他

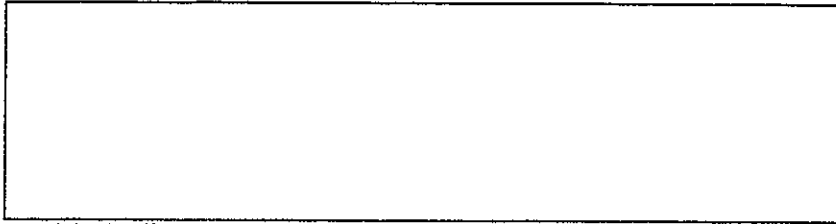
Q82

2回目に出産した際に、産前産後休暇や育児休業制度を利用しましたか。
あてはまるものを1つ選んでください。
また、育児休業制度を利用したことのある方は、その期間も教えてください。
【必須入力】

- ☐ 1. 産休も育休も取った(取っている) → 育休 ヶ月(半角数字)
☐ 2. 産休は取ったが、育休は取らなかった(取っていない)
☐ 3. 産休は取ったが、育休の制度がなかったので取れなかった
☐ 4. 産休を取る前にやめていた(やめた)
☐ 5. 働いておらず、産休も育休も取らなかった(取っていない)
☐ 6. その他

Q83

これからの職業生活や家庭生活における希望や不安について、思っていることを何でも自由にお書きください。
【必須入力】



※500文字以内でご記入ください。

アンケートは以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

平成 23 年度～平成 27 年度
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究
「女性とキャリアに関する調査」結果報告書

発行 2013 年 3 月 25 日

日本女子大学現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

TEL 03-5981-3380

FAX 03-5981-3381

印刷 膳栄社 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-2-12

